公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（5）

東九州自動車道建設（志布志 IC ～鹿屋串良 JCT 間）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

田原迫ノ上遺跡 1

（鹿屋市串良町）

縄文時代前期以降編

第 1 分 冊

2016年3月

鹿 児 島 県 教 育 委 員 会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー

（公財）埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(5)
田原迫ノ上遺跡 1
（第1分冊）
二〇一六年三月
鹿児島県教育委員会
公益財団法人 鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

田原迫ノ上遺跡遠景

竪穴住居跡18号

円形周溝３号・４号　竪穴住居跡22号

竪穴住居跡７号出土主要土器

大型砥石

序　文

この報告書は，東九州自動車道（志布志IC ～鹿屋串良JCT間）の建設に伴って，平成19年度及び平成22年度から平成25年度に実施した鹿屋市串良町細山田に所在する田原迫ノ上遺跡の発掘調査の記録のうち，縄文時代前期以降編です。

田原迫ノ上遺跡は，縄文時代早期から中世にわたる複合遺跡で，特に縄文時代早期と弥生時代中期の遺構や遺物などを中心に調査されました。

なかでも，弥生時代中期の住居跡や掘立柱建物跡，円形・方形周溝等の遺構や，遺構内外から出土した遺物は，遺跡の周辺及び大隅半島中央部における当時の人々の生活を解明する手がかりとなるものと期待されます。

本報告書が，県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに，文化財保護の普及・啓発や研究の一助となれば幸いです。

最後に，発掘調査から報告書刊行までの一連の活動等に御協力いただきました国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所，鹿児島県教育委員会，鹿児島県立埋蔵文化財センター，鹿屋市教育委員会等の関係各機関並びに調査においてご指導いただきました先生方や，発掘調査・整理作業に従事された方々に対し，厚くお礼申し上げます。

平成28年３月

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
センター長　　堂　込　秀　人

報 告 書 抄 録

ふりがな	たはらさこのうえいせき
書名	田原迫ノ上遺跡 1（縄文時代前期以降編）
副書名	東九州自動車道建設（志布志 IC ～鹿屋串良JCT間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	1
シリーズ名	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書
シリーズ番号	5
編集者名	繁昌 正幸・寺原 徹・平 美典
編集機関	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
所在地	〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号 ℡0995-70-0574
発行年月	2016年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査起因
たはらさこのうえいせき 田原迫ノ上遺跡	かごしまけん 鹿児島県 かのやし 鹿屋市 くしらちょう 串良町 はざやまだ 細山田	46203	2-94	31° 26′ 30″	130° 55′ 00″	確認調査 2009.02.01～ 2009.03.19 本調査 2010.05.06～ 2011.03.11 2011.05.09～ 2012.03.16 2012.06.05～ 2013.01.18 2013.06.03～ 2014.01.28	71 9,900 9,006 7,598 6,841	東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良JCT間）建設

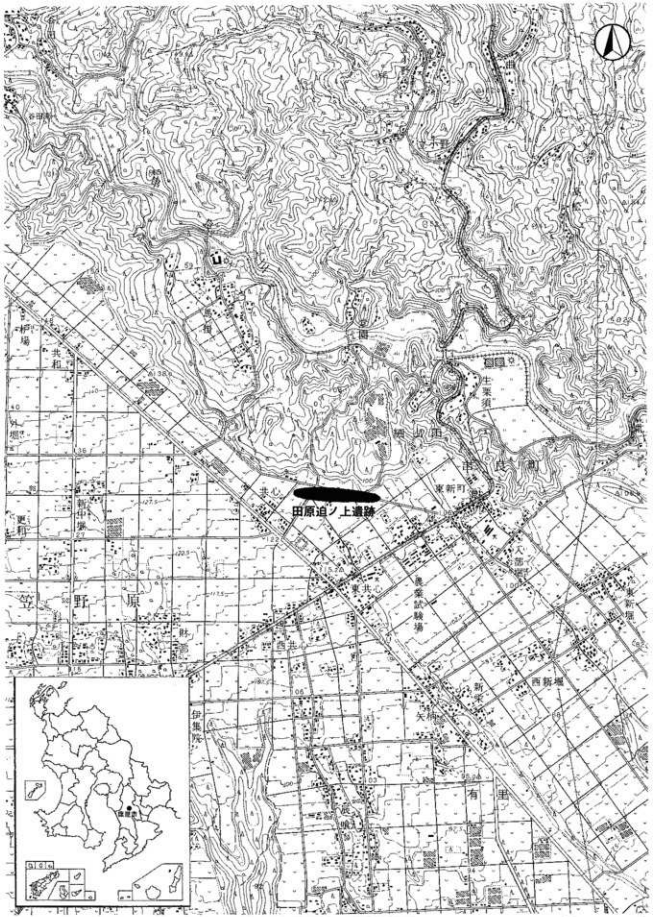
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田原迫ノ上遺跡	散布地	縄文時代前期		曽畑式土器	
		縄文時代後期		指宿式土器，市来式土器，鐘崎式土器	
		縄文時代晩期		黒川式土器	
	集落跡	弥生時代中期	竪穴住居跡 31軒 掘立柱建物跡 40棟 円形・方形周溝 12基 土坑 25基 柱穴列 6列	山ノ口式土器，擬凹線文系壺，樹皮布敲石，磨製石鏃，砥石，石錐，磨石，敲石，台石，土製勾玉，土製加工品	
	散布地	古墳時代以降	溝状遺構 20条 道跡 22か所 畝状遺構群 3か所	成川式土器，須恵器，土師器，陶器，磁器，瓦器	

遺跡の概要

本遺跡は縄文時代早期～近世の複合遺跡で，各時代の貴重な遺構や遺物が確認されている。

今回報告する縄文時代前期以降においては，特に，弥生時代中期の遺構や遺物が注目される。ベッド状遺構に伴う方形や大型の円形の竪穴住居跡，棟持柱を持つ２棟を含む掘立柱建物跡，柱穴列や円形・方形の周溝，土坑などからなる遺構群が，大隅半島中央部での当時の集落の一つのあり方として大いに注目される。住居跡内から出土した大型の砥石や台石，土製の勾玉に加えて，この時期としては格段に多くの土製加工品も特筆に値する。

※主な遺構・遺物については，平成25年度までの調査成果を掲載してある。



第１図　田原迫ノ上遺跡位置図　（S＝1/25,000）

例　　言

1　本報告書は，東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴う田原迫ノ上遺跡の発掘調査報告書の第１巻（縄文時代前期以降編）である。
2　田原迫ノ上遺跡は，鹿児島県鹿屋市串良町細山田に所在する。
3　発掘調査は，国土交通省九州地方整備局から鹿児島県が受託し，鹿児島県立埋蔵文化財センターと鹿児島県教育委員会の監理のもと公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（以下，「埋蔵文化財調査センター」という。）が実施した。
4　発掘調査事業は，平成19年度及び平成22年度から本調査を実施しており，本書は平成25年度までの実施分のうち，縄文時代前期以降の調査成果をまとめたものである。整理・報告書作成事業は平成23年度から平成27年度に鹿児島県立埋蔵文化財センター及び埋蔵文化財調査センターで実施した。
5　平成24年度及び平成25年度は，発掘調査の支援業務を国際文化財株式会社に委託した。
6　掲載した遺物番号は通し番号であり，本文・挿図・表・図版の遺物番号は一致する。
7　挿図の縮尺は挿図ごとに示した。また，一部の挿図に縮尺の異なるものがあるが，その際はグループ毎に縮尺を示している。
8　本書で用いたレベル数値は全て海抜絶対高である。
9　本書で使用した方位は全て磁北である。
10　発掘調査における実測図作成及び写真撮影は，主として調査担当者が行った。また，空中写真の撮影は（有）スカイサーベイ九州に委託した。
11　遺構図，遺物分布図の作成及び出土遺物の実測・トレースは，整理・報告書作成の担当者が整理作業員の協力を得て行った。また，石器実測に当たっては株式会社　九州文化財研究所に委託して行ったものもあるほか，担当職員も行った。
12　出土遺物の写真撮影は，埋蔵文化財調査センター職員の吉岡が行った。
13　本報告書に係る自然科学分析を，(株)パリノサーヴェイ，(株)加速器分析研究所，株式会社　古環境研究所に依頼するとともに，県立埋蔵文化財センターにも依頼して行った。
14　本書の編集は，主に寺原と繁昌が担当し，執筆は次のとおり分担して行った。
第１章　寺原，繁昌
第２章　寺原
第３章　繁昌，平
第４章　寺原
第５章　繁昌
15　本報告書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は，埋蔵文化財センターで保管し，展示・活用を図る予定である。なお，遺物注記等で用いた遺跡の表記は，「田」である。

凡　　例

1　グリッドについて

グリッドは，高速道路建設予定地のセンター杭STA №181とSTA№182を基準にして，１グリッド10m×10mの大きさで設定した。

2　遺構について

(1) 遺構図の縮尺は，竪穴住居跡を1/60，掘立柱建物跡を1/60，方形・円形周溝を1/40，礫集積を1/40，土坑を1/20，柱穴列を1/40，ピットを1/60，溝状遺構を1/40，道跡を1/40（一部1/100）とした。

(2) 構の名称及び番号は，遺構名＋遺構番号＋号とした。

例：竪穴住居跡７号，掘立柱建物跡15号，
円形周溝３号，礫集積５号，土坑20号，
柱穴列１号，溝状遺構７号，道跡21号

(3) 遺構番号は，各遺構ごとに通し番号を付した。

(4) 遺構のアミカケは以下のとおりである。

ア　硬化面　　黒色の点

3　遺物について

(1) 掲載遺物の縮尺は，基本的に以下に示すとおりであるが，遺物の大きさによって幾分変更したものもある。

ア　土　器　　1/3～1/4
イ　石　器　　1/1～1/4
ウ　土製品　　1/1～1/3
エ　鉄製品　　3/4

(2) 遺物番号は，通し番号を付した。

(3) 土器のアミカケは以下のとおりである。

ア　丹塗り　　赤色の点
イ　スス　　黒色の点（若干薄い）
ウ　コゲ　　黒色の点（濃い）

(4) 土器の調整痕は以下のとおりである。

ア　ヘラミガキ　細かな長楕円形
イ　ハケナデ　　ハケ目及び枠を設けて矢印を付す
ウ　ナデ　　横方向のスジ，矢印

(5) 石器のアミカケ等は以下のとおりである。

ア　磨り面　　微細な黒色の点
イ　敲き面　　黒色の点及びｃｃのマーク
ウ　自然面　　微細な点

4　遺跡のグリッド配置図の縮尺について

縮尺は図中に示してあるが，１グリッドは10m×10mの大きさである。

図　中　の　表　現

網　か　け

1　遺　　構

硬　化　面

2　土　　器

丹　塗　り

ス　　ス

コ　　ゲ

3　石　　器

磨　り　面

敲　き　面

自　然　面

土器の調整痕

ヘラミガキ

ハケナデ

ナ　　デ

本 文 目 次

第１分冊

巻頭図版
序　　文
報告書抄録
遺跡位置図
例　　言
凡　　例
目　　次

第１章　発掘調査の経過…… 1
　第１節　調査に至るまでの経緯…… 1
　第２節　調査の経過…… 1
　第３節　整理・報告書作成…… 8
第２章　遺跡の位置と環境……11
　第１節　地理的環境……11
　第２節　歴史的環境……11
　第３節　大崎IC～鹿屋串良JCT間の遺跡……14
第３章　調査の方法と成果……18
　第１節　調査の方法……18
　第２節　層　序……21
　第３節　調査の成果……37
　　１　縄文時代前期の調査……37
　　(1)　調査の概要……37
　　(2)　遺　物……37
　　２　縄文時代後・晩期の調査……38
　　(1)　調査の概要……38
　　(2)　遺　物……38
　　ア　後期の土器……38
　　イ　晩期の土器……42
　　３　弥生時代の調査……46
　　(1)　調査の概要……46
　　(2)　遺　構……46
　　ア　竪穴住居跡……46
　　イ　掘立柱建物跡…… 200
　　ウ　柱穴列…… 229
　　エ　方形・円形周溝…… 230
　　オ　土　坑…… 241
　　カ　礫集積…… 266
　　キ　ピット…… 268
　遺構計測表１…… 274
　土器観察表１…… 282
　石器観察表１…… 300

第２分冊

第３章　調査の方法と成果…… 301
　第３節　調査の成果…… 301
　　３　弥生時代の調査…… 301
　　(3)　遺　物…… 301
　　ア　土　器…… 301
　　イ　土製品…… 337
　　ウ　石　器…… 342
　　４　Ⅲ層出土の石器…… 344
　　５　古墳時代以降の調査…… 358
　　(1)　調査の概要…… 358
　　(2)　遺　構…… 358
　　ア　溝状遺構…… 358
　　イ　道　跡…… 369
　　ウ　畝状遺構群…… 380
　　(3)　遺　物…… 382
　　ア　成川式土器…… 382
　　イ　土師器・須恵器…… 383
　　ウ　陶器・磁器…… 384
　遺構計測表２…… 385
　土器観察表２…… 386
　石器観察表２…… 395
第４章　自然科学分析…… 397
　年代測定…… 397
　樹種・種実同定…… 405
　テフラ分析…… 422
　赤色粒子について…… 431
第５章　総　括…… 433
　第１節　検出された遺構について…… 433
　第２節　出土した遺物について…… 437
　第３節　遺跡の立地について…… 442
　第４節　同時期の周辺の遺跡について…… 443
　第５節　遺跡の年代及び科学分析について…… 446
　第６節　遺跡の残存範囲…… 446

写真図版…… 449

挿 図 目 次

第１図　田原追ノ上遺跡位置図
第２図　周辺遺跡……12
第３図　大崎IC～鹿屋串良JCT間の遺跡……17
第４図　調査範囲図……19
第５図　年度別調査範囲図……20
第６図　基本層序……21
第７図　土層断面図１……22
第８図　土層断面図２……23
第９図　土層断面図３……24
第10図　土層断面図４……25
第11図　土層断面図５……26
第12図　土層断面図６……27
第13図　土層断面図７……28
第14図　土層断面図８……29
第15図　土層断面図９……30
第16図　土層断面図10……31
第17図　土層断面図11……32
第18図　土層断面図12……33
第19図　土層断面図13……34
第20図　土層断面図14……35
第21図　土層断面図15……36
第22図　縄文時代前期の土器……37
第23図　縄文時代前期の石器……37
第24図　縄文時代後期の土器１……39
第25図　縄文時代後期の土器２……40
第26図　縄文時代後期の土器３……41
第27図　縄文時代晩期の土器１……43
第28図　縄文時代晩期の土器２……44
第29図　縄文時代晩期の土器３……45
第30図　弥生時代の主要遺構図……47
第31図　Ⅵ層上面コンター図……47
第32図　竪穴住居跡１号１……49
第33図　竪穴住居跡１号出土遺物……49
第34図　竪穴住居跡１号２……50
第35図　竪穴住居跡２号１……51
第36図　竪穴住居跡２号２……52
第37図　竪穴住居跡２号出土遺物１……53
第38図　竪穴住居跡２号出土遺物２……54
第39図　竪穴住居跡２号出土遺物３……55
第40図　竪穴住居跡２号出土遺物４……56
第41図　竪穴住居跡２号出土遺物５……57
第42図　竪穴住居跡２号出土遺物６……58
第43図　竪穴住居跡２号出土遺物７……59
第44図　竪穴住居跡３号……60
第45図　竪穴住居跡３号出土遺物１……61
第46図　竪穴住居跡３号出土遺物２……62
第47図　竪穴住居跡３号出土遺物３……63
第48図　竪穴住居跡４号……64
第49図　竪穴住居跡５号……65
第50図　竪穴住居跡５号出土遺物１……66
第51図　竪穴住居跡５号出土遺物２……67
第52図　竪穴住居跡６号１……68
第53図　竪穴住居跡６号２……69
第54図　竪穴住居跡６号出土遺物１……70
第55図　竪穴住居跡６号出土遺物２……71
第56図　竪穴住居跡６号出土遺物３……72
第57図　竪穴住居跡７号……74
第58図　竪穴住居跡７号遺物出土状況……75
第59図　竪穴住居跡７号出土遺物１……76
第60図　竪穴住居跡７号出土遺物２……77
第61図　竪穴住居跡７号出土遺物３……78
第62図　竪穴住居跡７号出土遺物４……79
第63図　竪穴住居跡７号出土遺物５……80
第64図　竪穴住居跡７号出土遺物６……81
第65図　竪穴住居跡７号出土遺物７……82
第66図　竪穴住居跡７号出土遺物８……83
第67図　竪穴住居跡７号出土遺物９……84
第68図　竪穴住居跡７号出土遺物10……85
第69図　竪穴住居跡７号出土遺物11……86
第70図　竪穴住居跡８号１……87
第71図　竪穴住居跡８号２……88
第72図　竪穴住居跡８号出土遺物１……89
第73図　竪穴住居跡８号出土遺物２……90
第74図　竪穴住居跡９号……91
第75図　竪穴住居跡９号出土遺物……92
第76図　竪穴住居跡10号１……93
第77図　竪穴住居跡10号２……94
第78図　竪穴住居跡10号出土遺物１……95
第79図　竪穴住居跡10号出土遺物２……96
第80図　竪穴住居跡11号１……97
第81図　竪穴住居跡11号２……98
第82図　竪穴住居跡11号出土遺物１……99
第83図　竪穴住居跡11号出土遺物２……100
第84図　竪穴住居跡12号１……101
第85図　竪穴住居跡12号２……102
第86図　竪穴住居跡12号３……103
第87図　竪穴住居跡12号出土遺物１……104
第88図　竪穴住居跡12号出土遺物２……105
第89図　竪穴住居跡12号出土遺物３……106
第90図　竪穴住居跡12号出土遺物４……107
第91図　竪穴住居跡12号出土遺物５……108
第92図　竪穴住居跡12号出土遺物６……109
第93図　竪穴住居跡13号１……110

第 94 図　竪穴住居跡13号２ …… 111
第 95 図　竪穴住居跡13号出土遺物１ …… 112
第 96 図　竪穴住居跡13号出土遺物２ …… 113
第 97 図　竪穴住居跡14号１ …… 114
第 98 図　竪穴住居跡14号２ …… 115
第 99 図　竪穴住居跡14号出土遺物１ …… 116
第100図　竪穴住居跡14号出土遺物２ …… 117
第101図　竪穴住居跡15号１ …… 118
第102図　竪穴住居跡15号２ …… 119
第103図　竪穴住居跡15号出土遺物１ …… 120
第104図　竪穴住居跡15号出土遺物２ …… 121
第105図　竪穴住居跡15号出土遺物３ …… 122
第106図　竪穴住居跡15号出土遺物４ …… 123
第107図　竪穴住居跡16号 …… 124
第108図　竪穴住居跡16号出土遺物 …… 125
第109図　竪穴住居跡17号１ …… 125
第110図　竪穴住居跡17号２ …… 126
第111図　竪穴住居跡17号出土遺物１ …… 127
第112図　竪穴住居跡17号出土遺物２ …… 128
第113図　竪穴住居跡18号１ …… 129
第114図　竪穴住居跡18号２ …… 130
第115図　竪穴住居跡18号３ …… 131
第116図　竪穴住居跡18号出土遺物１ …… 132
第117図　竪穴住居跡18号出土遺物２ …… 133
第118図　竪穴住居跡18号出土遺物３ …… 134
第119図　竪穴住居跡18号出土遺物４ …… 135
第120図　竪穴住居跡18号出土遺物５ …… 136
第121図　竪穴住居跡19号 …… 137
第122図　竪穴住居跡19号出土遺物 …… 138
第123図　竪穴住居跡20号 …… 139
第124図　竪穴住居跡20号出土遺物１ …… 140
第125図　竪穴住居跡20号出土遺物２ …… 141
第126図　竪穴住居跡21号１ …… 142
第127図　竪穴住居跡21号２ …… 143
第128図　竪穴住居跡21号出土遺物 …… 144
第129図　竪穴住居跡22号１ …… 145
第130図　竪穴住居跡22号出土遺物 …… 145
第131図　竪穴住居跡22号２ …… 146
第132図　竪穴住居跡23号 …… 147
第133図　竪穴住居跡23号出土遺物１ …… 148
第134図　竪穴住居跡23号出土遺物２ …… 149
第135図　竪穴住居跡24号１ …… 150
第136図　竪穴住居跡24号２ …… 151
第137図　竪穴住居跡24号出土遺物１ …… 152
第138図　竪穴住居跡24号出土遺物２ …… 153
第139図　竪穴住居跡24号出土遺物３ …… 154
第140図　竪穴住居跡24号出土遺物４ …… 155
第141図　竪穴住居跡24号出土遺物５ …… 156
第142図　竪穴住居跡24号出土遺物６ …… 157
第143図　竪穴住居跡25号１ …… 158
第144図　竪穴住居跡25号２ …… 159
第145図　竪穴住居跡25号出土遺物 …… 160
第146図　竪穴住居跡26号１ …… 161
第147図　竪穴住居跡26号２ …… 162
第148図　竪穴住居跡26号出土遺物１ …… 163
第149図　竪穴住居跡26号出土遺物２ …… 164
第150図　竪穴住居跡26号出土遺物３ …… 165
第151図　竪穴住居跡26号出土遺物４ …… 166
第152図　竪穴住居跡26号出土遺物５ …… 167
第153図　竪穴住居跡26号出土遺物６ …… 168
第154図　竪穴住居跡26号出土遺物７ …… 169
第155図　竪穴住居跡26号出土遺物８ …… 170
第156図　竪穴住居跡26号出土遺物９ …… 171
第157図　竪穴住居跡27号 …… 172
第158図　竪穴住居跡28号 …… 173
第159図　竪穴住居跡29号 …… 174
第160図　竪穴住居跡29号出土遺物 …… 174
第161図　竪穴住居跡30号１ …… 176
第162図　竪穴住居跡30号２ …… 177
第163図　竪穴住居跡30号出土遺物１ …… 178
第164図　竪穴住居跡30号出土遺物２ …… 179
第165図　竪穴住居跡30号出土遺物３ …… 180
第166図　竪穴住居跡30号出土遺物４ …… 181
第167図　竪穴住居跡31号１ …… 182
第168図　竪穴住居跡31号２ …… 183
第169図　竪穴住居跡31号出土遺物 …… 184
第170図　竪穴住居跡内出土土製勾玉 …… 185
第171図　竪穴住居跡内出土土製加工品 …… 186
第172図　竪穴住居跡内出土石器１ …… 187
第173図　竪穴住居跡内出土石器２ …… 188
第174図　竪穴住居跡内出土石器３ …… 189
第175図　竪穴住居跡内出土石器４ …… 190
第176図　竪穴住居跡内出土石器５ …… 191
第177図　竪穴住居跡内出土石器６ …… 192
第178図　竪穴住居跡内出土石器７ …… 193
第179図　竪穴住居跡内出土石器８ …… 194
第180図　竪穴住居跡内出土石器９・鉄製品 …… 196
第181図　竪穴住居跡内出土石器10 …… 197
第182図　竪穴住居跡内出土石器11 …… 198
第183図　竪穴住居跡内出土軽石加工品 …… 199
第184図　掘立柱建物跡１ …… 201
第185図　掘立柱建物跡２ …… 202
第186図　掘立柱建物跡３ …… 203
第187図　掘立柱建物跡４ …… 205
第188図　掘立柱建物跡５ …… 206
第189図　掘立柱建物跡６ …… 207

第190図　掘立柱建物跡７ …… 208
第191図　掘立柱建物跡８ …… 210
第192図　掘立柱建物跡９ …… 211
第193図　掘立柱建物跡10 …… 212
第194図　掘立柱建物跡11 …… 214
第195図　掘立柱建物跡12 …… 215
第196図　掘立柱建物跡13 …… 216
第197図　掘立柱建物跡14 …… 217
第198図　掘立柱建物跡15 …… 219
第199図　掘立柱建物跡16 …… 220
第200図　掘立柱建物跡17 …… 221
第201図　掘立柱建物跡18 …… 223
第202図　掘立柱建物跡19 …… 224
第203図　掘立柱建物跡20 …… 225
第204図　掘立柱建物跡21 …… 226
第205図　柱穴列１ …… 227
第206図　柱穴列２ …… 228
第207図　柱穴列等出土遺物 …… 229
第208図　方形周溝 …… 231
第209図　円形周溝１ …… 232
第210図　円形周溝２ …… 233
第211図　円形周溝３ …… 234
第212図　円形周溝４ …… 235
第213図　円形周溝５ …… 236
第214図　方形・円形周溝出土遺物１ …… 238
第215図　円形周溝出土遺物２ …… 239
第216図　円形周溝出土遺物３ …… 240
第217図　土坑１ …… 242
第218図　土坑２ …… 243
第219図　土坑３ …… 244
第220図　土坑４ …… 245
第221図　土坑５ …… 247
第222図　土坑６ …… 248
第223図　土坑７ …… 249
第224図　土坑８ …… 251
第225図　土坑９ …… 252
第226図　土坑10 …… 253
第227図　土坑出土遺物１ …… 255
第228図　土坑出土遺物２ …… 256
第229図　土坑出土遺物３ …… 257
第230図　土坑出土遺物４ …… 258
第231図　土坑出土遺物５ …… 259
第232図　土坑出土遺物６ …… 260
第233図　土坑出土遺物７ …… 261
第234図　土坑出土遺物８ …… 262
第235図　土坑出土遺物９ …… 263
第236図　土坑出土遺物10 …… 263
第237図　土坑出土石器 …… 264
第238図　礫集積１ …… 265
第239図　礫集積２ …… 266
第240図　礫集積出土遺物 …… 267
第241図　グリッド別ピット数 …… 268
第242図　ピット１ …… 269
第243図　ピット２ …… 270
第244図　ピット３ …… 271
第245図　ピット４ …… 272
第246図　ピット５ …… 273
第247図　第１エリア土器１ …… 第２分冊　302
第248図　第１エリア土器２ …… 303
第249図　第１エリア土器３ …… 304
第250図　第２エリア土器１ …… 305
第251図　第２エリア土器２ …… 306
第252図　第３エリア土器１ …… 308
第253図　第３エリア土器２ …… 309
第254図　第３エリア土器３ …… 310
第255図　第３エリア土器４ …… 311
第256図　第３エリア土器５ …… 312
第257図　大型甕形土器１ …… 313
第258図　大型甕形土器２ …… 314
第259図　大型甕形土器３ …… 316
第260図　大型甕形土器４ …… 317
第261図　大型甕形土器５ …… 318
第262図　二叉口縁壺形土器 …… 319
第263図　M字状突帯壺形土器１ …… 321
第264図　M字状突帯壺形土器２ …… 322
第265図　二叉口縁類似壺形土器 …… 323
第266図　特殊壺形土器 …… 324
第267図　蓋形土器 …… 325
第268図　小型甕形土器１ …… 326
第269図　小型甕形土器２ …… 327
第270図　小型壺形土器 …… 329
第271図　小型鉢形土器 …… 330
第272図　長頸壺・高坏 …… 331
第273図　丹塗土器 …… 332
第274図　特殊土器 …… 333
第275図　鋸歯文・櫛描波状文土器・線刻土器 …… 334
第276図　手捏ね土器・把手・穿孔土器 …… 335
第277図　杯蓋等土器 …… 336
第278図　土製勾玉 …… 337
第279図　土製加工品１ …… 339
第280図　土製加工品２ …… 340
第281図　土製加工品３ …… 341
第282図　磨製石鏃 …… 342
第283図　磨製石斧ほか …… 343
第284図　石鏃１ …… 345
第285図　石鏃２・石匙 …… 346

第286図　打製石斧１ …… 348
第287図　打製石斧２ …… 349
第288図　打製石斧３ …… 350
第289図　打製石斧４・磨製石斧 …… 351
第290図　石皿 …… 353
第291図　磨・敲石１ …… 354
第292図　磨・敲石２ …… 355
第293図　磨・敲石３，石錘等 …… 356
第294図　軽石加工品 …… 357
第295図　鉄製品 …… 357
第296図　溝状遺構・道跡全体図 …… 359
第297図　遺物全ドット図 …… 359
第298図　溝状遺構１ …… 361
第299図　溝状遺構２ …… 363
第300図　溝状遺構３ …… 364
第301図　溝状遺構４ …… 365
第302図　溝状遺構５ …… 366
第303図　溝状遺構６ …… 367
第304図　溝状遺構７ …… 368
第305図　道跡１ …… 370
第306図　道跡２ …… 371
第307図　道跡３ …… 372
第308図　道跡４ …… 373
第309図　道跡５ …… 374
第310図　道跡６ …… 375
第311図　道跡７ …… 377
第312図　道跡８ …… 378
第313図　溝状遺構・道跡出土遺物 …… 379
第314図　畝状遺構群 …… 381
第315図　成川式土器 …… 382
第316図　土師器・須恵器 …… 383
第317図　陶器・磁器 …… 384
第318図　弥生時代中期の周辺遺跡 …… 445
第319図　遺跡の残存範囲図 …… 447

付図１　竪穴住居跡７号遺物出土状況図
付図２　弥生時代の主要遺構図
付図３　溝状遺構・道跡全体図

表　目　次

第１表　周辺遺跡……13
第２表　大崎IC～鹿屋串良JCT間の遺跡……14
第３表　大崎IC～鹿屋串良JCT間の遺跡の概要……15
第４表　住居跡出土土製加工品計測表…… 186
第５表　弥生　竪穴住居跡計測表…… 274
第６表　方形・円形周溝計測表…… 274
第７表　掘立柱建物跡計測表…… 275
第８表　柱穴列計測表…… 281
第９表　土坑計測表…… 281
第10表　礫集積計測表…… 281
第11表　縄文土器観察表…… 282
第12表　竪穴住居跡出土土器観察表…… 284
第13表　竪穴住居跡出土土勾玉観察表…… 296
第14表　竪穴住居跡出土土製加工品観察表…… 296
第15表　周溝出土土器観察表…… 297
第16表　柱穴列出土土器観察表…… 297
第17表　土坑出土土器観察表…… 297
第18表　縄文時代前期の石器観察表…… 300
第19表　竪穴住居跡出土石器観察表…… 300
第20表　方形・円形周溝出土石器観察表…… 300
第21表　土坑出土石器観察表…… 300
第22表　礫集積出土石器観察表…… 300
第23表　土器製加工品計測表…… 338
第24表　溝状遺構計測表…… 385
第25表　道跡計測表…… 385
第26表　畝状遺構計測表…… 385
第27表　第１エリア土器観察表…… 386
第28表　第２エリア土器観察表…… 386
第29表　第３エリア土器観察表…… 386
第30表　大型甕形土器観察表…… 387
第31表　二叉口縁壺形土器観察表…… 387
第32表　M字状口縁壺形土器観察表…… 388
第33表　二叉口縁類似壺形土器観察表…… 388
第34表　特殊壺形土器観察表…… 388
第35表　蓋形土器観察表…… 388
第36表　小型甕形土器観察表…… 388
第37表　小型壺形土器観察表…… 389
第38表　小型鉢形土器観察表…… 389
第39表　長頸壺・高坏観察表 …… 390
第40表　丹塗土器観察表…… 390
第41表　特殊土器観察表…… 390
第42表　鋸歯文・櫛描波状文土器観察表…… 390
第43表　手捏ね土器・把手・穿孔土器観察表…… 391
第44表　籾痕等土器観察表…… 391
第45表　土製勾玉観察表…… 391

第46表　土製加工品観察表…… 391
第47表　溝状遺構・道跡出土土器観察表…… 393
第48表　成川式土器観察表…… 394
第49表　土師器・須恵器観察表…… 394
第50表　陶器・磁器観察表…… 394
第51表　磨製石鏃観察表…… 395
第52表　磨製石斧等観察表…… 395
第53表　打製石鏃観察表…… 395
第54表　打製石斧観察表…… 395
第55表　石皿観察表…… 395
第56表　磨・敲石等観察表…… 396
第57表　軽石加工品観察表…… 396
第58表　鉄製品観察表…… 396
第59表　田原迫ノ上遺跡と王子遺跡の比較…… 435
第60表　竪穴住居別底部計数表…… 439
第61表　グリッド別底部計数表…… 440
第62表　弥生時代中期を中心とした遺跡地名表…… 444

図　版　目　次

巻頭図版１　遺跡全景（空撮）
巻頭図版２　竪穴住居跡18号，円形周溝３・４号ほか
巻頭図版３　竪穴住居跡７号出土土器
巻頭図版４　大型砥石

図版１上　遺跡近景…… 449
図版１下　調査風景…… 449
図版２上　土層断面１…… 450
図版２下　土層断面２…… 450
図版３上　遺物出土状況…… 451
図版３下　遺構掘り下げ状況…… 451
図版４上　弥生土器出土状況…… 452
図版４下　ピット検出状況…… 452
図版５上　竪穴住居跡１号（検出状況）…… 453
図版５下　竪穴住居跡12号（検出状況）…… 453
図版６上　竪穴住居跡２号（床面掘り下げ状況）… 454
図版６下　竪穴住居跡２号（完掘状況）…… 454
図版７上　竪穴住居跡６号…… 455
図版７下　竪穴住居跡７号…… 455
図版８上　竪穴住居跡７号（遺物集中状況）…… 456
図版８下　竪穴住居跡11号…… 456
図版９上　竪穴住居跡19号…… 457
図版９下　竪穴住居跡20号…… 457
図版10上　竪穴住居跡21号…… 458
図版10下　竪穴住居跡22号…… 458
図版11上　竪穴住居跡30号…… 459
図版11下　柱穴列１号…… 459
図版12上　方形周溝…… 460
図版12下　円形周溝３号…… 460
図版13上　円形周溝４号…… 461
図版13下　円形周溝５号…… 461
図版14上　円形周溝６号（竪穴住居跡８号）…… 462
図版14下　円形周溝７号…… 462
図版15上　掘立柱建物跡３号…… 463
図版15下　掘立柱建物跡14号…… 463
図版16上　掘立柱建物跡21号…… 464
図版16下　掘立柱建物跡38号（棟持柱建物）…… 464
図版17上　土坑８号…… 465
図版17下　土坑18号…… 465
図版18上　礫集積４号…… 466
図版18下　礫集積５号…… 466
図版19上　石器出土状況（有肩石斧）…… 467
図版19下　溝状遺構11号検出状況…… 467
図版20上　道跡３号検出状況…… 468
図版20下　ピット群…… 468
図版21　縄文時代後期土器…… 469

図版22　縄文時代晩期土器…… 470
図版23　竪穴住居跡７号出土土器１…… 471
図版24　竪穴住居跡７号出土土器２…… 472
図版25　竪穴住居跡２～12号出土土器…… 473
図版26　竪穴住居跡13～15号出土土器…… 474
図版27　竪穴住居跡15～24号出土土器…… 475
図版28　竪穴住居跡24～26号出土土器…… 476
図版29　竪穴住居跡26号出土土器…… 477
図版30　竪穴住居跡・土坑等出土土器…… 478
図版31　大型甕形土器１…… 479
図版32　大型甕形土器２…… 480
図版33　竪穴住居跡12号出土土器…… 481
図版34　竪穴住居跡15号出土土器…… 482
図版35　竪穴住居跡18号出土土器…… 483
図版36　竪穴住居跡24号出土土器…… 484
図版37　竪穴住居跡26号出土土器…… 485
図版38　竪穴住居跡30号出土土器…… 486
図版39上　竪穴住居跡２号出土土器…… 487
図版39下　竪穴住居跡７号出土土器…… 487
図版40上　竪穴住居跡３～６号出土土器…… 488
図版40下　竪穴住居跡８～10号出土土器…… 488
図版41上　竪穴住居跡13・14号出土土器…… 489
図版41下　竪穴住居跡17～19号出土土器…… 489
図版42上　竪穴住居跡20～23号出土土器…… 490
図版42下　竪穴住居跡25～31号出土土器…… 490
図版43上　方形・円形周溝出土土器…… 491
図版43下　土坑３～５号ほか出土土器…… 491
図版44上　土坑６・７号出土土器…… 492
図版44下　土坑７・８号出土土器…… 492
図版45上　第１エリアの土器…… 493
図版45下　第２エリアの土器…… 493
図版46　第３エリアの土器…… 494
図版47上　大型甕形土器…… 495
図版47下　特殊壺形土器…… 495
図版48上　小型甕形土器…… 496
図版48下　小型壺形土器…… 496
図版49上　小型鉢形土器…… 497
図版49下　手捏ね土器・把手・耳飾等押圧土器…… 497
図版50上　蓋形土器・高坏・丹塗土器…… 498
図版50下　鋸歯文・櫛描波状文・沈線文土器…… 498
図版51上　土製勾玉…… 499
図版51下　樹皮布敲石…… 499
図版52　土製加工品…… 500
図版53上　成川式土器・土師器・須恵器…… 501
図版53下　陶器・磁器…… 501
図版54上　打製石鏃・石匙…… 502
図版54下　打製石斧…… 502
図版55上　磨・敲・凹石、石皿…… 503
図版55下　磨製石鏃…… 503
図版56上　住居跡内出土石器…… 504
図版56下　周溝・土坑出土石器…… 504
図版57上　砥石、磨・敲・凹石、石皿等…… 505
図版57下　軽石加工品…… 505
図版58　大型砥石…… 506
図版59　大型台石…… 507
図版60　石皿・大型台石…… 508
図版61　大型石皿…… 509
図版62　竪穴住居跡出土の大型台石…… 510

第１章　発掘調査の経過

第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会は，文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無及びその取扱いについて協議し，諸開発との調整を図ってきた。この事前協議制に基づき，日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所は，東九州自動車道の建設を計画し，志布志IC～末吉財部IC区間の事業に先立って，事業地内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下，「文化財課」という。）に照会した。

この計画に伴い文化財課は，平成11年１月に鹿屋串良JCT～末吉財部IC間を，平成12年２月には志布志IC～鹿屋串良JCT間の埋蔵文化財の分布調査を実施し，50か所の遺跡（854,100㎡）が存在することが明らかとなった。

この結果をもとに，事業区間内の埋蔵文化財の取扱いについて，日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所，鹿児島県土木部道路建設課高速道対策室，文化財課，県立埋蔵文化財センター（以下，「埋文センター」という。）の４者で協議を重ね対応を検討してきた。

その後，日本道路公団民営化の政府方針が提起され，事業の見直しと建設コストの削減も検討することとなった。このような社会情勢の変化に伴い，遺跡の級密な把握が要求されることとなり，埋蔵文化財の詳細分布調査，試掘調査，確認調査が実施されることとなった。

そこで，鹿児島県教育委員会は，まず，平成13年１月29日から平成13年２月６日に調査の利便性や面積等を考慮して宮ヶ原遺跡，加治木堀遺跡，石縄遺跡，十三塚遺跡の試掘調査を実施した。さらに，平成13年７月10日から７月26日に鹿屋串良JCT～末吉財部IC間の工事計画図をもとに33の遺跡について詳細分布調査と，平成13年９月17日から10月26日まで，平成13年12月３日から12月25日までの２期間にわたり各遺跡の調査範囲及び遺物包含層の層数を把握するための試掘調査を実施した。

これらの詳細分布調査や試掘調査に加えて，既に合意されていた本線工事用道路及び側道部分の確認調査も実施することとなり，関山西遺跡，関山遺跡，狩俣遺跡の３遺跡を対象に平成13年10月１日から平成14年３月22日にかけて確認調査を実施した。

平成14年４月には，志布志IC～鹿屋串良JCT間の遺跡について再度分布調査を実施した結果，遺跡の調査対象面積が678,700㎡となった。

その後，日本道路公団民営化（現在の西日本高速道路株式会社）の関議決定と新直轄方式に基づく道路建設の確定，平成15年11月に暫定２車線施行に伴う議事確認書締結，同年12月に大隅IC（平成21年４月28日，「曽於弥五郎IC」へ名称変更）から末吉財部IC間の発掘調査協定書締結，平成16年３月に国土交通省九州地方整備局長，日本道路公団九州支社長，鹿児島県知事の間で新直轄方式施行に伴う確認書締結が結ばれ，工事は日本道路公団が国土交通省から受託し，発掘調査は日本道路公団が鹿児島県に再委託することとなり，これまでの確認書，協定書はそのまま生きるということになった。

また，日本道路公団からの再委託は曽於弥五郎ICまでで終了し，曽於弥五郎ICからの先線部は国土交通省からの受託事業となった。

田原迫ノ上遺跡の調査は，一部本調査を平成20年度に実施し，平成22年度から埋文センターが本調査を以下のように行った。

平成22年度　平成22年５月６日～平成23年３月11日
平成23年度　平成23年５月９日～平成24年３月16日
平成24年度　平成24年６月５日～平成25年１月28日

平成25年度以降の本調査は，埋文センターの国事業に係る発掘調査業務が公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（以下，「埋文調査センター」という。）へ移管されたことに伴い，文化財課からの委託を受けた埋文調査センターが以下のように行った。

平成25年度　平成25年６月３日～平成26年１月28日

報告書作成作業は，平成23年度と平成24年度は埋文センターが行い，平成25年度から平成27年度は埋文調査センターが行った。

第２節　調査の経過

１　一部本調査

田原迫ノ上遺跡の一部本調査を，平成21年２月１日から平成21年３月19日に実施した。調査は，３ｍ×７ｍの先行トレンチを２か所（Ｉ・Ｊトレンチ），７ｍ×７ｍの先行トレンチを１か所（Ｋトレンチ）設定し，表土剥ぎ，掘り下げは人力で行った。調査の結果，ゴボウ耕作のためのトレンチャーによる撹乱を受けていたが，撹乱層の中から弥生時代中期の山ノ口式土器が確認された。また，調査当初Ｋトレンチから地下式横穴墓の竪坑ではないかと考えられるシミが確認されたが，検討の結果，地下式横穴墓ではないという結論に至った。

調査体制（一部本調査：平成20年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所	
調査主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所　長	宮原　景信
調査企画	次長兼総務課長	平山　章
	次長兼南の縄文室長	池畑　耕一
	調査第二課長	彌榮　久志

	主任文化財主事兼	
	調査第二課第一調査係長	中村　耕治
調査担当	文化財主事	高岡　和也
	文化財主事	新保　朋久
	文化財主事	寺原　徹
	文化財調査員	岩元　康成
事務担当	総務係長	紙屋　伸一
	主事	五百路　真

調査の詳細（日誌抄より）

平成21年２月

先行トレンチ（Ⅰ～Ｋトレンチ）設定準備。Ⅰ～Ｋトレンチ：表土剥ぎ後，調査。Ｊトレンチ：アカホヤ上面ピット検出。Ｋトレンチ：地下式横穴墓と思われる遺構の調査。

平成21年３月

Ｋトレンチ：Ⅱ層掘り下げ。地下式横穴墓と思われる遺構の調査及び検討の結果，地下式横穴墓ではないという結論に至る。Ｉトレンチ：Ⅲ・Ⅳ層掘り下げ，早期遺物出土状況写真撮影・取り上げ，トレンチ位置図作成。

２　本調査

⑴　平成22年度

平成22年度の本調査を平成22年５月６日から平成23年３月11日（実働172日間）まで実施した。調査体制及び調査の詳細については以下のとおりである。なお，調査の詳細については，日誌抄を基に月ごとに記述してある。（次年度以降も同じ）

調査体制（本調査：平成22年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所	
調査主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所長	山下　吉美
調査企画	次長兼総務課長	田中　明成
	次長兼南の縄文室長	中村　耕治
	調査第二課長	井ノ上秀文
	文化財主事兼	
	調査第二課第一調査係長	前迫　亮一
調査担当	文化財主事	遠矢　勝幸
	文化財主事	藤山賢一郎
事務担当	総務係長	大園　祥子
	主事	髙崎　智博

調査の詳細

平成22年５月

環境整備。表土剥ぎ。Ａ～Ｅ－１～４区：Ⅲ～Ⅵ層上面掘り下げ。Ａ～Ｆ－６～10区：確認トレンチを設定し，Ⅵ層上面まで掘り下げ。

鹿屋市教育委員会山口氏・稲村氏・文化財審議会副会長福元氏来跡（25日）

平成22年６月

Ａ～Ｅ－１～４区：Ⅲ層出土遺物取り上げ。硬化面検出及び検出状況実測。Ａ～Ｆ－６～10区：Ⅲ層掘り下げ。硬化面検出。環境整備。

鹿屋市教委稲村氏ほか１名来跡（11日）

平成22年７月

Ａ～Ｅ－１～４区：Ⅵ層上面まで掘り下げ，写真撮影及びⅥ層上面コンター図作成。下層確認トレンチを２か所設置し，Ⅶ～ⅩⅢ層上面まで掘り下げ及び遺物取り上げ。Ｃ－９区：弥生時代竪穴住居跡１号検出及び写真撮影。Ａ～Ｃ－４～６区：先行トレンチ掘り下げ。

埋蔵文化財専門職員養成講座受講者７名（６日），国土交通省黒木専門職視察（８日），鹿屋市教育委員会坂口課長・主幹兼文化財班長山口氏来跡（27日）

平成22年８月

Ａ～Ｅ－１～４区：Ⅸ～ⅩⅢ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｃ－４区：ⅩⅢ層上面で落とし穴１号検出。Ｃ－９区：竪穴住居跡１号掘り下げ及び写真撮影。住居内埋土フローテーション作業開始。Ａ～Ｃ－４～６区：Ⅲ層掘り下げ。

霧島文化財少年団発掘体験・鹿屋市文化財ウォッチング（３日），曽於市文化財審議委員10名来跡（４日），文化財課堂込係長来跡（６日）

平成22年９月

Ａ～Ｅ－１～４区：Ⅸ～ⅩⅠ層掘り下げ。Ｃ－４区：落とし穴１号掘り下げ及び実測，写真撮影。Ｃ－９区：竪穴住居跡１号掘り下げ及び写真撮影。Ｃ・Ｄ－７区：竪穴住居跡２号検出及び掘り下げ。住居内埋土フローテーション作業。Ａ～Ｃ－４～６区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。

平成22年10月

Ａ～Ｅ－１～４区：Ⅸ～ⅩⅢ層掘り下げ。ⅩⅢ層上面コンター図作成。Ｃ・Ｄ－２区：ⅩⅢ層上面で落とし穴２・３号検出，落とし穴の写真撮影及び掘り下げ。Ｃ－９区：竪穴住居跡１号掘り下げ。Ｃ・Ｄ－７区：竪穴住居跡２号掘り下げ。住居内埋土フローテーション作業。Ａ～Ｃ－４～６区：Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ａ～Ｆ－10～15区：表土剥ぎ。

平成22年11月

Ｃ・Ｄ－２～４区：ⅩⅢ層上面落とし穴１～３号写真撮影及び掘り下げ。Ａ～Ｆ－６～10区：Ⅲ～Ⅵ層上面掘り下げ。Ａ～Ｃ－４～６区：Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ。Ａ～Ｆ－10～15区：表土剥ぎ，Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ。

平成22年12月

Ｃ・Ｄ－２～４区：ⅩⅢ層上面落とし穴１～３号写真撮影及び掘り下げ，実測。Ｃ－９区：竪穴住居跡１号掘

り下げ。C・D－7区：竪穴住居跡2号掘り下げ。住居内埋土フローテーション作業。A～C－4～6区：Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。ピット検出及び掘り下げ。

A～F－10～15区：Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ。硬化面・溝状遺構検出及び掘り下げ。

平成23年1月

C・D－2～4区：XⅢ層上面落とし穴1～3号掘り下げ及び実測。C－9区：竪穴住居跡1号掘り下げ。C・D－7区：竪穴住居跡2号掘り下げ。D－6区：竪穴住居跡3号掘り下げ。2号と3号については住居内遺物出土状況実測（委託）。住居内埋土フローテーション作業。A～C－4～6区：Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。A～F－10～15区：Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。溝状遺構検出及び掘り下げ。

平成23年2月

A－1～3区：XⅢ層上面まで掘り下げ。南側土層断面実測。A～C－4～6区：Ⅵ層剥ぎ取り。アカホヤ上面で遺構精査。ピット平板実測。C・D－2区：落とし穴2・3号実測。C・D－7区：竪穴住居跡2号掘り下げ。D－6区：竪穴住居跡3号掘り下げ，遺物出土状況実測及び取り上げ。E－8区：竪穴住居跡4号掘り下げ。B～D－17・18区：Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。E・F－13～17区：Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ。

平成23年3月

B－1区：落とし穴3号完掘及び完掘状況写真撮影。C・D－7区：竪穴住居跡2号掘り下げ及び遺物取り上げ。A～C－5・6区：ピット掘り下げ及び実測。E－14～16区：硬化面検出，写真撮影。A・B－14～19区：Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。環境整備。遺構養生。

(2) 平成23年度

平成23年度の本調査を平成23年5月9日から平成24年3月16日（実働162日間）まで実施した。調査体制及び調査の詳細については以下のとおりである。

調査体制（本調査：平成23年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所	
調査主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所長	寺田 人志
調査企画	次長兼総務課長	田中 明成
	次長兼南の縄文室長	井ノ上秀文
	調査第二課長	冨田 逸郎
	文化財主事兼	
	調査第二課第一調査係長	八木澤一郎
調査担当	文化財主事	遠矢 勝幸
	文化財研究員	平 美典
	文化財調査員	原 栄子
事務担当	総務係長	大園 祥子
	主事	高崎 智博

調査の詳細

平成23年5月

環境整備。A～C－4～7区：Ⅷ層上面遺構精査，掘立柱建物跡検出。A～F－10～19区：Ⅲ～Ⅴ層掘り下げ及びピット検出。D～F－3～6区：表土剥ぎ。Ⅲ～Ⅴ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。D～G－20～23区：表土剥ぎ。

文化財課中村文化財主事来跡（25日）

平成23年6月

A～C－6～8区：Ⅲ層掘り下げ，溝状遺構検出及び掘り下げ。A～F－8～10区：Ⅲ～Ⅴ層掘り下げ及び遺物取り上げ。A～C－12～14区：掘立柱建物跡検出及び写真撮影・実測，Ⅲ～Ⅵ層掘り下げ。A－11区：Ⅸ～XⅢ層掘り下げ及び遺物取り上げ，写真撮影。A－15～18区：Ⅲ層掘り下げ，掘立柱建物跡検出及び写真撮影・実測。D－5・6区：竪穴住居跡6号（弥生）検出，掘り下げ。E－12～14区：表土剥ぎ及びⅡ～Ⅵ層掘り下げ，Ⅵ層（池田降下軽石層）上面地形測量図作成。F・G－22・23区：Ⅲ層掘り下げ。重機による排土・排水処理。

国土交通省上村監督官・本田専門職現地協議（3日）

平成23年7月

A－7・8区：Ⅲ層検出溝状遺構写真撮影及び実測。Ⅵ層上面地形測量図作成。Ⅵ層以下掘り下げ。A・B－11区：XⅣ層掘り下げ終了，完掘状況写真撮影。土層断面実測。A～F－10区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。A～F－11～13区：Ⅸ～XⅡ層掘り下げ。A～F－13・14区：Ⅵ層上面検出ピット平板実測，掘立柱建物跡検出及び実測。Ⅷ層（アカホヤ火山灰）除去，Ⅸ層掘り下げ。B～C－25～27区：Ⅲ層出土遺物取り上げ。D－5・6区：竪穴住居跡6号掘り下げ及び実測。D・E－10区：竪穴住居跡7号検出及び掘り下げ。E－14～17区：Ⅲ～Ⅴ層掘り下げ。E・F－16区：Ⅲ層検出硬化面実測。E・F－15～17区：Ⅵ層（池田降下軽石層）上面コンター図作成。重機による排土・排水処理。

南日本新聞社子ども記者取材（22日），大隅河川国道事務所國友所長他4名，海上自衛隊池群司令他4名遺跡見学（25日）

平成23年8月

A～D－11～14区：X～XⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ，遺物出土状況写真撮影。B－8区：Ⅴ層出土遺物取り上げ。C・D－5区：Ⅲ層掘り下げ。D～F－14区：Ⅸ～XⅠ層掘り下げ。D～F－21～23区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。E－7区：下層確認ト

レンチ掘り下げ（Ⅵ～Ⅸ層）。E・F－15区：Ⅵ層掘り下げ。C－13区：竪穴住居跡１号（縄文）検出及び掘り下げ。B－13区：竪穴住居跡２号（縄文）検出及び掘り下げ。C－12区：集石１号実測。B－12・13区：集石２～４号検出状況写真撮影及び実測。A－13区：集石５号実測。A・B－12区：集石７号実測。D－12・13区：集石８・９号実測。C－９区：竪穴住居跡１号（弥生）精査及び住居内土坑掘り下げ。D－７区：竪穴住居跡２号（弥生）掘り下げ及び写真撮影。D－６区：竪穴住居跡３号（弥生）掘り下げ及び完掘状況写真撮影。D－５・６区：竪穴住居跡６号掘り下げ及び実測。D・E－10区：竪穴住居跡７号掘り下げ。現地説明会に向けての準備・環境整備。

鹿屋市文化財ウォッチング事業発掘体験42名（３日），南日本新聞社鹿屋総局堀之内氏来跡（８日），霧島市文化財少年団発掘体験（23日）

平成23年９月

A・B－４～７区：Ⅹ Ⅲ層（薩摩火山灰層）上面地形測量図作成。A－７・８区：下層確認トレンチ掘り下げ（Ⅸ～Ⅹ Ⅱ層）。B・C－４・５区：下層確認トレンチ掘り下げ（Ⅸ～Ⅹ Ⅲ層上面まで）終了，完掘状況写真撮影。C～F－11～14区：Ⅹ～Ⅹ Ⅱ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。E・F－４～６区：Ⅵ層（池田降下軽石層）上面地形測量図作成。E－５・６区：Ⅲ～Ⅵ層上面まで掘り下げ。E－７区：下層確認トレンチ掘り下げ（Ⅹ Ⅰ～Ⅹ Ⅲ層）。B－12・13区：竪穴住居跡１・２号掘り下げ及び完掘写真撮影。断面実測。１号との切り合いである連穴土坑１号掘り下げ。C－13区：土坑１号（縄文），連穴土坑２号掘り下げ及び実測。D－13区：連穴土坑３号検出及び掘り下げ。D～F－13区：集石10～18号写真撮影及び実測。D－６区：竪穴住居跡３号（弥生）掘り下げ。D－10区：竪穴住居跡７号（弥生）掘り下げ及び出土遺物実測。

平成23年10月

A～C－４～７区：南壁土層断面実測（A区のみ），埋め戻し。A～F－８～10区：Ⅶ層除去，Ⅸ層以下掘り下げ。A～F－11～14区：Ⅸ～Ⅹ Ⅱ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ，Ⅹ Ⅲ層（薩摩火山灰層）上面コンター図作成。A－12～14区：南壁土層断面実測。A・B－14区：Ⅹ Ⅲ層上面地形測量図作成。A・B－15・16区：Ⅸ・Ⅹ層掘り下げ。A・B－16・17区：Ⅲ層掘り下げ。A～C－14～16区：Ⅶ層（アカホヤ火山灰層）剥ぎ取り及びⅨ～Ⅹ Ⅱ層掘り下げ。C～E－７～10区：Ⅵ層掘り下げ。C～G－21～27区：Ⅲ層出土遺物取り上げ。C－14区：土器集中（石坂式土器）検出及び実測，写真撮影。F－12～14区：北壁土層断面実測。C－13・14区：竪穴住居跡３号（縄文）検出及び掘り下げ。C－13区：連穴土坑２号実測。D－13区：土坑５号（縄文）掘り下げ及び実測。C－14区：土坑６号（縄文）検出及び掘り下げ，写真撮影。D－14区：集石18・19・21号実測。B－14区：集石20号実測。A・B－16区：集石22・23号実測。D－７区：竪穴住居跡２号（弥生）掘り下げ及び実測。E－８区：竪穴住居跡４号（弥生）実測。D－６区：竪穴住居跡６号実測。D－10区：竪穴住居跡７号（弥生）掘り下げ及び実測，写真撮影。空中撮影のための環境整備。発掘作業員健康診断。

空中撮影（18日），大隅地区社会教育行政研修会14名，県文化財課前迫係長来跡（25日）

平成23年11月

A～C－４～７区：排土埋め戻し。A～E－15・16区：Ⅸ～Ⅹ Ⅱ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。A－18区：土器集中（山ノ口式土器）検出及び実測。C～E－７・８区：下層確認トレンチ掘り下げ終了（Ⅹ Ⅲ層まで），完掘状況写真撮影。C～F－５～10区：Ⅶ層（アカホヤ火山灰）剥ぎ取り，Ⅸ～Ⅹ Ⅱ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。C～F－10区：東壁土層断面実測。F－６～10区：北壁土層断面実測。B－14区：竪穴住居跡３号（縄文）掘り下げ及び実測。D・E－９・10区：土坑２号（縄文），３号検出及び掘り下げ，実測。C－14区：土坑６号（縄文）掘り下げ及び実測，写真撮影。C－８区：落とし穴４号検出及び掘り下げ，実測。D－７区：落とし穴５号検出及び掘り下げ，実測。E－９区：落とし穴６号検出及び掘り下げ，実測。E－５区：連穴土坑４号・５号検出及び掘り下げ，実測。E－７・８区：連穴土坑６・７号検出及び掘り下げ，実測。F－９区：連穴土坑８号検出及び掘り下げ，実測。B－16区：集石22・23号実測。B・C－15・16区：集石24・25号実測。E－９・10区：集石26・27号実測。D－９・10区：集石28～30号実測。

細山田中学校職員研修10名（７日），肝付町宮宿小学校６年生見学８名（18日）

平成23年12月

A～C－96～100及び１～４区表土剥ぎ，掘り下げ及び出土遺物取り上げ，Ⅵ層（池田降下軽石層）地形測量図作成。A～F－15・16区：Ⅹ～Ⅹ Ⅱ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。A・B－17・18区：Ⅲ～Ⅴ層掘り下げ。B～F－４～10区：Ⅹ Ⅲ層（薩摩火山灰層）上面地形測量図作成。C～F－15・16区：Ⅹ～Ⅹ Ⅱ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。B－14区：竪穴住居跡３号（縄文）掘り下げ及び実測。E－７・８区：連穴土坑６・７号完掘状況写真撮影及び実測，落とし穴６号掘り下げ及び実測，写真撮影。E－８・９区：連穴土坑８号掘り下げ及び実測。B－15区：集石25号実測。D－９区：集石29号実測。C～E－15区：集石31～36号実測。F－15区：集石37号実測。F－17区：集石38号実測。年末休暇のための環境整備。

平成24年１月

Ａ～Ｃ－96～100，Ｅ－14～17区：土層断面写真撮影及び実測。Ａ～Ｃ－96～100及び１区：Ⅹ Ⅲ層上面地形測量図作成。Ｂ・Ｃ－１区：落とし穴７・８号掘り下げ及び実測，写真撮影。Ｂ－13区：土坑５号・連穴土坑９号：掘り下げ及び実測，写真撮影。Ａ～Ｄ－17区：Ⅸ～Ⅺ層掘り下げ。Ⅵ層上面ピット検出及び掘り下げ，実測。Ａ～Ｃ－18・19区：Ⅲ層検出溝状遺構掘り下げ及び実測，写真撮影。来年度調査予定地確認トレンチ（３箇所設定）掘り下げ及び出土遺物取り上げ，写真撮影。

東申良町教育長来跡（10日）

平成24年２月

Ｄ～Ｆ－97～100及び１区：Ⅸ～ⅩⅡ層下層確認トレンチ掘り下げ，ⅩⅡ層上面地形測量図作成，土層断面実測。Ａ－15区の連穴土坑12号及びＣ－16区の連穴土坑13号掘り下げ及び実測・写真撮影。Ａ～Ｄ－17区：集石39～44号写真撮影及び実測。Ｂ－17区：竪穴住居跡４号（縄文）写真撮影及び掘り下げ。Ａ～Ｄ－18区及びＡ～Ｃ－19区：Ⅸ～ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｆ・Ｇ－17～19区：Ⅲ層掘り下げ，Ⅲ層検出溝状遺構掘り下げ及び実測写真撮影，ピット掘り下げ及び実測，Ⅵ層上面地形測量図作成，Ⅸ～ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。

平成24年３月

Ａ～Ｃ－18・19区：Ⅹ～ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ａ－17～19区：南壁土層断面実測，ⅩⅢ層上面地形測量図作成。Ａ－15・16区：連穴土坑12号実測。Ａ－17区：竪穴住居跡４号（縄文）掘り下げ及び実測。Ｆ－17～19区：Ⅺ・ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。集石45～47号実測。Ｂ－16・17区：埋め戻し。発掘機材撤収に向けての片付け，環境整備。

(3) 平成24年度

平成24年度の本調査を平成24年７月１日から平成25年１月28日（実働108日間）まで実施した。調査体制及び調査の詳細については以下のとおりである。

調 査 体 制（平成24年度）

事 業 主 体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所	
調 査 主 体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
調 査 統 括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所　長	寺田　仁志
調 査 企 画	次長兼総務課長	田中　明成
	次長兼南の縄文調査室長	井ノ上秀文
	調査第二課長	冨田　逸郎
	文化財主事兼	
	調査第二課第一調査係長	八木澤一郎
調 査 担 当	文化財主事	上床　真
	文化財主事	彌榮　久志
事 務 担 当	総 務 係 長	大園　祥子
	主　査	岡村　信吾

発掘調査業務委託

本調査の実施にあたり，埋文センターは国際文化財株式会社へ発掘調査業務委託を行った。委託の内容は以下のとおりである。

委 託 先　国際文化財株式会社

調査期間　平成24年６月５日～平成25年１月28日

委託内容　発掘調査業務・測量業務・土工業務一式

担 当 者　主任技術者　浦壁　晃

調　査　員　中村祐一，鳥越道臣，関美男，辻本彩，土岐耕司，池内啓，長尾聡子

検　　査　中間検査　平成24年10月22日

完成検査　平成25年２月14日

調査の詳細

平成24年７月

環境整備。新規入場者講習。Ａ～Ｅ－10～12区：Ⅸ～ⅩⅡ層掘り下げ，土層断面実測，写真撮影，ⅩⅢ層上面全景写真撮影。連穴土坑14 ～ 17号検出。落とし穴９号検出。Ｂ－22～28区，Ｃ・Ｄ－22～24区，Ｄ－31～34区，Ｅ－30～34区，Ｆ－30～32区，Ｇ－29～31区：先行トレンチ掘り下げ。Ｂ～Ｇ－22～24区，Ｃ・Ｄ－25～29区，Ｅ・Ｆ－29～31区，Ｇ－29・30区：Ⅱ～Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。硬化面１～５検出，写真撮影。集石48～50号写真撮影，実測。Ｂ・Ｄ－26・27区：畝検出，写真撮影。

平成24年８月

Ｂ～Ｄ－22～29区，Ｅ－25・26区，Ｅ・Ｆ－33・34区：先行トレンチ掘り下げ。Ｂ～Ｄ－22～26区，Ｂ－28・29区，Ｃ・Ｄ－27・28・30・31・33・34区，Ｄ－29区，Ｅ～Ｇ－20～24区，Ｅ－25・26・29 ～ 32区，Ｆ－29～32区，Ｇ－29～31区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ～Ｄ－22～24区，Ｅ－29～31区，Ｆ・Ｇ－20～22区，Ｆ－29・30区，Ｇ－29区：Ⅳ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ～Ｄ－22～24区：Ⅴ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。硬化面１～６・畝状遺構１～３写真撮影。硬化面６・７・竪穴建物跡・帯状硬化面検出。Ｄ－24区：ピット群，土坑１基検出。礫集積１検出，実測。Ⅵ層上面地形測量図作成。

県総務福利課視察（８日），鹿屋市文化財ウォッチング・小学生30名（９日）発掘体験，社会教育主事講習受講者・熊本大学11名（10日）

平成24年９月

Ｄ－25・27・28・30～32区，Ｅ～Ｇ－24～28区，Ｅ－29・33・34区，Ｆ・Ｇ－33・34区：先行トレンチ掘り下

げ。B～D－25～29区，D－30～34区，E～G－21～28区，E－31～34区，F－29～34区，G－30～34区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。B～D－25～27区，C－30区，D－28区，E～G－21～26区，E－31～33区，F－29～34区，G－31～34区：Ⅳ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。竪穴住居跡（弥生）８～24号検出・硬化面１～９写真撮影，実測。土層断面実測。F－29区：Ⅳb層上面，円形周溝状遺構２～４検出，写真撮影。土坑・礫集積２号検出，写真撮影。

平成24年10月

空中写真撮影。B～D－20～24区，B－25～27区，C・D－35～38区，D－29～33区，E－22～24・29～33区，E～G－34・35区，F－22・23区，G－23区：先行トレンチ掘り下げ。C・D－35～37区，E～G－34・35区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。D－25区E・F－27・28区：Ⅳ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。E－28区，E・F－29～31区：Ⅴ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。E・F－29～31区：Ⅵ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。B～G－20～24区：Ⅸ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。B～D－22～24区：Ⅹ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。竪穴住居跡（弥生）25・26号・掘立柱建物跡18～28・方形周溝状遺構１・円形周溝状遺構５～７・土坑・硬化面10・11検出，写真撮影，実測。集石検出。中薗聡鹿児島国際大学教授現地指導（18日），大隅教育事務所現地研修18名（26日）

平成24年11月

現地説明会開催（10日，290名）。B・C－24区，D－24～26・36・37区：先行トレンチ掘り下げ。C・D－35・36区，D－37・38区，E－33～36区，F－34・35区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。D－36区，E－33～35区，F－34・35区：Ⅳ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。B～G－20～24区：Ⅹ層・ⅩⅠ層掘り下げ出土遺物取り上げ。集石51～76検出，写真撮影。竪穴住居跡（弥生）27～30号・掘立柱建物跡29～39・円形周溝状遺構８～10・土坑・ピット検出，写真撮影，実測。硬化面12検出，写真撮影。

現地報道対応・鹿児島テレビ放送・南日本新聞社・朝日新聞社，現地説明会・見学者290名（10日）

平成24年12月

E－24区，F－21区：下層確認トレンチ掘り下げ。C・D－27区：Ⅳ～Ⅵ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。B～G－20～24区：ⅩⅠ層・ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。掘立柱建物跡40～42・ピット・竪穴住居跡（縄文）５～10号・連穴土坑18～21・土坑・柱穴列８～10検出，写真撮影，実測。

平成25年１月

E－24区，F－21区：下層確認トレンチ掘り下げ。E～G－23・24区：ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。竪穴住居跡（縄文）９・10号養生。機材撤去。環境整備。

（4）平成25年度

平成25年度の本調査を平成25年６月３日から平成26年１月28日（実働124日間）まで実施した。調査体制及び調査の詳細については以下のとおりである。

調 査 体 制（平成25年度）

事 業 主 体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所	
調 査 主 体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
調 査 統 括	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター	
	センター長	冨田　逸郎
調 査 企 画	総 務 課 長	山方　直幸
	調 査 課 長	鶴田　静彦
	調査第一係長	八木澤一郎
調 査 担 当	文化財専門員	上床　真
	文化財専門員	徳永　愛雄
事 務 担 当	主　　査	岡村　信吾
	事業推進員	川崎　麻衣

発掘調査業務委託

本調査の実施にあたり，埋文調査センターは国際文化財株式会社へ発掘調査支援業務委託を行った。委託の内容は以下のとおりである。

委 託 先	国際文化財株式会社
調査期間	平成25年６月３日～平成26年１月28日
委託内容	発掘調査支援業務・測量業務・土工業務一式
担 当 者	主任技術者　浦壁　晃
	主任調査支援員　中村祐一
	調査支援員　池内啓，鳥越道臣， 網久森彬，加世田悠仁， 渡部裕司，長尾聡子， 荒木謙志
検　　査	中間検査　平成25年10月８日
	完成検査　平成26年２月18日，19日

調査の詳細

平成25年６月

環境整備。新規入場者講習。A－22～24区，B－23区，C－19～24区，D－19・21・29区，D～F－30区：先行トレンチ掘り下げ。A－22～24区，B－21～23区，C－20～22区，D－20・21区，E－19・20区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。D～F－25～29区：Ⅸ層・Ⅹ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。集石78～82検出，写真撮影，実測。石器製作跡１・２検出，写真撮影。平成24年度出土遺物洗浄，注記。

細山田中学校１年生見学37名（6日），文化財課中村文化

財主事監理業務（11日），埋文センター堂込課長監理業務（26日）

平成25年７月

Ｃ－18～23区，Ｄ－19～21区：先行トレンチ掘り下げ。Ａ－23・24区，Ｂ－22・23区，Ｃ－19～22区，Ｄ－19～21区，Ｅ－19・20区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ａ・Ｂ20～24区：Ⅸ層・Ⅹ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｄ～Ｆ－25～29区：Ⅸ層～ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。竪穴住居跡（弥生）31号・土坑・円形周溝状遺構11・ピット検出，写真撮影，実測。集石83～89検出，写真撮影。平成24年度出土遺物洗浄，注記。平成24年度土壌サンプルウォータフローテーション。平成25年度出土遺物洗浄。

文化財課中村文化財主事監理業務（９日）

平成25年８月

Ａ－20～24区，Ｂ－19～24区，Ｃ－18～23区，Ｄ－30～33区：先行トレンチ掘り下げ。Ａ－20～23区，Ｂ－19～26区，Ｃ－18～22・25・26区，Ｄ－18～21・25～29区，Ｅ－18～20・25・27～29区，Ｆ－25，27～29区：Ⅸ層・Ⅹ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ－20～22区，Ｃ－18～22・25・26区，Ｄ－25・26区：ⅩⅠ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ａ－20～24区，Ｂ－20～24区，Ｃ－20～23区：ⅩⅡ層掘り下げ。集石90～127・竪穴住居跡（縄文）11号検出，写真撮影，実測。平成24年度土壌サンプルウォータフローテーション。平成25年度出土遺物洗浄，集石礫の重量計測。

鹿屋市文化財ウォッチング発掘体験（６日），宮田小学校親子会23名発掘体験，埋文センター堂込課長監理業務（７日）

平成25年９月

Ｄ－20・34～37区，Ｅ－20区，Ｆ－30～35区：先行トレンチ掘り下げ。Ｄ－18～21区，Ｅ－17～20・30～36区，Ｆ－30～36区：Ⅸ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ・Ｃ－25・26区，Ｄ－18～21・25・26区，Ｅ－17～20区，Ｅ・Ｆ－30～36区：Ⅹ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ・Ｃ－25・26区，Ｄ－18～21・25・26区，Ｅ－17～20区，Ｅ・Ｆ－30～36区：ⅩⅠ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｃ・Ｄ－25・26区，Ｄ－17～21区，Ｆ－17～20区：ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。連穴土坑22・23・集石128～140・土坑検出，写真撮影，実測。平成25年度出土遺物，洗浄，注記。

平成25年10月

空中写真撮影。Ｂ－21・27・28区，Ｃ－29区，Ｄ－19・29区，Ｅ－28・31・33～36・43区，Ｆ－31・34・44区：先行トレンチ掘り下げ。Ｄ－38～41区，Ｅ－38～45区，Ｆ－40～45区，Ｇ－45区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｄ－41区，Ｅ－41～43区，Ｆ－40～43・45区，Ｇ－45区：Ⅳ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｄ－41区，Ｅ－41～43区，Ｆ－42・43・45区，Ｇ－45区：Ⅴ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ－26～28区，Ｃ・Ｄ－27～29区：Ⅸ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ－26～28区，Ｃ・Ｄ－27～29区，Ｅ・Ｆ－30～36区：Ⅹ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｅ・Ｆ－30～36区：ⅩⅠ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｅ－30～32・35～37区，Ｆ－30～36区：ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。調査区１：埋め戻し。竪穴住居跡（縄文）12号・集石141～147・土器集中１・土坑・ピット検出，写真撮影，実測。平成25年度出土遺物洗浄，注記。

平成25年11月

Ｃ－28・29区，Ｅ－32区，Ｄ－35・36区，Ｆ－43区：先行トレンチ掘り下げ。Ｅ－44区，Ｆ－44区：Ⅶ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ－26～28区，Ｃ－27～36区，Ｄ－27～36・39～41区，Ｅ－39～46区，Ｆ－42～48区，Ｇ－44～48区：Ⅸ層・Ⅹ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ－26～28区，Ｃ－27～29区，Ｄ－27～29・38～41区，Ｅ－38～46区，Ｆ－40～48区，Ｇ－44～48区：ⅩⅠ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ－26～28区，Ｃ－27～29区，Ｄ－27～29区，Ｆ－44～49区，Ｇ－45～49区：ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。竪穴住居跡（縄文）13号・集石148～161・土坑検出，写真撮影，実測。平成25年度出土遺物洗浄，注記。図面・台帳整理。

埋文センター堂込課長監理業務（26日）

平成25年12月

先行トレンチ５・６掘り下げ。Ｅ～Ｇ－43・44区：Ⅲ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｆ・Ｇ－43・44区：Ⅳ層・Ⅴ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｃ・Ｄ－30～36区：Ⅹ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ－26～28区，Ｃ－30～36区，Ｄ－26～28，30～36区：ⅩⅠ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｂ－26～28区，Ｄ－26～28・38～41区，Ｅ－38～46区，Ｆ－41～49区，Ｇ－45～49区：ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。竪穴住居跡（縄文）14・15号・連穴土坑24・集石162～165・土坑検出，写真撮影，実測。平成25年度出土遺物洗浄，注記。

埋文センター堂込課長監理業務（17日）

平成26年1月

空中写真撮影。Ｄ－29・35区：先行トレンチ掘り下げ。Ｆ・Ｇ－43・44区：Ⅸ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｆ・Ｇ－43・44区：Ⅹ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。Ｃ・Ｄ－30～36区，Ｆ・Ｇ－43・44区：ⅩⅠ層・ⅩⅡ層掘り下げ及び出土遺物取り上げ。竪穴住居跡（縄文）16号・連穴土坑25・集石166・土坑検出，写真撮影，実測。平成25年度出土遺物洗浄，注記，収納。機材撤去。環境整備。

第3節　整理・報告書作成

本報告書刊行に伴う整理・報告書作成作業は，平成23年度から発掘作業と併行して実施した。

平成23年度から平成24年度までは鹿児島県立埋蔵文化財センターの整理作業室及び東九州整理作業所で，平成25年度から平成27年度までは公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター第一整理作業所で実施した。整理作業は年次的に計画的に行い，その進行により報告書作成を平成25年度から本格的に開始し，平成27年度に報告書刊行に至った。

平成25年度から，監理を兼ねて報告書作成指導委員会を県立埋蔵文化財センターと埋蔵文化財調査センターと共同で実施，また，文化財課の監理も受けた。

作業内容は，以下のとおりである。

1　整理作業

(1) 遺　構

実測図と図面台帳との照合，遺構別・時代別に実測図の仕分け等

(2) 遺　物

ア　土器・石器共通

水洗い，遺構内出土遺物と包含層出土遺物との仕分け，遺物と遺物台帳や遺構実測図等との照合

イ　土　器

注記，分類，実測する土器の選別

ウ　石　器

石器と一般礫の仕分け，分類，実測する石器の選別

2　報告書作成作業

(1) 遺構図のペントレースやデジタルトレース，遺構配置図の作成，報告書掲載用写真選別

(2) 土器の実測，拓本，トレース，レイアウト，観察表作成，原稿執筆，報告書掲載用写真撮影

(3) 石器の実測及び実測委託，トレース，レイアウト，観察表作成，原稿執筆，報告書掲載用写真撮影

(4) 土器・石器以外の遺物の実測，トレース，レイアウト，観察表作成，原稿執筆，報告書掲載用写真撮影

整理・報告書作成作業に関する調査体制は以下のとおりである。

作成体制（平成23年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所	
作成主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
作成統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所　長	寺田　仁志
作成企画	〃　次　長　兼総務課長	田中　明成
	〃　次長兼南の縄文調査室長	井ノ上秀文
	〃　調査第二課長	冨田　逸郎
	〃　文化財主事兼調査第二課第一調査係長	八木澤一郎
作成担当	〃　第一調査係長	八木澤一郎
	〃　文化財主事	松下　建生
事務担当	〃　総務係長	大園　祥子
	〃　主　査	高﨑　智博

作成体制（平成24年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所	
作成主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
作成統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所　長	寺田　仁志
作成企画	〃　次　長　兼総務課長	田中　明成
	〃　次長兼南の縄文調査室長	井ノ上秀文
	〃　調査第二課長	冨田　逸郎
	〃　文化財主事兼調査第二課第一調査係長	八木澤一郎
作成担当	〃　第一調査係長	八木澤一郎
	〃　文化財調査員	原　栄子
事務担当	〃　総務係長	大園　祥子
	〃　主　査	岡村　信吾

作成体制（平成25年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所	
作成主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
作成統括	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター	
	センター長	冨田　逸郎
作成企画	〃　総務課長兼総務係長	山方　直幸
	〃　調査課長	鵜田　静彦
	〃　調査第一係長	八木澤一郎
作成担当	〃　調査第一係長	八木澤一郎
	〃　文化財専門員	園師　洋之
	〃　文化財調査員	中村　有希
事務担当	〃　総務課長兼総務係長	山方　直幸
	〃　主　査	岡村　信吾

作成体制（平成26年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所	
作成主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
作成統括	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター	
	センター長	堂込　秀人
作成企画	〃　総務課長兼総務係長	山方　直幸
	〃　調査課長	八木澤一郎
	〃　調査第二係長	寺原　徹
作成担当	〃　調査第二係長	寺原　徹
	〃　文化財専門員	繁昌　正幸
事務担当	〃　総務課長兼総務係長	山方　直幸
	〃　主査	岡村　信吾

作成体制（平成27年度）

事業主体	国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所	
作成主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
作成統括	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター	
	センター長	堂込　秀人
作成企画	〃　総務課長兼総務係長	有村　貢
	〃　調査課長	八木澤一郎
	〃　調査第一係長	中村　和美
作成担当	〃　調査第二係長	寺原　徹
	〃　文化財専門員	平　美典
	〃　〃	繁昌　正幸
事務担当	〃　総務課長兼総務係長	有村　貢
	〃　主査	荒瀬　勝己

整理・報告書作成の概要を，主に日誌抄により以下に記載する。

平成23年度

平成23年４月	水洗い，注記
５月	接合
６月	接合
７月	接合
８月	接合
９月	水洗い，注記，接合
10月	接合
11月	水洗い，注記，接合
12月	水洗い，注記，接合
平成24年１月	水洗い，注記，接合
２月	水洗い，注記，接合
３月	水洗い，注記，接合

平成24年度

平成24年４月	土器洗い，石の選別，廃棄礫パソコン入力，土器注記，石器水洗い
５月	土器注記，石器分類，廃棄礫パソコン入力，コンター図グリッド記入，図面点検，土層断面鉛筆トレース，硬化面位置図作成，石器注記，写真パソコン整理，土器分類，土器接合
６月	土器接合
７月	土器接合，注記，軽石の土落とし
８月	土器接合，石器注記
９月	土器洗い，土層断面図鉛筆トレース，土器仮実測
10月	土器仮実測，復元
11月	土器復元，仮実測，土器本実測
12月	土器復元，実測（６号住居跡，７号住居跡）
平成25年１月	１・６・７号住居跡土器実測，２号住居跡土器接合・実測，仮レイアウト
２月	２号住居跡土器実測，注記（ジェットマーカーによる），７号住居跡実測・トレース，土器分類，２号住居跡トレース，集石トレース，１・２・３・６・７号住居跡仮トレース修正
３月	住居・土坑・集石仮トレース，縄文土器接合

平成25年度

平成25年４月	遺構図面整理
５月	遺構図面整理，石器分類，遺構埋土フローテーション
６月	遺構図面整理，遺構内出土礫石器実測，縄文早期遺構図トレース，フローテーション
７月	土器水洗い，遺構内出土礫石器実測・トレース，弥生中期遺構図トレース，石器実測委託準備，自然科学分析委託準備
８月	土器水洗い，弥生中期遺構図トレース，石器実測委託準備
９月	土器水洗い，弥生中期遺構図トレース
10月	土器水洗い，弥生中期遺構図トレース，科学分析委託準備，土器分類・注記
11月	石器実測委託の実測図チェック，科学分析委託起案，注記，原稿執筆
12月	石器実測委託の実測図チェック，科学分析委託起案，注記，原稿執筆
平成26年１月	注記，分類，接合，遺構トレース，土器

復元・写真撮影

2月　注記，分類，接合，遺構トレース・修正，遺構計測表の作成

3月　接合，トレース整理，パンケース整理，後片付け

平成26年度

平成26年4月　遺物・図面等点検・確認，遺物・用具等準備，注記・接合，礫選別，遺構図確認・点検，実測委託用石器選別

5月　遺構図面点検，遺構出土遺物確認，土器接合，実測委託用石器選別，遺構全体図鉛筆トレース，実測遺物1次選別

6月　実測遺物接合・復元，実測遺物1次選別，7号住居跡遺物出土状況図トレース，完形土器断面実測，古代遺構全体図トレース，遺構内遺物実測，溝状遺構下図作成

7月　遺構内遺物実測，実測用遺物接合・復元，7号住居跡遺物出土状況図トレース，地形図作成，石器実測準備，遺構内石器実測，土層断面図トレース，5号住居跡平・断面図鉛筆トレース

8月　遺構内土器・石器実測，土層断面図トレース，土器実測図チェック，特殊遺物実測，デジトレ準備

9月　遺構内土器実測，実測用遺物接合・復元，遺跡位置図・調査範囲図下図作成

10月　遺構内土器実測，実測用遺物接合・復元，調査範囲図等トレース，縄文後・晩期土器確認，実測用石器注記，遺構内石器実測

11月　大型土器実測，実測用土器復元，石器実測，土層断面図等トレース，デジタル班との打ち合わせ，実測図点検

12月　特殊土器実測，実測用土器復元，実測図点検

平成27年1月　実測用土器復元，特殊土器実測，包含層出土土器実測

2月　完形土器復元，特殊土器及び包含層出土の土器実測，遺構数値計測，拓本，実測図点検，図面調査

3月　完形土器復元，特殊土器及び包含層出土の土器実測，石器実測，コンター図等トレース，実測図点検，図面・資料整理，周辺整理

平成27年度

平成27年4月　遺物及び図面の確認，整理，原稿及び仮レイアウト図のコピー，種本作成，遺物実測，トレース

5月　遺物仮レイアウト，コピー，遺物実測，トレース，実測図点検・修正，遺構確認，トレース図点検

6月　遺構下図作成，遺物トレース，レイアウト，遺物観察表作成，遺構トレース，レイアウト，遺物・遺構図（デジタル）修正，文章執筆，実測図修正

7月　遺物・遺構，トレース，レイアウト，文章執筆，遺物実測，拓本，遺物計測，観察表作成，遺構計測，計測表作成

8月　遺物・遺構レイアウト，遺物観察表作成，入力，文章執筆

9月　遺物・遺構レイアウト，遺物観察表作成，入力，文章執筆，レイアウト確認，文章確認

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

鹿屋市串良町は，大隅半島東南部のほぼ中央に位置し，東は東串良町，南は肝属川を隔てて肝付町，西は鹿屋市東原町，旭原町，笠之原町，北東は立小野台地を隔てて曽於郡大崎町と接している。平成18年１月１日に旧鹿屋市と合併するまでは旧鹿屋市と広大な笠野原台地を二分していた。

串良町の地形は，東西に6.5km，南北に13kmの狭長で北部の山地中央部の台地，南部の低地に大別されるが，大部分において山地は少なく，笠野原台地と呼ばれる平坦なシラス台地から成っている。台地は「クロボク」と呼ばれる黒色火山灰土壌に覆われており，広大な畑地帯が形成されている。南部及び東部は肝属川とその支流の串良川が流れ，それによる沖積地が広がり，約695haの水田地帯を形成している。また，北部には低い丘陵性の山地が存在するが，町域に占める割合は少ない。

田原迫ノ上遺跡は，この串良町の北東部に位置し，笠野原台地の緑辺部に位置する。遺跡の東側を串良川が蛇行しながら南流する。

第２節　歴史的環境（周辺の遺跡を中心に）

串良町の歴史を知る上で１つの手がかりとなる遺跡は，分布調査・詳細分布調査・確認調査により数多くの遺跡が周知のものとなり，そのエリアも確定しつつある。また，串良町における遺跡の大半は，笠野原台地の緑辺部に集中して立地していることが明らかになった。

なお，串良町内では旧石器時代該当の遺跡は未だ確認されていないが，串良町の所在する鹿屋市では少数だけれども確認されている。以下，本遺跡周辺の主要な遺跡について時代別に紹介する。

１　旧石器時代

肝属川を挟んで向かい側や鹿児島湾に近い所で確認されているのみである。鹿屋バイパス建設に伴って調査が行われた西丸尾遺跡では，ナイフ形石器文化期該当のブロック，礫群等の遺構やナイフ形石器，剥片尖頭器，三稜尖頭器等の遺物が，細石刃文化期該当のブロック，礫群等の遺構や細石刃核・局部磨製石斧等の遺物が確認されている。

２　縄文時代

本遺跡より約３km東に所在する益畑遺跡では，早期の竪穴住居跡２軒と連穴土坑，集石遺構，土坑等が確認されている。また，益畑遺跡の南西約900mの孤立丘に位置するホンドンガマ遺跡では，昭和52年に県文化財課が調査を行った結果，後期の市来式土器に比定できる土器，石匙，打製石斧等の遺物が確認されている。

３　弥生時代

弥生時代の遺跡は，町内遺跡の約７割近くを占めている。中でも本遺跡に近い十三塚遺跡では，張り出しのある竪穴住居跡が８軒確認され，住居内からは，壺形土器・甕形土器・棒状叩具・磨製石鏃・鉄鏃等の遺物が確認されている。特に，「棒状叩具」は，鹿屋市王子町の王子遺跡で県内で初めて確認された「樹皮布敲石」と非常に類似した石器で，確認された遺構や他の遺物とともに，当時の人々の生活を探るうえで貴重な資料といえる。

４　古墳時代

本遺跡の隣に所在する立小野掘遺跡では，約190基の地下式横穴墓と鉄剣や鉄鏃等数多くの副葬品が確認されている。この地下式横穴墓が確認されている遺跡は，本遺跡の約７km南西の地点に所在する鹿屋市祓川の薬師堂古墳や祓川地下式横穴墓群，約８km南東の地点に所在する同じ串良町の岡崎古墳群，約８km東の地点に所在する曽於郡大崎町の下堀遺跡，約10～15km南の地点に所在する鹿屋市吾平町の中尾遺跡や名主原遺跡等がある。これらの遺跡は肝属川・串良川・持留川・姶良川・大姶良川流域に存在しており，大隅半島における地下式横穴墓の分布状況が明らかになりつつある。また，地下式横穴墓内から出土した遺物に関しては，岡崎古墳群の岡崎18号墳で確認された３個体の初期須恵器，鉄鏃，U字型鍬先，中尾遺跡で確認された象嵌が施された鉄剣・鉄刀等は当時の人々の生活を解明していくうえで貴重な資料である。

５　古代・中世以降

串良町内における中世以降の遺跡は，県教育委員会発行の「鹿児島県中世城跡」では14か所が報告されている。しかしながら，詳細な調査はほとんどなされていない。

岡崎古墳群と肯木川を挟んだ西側の丘陵上に位置する稲村城跡は，平成４年～５年に串良町教育委員会が主体となって調査を実施し，16基の近世墓のほか，土師器，青白磁，染付，備前焼，東播焼等が確認されている。

参考文献

鹿児島県教育委員会　1997「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報」鹿児島県埋蔵文化財発掘報告書（6）

鹿児島県教育委員会　1992「西丸尾遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（64）

鹿屋市教育委員会　2008「名主原遺跡」鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書（84）

吾平町教育委員会　2005「中尾遺跡Ⅳ」吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書（19）

串良町教育委員会　1990「岡崎古墳群」串良町埋蔵文化財発掘調査報告書（3）

串良町教育委員会　2005「益畑遺跡」串良町埋蔵文化財発掘調査報告書（11）

第２図　周辺遺跡　（S＝1/25,000）

第１表　周辺遺跡

番号	遺跡台帳番号		遺　跡　名	所　在　地	種類	現状	時　代	地形	遺　物　等	備　考
1	203	３８３	牧　原	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	弥生，古墳 古代	台地		
2	203	３８０	石　綾	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	弥生，古墳	台地	竪穴住居跡	H20～本調査
3	203	３７９	十三塚	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	弥生，古墳	台地		H20～本調査
4	203	３８４	立小野堀	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	弥生，古墳， 古代	台地	地下式横穴墓	H22本調査
5	203	３８５	田原追ノ上	鹿屋市串良町細山田	散布地 集落跡	畑地	縄文，弥生	台地	竪穴住居跡，掘立 柱建物跡，周溝	H22～本調査 本報告書
6	203	２９５	牧　山	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	縄文，弥生， 古墳	台地	轟式，塞設土器 三角塘形石製品	H25～本調査
7	203	３３５	細山田城跡	鹿屋市串良町細山田生栗須	城館跡	山林	中世	丘陵		
8	203	３４６	入部堀	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	弥生，古代	台地		
9	203	３２９	北原城跡	鹿屋市串良町細山田生栗須	城館跡	山林	中世	台地		
10	203	３００	町田堀	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	弥生，古代	台地	住居跡，製鉄工房跡， 掘立柱建物跡	H26～本調査
11	203	３５２	北原古墳群	鹿屋市串良町細山田北原	古墳	畑地	古墳	台地		H27～本調査
12	203	３４９	川久保	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	弥生，古代	台地		
13	203	３５０	小　牧	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	弥生，古代	台地		
14	203	３３４	霧島城跡	鹿屋市串良町細山田下中	城館跡	山林	中世	台地		
15	203	２９２	ホンドンガマ	鹿屋市串良町細山田	洞窟	山林	縄文	台地		
16	203	３４７	新　堀	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	縄文	台地		
17	203	３４８	是ヶ迫	鹿屋市串良町細山田	散布地	畑地	縄文，弥生	台地		
18	203	３５４	瓜々良毎	鹿屋市串良町有里	散布地	畑地	弥生，古代	台地	土器，落とし穴	H12本調査
19	203	３５５	永田堀	鹿屋市串良町有里	散布地	畑地	弥生，古墳	台地		
20	203	３５６	炉　場	鹿屋市串良町有里	散布地	畑地	弥生	台地		
21	203	３５７	熊ヶ鼻	鹿屋市串良町有里	散布地	畑地	縄文，弥生	台地	石鏃	

第３節　大崎IC ～鹿屋串良JCT間の遺跡

東九州自動車道の志布志IC ～鹿屋串良JCTのうち，大崎IC ～鹿屋串良JCT間には，第２表に示すとおり11の遺跡が存在する。石綴遺跡，十三塚遺跡の報告書は刊行されており，その他の遺跡の報告書は今後刊行される予定である。各遺跡の概要を記載するので，詳細は報告書を参照していただきたい。

第２表　大崎IC ～鹿屋串良JCT間の遺跡

	遺跡名	本調査	報告書刊行
1	荒園遺跡	調査中	未刊行
2	永吉天神段遺跡	調査中	H27年度一部刊行
3	京の塚遺跡	終了	未刊行
4	小牧遺跡	調査中	未刊行
5	川久保遺跡	調査中	未刊行
6	町田堀遺跡	調査中	H27年度一部刊行
7	牧山遺跡	調査中	未刊行
8	田原迫ノ上遺跡	調査中	本報告書 続編有り
9	立小野堀遺跡	調査中	未刊行
10	十三塚遺跡	終了	H22年度刊行
11	石綴遺跡	終了	H22年度刊行

１　荒園遺跡

曽於郡大崎町仮宿字荒園に所在し，大隅半島北部を東流する持留川左岸に隣接する仮宿台地の西側縁辺部に立地する。調査の結果，縄文時代早期の集石や古墳時代・弥生時代の竪穴住居跡・古代以前の大溝等が検出された。鬼界カルデラの噴火時（約7,300年前）に発生した地震によると考えられる液状化現象の跡が確認され，噴砂が厚いところでは１m程度堆積していた。

２　永吉天神段遺跡

曽於郡大崎町永吉字天神段に所在し，持留川とその支流に挟まれた標高約35mの河岸段丘と標高約50mの台地縁辺に立地する。旧石器時代から中世にかけての複合遺跡である。台地の麓には，三所大権現や档ヶ山古墳群があり，付近の民家からは大量の銅銭が採取されていることから，中近世において歴史的に重要な地域であることがうかがえる。標高35mの河岸段丘の調査では，平安時代（９世紀）の掘立柱建物跡等が検出された。また，鬼界カルデラの噴火時の液状化現象（噴砂跡）が確認された。標高50mのシラス台地では，弥生時代中期の竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑墓・周溝状遺構・溝状遺構が検出された。大隅半島で，この時期の集落跡の全容が検出された遺跡は類例が少なく，当時の集落形成の在り方を解明する上で貴重な資料となる。

３　京の塚遺跡

曽於郡大崎町西持留字茶木から一部は鹿屋市串良町細山田にかけて所在し，標高約90mの台地上に立地する。縄文時代前期から晩期にかけての遺跡で，特に中期の土坑群が多数検出され，深浦式，大歳山式，鷹島式，船元式等の土器が出土した。

４　小牧遺跡

鹿屋市串良町細山田字小牧に所在し，串良川により開析された標高約70mの台地上に立地する。縄文時代早期から古墳時代にかけての複合遺跡である。平成26年度と27年度に確認調査が行われ，平成27年度に本調査が実施されている。

５　川久保遺跡

鹿屋市串良町細山田字川久保に所在し，串良川により開析された標高約30mの台地縁辺に立地する。縄文時代前期から中世にかけての複合遺跡である。古墳時代の鍛冶遺構を含む集落跡と，楕葉型の瓦器椀が出土した中世の集落跡が検出されている。

６　町田堀遺跡

鹿屋市串良町細山田字町田堀に所在し，標高約90mの台地縁辺に立地する。縄文時代早期から古墳時代にかけての複合遺跡である。縄文時代後期の模原文様が施された石刀が出土したほか，古墳時代の地下式横穴墓が多数検出されている。

７　牧山遺跡

鹿屋市串良町細山田字牧山に所在し，標高約110mの台地縁辺に立地する。旧石器時代から中世にかけての複合遺跡である。縄文時代前期の轟式の埋設土器が出土している。

８　田原迫ノ上遺跡

鹿屋市串良町細山田字田原迫ノ上に所在し，標高約120mの台地縁辺に立地する。縄文時代早期から中世にかけての複合遺跡である。縄文時代早期の竪穴住居跡，連穴土坑，集石等が検出されている。その他の時期については，本報告書で報告する。

９　立小野堀遺跡

鹿屋市串良町細山田字立小野堀に所在し，標高約125mの台地縁辺に立地する。縄文時代前期から古墳時代にかけての複合遺跡である。古墳時代の地下式横穴墓が多数検出されている。

10　十三塚遺跡

鹿屋市串良町細山田字十三塚に所在し，標高約140mの台地縁辺に立地する。縄文時代早期から弥生時代中期にかけての複合遺跡である。弥生時代中期の竪穴住居跡や花弁型住居跡が検出され，樹皮布敲石が出土している。

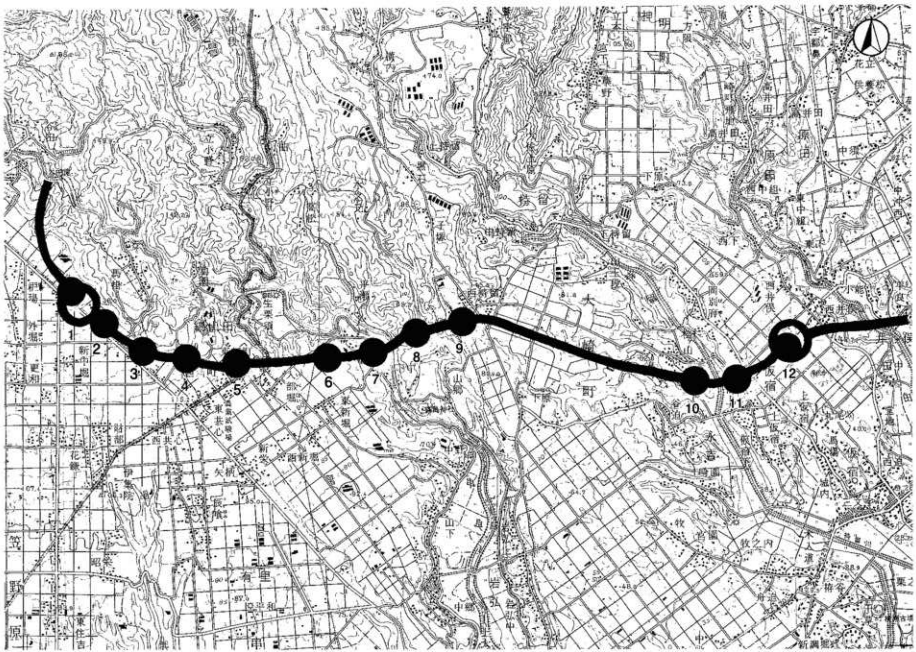
11　石綴遺跡

鹿屋市串良町細山田字石綴に所在し，標高約140mの台地縁辺に立地する。縄文時代早期と弥生時代中期の遺跡である。縄文時代早期の集石が検出され，岩木式土器等が出土した。

第３表　大崎ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡の概要

番	遺跡名	所在地	遺　跡　の　概　要	
1	荒園 H24 ～	曽於郡大崎町 標高 30mの河岸段丘と標高 50mの台地縁辺	旧石器 縄文早期 弥生中期 古墳 古代以前	畝原型細石核・細石刃・水晶剥片 前平式・下剥峯式・苦浜式・平栫式・塞ノ神式・集石遺構・チップ集中区 吉ヶ崎式・山ノ口式・竪穴住居跡 笹貫式・竪穴住居跡（焼失家屋１軒含む）・埋土中に紫コラ（開聞岳起源AC874年）を含む片薬研堀の溝
2	永吉天神段 H24 ～	曽於郡大崎町 標高 30mの河岸段丘と標高 50mの台地縁辺	旧石器 縄文早期 縄文晩期 弥生中期 古墳 古代 中世	石器製作跡・礫群・尖頭器・ナイフ型石器 集石遺構・埋設土器 竪穴住居跡・落とし穴・土坑 入来式・山ノ口式・竪穴住居跡・円形周溝墓を中心とした土坑墓群・掘立柱建物跡・土坑・鉄鏃 成川式・竪穴住居跡・土坑・埋設土器 須恵器・土師器・掘立柱建物跡・土坑 青磁・白磁・東播系陶器・滑石製石鍋・銅鏡・掘立柱建物跡・土坑墓・大型土坑・火葬土坑
3	京の塚 H25 ～	曽於郡大崎町 標高 90m～100mの緩傾斜台地	縄文早期 縄文前期 縄文中期 縄文後期 縄文晩期	中原式・石坂式・下剥峯式・手向山式・押型文・平栫式・塞ノ神式・集石遺構 曽畑式 深浦式・近畿系の大歳山式・鷹島式・瀬戸内系の船元式・土坑群（約150基）・玦状耳飾り 辛川式・丸尾式・西平式・中岳Ⅱ式 入佐式・黒川式
4	小牧 H27 ～	鹿屋市串良町 標高 60mの台地	縄文早期 縄文前期 縄文後期 縄文晩期 弥生中期 古墳 古代以降	前平式・桑ノ丸式・下剥峯式・方形土坑 深浦式 指宿式・市来式系・凹線文系・石匙・磨石・軽石加工品・横刃型石器・石鏃 黒川式・刻目突帯文・組織痕土器 山ノ口式・礫石 東原式・軽石加工品・須恵器坏・砥石・磨製石鏃・布留式・鉄鏃・勾玉・竪穴住居跡・礫集積・土器溜・花弁型住居跡・土坑・ピット 土師甕・薩摩焼・溝状遺構・土坑・ピット
5	川久保 H26 ～	鹿屋市串良町 標高 30mの台地縁辺	旧石器 縄文早期 縄文前期 縄文後期 縄文晩期 弥生 古墳 古代 中世 近世以降	黒曜石・石英 石坂式・下剥峯式・押型文・集石 轟式・曽畑式・磨製石斧・石匙・打製石鏃・集石 凹線文土器 黒川式・刻目突帯文・組織痕土器・打製石斧・土坑 下城式・刻目突帯文・竪穴住居跡 笹貫式・竪穴住居跡・鍛冶工房跡・鞴羽口・高坏脚転用鉄滓・勾玉・管玉・鉄鏃 須恵器・土師器・土師甕・掘立柱建物跡 青磁・白磁・瓦器椀（楠葉型）・掘立柱建物跡 溝跡・古道跡・焼土土坑・土坑 薩摩焼

6	町田堀 H25 ～	鹿屋市串良町 標高 90mの台地 縁辺	縄文早期 縄文後期 縄文晩期 弥生前期 弥生中期 古墳	下剥峯式・平栫式・集石遺構 中岳Ⅱ式・竪穴住居跡・埋設土器・落とし穴・土坑・石斧集積遺構・石刀・翡翠製垂飾・小玉・勾玉 管玉 干河原式・刻目突帯文 高橋式 山ノ口式・竪穴住居跡・竪穴住居跡（中津野式）・地下式横穴墓（88基）・円形周溝墓・溝状遺構・鉄器
7	牧山 H25 ～	鹿屋市串良町 標高 110mの台地 縁辺	旧石器 縄文早期 縄文前期 縄文後期 縄文晩期 弥生中期 中世	剥片 吉田式・石坂式・集石遺構・石器製作跡 埋設土器（轟式） 西平式・市来式・丸尾式・中岳Ⅱ式・土坑 入佐式 山ノ口式 青磁
8	田原迫ノ上 H22 ～ 本報告	鹿屋市串良町 標高 120mの台地 縁辺	縄文早期 縄文後期 縄文晩期 弥生中期	前平式・吉田式・石坂式・塞ノ神式・竪穴住居跡・連穴土坑・集石遺構・落とし穴・石鏃製作跡 指宿式・市来式・落とし穴 黒川式 山ノ口式・竪穴住居跡・大型建物・掘立柱建物跡・円形周溝・方形周溝・土製勾玉・鉄器
9	立小野堀 H22 ～	鹿屋市串良町 標高 125mの台地 縁辺	縄文前期 縄文後期 縄文晩期 古墳	深浦式 市来式 黒川式 初期須恵器・地下式横穴墓（190基）・土坑墓・溝状遺構・鉄器・青銅製鈴
10	十三塚 H20 ～ H21	鹿屋市串良町 標高 140mの台地 縁辺	縄文早期 縄文後期 縄文晩期 弥生中期	石坂式 凹線文・市来式・三万田式 黒川式 山ノ口式・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・勾玉・鉄鏃
11	石縊 H20 ～ H21	鹿屋市串良町 標高 140mの台地 縁辺	縄文早期 弥生中期	岩本式・前平式・志風頭式・石坂式・平栫式・集石遺構 須玖式・山ノ口式



第３図　大崎IC～鹿屋串良JCT間の遺跡　（S＝1/25,000）

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

調査の方法については，「第１章　第２節　調査の経過」に詳しく記載してあるが，ここでは概略的な調査の手順と縄文時代前期以降についての調査について大まかに述べてみたい。

まず最初は，平成20年度に調査対象の遺跡の範囲で確認調査を行った。３ｍ×７ｍのトレンチを２か所，７ｍ×７ｍのトレンチを１か所設定して人力で掘り下げを行い，３つのトレンチで全ての撹乱層から弥生時代中期の山ノ口式土器が確認された。このことから，全面的に調査を行うこととなった。

全面調査は平成22年度から開始し，調査対象範囲の西側から行った。

調査に先立ってグリッドの設定を行った。グリッドは，高速道路建設予定地のセンター杭STA№181とSTA№182を基準にして，１グリッド10ｍ×10ｍの大きさで設定を行った。

グリッドは，センター杭STA№181とSTA№182を結ぶ直線を東西方向の基準線とし，センター杭STA№181と直交する直線を南北方向の基準線とした。

その上で，センター杭STA№181と直交する直線を軸として東に向けてグリッド毎に１，２，３・・・と番号を振り，センター杭STA№181から南に30ｍ行ったところが高速道路予定地の南端を含む地点であったことから，この地点を南北方向の基準として北側に向けてグリッド毎にＡ・Ｂ・Ｃ・・・とアルファベットを振っていき，Ａ－１区などと呼称することとした。

なお，１区より西側は，確認調査で遺構・遺物の検出・出土の可能性が極めて低いとされてきたが，調査が進む中でこの区域にも遺跡が広がることが判明したことから，区より西側にも番号を振る必要が出てきた。そのため，１区より西側は100，99，98・・・として，96区までを設定することとした。

調査の開始に当たって，Ａ～Ｆ－６～10区に確認トレンチを設定してⅥ層上面まで掘り下げを行った。Ⅲ層より遺物が出土するとともに，硬化面を検出した。さらに，下層確認のトレンチを２か所で設定して掘り下げを行った。Ⅶ層～ⅩⅢ層上面まで掘り下げ，遺物の取り上げを行う。また，ⅩⅢ層で落とし穴を検出した。さらに，Ⅸ層～ⅩⅠ層の調査により，竪穴住居跡を検出した。

竪穴住居跡の調査では埋土のウォーターフローテーションを行ったほか，一部の竪穴住居跡からの遺物の出土状況の実測委託を行った。

遺物の出土状況の平板実測や土層断面，各遺構の実測や写真撮影などは各年度で共通に行った。

最終的に，平成22年度には第５図にあるような区域の調査を行った。

平成23年度には，第５図にあるような区域の調査を行った。

Ⅲ層～Ⅴ層の調査では，遺物の取り上げとともに，Ⅲ層を中心に溝状遺構と竪穴住居跡，掘立柱建物跡などの遺構の検出と掘り下げを行った。

弥生時代中期の竪穴住居跡や掘立柱建物跡等を検出した時期のコンターとしては，最終的にその時期の遺構の検出面であるⅥ層上面の池田降下軽石層を検出した段階で行った。

これは，Ⅱ層～Ⅴ層が何れも色調として黒褐色土と茶褐色土が交互に堆積していたことから４つに分層したわけであるが，Ⅲ層及びⅣ層が弥生時代の遺物包含層であり，Ⅲ層が遺構の検出面ではあったものの，調査においては色調の区別が難しく，当初はなかなか遺構の上面での検出には困難を伴った。次第に微妙な色調の区別もできるようにはなったものの，Ⅴ層は茶褐色土に１～５㎜程度のオレンジパミスを含むが堆積が薄く，場所によっては堆積が見られない箇所もあって遺構の最終検出面とするのは困難であった。そのため，最終的に小さなピットの検出などが確実にできるのは，白い軽石が広がるⅥ層上面まで掘り下げてからであったためである。

Ⅸ層～ⅩⅡ層は縄文時代早期の遺物包含層であり，遺物の取り上げとともに竪穴住居跡や集石，落とし穴，土坑などの遺構の検出や写真撮影，実測などを行った。

平成24年度は第５図のような区域の調査を行った。

Ⅸ層～ⅩⅡ層の掘り下げにより，連穴土坑や落とし穴，土坑の検出を行うとともに，先行トレンチを設定して掘り下げを行った。Ⅱ層～Ⅲ層の掘り下げにより，硬化面や敲が検出された。Ⅲ層～Ⅴ層の調査により，敲状遺構，竪穴建物跡，帯状硬化面，ピット群，礫集積なども検出された。また，円形周溝状遺構や方形周溝状遺構も検出された。

また，現地説明会も実施した。

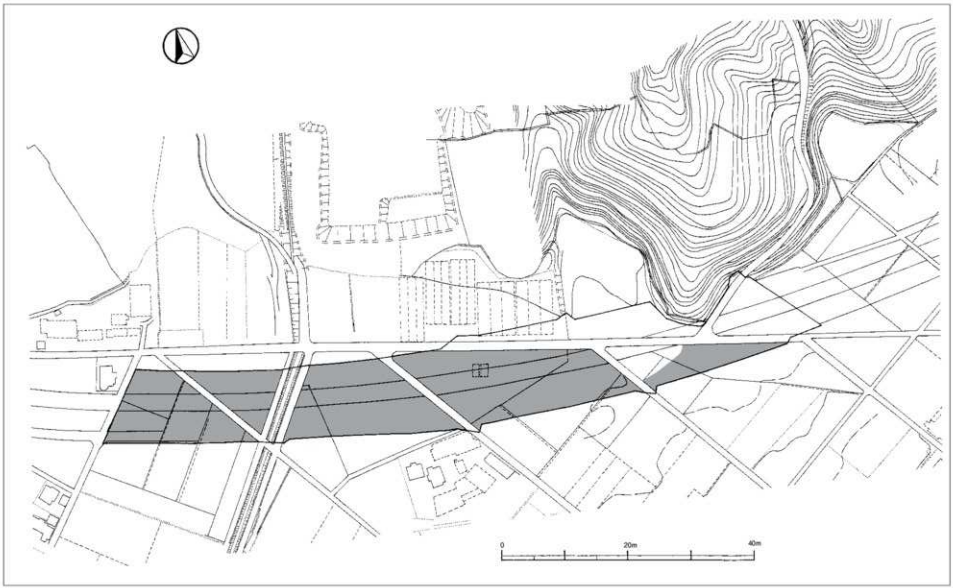
平成25年度は，第５図のような区域の調査を民間（国際文化財株式会社）に委託して行った。

Ⅲ層の掘り下げを行い，出土遺物の取り上げを行うとともに，竪穴住居跡，土坑，ピット，円形周溝状遺構などの検出を行った。Ⅸ層・Ⅹ層では集石や石器製作跡の検出，写真撮影等を行った。

また，竪穴住居跡の土壌サンプルのウォーターフローテーションを行った。

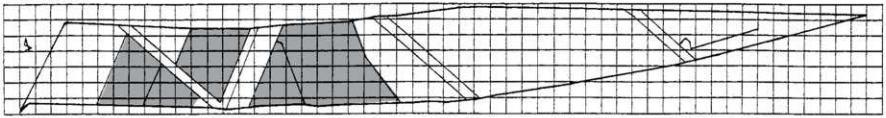
空中写真の撮影や鹿屋市の小学生発掘体験学習なども行った。

平成26年度にも調査を行った。調査区域は本報告書に記載されている範囲の残存部分と，それよりも東側の区域である。

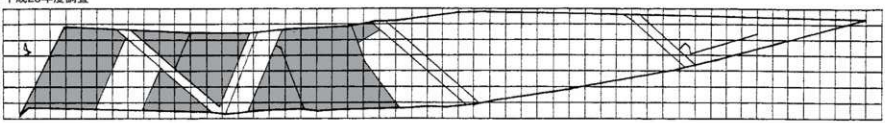


第４図　調査範囲図

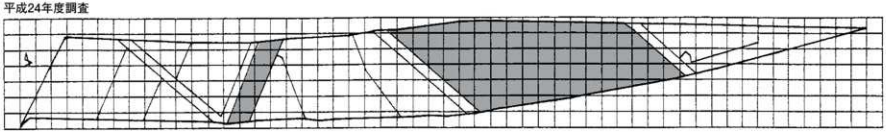
平成22年度調査



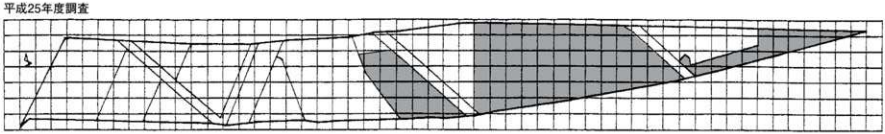
平成23年度調査



平成24年度調査



平成25年度調査



第５図　年度別調査範囲図

第２節　層　　序（第６図～第21図）

田原迫ノ上遺跡の基本的な層序は第６図に示したとおりである。ただし，場所によっては起伏や傾斜があったり，圃場整備による削平を受けていたため，基本層序と一致しない箇所もあった。

Ⅰ層は表土（旧耕作土）であり，耕作時にゴボウ耕作のためのトレンチャーによる撹乱を受けている跡が多く見られ，下部の層まで削平されているところもある。また，大正時代に降下した桜島火山灰と見られる白色パミスを含む。

Ⅱ層からⅤ層は縄文時代前期・後期，弥生時代前期・中期の遺物包含層である。色調が黒褐色土と茶褐色土が交互に堆積しているため，Ⅱ～Ⅴ層の４つに分層した。

Ⅱ層　暗黒褐色土

Ⅲ層　茶褐色土でやわらかい土であり，弥生時代前期～中期の遺物包含層である。また，弥生時代遺構の検出面である。

Ⅳ層　黒褐色土で，Ⅲ層と同様弥生時代の遺物包含層である。

Ⅴ層　茶褐色土で直径１～５㎜程度のオレンジパミスを含む。堆積が薄く，場所によっては堆積が見られない箇所もある。縄文時代前期・後期の遺物包含層であるが，遺構は確認できなかった。

Ⅵ層は黒褐色土で池田降下軽石（約6,400年前）を含む層である。

Ⅶ層は暗茶褐色土で，池田降下軽石層とアカホヤ火山灰層に挟まれた無遺物層である。

Ⅷ層は明橙褐色火山灰層で，アカホヤ火山灰層（約7,300年前，鬼界カルデラ起源の噴出物）である。

Ⅷa層　アカホヤ火山灰の腐植土層

Ⅷb層　アカホヤ火山灰の一次軽石層

Ⅸ～ⅩⅡ層は黒褐色土及び暗茶褐色土で，P13（約10,600年前，桜島起源の噴出物）と考えられるテフラを含む黒褐色土及び暗茶褐色土である。

Ⅸ層　黒褐色土で弱い粘質土である。わずかであるが，縄文時代早期後葉の遺物包含層である。

Ⅹ層　黒褐色土で黄橙パミス混土である。Ⅸ層に比べてパミスを含むためやや明るい色調である。縄文時代早期後葉の遺物包含層である。

ⅩⅠ層　暗茶褐色土で黄橙パミス混土である。Ⅹ層に比べてパミスの量が集中している。縄文時代早期中葉～後葉の遺物包含層であり，遺構に堆積している埋土もⅩⅠ層のものである。

ⅩⅡ層　暗茶褐色土で黄橙パミス混土である。Ⅹ層・ⅩⅠ層に比べてパミスの量は極端に少ない。少量ではあるが，縄文時代早期中葉の遺物包含層である。

ⅩⅢ層は黄白色火山灰層で，P14（約12,800年前，桜島起源の噴出物で「薩摩火山灰」とも呼ばれる）である。下部には一次堆積の軽石も見られる。

ⅩⅣ層からⅩⅥ層は「チョコ層」と呼ばれる粘質土層である。粘質と色調の違いから３つに分層した。

ⅩⅣ層　黒褐色粘質土で，粘質は弱い。

ⅩⅤ層　茶褐色粘質土で，粘質が強い。

ⅩⅥ層　暗茶褐色粘質土で，粘質はⅩⅤ層と比べると弱い。

ⅩⅦ層は明褐色粘質土層で，赤橙色パミスが少量混在している。

ⅩⅧ層は明褐色粘質土層で，色調はⅩⅦ層と同様である。赤橙色パミスがⅩⅧ層よりも多く含まれており，硬質である。また，礫を少量含む。

ⅩⅨ層は明褐色粘質土層で，色調は上の２層と同様であるが，パミスは含まれていない。小礫が多く混在している。

ⅩⅩ層は明褐色砂質土層で，数cm以上の礫が多く混在している層である。

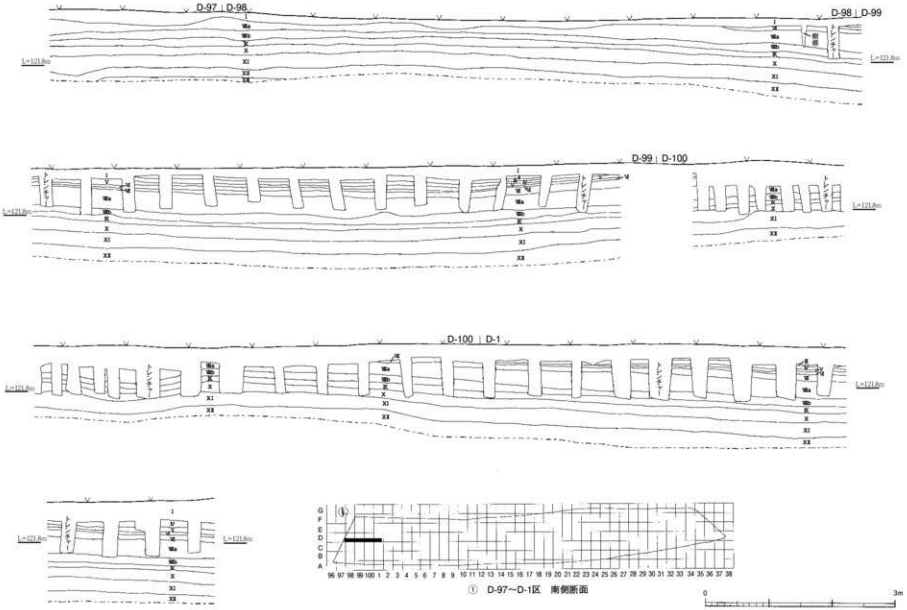
ⅩⅩⅠ層は褐灰色砂質土層で，シラス（約26,000～29,000年前，姶良カルデラ起源の噴出物）の二次堆積層である。

※火山灰等の年代については『新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺－』を参考にした。

町田洋　新井房夫　2003『新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺－』東京大学出版会

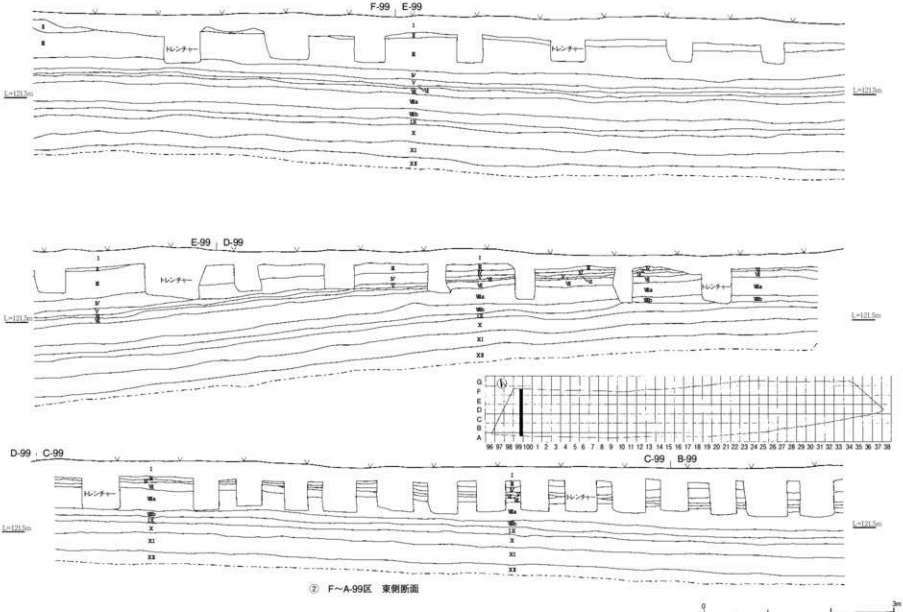
第６図　基本層序

Ⅰ層	表土
Ⅱ層	暗黒褐色土
Ⅲ層	茶褐色土
Ⅳ層	黒褐色土
Ⅴ層	茶褐色土
Ⅵ層	黒褐色土（池田降下軽石層）
Ⅶ層	暗茶褐色土
Ⅷa層	明橙褐色火山灰
Ⅷb層	明橙褐色火山灰
Ⅸ層	黒褐色粘質土
Ⅹ層	黒褐色土黄橙パミス混
ⅩⅠ層	暗茶褐色土黄橙パミス混
ⅩⅡ層	暗茶褐色土黄橙パミス混
ⅩⅢ層	黄白色火山灰
ⅩⅣ層	黒褐色粘質土
ⅩⅤ層	茶褐色粘質土
ⅩⅥ層	暗茶褐色粘質土
ⅩⅦ層	明褐色粘質土（赤橙色パミス混）
ⅩⅧ層	明褐色粘質土
ⅩⅨ層	明褐色粘質土
ⅩⅩ層	明褐色砂質土
ⅩⅩⅠ層	褐灰色砂質土



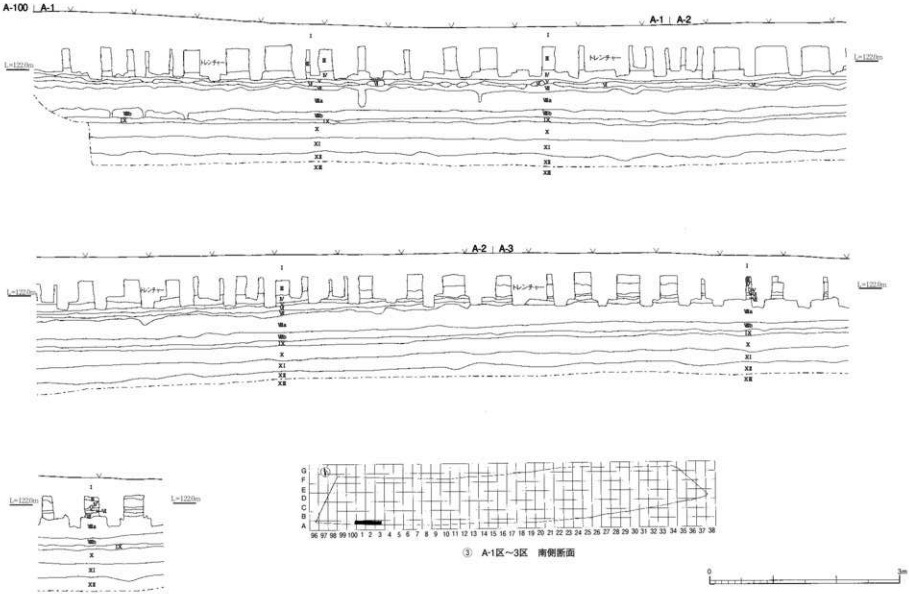
① D-97～D-1区　南側断面

第７図　土層断面図１

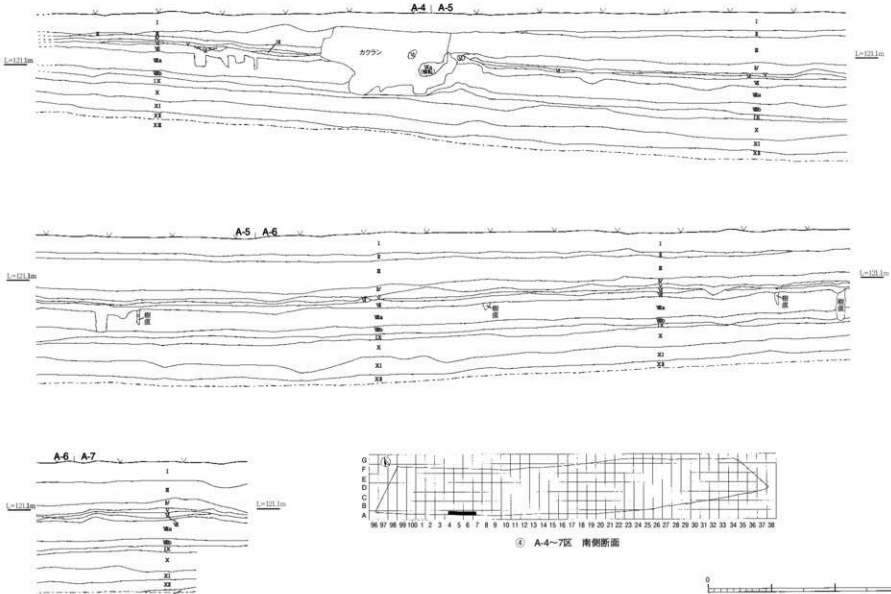


② F～A-99区　東側断面

第８図　土層断面図２

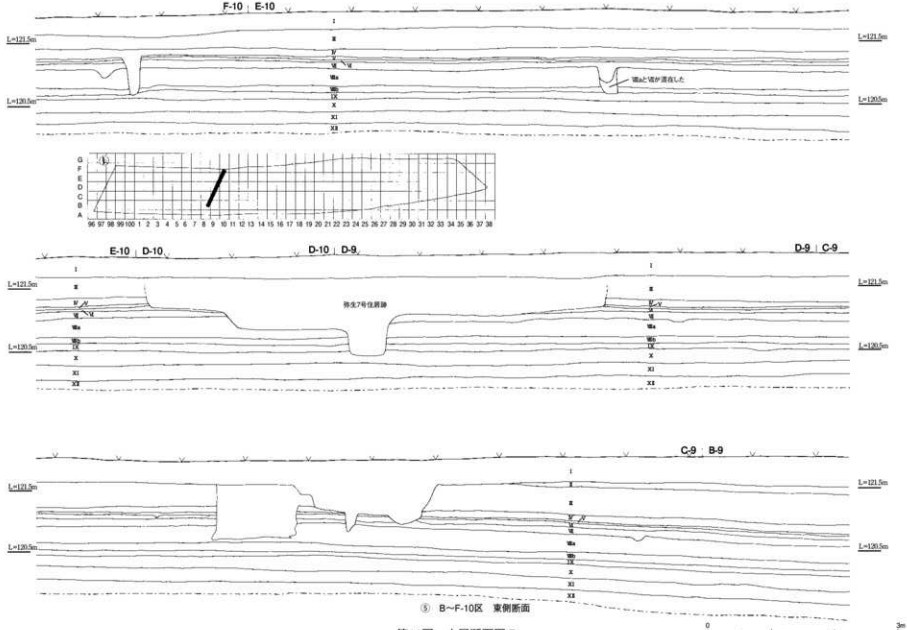

A-100 | A-1
A-1 | A-2
A-2 | A-3
トレンチャー
G
F
E
D
C
B
A
96 97 98 99 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38
③ A-1区～3区　南側断面
0
3m

第９図　土層断面図３



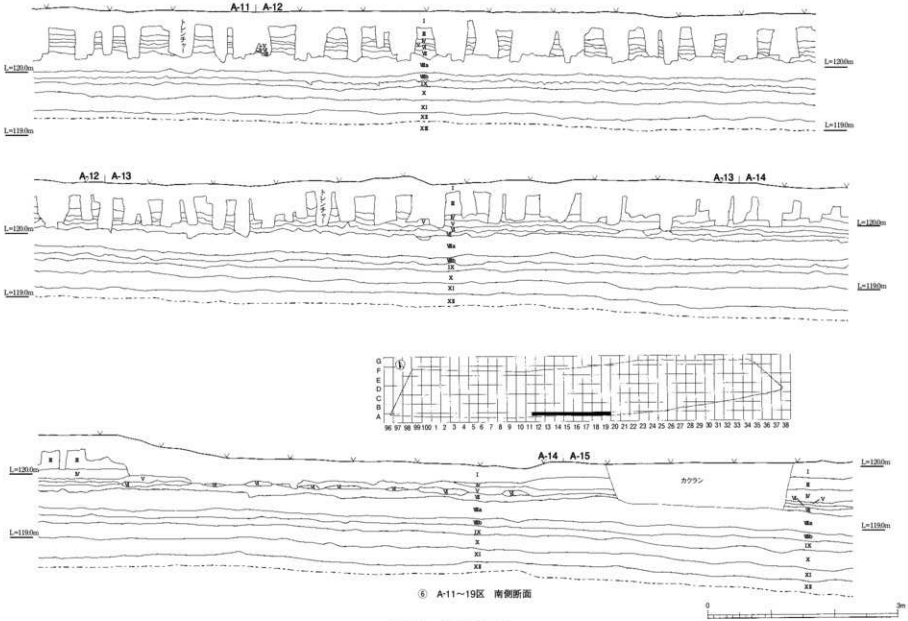
④ A-4～7区　南側断面

第10図　土層断面図４



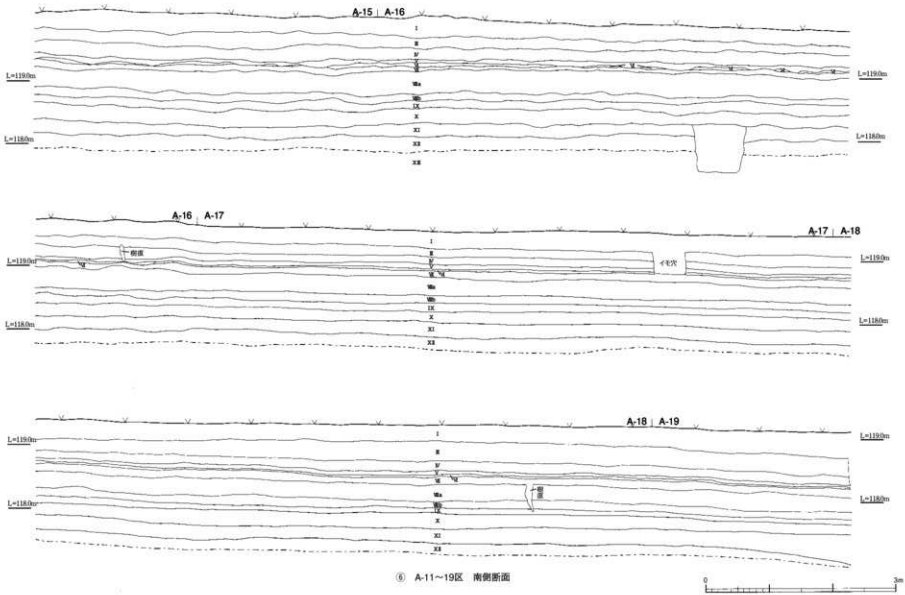
⑤ B～F-10区　東側断面

第11図　土層断面図５



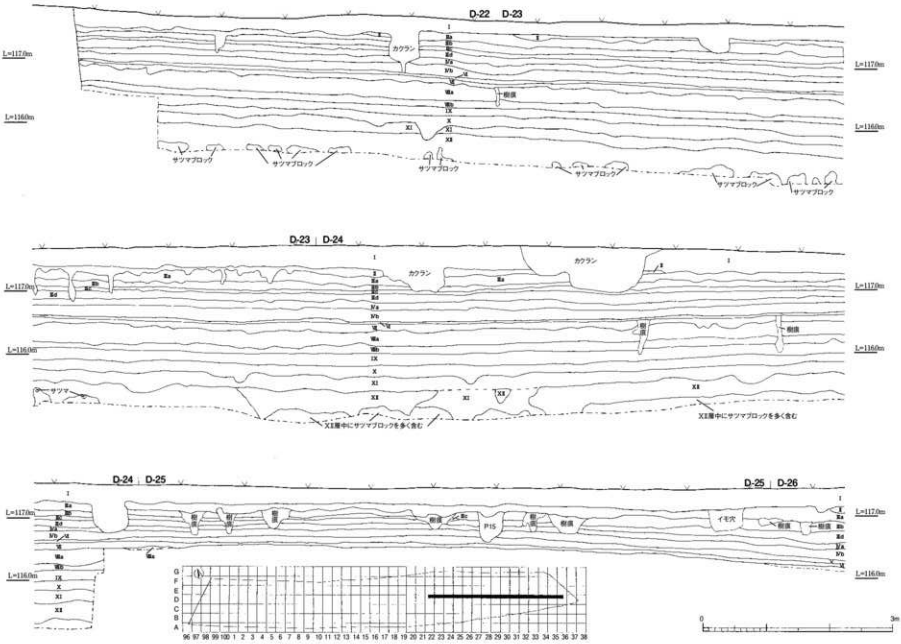
⑥ A-11～19区 南側断面

第12図 土層断面図６



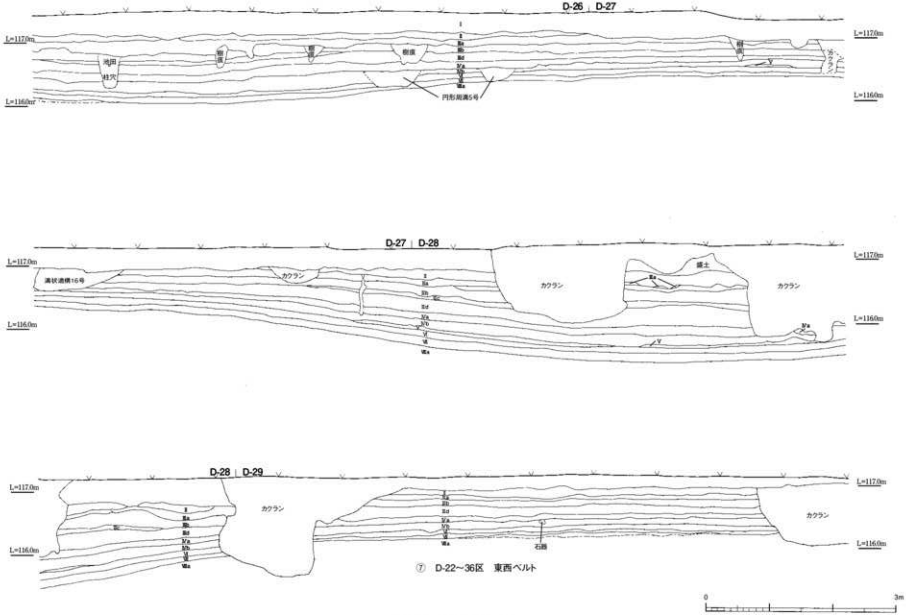
⑥ A-11～19区　南側断面

第13図　土層断面図７



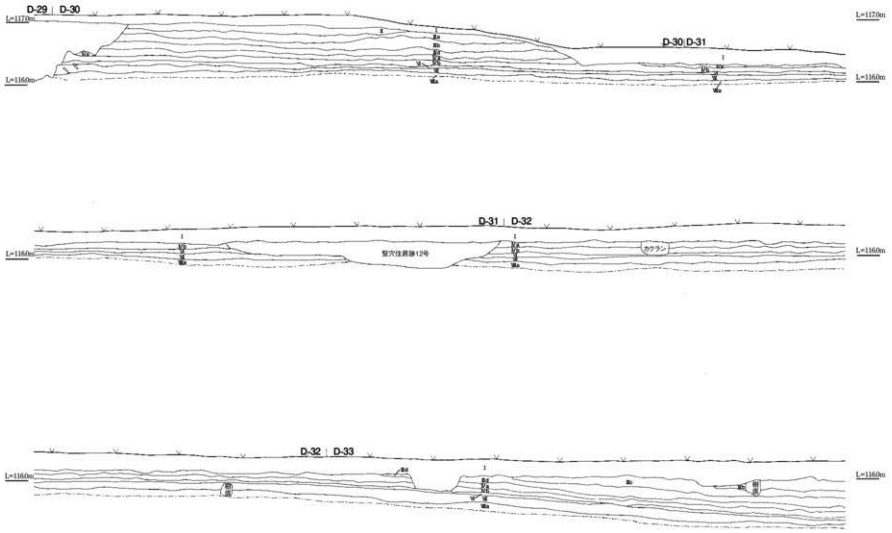
⑦ D-22～36区 東西ベルト

第14図 土層断面図8



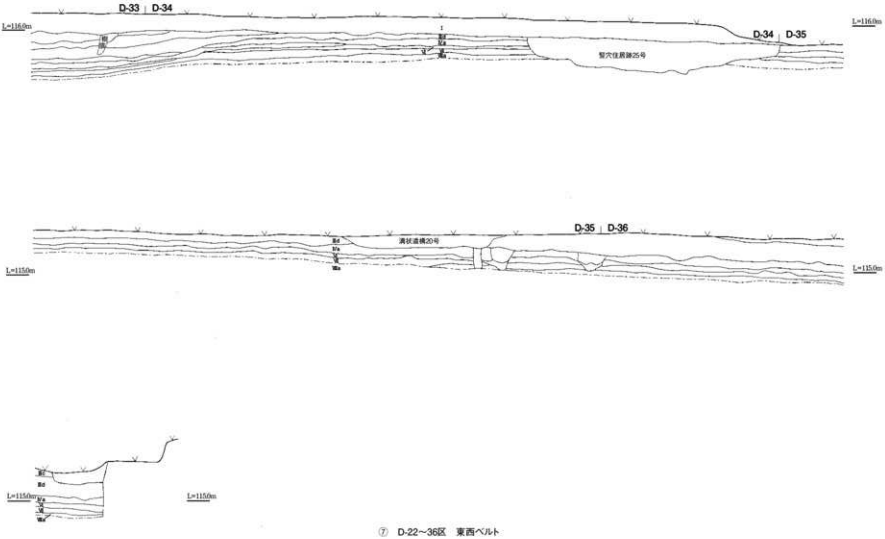
⑦ D-22～36区　東西ベルト

第15図　土層断面図９



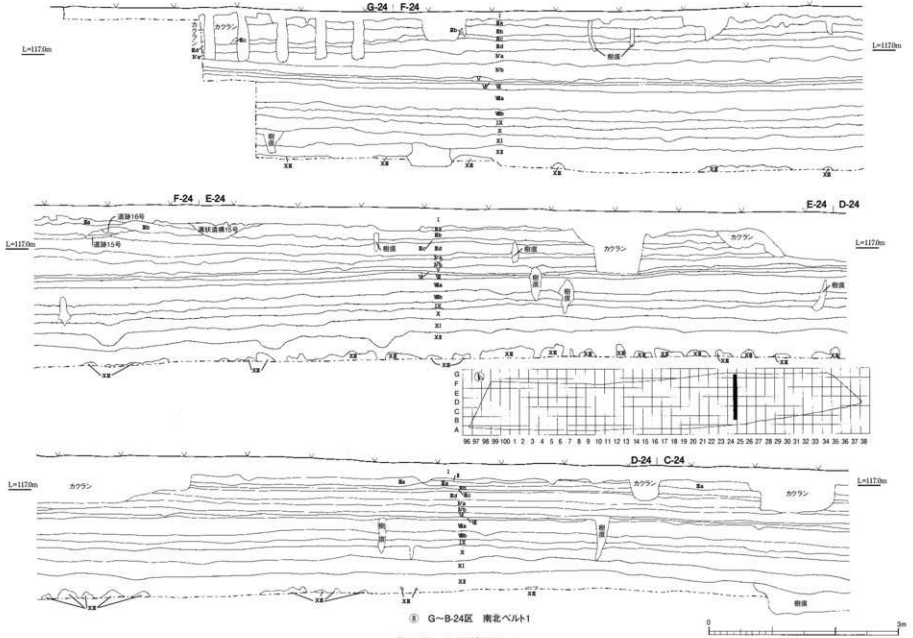
⑦ D-22～36区　東西ベルト

第16図　土層断面図10



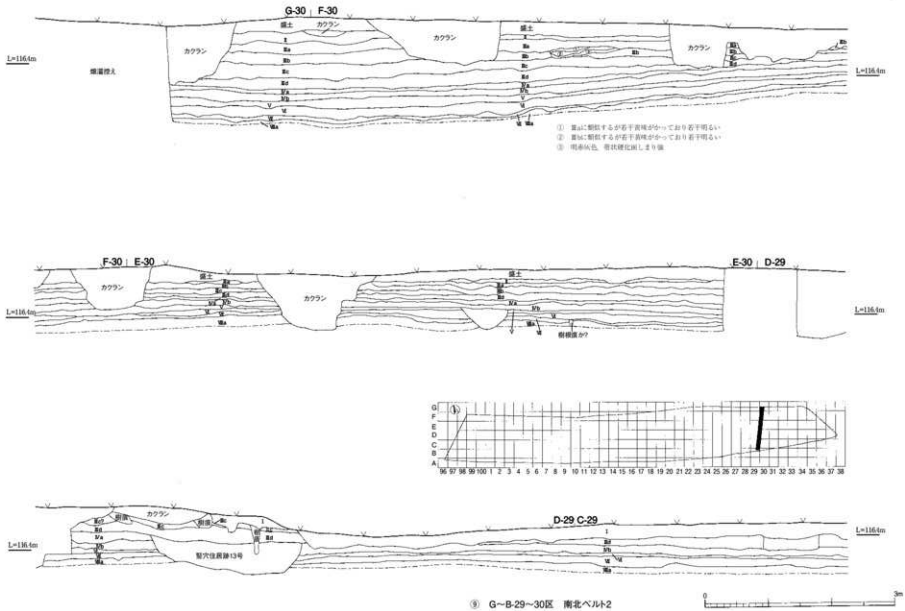
⑦ D-22～36区　東西ベルト

第17図　土層断面図11

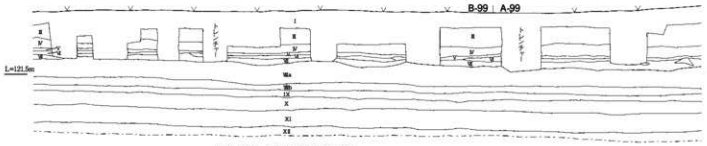


⑧ G～B-24区　南北ベルト1

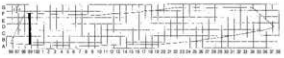
第18図　土層断面図12



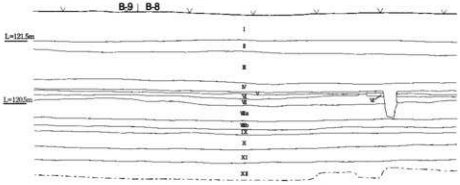
第19図 土層断面図13



F～A-99区　東壁(第8図のつづき)

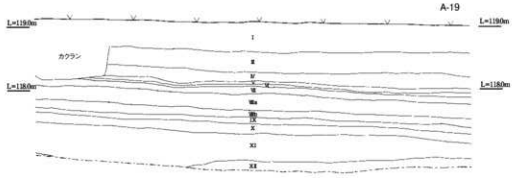


② F～A-99区　東壁



B～F-8～10区　東壁(第11図のつづき)

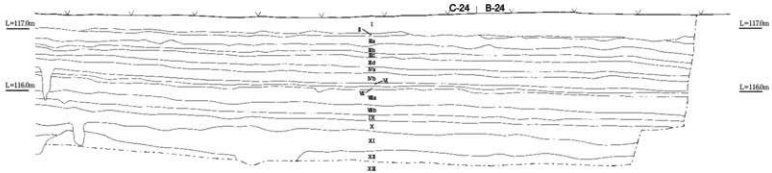
⑤ B～F-8～10区　東壁



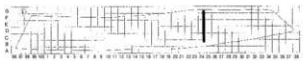
A-11～19区　南壁(第13図のつづき)

⑥ A-11～19区　南壁

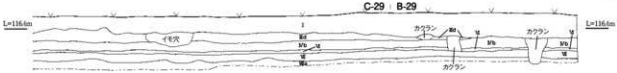
第20図　土層断面図14



G～B-24区　南北ベルト1（第18図のつづき）

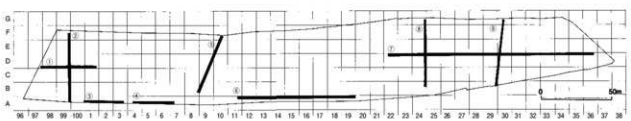


⑧　G～B-24区　南北ベルト1



G～B-29区　南北ベルト1（第19図のつづき）

⑨　G～B-29区　南北ベルト1



第21図　土層断面図15

第３節調査の成果

１　縄文時代前期の調査

(1)　調査の概要

縄文時代前期の調査はⅤ層を中心に行ったが，結果的にⅢ層からも遺物が出土していることになっている。これは，Ⅲ層にしてもⅤ層にしても基本層序では同じく茶褐色土となっていることから，層の比定を混同していることも考えられる。もし，縄文時代前期の包含層がⅢ層であるとすれば，Ⅲ層は縄文時代前期から後・晩期，弥生時代中期を含んで古墳時代までの極めて長い期間に生活が営まれた痕跡を有する包含層ということになり，このような例は，これまで本県では寡聞にして知らない。Ⅵ層の池田降下軽石が約6,400年前とされており，その上位にあるⅤ層こそが縄文時代前期と考えられる。

調査はⅢ層から徐々に掘り下げを行った結果，この時期の遺構は検出されなかった。また，遺物は極めて局所的にしか出土しておらず，さらに，その点数もごく少数である。これは，本調査区域においては，この時期には基本的に集団で長期間生活を営んでいる状況ではなかったことを意味していよう。

(2)　遺　　物（第22・23図）

ア　土　器（第22図）

土器は６点出土した。その全てを図化した。

基本的に，外面に横位あるいは縦位，斜位に短い沈線がほぼ規格的に施されており，中には内面にも施されているものも見られる。この，内面にも沈線が施されているものは，口縁部付近に当たると考えられる。

器壁は全体的に薄く，焼成は割合に良好である。沈線が連続的に施されていることから，この沈線は幾何学文と考えられる。器面全体に幾何学文が施文され，一部，内面にも短い沈線が施されていることになる。小破片のため，全体的な形状はこのわずか６点から復元することは不可能であるが，縄文時代前期という時代・時期と，幾何学文という施文の状態から曽畑式土器ではないかと考えられる。

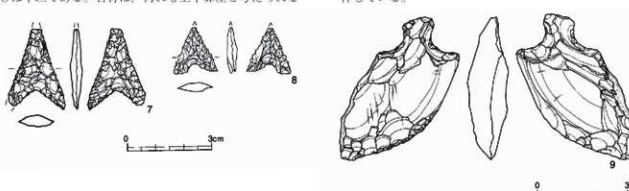
第22図　縄文時代前期の土器

イ　石　器（第23図）

石器は３点図化した。

７と８は打製石鏃である。２点とも先端は欠損している。基部の中央には何れも凹みを設けており，凹基式といえる。両脚が広がっており，脚部の先端は，７は尖り，８は平坦である。石材は，何れも上牛鼻産と考えられる黒曜石である。

９は石匙である。縦位の石匙の類型に入ると考えられる。一部に自然面を残し，基部には抉りを設けてつまみ部としている。自然面の反対の側の先端部に調整を行い，刃部としている。ハリ質安産岩を使用して丁寧に製作している。



第23図　縄文時代前期の石器

2　縄文時代後・晩期の調査

(1) 調査の概要

縄文時代後期及び晩期の調査はⅢ層を対象に行った。この時期の明確な遺構は検出されなかった。しかし，中には本遺跡の主体ともいうべき弥生時代中期の遺構が調査区域のほぼ全面から数多く検出されたことから，同じⅢ層内で検出された遺構を，その時代・時期のものとして扱っている可能性もあるかもしれない。それは，例えば疇集積遺構３の磨石がまとまって検出された遺構や，埋土中に明確な時期を表す遺物が出土しなかった土坑などが候補としてあげられよう。

遺物は，それぞれの時期の土器が出土した。ただ，石器については，それがどの時期に該当するものであるかが明確でないことから，「４　Ⅲ層出土の石器」としてまとめて掲載することとした。例えば，磨石などは縄文時代ばかりでなく，弥生時代でも使用されていることが明確であることから，時代・時期の判定が不可能であることによる。

(2) 遺　物

ア　後期の土器（第24図～第26図）

10～12は，外面に沈線が見られるもので，10と11は斜め方向の沈線，12は縦方向の沈線である。10は２本の沈線が下方から上方に向けて跳ね上げるように施文されており，先端は細く尖っている。11は下方からの沈線が口縁部付近で太くなって止まっているもの２本と，再び下方へとUターンしているもの１本が施文される。それに対して12は３本の沈線がほぼ並行に下方に下ろされているほか，口唇部には２つずつ並んだ列点が外面の沈線に対応するように施されている。このため，口唇端部は10と11よりも幾分広がっている。13は口縁部内面を肥厚させたもので，外面には棒状の施文具による不規則な押圧が見られる。すべて深鉢と考えられる。

14～37は外面に沈線が施された深鉢である。このうち14～19は口縁部で，横位を基準として斜め方向に沈線が施されたものもある。口縁部の形状にも差異が見られ，14と15は端部を肥厚させ，外反させている。16と17は直立させた端部を内傾にやや斜め方向に整えている。18は外反する口縁部が波状となるもので，19は幾分肥厚した口縁部が外反している。また，15及び19は，端部にアナダラ属の貝殻腹縁による押圧が見られる。20～22は胴部であろう。

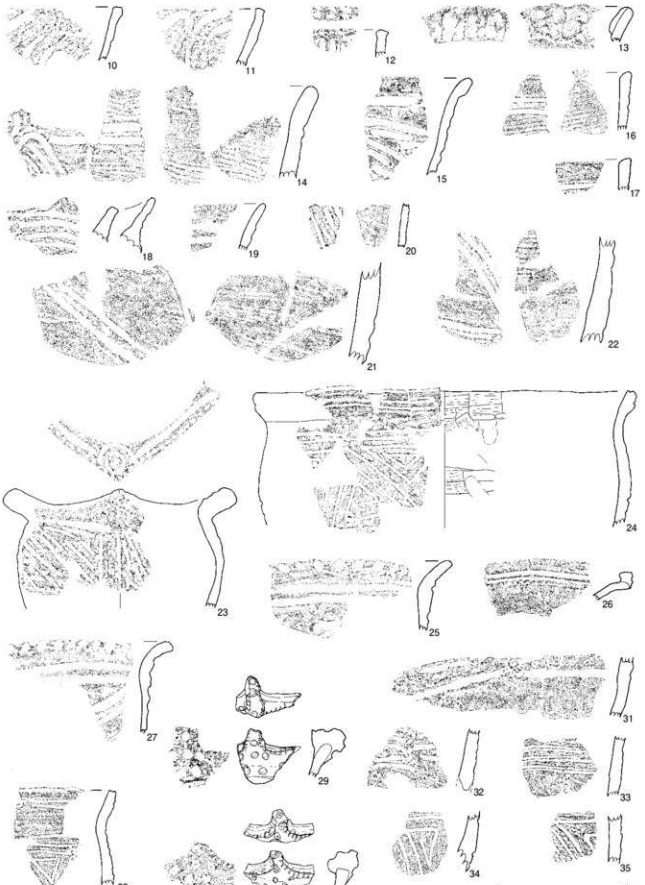
24は肥厚してやや外反する口縁部が幾分肥厚しており，口縁部の下方はくびれている。くびれの下方の外面には，三角形の渦巻き状の細い沈線が施される。肥厚した口縁部の端部外面には横位の細い沈線が付されている。28も24に類似するが，口縁部はそれほど肥厚せずに外反している。34と35は三角形の渦巻き状の沈線であることから，24と同様なものであろう。33も横位ではあるが沈線が細いことから同類と考えられる。

23はボッテリと肥厚した口縁部が波状を呈して大きく外反しており，端部には細い沈線と列点が施されるほか，突起部には渦巻きを表すと思われる円形の沈線が二重に施されている。口縁部の下方は大きくくびれ，それより下位には縦・横・斜め方向の沈線が施文されるとともに，縦位に列点が付されている。25と27は類似した口縁部である。外反する口縁端部に太い列点が刻まれており，口縁部の下位はくびれ，横位の２条の沈線が巡っている。その下方には斜めを基本とする沈線が施される。26は直立した口縁部の外面に横位の沈線が巡り，その下部には極めて細かな列点が施されている。胴部にかけては大きく屈曲している。29と30は類似した口縁部で，装飾性の高い突起が見られる。突起部には竹管文が押され，両端部と口唇端部には細かな刻みが施文される。突起の形態は幾分異なっている。31は２本の横位の沈線の間に細かな竹管文が並んでいる。32は横位の沈線に縦と横に列点が施されている。36は31に類似する。37は鉤手状のつなぎ文が施文される深鉢の胴部であろう。

38～54は内外面の器面に貝殻条痕による調整痕の残る深鉢である。38～45及び53と54は口縁部で，断面三角形を呈している。40，53，54は口唇端部からの長さが長く，38，39，42，43は短い。41は突起部が剥離したものと考えられ，四角形のように見える。44と45は非常に短くなっている。40は上下に爪形の押圧の列点の内部に３条の横位の沈線が巡り，53と54は斜め方向を意識した２本の沈線が描かれる。38は横位の１条の沈線の上位に列点が施される。39は44に類似するが，爪形の押圧列点の内部には１条の横線が引かれる。41は列点の内部に１条の沈線が引かれ，突起部には斜め方向の短沈線が施される。42は貝殻腹縁の押圧と思われる列点が見られ，44は明確な貝殻腹縁の押圧が連続する。45は細かな爪形の押圧の列点である。50も短い列点が連続しており，その下部に鋭い稜線が見られることから，口縁部であろう。それ以外は胴部あたりと考えられ，内外面に粗い貝殻条痕文が顕著に見られる。

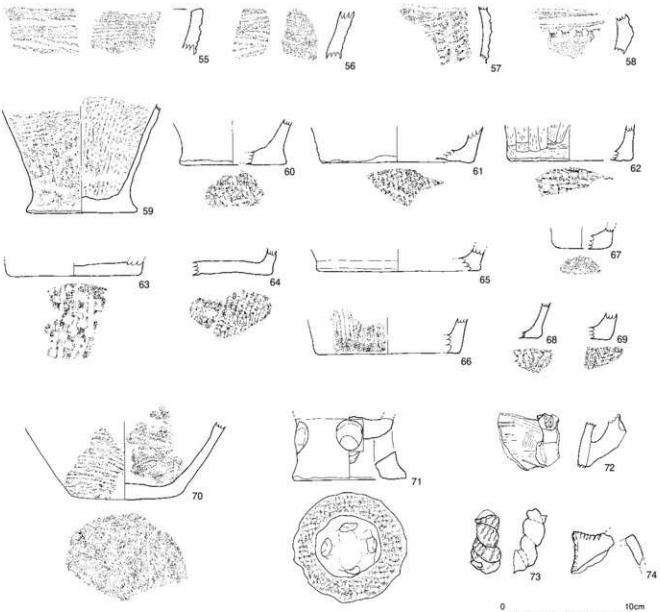
55は横方向の短沈線が縦に並んでおり，その間には剥離痕が見られることから，縦方向の長い突帯が剥離したものと思われる。58は横方向の沈線の下位に明瞭な列点が施されており，その列点を境にして上部も下部も内傾している。

59～70は底部である。59と60は平底で外底の端部が外に張り出す。61～64も平底であるが，外底は張り出さずに胴部に向けて直線的に立ち上がる。65～70も平底であるが，胴部に向けては張り出すように曲線的に立ち上がっている。60～64及び68・69は外底に網代痕が残っている。67と70は外底はナデ消して仕上げる。



第24図　縄文時代後期の土器 1

第25図　縄文時代後期の土器２



第26図　縄文時代後期の土器３

71は筒状の上部は平らに調整されており，端部から上方に斜め方向に立ち上がると考えられることから，台付き鉢の底部の脚部分と考えられる。４方向にやや下位に円形の透かしが見られる。ただ，４つの透かしは正確に直交してはおらず，透かしの大きさも少しずつ異なる。脚の端部は外側に踏ん張るように張り出しており，外底には編み物のようなものの痕跡が残る。

72～74は立体的な装飾の部分と考えられる。72は円柱状に近い形状のものを上下に繋いで貼り付け，把手としたものの下部であろう。最も外側に張り出している部分に縦に２か所，ヘラ状のもので刻みを施している。73は同様な把手であるが，粘土紐をねじったものの外面となる部分に，貝殻の腹縁を縦方向やや斜めに押しつけて文様としている。74は平たい四角形の板状のものを緩やかにカーブさせ，端になる部分に貝殻の腹縁を列状に押しつけて文様としている。これらはいずれも深鉢の胴部上部の装飾と考えられる。

イ　晩期の土器（第27図～第29図）

粗製の深鉢と粗製・精製の浅鉢などが出土している。

75～83は粗製深鉢である。そのうち，75～82は口縁部，83は胴部から底部にかけての部分である。口縁部は端部が平坦ないしは幾分丸みを帯びた四角形状を呈している。口縁部の形状は，75は胴部からほぼ真っ直ぐに伸びて広がっており，76～78は若干内傾する。79～82は頸部から外反するもので，79は大きく外に向けて反っている。75は口唇部下位に1条の細い突帯が付されており，内外面ともに丁寧な横方向のナデ調整が施される。78は口唇部が内面側に膨らんでおり，それより下位にかけては凹みが見られる。内外両面が横方向の小区画でのナデ調整である。79は口縁が大きく，く字状に屈曲する。内外面ともに丁寧な横方向のナデ調整で仕上げる。81は口唇端部が斜めに面取りされており，内外面ともに丁寧な横方向のナデ調整である。83は胴部から底部へと向かう部分であるが，何れも丁寧な横方向のナデ調整である。

84～112は粗製浅鉢である。そのうち，84～99は口縁部，100～112は胴部を中心とするものである。口縁部の形状もさまざまな種類が見られる。84と85は短く立った口縁部の下位はすぼまって胴部へと繋がるものであるが，口縁部自体には沈線は見られない。86も沈線は見られないが，口縁部から胴部へはそのままの傾きで胴部へと向かう。87～97は口縁部外面に1～3条の沈線が見られるものである。全体的に口縁部から胴部にかけてはすぼまっていく。ただ，口縁部自体の形状にも平坦なものから凹むもの，丸みを帯びているものなどさまざまな種類がある。98は胴部にかけて膨らむもの，99はほぼ真っ直ぐに胴部に向かうものである。

104は口縁部近くのものであるが，端部が欠損している。口縁部には2条の沈線が巡り，胴部にかけては大きくすぼまっていく。100と102は口縁部下位の胴部の稜線との中間に短い棱を持つ貼り付けが見られる。101と103は胴部付近である。101は内外両面に細かなヘラミガキ痕が残り，103はハケと思われる施文具でナデ仕上げが行われている。105は胴部の稜が鈍いもので，口縁部へは反りながら立ち上がっているのに対して，108は鈍い稜は類似しているが，口縁部への立ち上がりは見られず，すぼまっている状況である。107は胴部に貼り付けられた突帯で，大きなカーブを描いているものである。109～112も主に胴部の稜が見られる付近である。ハケナデとヘラミガキが併用されているものも見られる。112は外面の胴部の稜は割合に鮮明であるが，内面は緩やかにカーブしている。

113～147は精製浅鉢などである。113～139は口縁部である。そのうち，113～119は玉縁状となる口縁部であるが，その形状にもいろいろな種類が見られる。113は玉縁状の口縁部の下位がく字状に屈曲するもので，胴部にかけては大きく膨らんでいる。114は口縁部が大きく外側に向けて張り出しているが，稜から胴部にかけては鋭くすぼまる。115もそれに類似している。118は短い玉縁状の口縁から稜をもたずにそのまま次第に緩やかなカーブを描きながら胴部・底部へと繋がっていく。

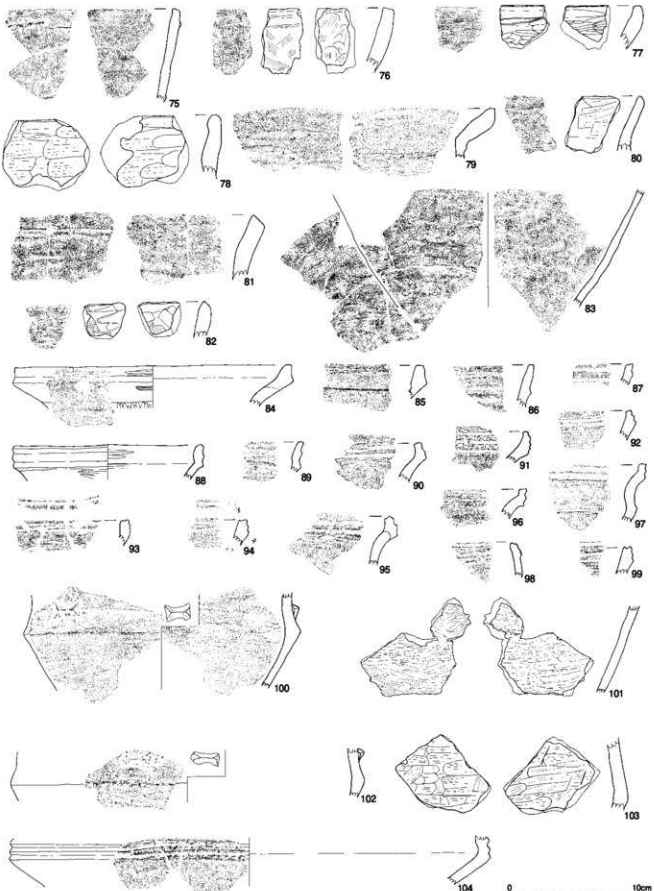
120～139は各種の口縁部である。器形も浅鉢ばかりでなくいろいろな種類があるものと考えられる。120と121は口縁部の端部付近に浅い1条の突帯が巡るものである。122は口縁部の端部に幅の広い貼り付けを平らに行っているが，口唇部を丁寧に調整している状況は見られない。123～134は端部がほぼ真っ直ぐに外反するものである。123と126は幾分直立気味であるが，わずかに外反している状況が見られる。126は端部の一部を上から押さえて小さな円形を作り出し，その一方の端を基準として外面に沈線で「ハ」字状の文様を描き，その下位には横方向の1条の沈線を巡らせている。129も口唇端部を同様に上から押さえたようになっているが，意図的に行ったのか否かは不明である。131は上面が若干カーブしており，波状となる口縁の可能性がある。

132は端部が大きく反っており，外面には縦方向のヘラミガキの跡が見られる。135の端部も反っている。136は口縁部が内傾している。137は端部が幾分内向きである。139は外反している口縁部が下位に向かって若干すぼまった後，再び広がっていく。

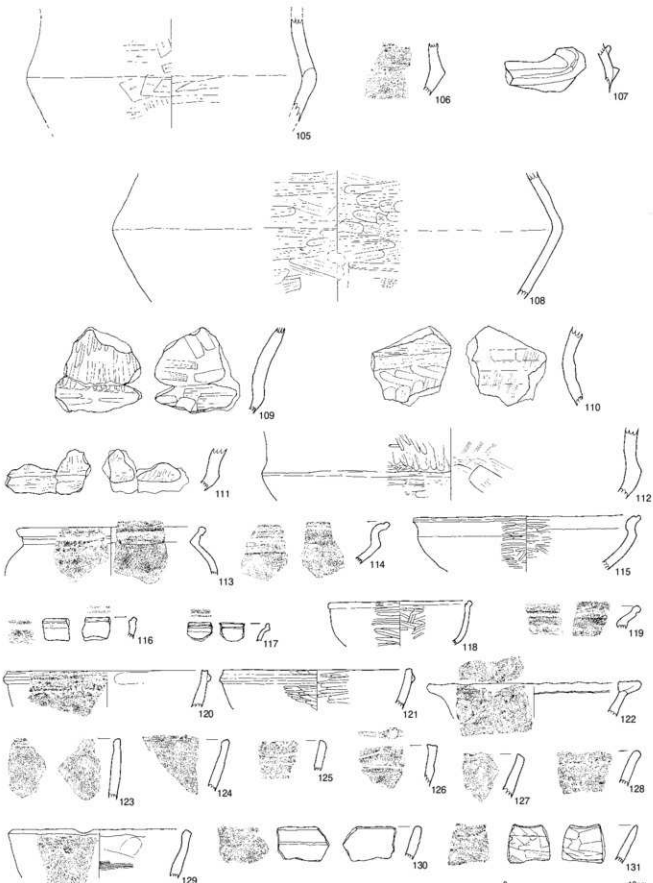
140～147は口縁部下位から胴部にかけての部位である。140は外傾化した口縁部から下位の稜で大きく向きを変え，底部に向かってすぼまっていく。稜の部分は，外面では2段の稜があるように見え，内面にも1本の内稜として見えることになる。141と142も類似したものの破片である。143と144は胴部付近の膨らんだ部分である。

143は横方向の沈線，それより下位は丁寧なハケ目が見られる。145は内外両面を横方向のヘラミガキで仕上げた鉢である。146と147は何れも頸部付近から胴部にかけてである。146の頸部には2つ並んだ孔が穿たれており，器面調整は内外面ともに横方向のヘラミガキである。147は口縁部に向かっては鋭く立ち上がっていくことから，内面には明確な稜が見られる。

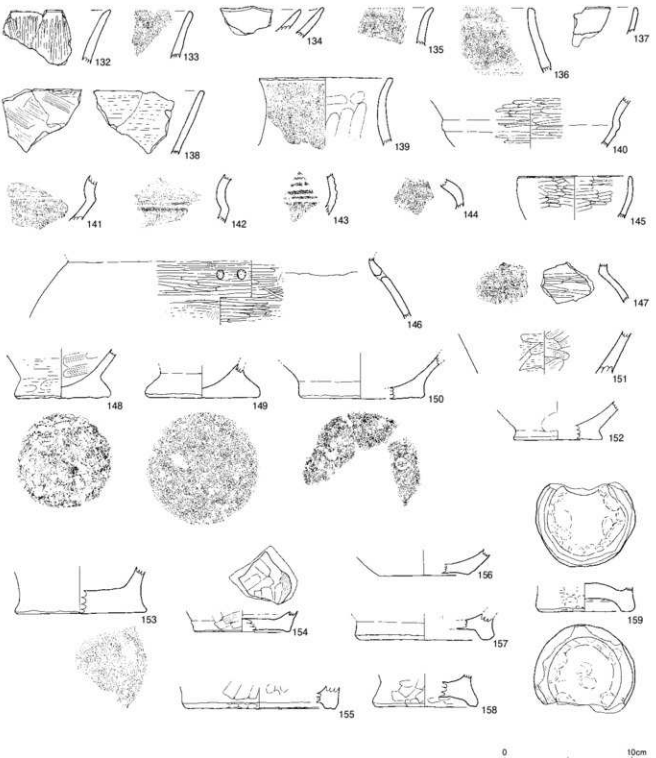
148～159は底部である。深鉢と浅鉢の両方ともあると考えられるが，区分は行わなかった。148～150と152・153は安定した平底の底部が外側に向けて大きく張り出すものである。148～150，153の外底は，何れも丁寧にナデ消しが行われている。154～159の底部は程度の差異はあるものの，何れも上げ底となるものである。特に159は内底及び外面には指頭痕が残っている。



第27図　縄文時代晩期の土器 1



第28図　縄文時代晩期の土器２



第29図　縄文時代晩期の土器３

3　弥生時代の調査

(1) 調査の概要

弥生時代の調査は調査区の全域で行った。Ⅷ層（アカホヤ火山灰層）より上は，ゴボウ耕作のためのトレンチャーによる削平を受けている箇所が多く，層ごとに厳密に時代区分を行うことが困難な箇所があった。

遺構は，主にⅢ層～Ⅳ層で検出したが，削平が行われていたことにより検出が困難な場所では，Ⅵ層（池田降下軽石層）上面まで掘り下げて検出することになった。

(2) 遺　構（第30図～第246図）

弥生時代の遺構としては，竪穴住居跡31軒，掘立柱建物跡40棟，円形周溝11基，方形周溝１基，疇集積５か所，土坑25基，柱穴列６列，ピット多数が検出された。これらの遺構は山ノ口Ⅱ式の土器が使用されている時期であることから，弥生時代中期を中心とするものであると考えられる。

ア　竪穴住居跡（第34図～第183図）

竪穴住居跡は31軒検出された。

形状　検出面の形状は円形，隅丸方形，隅丸方形を基調として張り出しをもつもの及び花弁型のものが見られる。住居の構造で，花弁型や張り出しをもつものは段掘りとなっているものが大半であった。

規模　検出面積が最大のものは50.6㎡，最小のものは6.75㎡であった。円形住居が，その他の形状の住居跡に比べて大きいといえる。

検出状況　検出は，表土を重機で除去した後に，残存しているところではⅡ層の上面で清掃して遺構の検出を行い，その後は同様にして順次各層の上面で清掃，遺構検出というように順次行っていった。そのようにして検出に努めた竪穴住居跡の検出面はⅢ～Ⅵ層上面であった。このように検出面に違いがある理由は，調査区内は場所によってはゴボウ耕作で用いられたトレンチャーによってかなり削平を受けていたことから検出には困難を極め，削平を受けた部分については，トレンチャーによる撹乱土をすべて取り除き，その上で住居跡の立ち上がりラインを確認して行った。しかし，そのような削平を受けていない場所では，上層での検出が可能であったのである。

住居跡の埋土は，基本的に次の３枚である。

① 茶褐色土（アカホヤブロック及び池田降下軽石を若干含む）
② 茶褐色土（アカホヤブロック及び池田降下軽石を若干含む。①より締まりあり。）
③ 赤黒色土（やや大きめのアカホヤブロックを含む。）主に貼床埋土。

これら基本の埋土と異なっている場合には，各住居跡の遺構図中に記載してある。

調査は床面までを検出した後に，貼床がある場合には貼床部分をも除去して構造の追及を行った。また，遺構図では貼床部分を網かけで表示している。

従って，本遺跡の竪穴住居（跡）の作り方は，基本的には以下のように行っていると言える。

まず，プランに従って方形または円形の掘り方を行う。周囲にベッド状遺構を設ける際には中央部を更に掘り下げて段を設ける。床面はアカホヤなどフカフカな土壌に当たった時には，下部を掘り起こして硬い土壌と交換を行い，それを固めて貼床としている。

分布　遺跡の西側では，Ｃ～Ｅ－５～11区にかけて住居跡が７軒が検出された。一時期とは限らないものの，小さな集落があったことがわかる。東側に行くと，22～36区では竪穴住居跡だけで24軒が検出されており，時期の区分が問題にはなるものの，規模の大きな集落があったといえる。

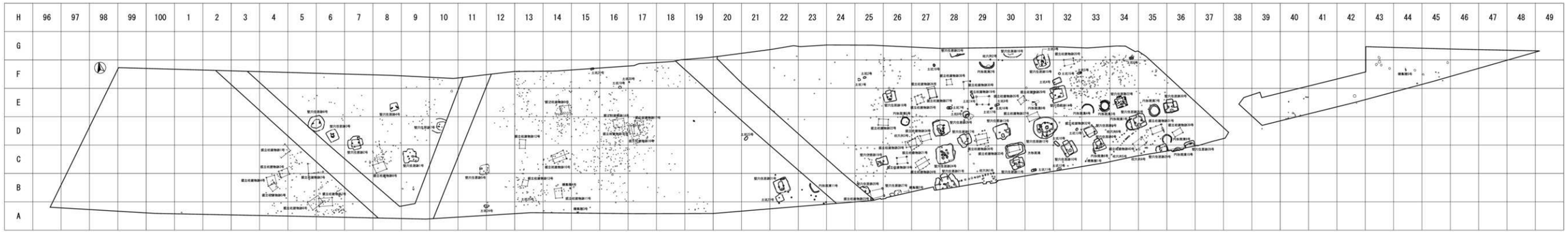
竪穴住居跡１号（第32図～第34図）

検出状況　Ｃ－９区で検出された。検出面はⅥ層上面で，池田降下軽石が薄く堆積している中に，茶褐色土の不定形のプランが見られたことから遺構と判断した。ゴボウトレンチャーが縦横に走る状況であったため，トレンチャーの土を取り除き，その断面から床面と立ち上がりをつかんでいった。

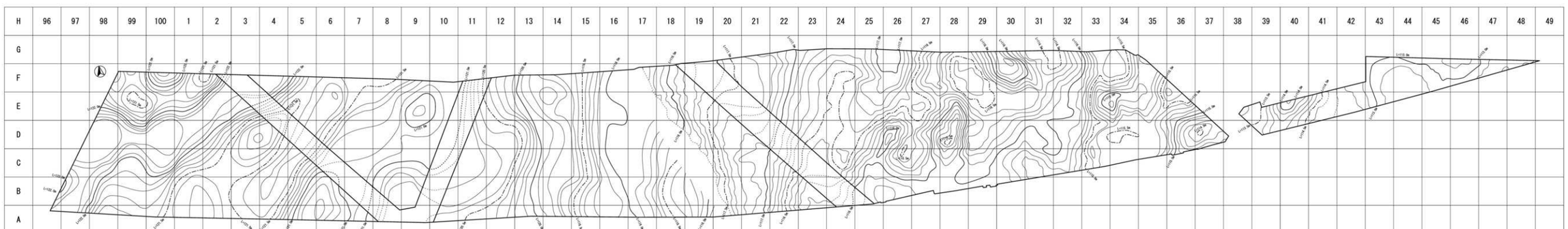
形状　竪穴住居跡１号の平面形状は，不定形を呈する。長軸（Ａ－Ａ'）459cm，短軸（Ｂ－Ｂ'）432cm，最大軸536cmである。検出面から床面までの深さは，最も深いところでも16cmであり，床面を測いだ掘り方部分までの深さは26cmであった。また，北と東及び西側に規模の異なる張り出しが認められる。これについては，本来は東西方向に長い長方形の掘り方に北側の中央部に南北約１ｍ×東西約２ｍ程度の張り出しを作り，さらに東側に東西約1.0ｍ×南北約1.5ｍ程度の張り出しと南側に東西約2.0ｍ×南北約0.5ｍ程度の張り出しを設けた形状のように感じられる。中央部の床面と張り出しの床面との比高差はない。また，床面中央部と南側では，一部に貼り床と考えられる硬化面が認められた。硬化面の厚さは約３cmである。

ピットは大小合わせて11基検出された。主柱は中央部の東西にある規模のやや大きな２基のピットＰ６及びＰ７に立てられた２本の柱であったと考えられ，この２本の主柱に横木を渡して組み，そこから外に向けて細めの木を数多く立て掛け，床面にあるピットから立ち上げた柱によってこれらを支えながら屋根を覆っていったものと考えられる。したがって，これらのピットは本住居に伴うピットであると考えられる。

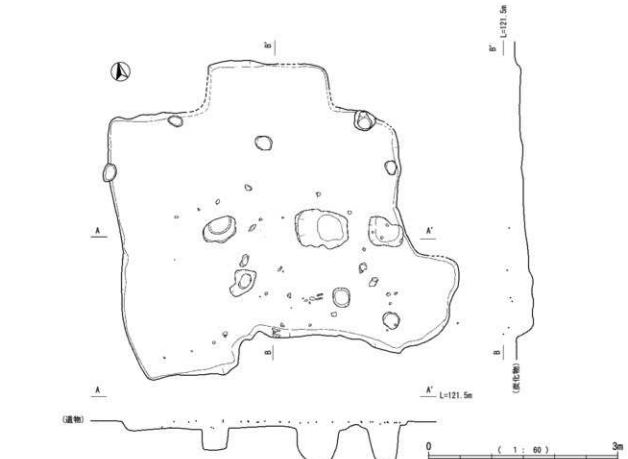
また，Ｐ６とＰ７と軸を同じくするＰ８は東の方向に張り出しを作ったことに伴って主柱を移動させた可能性



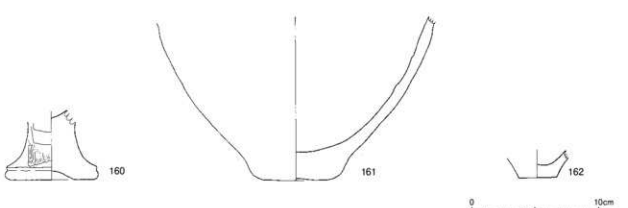
第30図　弥生時代の主要遺構図



第31図　Ⅵ層上面コンター図



第32図　竪穴住居跡１号１



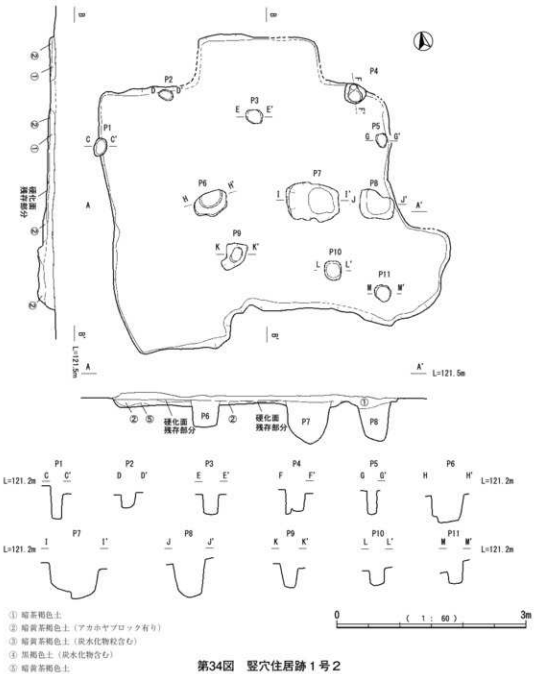
第33図　竪穴住居跡１号出土遺物

も考えられる。その際は，Ｐ７は中央に置かれた土坑とみなすことができるかもしれない。または，最初からＰ６とＰ８を主柱としており，Ｐ７は中央に設けられた土坑であったことも考えられる。

それ以外の小さめのピットは主柱を取り巻く位置にあることから，屋根を支える束柱であったことが考えられる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している埋土は主に３つに分けられる。堆積している土の大半が暗茶褐色土である。部分的に残存している硬化面の下には，暗茶褐色土とアカホヤ火山灰のブロックの混土が堆積しており，掘り方部分を掘った後に床を形成するために埋め戻した土と考えられる。

本遺構は検出面から床面と推定される面までの深さが極めて浅いことから，本来の掘り方の上面は相当上部にあったものと考えられる。検出面まで削平されていたか，あるいは埋土と周辺の土との区別が難しかったことから掘りすぎたことが考えられる。



第34図　竪穴住居跡１号２

また，埋土には大量の炭化物が混ざっており，床面からも多くの炭化材が検出された。残存状況は良好ではなかったが，本住居跡は焼失住居であった可能性が高い。

遺構内遺物

住居跡内からは，土器の他に石器，鉄製品とみられるものや炭化材も多く出土している。遺物は，床面および床面付近から出土しているものが多い。

土器については，小破片が多かったことから，３点のみを図化した。160は甕形土器の底部である。底径は6.7cmであり，上げ底状になっている。脚部分は下から上へハケ目調整が施された後，脚部の付け根の部分についてはヨコナデが行われている。161は壺形土器の胴～底部で，底径は6．8cmである。焼成が悪く，内外面ともに調整を行った表面がほぼ残存しておらず調整は定かでないが，外面はごくわずかにミガキを行ったと思われるような部分が見られる。しかし，実測には至ってない。162は小型の壺形土器の底部と考えられる。底径は３cmで，内外面ともに工具によるナデ調整が施されている。

竪穴住居跡２号（第35図～第43図）

検出状況　C・D－７区で検出された。検出面はⅣ層で，黒褐色土の中に明るい茶褐色土が認められたことから遺構があると判断した。住居跡１号と同様，トレンチャーが縦横に走る状況であったため，トレンチャーの土を取り除き，その断面から住居の立ち上がりをつかんでいった。

形状　竪穴住居跡２号の平面形状は，隅丸方形を基調にして４方向に張り出しを持つ，いわゆる花弁状の住居跡である。長軸532cm，短軸470cm，検出面から床面までの深さは約30cmである。張り出し部分からすると，中央の方形部分は一段低くなる段掘りである。中央の方形部分はすべての張り出し部分よりも内側に作られていることから，張り出し部分は中央の段によって切られることなく繋がっていることになる。ただ，南東部は張り出し部分の下面と中央部の段の上面との差は５cmほどしかなく，危うく切られそうな作りとなっている。なお，その差が最も大きい南西部は50cm程度あり，その違いは極めて著しい。張り出し部分から中央部の段までの深さは約10cm程度である。硬化面などは認められなかった。

ピットは遺構の内部で10基検出されており，中には２基のピットが隣接しているものも見られる。中央の方形部分の東西の端に位置しているＰ１とＰ２は本住居跡の主柱穴と考えられ，１号住居跡と同様に２本柱を持つ住居跡であると考えられる。

また，そのほかのピットについては，位置的に統一性が感じられないことから，本住居跡とどのように関わるものであるかは明確ではない。

遺構内埋土　４層に分層されている。最上層は黒褐色土，中央部は黒色土，最下層は黒褐色土で池田降下軽石とアカホヤのブロックを含んでいる。また，南の端に流入している状況の層は暗茶褐色土である。

遺構内遺物　住居跡内からは，土器，石器のほか，炭化物も出土している。出土した土器の特徴として，一般的な大きさの甕形土器や壺形土器も見られるが，大型甕形土器（以下，大甕と略称する）が大量に出土しており，何個体分かの破片が見られた。

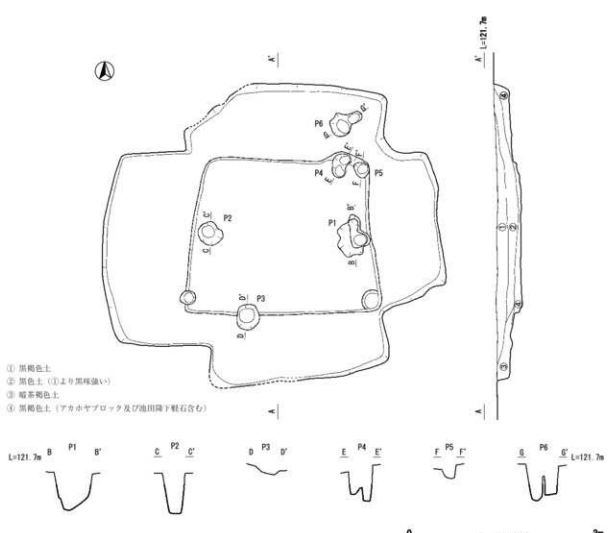
163～175は甕形土器であり，そのうちの163～168は大甕である。163は口径57cmで脚部分は59cmである。口唇部と脚の先端はともに凹んでおり，器面調整は内外面ともにハケ目調整が行われており，指頭痕も一部に残っている。胴部にかけては緩やかに膨らんでいる。胴部の一部を欠くが，同一個体と判断したことから，胴部の下部も繋げて図化した。底部にかけてもゆったりとすぼ

第35図　竪穴住居跡２号１

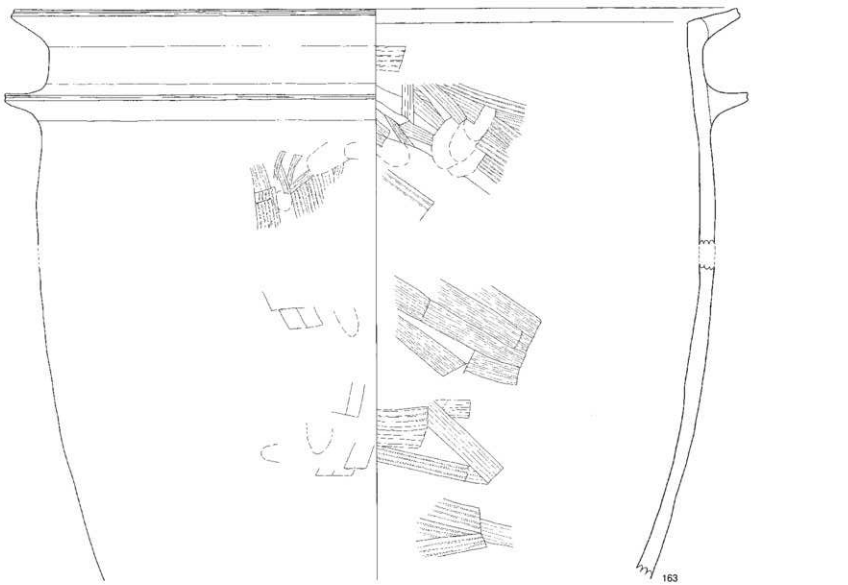
まっており，推定した残存長は45.4cmとなる。164は口径59cmを測り，脚部分は61.4cmである。器面調整は内外面ともにハケ目後ナデによる調整が行われているが，内面はハケ目調整が明瞭に残る。また，口縁から脚の間には穿孔が見られる。外面からあけており，少しずつ打ち欠いていった剥離の様子が顕著に見られる。穿孔の形状は若干台形状を呈している。165は口径52.8cmを測り，脚部分は58cmである。図化した大甕のうち，165のみ脚を貼り付けた部分よりも下に胴部最大径がきており，脚から下が膨らみをもつ。器面調整は外面はナデ調整，内面はハケ目調整の後わずかにミガキを行っている。166は口径56.8cmを測り，口縁部から底部に向かって急にすぼまっていくため，脚部分ではなく口径が最大である。器面調整は内外面ともにハケ目調整であるが，外面はハケ目調整後ナデられている。168は口径62.4cmを測り，２号住居跡内から出土した大甕の中で最大の土器である。器面調整は外面はナデ調整，内面はハケ目調整であるが，165と同様，わずかにミガキを行っている。脚は他の土器よりも薄く長く作られている。169は胴～底部にかけての土器である。土器の形状と大きさから大甕に分類した。器面調整は外面はハケ目調整後ナデられており，内面はハケ目調整が明瞭に残る。171も胴～底部の土器であり，底径9.6cmを測る。器面調整は内外面ともにハケ目とミガキ調整である。172も大甕の胴部から底部にかけての部分と考えられる。底径は８cmである。胴部にかけては急激に膨らんでいる。器面調整は内外面ともにハケ目調整が行われており，特に内面は丁寧である。

170，173 ～ 175は通常サイズの甕形土器である。173は，く字状となる口縁部である。174と175は底部である。充実した脚台となっている。

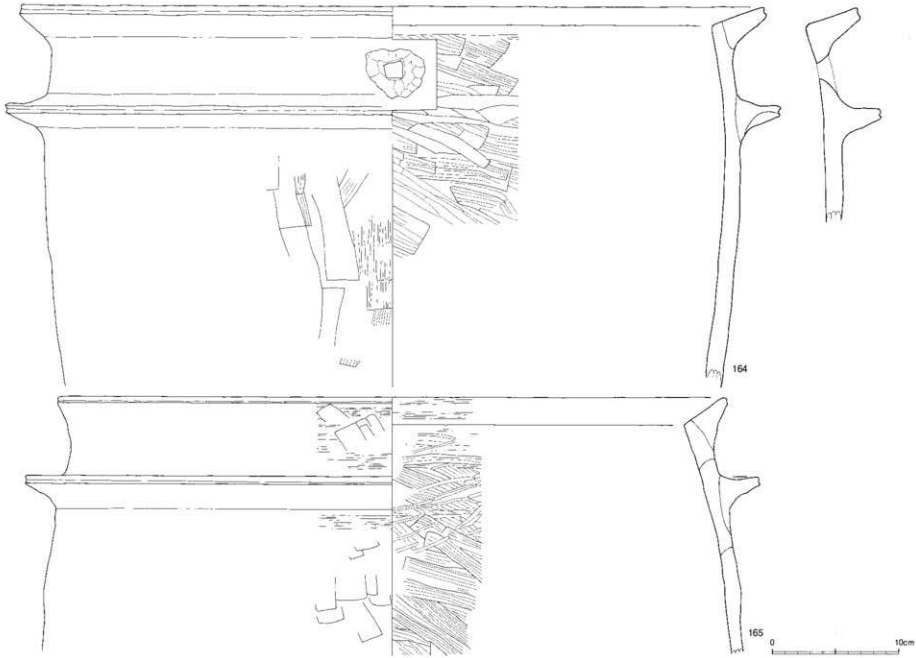
176 ～ 178は口縁部の外面に脚あるいは突帯が巡る土器で，口縁部はすぼまらずに緩やかに胴部へとつながり，胴部も大きく張らないことから，二重口縁の鉢形土器と考えられる。176は口径が脚の部分で27cmとなるもので，器面調整は外面がハケ目と丁寧なミガキ，内面はハケ目調整が行われている。177は口径が突帯部分の口縁部で



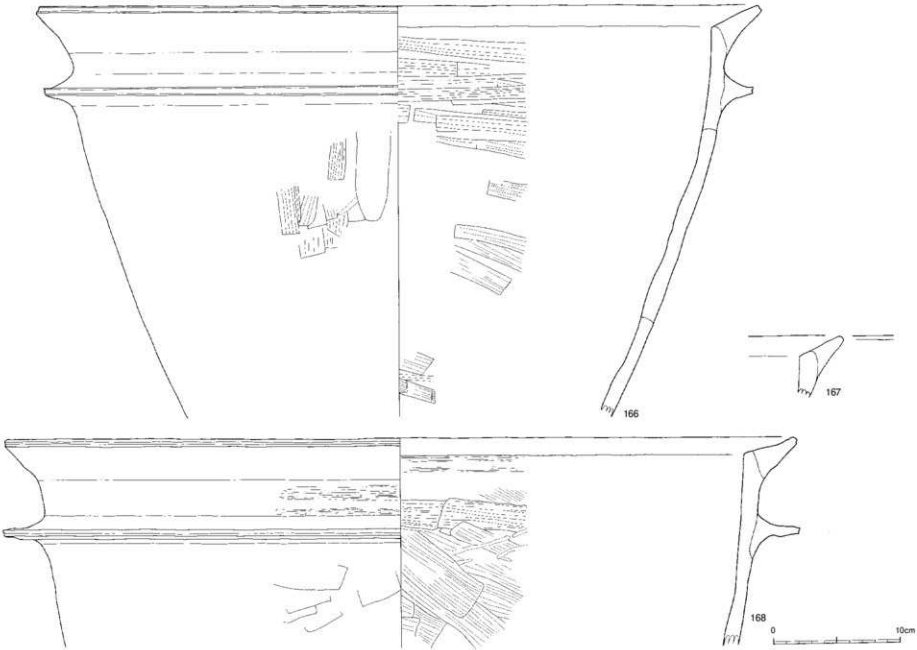
第36図　竪穴住居跡２号２



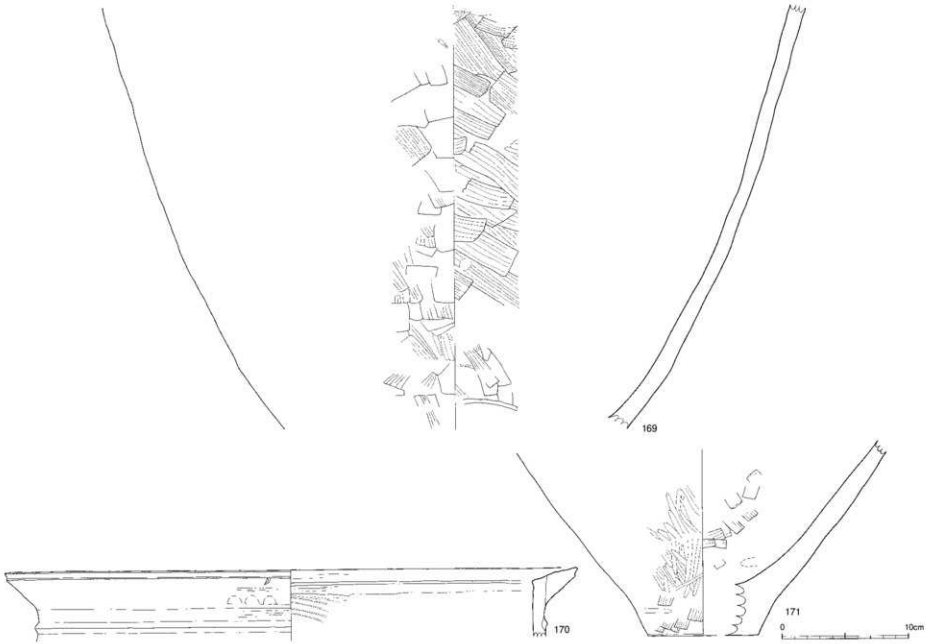
第37図　竪穴住居跡２号出土遺物１



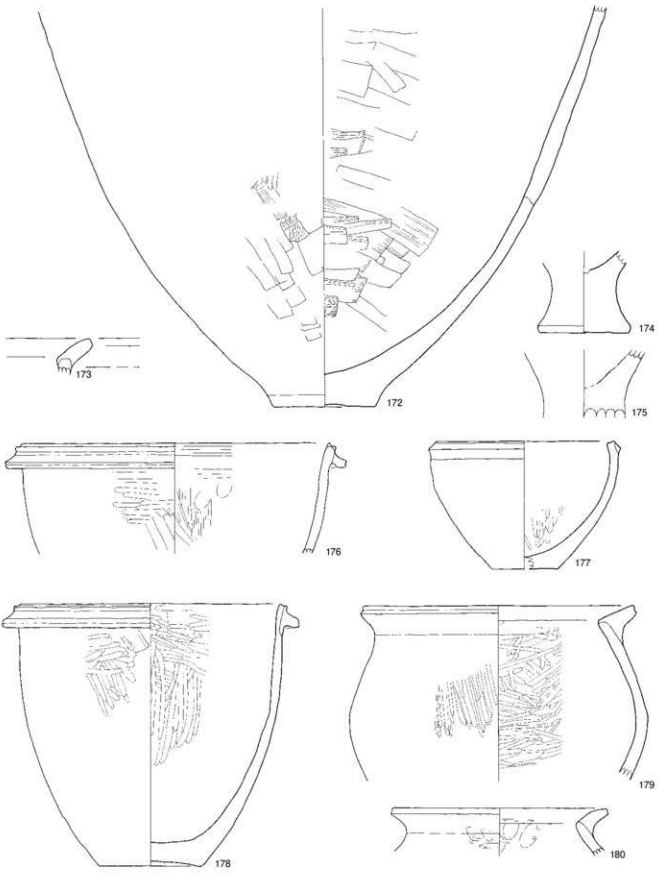
第38図　竪穴住居跡２号出土遺物２



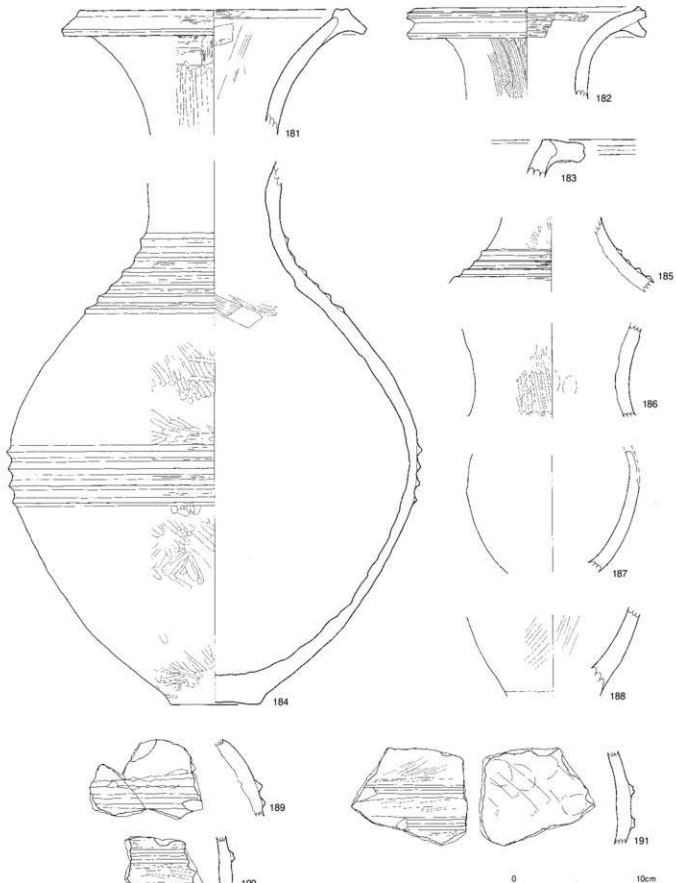
第39図　竪穴住居跡２号出土遺物３



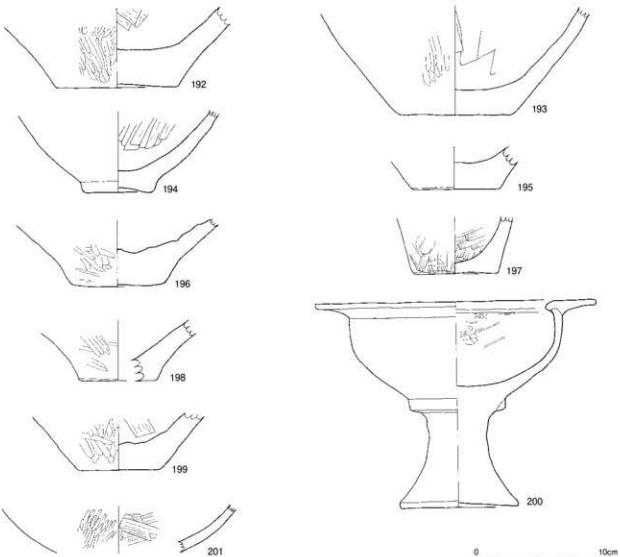
第40図　竪穴住居跡２号出土遺物４



第41図　竪穴住居跡２号出土遺物５



第42図　竪穴住居跡２号出土遺物６



第43図　竪穴住居跡２号出土遺物７

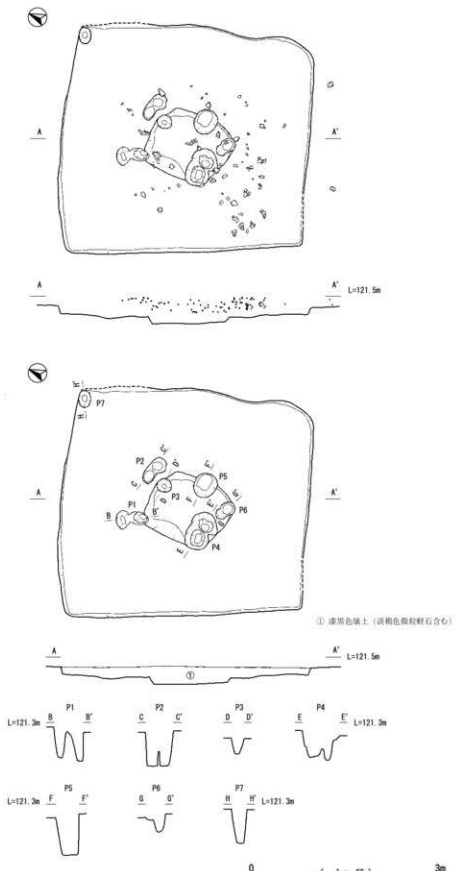
15.2cm，器高は10.1cm，底径が5.0cmの鉢形土器で，内面は縦方向のミガキによって調整が施されている。178は口径が脚の部分で23.5cm，器高20.7cm，底径は8.0cmの鉢形土器で，深さの深いものと言える。器面調整は，内外面ともに丁寧なミガキによっている。底部には脚部は見られず，平底で若干上げ底となっている。

179と180は176～178に類似しているが，口縁部から頸部にかけてすぼまっており，胴部が膨らむことから壺形土器と言える。179は逆Ｌ字となる口縁部を大きく内傾させ，胴部にかけて膨らませている。器面調整は内外面ともに丁寧なミガキが行われている。口径21.8cm，胴部最大径は23.8cmである。180も同様な器形であるが，口縁部の逆Ｌ字となる外面が上部に向けて膨らんでいる。口径は17.0cmで，頸部から胴部にかけては大きく膨らむ。

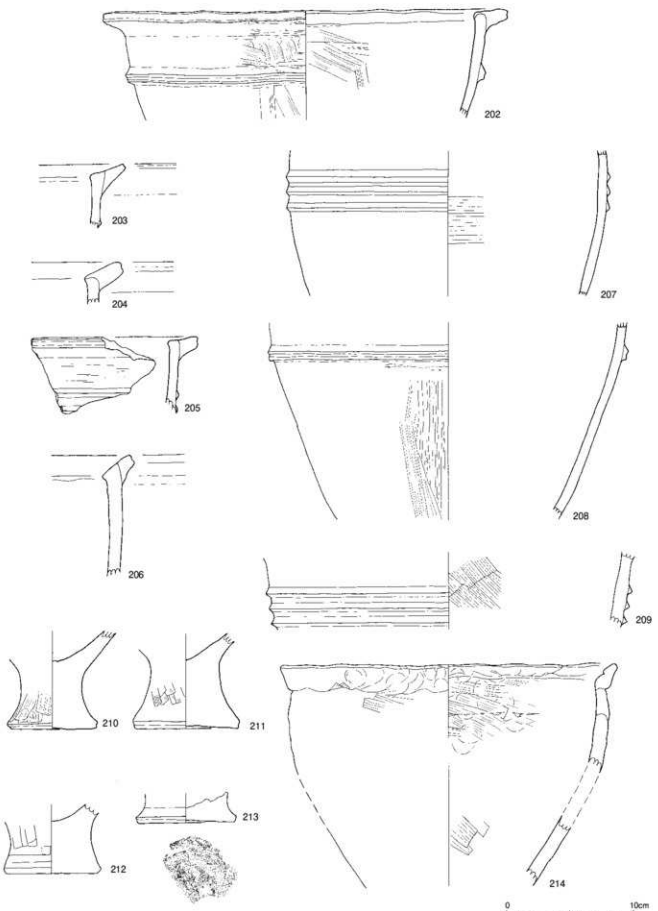
181と184は同一個体と思われる土器であるが，接合面がないため，別々に図化した。181は口径24.2cmを測る。器面調整は外面はナデ調整後ミガキ，内面はナデ調整である。184は底径7.1cmを測り，器面調整は181と同様であるが，内面については剥落が激しく，調整は不明瞭である。頸部～肩部にかけては６条，胴部最大径部分には４条の三角突帯が巡らされている。また，底部はわずかに上げ底気味である。182は二重口縁となる壺形土器の口縁部である。183は181と類似した口縁部であるが，端部がやや上がっている。185は肩部で４条の三角突帯が巡っている。186は頸部，187と188は胴部から底部付近である。189は三角突帯，190と191はM字状突帯である。

192～199は底部片である。底径についてはまちまちで，大甕の底部片の可能性も考えられるが，今回は壺形土器の底部として掲載した。192・194・196の底はわずかに上げ底気味である。197は底部からほぼ直線的に胴部に向かう。器面調整については外面はミガキが行われているものがほとんどであり，内面はハケ目調整である。

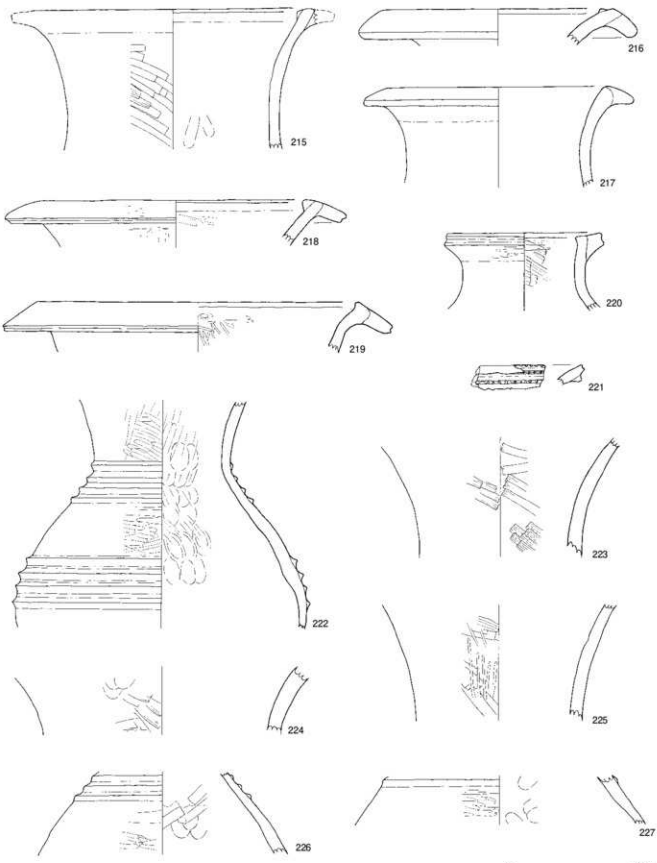
200は台付きの鉢形土器である。口径22.4cm，底径9.0cm，器高16.2cmで，鉢部分と脚台部分の接合部分には突帯が貼り付けられている。底部は若干上げ底である。器面調整は外面は磨耗により不明であるが，内面は



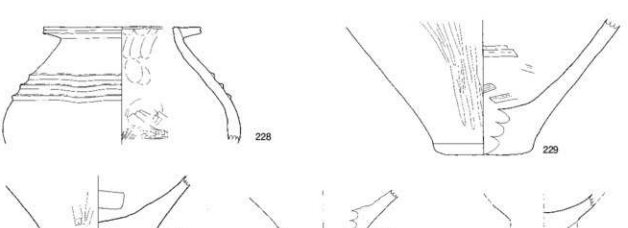
第44図　竪穴住居跡３号



第45図　竪穴住居跡３号出土遺物１



第46図　竪穴住居跡３号出土遺物２



第47図　竪穴住居跡３号出土遺物３

ナデ調整後にミガキが行われている。201は底部付近である。

竪穴住居跡３号（第44図～第47図）

検出状況　D－６区で検出された。検出面はⅥ層（池田降下軽石層）直上のⅤ層で検出を行った。住居跡１号同様，トレンチャーが縦横に走る状況であったため，トレンチャーの土を取り除き，その断面から住居の立ち上がりをつかんで行った。

形状　竪穴住居跡３号の平面形状は隅丸方形を呈する。長軸394cm，短軸360cmで，検出面から床面までの深さは約20cmである。中央部に，約1.2m×1.1mほどで深さ約10cmの方形の段掘りが行われているが，掘り方の軸方向とは異なっている。

ピットは２基が隣り合って掘られているものも多く，複合したものは１基と捉えて，６基のピットを検出した。深さはＰ３とＰ６の２基は比較的浅いものの，それ以外は50～60cmほどで割合に深くなっている。主柱穴は中央の段掘りの方向を主軸として考えるならば，Ｐ２とＰ４の可能性が高い。

遺構内埋土　遺構内に堆積している埋土は暗黒褐色土で，小粒の淡褐色軽石を含む。遺構北側では池田降下軽石が入る部分も見られた。埋土はほぼ一様であり，硬化面なども認められなかった。

遺構内遺物　202～213は甕形土器である。そのうちの，202～206は口縁部付近，207～209は胴部を中心とした部位，210～213は底部付近である。202は口径が32cmあり，口縁部は若干波打ったようになっている。口縁部下約４cmにM字状の突帯を巡らせている。器面調整は，外面がハケ目及びナデ調整であり，内面はハケ目調整が行われている。口縁部の形状もさまざまで，203は端部に向けて細くなっているのに対して，204～206は肥厚した状態のまま端部に向かっている。特に，205・206は口縁部自体が非常に短くなっている。206は極端に上向きとなる。205は口縁部の下位に三角突帯が２条巡っている状況が見られる。207と209は胴部の上部に三角突帯が３条巡っており，208はM字状の突帯が巡っている。207は胴部が大きく膨らむのに対して，208は突帯部分から底部に向けて急激にすぼまっていく。器面調整は基本的にハケ目調整である。底部はすべて充実した脚台となっている。210～212の外面はハケ目による器面調整が行われている。213も上部が大きく破損しており，ほかの底部と同様，充実した脚台を有すると考えられる。外底にはナデによる調整が見られる。

214は大きく波打っており，口縁部には指頭痕と輪積みの跡が明瞭に残っていることから，器形的には甕形土器であるものの，鉢形土器である可能性も考えられる。

215～231は壺形土器である。そのうち，215～221及び228は口縁部，222～227は頸部から胴部にかけて，229～231は底部である。口縁部のうち216～219は端部が外側に垂れ下がるもの，215は垂れ下がらずにほぼ平らに行くもの，220は逆L字状の口縁で頸の短いもの，221は二重口縁の端部に刻みの施されたものである。口縁部が垂れ下がるものは内面に突起状に巡るものが多いが，突起を持たないものもある。器面調整はさまざまである。

222は口縁部を欠く。頸部及び胴部に４条の三角突帯が巡っている。器面調整は外面がミガキ，内面には指頭痕が明瞭に残り，その上からナデ調整が行われている。223から225は頸部であるが，頸部は何れも長いタイプである。226と227は胴部の上部に三角突帯が施される。228は無頸の壺形土器である。胴部の最大径よりも上部

に３条の三角突帯が巡っている。229の底部は平底であるが，若干不安定である。

232は高坏の本体底部から脚部にかけての部分である。

竪穴住居跡４号（第48図）

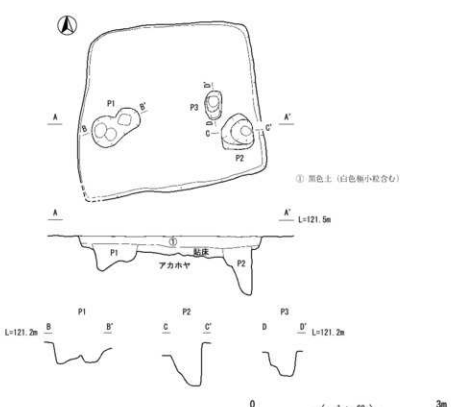
検出状況　Ｅ－８区で検出された。検出面はⅥ層上面で，住居跡の周辺はゴボウのトレンチャーが縦横に走っており，トレンチャーの土を取り除いたところ，ワッフル状となっていたため検出は困難な状況であった。Ⅵ層の池田降下軽石層まで掘り下げながら，軽石が認められない部分を見極めつつ，トレンチャーの断面を見ながら住居の壁の立ち上がりをつかんで行った。

形状　住居跡４号の平面形状は，台形に近い隅丸方形を呈する。長軸292cm，短軸265cmで，検出面から床面までの深さは深いところで12cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では最も小型と言えるが，検出面が低いことに起因する中央段掘りの可能性も考えられることを付け加えておきたい。一旦アカホヤ層まで掘り下げ，その後，その上に土を盛って固めて貼り床としている。その土は，アカホヤブロック混じりの黒色土であり，わずかに池田降下軽石が混じっている。アカホヤ層まで掘り下げた時点では，全体的に東側に向けて傾斜していたが，貼り床を形成した時点では若干傾斜の度合いが小さくなっている。ピットは貼り床を作った後に掘られている。

ピットは複数基が固まったものを１基として数えた時，総計で３基検出された。２本の主柱を考えるならば，Ｐ１とＰ３が位置的にふさわしいと考えられるが，Ｐ１とＰ２である可能性も捨てきれない。Ｐ１のほか，Ｐ３またはＰ２のいずれかが住居に伴うものと考えられる。その場合，残った１基をどのように考えるべきかの判断は留保せざるを得ない。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は一様で，暗黒褐色土とアカホヤ火山灰のブロックの混ざり土であり，わずかに池田降下軽石が見られた。床面はアカホヤ火山灰の二次堆積層であり，堆積していた土は床面を形成するために埋め戻した土である可能性が高い。

遺構内遺物　住居跡内からは，遺物の出土がほとんど見られなかった。検出面が他の住居と比べて低いこともあるが，埋土中にも遺物は混じっていなかったと考えられる。



第48図　竪穴住居跡４号

竪穴住居跡５号（第49図～第51図・第180図）

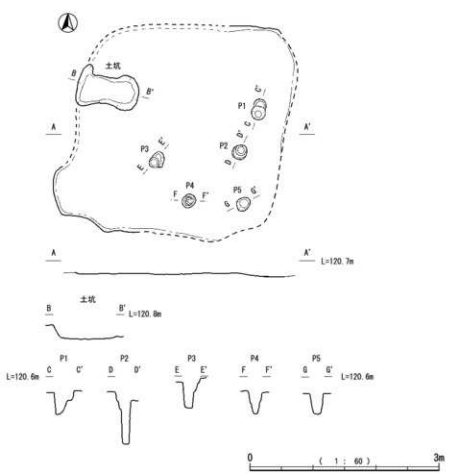
検出状況　B・C－11・12区で検出された。検出面はⅥ層上面と考えられるが，住居跡の周辺はゴボウのトレンチャーが走っていたほか，道路工事に係る床掘りで破壊されていたり，削平を受けたりしており，残存状況は極めて悪いものだった。調査はトレンチャーの土を取り除いて床面と思われるところを検出し，その床面を追いかける形で行った。しかし，検出は困難で，トレンチャーの断面を見ながら住居の壁の立ち上がりをつかんで行くというような状況での調査であった。

形状　竪穴住居跡５号の平面形状は，下端の形状で花弁と考えられる部分もあり，最後まで悩まされたが，最終的に平行四辺形に近い隅丸方形を呈するものに復元した。長軸360cm，短軸334cmで，検出面から床面までの深さは深いところで24cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では比較的小型のものである。

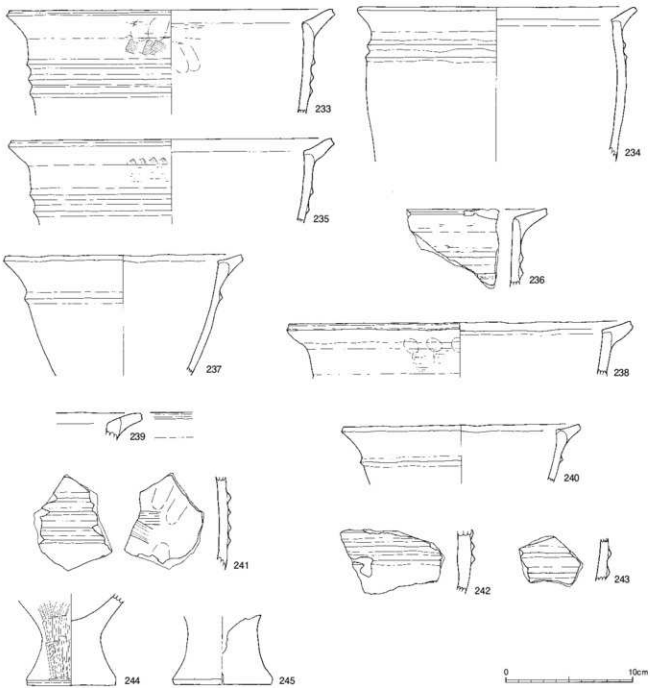
いたるところでトレンチャーなどにより破壊や撹乱を受けているが，部分的に床面を中心に残存しているところでは，張り出し部のような形状の部分もあり，本来の形状は判然としない。

そのような中でピットは５基検出されているが，極めて近い位置に隣接しているものを１基と数えている。全体として東南部に偏って位置していることから，住居に伴うものであるか否かについては不明である。また，西側の北寄りには土坑が確認されている。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は一様で，暗褐色土とアカホヤ火山灰のブロックの混ざり土であり，池田降下軽石も見られる。床面は黒褐色土で，Ⅳ層に該当すると考えられる。



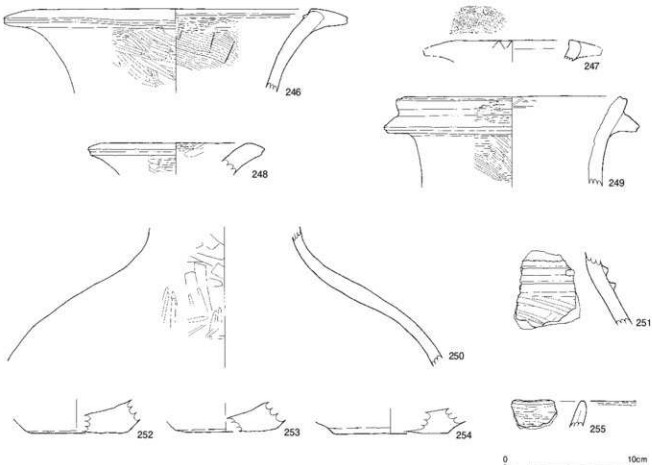
第49図　竪穴住居跡５号



第50図　竪穴住居跡５号出土遺物１

遺構内遺物　233～245は褐形土器である。そのうち，233～240は口縁部及び口縁部から胴部にかけて，241～243は胴部の突帯，244と245は底部である。233は口径26cmで，端部にかけては両面からほぼ直線的にすぼまっている。胴部には３条の整った三角突帯が巡っており，貼り付けた部分は３条とも直線的である。器面には両面ともに指頭痕が残るものの，調整は外面がハケ目及びナデ，内面はナデである。234は口径が22.1cmで，端部へのすぼまり方は，内面は直線的であるのに対して外面は緩やかなカーブを描いている。胴部には２条の三角突帯が巡っているが，直線的に整ってはおらず，貼り付け部分も大きく蛇行している。235は口径25.8cmで２条の整った三角突帯が巡っている。端部にかけては両面とも下向きにカーブしながらすぼまる。236は両面が上向きにカーブしてすぼまっている。２条の三角突帯が付されている。237は口径19.0cmで，内面は下向きにカーブし，外面は直線的に端部へとすぼまっている。１条の三角突帯がやや屈曲しながら巡る。240と極めて類似している。238は口径が27.4cmで，口縁部が肥厚している。239は外面に垂れ下がり気味にカーブして端部へと向かう。237～240は口縁部が全体的にうねった状態となっている。

241～243は４条及び２条の三角突帯を持つ胴部の破片である。244と245は充実した脚台を持つ底部である。245は上部を欠くが244と同程度の脚部を持つ底部になると考えられる。



第51図　竪穴住居跡５号出土遺物２

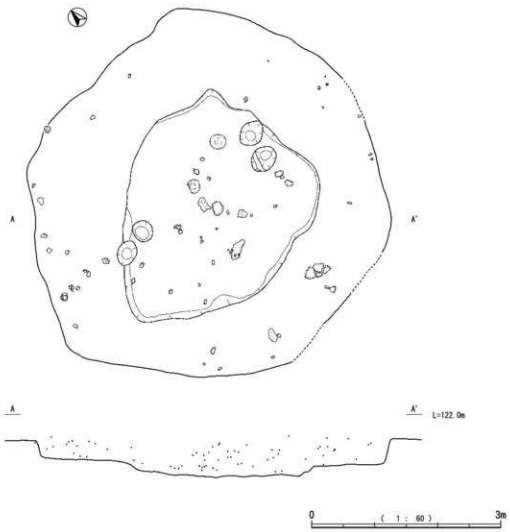
246 ～ 254は壺形土器である。そのうちの246 ～ 249は口縁部，250は頸部から胴部にかけて，251は胴部の突帯，252 ～ 254は底部である。246と247は口縁部が外側に垂れ下がるものである。246は口径が27cmの大型のものである。内部には小さな突起状のものが巡っている。端部は凹み，全体的にややうねっている。器面調整は外面がミガキ，内面は突起の直下はミガキ，それより下位はハケ目調整が施されている。247も同様な器形であるが推定口径が14cm程度と小型である。口唇上面に細く丁寧に鋸歯文が付されている。248は頸部からそのまま口縁部へと立ち上がるタイプの口縁部である。口径は14cmで器壁は1.3cm程度と厚い。249は二叉口縁の壺形土器の口縁部である。口径は鍔部で20.2cmである。器面調整は，外面はミガキとナデ，内面はミガキが見られる。

250は頸部から胴部にかけての部分である。すぼまった頸部から胴部にかけて大きく膨らんでいる。計測値で，頸部が約12cm，胴部が約34cmで，10cmの高さで22cmほども膨らむという胴部の張りが見られる。外面の器面調整は頸部付近がハケ目，胴部はミガキによって調整が行われている。251は胴部上部に巡らされた三角突帯で，２条付されている。

252 ～ 254の底部は何れも平底で安定している。252と253は底部からの立ち上がりが丸みを帯びているのに対して，254は鋭く外反しながら胴部へと向かっている。底径はそれぞれ8.0cm，8.0cm，9.2cmと大きくは変わらない。何れも完全品ではなく破損している。

255は内面がミガキによって丁寧に器面が調整されている。端部が丸みを持って大きく開いていることから，鉢形土器の口縁部ではないかと考えられる。

1162は刀子片と思われる鉄製品である。残存長2.8cm，最大幅は1.9cmで，下方の端部は薄くなっている。



第52図　竪穴住居跡６号１

竪穴住居跡６号（第52図～第56図）

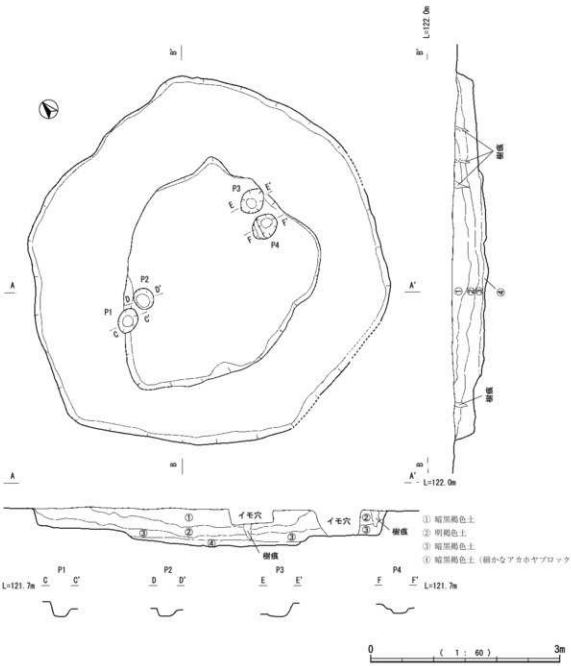
検出状況　D・E－５・６区で検出された。包含層の掘り下げを行っていたところ，Ⅲ層上面で周辺よりわずかに土の色が黒かったことから遺構の所在を判断した。周辺にはゴボウのトレンチャーの跡がなかったことから，遺構の残存状況は良好であったが，遺構のラインの見極めは困難であった。そのため，イモ穴を利用してその壁から住居の立ち上がりのラインなどを検出して行った。

形状　竪穴住居跡６号の平面形状は，ほぼ円形を呈する。長軸が585cm，短軸は560cmである。検出面から床面までの深さは62cmで，床面を剥いだ掘り方部分までの深さは６cm程であった。住居の中央部分は，外側よりも５～６cm低くなった段掘りである。硬化面などは認められなかった。

ピットについては，同じような大きさのピットが４基検出された。中央部の段掘り部分での位置関係から，Ｐ２とＰ４が住居に伴うピットではないかと考えられるが，深さが10cm程度しか残存していないことから問題も残る。Ｐ１及びＰ３もほぼ同様な形状と深さを有していることから，決定的なことは言えない。ただ，内部にはほかにピットが見られないことから，これらのピットを本住居跡に伴うピットと考えざるを得ない状況であり，その場合には建て替えが行われた可能性も考えられる。いずれにしても２本の主柱による建物と考えられる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している埋土は主に３つに分かれる。一番上に堆積している土は暗黒褐色土で，検出面のⅢ層よりも暗い色調で，Ⅱ層に当たる土であると思われる。粘質はなく，さらさらしている。中位に堆積している土は暗灰褐色硬質土で，非常に硬くしまった土である。粘質はなく，１～３㎜程度の黄橙色パミスを多量に含んでおり，火山灰の可能性も考えられる。

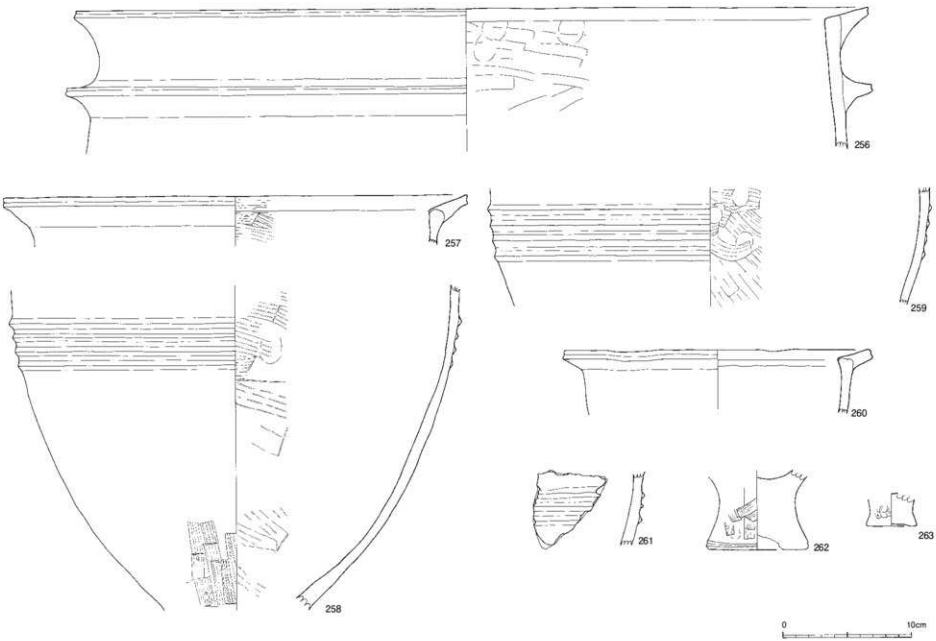
床面直上に堆積している埋土は暗黒褐色土で，検出面の低かった１～４号に堆積しているものと同様の土である考えられる。若干粘質があり，池田降下軽石と思われる黄白色軽石を少量含んでいる。床面より下位では他の住居跡と同様，暗黒褐色土と５㎜～１cm程度のアカホヤ火山灰のブロックの混ざり土が見られ，床面形成のために埋め戻した土と考えられる。



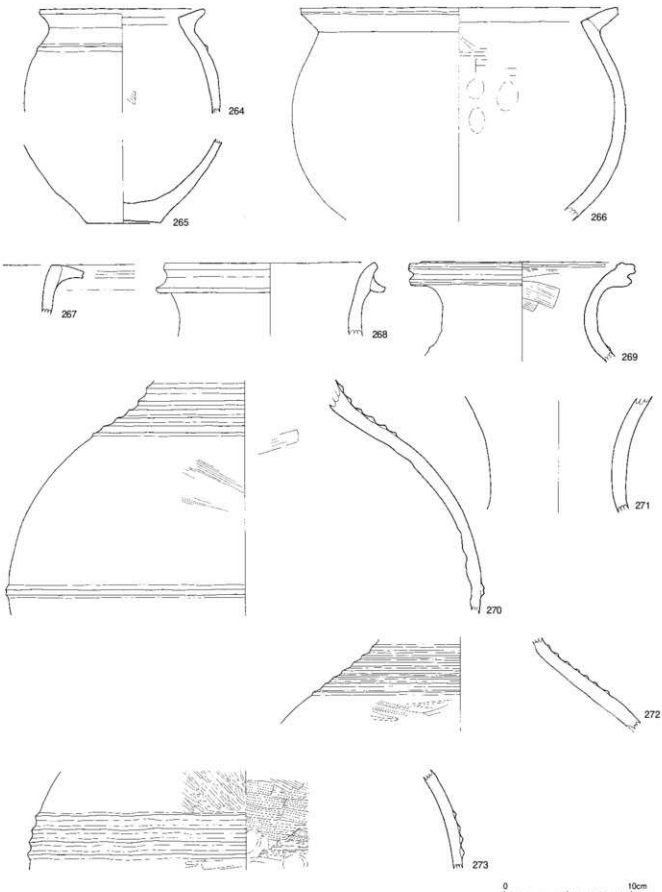
第53図　竪穴住居跡６号２

遺構内遺物　256 ～ 263は壺形土器である。そのうち256は大型壺形土器の口縁部である。口径が61.4cm，鍔部分の径は62cmとやや大きい。口縁部はやや上向きで，鍔部分はほぼ横向きである。器面調整は内面がハケ目調整で，指頭痕が残る。257は標準的な壺形土器の口縁部で，口径は36.0cmである。口縁部は256と同様上向きであるが，外面の仕上げを256は滑らかな上向きに整えているのに対して，257は幾分下向き加減に厚く整えている。260は口径23.6cmで端部が緩く波打った状況を呈する。258と259と261は胴部に付された突帯で，何れも三角突帯が付されている。258は胴部径約35cmのところに４条のやや先端部が鋭さを欠いた三角形の突帯が巡らされる。器面調整は外面の下部及び内面の全体がハケ目調整である。259は胴部径約34cmのところに258と同様に４条の三角突帯が巡らされているが，先端部が鋭い印象を受ける。内面の器面調整はハケ目に指頭痕が残る。261は３条の三角突帯が付され，全体的にややうねる。262と263は底部。262は充実した脚台であるが，外面の中央部を欠く。263は高さがやや低い。器面調整は何れも外面はハケ目調整。

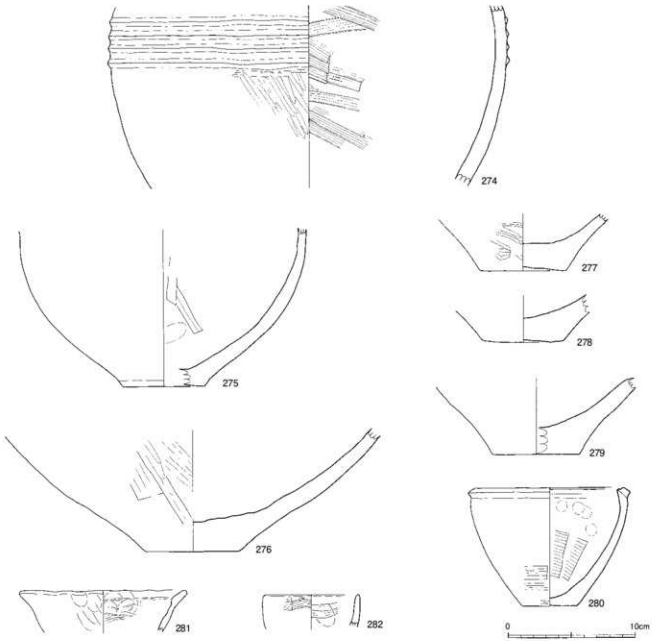
264 ～ 279は壺形土器である。264 ～ 266は短頸の壺形土器である。264は口径13cmで頸部の下位に１条の三角突帯が付され，内面はハケ目調整である。266は口径25cmで頸部下位に突帯のないものである。内面に指頭痕が残り，ハケ目調整がなされている。265は底部で，底径5.8cmで若干上げ底となっている。胴部の張った器形である。267 ～ 269は有頸の壺形土器の口縁部である。267は口縁



第54図　竪穴住居跡６号出土遺物１



第55図　竪穴住居跡６号出土遺物２



第56図　竪穴住居跡６号出土遺物３

部が外側に向けて垂れ下がる。268は二叉状の口縁となる。269は二重口縁となる。268は口径が16.8cm，鍔部の径が18cmと鍔の径が大きい。269は口径が18.0cmである。270と272は頸部から胴部にかけての部分で，何れも頸部から下位にかけて270が６条，272が７条，三角突帯が巡る。270には胴部最大径付近にM字状突帯が巡る。273は胴部に付された４条の三角突帯が巡っている。器面調整は外面がミガキとハケ目，内面はハケ目調整で指頭痕も残る。胴部径が273が34cm，274は31cm程度である。275～279は底部付近である。275は底径が6.4cmで若干上げ底。底部から胴部へと大きく膨らむ。残存する胴部の最大径は22.4cm。276は底径7.4cmで，胴部へは急激に膨らむ。完全な平底である。277は底径6.7cmで上げ底，278は底径6.5cmで若干上げ底，279は底径7.0cmで完全な平底である。

280～282は鉢形土器である。280は口径12.9cm，器高が9.4cm，底径が4.4cmである。口縁部は粘土紐を貼り付けて，若干肥厚させている。口縁は若干内傾している。器面調整は内外面ともにハケ目調整を行っており，内面には指頭痕も残っている。281は口縁が大きく開くタイプのもので，端部は波打ったようになっている。内外両面に指頭痕が明瞭に残り，器面の厚みも整っていない。282は口縁がほぼ直立するものである。口径は7.8cmである。

竪穴住居跡７号（第57図～第69図）

検出状況　D－10区で検出された。包含層の掘り下げを行っていたところ，周辺に比べて大きな破片の土器がまとまって出土し始め，土の色も周辺とは若干違うことから遺構があると判断した。この周辺にはゴボウのトレンチャーがなかったため遺構の残存状況は良好であったが，東側には水路があり，そのために遺構がすでになく，また，西側も遺構に気づくことができずに掘り下げてしまい，残存していなかった。本住居跡は出土した土器が大量であったことから，土器を取り除いてから遺構を検出することとなった。

形状　水路等によって破壊されていたために全体の形は明確ではないが，ほぼ円形に近い形状か東西方向に長い卵形を呈すると思われる。残存部分で計測すると，長軸（A－A'）531cm，短軸（B－B'）350cm以上である。検出面から床面までの深さは最も深いところで66cmであった。住居の中央部分は周辺よりも10cm程低くなっている段掘りである。硬化面などは認められなかった。

ピットは４基検出された。主柱穴と考えられるＰ２のようなピットも見られるものの，水路による削平等のために，ピットの対応関係については明確ではない。ただ，想像をたくましくして検討するならば，段掘りの内部にあるＰ２と，東側の水路により削られた部分にあったと想像されるピットと大きさや深さが対応するならば，それを主柱と考えて，２主柱の建物であったのではないかと想定される。そうであれば，ほかのピットが小さいことや位置的に統一性がないことが説明できる。

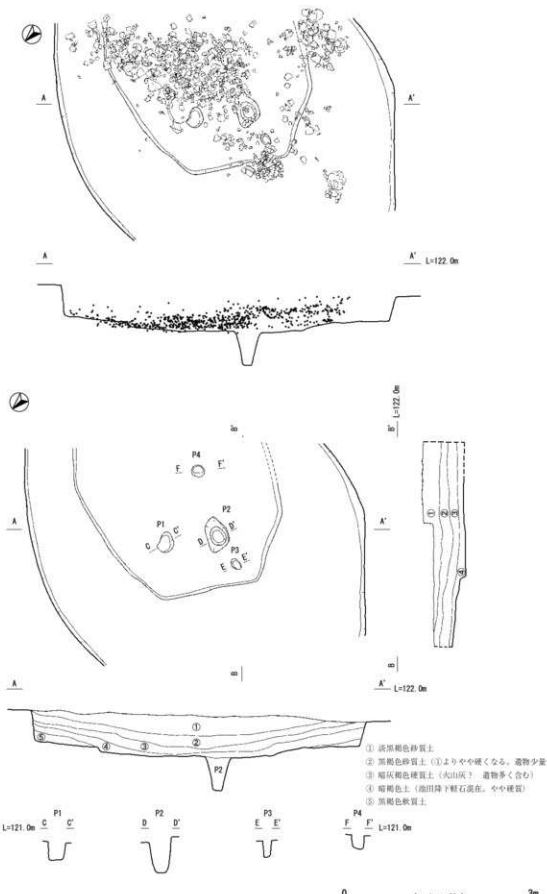
遺構内埋土　遺構内に堆積している埋土は５つに分けられる。遺物が出土する層は２層目と３層目であり，その中でも３層目が遺物包含の中心である。２層目は黒褐色砂質土で，検出面のⅢ層よりも暗い色調を呈しており，Ⅱ層に当たる土であると思われる。３層目は暗灰褐色砂質土で，非常に硬くしまった土である。４層目は暗褐色土で，池田降下軽石のパミスが含まれており，やや硬質である。床面は他の住居跡と同様で，暗黒褐色とアカホや火山灰のブロックが混ざった土である。

遺構内遺物　先述したように，住居跡からは大量の遺物が出土し，番号取り上げしたものだけでも726点の出土が見られた。甕形土器，壺形土器をはじめとして多くの土器を完全な形にまで復元することができた。完形となる土器を中心に図化した。

283～315は甕形土器である。そのうち283・284・294・301・302は完形土器として復元できたものである。283は口径30.1cm，底径8.0cm，器高31.7cmを測り，胴部上半に３条の三角突帯を巡らす。突帯は等間隔に巡らされておらず，上の１本だけがやや離れて貼り付けられている。器面は内外面ともにナデによって調整されており，内面上部には指頭圧痕が見られる。また，内面の下半部にはコゲの付着も確認された。302は口径33.5cm，底径7.8cm，器高35.4cmを測る。302も283と同様，外面上半部及び内面下半部にスス及びコゲの付着が見られる。284・301については283・302と比べて突帯を巡らす位置が若干上方となっており，また胴部も張っている。294は口径35.2cm，底径8.6cm，器高37.5cmを測り，完形に復元できた甕形土器の中では最大である。口縁から胴部にかけて復元したもののうち，285は口径30cmを測る。外面には口縁部の稜線が明瞭に見られ，突帯部分と胴部下半にはススの付着が見られた。290は口径23.6cmで，胴部に突帯が貼り付けられていない土器である。口縁部は逆L字状から，く字状となるが，口縁部の厚さや端部へのすぼまり方，内外面の形状などはさまざまである。突帯があるものはすべて三角突帯であるが，口縁からの距離にもいろいろある。胴部から底部にかけての部分から復元できたものの中では，303は底径７cmで，器壁のつくりが薄い土器である。胴部にはススの付着が見られる。底部は何れも充実した脚台であり，器面調整はほとんどハケ目調整によっている。313は上げ底の底部であり，幾分新しいものと考えられる。314と315は大型甕形土器の口縁部である。下位に鍔のつくものもある。

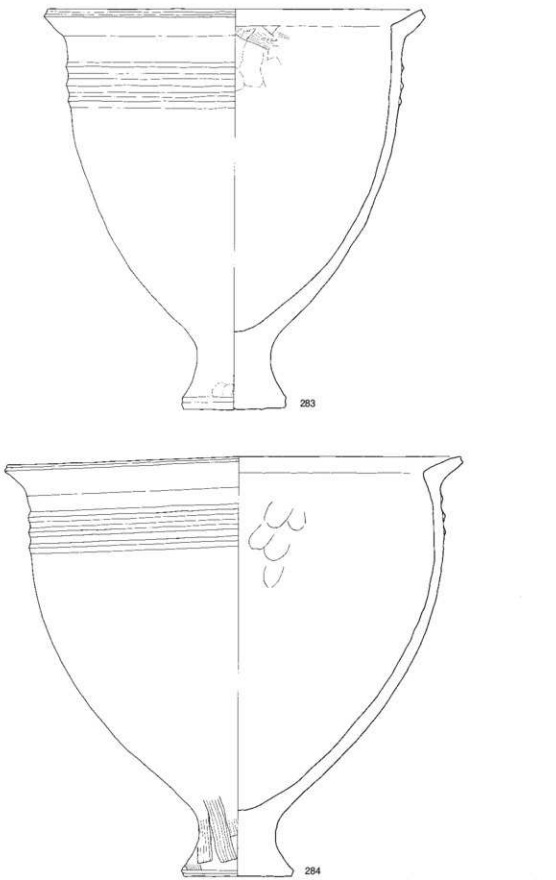
316～343は壺形土器である。そのうち316・317・341・343は完形に復元できた土器である。316と317は口縁部が垂れ下がった形状のものである。316は推定口径21.2cm，胴部最大径39.2cm，底径6.1cmで器高は47.4cmの土器で，頸部・胴部に突帯のないものである。317は口径23.0cm，胴部最大径30.6cm，底径6.2cmで器高は45.3cmあり，肩部に７条，胴部に４条の三角突帯が巡っている。318～324は口縁部から頸部，肩部にかけてのもので，肩部には三角突帯を巡らせるものが多い。325と326は頸部から胴部，底部にかけて復元できたものである。双方ともに肩部には三角突帯が巡り，胴部には326は三角突帯が，325には３条のM字状突帯が巡っている。何れも胴部は大きく膨らんでいる。327～331は底部である。何れも平底で，安定している。332は２条のM字状突帯が胴部に巡る。333～335は二又口縁の壺の口縁部である。口縁部下位の鍔部の形状はそれぞれに異なる。335は口縁部の内面の内傾付近に刻みが見られる。336～339はM字状突帯。

341・343は頸部がほとんど見られず，胴部上半に１条の突帯を持つ土器である。341は口径22.6cm，底径13.9cm，器高43.4cmを測り，器面調整は外面はナデ調整後ミガキ，内面はナデ調整である。突帯は断面が台形状でくぼみがあり，貼り付けた部分の内面には若干膨らみが見られる。343は口径22.3cm，底径8.6cm，器高38.6cmを測り，器面調整は外面はナデまたはミガキ，内面は丁寧なナデ調整である。突帯は341と同様，断面台形状で凹みが見られる。また，口縁部から胴部にかけてはススの付着が見られる。

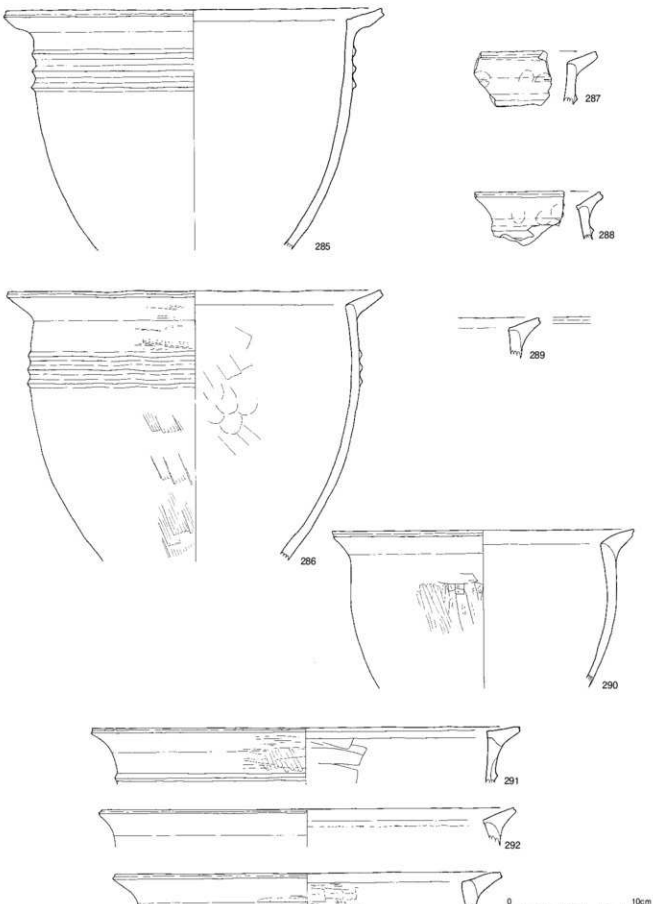


第57図　竪穴住居跡７号

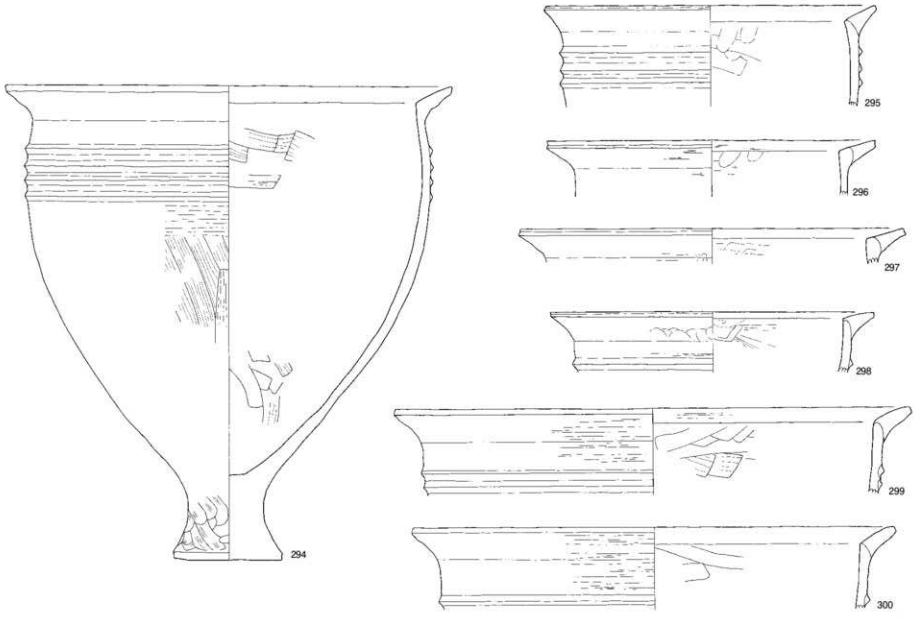
第58図　竪穴住居跡７号遺物出土状況



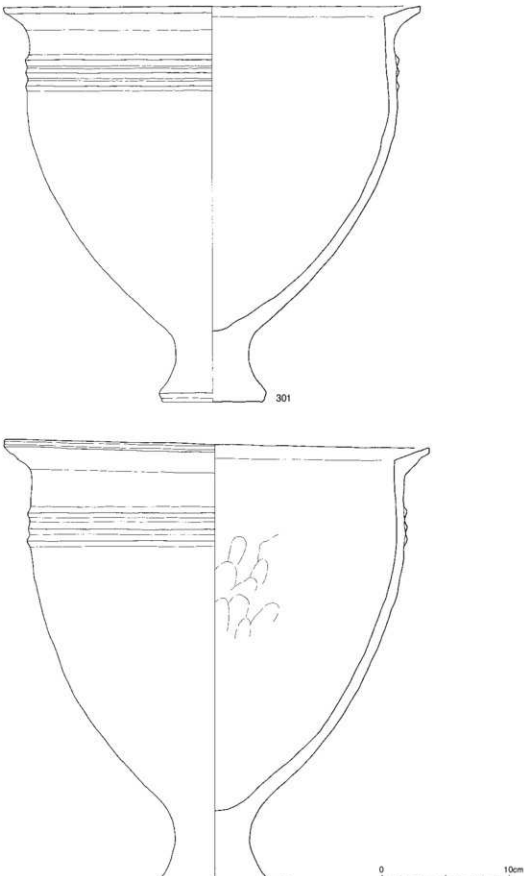
第59図　竪穴住居跡７号出土遺物１



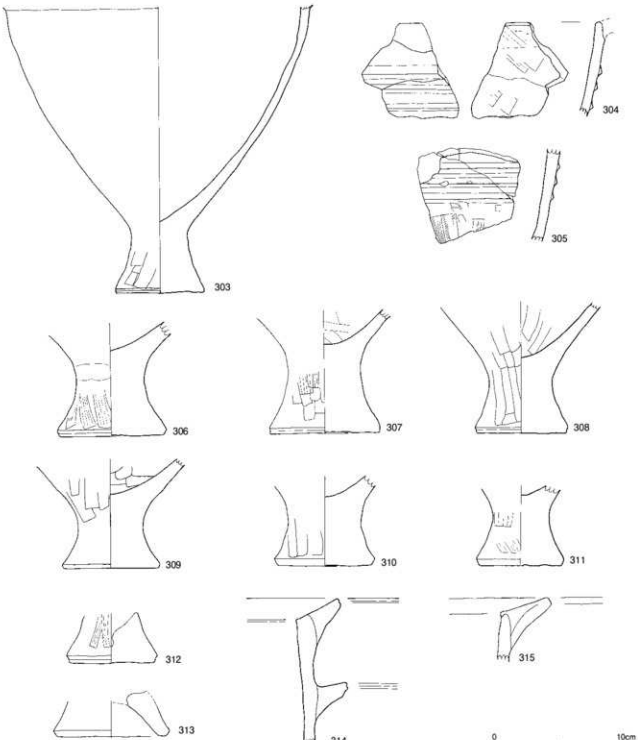
第60図　竪穴住居跡７号出土遺物２



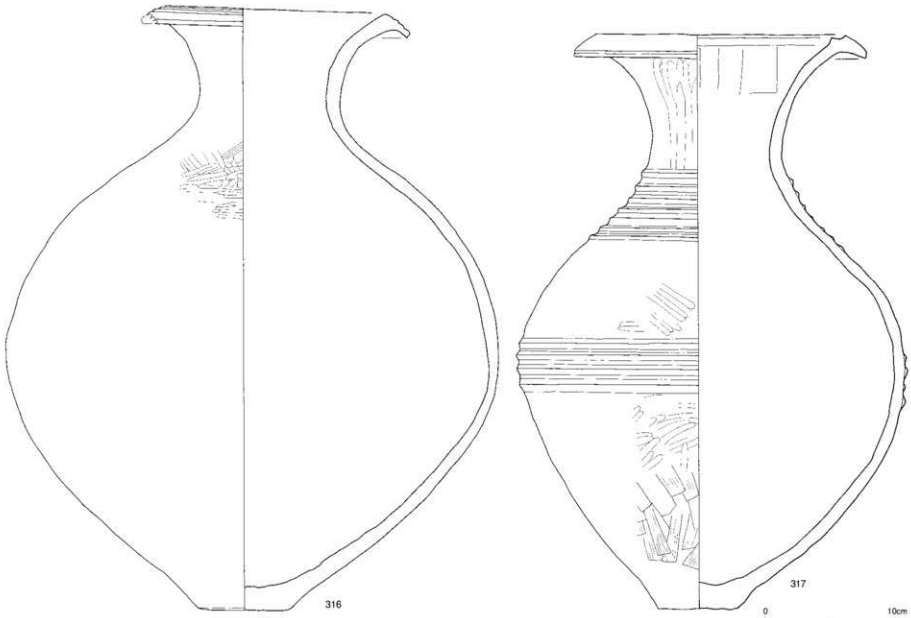
第61図　竪穴住居跡７号出土遺物３



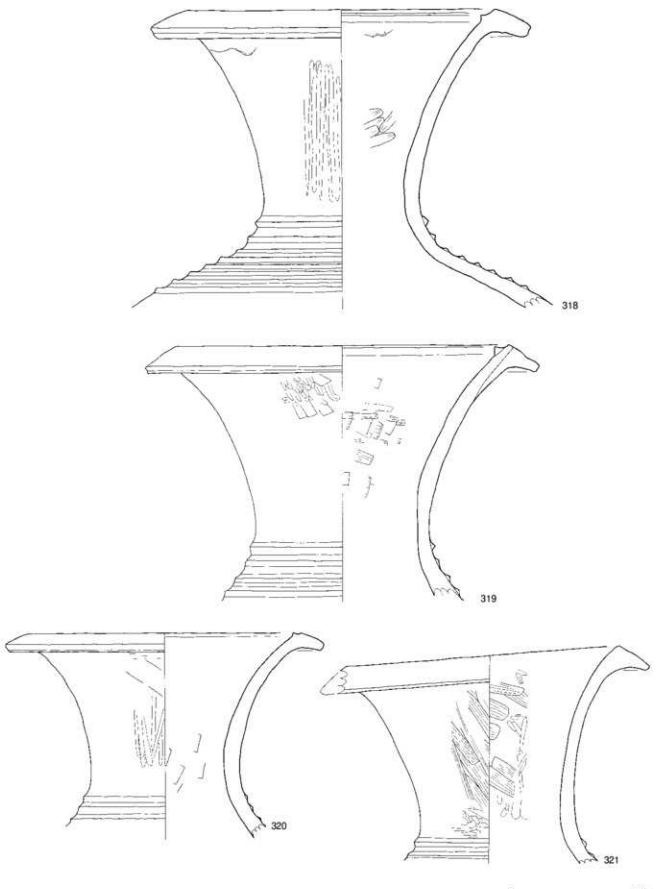
第62図　竪穴住居跡７号出土遺物４



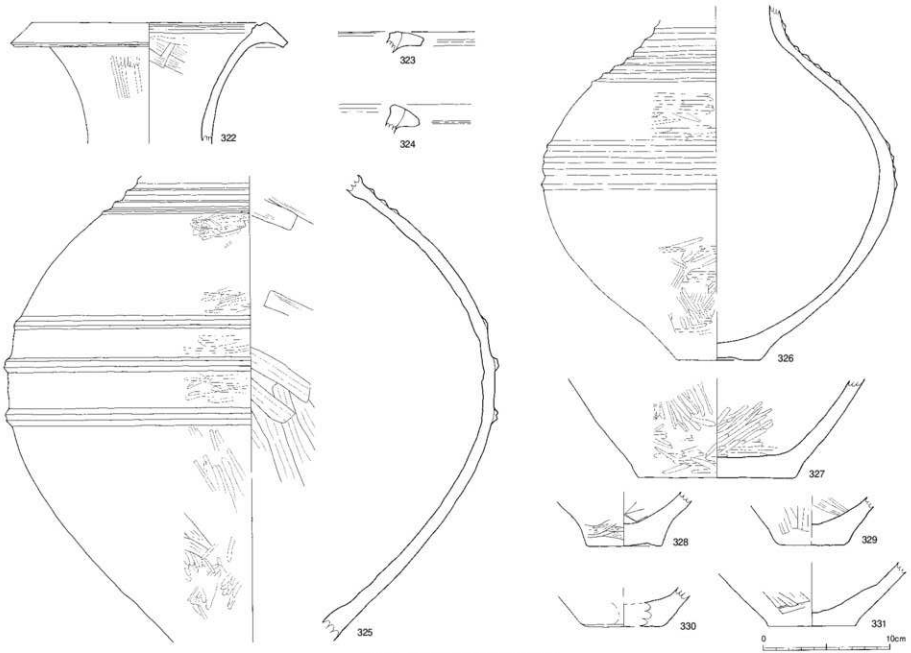
第63図　竪穴住居跡７号出土遺物５



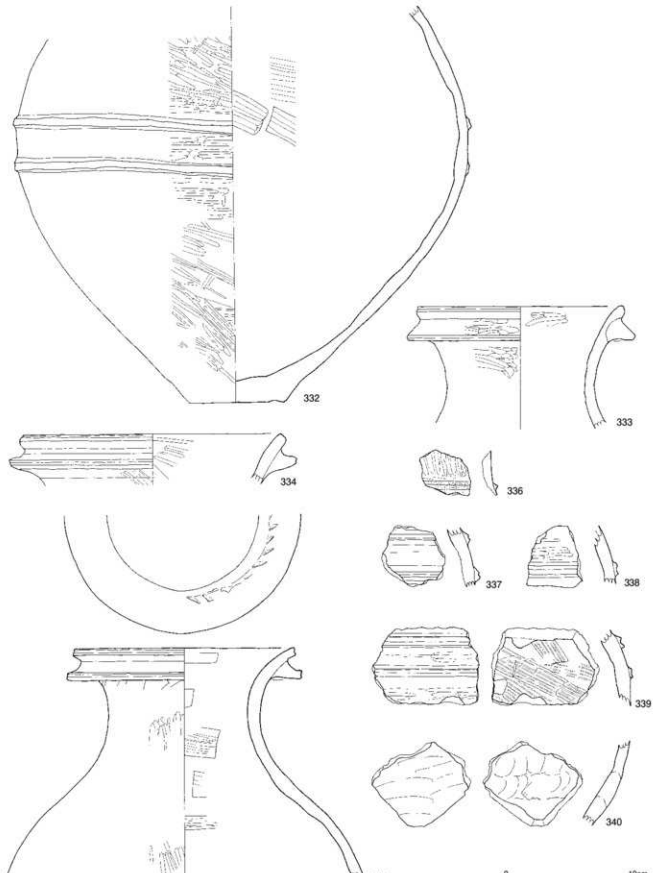
第64図　竪穴住居跡７号出土遺物６



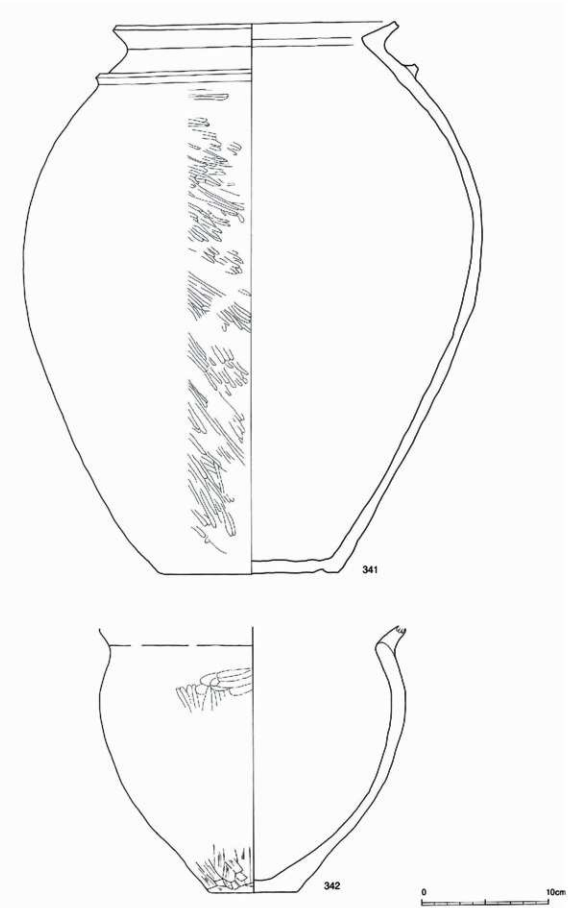
第65図　竪穴住居跡７号出土遺物７



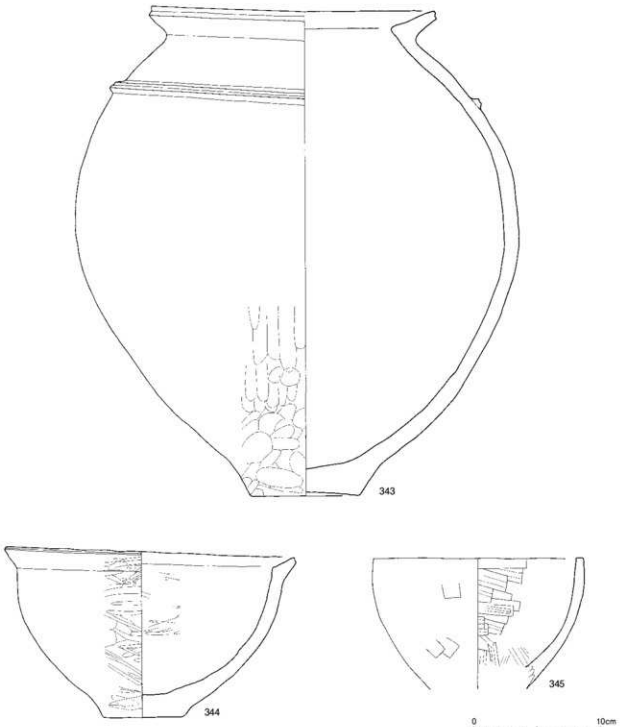
第66図　竪穴住居跡７号出土遺物８



第67図　竪穴住居跡７号出土遺物９



第68図　竪穴住居跡７号出土遺物10



第69図　竪穴住居跡７号出土遺物11

344と345は鉢形土器である。344は口径22.9cm，底径6.2cm，器高は13.6cmの完形品である。口縁部は，く字状になっており，内面には明確な稜が見られる。本遺跡での鉢形土器の完形品の出土は珍しく，その意味からも貴重と言える。345は口径が16.6cmに復元された鉢形土器で，口縁部は直立している。器面調整は，344は内外面ともにミガキ，345は内外面ともにハケ目調整である。

竪穴住居跡８号（第70図～第73図）

検出状況　C・D－33区で検出された。検出面はⅢｄ層である。床面はⅥ～Ⅷ層まで掘り込んで作っている。

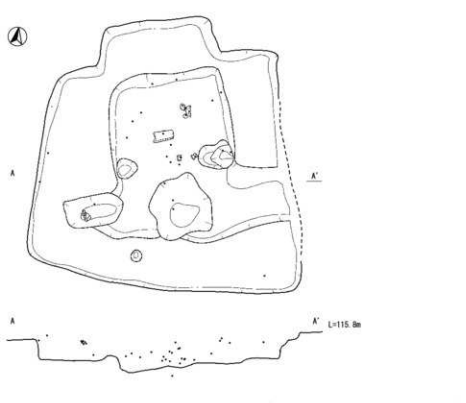
埋土から甕形土器の口縁部や三角突帯が巡る胴部，底部などが出土したほか，土坑から甕形土器の口縁部から三角突帯が巡る胴部が出土している。

形状　竪穴住居跡８号の平面形状はややいびつな台形を呈し，北側に張り出しを設けている。また，内部にはベッド状の遺構を有する。さらに，中央部は約２ｍ×2.5mほどに段を作っているほか，東側は中央部付近が東辺まで段の下位の深さで繋がっており，本遺跡で検出されている竪穴住居跡の中では特異と言えるかもしれない。なお，東側の上部は削平を受けている。また，張り出しを含むベッド状の遺構は，中央部の段によって切られることはなく，北東の部分でも12.3cmほどで辛うじて繋がっている。長軸427cm，短軸405cm以上で，検出面から床面までの深さは深いところで40cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的な大きさである。

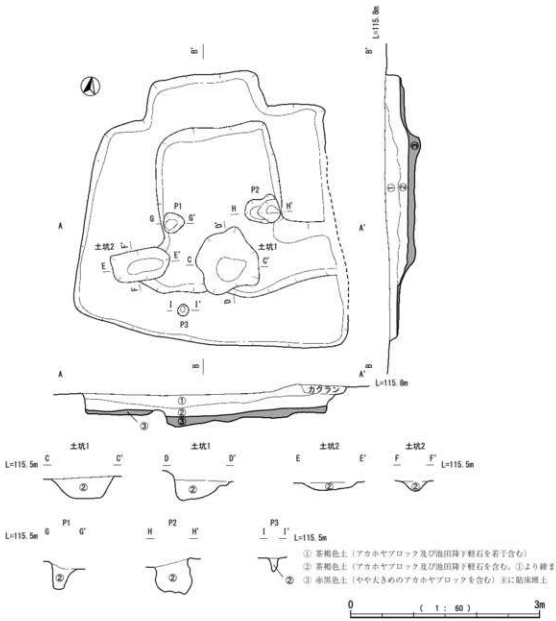
ピットは２基検出されたほか，土坑も２基検出され，いずれも住居に伴うものと考えられる。ピットは中央部の段の東西に位置しているＰ１とＰ２の２基のピットが主柱穴と考えられる。２基の土坑のうち中央部の土坑１は大きく深いが，西側に位置する土坑２は極めて浅いことから，使用方法や目的等が異なるのかもしれない。なお，２基の土坑何れからも土器が出土しており，注目される。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。最上層は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでいる。２層目は茶褐色土でアカホヤブロックと池田降下軽石を含んでいる。１層目及び２層目の土はⅢ層～Ⅳ層の混土と考えられ，やや締まりがある。３層目はアカホヤブロックを含む赤黒土で締まりがある。Ⅶ層に類似したブロックを含んでいる。

遺構内遺物　346～366は甕形土器である。そのうち，346は大型甕形土器の口縁部である。口径55.6cm，胴部分の径は57cmと若干大きめである。口縁部は上向き，胴部分は若干下を向いている。器面調整は，内外面ともにナデ調整が行われているほか，内面は指頭によるナデも見られる。347～350は標準的な大きさの甕形土器の口縁部から胴部にかけて復元したものである。口径は347の31.0cmから349の23.0cmくらいまでさまざまである。器面調整は内外面ともにハケ目とナデが多用されている。胴部上位には三角突帯が巡っており，348は貼り付けがややうねっているほかは，ほぼ直線的に貼り付けが行われている。351～355は口縁部である。口縁部の断面形状はさまざまである。特に355は逆Ｌ字状の口縁がほかのものと比較して非常に短いことから，時期的に古いことが考えられる。356～358は三角突帯を貼付した胴部である。三角突帯は１条から３条までのものが見られる。359は胴部下部で，底部に極めて近い部分である。360～366は底部である。



第70図　竪穴住居跡８号１

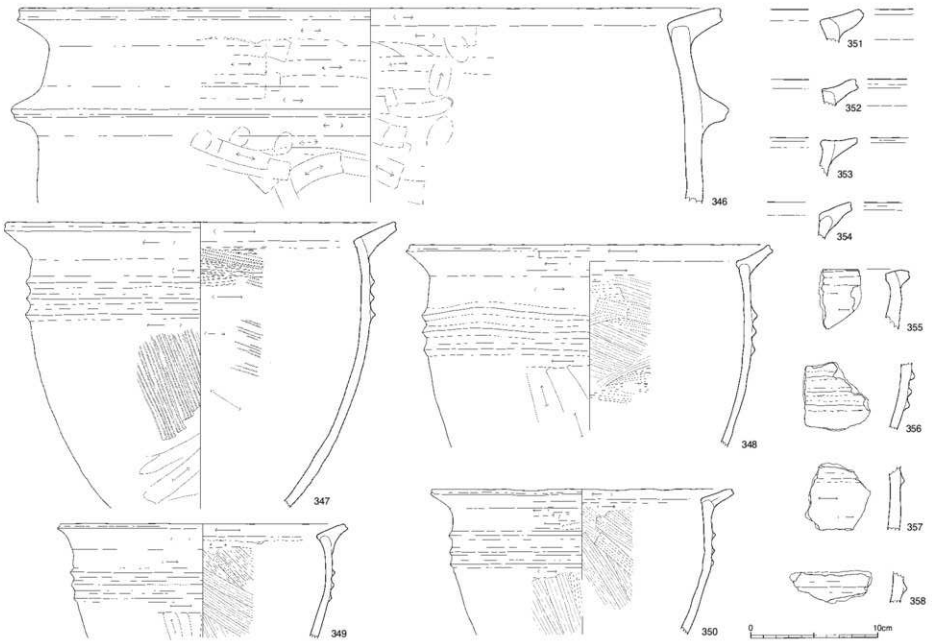


第71図　竪穴住居跡８号２

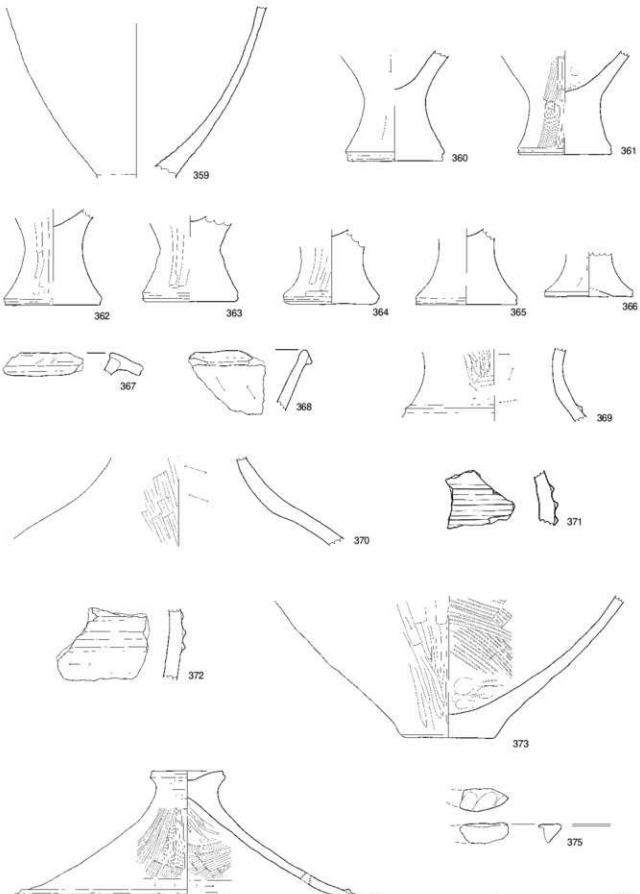
何れも充実した脚台となるものである。外面の器面調整はハケ目とナデが多く見られる。366は外底の中央部が上げ底となっている。

367～373は壺形土器である。367と368は口縁部であり，367は口縁が垂れ下がったもの，368は二重口縁となるものである。369と370は頸部から胴部上部にかけての部分である。369は肩部に１条の三角突帯が巡っている。器面調整は，外面がミガキ及びナデ，内面はナデ調整である。370は頸部から肩部にかけては大きく膨らんでいる。器面調整は外面がハケ目，内面がナデ調整である。371と372は胴部に付された三角突帯が，３条巡っている。373は底部である。底径が7.5cmで，安定した平底である。底部から胴部にかけては大きく膨らんでいる。器面調整は，外面がハケ目及びミガキ，内面はハケ目調整に指頭痕も残存している。

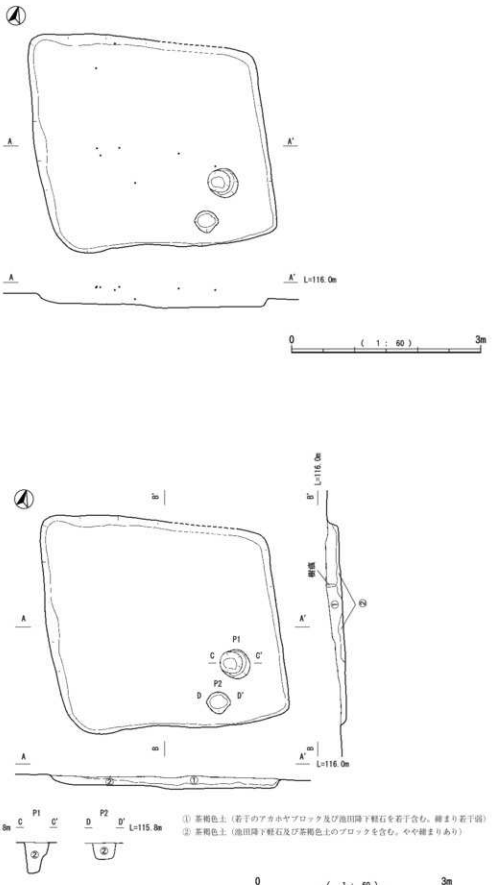
374は蓋型土器である。本遺跡での蓋型土器の出土はそれほど多くはなく，珍しい。つまみ部の径は6.0cm，裾部径は27.0cmで，器高は10.4cmである。つまみ部は中央部が凹んでおり，端部は浅く凹んでいる。蓋部の端部はM字状突帯が巡ったような状況となっている。器面調整は内外面ともにハケ目及びナデ調整であり，作りや器面の仕上げなどは極めて丁寧である。375は鉢形土器の口縁部に付けられた把手であり，指頭痕が明瞭に残っている。



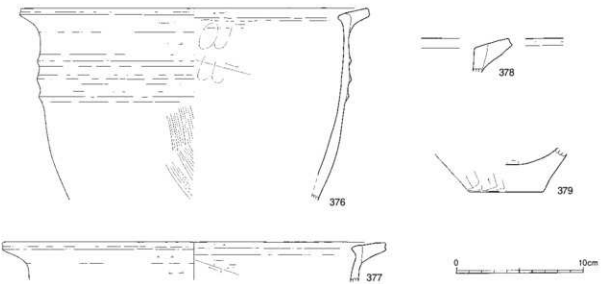
第72図　竪穴住居跡８号出土遺物１



第73図　竪穴住居跡８号出土遺物２



第74図　竪穴住居跡９号



第75図　竪穴住居跡９号出土遺物

竪穴住居跡９号（第74図・第75図）

検出状況　D－33区で検出された。検出面はⅣ層である。遺物が少数出土している。

形状　竪穴住居跡９号の平面形状は，平行四辺形に近い隅丸方形を呈する。長軸370cm，短軸321cmで，検出面から床面までの深さは深いところで22cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では割合に小型のものである。北辺の東側は一部撹乱を受けている。

ピットは２基検出されたが，２基とも住居の片側（南東側）にまとまっていることから，住居に伴うものであるとは考えにくい。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は２層に分層できる。上部の層は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含み，締まりは若干弱い。Ⅲ～Ⅵ層の混土かと思われる。下部の層は茶褐色土で池田降下軽石及び茶褐色土のブロックを含んでいる。Ⅴ～Ⅶ層の混土ではないかと考えられる。やや締まりがある。埋土にアカホヤパミスをほとんど含まないのが特徴である。本遺構は，ほかの住居跡とは埋土の状況や，貼り床が見られないなど床面の状況が異なっている点が特徴である。

遺構内遺物　図化すべき遺物が少なかったことから，４点を図化した。

376～378は甕形土器である。

376は甕形土器の口縁部から胴部にかけての部分まで復元できたものである。口径が27.6cmで，口縁部はそれほど跳ね上がらず，逆L字状の口縁に近い。頸部の下位に３条の三角突帯が巡っている。突帯間の間隔が取ってあり，それぞれが独立した状況でほぼ直線的に貼り付けられている。器面調整は，外面はハケ目及びナデ，内面はナデで指頭痕が残っている。377も同様に甕形土器の口縁部である。口径30.4cmで，376と同じく口縁部はそれほど跳ね上がらないもので，逆L字状の口縁に近い。器面調整は，観察できる範囲では内外面ともにナデ調整である。378も甕形土器の口縁部であるが，器壁や口縁部の厚さが厚いことから大型の甕形土器の口縁部ではないかと考えられる。

379は壺形土器の底部と考えられる。底径が6.1cmで，安定した平底で，厚さも2.1cm程度と厚い。器面調整は，外面はハケ目調整で，内面には指頭痕が残っている。

竪穴住居跡10号（第76図・第77図）

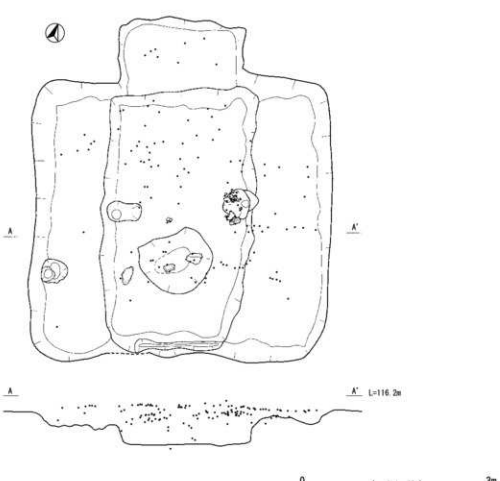
検出状況　C・D－32区で検出された。検出面はⅢd層である。Ⅶa層まで掘り込んで床面としており，中央部はⅨ層まで掘り込んでいる状況が見られる。

形状　竪穴住居跡10号の平面形状は，北側に1辺の張り出した方形を呈し，北側の張り出し部分も含めて3つのベッド状の遺構を有する形状となっている。また，中央部には段が作られ，更に深くなっている。しかも，周囲のベッド状の遺構とは繋がっておらず，完全に切られた状況となっている。長軸539cm，短軸470cmで，検出面から床面までの深さは深いところで64cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的な大きさのものである。

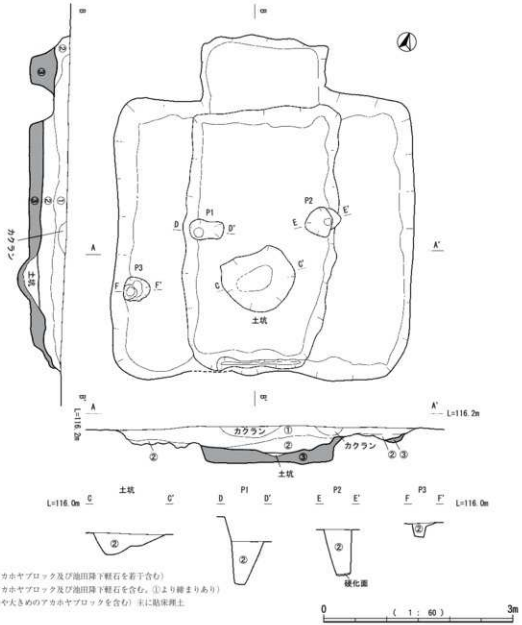
北側の張り出し部分は，一旦中央部の一段低い部分と同じくらいの深さまで掘り込んだ後に，東及び西側のベッド状遺構と同じ程度の高さまで埋め戻して作られている。東西のベッド状遺構も同様に一旦若干掘り下げた後に埋め戻しを行っている。このことは，このベッド状遺構の機能を推定する上で，非常に示唆的であるといえよう。その意味からすると，中央部の一段低い部分も一旦掘り下げた後に埋め戻しを行っていることから，本遺跡あるいはこの時期の竪穴住居の築造方法を考える際に，検討すべきことと考えられる。

ピットは3基検出されている。中央部の段掘りの部分のほぼ中央で，東西方向に同じくらいの深さで掘られているP1とP2は主柱穴と想定され，2主柱を中心として建てられる住居と考えられる。P2の最下部は硬化していたことから，相当荷重のかかる柱が立てられていた状況が想定される。P1も同様であったことが考えられる。南西側にあるP3は深さも浅く，住居に伴うものであるか否かについては判断できない。中央部の段掘りの部分，南側の中央にある土坑は床面からの深さが30cmほどある。また，南側の掘り方の中ほどにある横長のピット状の遺構は断面図でも不鮮明であることから，出入り口に設けられる階段である可能性も考えられる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は3層に分層できる。1層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。2層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。1・2層目は何れもⅢ～Ⅵ層



第76図　竪穴住居跡10号1



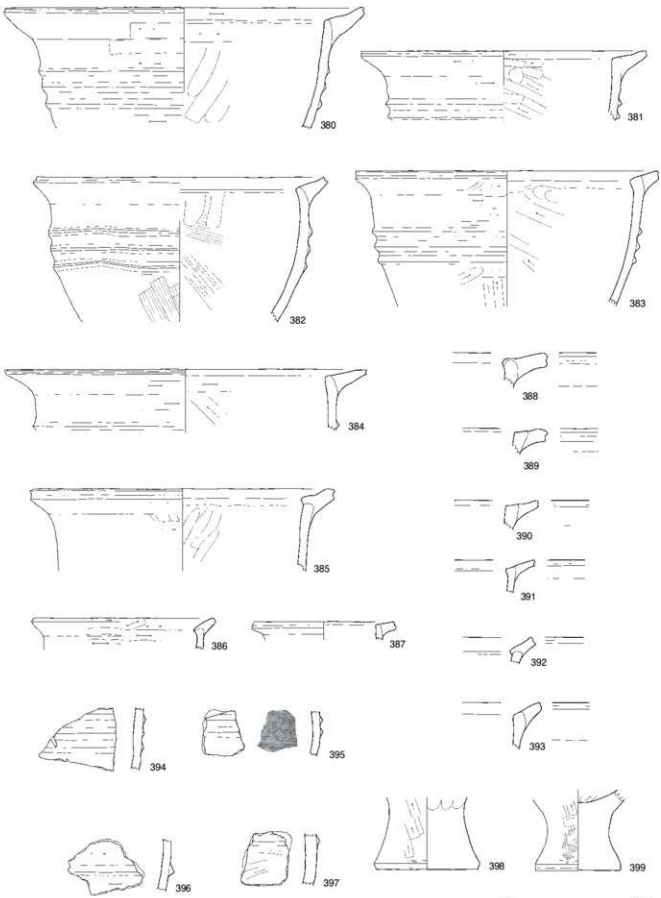
第77図　竪穴住居跡10号２

の混土と考えられる。3層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

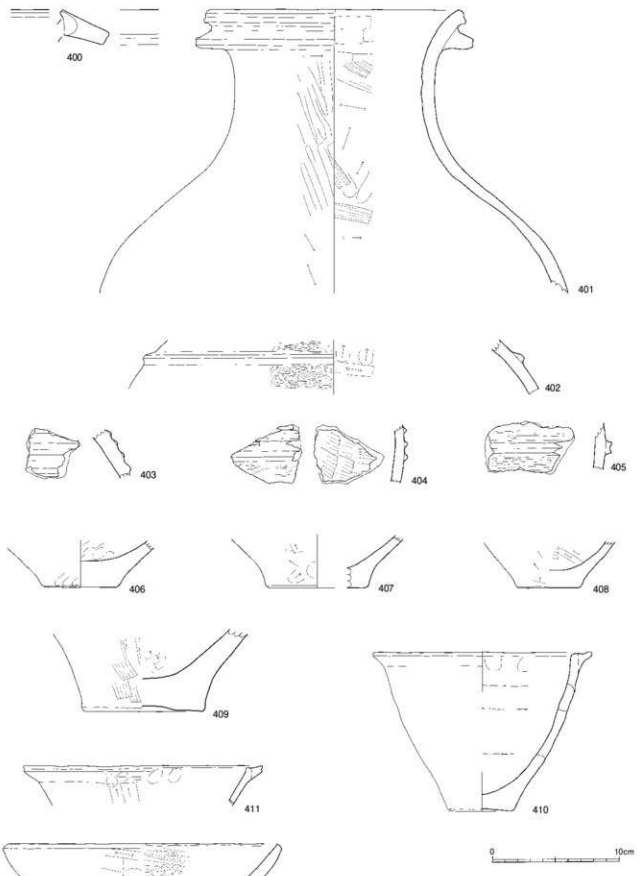
遺構内遺物　380 ～ 399は甕形土器である。そのうち380 ～ 385は口縁部から胴部にかけての部分，386 ～ 393は口縁部，394 ～ 397は胴部の突帯，398と399は底部である。

380 ～ 384は口縁部から胴部にかけての中で，胴部に突帯が巡るものである。３条を中心として下部を欠くものは１条または２条付されている。380は口径28.6cmで，３条の三角突帯が巡るが，上の２条と下の１条の間は離れている。口縁部の端部は上方に跳ね上がっている。器面調整はハケ目及びナデ調整である。382は口径23.3cm，３条の三角突帯は全体的にうねったように貼り付けられている。器面調整はハケ目が目立つ。383は口径24cm，３条の三角突帯はほぼ等間隔で直線的に貼り付けられている。ハケ目とナデ調整が見られる。381は口径22.6cm，２条の突帯がある。384は口径28.7cmで１条の三角突帯が巡る。385は口径24.2cmで，突帯は見られない。ハケ目とナデ調整が見られる。386からの口縁部はそれぞれに特徴的である。底部は充実した脚台である。

400 ～ 409は壺形土器である。400は口縁部が垂れ下がる。401は二叉口縁の壺である。口径22.0cmで，頸部の径は21.8cmとやや大きい。頸部はややすぼまり，胴部は大きく膨らむ。402と405はM字状突帯である。底部は何れも安定した平底である。409は若干上げ底となる。410 ～ 412は鉢形土器で，410は口径17.3cmの完形品である。



第78図　竪穴住居跡10号出土遺物１



第79図　竪穴住居跡10号出土遺物２

竪穴住居跡11号（第80図～第83図）

検出状況　C－30区で検出された。検出面はⅣ層である。床面をⅦａ層まで掘り下げている。

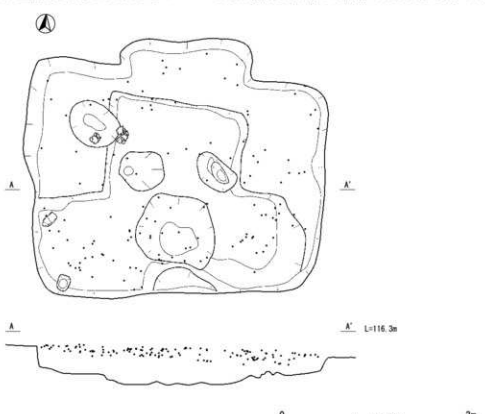
形状　竪穴住居跡11号の平面形状は，竪穴住居跡10号に類似した形で，北側に１辺が張り出した方形を呈しており，北側の張り出し部分も含めて３つのベッド状の遺構を有している。３つのベッド状遺構は繋がっており，切れているところはない。長軸458cm，短軸400cmで，検出面から床面までの深さは深いところで52cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的なものである。

中央部は一段掘り下げられているが，本遺跡のほかの竪穴住居跡とは若干異なっている状況が見られる。それは，北側の張り出し部分を含めて３方向にベッド状の遺構を設けるが，それぞれの長い辺でも約1.5mから２m程度にとどまるということである。つまり，東西のベッド状遺構は３m以上の長さが取れるにも関わらず，長くても２m程度としてそれより南側は中央部の段と同じく深く掘り下げられているのである。中央から南側を同じ深さで広く取ることによって，作業などの場の確保という点で有効活用を図ったものではないかと想像される。また，南側の中央部の壁には段があり，出入り口の可能性が考えられる。

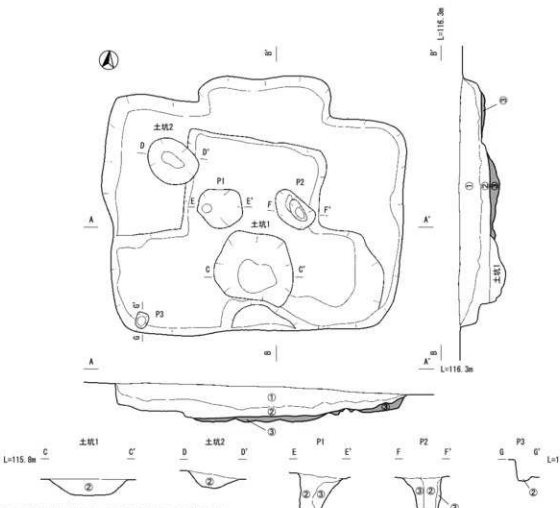
ピットは３基，土坑が２基検出されている。Ｐ１とＰ２が住居跡のほぼ中央部に，東西方向に並んでいると同時に深さも深いことから，主柱穴と考えられる。Ｐ２の最下部は硬化していたことが，そのことを裏付けているようである。南西端に位置するＰ３は極めて浅いことから，どのような機能を有するものかは不明である。土坑１ははかの竪穴住居跡と同様に南側にあるが，土坑２は北西のベッド状遺構にあることから，機能の点で異なる可能性がある。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，１層目よりも締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　413～450は甕形土器である。そのうち，413と414は大型甕形土器である。413は口縁部で，内面はミガキ調整である。414は底部で，底径は10.8cmで，外面及び外底は主にミガキによって調整されており，内面は指頭痕が残る中にナデ調整が行われる。415～438は口縁部を中心に並べてある。415は口径25.6cmで，２条の三角突帯が観察される。内面はハケ目及びナデ調整である。416は口径21cmで胴部には突帯が見られない。器面はハケナデ調整である。417は口径21.3cmで，内面はハケ目及びナデ調整である。口縁部の形状も逆L字状から，く字状までいろいろな種類が見られる。439～444は突帯を貼り付けた胴部である。基本的に三角突帯



第80図　竪穴住居跡11号１



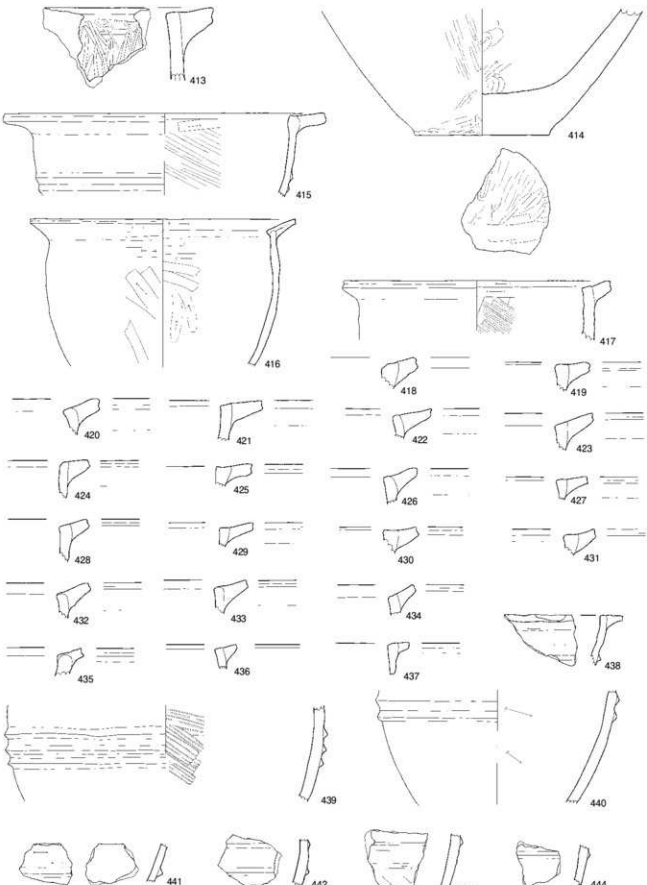
第81図　竪穴住居跡11号２

であるが，先端はそれほど尖ってはおらず，幾分丸まった印象を受ける。439は突帯の貼り付けがうねったようになっている。内面はハケ目調整である。440は内面をナデ調整で仕上げてある。445と446は胴部の下部で，底部に接続する部分である。447 ～ 450は底部である。何れも充実した脚台となっている。

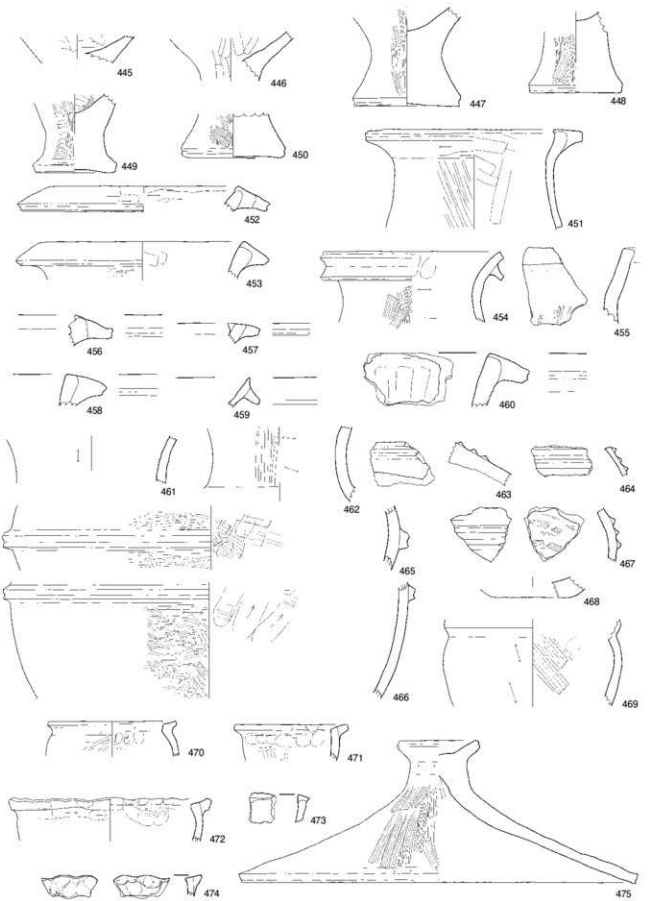
451 ～ 470は壺形土器である。451 ～ 460は口縁部である。451は頸部の長い壺で，口縁部は垂れ下がらずにほぼ水平である。口径が17.2cmで，内面の上部は一旦凹んだ後で緩やかに胴部に向けて膨らんでゆく。器面調整は，外面がナデとミガキ，内面はハケナデである。452・453・456・457は口縁部が垂れ下がるもの，458はほぼ水平となるものである。454は二叉口縁，459もそれに類するものである。454の口径は14.5cmで，外面ハケ目，内面はナデ調整である。455は口縁部の貼り付け部分が取れたものである。460は垂れ下がるタイプで，大型の壺形土器の口縁部であろう。461と462は頸部である。463から467は胴部に付された突帯である。463・464・467は胴部上部に付されたもので３条の三角突帯，465・466は胴部最大径付近に付されたM字状突帯である。M字状突帯を持つものは，その上下はミガキによる調整，内面はハケ目やナデで何れも丁寧に仕上げてある印象を受ける。468は底部である。安定した平底と考えられる。469は口縁部から胴部にかけての部分と考えられるが，口縁部の上部が欠損していることから詳しい器形は不明であるが，袋状の口縁となる可能性もある。470は口縁部がすぼまっていることから壺形土器と考えている。口径が10.2cmで口縁の内面は段状になっている。

471 ～ 474は鉢形土器である。471・472はともに内外両面に指頭痕が残る。また，何れも逆L字状の口縁を持っている。472は口縁部が波打ったようになっている。それに対して473は口縁端部を斜め下方向にしており，タイプの異なる鉢形土器と言える。474は鉢形土器の把手である。上下から指でつまんだように仕上げており，指頭痕が明瞭に残る。

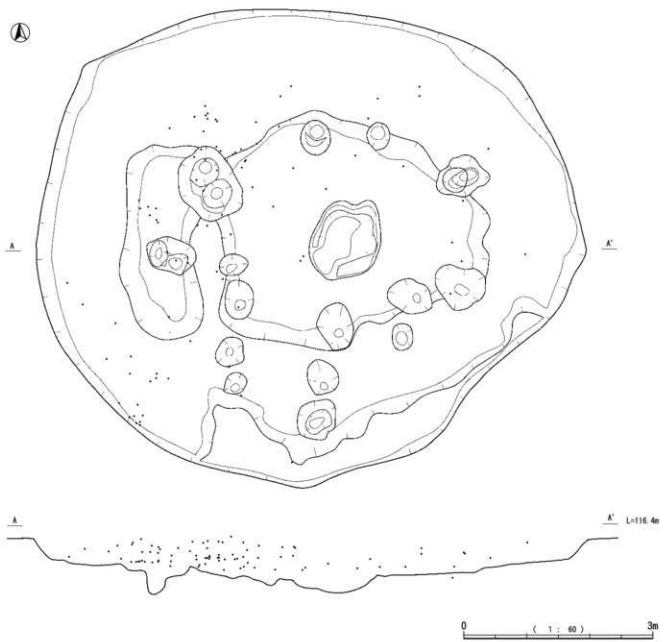
475は蓋型土器の完形品である。基部の径が6.6cm，蓋部の径は31.6cmで，器高は11.3cmある。非常に均整のとれた土器である。外面はハケ目によって丁寧に仕上げられている。



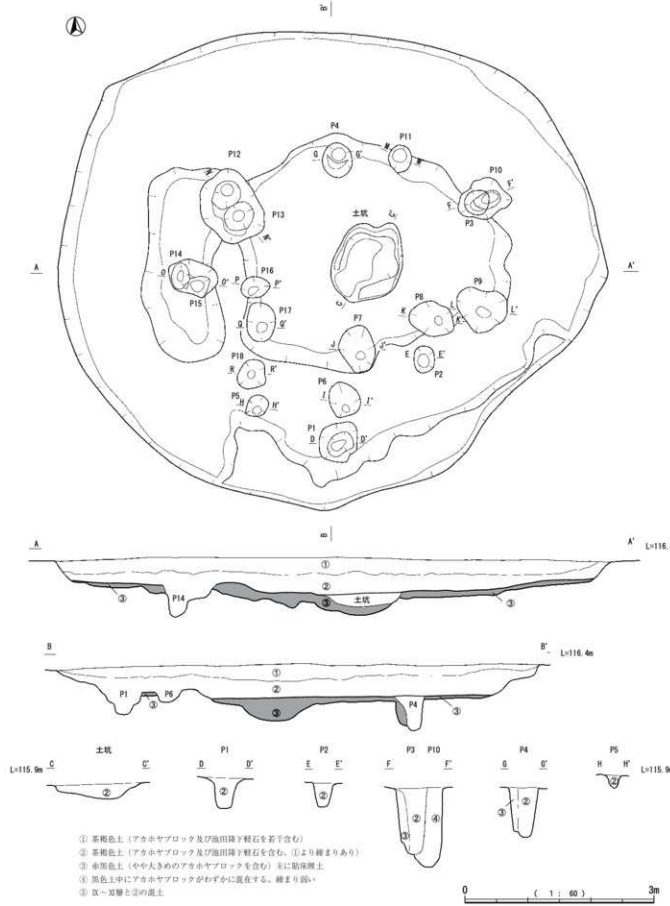
第82図　竪穴住居跡11号出土遺物１



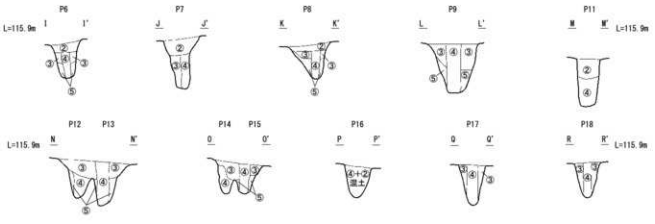
第83図　竪穴住居跡11号出土遺物２



第84図　竪穴住居跡12号 1



第85図　竪穴住居跡12号２



第86図　竪穴住居跡12号３

竪穴住居跡12号（第84図～第92図）

検出状況　D－31・32区で検出された。検出面はⅢd層である。床面はⅦb層まで掘り込んでいる。

形状　竪穴住居跡12号の平面形状は大型の円形を呈しており，内部は中央部が深くなっていることから，周囲が１段高いベッド状となっているように見える。長軸874cm，短軸756cmで，検出面から床面までの深さは深いところで58cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では極めて大型のものと言える。

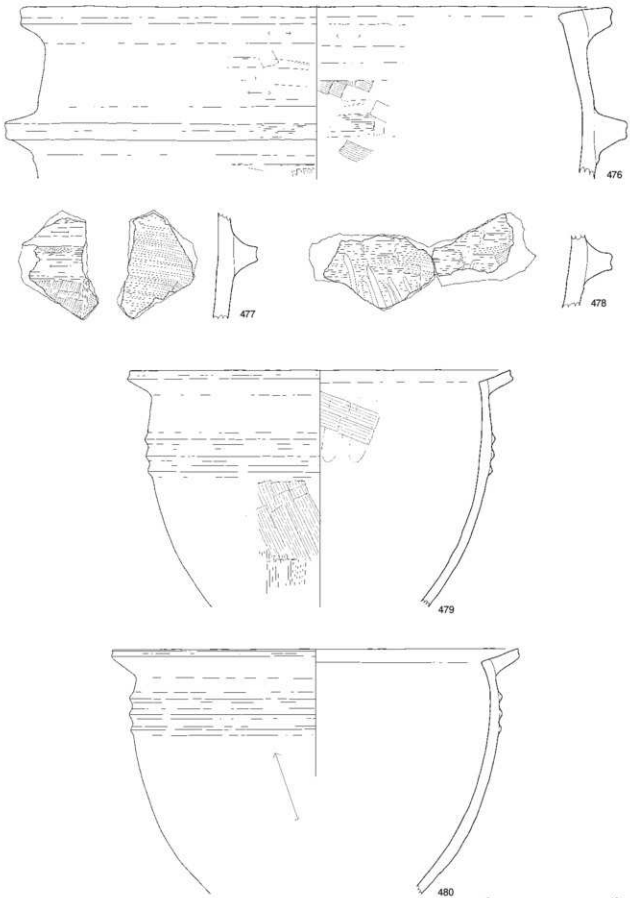
ベッド状となっている部分は，幅が約１mから広いところでは２mほどもある。南側にはその面にピットがあるものの，それ以外の３方向にはピットは見られず，空間をかなり広く利用できたものと思われる。西側には約１m×３mほどの土坑状の掘り込みが見られるが，断面図によると，その後その部分は埋め戻されており，ピットを除く部分はベッド状の遺構として平坦にして利用していたと考えられる。また，南側には不整形ではあるが幅30cm～１mほどの段があり，出入り口と考えるのが自然と思われる。

ピットは18基検出され，土坑も１基検出されている。大型の住居であることから，中央部の深い段の周囲に見られる多くのピットは何れも柱穴と考えられ，深い円形の段を取り巻く円形のピットすべてに柱を立て，上部でそれらを略円形に横木を渡して繋ぎ，その上で斜めに木を地上に立て掛けて屋根の骨組みとし，それに本格的な屋根を被せてゆく工法が想定される。南側の４基のピットは，不整形の段を出入り口と考えるならば出入り用の扉を支える柱を埋め込んでいた柱のために掘られていたものではないかと想像される。土坑は遺構の中央におおよそ1.5m×1.1mの規模で深さは約20cmで掘られており，屋内炉と想定される。

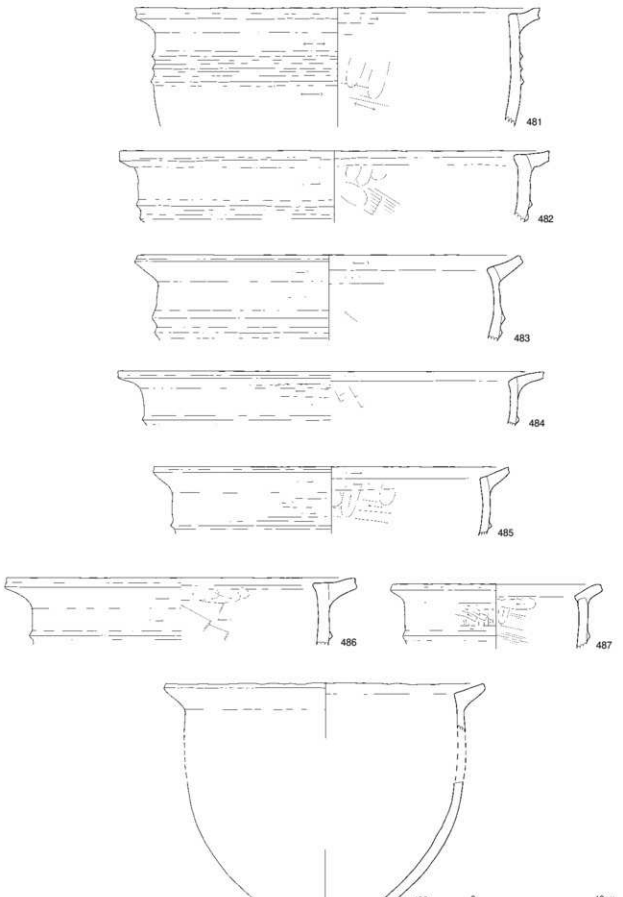
遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　476～535は甕形土器である。476～478は大型甕形土器である。476は口径が46.8cm，鍔部の径が48.8cmで，鍔の径がやや大きい。口縁部は逆L字状でやや上向き，鍔はほぼ水平である。器面調整は両面ともにハケ目及びナデ調整が行われている。477と478は鍔部である。器面調整はハケ目及びナデ調整で，478の内面はミガキも行われている。479～517は口縁部から胴部にかけての部分及び口縁部である。479・480は口縁部から胴部まで復元できたもので，何れも胴部上部に３条の三角突帯が付されているが，その位置は479が低く，480は高い位置にある。481～487は口縁部から胴部上部まで復元できたものである。１～３状の三角突帯を持つものが多い。488は途中を欠くが推定して復元したものである。489～494は口径を復元した口縁部である。495～517の破片とともに形はさまざまと言える。495は厚みもあって大きいことから大型甕形土器のものと考えられる。518～528は突帯を付した胴部で，突帯はすべて三角突帯である。529～533は胴部の下部である。534と535は底部である。534は底径が7.4cmで充実した脚台となっている。535も充実した脚台となっているものの，上げ底となっていることから，若干時期が異なる可能性もある。

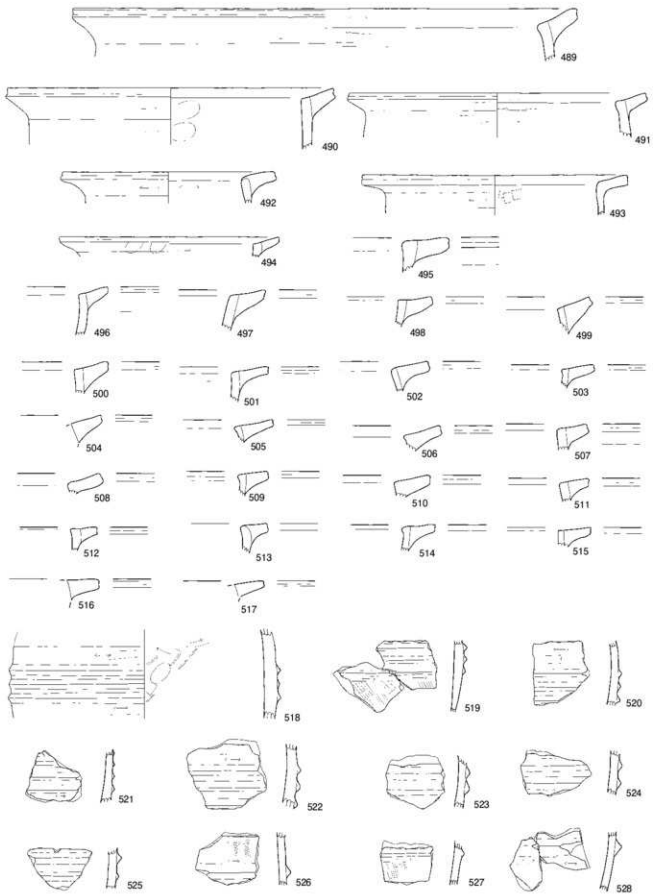
536～587は壺形土器である。536～552は口縁部で，536～542は垂れ下がるタイプ，543～545は二又口縁，546～550は二重口縁の土器と考えられる。551と552は口縁部が逆L字状となるが，壺形土器と考えている。554～558は頸部，559～568は突帯の付された肩部，569～583は底部及びその付近である。584 ～ 587は長頸の壺形土器と考えられる。588～591は鉢形土器で，589と590の口縁部は口縁下に突帯が巡る。592と593は蓋型土器の破片である。蓋部分の端部には刻みが付されている。



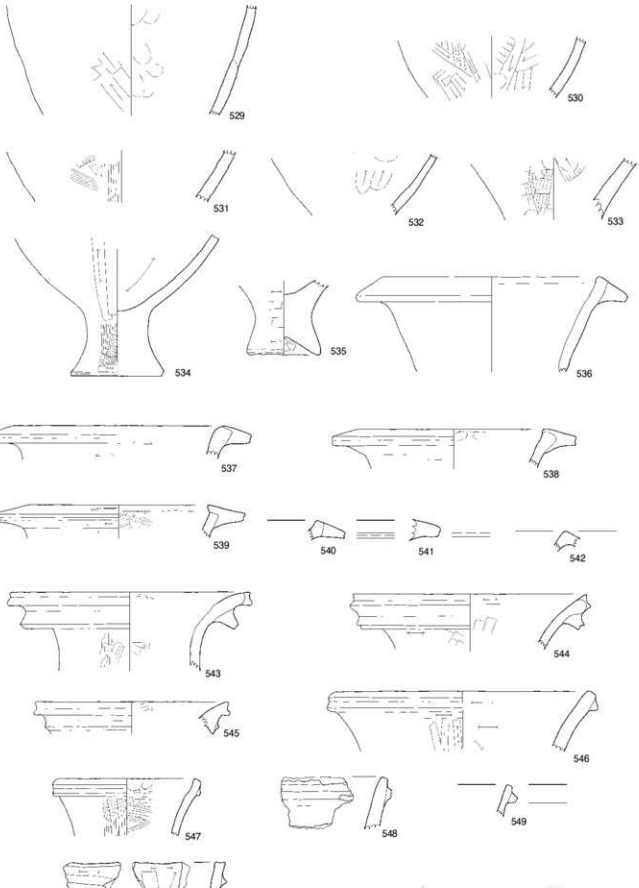
第87図　竪穴住居跡12号出土遺物１



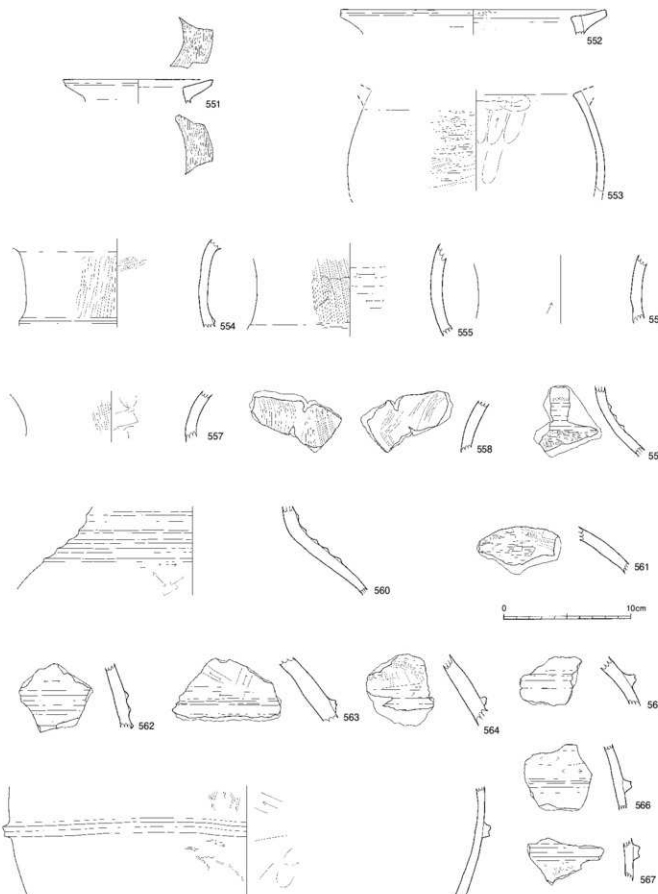
第88図　竪穴住居跡12号出土遺物２



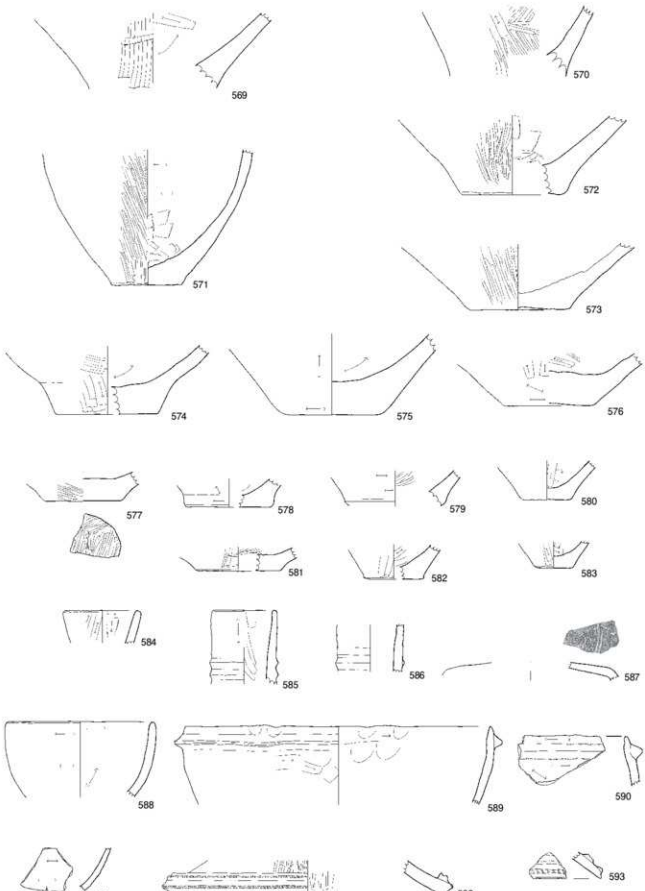
第89図　竪穴住居跡12号出土遺物３



第90図　竪穴住居跡12号出土遺物４



第91図　竪穴住居跡12号出土遺物５



第92図　竪穴住居跡12号出土遺物6

竪穴住居跡13号（第93図～第96図）

検出状況　D－29・30区で検出された。検出面はⅣ層である。

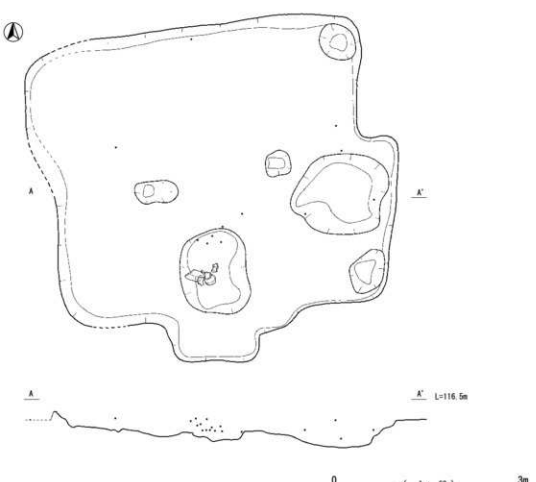
形状　竪穴住居跡13号の平面形状は，南側と東側南半分に張り出しのある方形を基調とする。西側は部分的に削平を受けている箇所がある。長軸542cm，短軸530cmで，検出面から床面までの深さは深いところで23cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的なものである。

ピットは４基検出されており，中央部に近い２基のＰ２とＰ３は主柱穴と考えられる。東側の北及び南の端にある２基のピットＰ１とＰ４は何れも深さが浅く，本住居でどのような機能を果たしたものであるかは不明である。土坑は２基，規模としては大型のものが南側及び東側に掘られている。南側の土坑１は概略1.1m×1.3m，深さ15cm，東側の土坑２は1.5m×1.3m，深さ25cmで，何れも方形を意識するものの不整形を呈すると言える。

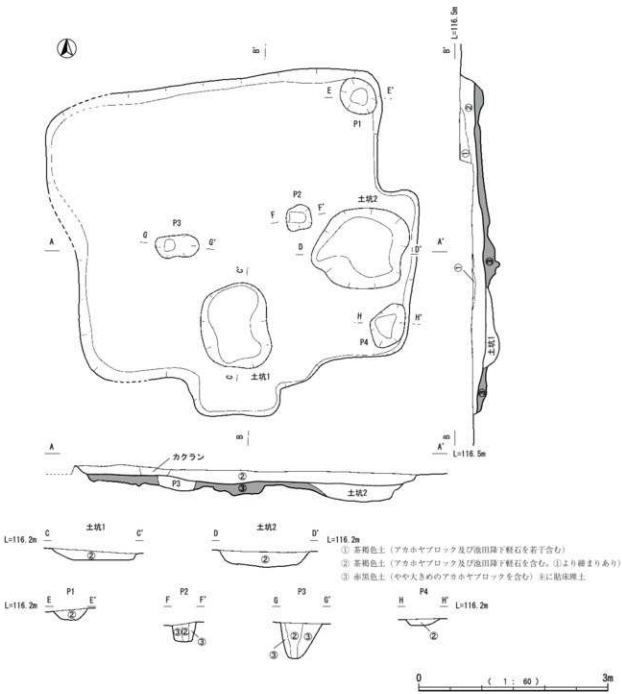
遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，締まりが弱い。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。ほかの遺構と比較して，アカホヤブロックの量が極めて少ないのが特徴である。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。下部にはやや大きめのアカホヤブロックが含まれている。

遺構内遺物　594～607は甕形土器である。594～600は口縁部から胴部にかけての部分と口縁部である。594は口径30.4cmで三角突帯が３条付されたものである。突帯は均整のとれたものである。器面調整は内外面ともにナデ調整が行われている。595～600は口縁部を集めたものである。く字状あるいは逆L字状の口縁であるが，形状はそれぞれに異なっている。601～606は突帯の付された胴部である。すべて三角突帯で，１条から３条までが断面形状など少しずつ異なっている。601は三角形の先端がやや丸まった状況の突帯が，全体的に下がり気味に貼り付けられている。602は３条の突帯のうち中央の突帯がそれ以外のものよりも小さき，低く貼り付けられている。603は３条の突帯が全体的にうねったように貼り付けてある。607は底部である。充実した脚台であるが，上部が破損している。

608～621は壺形土器である。608～614は口縁部付



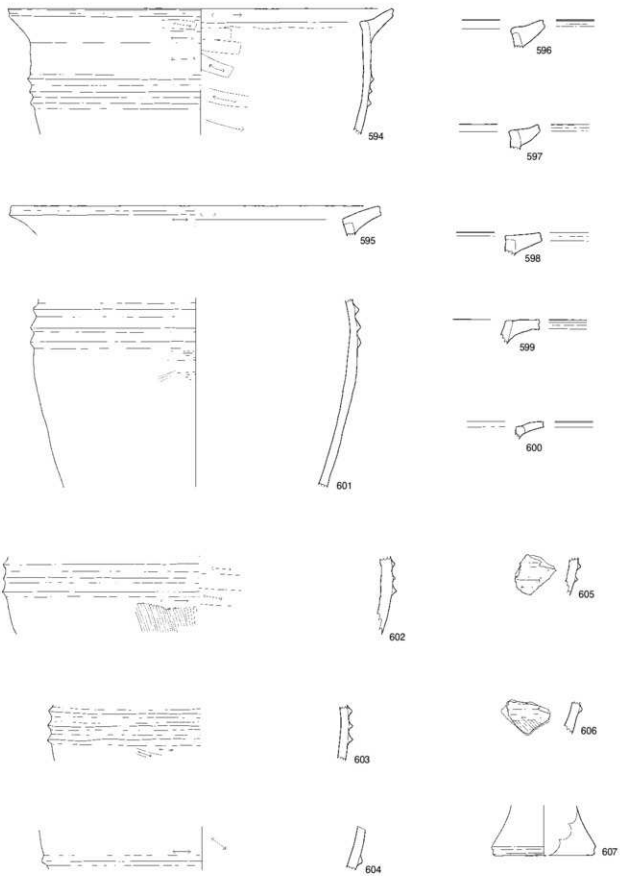
第93図　竪穴住居跡13号１



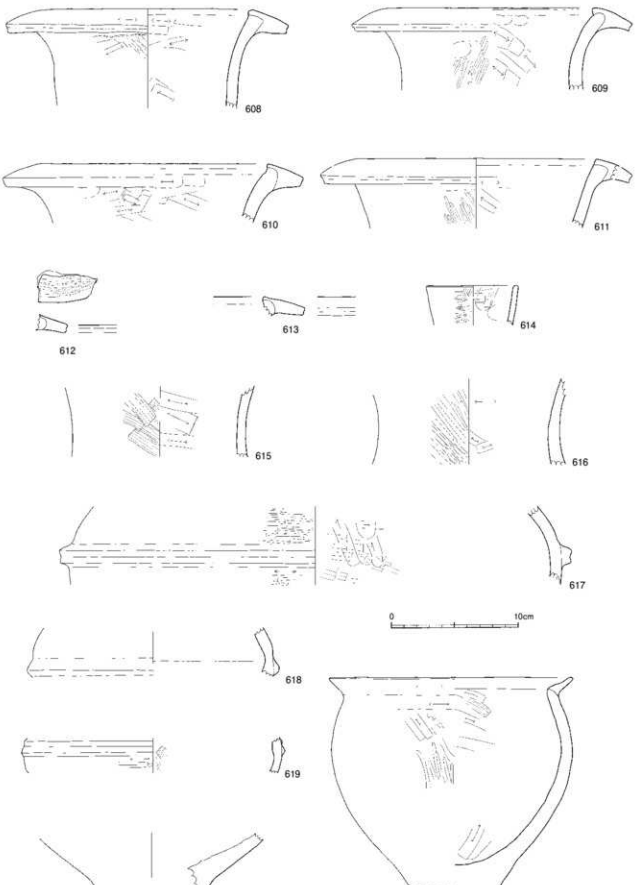
第94図　竪穴住居跡13号２

近である。608～613は口縁部が垂れ下がるタイプのものである。口径は，608が22.3cm，609も22.2cm，610が23.8cmで，611は端部が破損しているために推定であるが24.7cmほどである。器面調整は，内面はすべてハケナデであるが，外面は610がハケナデ，それ以外はミガキによって調整されている。614は口縁部が立ち上がるタイプのものである。口径は7.2cmの長頸壺である。615と616は頸部である。何れも壺形土器である。器面調整は外面がハケ目，内面はハケナデである。617～619は胴部に巡らされた突帯で，617はM字状突帯，618は三角突帯であるが，先端部が相当に丸くなっている。619は２条の三角突帯で，上のものが小さく低く，下のものは高いものである。620は底部である。中央部が欠損するが，安定した平底になると考えられる。

621は短頸の壺形土器で，完形品である。口径が19.2cm，底径が7.0cmで一方の端は上がっており，整った平底とはなっていない。器高は17.0cmである。器面調整は，外面がハケナデ及びミガキ，内面はハケ目及びハケナデ調整である。



第95図　竪穴住居跡13号出土遺物１



第96図　竪穴住居跡13号出土遺物２

竪穴住居跡14号（第97図～第100図）

検出状況　E・F－31・32区で検出された。検出面はⅣ層である。

形状　竪穴住居跡14号の平面形状は台形に近い方形を呈している。長軸58cm，短軸516cmで，検出面から床面までの深さは深いところで20cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居跡の中では標準的なものである。

内部は中央部が1段深く掘られており，周囲にベッド状の遺構が取り巻いている形となっている。西側には中央部及び南側に張り出しが見られる。ベッド状の遺構は，南側及び東側では幅が1.2mほどあり，南側で約5m，東側でも4.5mの長さがあることから広い活用スペースと考えられる。一方，北側は幅が70～90cm程度で長さが5m程度あるものの，中央西寄りに80cm×2.1mほどの大きな土坑2が掘られていることから平坦面の活用という点からはそれほど広く活用することは難しかったのではないかと考えられる。

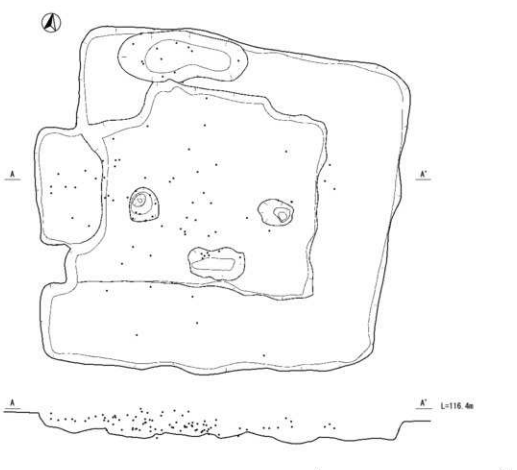
西側の張り出しは幅90cm，長さ1.7mほどである。

ピットについては2基検出され，いずれも主柱穴と考えられる。深さはP1が80cm，P2も75cmと極めて深い。土坑が2基検出されているが，土坑1は南側の壁際に90cm×50cmの方形状を呈し，深さが50cmあることから，貯蔵穴の可能性が考えられる。土坑2は先述のとおり北側のベッド状遺構の西寄りの場所にあり，深さは深いところで25cm程度である。住居内での機能は不明である。

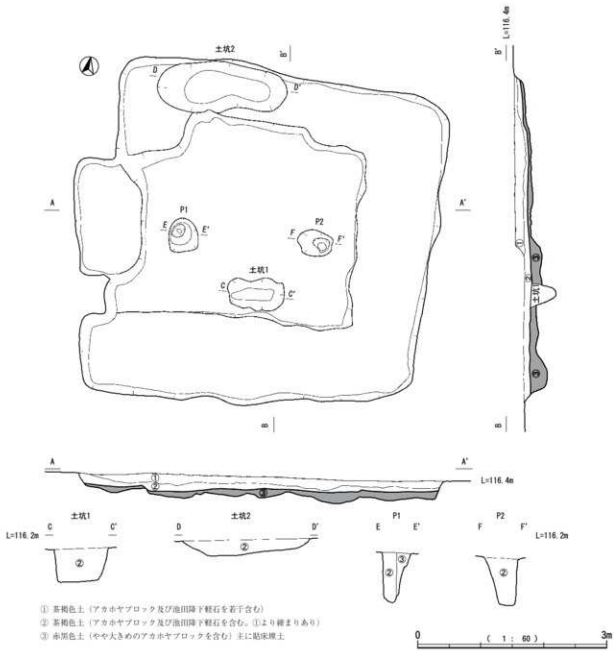
遺構内埋土　遺構内に堆積している土は3層に分層できる。1層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。2層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。1・2層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。3層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　622～645は褐形土器である。622は大型の褐形土器の口縁部，623は胴部上部である。2点とも器壁は厚く，1.0～1.4cm程度あり，口縁部では端部でも1.6cm，付け根の部分では2.4cm程度ある。623の胴部の器面調整は外面がハケ目，内面もハケ目調整と見られる。

624～645は標準的な大きさの褐形土器である。624と625は口縁部から胴部にかけて復元できたものである。624は口径が28.3cmあり，口縁部の直ぐ下部に3条の三角突帯が巡らされている。この三角突帯は高さが高く，端部も割合に鋭いものである。貼り付け方は波状にう



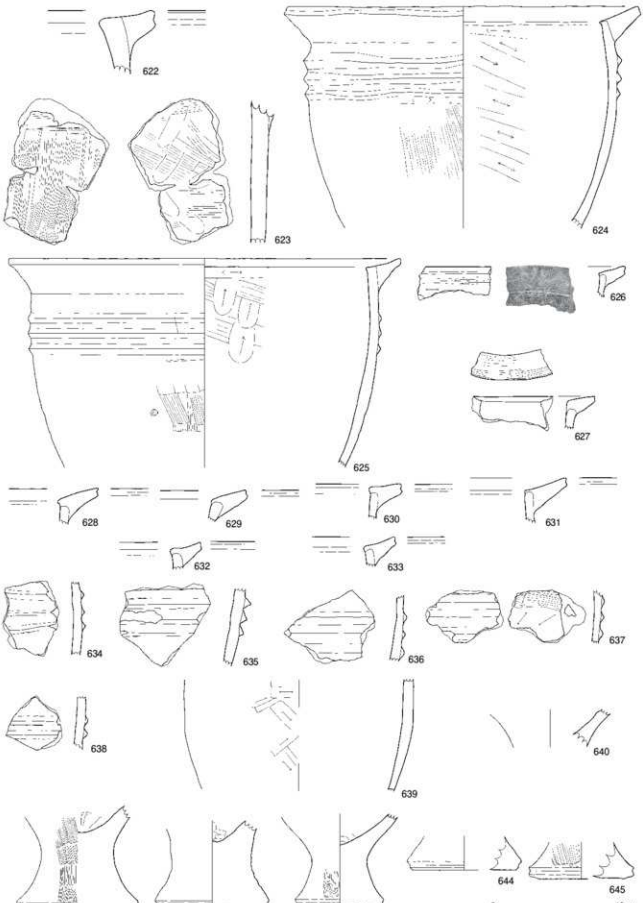
第97図　竪穴住居跡14号1



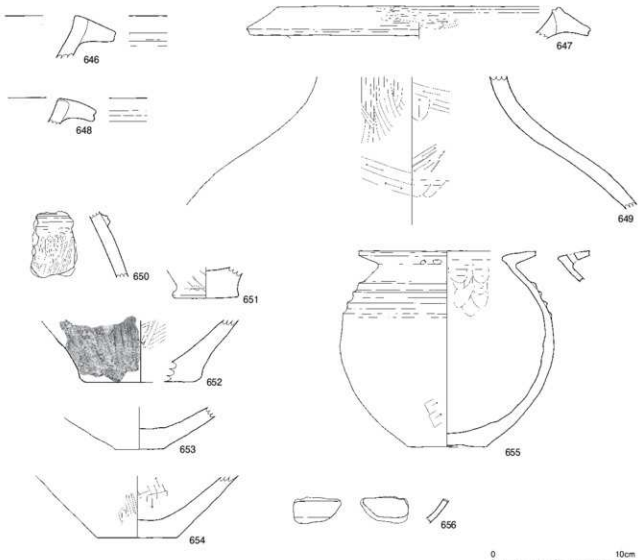
第98図　竪穴住居跡14号２

ねったように貼り付けられている。外面はハケ目及びナデ調整，内面はハケナデ調整である。625は口径が31.2cmで，口縁部からは624よりも下方に下がった位置に同じく３条の三角突帯が貼り付けられている。624よりも突帯の高さは低いものの貼り付け方が直線的で，非常に整った貼り付けである。外面がハケ目，内面はハケ目及びナデ調整である。器形的には625の口が広がった形状であるのに対して，624は口胴部上端が幾分すぼまった形状を呈する。626～633は口縁部である。626は内面に向けて突起が巡る形状をしている。627は口唇上面に口縁部に沿ってハケ目が見られる。

634～638は突帯が貼付された胴部で，突帯は三角形を呈する。その形状や高さにもいろいろなものが見られる。639は胴部の中央部辺りから下部にかけてで，外面の器面調整はハケナデである。640は胴部の下部の辺りである。641～645は底部で，充実した脚台である。底径は641が9.6cm，642が9.1cm，643が7.0cm，644が推定で9.3cm，645も推定で8.3cmである。外面の器面調整は観察できる限りのものはハケ目調整である。



第99図　竪穴住居跡14号出土遺物 1



第100図　竪穴住居跡14号出土遺物２

646 ～ 655は壺形土器である。646と647は大型の壺形土器の口縁部で，器壁は１cm程度である。口縁部は垂れ下がるタイプであるが，口唇上部は２点とも平坦である。648は標準的な壺形土器の口縁部で，大型の壺と同様な形状を呈する垂れ下がるタイプのものであるが，口唇上部が上方に向かってカーブする点で異なっている。649は頸部から肩部の土器である。肩部の下部で復元推定径が35cm程度と大きいことから，大型の壺形土器であろう。650は突帯の付された胴部で，突帯は断面形状がM字状を呈する。651 ～ 654は底部である。底径が651は2.5cm，652は推定で9.6cm，653は4.0cm，654が6.3cm程度であることから，すべて標準的な大きさの壺形土器の底部と考えられる。655は短頸の壺形土器で，完形に復元できたものである。口径14.5cm，底径6.2cmほどでやや上げ底である。器高は14.5cmである。口縁部の下位には４条の三角突帯がうねることなく直線的に均整のとれた様子で貼り付けられている。口縁部には２つの穿孔が見られる。

656は小片であるが鉢形土器の胴部と考えられる。

竪穴住居跡15号（第101図～第106図）

検出状況　F・G－31区で検出された。検出面はⅣ層である。

形状　竪穴北側が未調査であることから全体像は不明であるが，竪穴住居跡15号の平面形状は，台形に近い隅丸方形で，北側に張り出しのある形ではないかと考えられる。中央部は幅2.3m×長さ4.2mの隅丸方形状に掘り込まれており，一段深くなっている。そのために，周囲が一段高いベッド状の遺構が取り巻いている形状となっている。

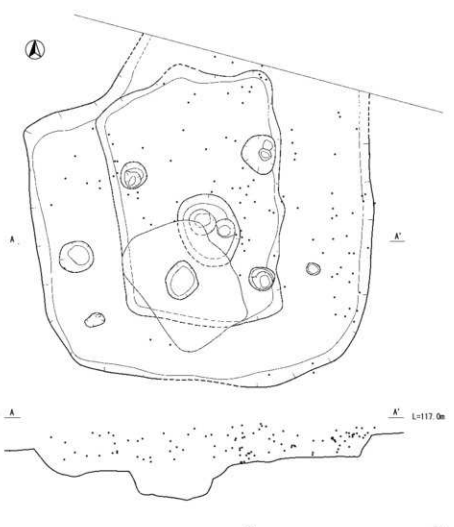
長軸531cm以上，短軸530cmで，検出面から床面までの深さは深いところで35cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的なものである。南側を土坑３号によって切られている。切り合い関係は，本住居跡が古くて土坑３号が新しく，本住居跡を切っている。

北側の東及び西の２か所は撹乱を受けているが，調査の状況からは北側にしばらく伸びると考えられるが，それはそれほど続かず，割合に早く遺構の端が来ることが想定される。この張り出し部分はほかの３方向にあるベッド状遺構と同じレベルで北側に続いていることになる。北西部は内部の掘り込みが壁際まで及んでいることからベッド状の遺構が切られてしまっており繋がっていない。

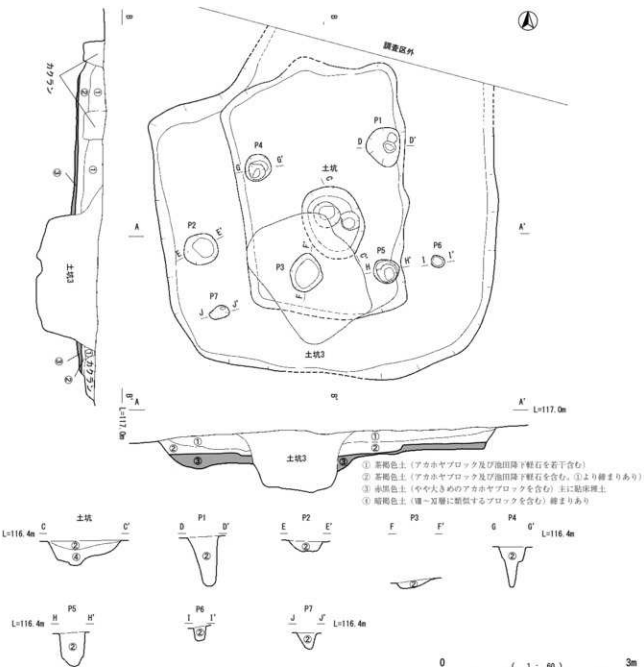
ピットは７基検出されたが，中央の掘り込みの内部にあるピットのＰ４とＰ１，またはＰ５が深さから考えて主柱穴に想定されるものの，現況では判断し得ない。ほかのピットは何れも深さが浅く，本住居跡においてどのように機能していたかについては不明とせざるを得ない。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　657～680は甕形土器である。657は大型甕形土器の口縁部で，鍔は若干上向きである。658からは



第101図　竪穴住居跡15号１

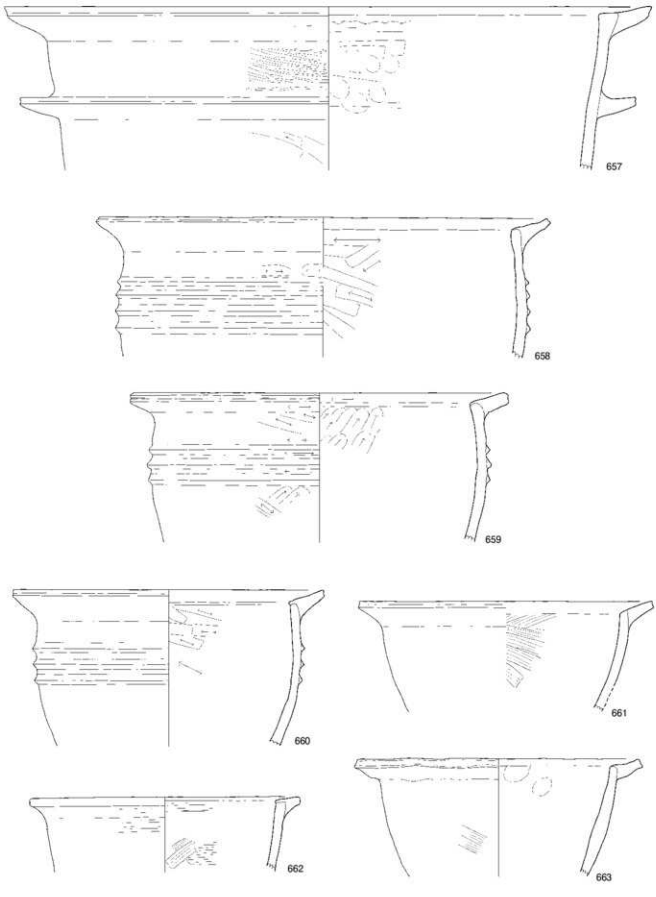


第102図　竪穴住居跡15号2

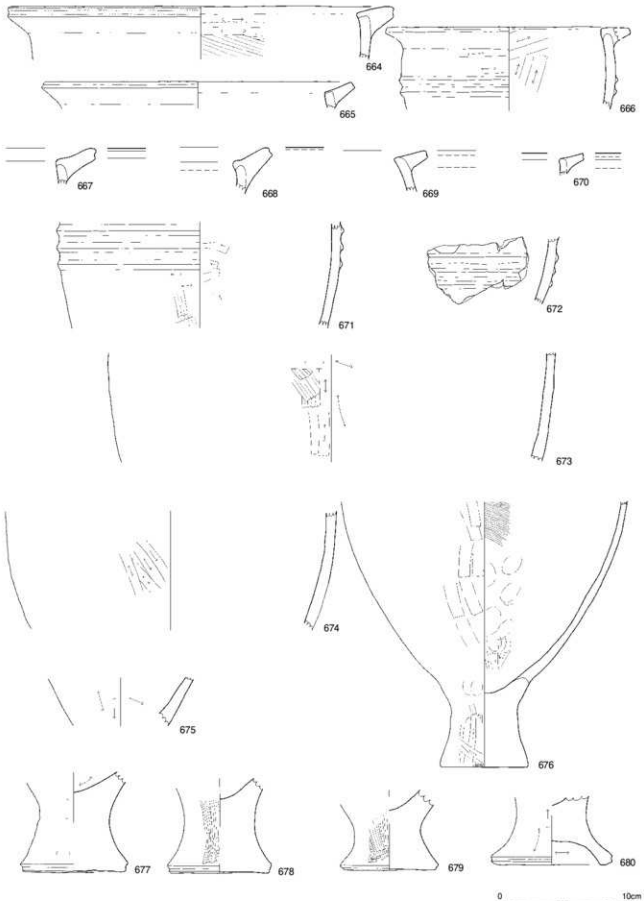
標準的な大きさの甕である。658～660は三角突帯が3～4条巡るもの，661～663は突帯を付さないものである。664～670は口縁部，671～675は胴部で，突帯が巡るものもある。676～680は底部を中心としたものである。680は上げ底となっているがそれ以外は充実した脚台を持つ。

681～706は壺形土器である。681～685は口縁部で685は二叉口縁，それ以外は垂れ下がるタイプである。686～688は頸部，689～696は肩部及び胴部付近で，三角突帯が巡る。697は短頸の壺で，4条の三角突帯を付す。698も三角突帯を付した胴部。699～705は底部で，何れも安定した平底である。706は短頸壺で，突帯はない。

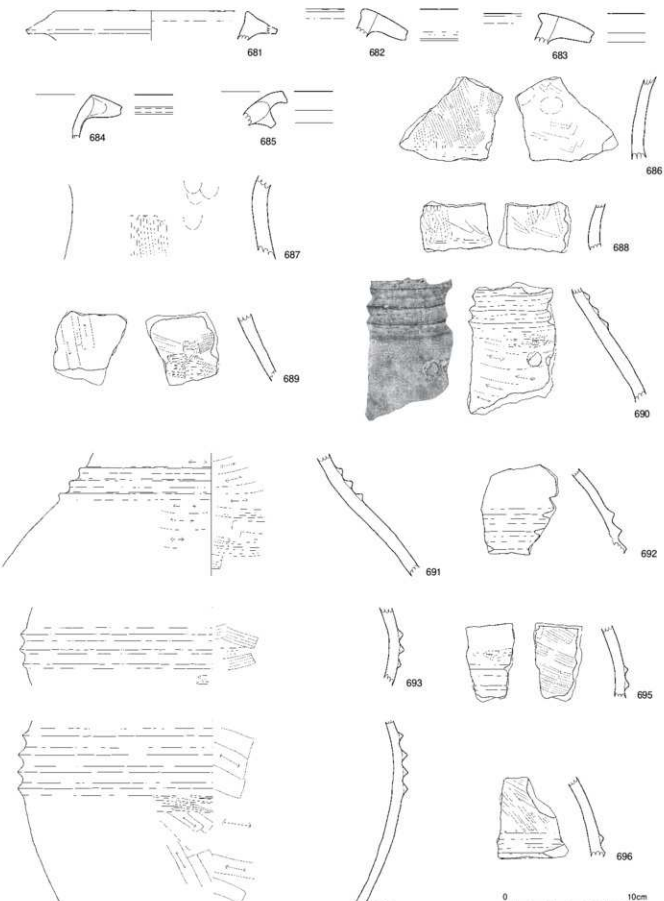
707と709は鉢形土器で完形品である。形状は大きく異なる。708は蓋型土器の完形品で，整った形である。



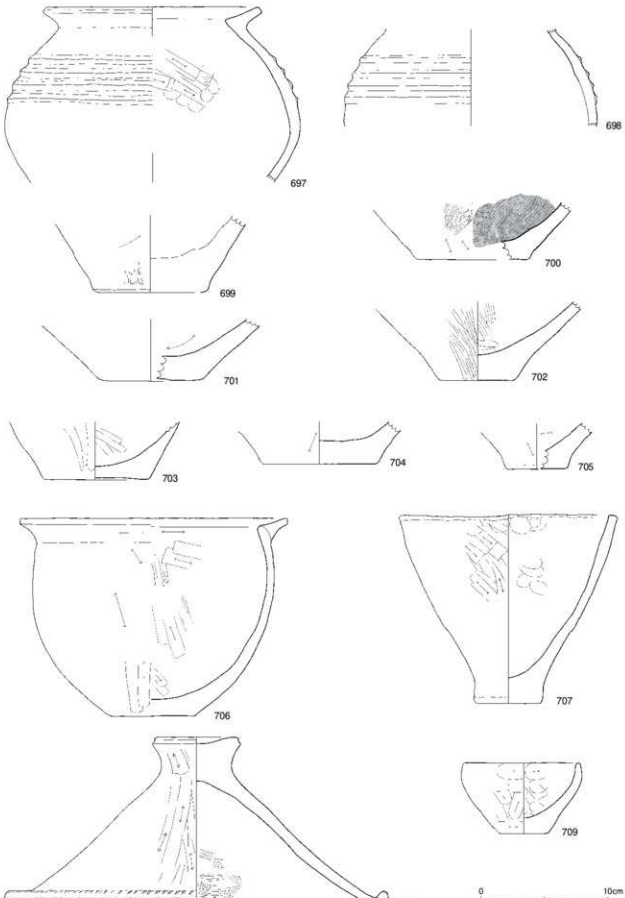
第103図　竪穴住居跡15号出土遺物１



第104図　竪穴住居跡15号出土遺物２



第105図　竪穴住居跡15号出土遺物３



第106図　竪穴住居跡15号出土遺物４

竪穴住居跡16号（第107図・第108図）

検出状況　G－30区で検出された。検出面はⅢｄ層である。

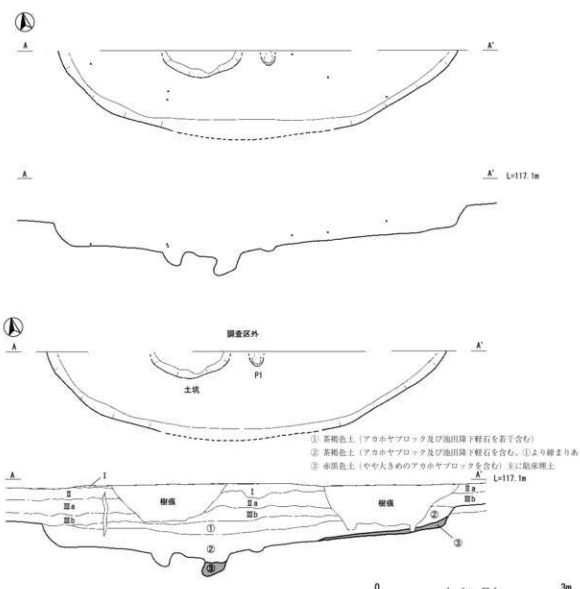
形状　本住居跡の大部分が北側の調査区外に続いていると推定できることから全体像は不明であるが，平面形状は大型の円形を呈すると考えられる。長軸632cm，短軸140cm以上で，検出面から床面までの深さは深いところで24cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では大型と考えられる。

南側の中央部は先行トレンチによって撹乱を受けているために掘り方のラインは明確ではない。本遺構が本遺跡の同様な大型円形の住居跡と同じ形態であればこの床面はベッド状の遺構ということになるが，中央部が未調査であることから段掘りの有無も不明である。

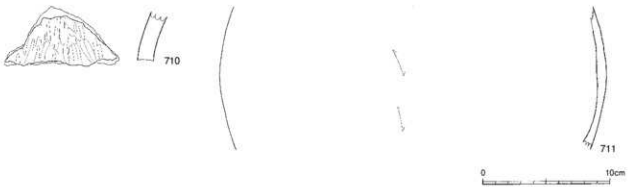
ピットが１基検出されているが，深さも浅いことなどから主柱穴の一部であるのか否かは不明である。また，土坑も１基検出されているが，下部の形状は凹凸が激しいことから考察することは難しい。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。Ⅶ層に類似している。

遺構内遺物　遺物の出土がほとんどなく，２点を図化した。710は大型壺形土器の頸部と考えられ，内面はミガキ調整が見られる。711は壺形土器の胴部である。



第107図　竪穴住居跡16号



第108図　竪穴住居跡16号出土遺物

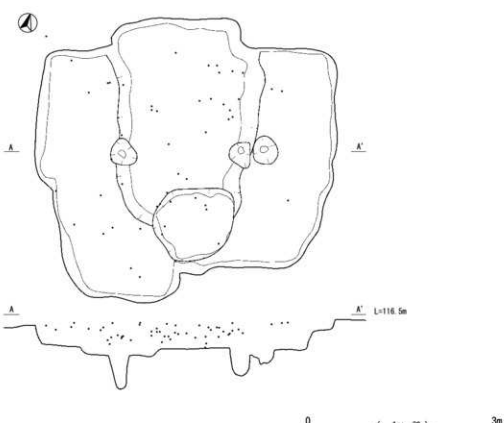
竪穴住居跡17号（第109図～第112図）

検出状況　C・D－28・29区で検出された。検出面はⅢd層である。床面はⅦa層から一部Ⅸ層まで掘り下げを行っている。

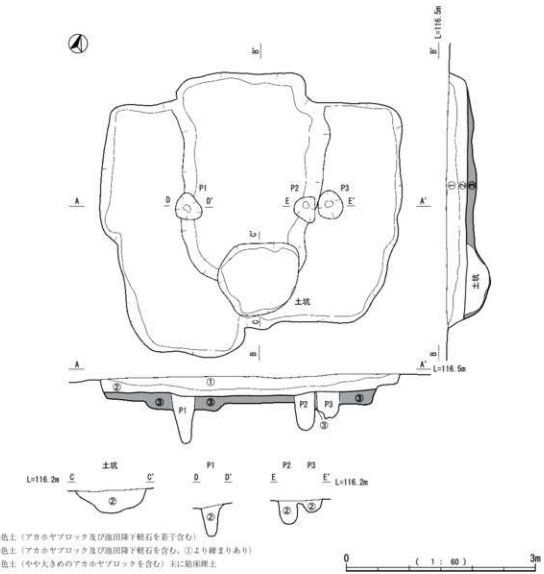
形状　竪穴住居跡17号の平面形状は，張り出しを伴う長方形を呈する。内部には中央部に掘り込みがあることから，東西両側にベッド状の遺構がある形状となっている。長軸472cm，短軸404cmで，検出面から床面までの深さは深いところで32cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的な大きさのものである。

北側中央部と南側の西側部分に張り出しを設けている。東西２つのベッド状遺構は，南側中央部にある大型の土坑１によって切られる形となっているため繋がってはいない。

ピットは３基検出され，Ｐ１とＰ２の２基が中央部の掘り込みの中央部の東西両側の端にあり，深さも深いことから主柱穴と考えられる。また，Ｐ２に隣接して一段高いベッド状遺構にあるＰ３は２基のピットよりも浅いことから主柱穴ではないと考えられるものの，東西の軸の上に乗っていることから添え柱などとしての機能が想定される。また，土坑は１基検出されている。1.2m×1.3mほどの楕円形状を呈しており，深さは35cm程度である



第109図　竪穴住居跡17号１



第110図　竪穴住居跡17号２

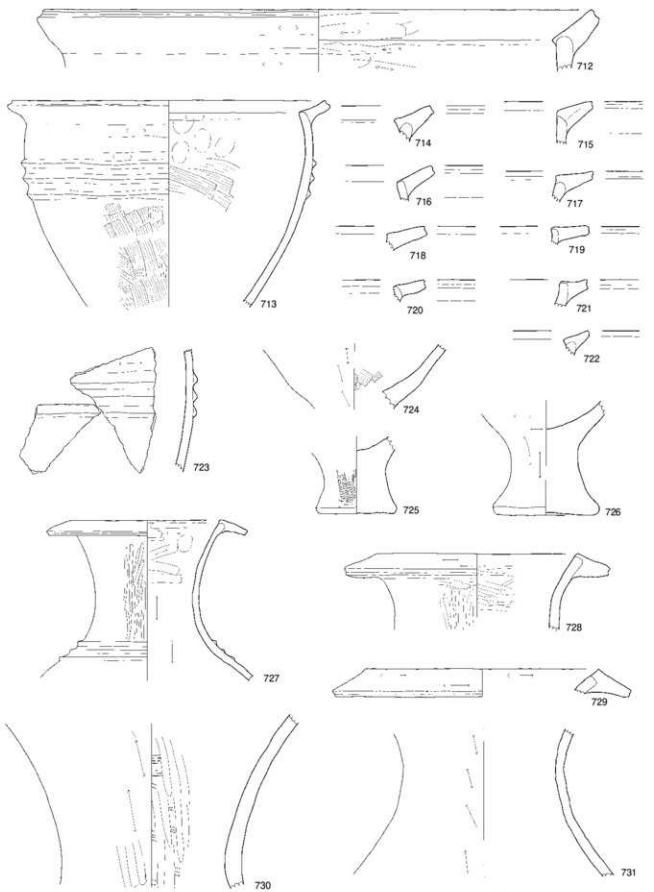
ことから貯蔵穴としての機能を考えても良いかもしれない。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

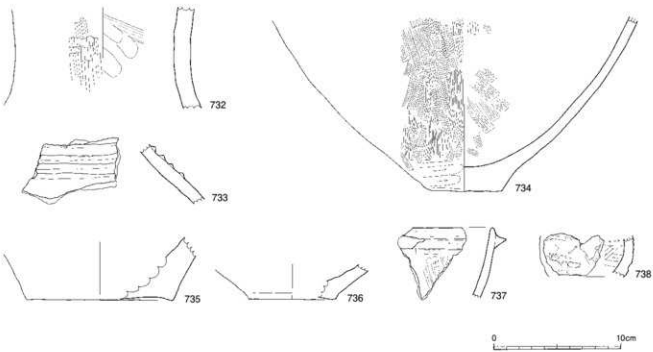
遺構内遺物　712～726は甕形土器である。712は大型の甕形土器の口縁部で，内面はミガキ調整が行われている。713は甕形土器の口縁部から胴部までのもので，復元できたものである。口縁部から若干下がったところに３条の三角突帯が幾分うねったように巡る。714～722は口縁部で，さまざまな形状のものが見られる。723は胴部に付された３条の三角突帯のあるもの。724は胴部の下部で底部付近。725と726は充実した脚台の底部である。726は若干上げ底状となる。

727～736は壺形土器である。727は口縁部から胴部にかけて復元できたものである。口径15.9cmで肩部に３条の三角突帯が巡る。器面調整は外面がミガキ，内面はハケナデ及びナデ調整である。728は口径21.0cm，729は23.6cmである。730～732は頸部である。器面調整は外面がナデやハケ目，内面はミガキやハケ目調整などが行われている。733は胴部の上部に付された三角突帯で，４条施されている。735と736は底部。何れも中央部は破損している。平底であるが，若干上げ底となっている。

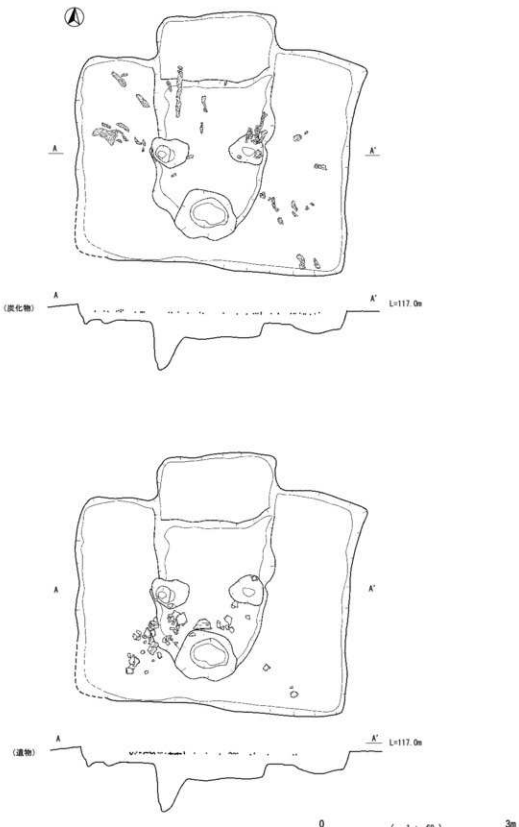
737は鉢形土器の口縁部で，上部には突帯が巡り，二重口縁状となっている。器面調整は丁寧なナデ調整あるいはハケナデ調整である。738は手捏ねの鉢形土器の胴部と考えられる。外面には指頭痕が残り，内面はハケナデ調整である。



第111図　竪穴住居跡17号出土遺物１



第112図　竪穴住居跡17号出土遺物２



第113図　竪穴住居跡18号１

竪穴住居跡18号（第116図～第120図）

検出状況　E－25・26区で検出された。検出面はⅢｄ層である。床面はⅦａ層を中心に，一部はⅦ層及びⅦｂ層まで掘り下げを行っている。検出した遺構の上面には炭化した木材が多数出土したことから，本住居跡は火災を受けたものと考えられる。

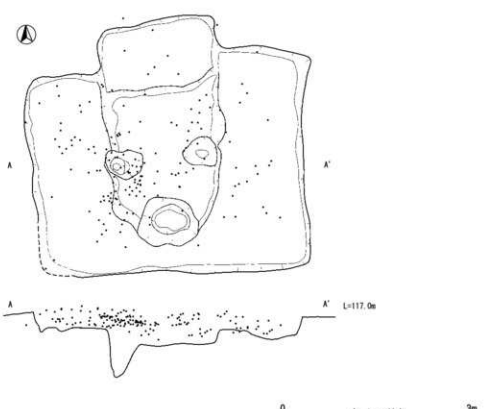
形状　平面形状は，北側に１辺が張り出した方形を呈し，北側の張り出し部分を含めて３つのベッド状の遺構を有している。長軸430cm，短軸405cmで，検出面から床面までの深さは深いところで48cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的な大きさのものである。

中央部を掘り下げており，結果的に東西両側にベッド状の遺構を有する形となっている。東西のベッド状遺構は同じような形態をしているものの，その作り方には差異が見られる。西側は上部から掘り下げを行ったそのままの状態で床面としているのに対して，東側はそのレベルよりも深く掘り下げた後に西側のレベルまで埋め戻しを行って調整しているのである。形態の上ではベッド状遺構は南側でも同一平面のように繋がっているが，どこまでをある程度の掘り下げでとどめ，どこから先を深く掘り下げた上で埋め戻しを行ったのかは詳らかでない。また，北側の張り出し部分のベッド状の遺構と東西のベッド状遺構とはほぼ同じレベルとなっている。

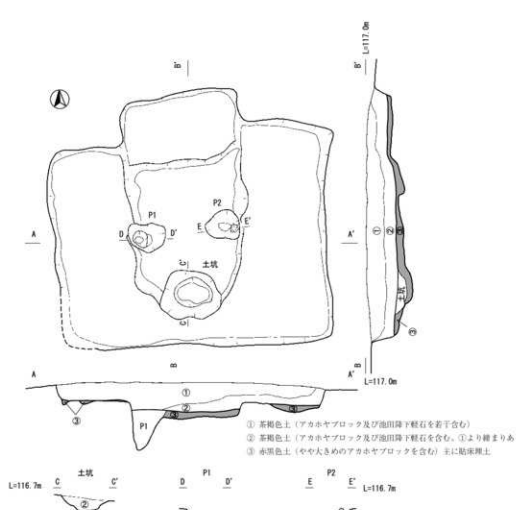
ピットは２基検出され，中央部の掘り下げ部分のほぼ中央，東西の端に深く掘られていることから主柱穴と考えられる。特に東側のＰ２の上部には炭化した柱と思われる木材が検出されたことから，本住居は焼失家屋である可能性が考えられる。土坑が１基，掘り下げ部分の南の端に検出されている。規模はおおよそ100cm×70cmほどの楕円形に近い形状で，深さは約20cmである。深さがやや浅いものの，貯蔵穴の可能性が考えられる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。Ⅶ層に類似している。

遺構内遺物　739～756は甕形土器である。739～741は大型甕形土器である。739は接合により口縁部から胴部の中央部まで復元できたものである。口径は59.2cm，脚部の径も59.2cmと，径はほとんど同じと捉えて良い。口縁部は幾分く字状に上向きとなっているが，脚はほぼ水平である。脚は接合部で4.6cmほどあり，大きいものと言える。器面調整は外面は全体を横方向のミガキによって調整しており，内面は口縁部付近のごく上部を指頭痕と横方向のナデにより調整し，それ以下のほとんどの部分を外面と同じように横方向のミガキ調整で整えられて



第114図　竪穴住居跡18号２



第115図　竪穴住居跡18号３

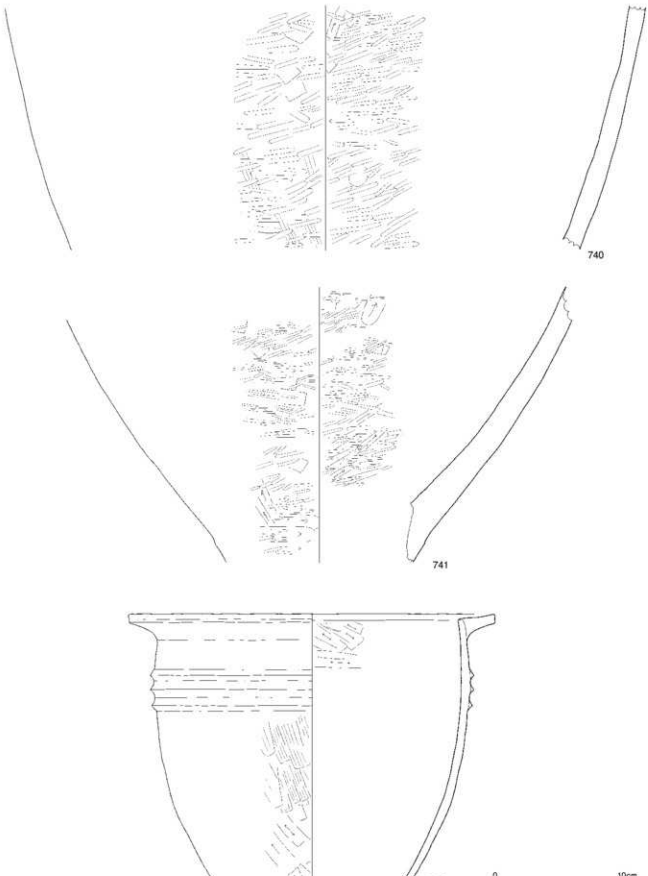
いる。内外面ともに，非常に丁寧な仕上げである。740は胴部の中央部よりもやや下位付近，741は底部に近い辺りである。双方ともミガキが主で，外面がハケナデ，内面がナデ調整が加わる。何れも丁寧な仕上げである。

742 ～ 756は標準的な大きさの甕形土器である。742 ～ 745，748，750は口縁部から胴部付近まで復元できたものである。742は口径29cmで口縁部の下位に３条の恒合に鋭利な断面を持つ三角突帯が付されている。逆L字状の口縁である。外面はハケ目及びハケナデ，内面はハケナデ調整である。

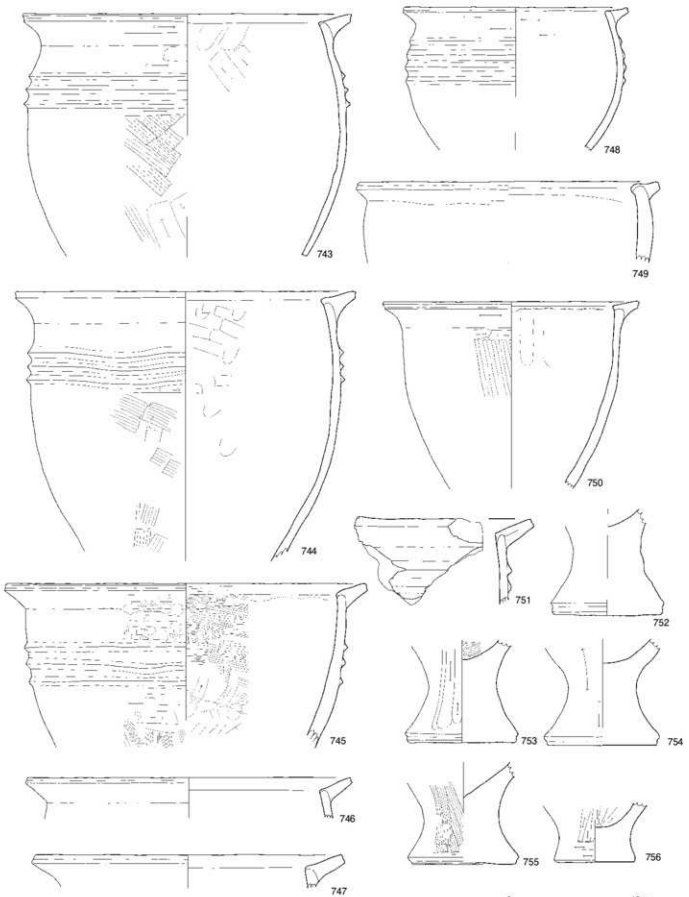
胴部の上部はほぼ真っ直ぐに下部に下りることから，容量は大きいと考えられる。743は口径26.0cmで，３条の三角突帯が付される。胴部最大径は突帯よりも下部にあり，中膨らみの器形である。器面調整は外面ハケ目とナデ調整，内面ハケナデ調整である。744は口径27cmで，３条の三角突帯はうねったように貼り付けられている。外面ハケ目，内面指頭痕にハケナデ調整。745は口径28.8cm，三角突帯はうねっている。外面ハケ目とハケナデ，内面も同様である。748は口径17.8cm，４条の三角突帯が付されており，調整は両面ともナデ調整。750は口径20.2cmで，突帯は付されない。外面ハケ目とナデ，内面はハケナデ調整である。749は逆L字状の口縁が内面に向けて入り込む。752 ～ 756は底部である。充実した脚台を呈する。ただ，756は底部の高さが若干低いことから，鉢形土器の底部の可能性がある。

757 ～ 765は壺形土器である。757はほぼ完形の品である。口径が22.5cm，頸部の径は21.0cmで，口径よりも小さい。二叉口縁の壺である。肩部に６条，胴部最大径付近に４条の三角突帯が巡っている。底径は7.8cmで，底面は若干丸みを帯びている。器高は43.5cmで，全体的に

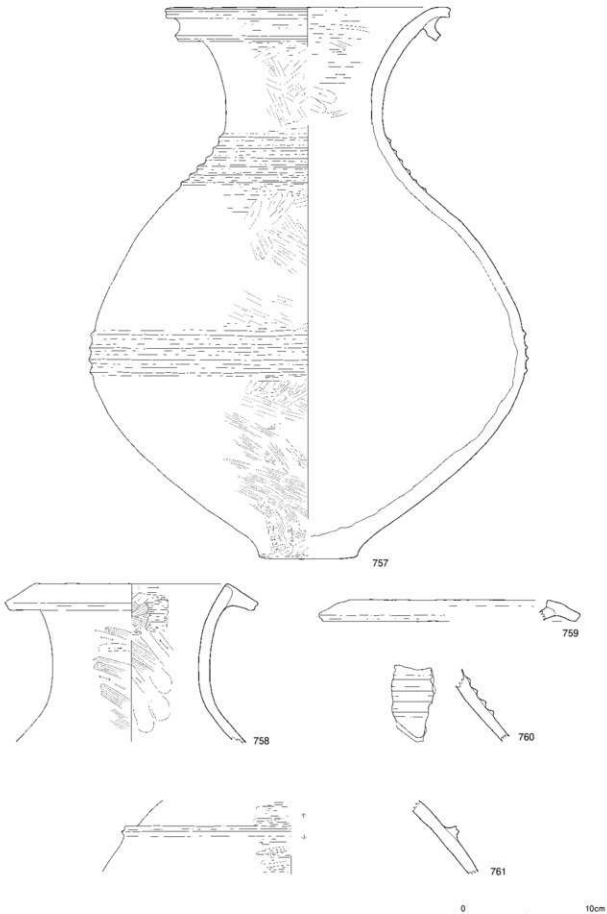
第116図　竪穴住居跡18号出土遺物１



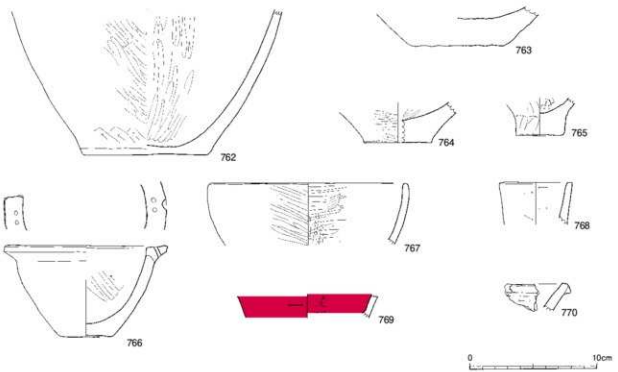
第117図　竪穴住居跡18号出土遺物２



第118図　竪穴住居跡18号出土遺物３



第119図　竪穴住居跡18号出土遺物４

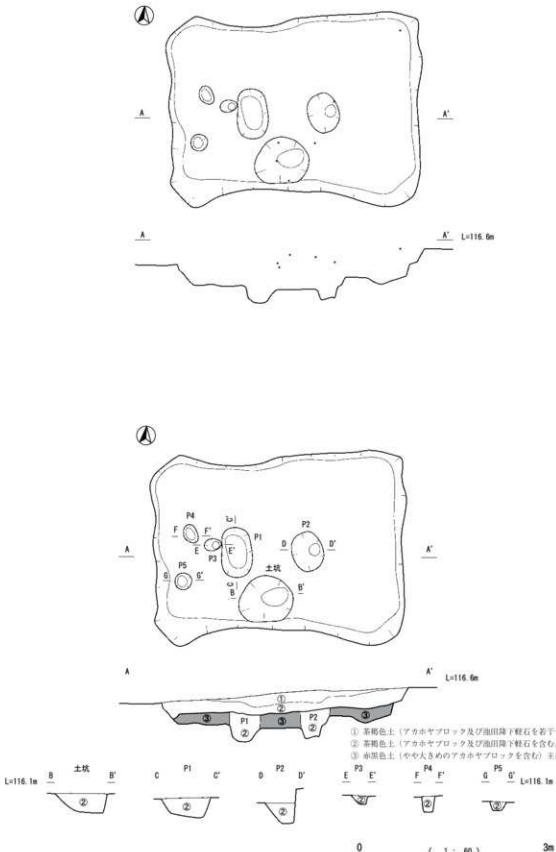


第120図　竪穴住居跡18号出土遺物５

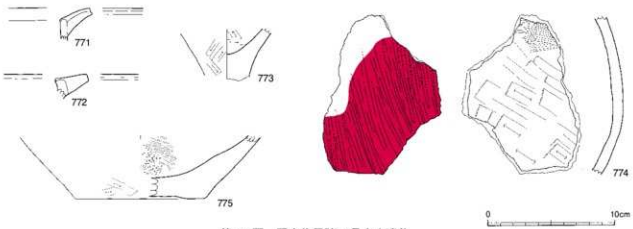
整った形をしている。器面調整は，外面がハケ目，ハケナデとミガキ，内面はハケナデが見られる。内面の下部には剥離が見られる。758と759は口縁部が垂れ下がるタイプのものである。２点ともに口径は20cm程度である。760と761は突帯の付された胴部で，760は４条の三角突帯が，761はM字状突帯が貼付された胴部である。762～765は底部である。底径は，762が10.5cm，763が8.0cm，764が5.4cm，765が3.8cmである。何れも安定した平底であるが，端部の形状などはそれぞれに異なっている。

766と767は鉢形土器である。766は口径が12.9cmで，対峙する２か所に２つの小さな穴が空けられており，紐通しの穴の可能性がある。底径は4.0cmで若干上げ底となっている。器高は7.2cmである。767は口縁部が真っ直ぐに立ち上がるタイプの鉢形土器で，口径は15.8cm，両面ともにミガキ調整である。

768は長頸の壺形土器の口縁部，769は丹塗りの鉢形土器と思われる。770は口縁部の外面に突帯のある鉢形土器であろう。



第121図　竪穴住居跡19号



第122図　竪穴住居跡19号出土遺物

竪穴住居跡19号（第121図・第122図）

検出状況　C－25・26区で検出された。検出面はⅣ層である。

形状　平面形状は，ややゆがんだ隅丸方形を呈する。長軸394cm，短軸276cmで，検出面から床面までの深さは深いところで46cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では小型に属するものである。

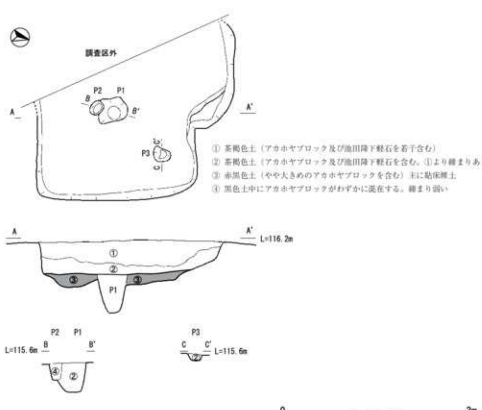
ピットは５基検出された。中央部の２基Ｐ１とＰ２はほかのピットよりも規模が大きく，深さも深いことから主柱穴と考えられる。西側にあるＰ３，Ｐ４，Ｐ５も大まかには東西の軸に沿っていることから，添え柱的な機能が考えられる。また，土坑は１基検出されている。規模は，おおよそ85cm×70cmで，深さは約30cmあり，本遺跡の竪穴住居跡では一般的な場所である南側の中央部に位置していることから，貯蔵穴の可能性を考えておきたい。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

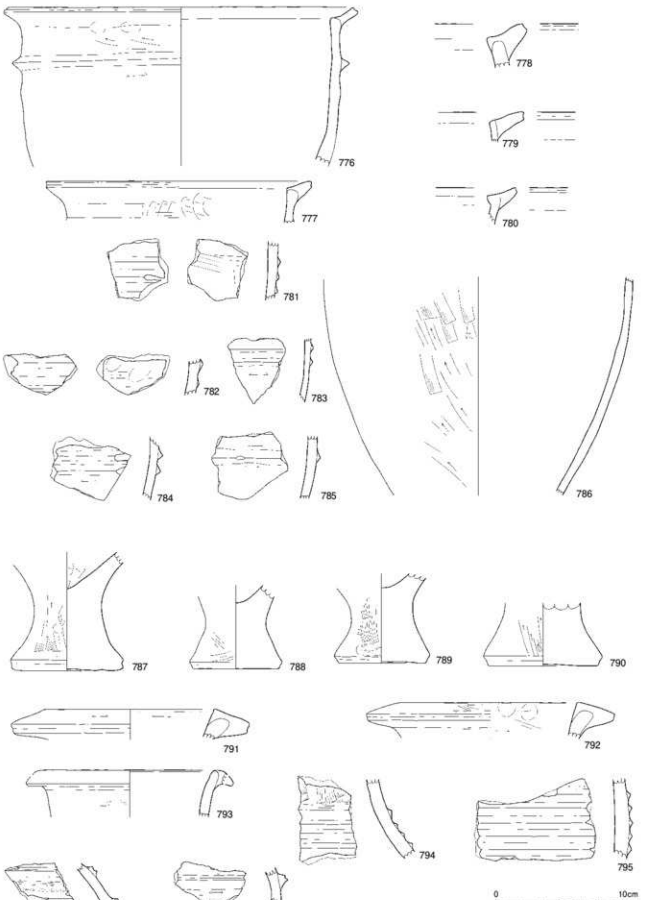
遺構内遺物　771～773は壺形土器である。771と772は口縁部である。771が，く字状の口縁，772は逆Ｌ字状の口縁である。773は胴部下部から底部にかけての部分で，器面の調整は，内外面ともにハケ目調整が行われている。下部は，充実した脚台が外れたような形状をしており，割れている状況ではない。

775は壺形土器の底部である。中央部は破損しているが，底径は推定ながら10.4cmで，若干上げ底となっている。器面調整は，外面がハケナデ，内面はハケ目による調整が施されている。

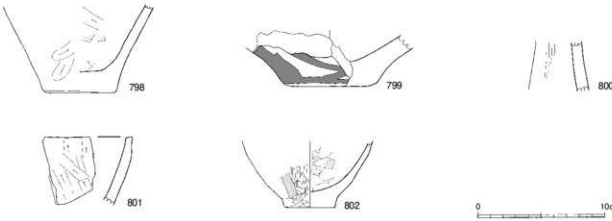
774は丹塗りの土器である。形状から，壺形土器の胴部ではないかと思われる。外面が丁寧なミガキの上から丹が塗られており，内面はハケ目及びハケナデ調整である。



第123図　竪穴住居跡20号



第124図　竪穴住居跡20号出土遺物１



第125図　竪穴住居跡20号出土遺物２

竪穴住居跡20号（第123図～第125図）

検出状況　Ｂ－25区で検出された。検出面はⅣ層である。

形状　竪穴住居跡20号の西側部分が調査区外にのびていることから全体像は不明である。平面形状は，北側の１辺が張り出した方形を呈すると考えられる。長軸298cm以上，短軸218cm以上で，検出面から床面までの深さは深いところで72cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では小型に属すると言える。

張り出し部分はあっても床面の深さは同一であり，中央部に掘り込みは見られない。北側の張り出し部，東側の壁には，小さく不整形の段があるが，出入り口であるか否かについては全体が検出されていないことから不明としか言いようはない。

ピットは２基検出されたが，本遺跡の北側に張り出しを持つ形態の竪穴住居跡では，東西方向に主軸を取るものがほとんどであることから，Ｐ１が２主柱穴のうちの東の主柱穴と考えられるが，Ｐ２及びＰ３については判断できない。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　776～790は甕形土器である。776～780は口縁部を中心とした部分である。776は口縁部から胴部までを復元したもので，口径は28cmで，口縁の下部に１条の三角突帯が巡る。突帯の断面は高く，貼り付けは若干うねったようになっている。外面の器面調整はナデ調整であり，指頭痕も残る。778は断面の厚さから大型甕形土器であろう。その他の口縁部の形状もいろいろなものが見られる。781～785は胴部に付された突帯で，１条から３条まで見られる。突帯の断面の高さは一般的に低いようである。786は胴部で，中央から下部にいたる部分と考えられる。外面はハケ目及びハケナデにより調整が行われている。787～790は底部である。充実した脚台であり，若干上げ底となるものも見られる。外底は，７～９cm程度である。器面調整は，ハケ目やハケナデが見られる。

791～799は壺形土器である。791～793は口縁部で，垂れ下がるタイプのものである。すべて頸部が内側に向けてすぼまることから，頸部の長いものと考えられる。794～797は突帯の付された肩部及び胴部である。794と795には４条～５条の三角突帯，796と797にはM字状の突帯が付き，796は２条付されている。798と799は底部である。何れも安定した平底であるが，端部の形状が異なっているほか，胴部への立ち上がり方が異なる。798は外底の端部がシャープで，それほど広がらずに立ち上がる。一方，799は端部は丸みを帯び，胴部へは広がり気味に立ち上がる。

800は高坏の脚部と考えられる。

801と802は鉢形土器と思われる。801は口縁部で，底部方向から直立気味に立ち上がっている。802は底部を含む部分で，底径が４cmで，器面調整は外面がハケ目，内面は指頭痕が残り，ハケ目の調整が見られる。

竪穴住居跡21号（第126図～第128図）

検出状況　B・C－27・28区で検出された。検出面はⅣ層である。

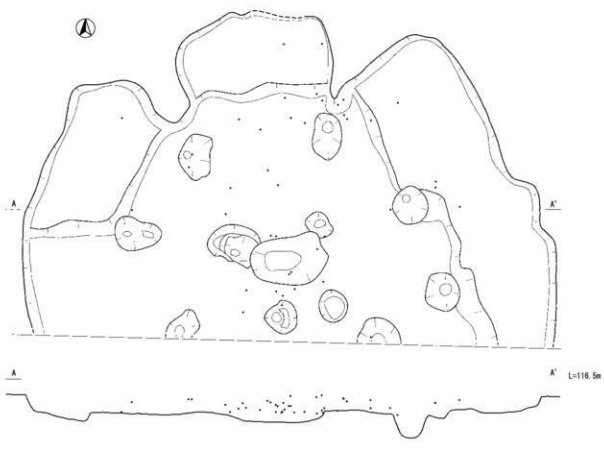
形状　竪穴住居跡21号の南側部分が調査区外に延びていることから全体像は不明である。平面形状は花弁型の多角形を呈していると考えられる。長軸815cm，短軸530cm以上で，検出面から床面までの深さは深いところで40cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では大型に属すると考えられる。北側は一部撹乱を受けている。

花弁型住居跡は，基本的な形状は円形を呈する。このタイプの住居跡は，初めに最も外側を円形に掘った後に，仕切りの部分を後から付けるものがあると考えられるが，本住居跡は外周の円形の掘り方が明瞭でないことから，花弁型となるベッド状遺構の部分を鈍い三角形状に残して仕切りとして掘り下げた可能性が考えられる。南側は未調査であることから花弁や仕切りがどのように作られているのかは不明である。花弁型のベッド状遺構の内側は花弁が繋がらないような形状で完全に断ち切って大きく円形を意識しながら掘り込み，段を設けている。

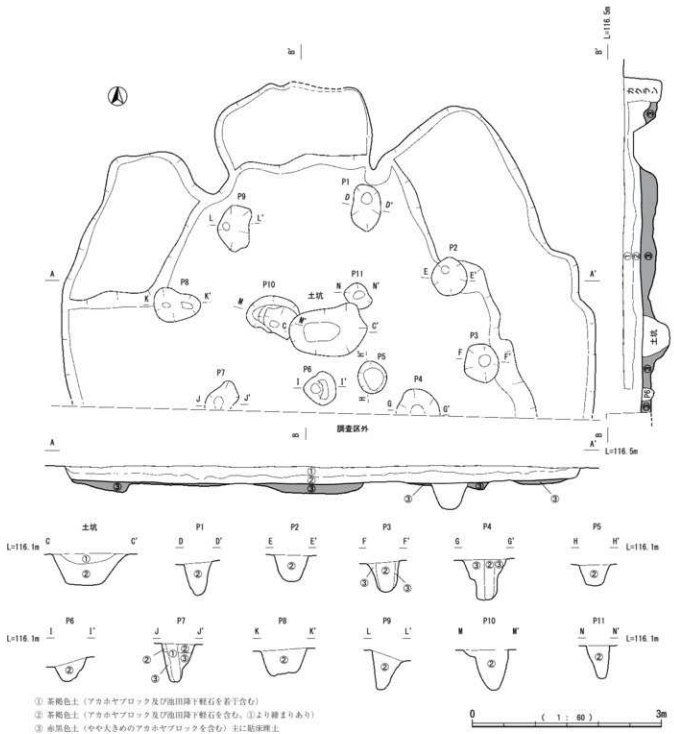
ピットは11基検出されたが，中央部の掘り込みの周囲に深く掘られている数多くのピットは，大型の円形の住居跡と同じように多角形の主柱を立てる穴として掘られたものと考えられる。従って，上屋の構造は結果的に竪穴住居跡12号と同じような形態となるものと思われる。ただ，中央部の土坑１の周囲に掘られている比較的小型のピットは，４基という数と，間隔が等距離を意識して掘られているような印象を受けることから，主柱の周囲に立てられた支え柱であった可能性が考えられる。土坑も１基確認されており，遺構の中心と推定されるところに位置していることから炉跡と考えられる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　803～819は甕形土器である。803～812は口縁部を中心とする部分であり，803は口径31.4cmで，２条の三角突帯が巡っている。804は口径が20.8cmで，突帯は付されていない。この２点は何れも逆L字状の口縁である。805も逆L字状の口縁であるが，口縁部が著しく長く，大型の甕形土器と考えられる。806～812は口縁部である。逆L字状からく字状までいろいろな形状



第126図　竪穴住居跡21号１



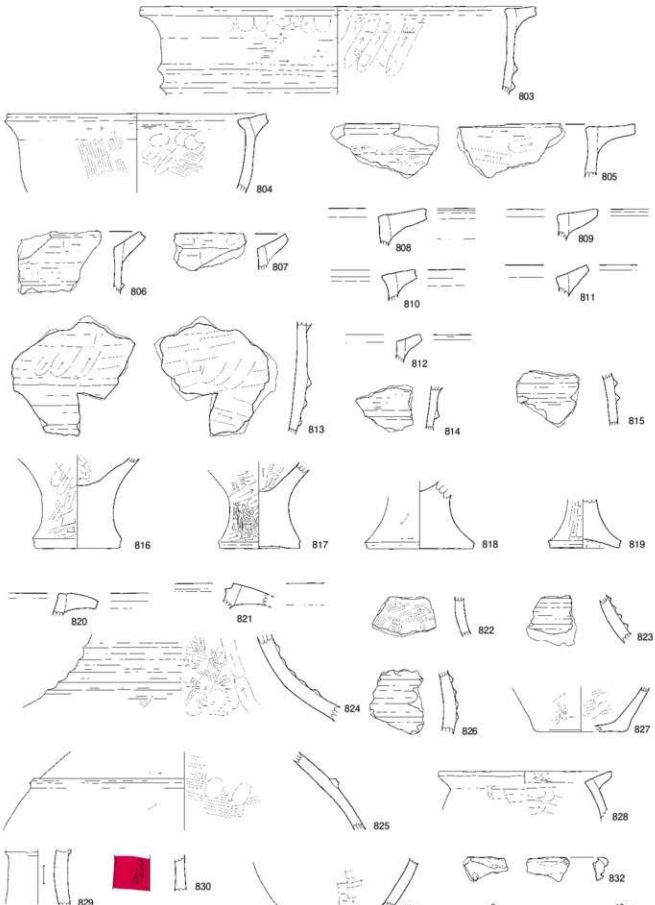
第127図　竪穴住居跡21号2

の口縁部である。808は大型壺形土器であろう。813～815は突帯の付された胴部で，三角突帯が１条～３条付されている。816～819は底部で充実した脚台を有するが，高さには差異が見られ，底径も5.7cm～8.6cmほどと差異がある。

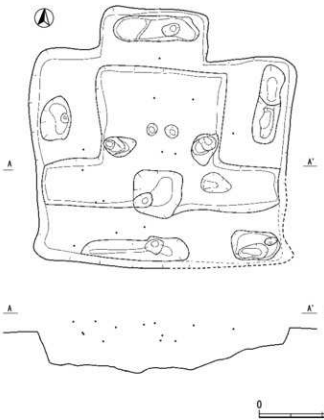
820～828は壺形土器である。820と821は垂れ下がるタイプの口縁部。822～826は頸部及び胴部の突帯である。823は４条，824は５条の三角突帯が肩部に巡る。826は胴部に４条の三角突帯が，825はM字状の突帯がそれぞれ巡っている。827は底部で，安定した平底である。828は短頸の壺形土器。口径は12.4cmである。

829と830は高坏の脚部で，830は丹塗りである。

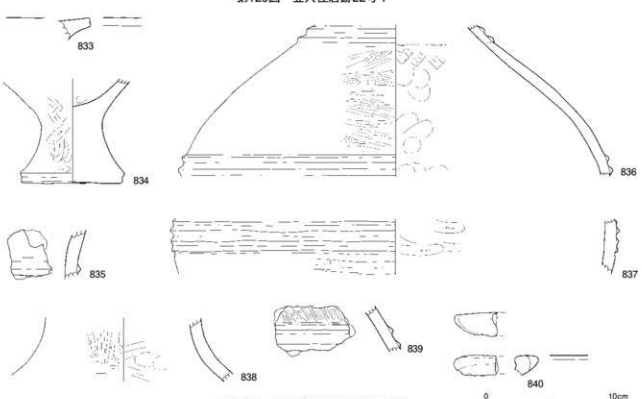
831は鉢形土器の胴部，832も鉢形土器の口縁部と思われ，外面の口縁部の下部及び内面の上部に竹管文のような小さな刺突が見られる。



第128図　竪穴住居跡21号出土遺物



第129図　竪穴住居跡22号１

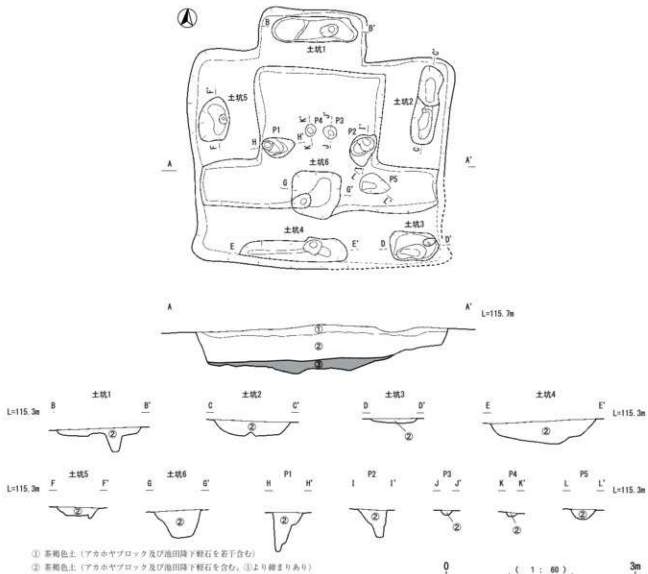


第130図　竪穴住居跡22号出土遺物

竪穴住居跡22号（第129図～第131図）

検出状況　竪竪住居跡22号のＥ－34区で検出された。検出面はⅢｄ層である。

形状　平面形状は，北側に１辺が張り出した方形を呈する。３方向にベッド状の遺構を有する。長軸410cm，短軸398cmで，検出面から床面までの深さは深いところで



第131図　竪穴住居跡22号２

70cmである。標準的な大きさである。

遺構は北側の張り出し部分を含めて北側のベッド状遺構を断ち切らずに繋げ，南側も同様に掘り下げる。中央部を凸状に掘り下げ，段を作っている。南側と東西のベッド状遺構はそれによって断ち切られ，繋がっていない。北及び東・西のベッド状遺構には，ほぼ中央に楕円形や長円形の土坑が，南側のベッド状遺構には中央部と東側に２基の土坑が掘られ，計６基の土坑が見られる。こうなると，中央部が掘り下げられた周囲にあるベッド状遺構は，果たしてベッドとしての機能を果たしていたのかが疑問として浮上することになる。

ピットは５基検出されたが，中央部のＰ１とＰ２の２基の深いピットは主柱穴と考えられ，北側に併行している２基の小型で浅いピットＰ３とＰ４は添え柱である可能性がある。しかし，Ｐ５の機能については不明である。土坑も６基検出された。南側中央部にある80cm×70cmの方形に近い形状をした深さ45cmの土坑６は，位置や規模等から考えると貯蔵穴の可能性が想定できるが，それ以外のベッド状遺構に掘られている土坑はさまざまな形状で深さもさまざまであることからいろいろな用途が考えられよう。個々の機能を推定することは困難である。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　833と834は甕形土器，835～839は壺形土器である。壺形土器の胴部には２～３条の三角突帯が巡

る。840は鉢形土器で口縁部の把手であろう。

竪穴住居跡23号（第132図～第134図）

検出状況　G－28区で検出された。検出面はⅢd層。

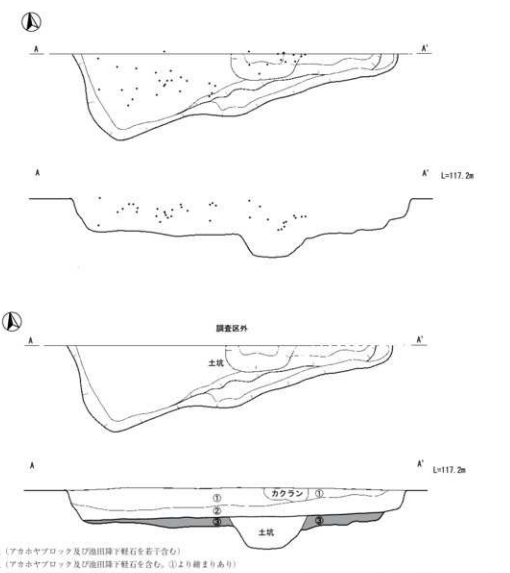
形状　竪穴住居跡23号の北側部分は調査区外に延びることから全体像は不明である。平面形状は方形を呈すると考えられる。長軸516cm，短軸98cm以上で，検出面から床面までの深さは深いところで57cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的な大きさと考えられる。

遺構は床面が平らになるように一様に掘り下げて作るが，南側のほぼ中央部から東側にかけては壁の途中に段があり，出入り口の可能性が考えられる。

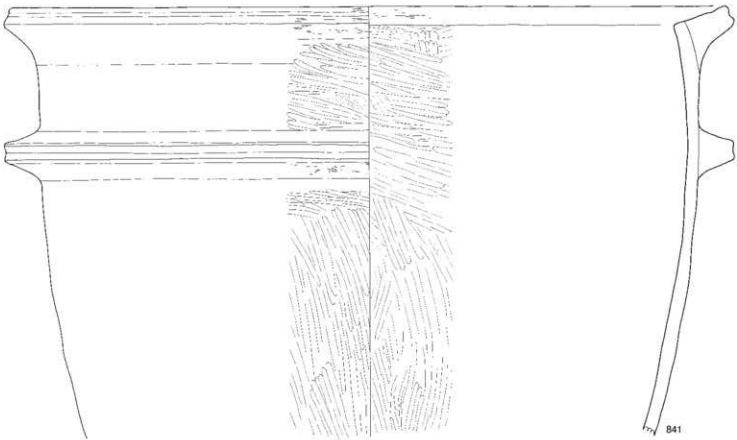
ピットは検出されていないが，土坑は1基検出された。南側の中央部にあって深さが50cm程度あることから，貯蔵穴ではないかと思われる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は3層に分層できる。1層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。2層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。1・2層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。3層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

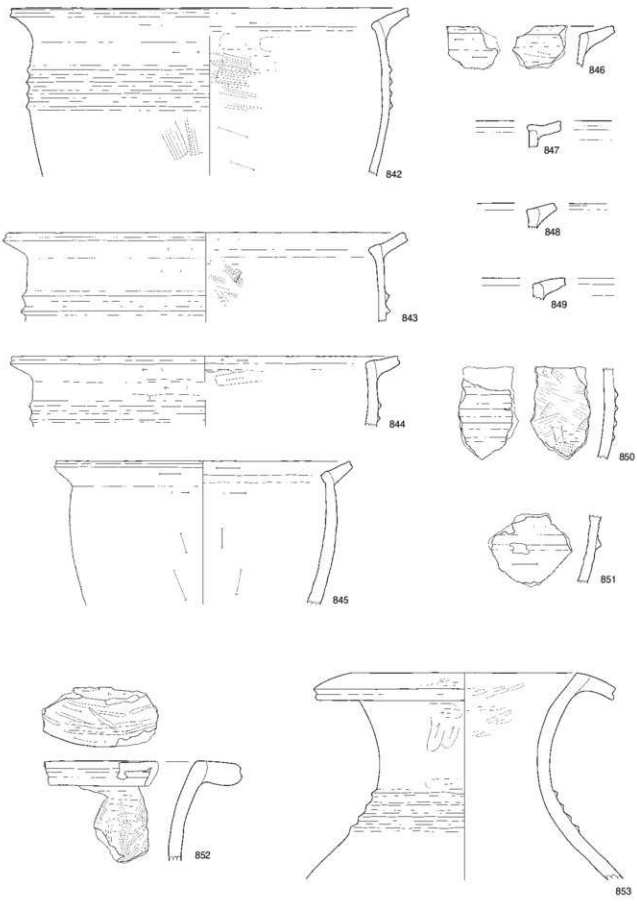
遺構内遺物　841～851は甕形土器である。841は大型甕形土器である。口径57.6cm，脚部の径は58.0cm程度である。口縁部は若干上向き，脚はほぼ水平である。曲面ともにミガキ調整が主である。842～851は標準的な大きさの甕形土器である。そのうち842～849は口縁部を中心とした部位である。逆L字状よりも，く字状の口縁がほとんどである。842は口径31.6cmで4条の三角突帯が付く。843と844も口径はほぼ30cm程度で，2条の三角突帯が見られる。845は口径23.6cmで，突帯は付されていない。853は壺形土器で，口径は23.9cmで4条の三角突帯が巡る。



第132図　竪穴住居跡23号



第133図　竪穴住居跡23号出土遺物１



第134図　竪穴住居跡23号出土遺物２

竪穴住居跡24号（第135図～第142図）

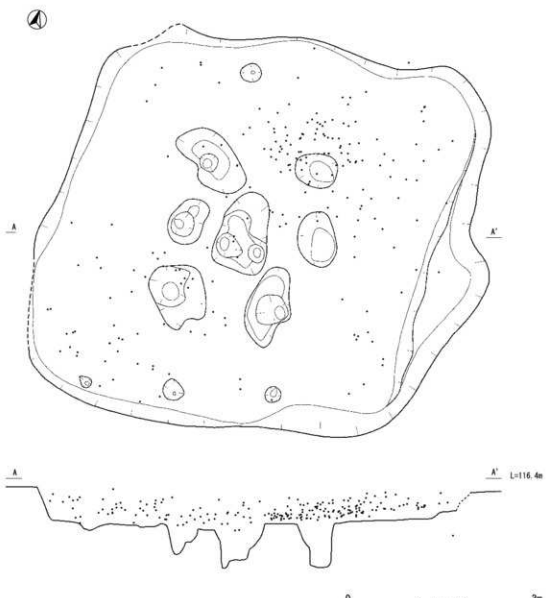
検出状況　C・D－27・28区で検出された。検出面はⅣ層である。

形状　竪穴住居跡24号の平面形状は，平行四辺形に近い隅丸方形を呈する。長軸690cm，短軸620cmで，検出面から床面までの深さは深いところで52cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では大型のものと言える。北西部の一部が攪乱を受けている。

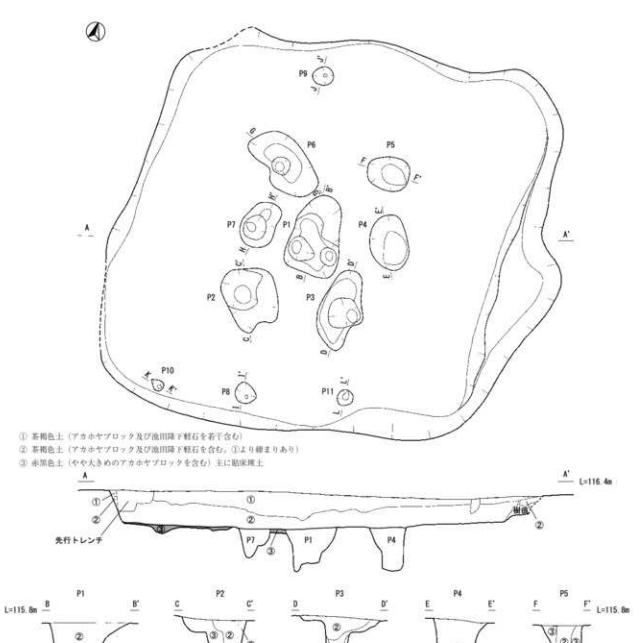
遺構は全体を一様に掘り下げて床面としている。ただ，東側は壁際に段を設けており，出入り口の可能性を感じさせる。

ピットは11基検出された。中央部にある７基のピットのうち，Ｐ２，Ｐ３，Ｐ５，Ｐ６の４基のピットは深さも深く，大きさも大きいことから主柱に当たるのではないかと考えられる。そうすると，本遺跡では珍しい４本柱の建物ということになるが，２主柱としたときには主軸が揃わないことから，４本柱と考える方が自然なように思われる。南側に３基並んでいるピットは何れも小型で，深さも浅いことから添え柱と想定される。また，北側の小さなピットＰ９も南側のものと同程度の規模であることから，同様に添え柱と考えられる。中央に位置するＰ１は1.3m×１mの規模で深さが約50cmあることから土坑と考えて，炉跡と捉える方が良いのかもしれない。ただ，南側にはピット様の小さめの穴があることから炉跡ではないことも考えられる。Ｐ４及びＰ７は形状及び深さなどから土坑と捉えておく方が良いと思われる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んで



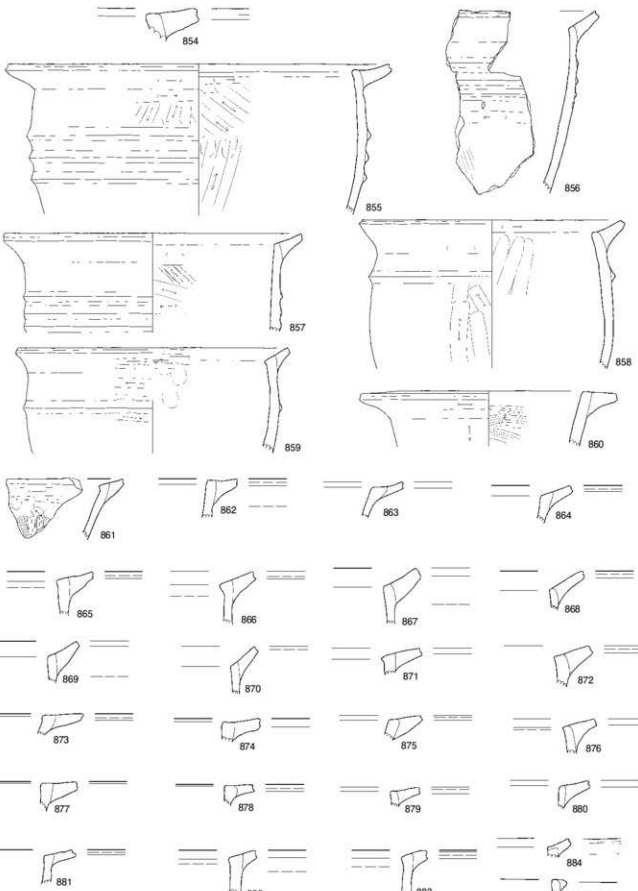
第135図　竪穴住居跡24号１



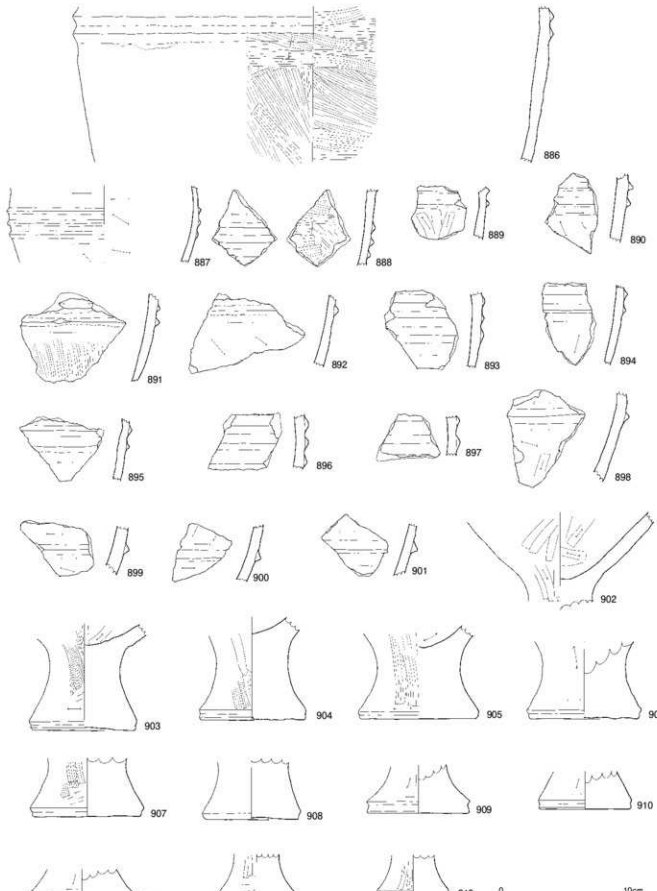
第136図　竪穴住居跡24号２

おり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

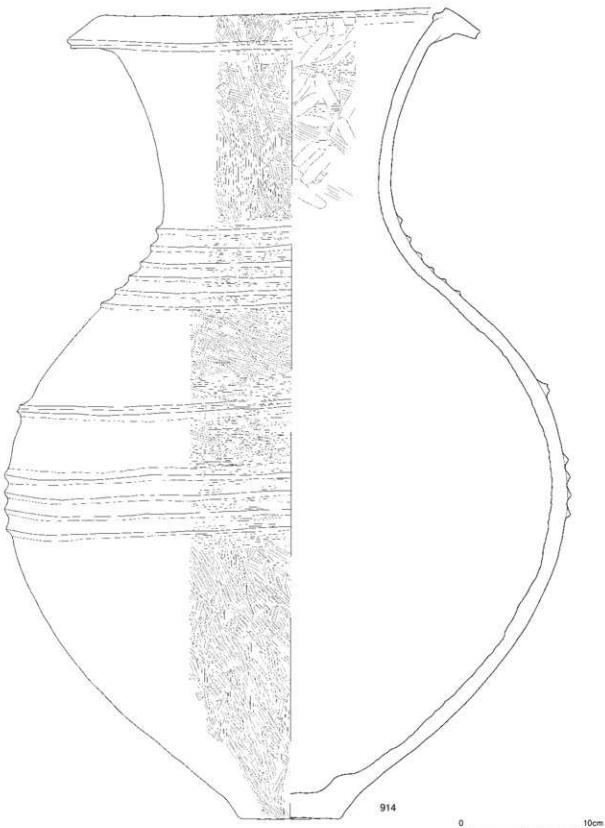
遺構内遺物　854 ～ 913は甕形土器である。854は大型甕形土器である。855 ～ 913は標準的な大きさの甕形土器である。856を除く855 ～ 860は口縁部から胴部まで復元できたものである。855は口径が30.4cmで口縁部の下位に３条のそれほど鋭くない断面形状の三角突帯が突帯同士の間隔を空けながら付されている。856は３条の三角突帯の直ぐ下位に刷痕と思われる痕跡が見られる。857



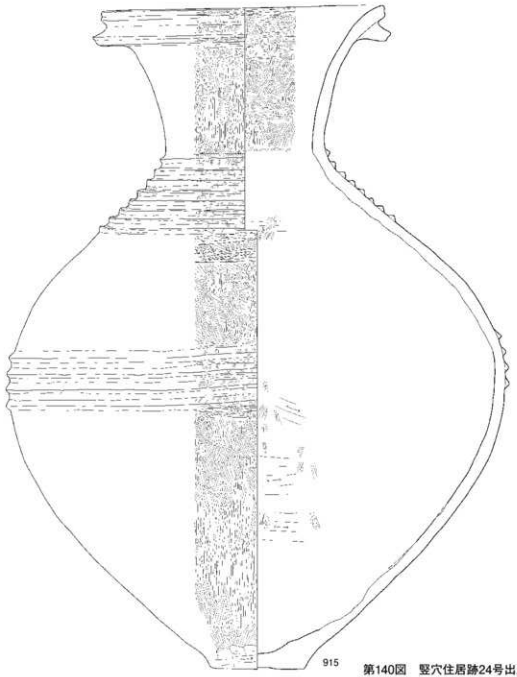
第137図　竪穴住居跡24号出土遺物１

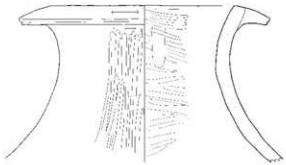


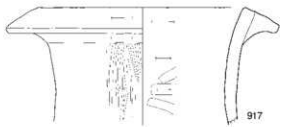
第138図　竪穴住居跡24号出土遺物２

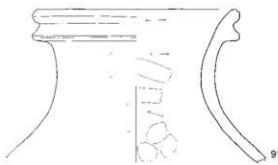


第139図　竪穴住居跡24号出土遺物３

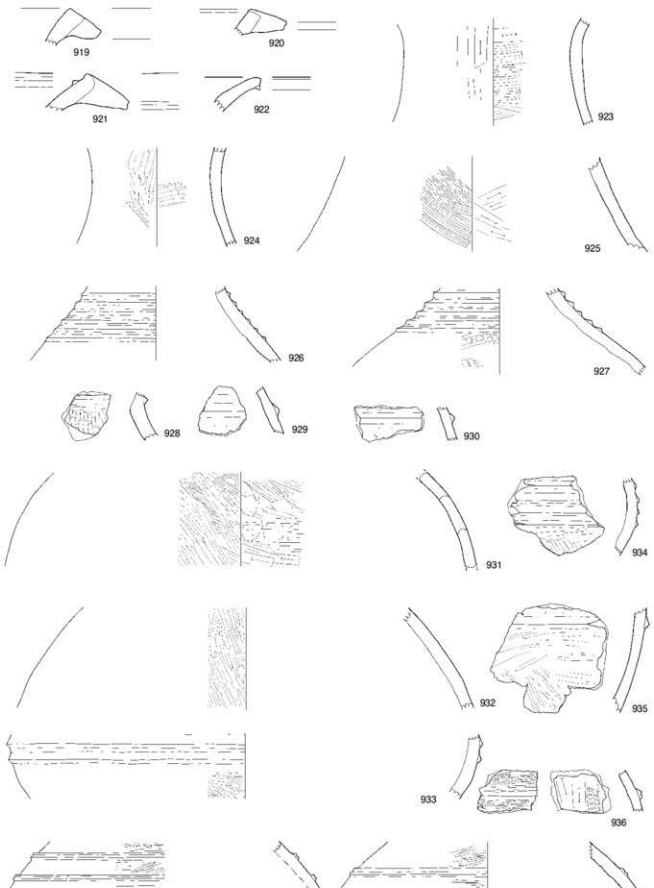




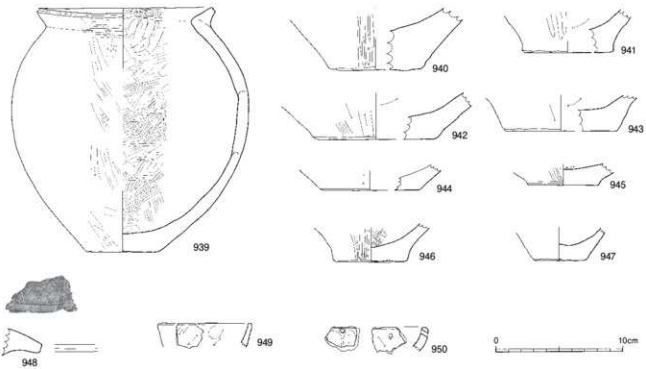




第140図　竪穴住居跡24号出土遺物4



第141図　竪穴住居跡24号出土遺物５



第142図　竪穴住居跡24号出土遺物6

は口径23.6cmで3条の三角突帯が付く。859は21.6cmで1条の同様な突帯が付されている。口径21.0cmの858にも同様に1条の三角突帯が付される。860は口径が20.4cmである。861～885は口縁部である。それぞれに形状や傾き，大きさなどが異なっている。逆L字状のものから，く字状のものまで見られる。

886～901は胴部に突帯が付される土器である。886は胴部の径が37.0cmと大きなものである。2条の三角突帯が巡っている。器面調整は内外面ともにハケ目及びナデ調整である。887は胴部の径が15.0cm程度のもので，3条の三角突帯が付される。そのほかの胴部にも，3条～1条の三角突帯が付されているが，突帯の高さや断面の形状，幅などはさまざまである。902は胴部の下部で，底部の近く付近である。器面調整は，内外面ともにナデ調整である。903～913は底部である。何れも充実した脚台となっている。上部が破損しているものも見られる。底径は，最小のものが5.6cm，最大のものが9.5cm程度である。器面調整はハケ目及びハケナデ，ナデ調整などさまざまな調整が見られる。

914～948は壺形土器である。914と915は完形に復元できたものである。914は口径27.1cm，底径が8.0cm，器高が64.1cmのものである。口縁部は垂れ下がっている。肩部に6条，胴部最大径付近に4条の三角突帯が巡っているほか，その間にはM字状の突帯が1条付されている。器面調整は，外面はミガキがほとんどで一部にハケ目が見られ，内面はハケ目にナデ調整の痕跡が見られる。内面の肩部より下位は剥離が見られる。915は口径22.4cm，底径が7.5cm，器高は52.3cmのもので，二叉口縁の壺である。肩部に8条，胴部最大径付近に4条の三角突帯が巡らされている。器面調整はミガキが主で，ナデ調整も一部に見られる。916と917，919～921は口縁部が垂れ下がるタイプ，918は二叉口縁の，922は二重口縁の壺のそれぞれ口縁部である。923～925は頸部，926～930は肩部に突帯を付した土器である。933～938はM字状の突帯が付されており，中でも937には2条のM字状突帯が付されている。939は短頸の壺形土器で，完形品である。口径14.1cm，底径6.0cm，器高は19.4cmである。器面調整は，外面がハケナデとミガキ，内面はハケナデとミガキが中心となっている。940～947は底部である。何れも安定した平底である。底径は，最小のもので4.2cm，最大のものは10.0cmである。948は口縁部の外面に鋸歯文が浅く施されている。

949と950は鉢形土器の口縁部である。特に950には外面から内面にかけて斜め方向の小さな穴が空けられている。

竪穴住居跡25号（第143図～第145図）

検出状況　D・E－34・35区で検出された。検出面はⅢd層である。

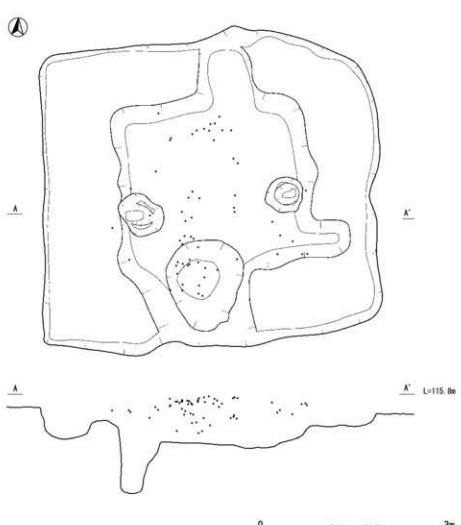
形状　竪穴住居跡25号の平面形状は，北東部の角が丸まった隅丸方形を呈する。長軸528cm，短軸503cmで，検出面から床面までの深さは深いところで48cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的な大きさである。

遺構は中央部を段状に深く掘り下げ，相対的に東西両側をベッド状遺構として高めに残している。ただ，中央部の掘り下げ方は本遺跡でも特異であり，中央部を方形に近い形状に掘り下げ，さらに北側及び南側を幅を違えて壁まで掘り下げている。また，東側も南側から1／3程度のところで途中まで掘り下げている。その結果，出入りの激しい形状となっている。

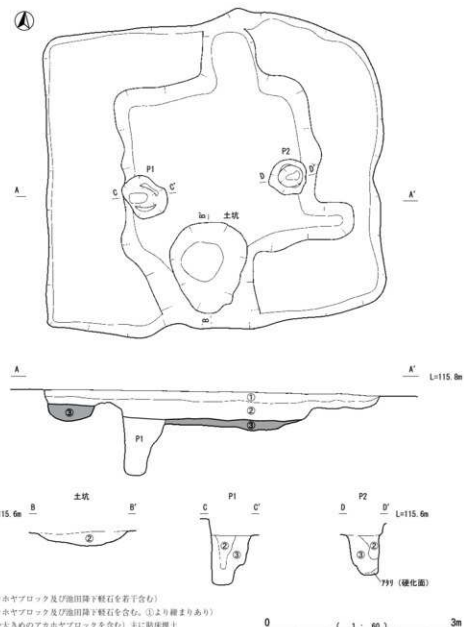
ピットは2基検出され，中央部の掘り下げた部分の東西の壁際に東西方向に軸を設けて深いピットを掘っている。このことから，主柱穴に当たると考えられる。また，土坑が1基検出された。南の壁寄りの場所で，規模も大きいことから貯蔵穴と考えて支障ないものと思われる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は3層に分層できる。1層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。2層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。1・2層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。3層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　951～963は褒形土器である。951と952は口縁部から胴部にかけて径が復元できた土器である。951は口径31.0cmで，胴部に3条の三角突帯が巡っている。952の口径は29.6cmで，951と同様に胴部に3条の三角突帯が巡っているものの，上2条と最下の1条の間にはやや間隔がある。953～958は口縁部である。く字状あるいは逆L字状を呈する口縁である。断面の形状や厚さなどはそれぞれに異なっている。959は胴部に付された三角突帯で，2条の突帯が見られる。960及び961は胴



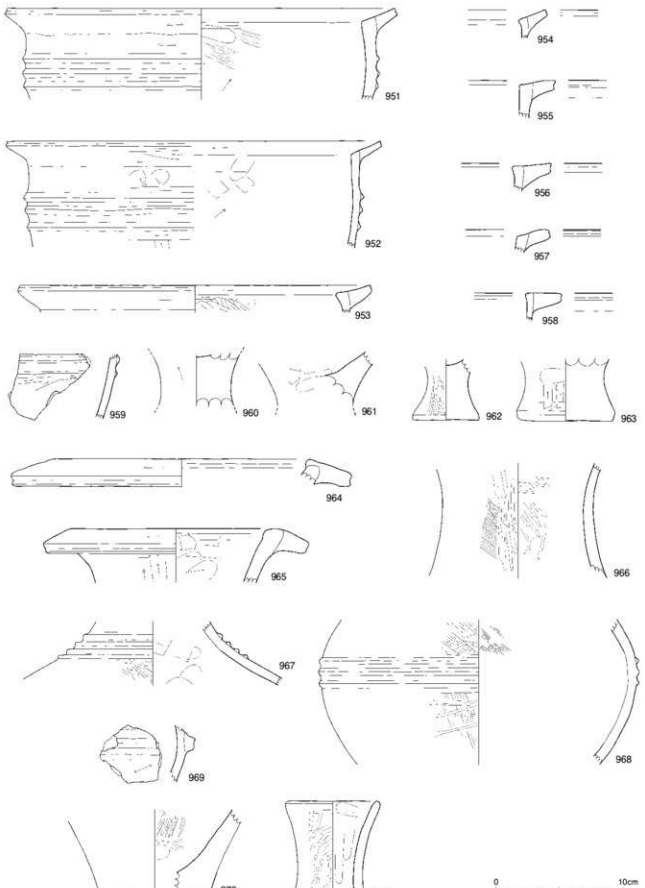
第143図　竪穴住居跡25号1



第144図　竪穴住居跡25号2

部下部で，底部と繋がる部分である。960の内面には，辛うじて内底が一部に見えている部分がある。962と963は底部である。充実した脚台で，963は上部が欠損する。

964～971は壺形土器である。964と965は口縁部で，垂れ下がるタイプのものである。966は頸部，967は肩部であり，三角突帯が4条巡らされている。968には胴部に付された三角突帯が3条巡らされている。969も同様に胴部に付された突帯であるが，M字状の突帯が1条付されている。970は底部で，安定した平底であるが，中央部は欠損している。971は長頸壺の口縁部である。口径が7.5cm，頸部の長さは7.0cmを越える。



第145図　竪穴住居跡25号出土遺物

竪穴住居跡26号（第146図～第156図）

検出状況　D－27・28区で検出された。検出面はⅣ層である。

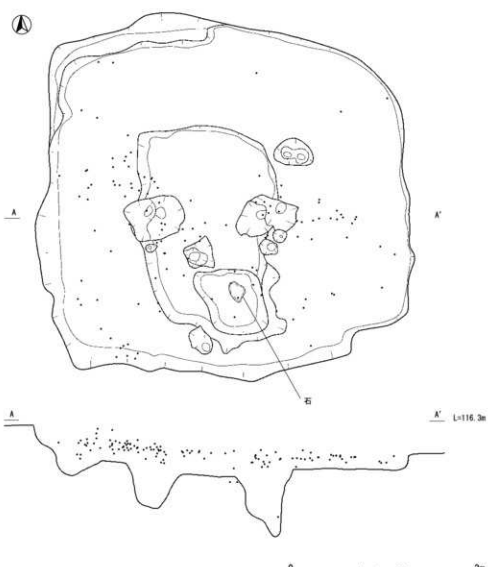
形状　竪穴住居跡26号の平面形状は，北東部の角が丸まった隅丸方形を呈する。長軸592cm，短軸558cmで，検出面から床面までの深さは深いところで26cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居跡の中では標準的な大きさのものである。

遺構は全体的に掘り下げを行った後に，中央部のやや南寄りに２ｍ×３ｍほどの規模を意識した略方形の掘り下げを行い，相対的に周囲を高くベッド状に作っている。北側の西寄りには壁の途中に段を設けており，出入り口の可能性が考えられる。

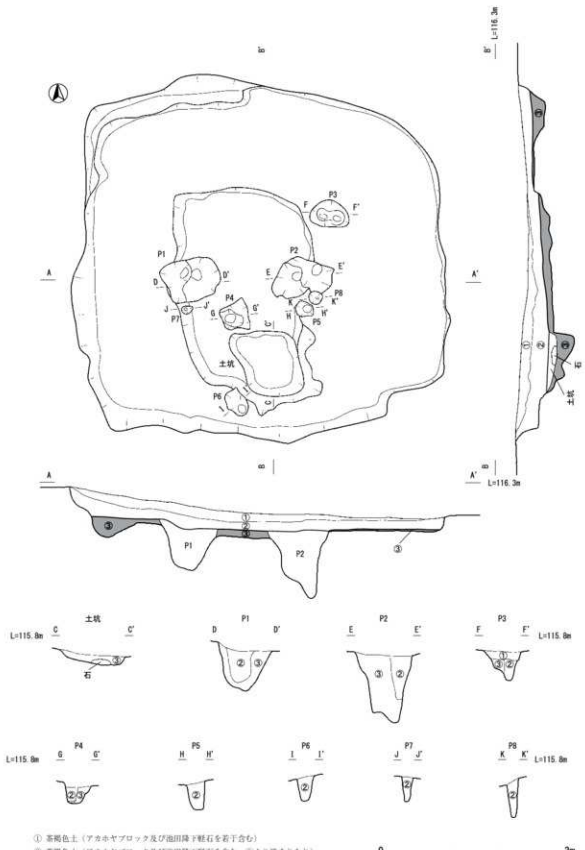
ピットは複合的なものも含めて８基検出された。中央部の掘り下げられた部分のほぼ中央には，東西の壁際に軸をそろえて位置しているＰ１とＰ２の２基は主柱穴と考えられる。それ以外のピットについては大きさや深さなどがＰ１・Ｐ２とは大きく異なっており，位置的にも統一性が見られず，どのような性格のものであるかは不明である。また，土坑が１基検出されているが，110cm×100cmの規模で深さが約15cmあり，位置的に南側中央にあることから貯蔵穴ではないかと考えられる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　972～1017は甕形土器である。972と973は大型甕形土器である。972は口径が40.2cm，脚部の径も同様である。口縁部，脚部ともに端部は波打ったように

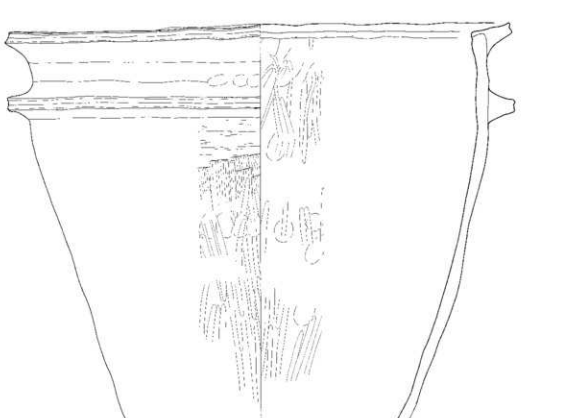


第146図　竪穴住居跡26号１



① 茶褐色土（アカホヤブロック及び池田降下軽石を若干含む）
② 茶褐色土（アカホヤブロック及び池田降下軽石を含む。①より締まりあり）
③ 赤黒色土（やや大きめのアカホヤブロックを含む）主に貼床埋土

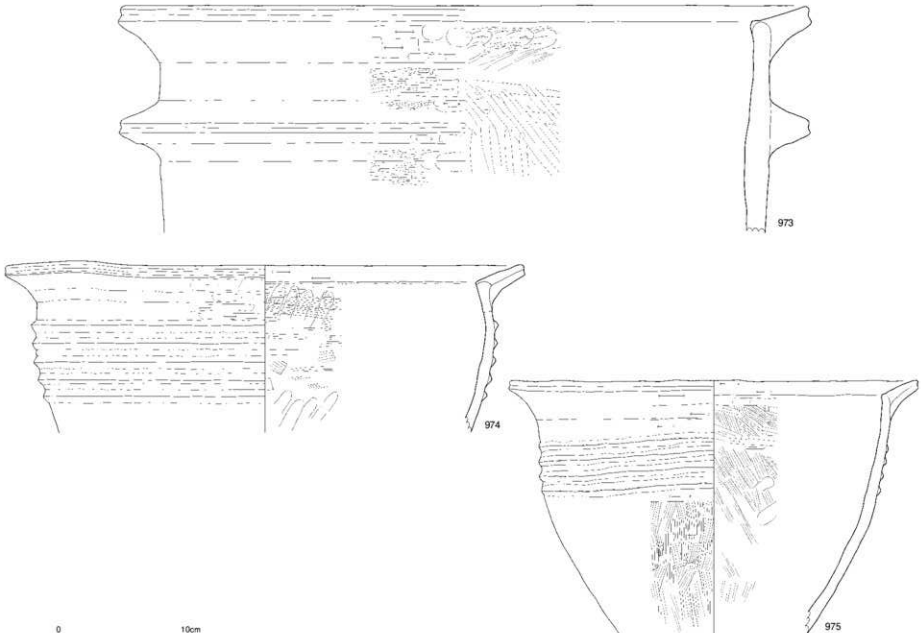
第147図　竪穴住居跡26号２



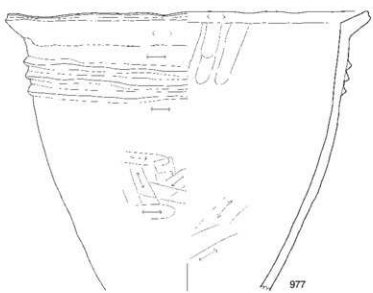
第148図　竪穴住居跡26号出土遺物１

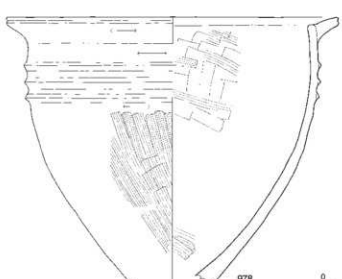
なっている。口縁部が若干上向き気味，鍔部はほぼ水平である。器面調整は，外面がナデ，ハケ目及びミガキ，内面がミガキ調整が主である。口縁部･鍔部から底部にかけての胴部は急激に狭くなり，大きく膨らむことはない。973は口径が54.4cm，鍔部も同様である。器壁は，972が最大で12㎜であるのに対して，973は最大26㎜あって相当に厚い。974 ～ 982は標準的な大きさの甕形土器の口縁部から胴部にかけて復元できたものである。その何れも胴部には三角突帯が５条から１条巡っている。974は口径41.0cmで突帯は５条付されるものである。最も上に位置する突帯部周辺の径が最大で，それより下位は次第に狭まってゆく。本遺跡で５条の突帯を有する甕形土器は珍しい。975は口径32.4cmで，４条の突帯は若干斜めに貼り付けられている。口縁部から突帯の下部までは径はほとんど変わらないが，それより下になると急激に狭まる。976は口径28.6cmで，４条の突帯は若干うねったように貼り付けられている。977は口径28.8cmで，３条の突帯は全体がうねったように貼り付けてあるとともに，口縁部の貼り付けも多めの粘土で体部に付されている。底部へのすぼまり方が口縁部から直線的となっている。978は口径が26.2cmで，底部へのすぼまり方は３条の突帯の下部からであり，急激な印象を受ける。979は口径が30.0cm，３条の突帯はうねったように貼り付けられる。底部へのすぼまり方は突帯よりも遙かに下方からであることから，相当に張った土器との印象を受ける。980は口径が26.1cmで３条の突帯がほぼ直線的に貼り付けが行われ，981は24.7cmで１条の突帯がややうねり気味に貼り付けられ，982は27.4cmで１条の突帯が直線的に貼り付けられている。

983 ～ 1000は口縁部である。983は口縁部自体の長さが４cmほどと長いものである。そのほか，形状や厚み，端部の状況などがそれぞれに異なっている。997は口径が14.2cmである。1001 ～ 1012は突帯の付された胴部である。突帯は４条から１条まで，断面の形状や大きさの違いなどさまざまである。1013と1014は胴部の下部で，底部にいたる部分である。1015 ～ 1017は底部である。器面調整は，ハケ目，ハケナデ，ナデなどさまざまな調整が見られる。

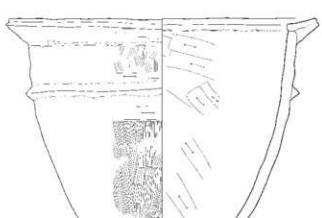


第149図　竪穴住居跡26号出土遺物２

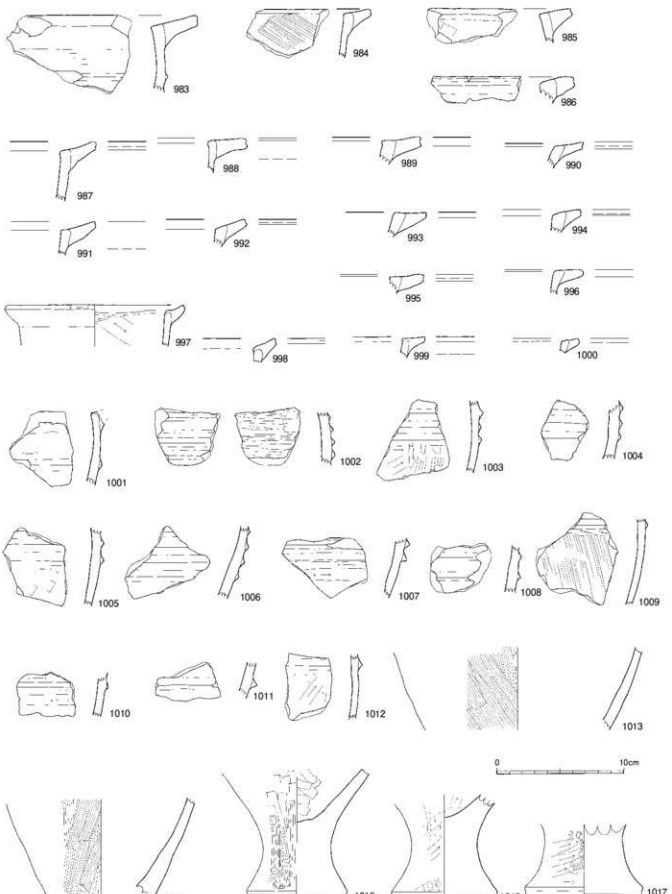




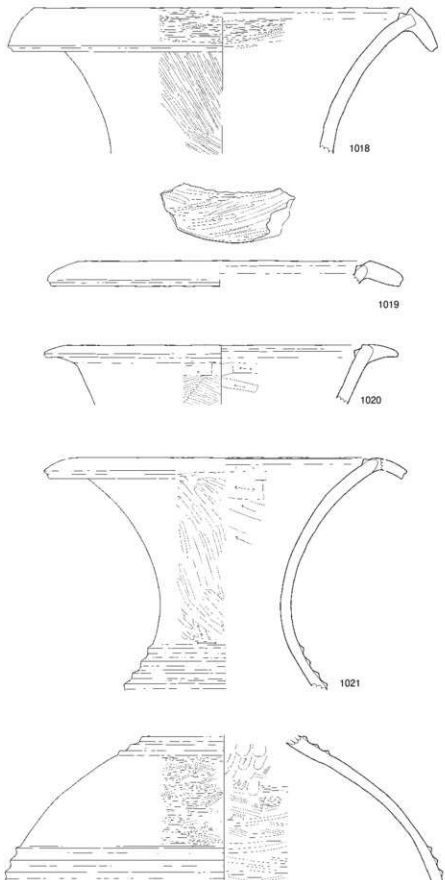
第150図　竪穴住居跡26号出土遺物３



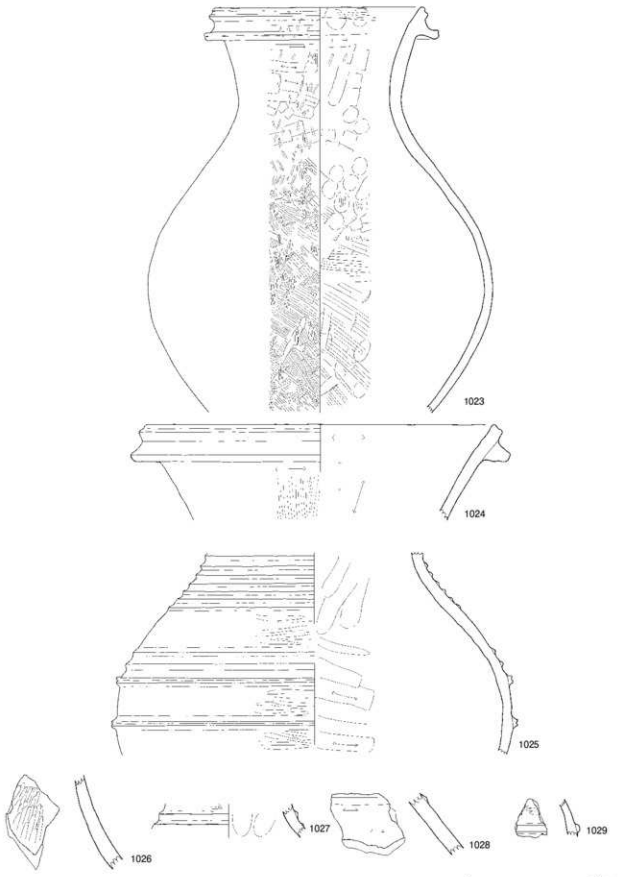
第151図　竪穴住居跡26号出土遺物４



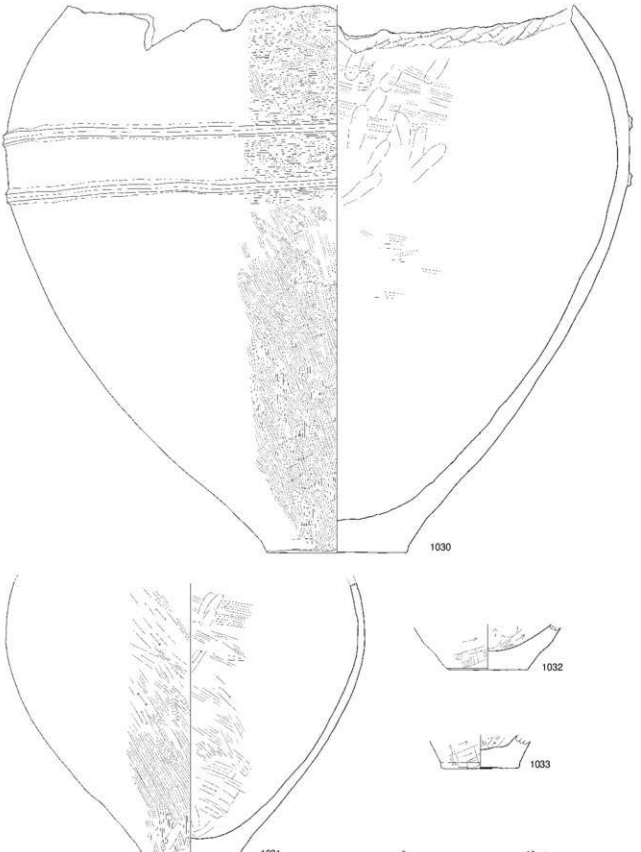
第152図　竪穴住居跡26号出土遺物５



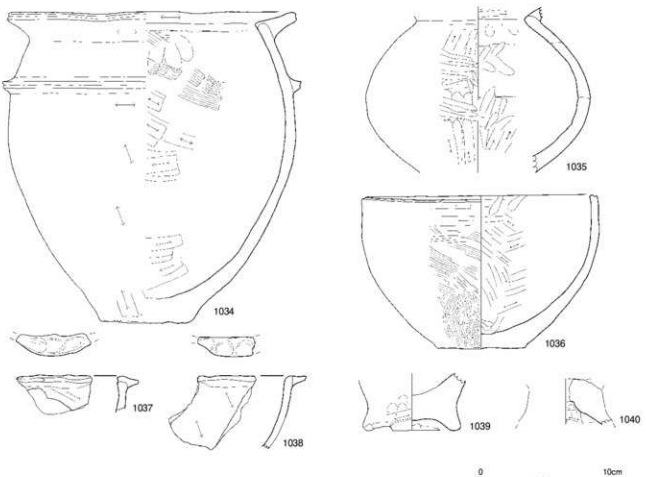
第153図　竪穴住居跡26号出土遺物６



第154図　竪穴住居跡26号出土遺物７



第155図　竪穴住居跡26号出土遺物８



第156図　竪穴住居跡26号出土遺物９

1018 ～ 1035は壺形土器である。1018 ～ 1021は口縁部を中心とした部位である。すべて垂れ下がるタイプの口縁であるが，1020のみ下方への垂れ下がり方が小さい。口径は1018が34.0cm，1019が20.6cm，1020が28.0cm，1021が推定で23.6cm程度である。1021は頸部がしまっており，そこに４条の三角突帯が巡っている。1022は胴部である。肩部と胴部にそれぞれ３条と４条の三角突帯が付されている。1023 ～ 1030は二叉口縁の壺と考えられる。1023は口径が18.4cm，鍔部の径が18.6cmである。胴部などには突帯は付かない。1024は口縁部のみである。口径が30.0cm，鍔部の径が29.8cmである。1025は口縁部を欠くが，同様な器形のものと考えられる。肩部に６条の三角突帯，胴部には２条のM字状の突帯が巡り，その間には２条の三角突帯が付されている。1026は頸部，1027 ～ 1029は胴部上部辺りの突帯である。1030は胴部であるが，上部を大きく欠いている。胴部の最大径辺りにM字状の突帯を付すところは1025にも類似する。1031 ～ 1033は底部を中心とした部分である。1031には突帯は見られない。1032，1033を含んですべて安定した平底である。

1034は短頸の壺形土器である。口縁部の下位には１条のM字状突帯が巡る。口径が22.8cm，底径が7.1cmあり，器高は24.6cmである。1035も短頸の壺形土器であるが，胴部などに突帯は見られず，胴部が大きく張るタイプである。口縁部を欠くが，く字状となると考えられる。

1036 ～ 1039は鉢形土器である。1036は口径が18.6cm，底径が7.0cmで，器高は12.0cm程度である。口縁部は真っ直ぐに立ち上がっている。1037と1038は口縁部であるが，指頭痕の鮮やかな把手が付いている。1039は底部である。外底が大きく上げ底状となっている。

1040は高坏の脚部である。

竪穴住居跡27号（第157図）

検出状況　B－26区で検出された。検出面はⅣ層である。床面はⅥ層を中心にⅦ層までを掘り下げている状況が見られる。

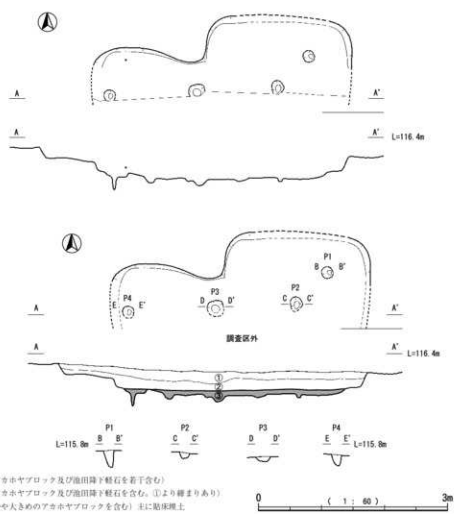
形状　住居跡の南側部分が調査区外に延びることから全体像は不明である。平面形状は，北側に張り出しを持つ方形を呈していると考えられる。長軸408cm，短軸120cm以上で，検出面から床面までの深さは深いところで38cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では割合に小型である。北側及び西側部分の一部は撹乱を受けている。

遺構は張り出し部分も含めて全体的に画一的に掘り下げを行っている。南側が未調査のため中央部が更に掘り下げられているか否かは不明である。そのため，検出されている面がベッド状遺構となるのかどうかも不明である。ただ，本遺跡の他の竪穴住居跡の例から考えたとき，中央部が更に掘り下げられている場合には，張り出し部分に隣接して居る場合がほとんどであることから，本住居跡にはそのような所作はないものと考えられる。

ピットは４基検出されている。Ｐ２とＰ３，Ｐ４はほぼ東西に並ぶものの，深さがさまざまであることから主柱穴とは考えにくい。Ｐ１についても位置的に主柱穴とはなりにくいように思われる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は３層に分層できる。１層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。２層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。１・２層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。３層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　住居跡内からは遺物の出土がほとんど見られなかった。



第157図　竪穴住居跡27号

竪穴住居跡28号（第158図）

検出状況　C・D－36区で検出された。検出面はⅢd層である。床面はⅦ層まで掘り下げを行っている。

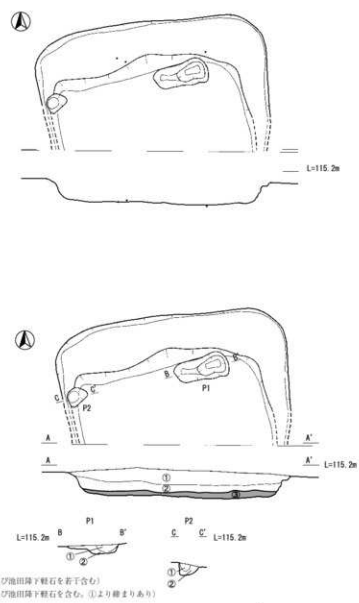
形状　住居跡南側部分が調査区外に延びることから全体像は不明である。平面形状は方形を呈すると考えられる。長軸358cm，短軸207cm以上で，検出面から床面までの深さは深いところで25cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では小型である。

遺構は北側にベッド状の遺構が見られ，その南側は一段深く掘り下げられている。ベッド状の遺構は東側は若干狭まりながらも繋がっているものの，西側は極端に狭まっているか切り離されている。

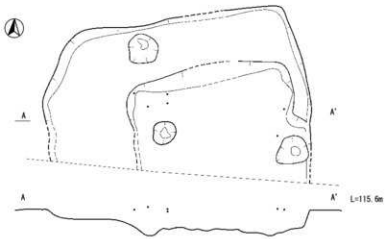
ピットは調査した範囲で2基検出されている。位置的にも深さからも主柱穴とは考えにくい。

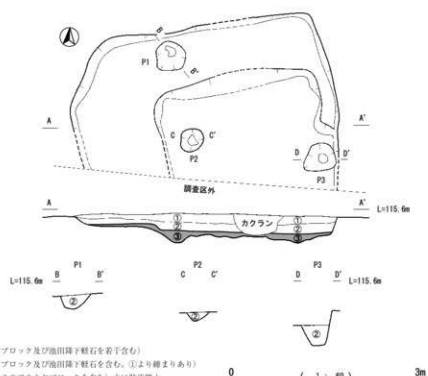
遺構内埋土　遺構内に堆積している土は3層に分層できる。1層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。2層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。1・2層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。3層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　住居跡内からは遺物の出土はほとんど見られなかった。

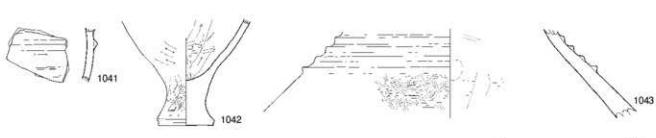


第158図　竪穴住居跡28号





第159図　竪穴住居跡29号



第160図　竪穴住居跡29号出土遺物

竪穴住居跡29号（第159図・第160図）

検出状況　C・D－35・36区で検出された。検出面はⅣ層である。

形状　住居跡南側部分が調査区外に延びることから全体像は不明である。平面形状は，隅丸方形を呈すると考えられる。長軸419cm，短軸240cm以上で，検出面から床面までの深さは深いところで29cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的な大きさであると考えられる。中央は南北方向に撹乱を受けている。

遺構は全体的に掘り下げた後に，中央部やや東寄りのところを広く更に掘り下げており，相対的に北側と西側は高くベッド状となっている。東側はベッド状の高まりが狭く短く南側に下りた後に切られている。

ピットは3基検出されている。一段低い位置にある2基のピットP2及びP3は，位置的にも深さ的にも主柱穴とはなりにくいように思われるほか，ベッド状遺構の北側にあるピットP1も同様で，主柱穴ではないと思われる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は3層に分層できる。1層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。2層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。1・2層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。3層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　1041と1042は甕形土器である。1041は突帯の付された胴部で，三角突帯が1条付されている。断面が割合に鋭い形状をしており，それほど低い突帯ではない。外面はナデ調整が行われている。1042は底部から胴部の下部にかけての部分である。器面調整は，外面がハケナデ及びハケ目，内面がハケナデ調整が行われている。底径は4.5cmで，脚台の高さは3.6cmあり，充実した脚台となっている。

1043は壺形土器で，肩部から胴部の上部に当たる部分である。4条の三角突帯が巡っている。4条の突帯のうち，最下部の突帯は断面形状が鋭く高い。器面調整は，外面がミガキ，内面はハケ目及びハケナデである。

竪穴住居跡30号（第161図・第162図）

検出状況　E－35・36区で検出された。検出面はⅢd層である。

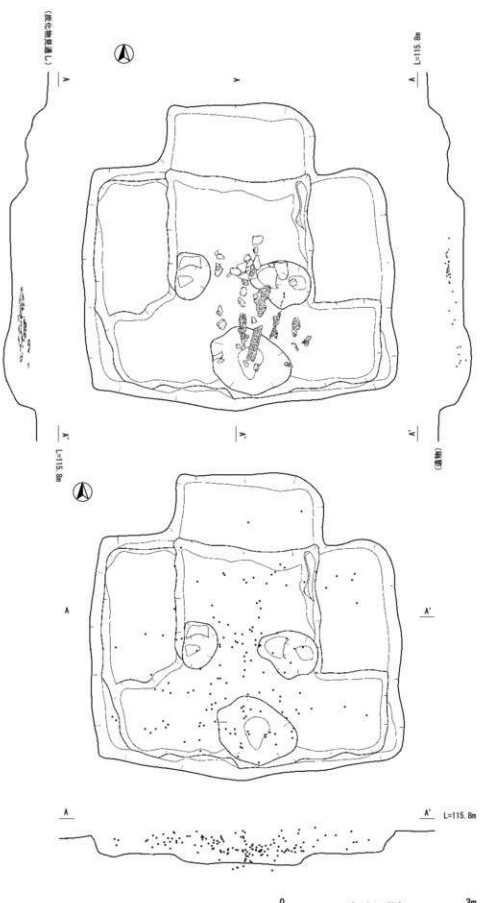
形状　平面形状は，北側に1辺の張り出しを持つ方形を呈する。3方向にベッド状の遺構を有している。長軸は485cm，短軸は483cmで，検出面から床面までの深さは深いところで43cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的な大きさである。

遺構は北側の張り出し部分を含めて同レベルで掘り下げを行った後に，中央部分を更に一段深く掘り下げを行っている。それにより，相対的に北及び東・西側がベッド状に高く残ることになる。中央部分からの掘り下げは最終的に凸のような形に深く掘り下げられている。ベッド状の遺構は中央部分の掘り下げによって完全に分断され，繋がっている部分は見られない。南側とそこから繋がる東西の壁には部分的に狭い段が見られるが，これは出入り口の可能性が考えられる。

ピットは2基検出された。中央部分の掘り下げられたところの東西の端の壁側に同様な規模で深さの深いピットP1とP2が2基，東西の軸に沿って並んでおり，これが主柱穴と考えられる。土坑も1基検出された。南側中央部に，1.3m×1mの規模で，深さが約15cmあり，本遺跡のほかの竪穴住居跡での有り様から考えたとき，貯蔵穴であることが想定される。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は3層に分層できる。1層目は茶褐色土で若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。2層目は茶褐色土でアカホヤブロック及び池田降下軽石を含んでおり，やや締まりがある。1・2層目は何れもⅢ～Ⅵ層の混土と考えられる。3層目は赤黒土で，アカホヤブロックを含み，締まりがある。

遺構内遺物　1044～1069は甕形土器である。1044は大型甕形土器の胴部から底部にかけてのものである。底径は10.2cmで，安定した平底である。外底は若干凹凸が見られる。外面にはハケ目調整が見られ，内面はハケ目及びハケナデ調整が見られる。残存部分での胴部は最大で39cm程度である。1045～1069は標準的な大きさの甕形土器である。1045～1052は口縁部を中心に胴部辺りまでが復元できたものである。1045は口径が33.5cmで胴部には4条の三角突帯が巡っている。1046は焼成の段階で大きく歪んでしまった甕形土器である。全体的に濁った灰色を呈していることから，生焼けのような印象を受ける。そのため，実際的な使用には耐えられなかったものと考えられ，その時点で破損した可能性も考えられる。胴部には4条の三角突帯が付されているが，体部の歪みに伴って突帯も大きく歪んでしまっている。1047は口径27.0cmあり，3条の突帯が付される。口縁部と突帯の間に，3か所の穿孔が見られるが，これは補修孔と見られる。1048は口径が20.0cmで，三角突帯が3条巡っている。1049は口径が31.2cm，1050は32.0cmで，何れも3条の三角突帯が巡っている。1051は25.0cmで1条の三角突帯を持ち，1052は19.0cmあるが突帯が付くかどうかは不明である。1053～1055も口縁部であるが，口径を測り出すことはできなかった。口縁部の形状などはさまざまである。1056～1063は突帯の付された胴部である。1063はM字状の突帯が1条，それ以外は三角突帯が1条から4条付されている。1064～1066は胴部の下部で，底部にいたる部分である。1067～1069は底部で，何れも充実した脚台と

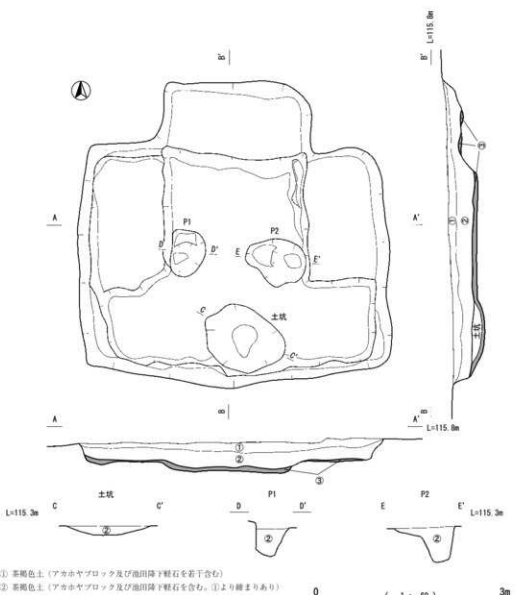


第161図　竪穴住居跡30号１

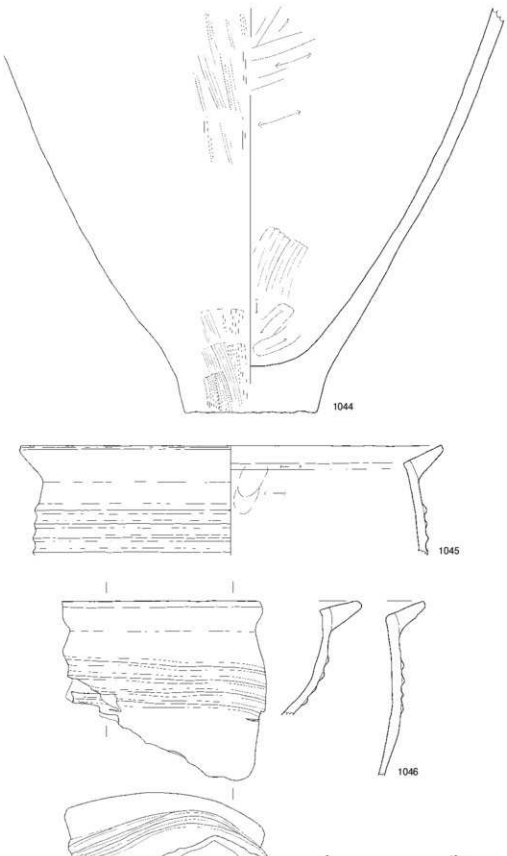
なっている。1067と1069は外底が若干上げ底となっている。

1070 ～ 1084は壺形土器である。1070と1071は何れも口縁部であるが，1070は二叉口縁，1071は口縁部が垂れ下がるタイプのものである。1072 ～ 1074は１条から３条の三角突帯が付された肩部，1075 ～ 1080は突帯の付された胴部である。1075 ～ 1078は１条から４条の三角突帯であり，1079と1080は１条の台状突帯及びM字状の突帯である。1081 ～ 1084は底部である。1081は底径が8.6cmで底の厚さが2.6cmあることから，大型の壺形土器と考えられる。底部はすべて安定した平底である。ただ，端部の状況や外底が上げ底であるか否かなどが幾分異なっている点が見られる。

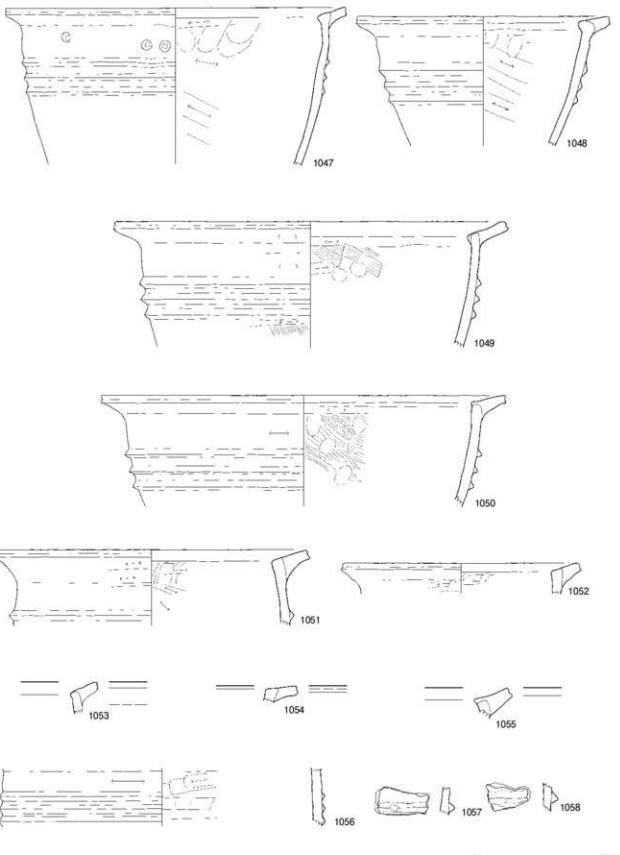
1085と1086は鉢形土器である。1085は口縁部が一旦外反した後に，急激に内傾する。1086は口縁部の端部が波打ったようになっている。



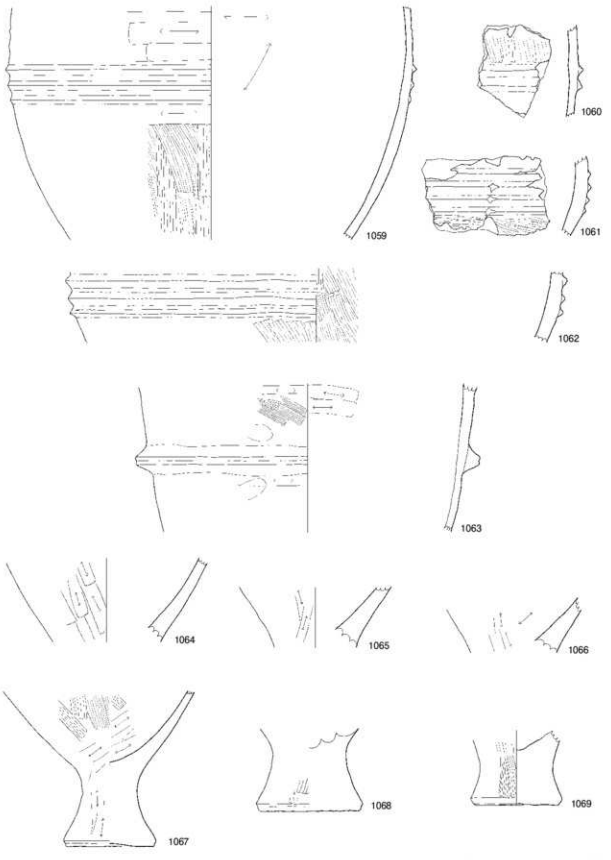
第162図　竪穴住居跡30号２



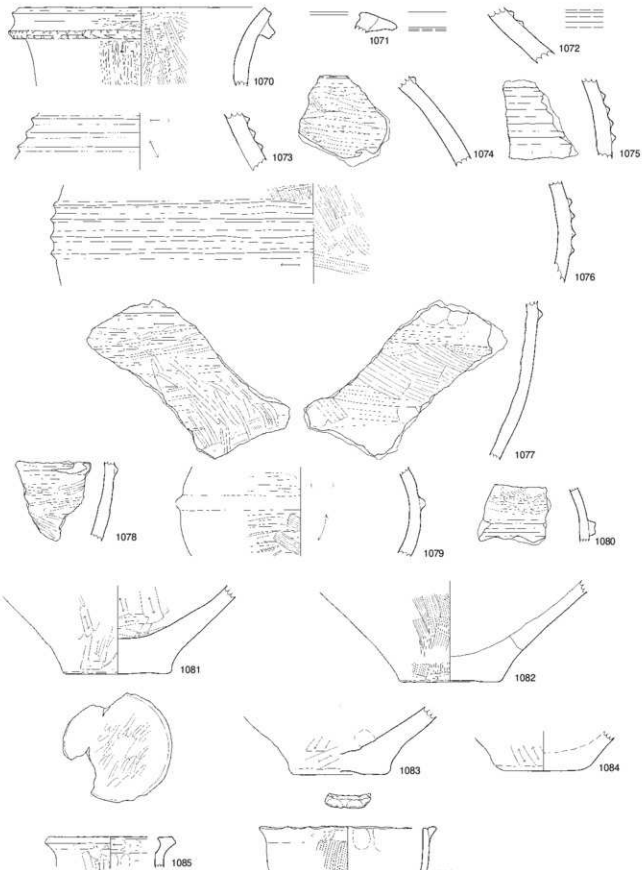
第163図　竪穴住居跡30号出土遺物１



第164図　竪穴住居跡30号出土遺物２



第165図　竪穴住居跡30号出土遺物３



第166図　竪穴住居跡30号出土遺物４

竪穴住居跡31号（第167図～第169図）

検出状況　B－22区で検出された。検出面はⅦ層上面である。

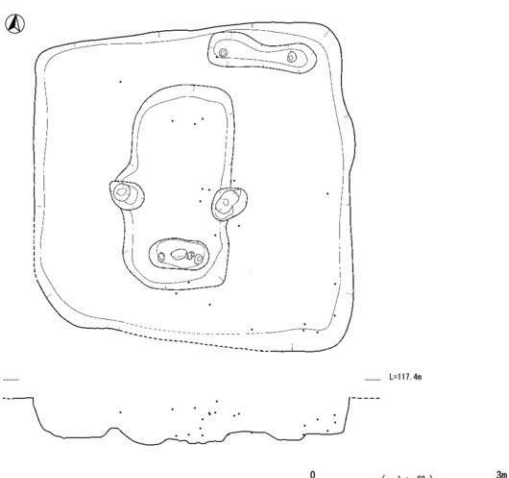
形状　竪穴住居跡31号の平面形状は，台形に近い隅丸方形を呈する。長軸499cm，短軸496cmで，検出面から床面までの深さは深いところで58cmである。本遺跡の弥生時代竪穴住居の中では標準的な大きさである。遺構の南側及び西側は上面が大きく撹乱を受けているが，南側以外は遺構の形状を著しく改変するものではない。

遺構は全体的に掘り下げた後に，中央部を1.6m×3.3mの隅丸方形のような形に掘り下げており，そのために残った周囲の部分が相対的に高くなり，ベッド状の遺構となったものである。

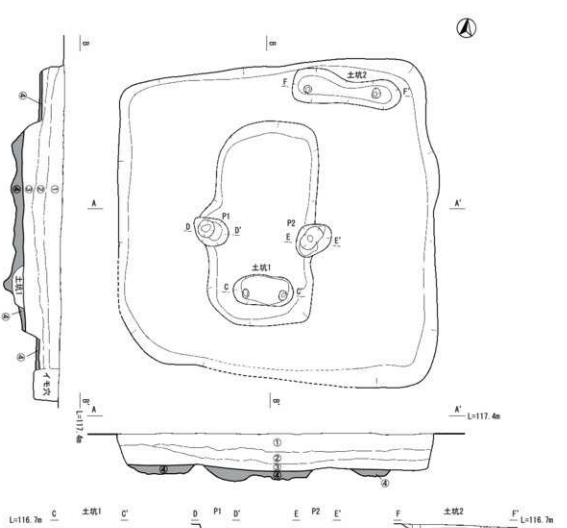
ピットは2基検出され，中央部の掘り込みのほぼ中央，東西の壁際にある程度の規模で深く掘られていることから，主柱穴と考えられる。また，土坑は2基検出されている。南側の土坑1は深さが約20cmで本遺跡のほかの竪穴住居跡で見られる土坑の形状等に非常に類似していることから，同様な機能を考えて貯蔵穴の可能性があると思われる。北東隅に位置している土坑2号はその形状がひょうたん型をしており，深さも土坑1号のようなレンズ状とはなっていないことから，別の機能を考えた方が良いように思われる。

遺構内埋土　遺構内に堆積している土は4層に分層できる。1層目は黒褐色土でやや粘性と締まりがあり，Ⅲc層に類似している。2層目は黒色土でやや粘性と締まりがあり，Ⅲd層に類似している。3層目は黒褐色土でやや粘性があって締まりがある。4層目は暗褐色土で粘性があるとともに締まりが強い。

遺構内遺物　1087～1101は甕形土器である。1087～1090は口縁部から胴部にかけての部分が復元できたものである。1087は口径が42.7cmで，口縁部下に少なくとも2条の三角突帯が巡るものである。突帯は部分的にうねったように貼り付けられており，2条の突帯間の幅や間隔が異なっている部分も見られる。1088は口径41.2cmで，この部分まではまだ突帯は見られない。1089は口径が24.0cmほどであるが，胴部の膨らみの状況に違いのある部分が観察される。1条の三角突帯が巡っている。1090は口径が26.2cmで，1089と同様に1条の突帯が胴部に巡っている。1091～1096は口縁部である。逆L字状



第167図　竪穴住居跡31号1

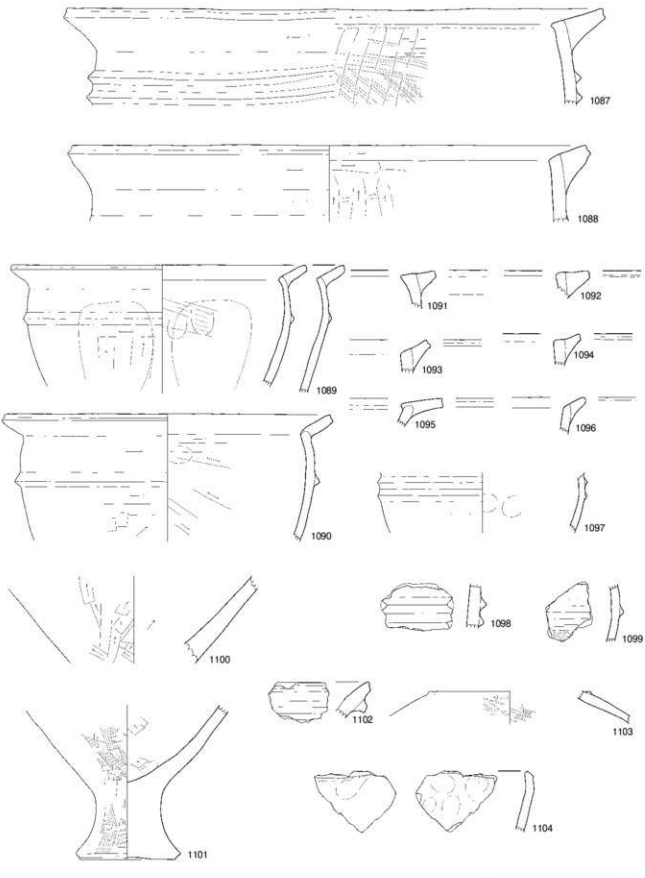


第168図　竪穴住居跡31号２

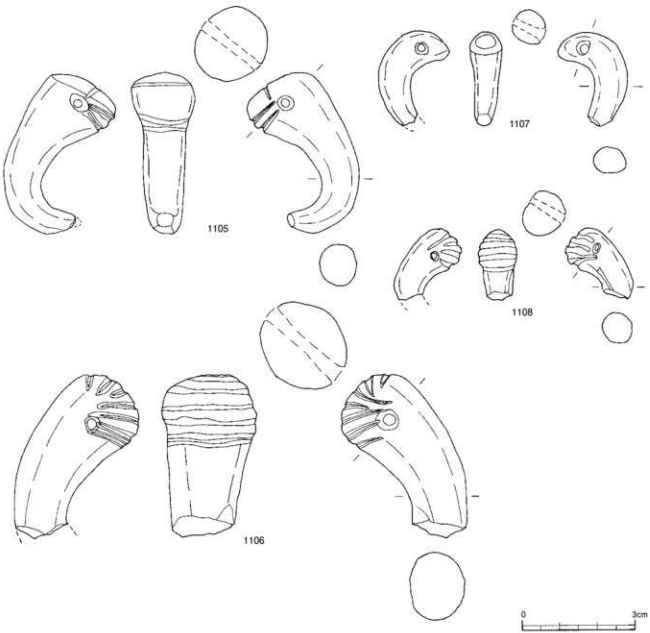
の口縁や，く字状の口縁などが見られるとともに，断面の形状や大きさなどにはそれぞれに差異が見られる。また，胴部と口縁部との接合の方法などにも，違いのあるものがある。1097 ～ 1099は突帯の付された胴部で，すべて三角突帯である。２条と１条のものが見られる。1100は胴部の下部で，底部にいたる部分，1101は底部を含む部位である。底径は16.8cmで，脚部の高さは6.2cmある。器面調整は，外面がハケ目，内面はハケナデ調整により整えられている。

1102と1103は壺形土器である。1102は二叉口縁の壺の口縁部である。1103は胴部の上部で，肩部には１条の三角突帯が巡っている。

1104は鉢形土器の口縁部で，内外両面には指頭痕が見られる。



第169図　竪穴住居跡31号出土遺物



第170図　竪穴住居跡内出土土製勾玉

竪穴住居跡内出土遺物　（第170図～第183図）

ⅰ　土製勾玉　（第170図）

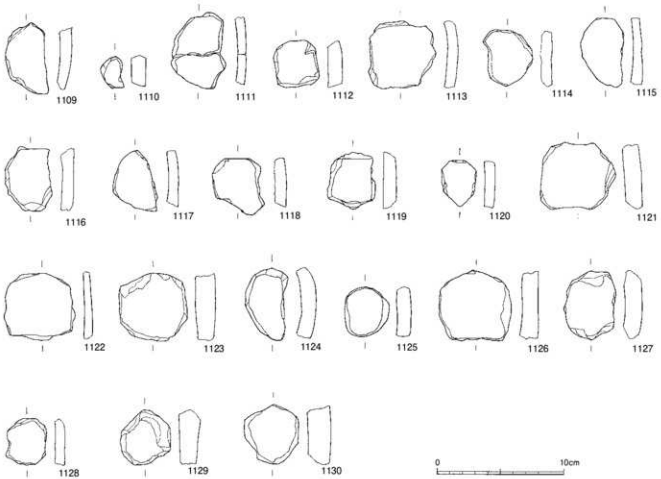
1105～1108は土製勾玉である。1105と1106は大型のもの，1107と1108は小さめのものである。また，1107以外は丁字頭の勾玉である。大型，小さめのもの何れも焼成は良好である。

1105は大型の丁字頭の土製勾玉で，尾部の先端を欠くものの，ほぼ完全品と言っても良い。頭部の上面は幾分平たいように作られており，頂部には１本の直線の沈線が描かれるとともに，穿孔部を繋ぐように２本の沈線が描かれている。頭部はほぼ楕円形を呈しており，尾部へは次第に細くなるように作られている。

1106も大型の丁字頭の土製勾玉で，尾部を欠損している。頭部は丸く作られており，穿孔部の周囲には７本の沈線が描かれている。丸みを持った頭部から尾部へは徐々に細くなっていく。

1107は小さめの勾玉で，刻みは施されていない。頭部は斜め方向に幾分押さえられたように作ってある。尾部は若干欠く。全体的に三日月型を呈しており，尾部は次第に細くなってゆく。

1108は小さめの勾玉で，丁字頭となっている。穿孔部の周囲には４本の沈線が描かれている。頭部は若干平らに押さえられたようになっているが，楕円形に近い形状と言える。胴から先は急角度で曲がっており，完形であれば，く字状を呈していたと考えられる。胴部から先を欠損している。



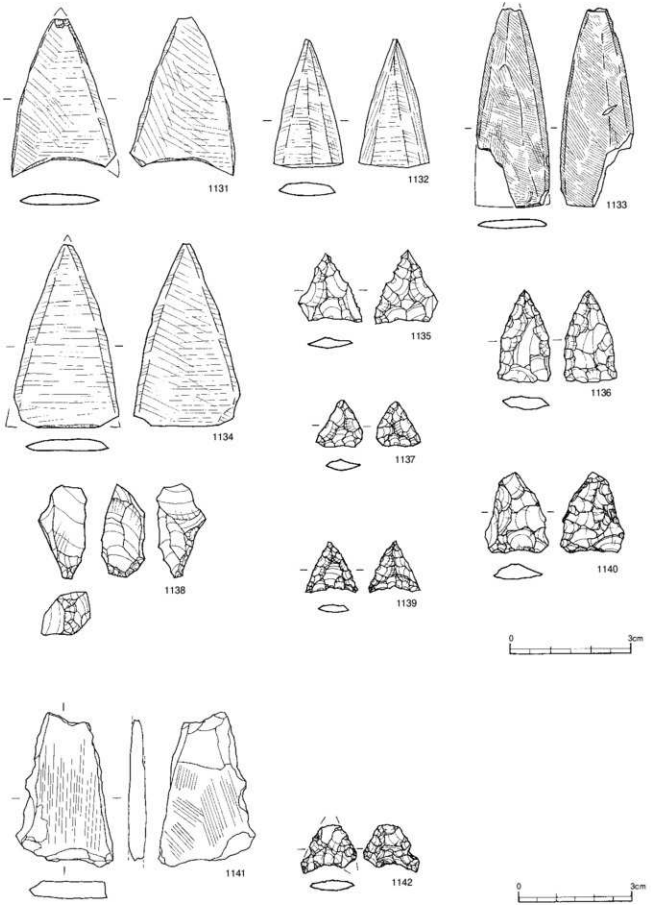
第171図　竪穴住居跡内出土土製加工品

ii　土製加工品　(第171図)

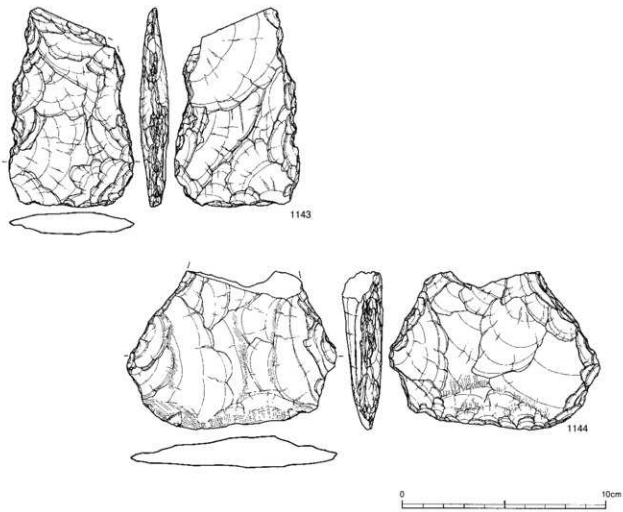
竪穴住居跡から土製加工品が22点出土した。形態分類では，そのすべてが円形であった。以下にそれぞれの計測値を記載しておく。

第4表　住居跡出土土製加工品計測表　　凡例　完形：完形品　下欠：下部欠損　上欠：上部欠損　横欠：横欠損

番　号	長さcm	幅cm	厚さcm	備　考	番　号	長さcm	幅cm	厚さcm	備　考
1109	5.6	3.2	1.0	円形　横欠	1120	3.6	2.7	0.8	円形　横欠
1110	2.5	1.7	1.2	〃　〃	1121	5.3	6.0	1.4	〃　完形
1111	6.1	4.4	0.8	〃　〃	1122	5.3	5.6	0.8	〃　下欠
1112	3.6	3.6	1.1	〃　完形	1123	5.4	5.5	1.6	〃　完形
1113	5.3	5.4	0.8	〃　〃	1124	4.8	3.5	1.2	〃　横欠
1114	4.4	3.9	0.9	〃　横欠	1125	3.9	3.5	1.1	〃　完形
1115	5.5	3.4	0.9	〃　〃	1126	5.4	5.7	1.3	〃　下欠
1116	5.1	3.8	1.0	〃　〃	1127	5.4	4.1	1.0	〃　横欠
1117	4.8	3.3	0.9	〃　〃	1128	3.6	3.4	0.8	〃　完形
1118	4.6	4.2	0.5	〃　下欠	1129	4.3	4.0	1.7	〃　〃
1119	4.5	3.8	1.1	〃　横欠	1130	4.7	4.4	1.8	〃　〃



第172図　竪穴住居跡内出土石器 1



第173図　竪穴住居跡内出土石器２

ⅲ　石　器　（第172図～第179図）

a　磨製石鏃　（第172図）

竪穴住居跡から５点の磨製石鏃の製品及び未製品が出土した。内訳は製品４点と未製品１点である。1131から1134は製品である。すべて頁岩製であり，使用によるものか欠損しているものも見られる。1131は，全長は推定で3.9cm，幅は2.7cm，最大厚さは３㎜である。両側面に稜を作り出す。1132は全長3.2cm，幅1.7cm，最大厚さは４㎜である。両側面の稜を鋭利に作り出す。1133は，全長は推定で4.9cm，幅は1.8cm，最大厚さは２㎜である。両側面に鋭利な稜を作り出すとともに，平面も多くの面を作っている。1134は，全長は推定で4.5cm，幅も推定で2.6cm，最大厚さは３㎜である。両側面には稜を作り出している。1141は未製品である。欠損部分が非常に多いことから数値としては正確さに欠けることから，推定ではなく現時点での計測値を記載することにする。全長3.8cm，幅2.6cm，最大厚さは５㎜である。製作時に破損したものと考えられ，側面には稜は作り出していない。磨きの工程も粗い。

b　打製石鏃　（第172図）

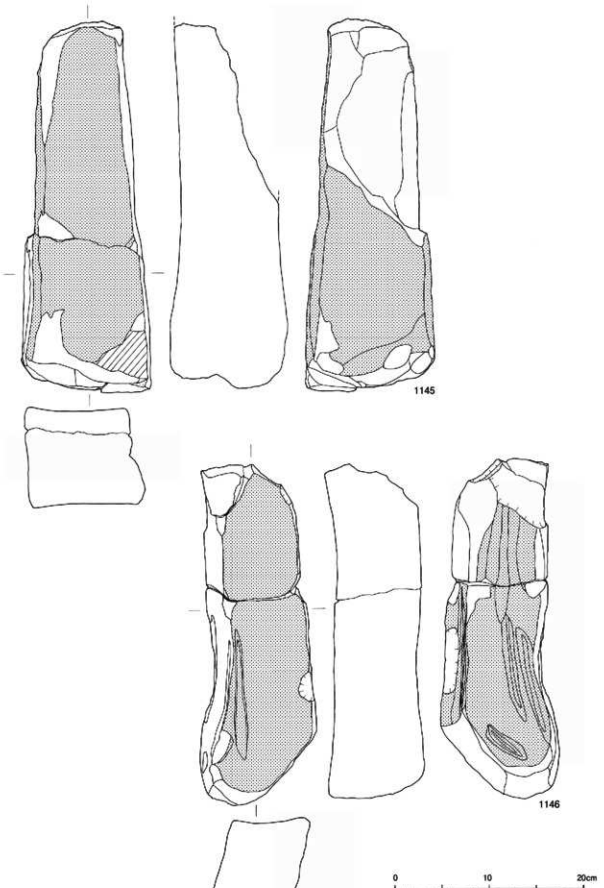
竪穴住居跡から打製石鏃は破損したものを含めて６点出土している。基部には平基式と凹基式の両方が見られる。1135 ～ 1137が平基式と見られ，1139 ～ 1142は凹基式と考えられる。1136は五角形鏃，ほかは三角形の石鏃と考えられる。1137及び1140は全体的に丸みを帯びており，1139は鋭い三角形を呈している。1142は使用によるものか，先端と一方の基部を欠いている。

c　スクレイパー　（第172図）

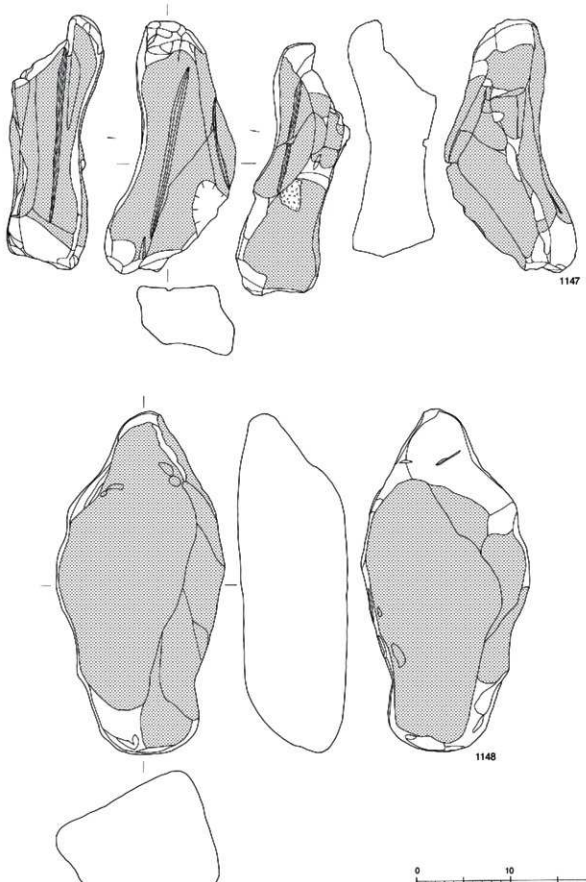
1138はスクレイパーと考えられる。先端部を交互剥離により刃部として造り出している。

d　打製石斧　（第173図）

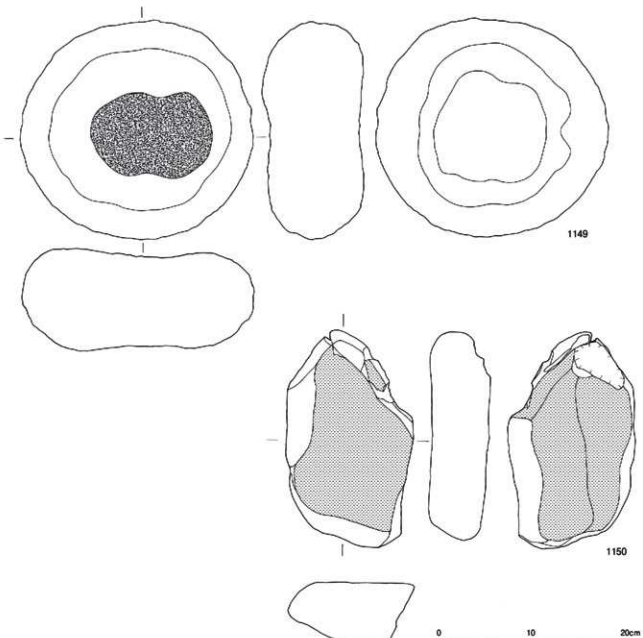
打製石斧が２点出土している。1143は短冊形の石斧であり，基部は斜めに整えられている。1144はラケット形の石斧の刃部で，基部を欠損する。刃部には両面に擦痕が見られ，縦方向の使用の痕跡が伺われる。



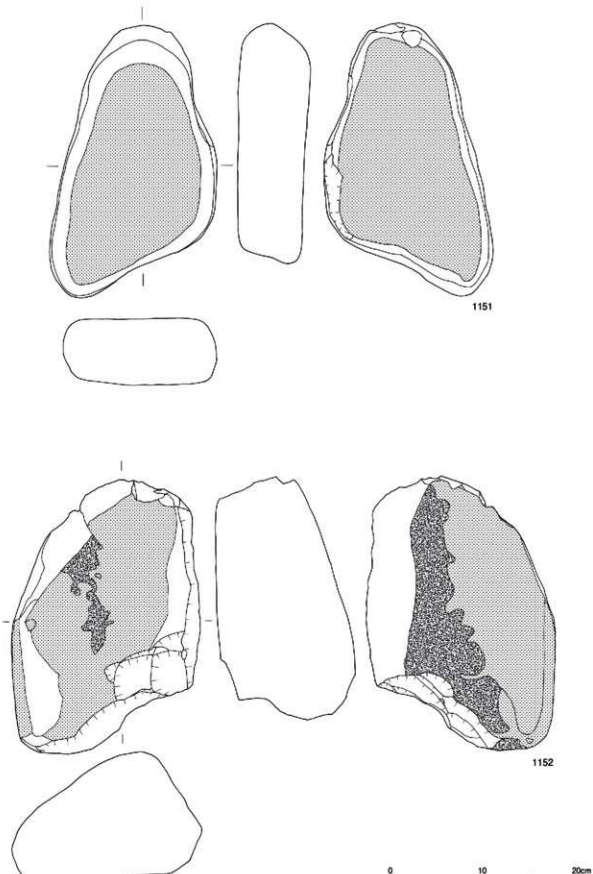
第174図　竪穴住居跡内出土石器３



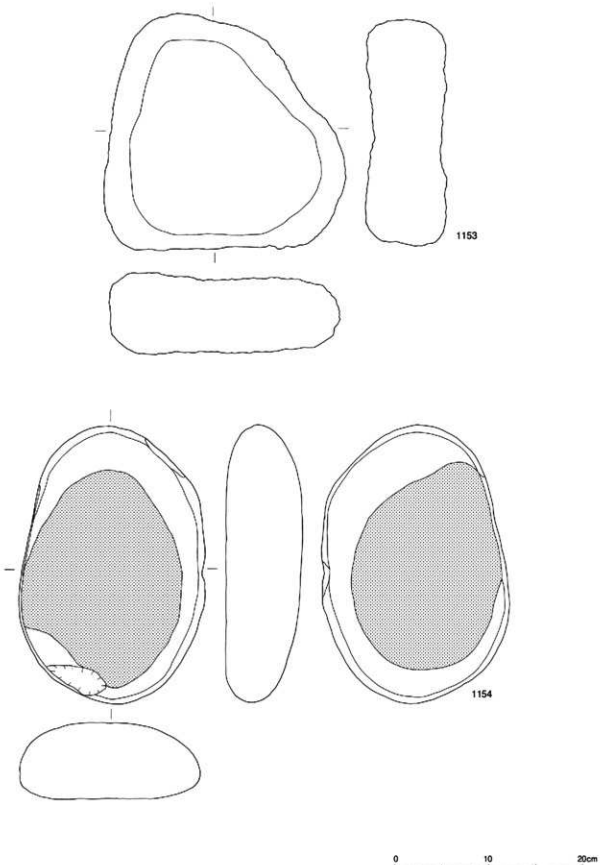
第175図　竪穴住居跡内出土石器４



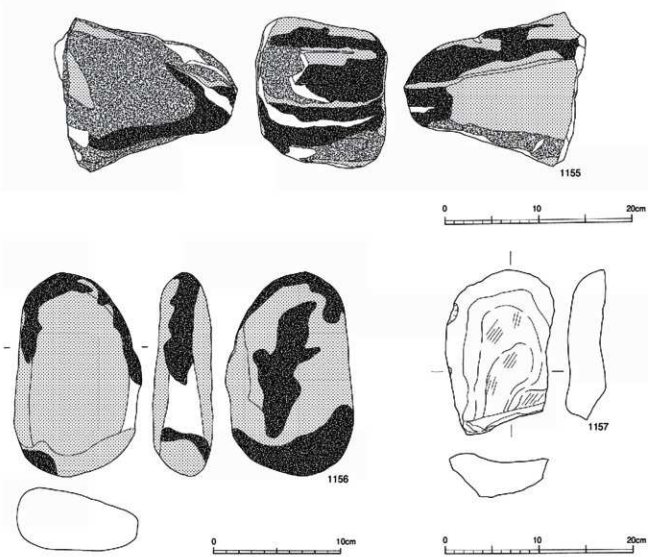
第176図　竪穴住居跡内出土石器5



第177図　竪穴住居跡内出土石器６



第178図　竪穴住居跡内出土石器７



第179図　竪穴住居跡内出土石器８

e　大型砥石　（第174図・第175図）

1145 ～ 1147は大型の砥石である。1145は竪穴住居跡２号から出土したもので，残存長が39.5cm，幅が13.7cm，厚さも12.4cmある。数か所にわたって破壊されており，中には石の目に沿って割れているところも見られる。軟質の砂岩製で，４面利用されている。1146は竪穴住居跡６号で出土したもので，４面利用の砥石であるとともに，筋状となった部分もあることから鋭利な刃物等の研ぎにも利用している。残存長36.0cm，幅12.5cm，厚さ10.2cmである。数か所にわたって破壊されている。軟質砂岩製である。1147は竪穴住居跡5号から出土したもので，不規則的な４面利用の砥石である。1146と同様に，筋状の部分もあることから，鋭利な刃物等の研ぎにも利用していると考えられる。１か所を割られている。残存長26.7cm，幅14.0cm，厚さ9.4cmで，軟質の砂岩製である。

f　大型台石　（第175図，図版62）

大型の砥石とともに大型の台石が出土している。1148 ～ 1150，1153である。1148は竪穴住居跡１号で出土したもので，全長36.2cm，幅17.7cm，厚さ13.0cmで，２面を主な作業面として利用しているとみられる。棒状の不整形をしており，砂岩製である。1149は竪穴住居跡６号から出土した。ほぼ円形の台石で，粗い粒の花崗岩製である。全長23.6cm，幅24.6cm，厚さ10.9cmである。1150

も同じく竪穴住居跡6号から出土している。青緑色の砂岩製で，不整形である。全長22.8cm，幅13.5cm，厚さ6.4cmで，一部破壊されている。1153は竪穴住居跡11号から出土したもので，全長25.0cm，幅25.6cm，厚さ8.6cmである。

g　石皿　（第176図～第179図）

1151～1157は主な使用面を石皿とするもので，そのほかの使用目的として台石や敲石とするものなどがあり，複合的な使用を目的とした石器と言える。1151は台石としての利用も行っている石皿である。不整形の粘板岩製である。全長25.6cm，幅16.5cm，厚さ7.0cmで，竪穴住居跡10号からの出土である。1152は台石・磨石としても利用している砂岩製の石皿で，竪穴住居跡10号からの出土である。残存長29.0cm，幅20.0cm，厚さ14.6cmである。1154は竪穴住居跡17号で出土したもので，台石としても利用した石皿である。全長29.4cm，幅19.7cm，厚さ8.1cmである。1155は敲石としても利用したもので，竪穴住居跡24号から出土した。残存長16.2cm，幅19.3cm，厚さ13.9cmである。1156も竪穴住居跡24号から出土しており，敲石としても併用されている。全長16.1cm，幅10.1cm，厚さ4.8cmである。1157は石皿としてのみ利用されている。竪穴住居跡30号内の土坑から出土した。砂岩製で，破損している。残存長17.4cm，幅11.5cm，厚さ4.6cmである。

h　磨製石斧　（第180図）

1158は竪穴住居跡23号から出土したもので，蛤刃型の磨製石斧である。全長16.6cm，幅5.6cm，厚さ4.6cmである。側面は敲打により破損しているところも見られる。

i　樹皮布敲石　（第180図）

1159は竪穴住居跡12号から出土した。同じ鹿屋市の王子遺跡からは4点出土しているが，形はとてもよく似ている。バークロスビーター。軟質の砂岩製である。大まかに4面を側面として整えて敲打面として使用するとともに，先端部も整えて敲打面として使用するものと言われている。基部は4面を細く削り出して握り部を作り出している。全長10.5cm，幅5.3cm，厚さ4.5cmである。

j　楔型石器　（第180図）

1160と1161は楔型石器である。1160は竪穴住居跡12号から出土したもので，基部はやや盛り上がったような形，先端は片方を平面的に，もう片方は丸味を帯びたように刃を作っている。全長10.2cm，幅4.6cm，厚さは4.0cmである。1161は竪穴住居跡17号から出土したもので，先端はややカーブを描くように，基部は斜め方向に直線的に作っている。

k　鉄器　（第180図）

1162は竪穴住居跡5号から出土したもので，全体的に平たいことから，刀子の破片の可能性が考えられるものの，詳細は不明である。

l　砥石　（第181図）

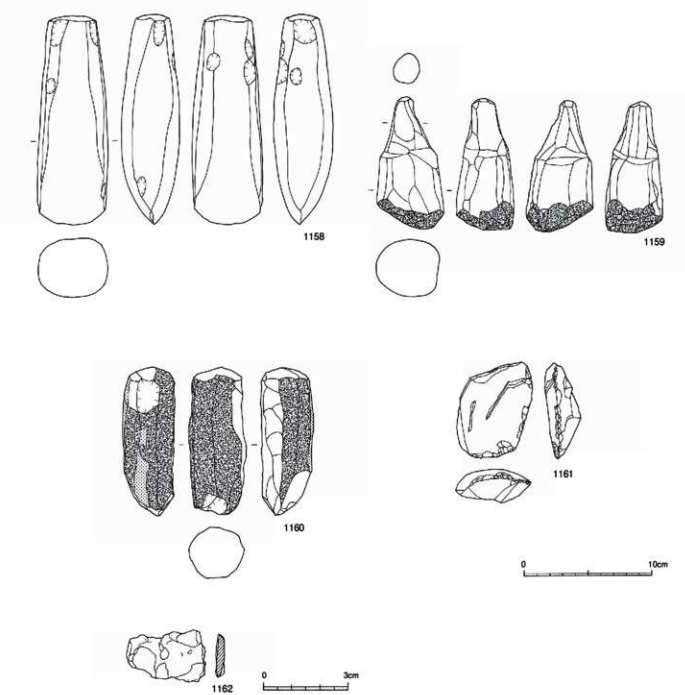
1163～1171は標準的な大きさの砥石である。1163は竪穴住居跡10号から出土したほぼ直方体のもので，広い両面と1側面の合計3面使用の砥石である。1164は竪穴住居跡20号から出土した軟質の砂岩製の砥石。1165は竪穴住居跡24号から出土した非常に小さな砥石である。1166と1167も竪穴住居跡24号から出土している。1167は非常に細長いもので，最も広い面のほぼ中央部が緩やかに凹んでいる。1168は竪穴住居跡12号出土のもので，最も広い面の片方と両側面を砥面としている。上下の両端は割れている。1169も12号出土で，小さな円形棒状の砥石の先端が割れたものである。1170は竪穴住居跡28号から，1171は竪穴住居跡23号から出土しており，何れも薄い板状の砥石である。

m　磨・敲・凹石　（第182図）

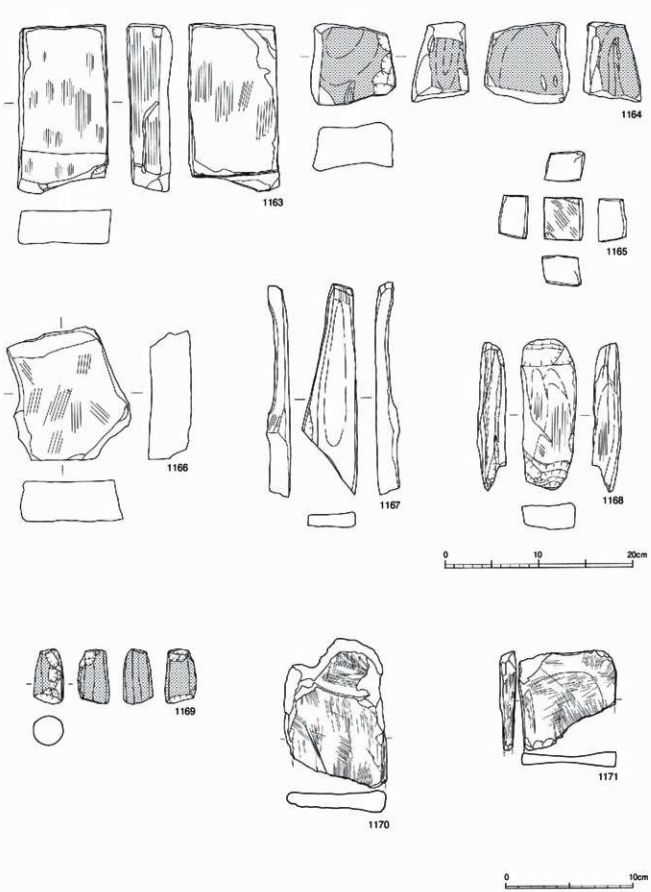
1172～1177は磨石や敲石，磨・敲石，凹石などを集めた。1172と1173は小円礫状の磨石及び磨・敲石である。1172が竪穴住居跡11号から，1173が竪穴住居跡18号から出土した。1174は竪穴住居跡20号から出土した凹石で，周縁も敲打されている。1176と1177は竪穴住居跡24号から出土した敲石で，多くの面を敲打が行われている。何れも自然円礫を使用している。

n　軽石加工品　（第183図）

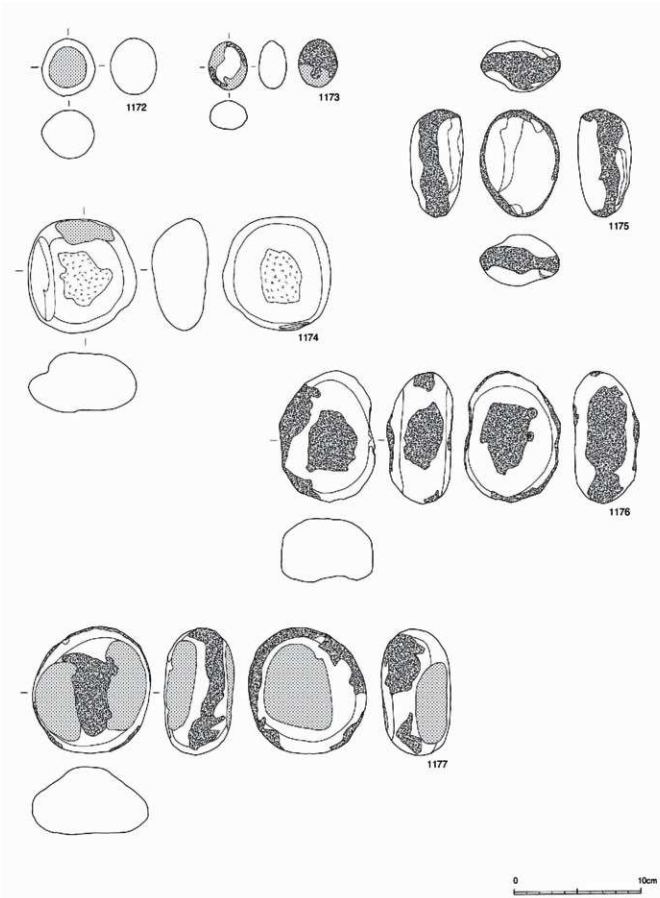
1178～1188は軽石を加工して製作されたものである。面が磨られていたり，面取されていたり，溝や孔が空けられていたりしており，形を意識的に整えられたりしているものもあることから，何らかの意図を持って作られた可能性もある。1178は2面を平たくし，底の面を平らにした周囲をやや丸く仕上げるものである。1179は広い2面を小さく面取していったもの，1181は面取してやや三角柱条としたもので，これら3点は何れも竪穴住居跡1号から出土した。1180は広い1面を真っ平らに仕上げたもので竪穴住居跡11号からの出土。1182は2～3cmほどの溝を掘って形を作ったと考えられるもので，竪穴住居跡13号から出土した。1183は広い1面を緩やかなカーブで仕上げたもので，竪穴住居跡12号出土。1184は半円形状に作ったもので，竪穴住居跡24号出土。1185は1つの孔を空けた周囲にさらに孔を空けようとしたもので竪穴住居跡26号出土。1186は溝状に掘り，1187は1面を平らにし，1188は広い2面から周辺に向けて丸く削って稜を付けたもので竪穴住居跡30号から出土した。



第180図　竪穴住居跡内出土石器９・鉄製品



第181図　竪穴住居跡内出土石器10



第182図　竪穴住居跡内出土石器11

第183図　竪穴住居跡内出土軽石加工品

イ　掘立柱建物跡（第184図～第204図・第207図）

掘立柱建物跡は40軒検出された。田原追ノ上遺跡の掘立柱建物跡は，１間×１間が14棟，棟持柱をもつ掘立柱建物跡が３棟であった。建物跡はⅥ層（池田降下軽石層）上面で検出したものが多かったが，Ⅵ層で検出できなかったものはⅦ層（アカホヤ火山灰層）上面で検出した。検出面は竪穴住居跡などの遺構とは異なっているが，いずれも弥生時代の建物跡と考えられる。分布については，遺跡西側では竪穴住居跡７軒の南西側と東側に竪穴住居跡を取り囲むように位置しており，東側では竪穴住居跡や柱穴列，方形・円形周溝や土坑と同様な場所に混在して位置している。

柱穴の計測値は実測図によっている。また，平均値は各柱穴の長径の平均値×短径の平均値，深さは各柱穴の深さの平均値を記載してある。なお，小数点以下は，その有意性を考慮して，四捨五入により整数として記載してある。

掘立柱建物跡１号（第184図）

掘立柱建物跡１号はＣ－４・５区で検出された。検出面はⅦa層上面である。竪穴住居跡６号の西側に，掘立柱建物跡３号の北東側に位置する。

１号は１間×１間の建物規模と考えられるが，前年度調査により西側の部分のピットが見つからなかったため，建物跡の詳細については不明である。平面形はほぼ長方形を呈しており，桁行Ｐ２－Ｐ３＝416cm，梁行Ｐ１－Ｐ２＝294cmを測る。内角はおよそ87°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径29.3×26cm，深さ44.3cmであり，Ｐ１が他の２つのピットに比べて大きい。

掘立柱建物跡２号（第184図）

掘立柱建物跡２号はＣ－５・６区で検出された。検出面はⅦa層上面であるが，一部はⅥ層上面で検出している。竪穴住居跡２号及び３号の西側，掘立柱建物跡３号の東側に位置する。

２号は１間×１間の建物規模と考えられるが，道路による未調査部分があるため，詳細は不明である。平面形はほぼ長方形を呈しており，桁行Ｐ２－Ｐ３＝510cm，梁行Ｐ１－Ｐ３＝344cmを測る。内角はおよそ89°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径49.3×44.6cm，深さ34.3cmであり，Ｐ２が他の２つのピットに比べて若干大きい。

掘立柱建物跡３号（第185図）

掘立柱建物跡３号はＢ・Ｃ－４・５区で検出された。検出面はⅦa層上面である。竪穴住居跡２号の南西側，掘立柱建物跡４号の東側に接近する位置にある。

３号は１間（北側２間）×１間（西側２間）の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，桁行Ｐ１－Ｐ３＝320cm，梁行Ｐ１－Ｐ５＝246cmを測る。各柱間については，表にまとめた。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が92°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５が90°，∠Ｐ４・Ｐ５・Ｐ１が90°，∠Ｐ５・Ｐ１・Ｐ３が88°である。ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均すると径37.3×32.3cm，深さ30.2cmの大きさである。

掘立柱建物跡４号（第185図）

掘立柱建物跡４号はＢ－４区で検出された。検出面はⅦa層上面である。竪穴住居跡２号の南西側に位置しており，掘立柱建物跡５号と切り合い関係にある。時期差については不明である。

４号は１間×１間の建物規模である。平面形は若干歪んでいるが正方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝290cm，桁行Ｐ１－Ｐ４＝310cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が90°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が96°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が84°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が90°である。

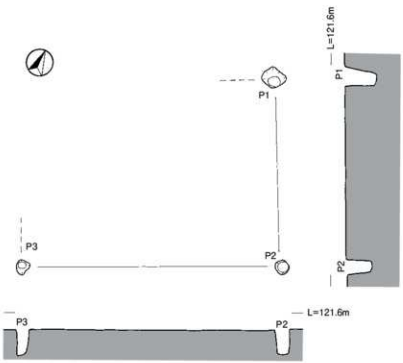
ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径37.3×32cm，深さ46.3cmであり，Ｐ３は他のピットに比べて小さい。

掘立柱建物跡５号（第186図）

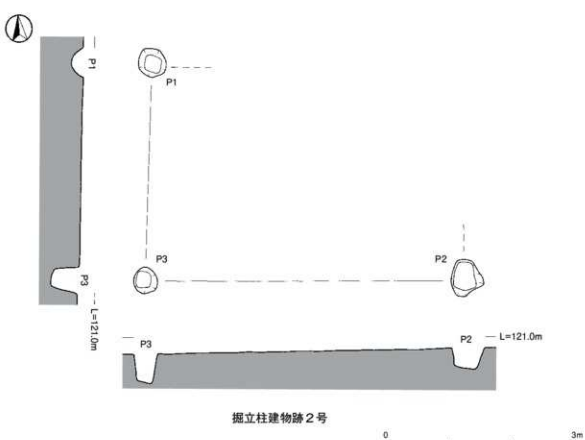
掘立柱建物跡５号はＢ－４区で検出された。検出面はⅦa層上面である。竪穴住居跡２号の南西側に位置しており，掘立柱建物跡４号と切り合い関係にある。

５号は２間×１間の建物規模と考えられるが，北西側のピットが検出できなかったため，詳細は不明である。平面形は長方形を呈しており，桁行Ｐ５－Ｐ６＝320cm，梁行Ｐ１－Ｐ５＝230cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４が98°，∠Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５が95°，∠Ｐ４・Ｐ５・Ｐ１が88°，∠Ｐ５・Ｐ１・Ｐ２が91°である。

ピットの形状はほぼ円形であり，平均して径33.2×29.2cm，深さ32.2cmである。なお，掘立柱建物跡４号のＰ４と掘立柱建物跡５号のＰ２については，同じピットが利用されていたか，同様な場所に建て替えが行われたと考えられる。

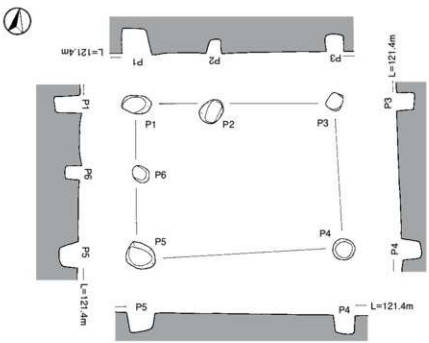


掘立柱建物跡１号

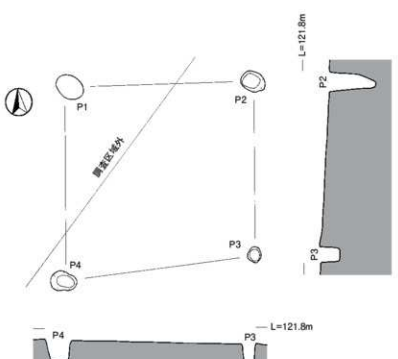


掘立柱建物跡２号

第184図　掘立柱建物跡１

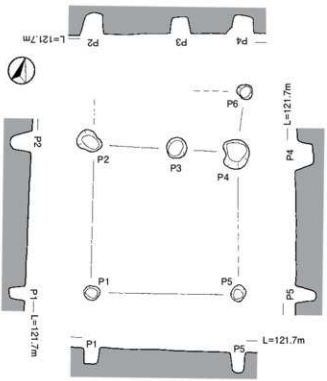


掘立柱建物跡３号

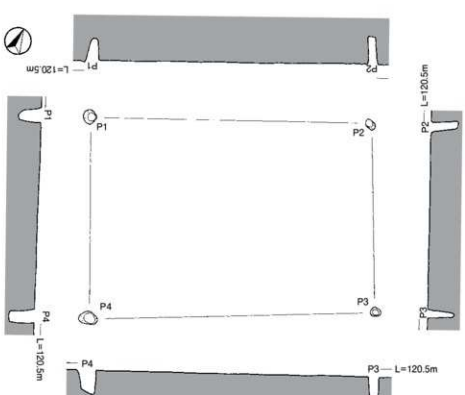


掘立柱建物跡４号

第185図　掘立柱建物跡２



掘立柱建物跡５号



掘立柱建物跡６号

第186図　掘立柱建物跡３

掘立柱建物跡６号（第186図）

掘立柱建物跡６号はＡ・Ｂ－５・６区で検出された。検出面はⅦa層上面である。竪穴住居跡２号の南西側に位置しており，掘立柱建物跡７号と切り合い関係にある。時期差については不明である。

６号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ４＝320cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝444cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が91°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が90°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が89°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が90°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径21.5×18cm，深さ41cmであり，他の掘立柱建物跡と比べて全体的にピットが小さいことが特徴である。

掘立柱建物跡７号（第187図）

掘立柱建物跡７号はＡ・Ｂ－６区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡２号の南西側に位置しており，掘立柱建物跡６号と切り合い関係にある。

７号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ４＝288cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝470cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が89°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が90°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が90°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が91°であり，ほぼすべての内角が90°であることから歪みが少ない建物跡と言える。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径39.8×35.3cm，深さ29.3cmである。

掘立柱建物跡８号（第187図）

掘立柱建物跡８号はＣ－８区で検出された。検出面はⅦa層上面である。竪穴住居跡１号の西側，掘立柱建物跡７号の東側に位置する。

８号は１間（北側２間）×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ５＝301cm，桁行Ｐ１－Ｐ３＝390cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が96°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ５が87°，∠Ｐ４・Ｐ５・Ｐ１が93°，∠Ｐ５・Ｐ１・Ｐ３が84°である。

ピットの形状はＰ１とＰ４は若干四角形を呈しているが，その他のピットはほぼ円形を呈している。平均して径38.2×32.8cm，深さは40.8cmである。

遺構内の遺物については，Ｐ１とＰ５の内部から土器片が出土している。

掘立柱建物跡９号（第188図）

掘立柱建物跡９号はＥ－14区で検出された。検出面はⅦa層上面である。竪穴住居跡５号の東側，掘立柱建物跡10号の北東側に位置する。

９号は１間×１間の建物規模である。平面形はほぼ長方形を呈しており，梁行Ｐ２－Ｐ３＝287cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝330cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が94°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が86°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が91°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が89°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径21.8×19.5cm，深さ41.5cmである。

掘立柱建物跡10号（第189図）

掘立柱建物跡10号はＣ－14区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡５号の南東側，掘立柱建物跡11号の北側に位置する。

10号は２間×１間の建物規模で，東西方向に棟持柱が検出されている。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ６＝318cm，桁行Ｐ１－Ｐ３＝451cm，棟持柱間は730cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が89°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ６が94°，∠Ｐ４・Ｐ６・Ｐ１が86°，∠Ｐ６・Ｐ１・Ｐ３が91°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径37.0×32.4cm，深さ41.6cmである。ピットの深さについては，四隅のピットが深く，真ん中のＰ２とＰ５，それに棟持柱についてはいずれも20cm前後ほどしかなかった。

掘立柱建物跡11号（第188図）

掘立柱建物跡11号はＢ－14区で検出された。竪穴住居跡５号の南東側，掘立柱建物跡10号の南側に位置する。

11号は１間（東側は２間）×１間の建物規模である。平面形はほぼ長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ４＝246cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝322cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が88°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が89°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が87°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が96°である。

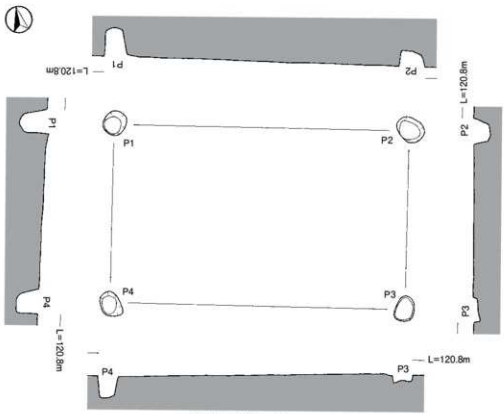
ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径29.6×24.8cm，深さは71.0cmである。11号は上面で遺構を検出できたことから，ピットの残りが良かったと考えられる。

掘立柱建物跡12号（第190図）

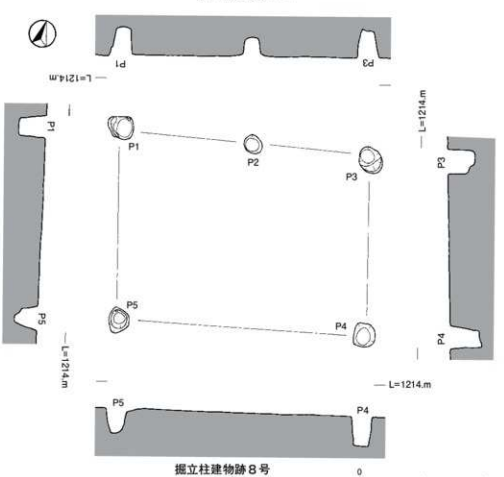
掘立柱建物跡12号はＣ・Ｄ－13区で検出された。竪穴住居跡５号の東側，掘立柱建物跡10号の北西側に位置する。

12号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ４＝216cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝300cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が91°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が89°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が86°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が94°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径26.3×21.3cm，深さは34.5cmである。

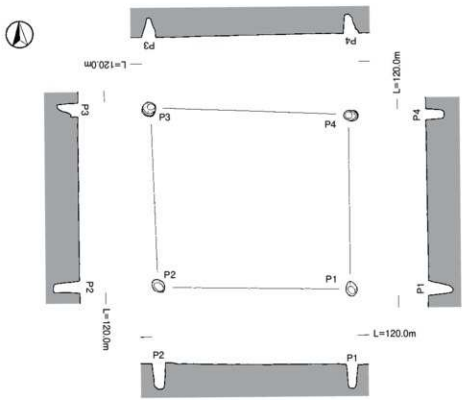


掘立柱建物跡７号

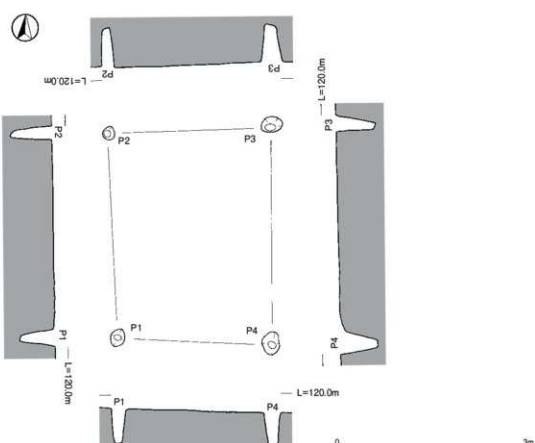


掘立柱建物跡８号

第187図　掘立柱建物跡４

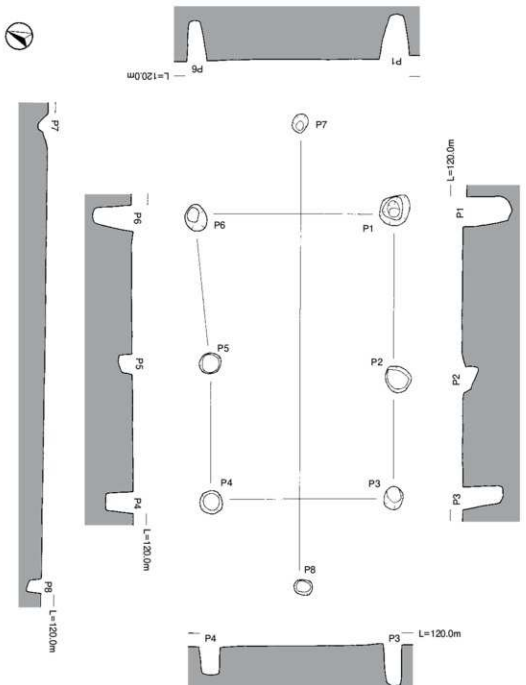


掘立柱建物跡９号



掘立柱建物跡11号

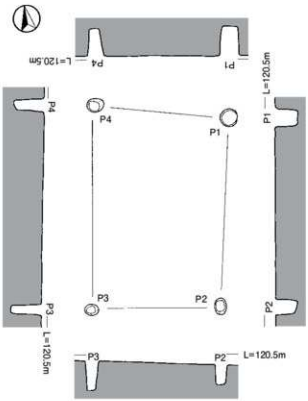
第188図　掘立柱建物跡５



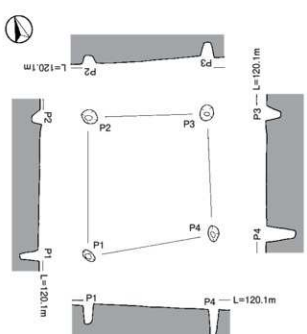
掘立柱建物跡10号

0 3m

第189図　掘立柱建物跡６



掘立柱建物跡12号



掘立柱建物跡13号

第190図　掘立柱建物跡７

掘立柱建物跡13号（第190図）

掘立柱建物跡13号はＢ－13区で検出された。竪穴住居跡５号の東側，掘立柱建物跡12号の南側に位置する。

12号は１間×１間の建物規模である。平面形は台形状を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ４＝200cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝220cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が91°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が92°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が97°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が80°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径26.3×21.3cm，深さは34.5cmである。

掘立柱建物跡14号（第191図）

掘立柱建物跡14号はＤ－16区で検出された。掘立柱建物跡15号の北西側に位置し，周辺には竪穴住居跡は見られない。

14号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ４＝280cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝386cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が90°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が88°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が92°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が90°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径21.0×20.0cm，深さ29cmである。

掘立柱建物跡15号（第191図）

掘立柱建物跡15号はＤ－17区で検出された。掘立柱建物跡14号の南東側に位置し，周辺には竪穴住居跡は見られない。

15号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ４＝158cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝298cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が89°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が88°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が89°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が94°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径27.3×26.0cm，深さは36cmである。

掘立柱建物跡16号（第192図）

掘立柱建物跡16号はＤ－17区で検出された。掘立柱建物跡15号の東側，掘立柱建物跡17号の南側に位置し，周辺に竪穴住居跡は見られない。

16号は１間×１間の建物規模である。平面形はほぼ長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ４＝190cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝352cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が92°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が86°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が91°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が91°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径21×17cm，深さ29cmであり，Ｐ１が他のピットに比べて大きい。

掘立柱建物跡17号（第192図）

掘立柱建物跡17号はＤ－17区で検出された。掘立柱建物跡15号の北側，掘立柱建物跡16号の北東に位置し，周辺に竪穴住居跡は見られない。

17号は１間×１間の建物規模である。平面形は台形状を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ４＝218cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝308cm，Ｐ３－Ｐ４＝374cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が103°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が77°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が87°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が93°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径29×20cm，深さ35cmであり，Ｐ２が他のピットに比べて若干大きい。

掘立柱建物跡18号（第193図）

掘立柱建物跡18号はＣ－26区で検出された。検出面はⅣ層上面である。竪穴住居跡19号の東側，掘立柱建物跡28号の南西側に位置する。

18号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝212cm，桁行Ｐ１－Ｐ３＝351cmを測る。各柱間については，内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が91°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ２が86°，∠Ｐ４・Ｐ２・Ｐ１が90°，∠Ｐ２・Ｐ１・Ｐ３が93°である。

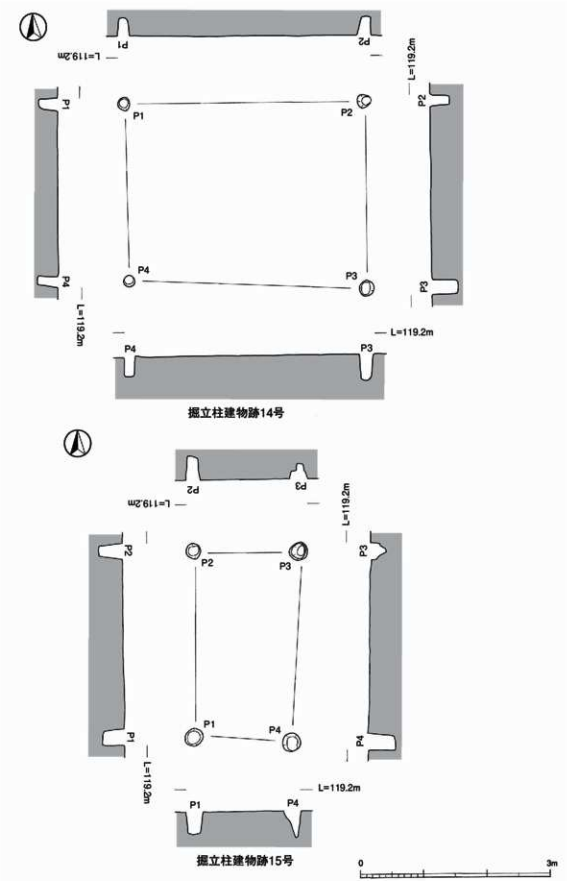
ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均すると径62×54cm，深さ62cmの大きさである。

掘立柱建物跡19号（第193図）

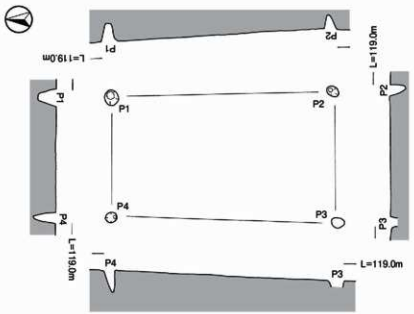
掘立柱建物跡19号はＥ－29区で検出された。検出面はⅣ層上面である。竪穴住居跡13号の北西側に位置しており，掘立柱建物跡18号と切り合い関係にある。時期差については不明である。

19号は１間×１間（南側２間）の建物規模である。平面形は若干歪んでいるが長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝292cm，桁行Ｐ１－Ｐ５＝447cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４が93°，∠Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５が90°，∠Ｐ４・Ｐ５・Ｐ１が91°，∠Ｐ５・Ｐ１・Ｐ２が86°である。

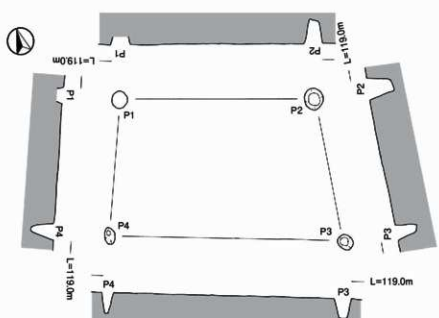
ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径70×59cm，深さ63cmであり，Ｐ３は他のピットに比べて小さい。



第191図　掘立柱建物跡８

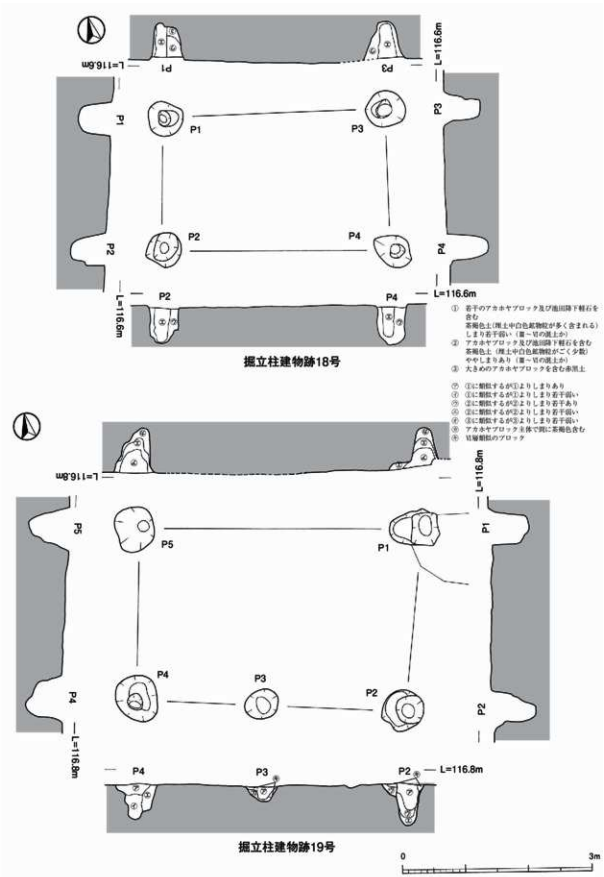


掘立柱建物跡16号



掘立柱建物跡17号

第192図　掘立柱建物跡９



第193図　掘立柱建物跡10

掘立柱建物跡20号（第194図）

掘立柱建物跡20号はＦ・Ｇ－32区で検出された。検出面はⅣ層上面である。竪穴住居跡15号の東側，竪穴住居跡14号の北側に位置する。

20号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ３＝198cm，桁行Ｐ１－Ｐ４＝347cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ４・Ｐ２・Ｐ３が92°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ１が88°，∠Ｐ３・Ｐ１・Ｐ４が94°，∠Ｐ１・Ｐ４・Ｐ２が86°である。

ピットの形状はほぼ円形であり，平均して径51×46cm，深さ49cmである。

掘立柱建物跡21号（第194図）

掘立柱建物跡21号はＣ・Ｄ－26・27区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡26号の南西側に位置しており，掘立柱建物跡18号と切り合い関係にある。時期差については不明である。

21号は３間×４間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ12＝299cm，桁行Ｐ１－Ｐ５＝408cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ５・Ｐ８が89°，∠Ｐ５・Ｐ８・Ｐ12が91°，∠Ｐ８・Ｐ12・Ｐ１が85°，∠Ｐ12・Ｐ１・Ｐ５が95°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径35×28cm，深さ30cmであり，他の掘立柱建物跡と比べて全体的にピットが小さいことが特徴である。

掘立柱建物跡22号（第195図）

掘立柱建物跡22号はＤ－25・26区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡18号の南側に位置しており，掘立柱建物跡21号の北西側に位置する。

22号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝216cm，桁行Ｐ１－Ｐ３＝333cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が92°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ２が89°，∠Ｐ４・Ｐ２・Ｐ１が86°，∠Ｐ２・Ｐ１・Ｐ３が93°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径44×37cm，深さ27cmである。

掘立柱建物跡23号（第195図）

掘立柱建物跡23号はＢ－25・26区で検出された。検出面はⅣ層上面である。竪穴住居跡20号の東側，掘立柱建物跡18号の南西側に位置する。

23号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝253cm，桁行Ｐ１－Ｐ３＝459cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４が95°，∠Ｐ２・Ｐ４・Ｐ３が89°，∠Ｐ４・Ｐ３・Ｐ１が88°∠Ｐ３・Ｐ１・Ｐ２が88°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈している。平均して径79×73cm，深さは121cmである。

掘立柱建物跡24号（第196図）

掘立柱建物跡24号はＣ－27区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡24号の西側，掘立柱建物跡21号の南側に位置する。

24号は２間×３間の建物規模で，東西方向に棟持ち柱を持つ建物跡である。平面形はほぼ長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ９＝302cm，桁行Ｐ１－Ｐ４＝398cm，棟持柱間は536cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ４・Ｐ６が92°，∠Ｐ４・Ｐ６・Ｐ９が90°，∠Ｐ６・Ｐ９・Ｐ１が87°，∠Ｐ９・Ｐ１・Ｐ４が91°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，本体は平均して径29×27cm，深さ32cmである。棟持柱は平均して径32×27cm，深さは24cmである。

掘立柱建物跡25号（第196図）

掘立柱建物跡25号はＥ－27区で検出された。検出面はⅣ層上面である。竪穴住居跡18号の東側，掘立柱建物跡26号及び27号の西側に位置する。

25号は１間×２間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ３＝249cm，桁行Ｐ１－Ｐ６＝283cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が92°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ６が90°，∠Ｐ４・Ｐ６・Ｐ１が85°，∠Ｐ６・Ｐ１・Ｐ３が93°である。

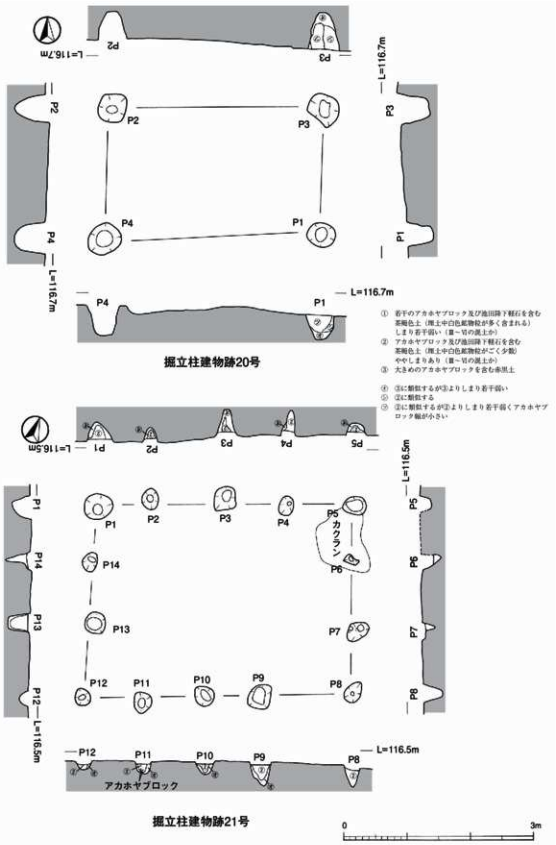
ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径43×38cm，深さ40cmである。

掘立柱建物跡26号（第197図）

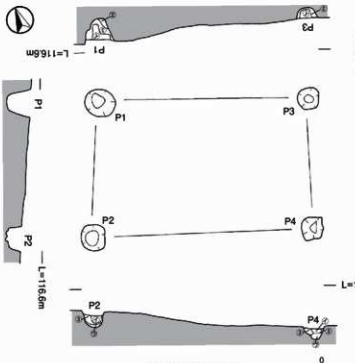
掘立柱建物跡26号はＥ・Ｆ－27区で検出された。検出面はⅣ層上面である。竪穴住居跡18号の東側に位置し，掘立柱建物跡27号と切り合い関係にある。前後関係については不明である。

26号は１間×１間の建物規模である。平面形はほぼ長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝264cm，桁行Ｐ１－Ｐ４＝372cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が94°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が87°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が95°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が84°である。

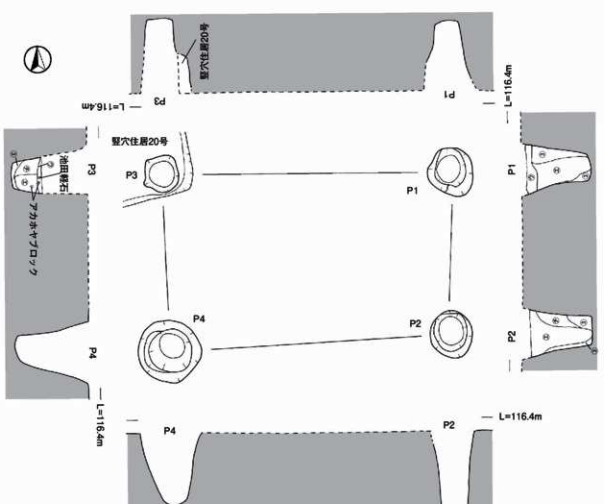
ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径47×30cm，深さは35cmである。



第194図　掘立柱建物跡11

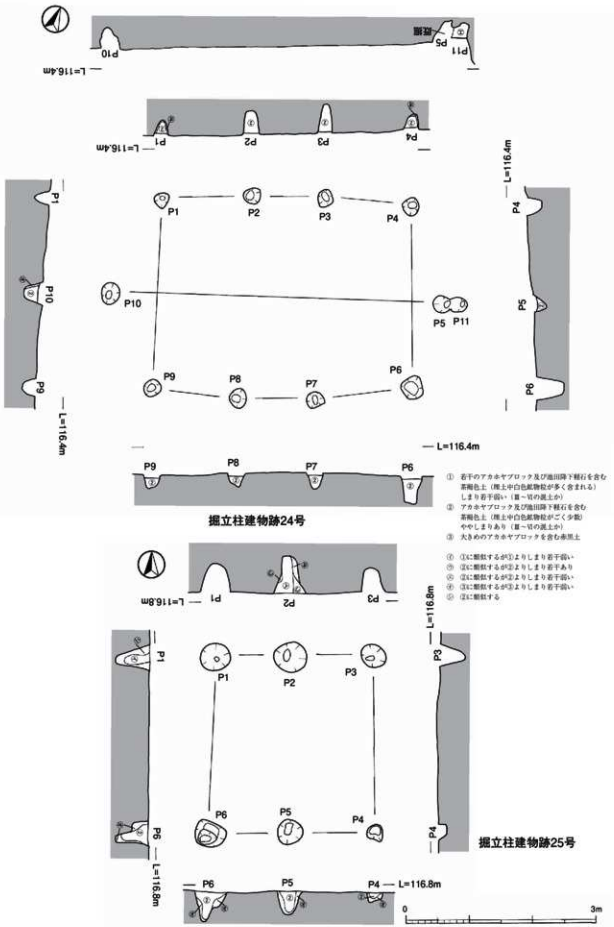


掘立柱建物跡22号

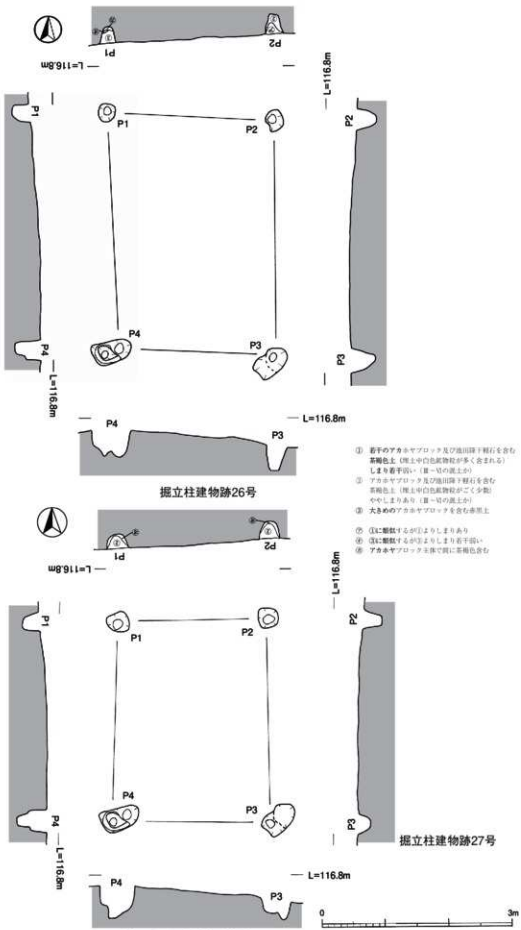


掘立柱建物跡23号

第195図　掘立柱建物跡12



第196図　掘立柱建物跡13



掘立柱建物跡26号

掘立柱建物跡27号

第197図　掘立柱建物跡14

掘立柱建物跡27号（第197図）

掘立柱建物跡27号はＥ・Ｆ－27区で検出された。検出面はⅣ層上面である。竪穴住居跡18号の東側に位置し，掘立柱建物跡26号とは切り合い関係にある。前後関係については不明である。

27号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝237cm，桁行Ｐ１－Ｐ４＝316cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が90°，∠Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４が88°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ１が89°，∠Ｐ４・Ｐ１・Ｐ２が93°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径46×33cm，深さは34cmである。

掘立柱建物跡28号（第198図）

掘立柱建物跡28号はＣ・Ｄ－26・27区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡26号の西側に位置し，掘立柱建物跡21号とは切り合い関係にあるが，前後関係は不明である。

28号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝210cm，桁行Ｐ１－Ｐ３＝375cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が86°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ２が90°，∠Ｐ４・Ｐ２・Ｐ１が90°，∠Ｐ２・Ｐ１・Ｐ３が94°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径39×29cm，深さ33cmである。

掘立柱建物跡29号（第198図）

掘立柱建物跡29号はＥ－30・31区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡14号の西側に位置し，掘立柱建物跡35号とは切り合い関係にあるが，前後関係は不明である。

29号は１間×１間の建物規模と考えられるが，北東側のピットは確認できなかった。平面形は長方形を呈していると考えられ，梁行Ｐ１－Ｐ２＝155cm，桁行Ｐ２－Ｐ３＝170cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３が86°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径19×15cm，深さは14cmである。

掘立柱建物跡30号（第198図）

掘立柱建物30号はＥ・Ｆ－28・29区で検出された。竪穴住居跡23号の南側，掘立柱建物跡19号の北西側に位置する。

30号は１間×１間の建物規模と考えられるが，東側の部分のピットが見つからなかったため，建物跡の詳細については不明である。平面形はほぼ長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ３＝235cm，桁行Ｐ１－Ｐ２＝275cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ２・Ｐ１・Ｐ３が94°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径49×38cm，深さ42cmであり，Ｐ２が他の２つのピットに比べて極めて小さい。

掘立柱建物跡31号（第199図）

掘立柱建物跡31号はＤ－35区で検出された。検出面はⅣ層上面である。竪穴住居跡25号の南東側，掘立柱建物跡39号の西側に位置する。

31号は１間×１間の建物規模である。平面形はほぼ長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝222cm，桁行Ｐ１－Ｐ３＝397cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が93°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ２が87°，∠Ｐ４・Ｐ２・Ｐ１が90°，∠Ｐ２・Ｐ１・Ｐ３が90°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径67×47cm，深さ53cmであり，Ｐ３が他の３つのピットに比べて若干大きい。

掘立柱建物跡32号（第199図）

掘立柱建物跡32号はＤ－32・33区で検出された。検出面はⅣ層上面である。竪穴住居跡10号の北東側に位置し，竪穴住居跡９号と切り合い関係にある。前後関係は不明である。

32号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝260cm，桁行Ｐ１－Ｐ３＝400cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が92°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ２が89°，∠Ｐ４・Ｐ２・Ｐ１が92°，∠Ｐ２・Ｐ１・Ｐ３が87°である。

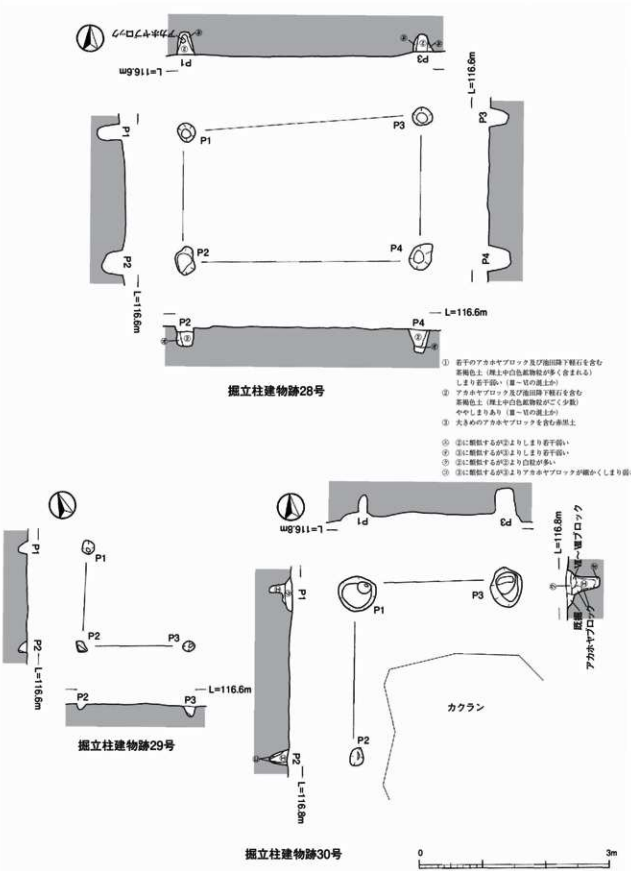
ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均すると径53×41cm，深さ47cmの大きさである。

掘立柱建物跡33号（第200図）

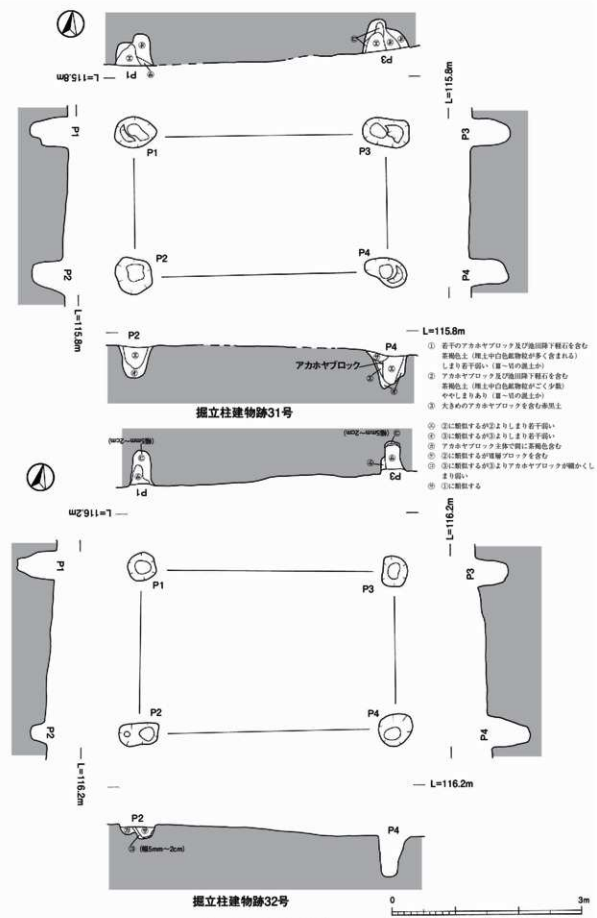
掘立柱建物跡33号はＣ・Ｄ－30区で検出された。竪穴住居跡11号の北側にあり，方形周溝と切り合い関係にあるが，時期差については不明である。

33号は１間×１間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行Ｐ１－Ｐ２＝226cm，桁行Ｐ１－Ｐ３＝387cmを測る。内角はおよそ∠Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が90°，∠Ｐ３・Ｐ４・Ｐ２が89°，∠Ｐ４・Ｐ２・Ｐ１が93°，∠Ｐ２・Ｐ１・Ｐ３が89°である。

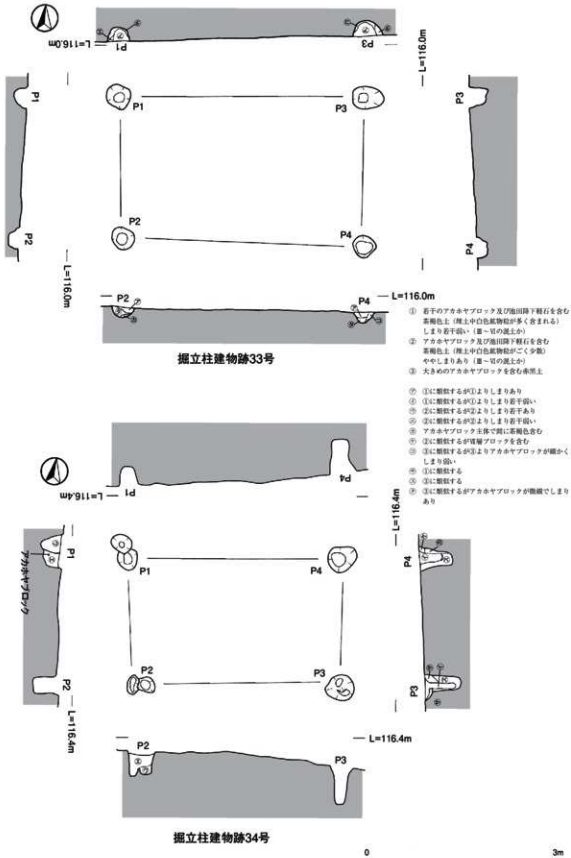
ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径40×35cm，深さ20cmであり，Ｐ３は他のピットに比べて大きい。



第198図　掘立柱建物跡15



第199図　掘立柱建物跡16



第200図　掘立柱建物跡17

掘立柱建物跡34号（第200図）

掘立柱建物跡34号はD－27区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡26号の西側にあり，掘立柱建物跡21号と極めて接近した位置にあり，切り合い関係がある可能性がある。

34号は1間×1間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行P1－P2＝201cm，桁行P1－P4＝336cmを測る。内角はおよそ∠P1・P4・P3が91°，∠P4・P3・P2が89°，∠P3・P2・P1が92°，∠P2・P1・P4が88°である。

ピットの形状はほぼ円形であり，平均して径43×35cm，深さ45cmである。

掘立柱建物跡35号（第201図）

掘立柱建物跡35号はE－30・31区で検出された。竪穴住居跡12号の北西側にあり，掘立柱建物跡29号と切り合い関係にある。時期差については不明である。

35号は1間×1間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行P1－P2＝193cm，桁行P1－P3＝246cmを測る。内角はおよそ∠P1・P3・P4が89°，∠P3・P4・P2が91°，∠P4・P2・P1が89°，∠P2・P1・P3が91°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して径33×28cm，深さ24cmであり，他の掘立柱建物跡と比べて全体的にピットが小さいことが特徴である。

掘立柱建物跡36号（第202図）

掘立柱建物跡36号はC・D－29区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡17号の東側，竪穴住居跡13号の西側，掘立柱建物跡19号の南側に位置する。

36号は3間×3間の建物規模で，棟持柱を持つ建物跡である。平面形は長方形を呈しており，梁行P1－P4＝349cm，桁行P1－P10＝404cmを測る。棟持柱間は534cmである。内角はおよそ∠P1・P10・P7が89°，∠P10・P7・P4が94°，∠P7・P4・P1が88°，∠P4・P1・P10が89°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈し，平均して本体が径35×27cm，深さ30cmである。また，棟持柱は35×26cm，深さ30cm，本体の東側の南北にある2基ずつの柱穴の平均は，32×27cm，深さは18cmである。

掘立柱建物跡37号（第201図）

掘立柱建物跡37号はD・E－31区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡12号の北側に非常に近接して位置しており，切り合い関係にある可能性がある。

37号は1間×1間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行P1－P2＝206cm，桁行P1－P3＝388cmを測る。内角はおよそ∠P1・P3・P4が91°，∠P3・P4・P2が88°，∠P4・P2・P1が92°，∠P2・P1・P3が89°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈している。平均して径36×30cm，深さは18cmである。

掘立柱建物跡38号（第203図）

掘立柱建物跡38号はF－28区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡23号の南側，掘立柱建物跡30号の西側に位置する。

38号は1間×1間の建物規模である。平面形はほぼ台形に近い形状を呈しており，梁行P1－P2＝178cm，桁行P1－P3＝159cmを測る。内角はおよそ∠P1・P3・P4が95°，∠P3・P4・P2が81°，∠P4・P2・P1が90°，∠P2・P1・P3が94°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径37×34cm，深さ36cmである。

掘立柱建物跡39号（第203図）

掘立柱建物跡39号はD－36区で検出された。検出面はⅣ層上面である。竪穴住居跡30号の南側，掘立柱建物跡31号の東側に位置する。

39号は1間×1間の建物規模である。平面形は長方形を呈しており，梁行P1－P2＝180cm，桁行P1－P3＝328cmを測る。内角はおよそ∠P1・P3・P4が90°，∠P3・P4・P2が89°，∠P4・P2・P1が91°，∠P2・P1・P3が90°である。

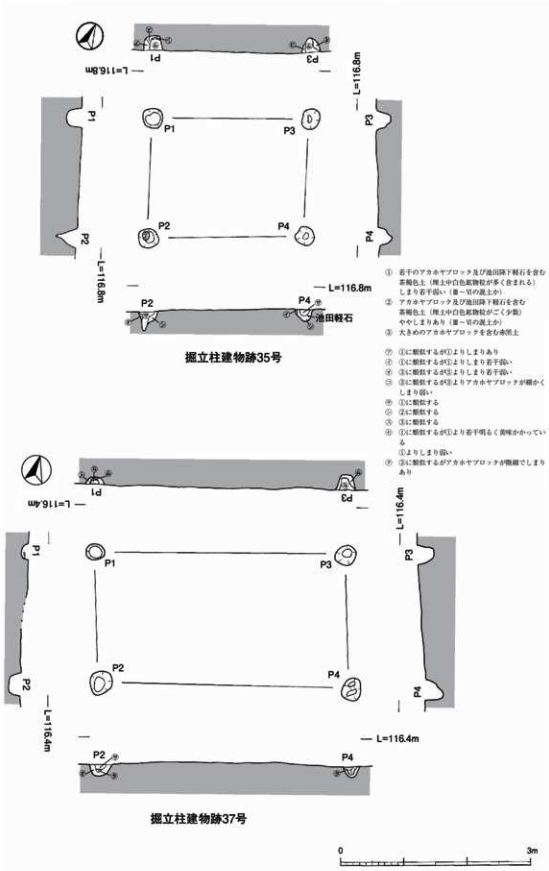
ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径40×31cm，深さ27cmである。

掘立柱建物跡40号（第204図）

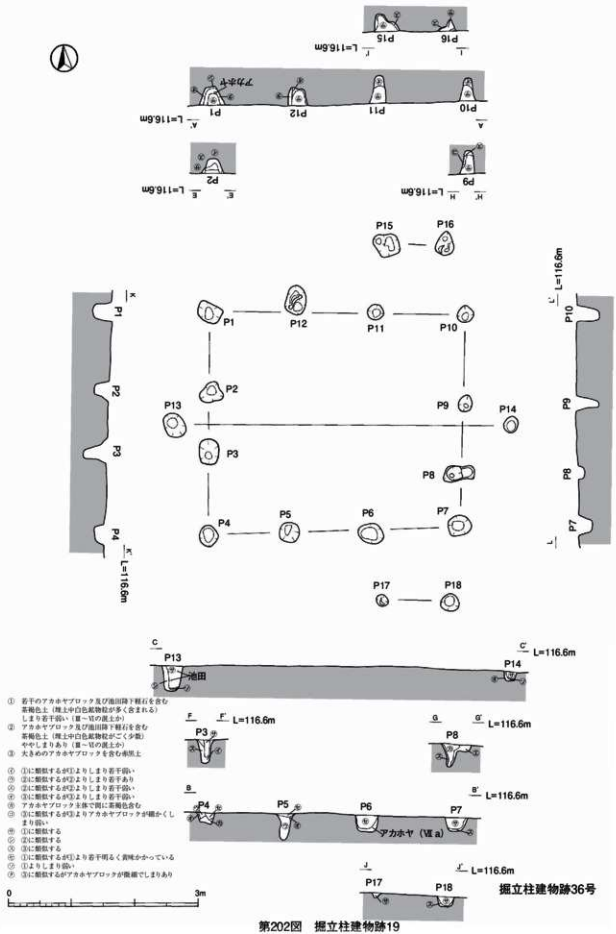
掘立柱建物跡40号はC・D－34・35区で検出された。検出面はⅥ層上面である。竪穴住居跡25号の南側，掘立柱建物跡32号の南西側に位置する。

40号は1間×1間の建物規模である。平面形はほぼ長方形を呈しており，梁行P1－P2＝239cm，桁行P1－P3＝391cmを測る。内角はおよそ∠P1・P3・P4が89°，∠P3・P4・P2が89°，∠P4・P2・P1が89°，∠P2・P1・P3が93°である。

ピットの形状はほぼ円形を呈しており，平均して径57×47cm，深さは46cmである。



第201図　掘立柱建物跡18

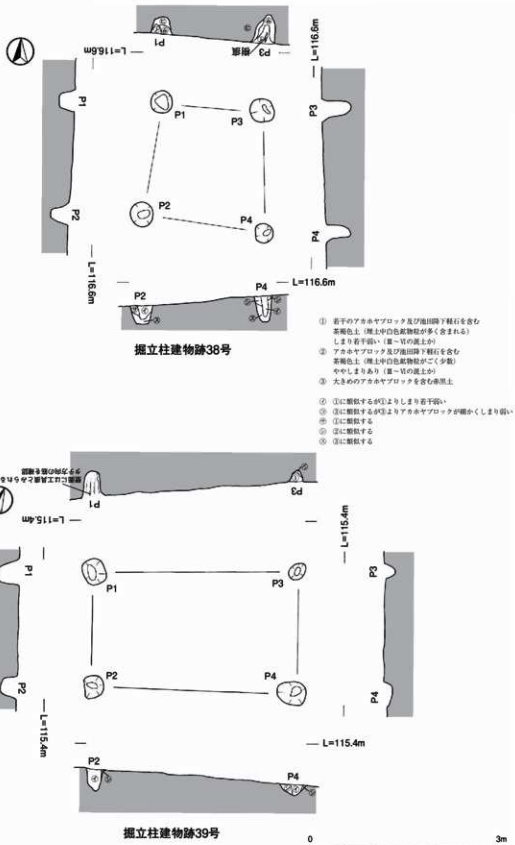


① 若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色紙物粒が多く含まれる）
しまり若干弱い（第一層の混土か）
② アカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色紙物粒がごく少数）
ややしまりあり（第一層の混土か）
③ 大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土

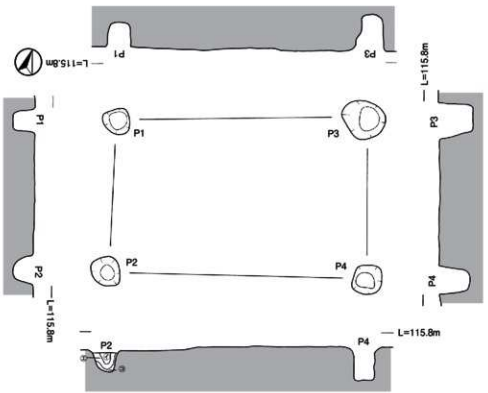
④ ①に類似するが①よりしまり若干弱い
⑤ ②に類似するが②よりしまり若干あり
⑥ ②に類似するが②よりしまり若干弱い
⑦ ③に類似するが③よりしまり若干弱い
⑧ アカホヤブロック主体で周に茶褐色含む
⑨ ③に類似するが③よりアカホヤブロックが細かくしまり弱い
⑩ ①に類似する
⑪ ②に類似する
⑫ ③に類似する
⑬ ①に類似するが①より若干明るく黄味かかっている
⑭ ①よりしまり弱い
⑮ ③に類似するがアカホヤブロックが微細でしまりあり

掘立柱建物跡36号

第202図　掘立柱建物跡19



第203図　掘立柱建物跡20



掘立柱建物跡40号

① 若干のアカホ**ヤブロック及び**池田降下軽石を含む
茶褐色土（**埋土中白色鉱物粒が多く含まれる**）
しまり若干弱い（**第一冠の混土か**）
② アカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色鉱物粒がごく少数）
ややしまりあり（第一冠の混土か）
③ 大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土

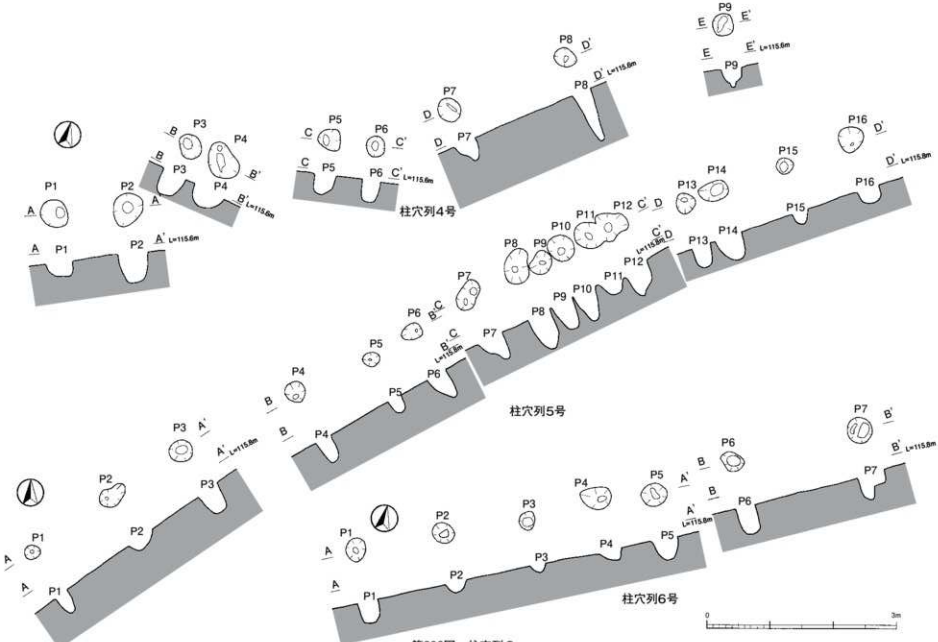
④ ①に類似するが②よりしまり若干弱い
⑤ ②に類似するが③よりしまり若干弱い
⑥ ③に類似するが③よりアカホヤブロックが細かくしまり弱い

0 3m

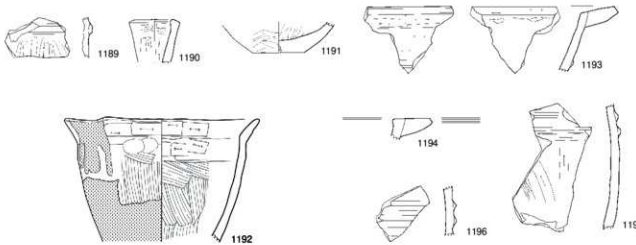
第204図　掘立柱建物跡21

竪穴住居跡21号
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P412
P413
トレンチ
L=116.3m
L=116.4m
① 茶褐色土（白色粒物粒を多く含む）
② 茶褐色土（白色粒物粒は少量）
③ 赤黒色土（アカホヤブロックを含む）
①' ①に類似するがV～塊のブロックを含む
②' ②に類似するがアカホヤブロックが小さくしまりなし
③' ③に類似するがアカホヤブロックが大きく岡に茶褐色土が入る
柱穴列１号
柱穴列２号
柱穴列３号
アカホヤブロック
池田
0
4m
3m

第205図　柱穴列１



第206図　柱穴列2



第207図　柱穴列等出土遺物

ウ　柱穴列（第205図・第206図）

柱穴列が６列検出された。すべて25区から東側に位置しており，仮の名称で言えば“東の集落。ということになる。ピットの大きさの差異や遺構全体の規模の大小などさまざまである。基本的には，一直線に，かつ等間隔で並ぶことを原則とするが，そのようにならないものでも一方向に直線的に並ぶものは，この柱穴列という名称を付してある。

その中でも，とりわけ，構成するピットの１つ１つの大きさと，遺構としてのピットの数など，最も大きなものが柱穴列１である。総ピット数は22基からなっており，ピットの内部が複数に分かれているピットも５基見られる。また，柱穴列とは言いながら，一方向ではなく，主方向に直交するものと斜交するものもあることから，ほかの柱穴列とは性格を異にするものとも考えられる。

柱穴列１号（第205図）

Ｂ・Ｃ－28・29区で検出された。ほぼ東西方向に一列になった柱穴を中心に，２か所から南北方向にも柱穴が存在するものの，東西方向の列にしっかりと直交するものではないように感じられるほか，穴の大きさも極端に小ぶりである。大型のベッド状の張り出しを持つ円形の竪穴住居跡21号に隣接して存在することなどから，大型の建物跡である可能性も指摘されているが，判然としない。

柱穴列２号（第205図）

Ｆ・Ｇ－29・30区で検出された。３基の柱穴からなっており，N75°Wの主軸方向に一直線に並んでいる。

柱穴列３号（第205図）

Ｄ－26・27区で検出された。３基の小ぶりな柱穴がN66°Eの主軸方向に一直線に並んでいる。

柱穴列４号（第205図）

Ｄ－35区で検出された。合計９基の柱穴が２基ずつがセットになったように４組主軸方向が一定しない状況で並んでいる。４組の柱穴の間隔はそれぞれに異なっており，一貫性は見られない。現場でこのような状況の柱穴群に柱穴列という名称を付したことから，柱穴列として処理している。

柱穴列５号（第206図）

Ｃ・Ｄ－33・34区で検出された。合計16基の柱穴が大きく４つのグループとなって微妙に主軸方向を変えながら並んでいる。柱穴の大きさや間隔などにも統一性が見られないが，現場でこのような名称を付したため，柱穴列として処理を行った。

柱穴列６号（第206図）

Ｄ－34区で検出された。７基の柱穴が大きく２つのグループとなって幾分主軸をずらしながら並んでいる。柱穴の大きさや間隔も微妙に異なっている。

掘立柱建物跡・柱穴からの出土遺物（第207図）

1189～1195は掘立柱建物跡及び柱穴からの出土遺物である。1189は壺形土器の胴部に付された四角突帯，1190は長頸壺の口縁部，1191は壺形土器の底部であろう。1193～1195は甕形土器の口縁部および胴部に付された三角突帯である。1192は口縁部は横方向のナデ，頸部以下は縦及び斜め方向のハケ目調整である。

エ　方形周溝・円形周溝（第208図～第214図）

溝状に方形あるいは円形に掘り込まれた遺構が検出された。名称は，それぞれ方形周溝・円形周溝と名付けた。なお，円形周溝は完全な円形ばかりではなく，半円形のものや円形の１／４ほどのもの，および円形の外側の２方向に円形の１／４ほどのものが取り付いているものもすべて円形周溝と呼称することとした。これらはすべて23区より東側に見られた。なお，円形周溝は全部で11基検出されたことから１号から11号までを付けたが，方形周溝は１基のみの検出であったことから番号は付さなかった。

以下，その概略を述べることとする。

方形周溝（第208図）

Ｃ・Ｄ－30・31区で検出された。ほぼ東西方向に長軸を取っており，北辺が6.4m，南辺が7.2m，東辺が4.0m，西辺が4.5mほどで，全体的な形状は長方形をしていると言える。検出面はⅣ層で，最大の深さは12cmである。検出面では，東西方向にはほぼ平坦であるが，南北方向は南側が10cm弱下がっている。これは，検出した時点で結果的にこのようになっていたものと考えられ，遺構の構築時からこのような状況であったかについては不明である。また，大きさや深さについてももう少し規模が大きかった可能性がある。このことは，ほかの円形周溝についても共通に言えることである。なお，遺構の内部には掘り込みなどは見られていない。

円形周溝１号（第209図）

Ｄ－34区で検出された。全体的な形状は半円形であり，南北方向に主軸を取っている。竪穴住居跡25号の西側に住居よりも後で構築されている。長軸方向が4.0m，短軸方向は2.5mほどで，最大深さは21cmである。埋土は３層に分層でき，最下層の下部にはアカホヤのブロックが混じり，上の層ほど黒くなる。

円形周溝２号（第209図）

Ｆ－29区のⅣ層から検出された。全体的な形状は半円形であり，主軸は北西－南東方向に取る。長軸方向が5.2m，短軸方向は2.3mほどで，最大深さは51cmである。埋土はすべて黒褐色土であるが３層に分層でき，最下層の下部にはアカホヤのブロックが混じるほか，真ん中の層は橙色パミスの細粒を含んでいる。北側は３段階で階段状に次第に深くなっている。

円形周溝３号（第209図）

Ｅ－33区で検出された。完全な円形の南北方向の外側に１／４ほどの円形となる弧状の周溝を南北両側に持つ二重円形の特異な形状を呈する。主軸はほぼ南北方向に取っている。長軸方向が4.1m，短軸方向が3.4mほどで，最大深さは63cmである。埋土は３層に分層でき，最上の層には池田パミスが混じっている。中央の完全円形の周溝は，南東部が段となって約1.5mにわたって最も深くなっている。円形の周溝は，南側の弧状の周溝と東半分で接しているが，それ以外の場所では離れている。

円形周溝４号（第210図）

Ｅ－33区のⅣ層から検出された。全体的な形状は半円形であり，北西－南東に主軸を取っている。長軸方向が4.5m，短軸方向は2.3mほどで，最大深さは36cmである。埋土は局所的に３層に分層できる。西側から２段階に次第に深くなっている。

円形周溝５号（第211図）

Ｄ－26区で検出された。全体的な形状は円形と言えるものの，いくぶん凹凸があってなめらかではない。長軸方向が3.3m，短軸方向は3.0mほどで，最大深さは15cmである。埋土は２層に分層できる。南側に約10cm，西側に約20cm，それぞれ低くなっている。

円形周溝６号（第211図）

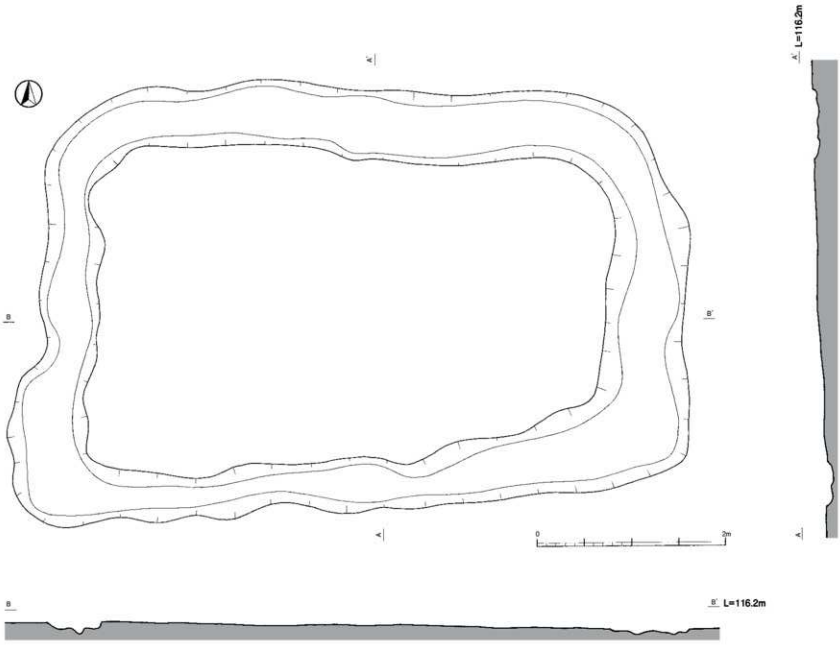
Ｃ－33区で検出された。竪穴住居跡８号の西側にあり，住居跡に切られていることから本来の全体形状は不明であるが，１／４程度の弧状の周溝として検出された。南北方向を主軸に取り，長さは2.2m，幅は48cmほどで，最大深さは15cmである。埋土は２層に分層でき，下層は淡く，上層は茶褐色で黄色パミスの細粒を含んでいる。上部から土器が出土している。

円形周溝７号（第211図）

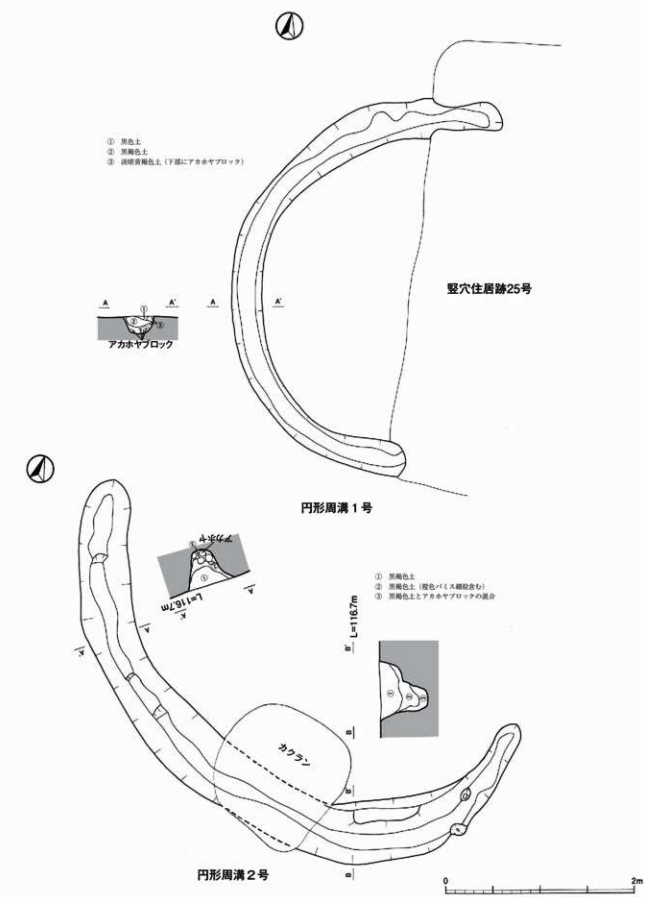
Ｅ－35区で検出された。いくぶん凹凸があるものの，全体的な形状は円形と言える。長軸方向が4.4m，短軸方向は3.9mほどで，最大深さは75cmである。埋土は３層に分層でき，下の２層にはアカホヤのブロックが含まれ，上ほど色が黒くなる。北側と南側の２か所に段がある。

円形周溝８号　（第212図）

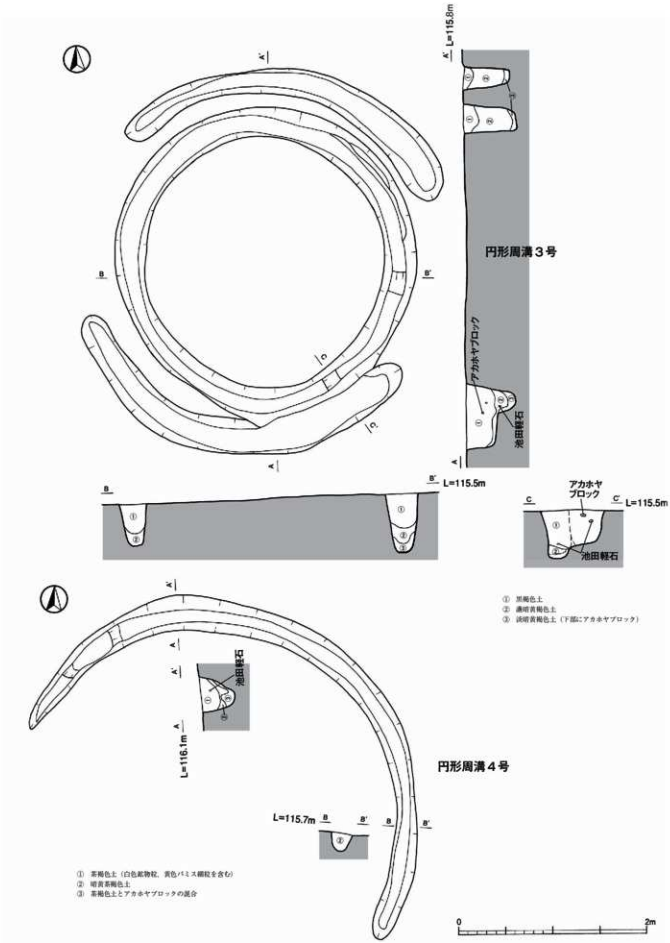
Ｅ－31区のⅣ層から検出された。１／３ほどの円形を呈する弧状の周溝で，北西－南東を主軸としている。長軸は2.0m，最大幅は35cmほどで，最大深さは５cmである。



第208図　方形周溝

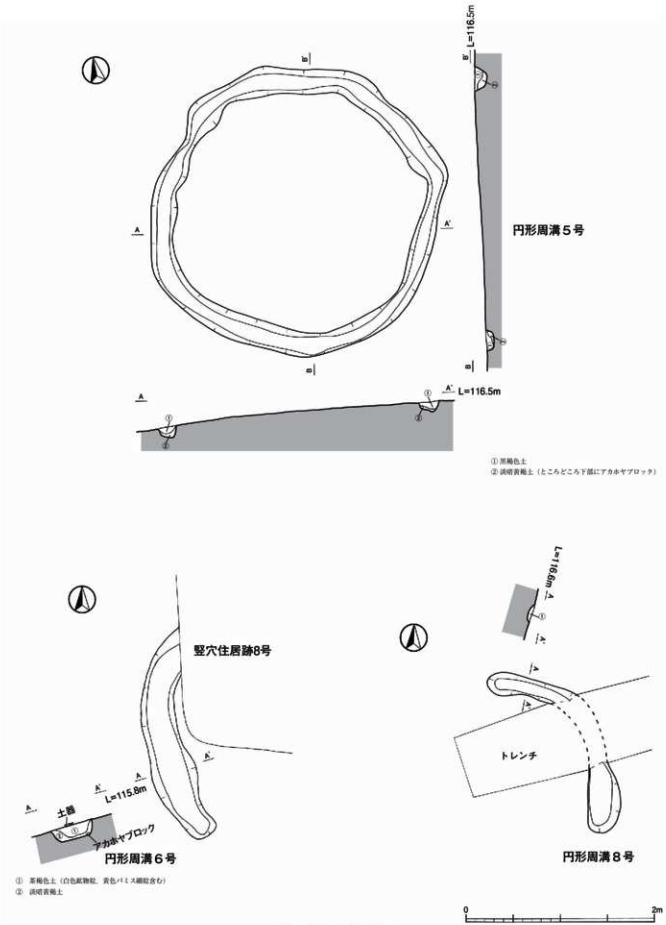

① 黒色土
② 黒褐色土
③ 褐橙黄褐色土（下部にアカホヤブロック）
竪穴住居跡25号
アカホヤブロック
円形周溝１号
① 黒褐色土
② 黒褐色土（橙色パミス細粒含む）
③ 黒褐色土とアカホヤブロックの混合
L=116.7m
カクラン
円形周溝２号
0
2m

第209図　円形周溝１

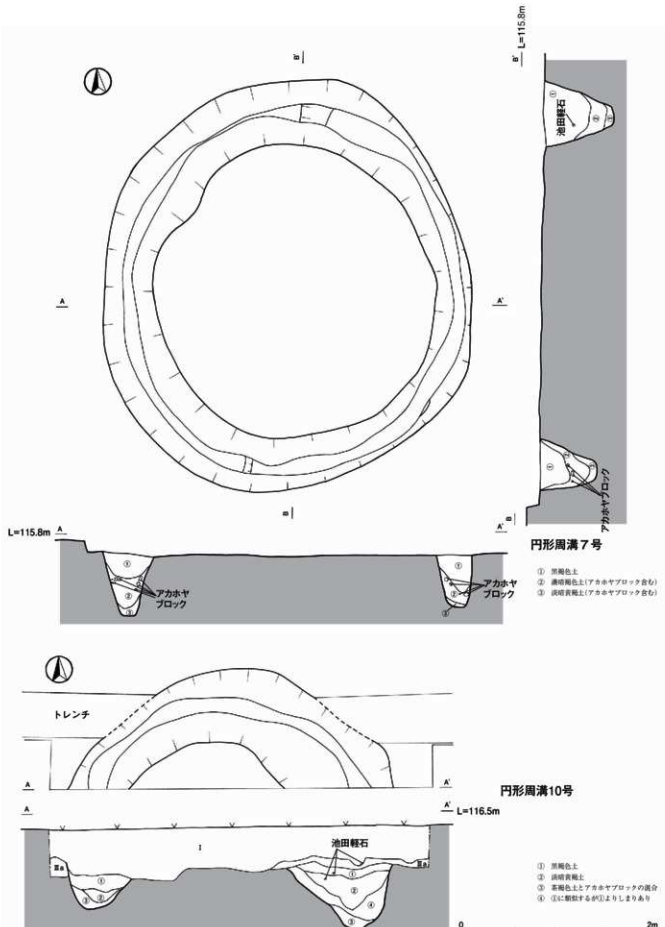


A'
L=115.8m
円形周溝３号
アカホヤブロック
池田軽石
B
B'
C
C'
L=115.5m
アカホヤ
ブロック
L=115.5m
池田軽石
① 黒褐色土
② 濃暗黄褐色土
③ 淡暗黄褐色土（下部にアカホヤブロック）
池田軽石
L=116.1m
円形周溝４号
L=115.7m
① 茶褐色土（白色鉱物粒、黄色パミス細粒を含む）
② 暗黄茶褐色土
③ 茶褐色土とアカホヤブロックの混合
0
2m

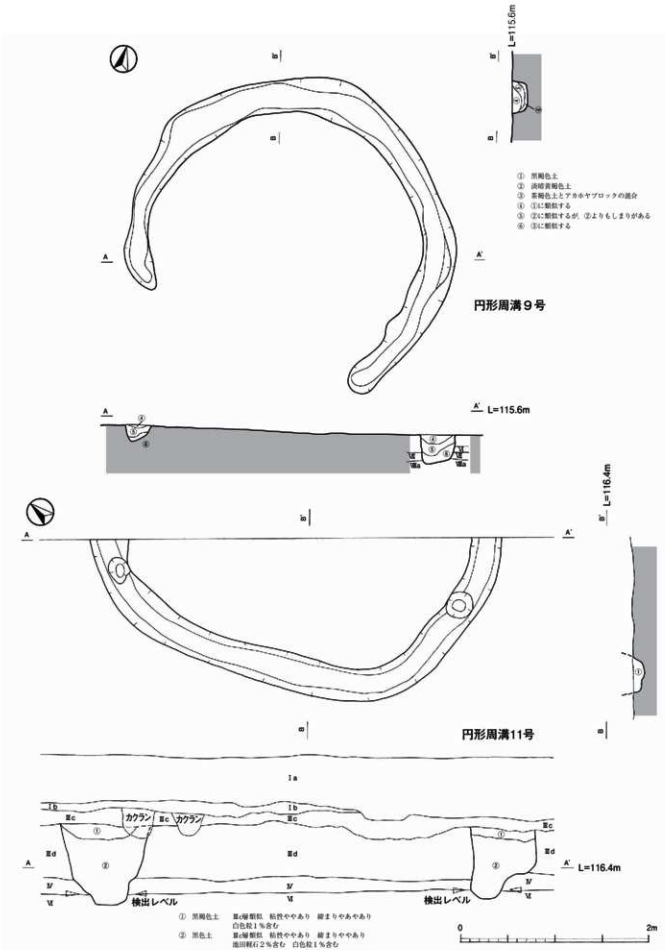
第210図　円形周溝２


B
B'
L=116.5m
円形周溝５号
A
A'
L=116.5m
① 黒褐色土
② 淡褐黄褐土（ところどころ下部にアカホヤブロック）
竪穴住居跡8号
A
A'
L=115.8m
土器
アカホヤブロック
円形周溝６号
① 茶褐色土（白色粒物粒、黄色パミス細粒含む）
② 淡褐黄褐土
L=116.6m
A
A'
トレンチ
円形周溝８号
0
2m

第211図　円形周溝３


a
a'
L=115.8m
池田輕石
アカホヤブロック
A
A'
L=115.8m
アカホヤ
ブロック
アカホヤ
ブロック
円形周溝７号
① 黒褐色土
② 濃暗褐色土(アカホヤブロック含む)
③ 淡暗黄褐土(アカホヤブロック含む)
トレンチ
円形周溝10号
L=116.5m
池田輕石
① 黒褐色土
② 淡暗黄褐土
③ 茶褐色土とアカホヤブロックの混合
④ ①に酸似するが①よりしまりあり
0
2m

第212図　円形周溝４


L=115.6m
① 黒褐色土
② 浅暗黄褐色土
③ 茶褐色土とアカホヤブロックの混合
④ ①に類似する
⑤ ②に類似するが、②よりもしまりがある
⑥ ③に類似する
円形周溝９号
L=115.6m
L=116.4m
円形周溝11号
L=116.4m
カクラン
カクラン
検出レベル
検出レベル
① 黒褐色土　Ⅲc層類似　粘性ややあり　締まりやあやあり
白色粒１％含む
② 黒色土　Ⅲc層類似　粘性ややあり　締まりややあり
池田軽石２％含む　白色粒１％含む
0
2m

第213図　円形周溝５

円形周溝９号（第212図）

Ｄ－35・36区のⅣ層から検出された。２/３ほどの円形を呈する周溝で，南側が繋がっていない。北東－南西方向を主軸としており，長軸方向が3.5m，短軸方向は3.6mほどで最大深さは30cmである。埋土は３層に分層される。

円形周溝10号（第213図）

Ｃ－36区で検出された。南側の用地外に延びることから全体的な形状は不明であるが，検出された状況は１/３ほどの円形で，3.5m程度の長さがあり，最大深さは111cmである。埋土は４層に分層でき，最下層にはアカホヤのブロックが混じり，上層ほど黒くなる。

円形周溝11号（第213図）

Ｂ－23区で検出された。東側は道路下に潜り込むため，全体的な形状等は不明であるが，調査時点での長軸方向は4.3m，短軸方向は1.7m以上あり，最大深さは86cmである。埋土は２層に分層できる。周溝の内部に，２基のピット状の掘り込みが見られるが，本遺構とどのように関連があるのかは不明である。

周溝内出土遺物（第214図～第216図）

1197 ～ 1199は方形周溝から出土した遺物で，壺形土器の，1197は頸部，1198と1199は胴部上部に付された突帯で，1198はM字状突帯，1199は２条の三角突帯である。

1200 ～ 1234は円形周溝から出土した遺物である。

1200と1201は１号からの出土で，壺形土器の底部と肩部である。

1202 ～ 1208は２号からの出土で，1202 ～ 1205は甕形土器の口縁部，胴部突帯，底部，1206・1207は壺形土器の底部，1208は蓋型土器の蓋上部である。

1209 ～ 1215は３号からの出土で，1209 ～ 1212は甕形土器の胴部の下部と底部，1213 ～ 1215は壺形土器の口縁部と胴部の突帯である。1213は口縁部が外面の下方へと垂れ下がったもので，内面は端部が内側に突き出ている。1214は二重口縁の土器で，端部には三方向に細かな刻みが施される。

1216 ～ 1218は４号からの出土で，1216・1217は甕形土器の口縁部，1218は胴部下部である。1217は口縁部が体部から剥がれ落ちている。

1219・1220は５号からの出土である。何れも壺形土器で，1219は頸部，1220は底部で小さな平底で，そこから上部へは大きく張らずに立ち上がる。

1221・1222は６号からの出土である。何れも壺形土器で，1221は肩部，1222は胴部に付された２条の三角突帯である。

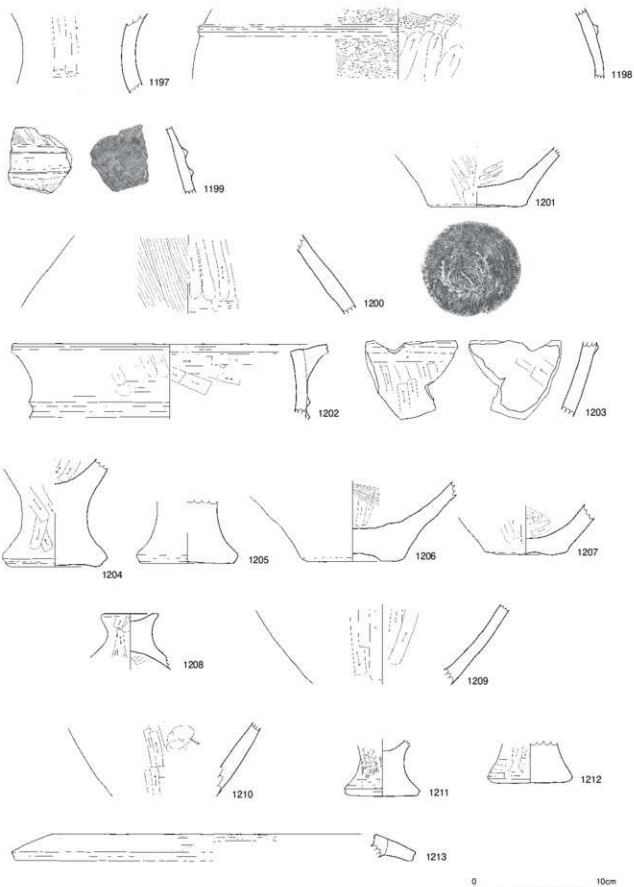
1223 ～ 1232は７号からの出土である。1223 ～ 1226は甕形土器の口縁部，1227 ～ 1229は胴部に付された３条の三角突帯，1230と1231は底部近くの胴部の下部である。1231は，外面がナデ，内面がナデによる調整がそれぞれ斜め上方に見られる。1232は壺形土器の口縁部から頸部にかけての部分である。

1233と1234は９号からの出土である。1233は甕形土器の口縁部，1234は壺形土器の頸部である。

1235と1236は周溝から出土した石器である。

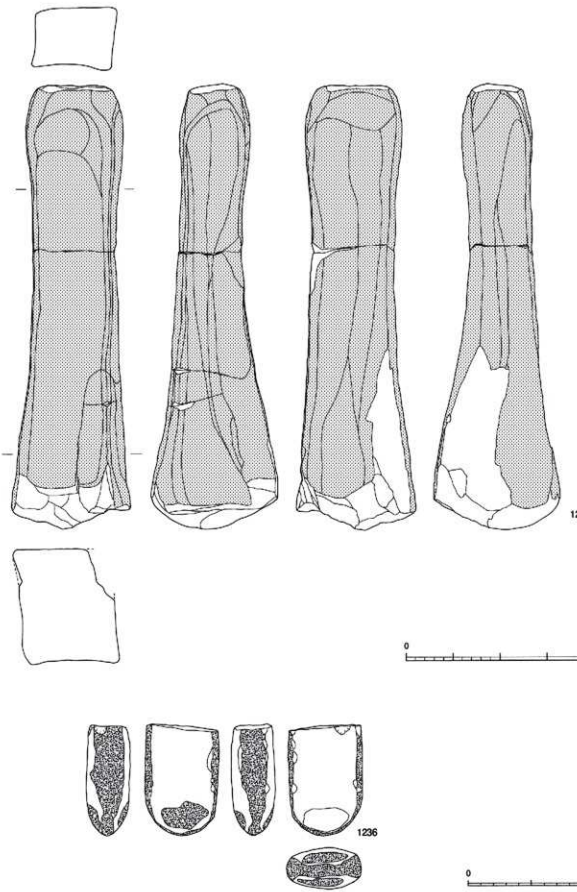
1235は２号から出土した大型の砥石で，大きく２つに割ら（折ら）れているほか，何か所かで剥離しているが，この小さな剥離が当時のものであるのか，石質自体がもろくなっていたことに起因する調査時点でのものなのかは不明である。粗い目の砂岩製で，４面を研面として使用している。ただ，大きく割ら（折ら）れている状況は，竪穴住居跡内から出土しているほかの大型の砥石と同じ状況であることから，遺棄（ないしは廃棄）する段階で割ら（折ら）れたものと考えられ，それは遺棄（ないしは廃棄）する際の“儀礼。とでも言うべきもののように感じられるのである。

1236も２号から出土したもので，砂岩製の敲石である。本来は長楕円形のような形状であったものが割れた（または，折れた）ことから，残りを敲石として使用したもののように思われる。使用方法は，側縁及び頂部とともに，平たい面の端部近くを使って上下に敲いたものと考えられる。



第214図　方形・円形周溝出土遺物１

第215図　円形周溝出土遺物２



第216図　円形周溝出土遺物３

オ　土坑（第217図～第237図）

土坑は25基検出された。検出面はⅢ～Ⅵ層上面であり，竪穴住居跡と同様，ゴボウのトレンチャーによる削平を受けている土坑もある。

土坑１号（第217図）

Ｆ－25区のⅣ層上面で検出された。形状は，円形に近い楕円形で，長軸はほぼ東西方向である。長軸方向は幾分西側にのびると思われる。長径は現況で83cm，短径は80cm，最大深さは７cmである。埋土はⅢｃ層に類似しており，やや締まりがある。わずかに黄色軽石と径１～２cmのⅢｂ層よりも若干粘質を帯びたⅢｃ層に類似したブロックを含んでいる。

土坑２号（第217図）

Ｆ－25区のⅣ層上面で検出された。形状は，楕円形を呈している。長軸は，東側がやや南側に振れた東西方向である。長径107cm，短径68cm，最大深さ９cmである。埋土はⅢｃ層に類似しており，やや締まりがあり，白色鉱物や黄色軽石粒を若干含んでいる。

土坑３号（第218図）

Ｆ－31区のⅣ層上面で検出された。竪穴住居跡15号の内部から，15号住居跡と切り合う形で検出された。15号住居跡が土坑３号の床面を切っていることから，土坑３号の方が新しい。長軸方向が203cm，短軸方向は140cmで，最大深さは80cmである。下面のピットの埋土の記載はあるものの，土坑自体の埋土の記載は見られない。土坑の内外から土器が出土しているが，内部から出土したものは土坑に伴うものと考えられるものの，外部から出土したものについては竪穴住居跡15号に伴うものと考えられる。床面の形状も複雑であり，住居跡の調査中に土坑と確認されていることから，この土坑が本当に竪穴住居跡15号とは別個のものであるかについては再考する必要があるかもしれない。

土坑４号（第219図）

Ｆ－31・32区のⅣ層上面で検出された。形状は，長方形を呈しており，長軸はやや南側に振れた東西方向である。長軸方向が304cm，短軸方向は187cm，最大深さは78cmである。埋土は最大で７層に分層でき，白色鉱物や黄色の小粒，アカホヤブロックを含むものなど極めて複雑である。一気に埋まった感じではなく，上部では宙水状に埋まっていることから，長い時間をかけて埋まったものと考えられる。逆の言い方をすれば，長い期間露天にさらされていたと言うことができる。調査担当者は，西側の中央部の床面に１基のピットがあり，東側のほぼ中央部で掘り方の上面にもピットがあることから，西側の床面のピットから真っ直ぐに柱を立てて上部から土坑全体を覆っていた板を支え，東側の上部のピットから斜め方向にこの板を上げた時点で柱を入れて支えていたものと考え，この土坑を貯蔵穴と考えている。

土坑５号（第217図）

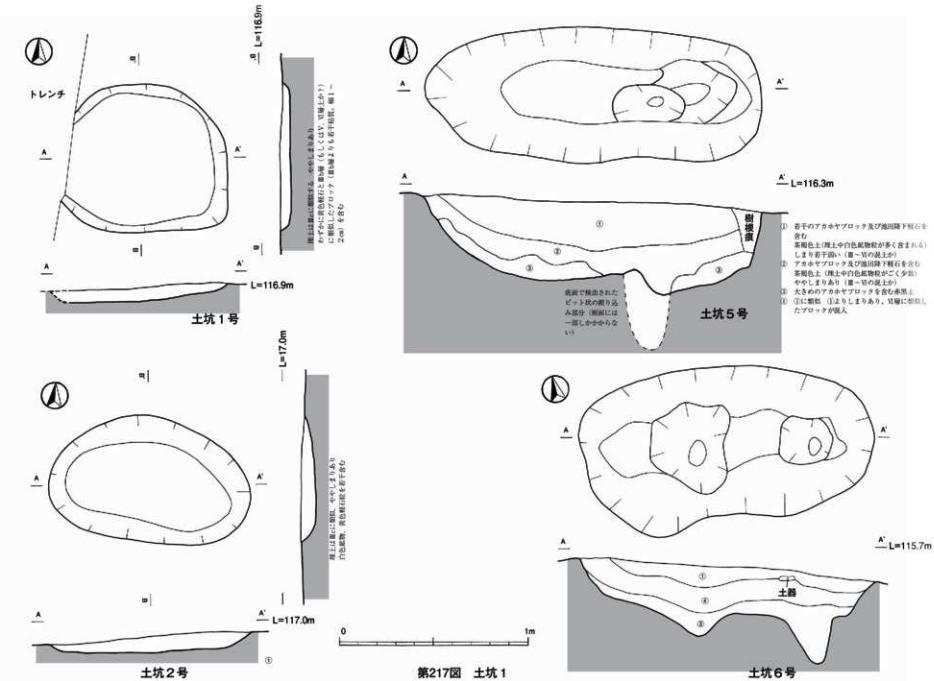
Ｆ－32区のⅣ層上面で検出された。形状は，細長い楕円形を呈しており，長軸はほぼ東西方向である。長径が178cm，短径が65cm，最大深さは50cmである。埋土は３層に分層でき，その何れにもアカホヤのブロックが含まれている。埋土は全体的に宙水状になっていることから，長時間をかけて埋まったものと考えられる。

土坑６号（第217図）

Ｇ－34区のⅣ層上面で検出された。形状は楕円形であり，長軸は西側がやや南側に振れた東西方向である。長径155cm，短径79cm，最大深さは48cmである。床面は東西の２方向にピット状の掘り込みが見られる作りとなっている。埋土は土坑５号と同様な土の成分を有しており，３つの層のその何れにもアカホヤのブロックが含まれているほか，土器も出土した。

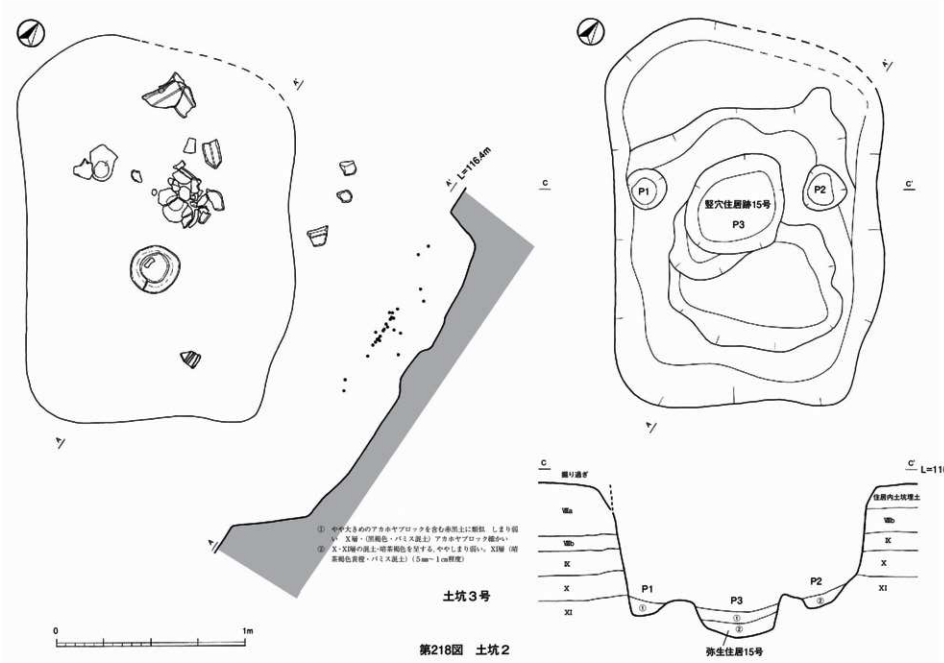
土坑７号（第220図）

Ｅ－28区のⅣ層上面で検出された。形状は楕円形であり，長軸は南側がやや南側に振れた東西方向である。長径192cm，短径85cm，最大深さは95cmである。東側の南北方向にそれぞれピットがあり，土坑からピットまでの距離は北側のピットまで約60cm，南側のピットまでの距離は約90cmである。土坑の内部の壁には工具痕が数多く残っており，土坑をどのようにして掘っていったかがわかる。埋土は３層に分層され，中位の層は若干のアカホヤブロックと池田降下軽石を含む茶褐色土で土器が多く含まれ，下位の層はやや大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土となっている。土坑の下面は中央部がやや高くなっており，東西両側に向けては幾分下がっている。調査担当者は，これも貯蔵穴ではないかと考えている。その理由として，東側の２つのピットに柱を立て，それに横方向に棒を結び，そこから土坑全体を覆うような板を立て掛けて覆いとする，というものである。

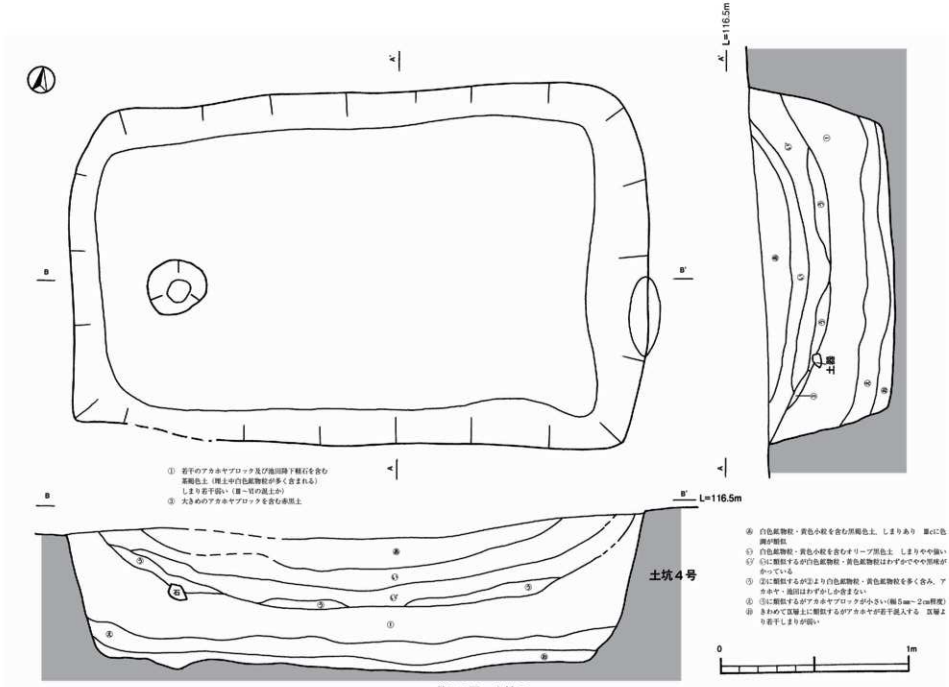


トレンチ
L=116.9m
L=116.9m
土坑１号
L=116.3m
樹根痕
① 若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色鉱物粒が多く含まれる）
しまり若干弱い（第一層の最上か）
② アカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色鉱物粒がごく少数）
ややしまりあり（第一層の最上か）
③ 大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土
④ ①に類似 ①よりしまりあり、質量に類似したブロックが混入
土坑５号
L=17.0m
L=117.0m
土坑２号
L=115.7m
土器
土坑６号
0
1m

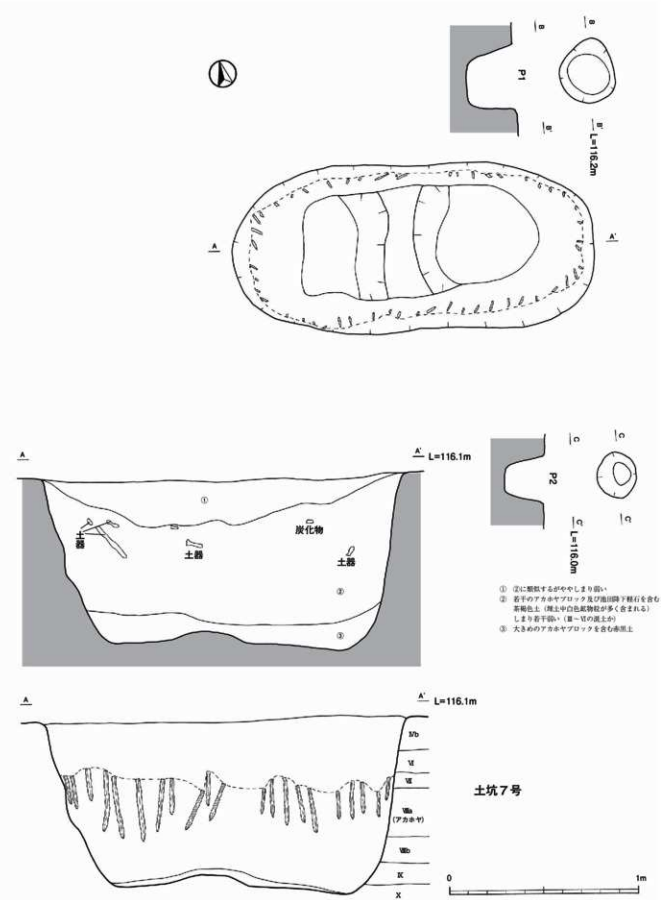
第217図　土坑１


A
A'
L=116.4m
C
C'
P1
P2
P3
竪穴住居跡15号
① やや大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土に類似　しまり弱い　X層・(黒褐色・パミス混土) アカホヤブロック確かい
② X・XI層の混土-暗茶褐色を呈する。ややしまり弱い。XI層（暗茶褐色黄橙・パミス混土）（5㎝～1㎝程度）
土坑３号
0
1m
C
C'
L=116.4m
掘り過ぎ
住居内土坑埋土
Wa
Wb
IX
X
XI
P1
P2
P3
①
②
弥生住居15号

第218図　土坑２


A
A'
B
B'
L=116.5m
土坑４号
① 若干のアカホヤブロック及び地山降下軽石を含む
基調色土（暗土中白色紙物粒が多く含まれる）
しまり若干弱い（昔一切の混土か）
② 大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土
④ 白色紙物粒・黄色小粒を含む黒褐色土、しまりあり　3cに色調が類似
⑤ 白色紙物粒・黄色小粒を含むオリーブ黒色土　しまりやや強い
⑤' ⑤に類似するが白色紙物粒・黄色紙物粒はわずかでやや黒味がかっている
③ ③に類似するが⑤より白色紙物粒・黄色紙物粒を多く含み、アカホヤ・地山はわずかしか含まない
④ ③に類似するがアカホヤブロックが小さい（幅5mm～2cm程度）
⑩ きわめて互層上に類似するがアカホヤが若干混入する　互層よりやや強い
0
1m

第219図　土坑３


P1
L=116.2m
P2
L=116.0m
L=116.1m
土器
土器
炭化物
土器
① ②に類似するがややしまり弱い
② 若干のアカホヤブロック及び地田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色鉱物粒が多く含まれる）
しまり若干弱い（Ⅲ～Ⅵの混土か）
③ 大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土
L=116.1m
Ⅳb
Ⅵ
Ⅶ
Ⅷb
(アカホヤ)
Ⅷb
Ⅸ
Ⅹ
土坑７号
0
1m

第220図　土坑４

土坑８号（第221図）

Ｄ・Ｅ－28・29区のⅣ層上面で検出された。形状は隅が若干丸められた方形を呈しており，下部は南側を深く作っている。長軸方向はほぼ南北と考えられ，北側及び南側にそれぞれ２基のピットが設けられている。長軸方向が258cm，短軸方向は235cmで，最大深さは83cmである。埋土は７層に分層でき，概して言えば宙水状になっている。南東側は撹乱により部分的に破壊されている。ピットの埋土には柱痕跡が残っている。調査担当者は，これも貯蔵穴だったのではないかと考えている。土坑全体が貯蔵穴で，周囲の４基のピットに柱を立て掛けて板を支え，その貯蔵穴を覆っていたと考えていたようである。

土坑９号（第222図）

Ｅ－30区のⅣ層上面で検出された。形状は不整形で，長軸は東側がやや南側に振れた東西方向である。長径が100cm，短径が74cm，最大深さは39cmである。埋土は２層に分層でき，何れにもアカホヤブロックと池田降下軽石が含まれている。西側には土坑16号があるが，この土坑９号が新しい。

土坑10号（第222図）

Ｃ・Ｄ－32区で検出されたが，検出面は不明である。形状は，隅が若干丸められた長方形で，主軸はほぼ北西－南東方向である。主軸方向は233cm，短軸方向は94cmで，最大深さは41cmである。埋土は２層に分層でき，上層がアカホヤブロックと池田降下軽石を含む茶褐色土，下層がやや大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土である。

土坑11号（第222図）

Ｃ－31区のⅣ層上面で検出された。形状は，方形のものが２基並んだような状況を呈する。西側が先に作られ，直ぐに東側のものが作られている。主軸方向はほぼ東西方向であるが，東側のものは幾分南側に振れているとともに，東側が若干深くなっている。埋土は４層に分層でき，それぞれ微妙に異なった状況を呈している。

土坑12号（第223図）

Ｃ－32区のⅣ層上面で検出された。形状は不整形と言える。ほぼ東西方向に主軸を持っている。長軸方向152cm，短軸方向82cm，最大深さは50cmである。埋土は２層に分層でき，上層はアカホヤブロックと池田降下軽石を含む茶褐色土，一部に大きなアカホヤブロックと池田降下軽石を含む茶褐色土である。

土坑13号（第223図）

Ｄ－32区のⅣ層上面で検出された。形状は不整形で，主軸方向は北東－南西に取っている。長軸方向が96cm，短軸方向は70cmで，最大深さは46cmである。埋土は２層に分層でき，上層はアカホヤブロックと池田降下軽石を含む茶褐色土，下層はやや小さいアカホヤブロックを含む赤黒土である。

土坑14号（第223図）

Ｅ－29区のⅣ層上面で検出された。ほぼ南北方向に主軸を取っており，北側は撹乱により端部が不明である。形状は細長い楕円形と考えられる。長径は182cm以上，短径は80cmで，最大深さは32cmであるが南側に２基のピット状の掘り込みを持つ。埋土は３層に分層でき，上層ではアカホヤブロックと池田降下軽石が見られ，中層ではアカホヤブロックが散在している。

土坑15号（第223図）

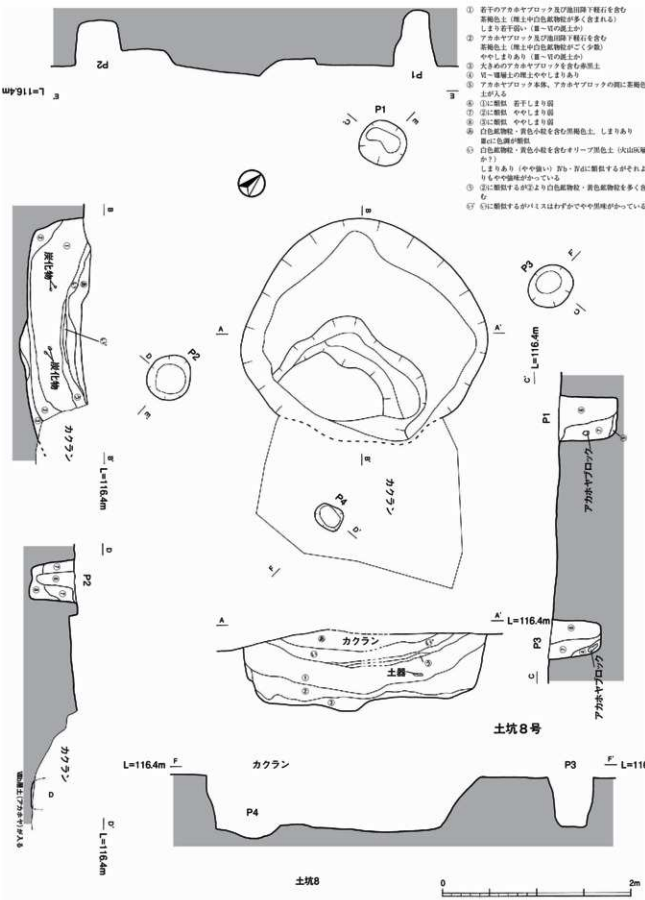
Ｅ－32区のⅣ層上面で検出された。形状は円形である。長径75cm，短径74cmで，最大深さは14cmである。埋土は２層に分層でき，何れも締まりがある。

土坑16号（第224図）

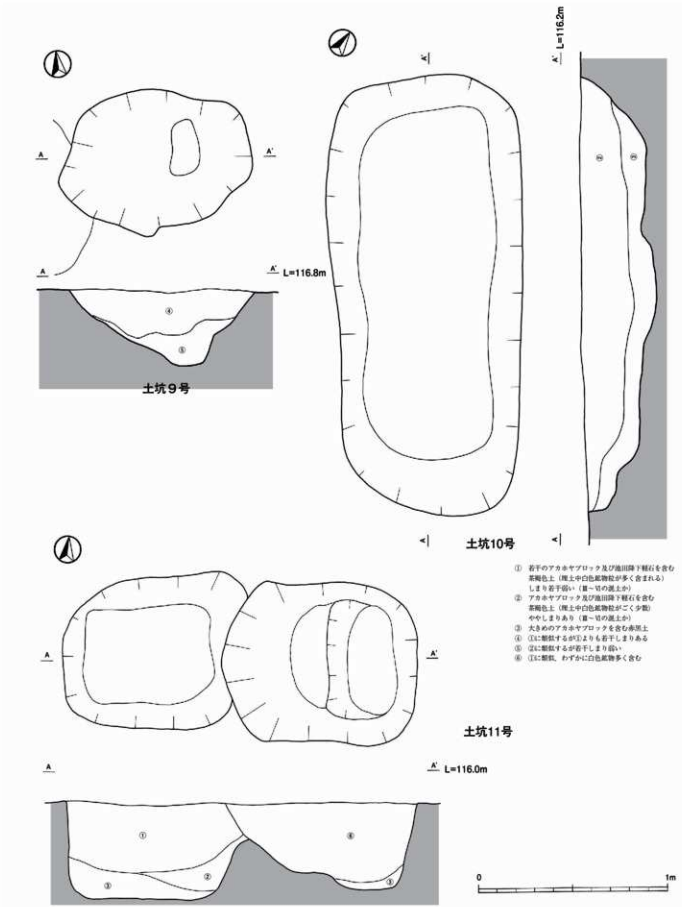
Ｅ－29区のⅣ層上面で検出された。形状は不整形で，長軸方向が82cm，短軸方向は81cmで，最大深さは36cmである。埋土は２層に分層でき，上層にはアカホヤブロックと池田降下軽石，下層にはアカホヤブロックが混在している。

土坑17号（第224図）

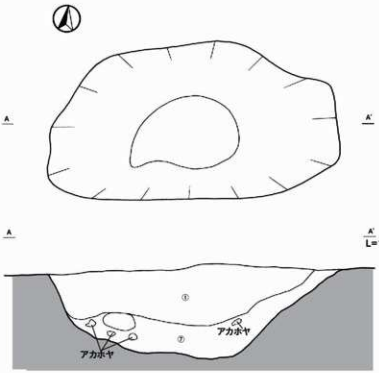
Ｅ－29区のⅣ層上面で検出された。形状は不整形で，２基の土坑が東西方向に並んだような形となっている。主軸はほぼ東西に取っており，東側の土坑を掘ったあとに西側の土坑をより深く掘って作ったようになっている。埋土は４層に分層できるが，基本的な埋土よりも締まりが弱いようである。


① 若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色鉱物粒が多く含まれる）
しまり若干弱い（第一層の流土か）
② アカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色鉱物粒がごく少数）
ややしまりあり（第一層の流土か）
③ 大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土
④ 層ー壁層土の埋土ややしまりあり
⑤ アカホヤブロック本体、アカホヤブロックの間に茶褐色土が入る
⑥ ①に類似　若干しまり弱
⑦ ②に類似　ややしまり弱
⑧ ③に類似　ややしまり弱
⑨ 白色鉱物粒・黄色小粒を含む黒褐色土、しまりあり
裏ぼ色調が類似
⑤' 白色鉱物粒・黄色小粒を含むオリーブ黒色土（火山灰層か？）
しまりあり（やや強い）ガラ・ガ山に類似するがそれよりもやや強味がかっている
⑤ ②に類似するが②より白色鉱物粒・黄色鉱物粒を多く含む
⑤' ⑤に類似するがパミスはわずかでやや黒味がかっている
P1
P2
P3
P4
L=116.4m
カクラン
土器
アカホヤブロック
土坑８号
土坑8
0
2m

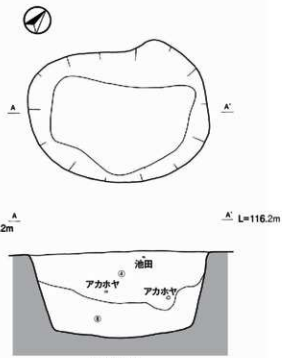
第221図　土坑５


A
A'
L=116.8m
④
⑤
土坑９号
L=116.2m
⑥
⑦
土坑10号
① 若干のアカホヤブロック及び造田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色鉱物粒が多く含まれる）
しまり若干弱い（第一切の流土か）
② アカホヤブロック及び造田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色鉱物粒がごく少数）
ややしまりあり（第一切の流土か）
③ 大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土
④ ①に類似するが①よりも若干しまりある
⑤ ②に類似するが若干しまり弱い
⑥ ①に類似、わずかに白色鉱物多く含む
土坑11号
L=116.0m
①
②
③
⑥
0
1m

第222図　土坑６

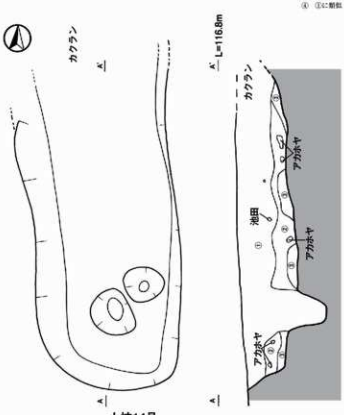


土坑12号

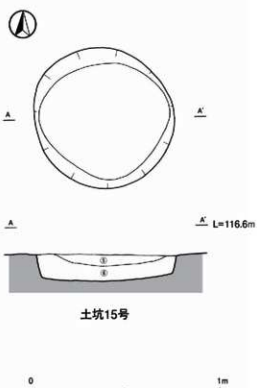


土坑13号

① 若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色鉱物粒が多く含まれる）
しまり若干弱い（第一層の混土か）
② アカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（埋土中白色鉱物粒がごく少数）
ややしまりあり（第一層の混土か）
③ 大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土
④ ③に類似
⑤ ①に類似するが①よりもややしまりあり
⑥ ②に類似するが②よりも若干しまりあり
⑦ ②に類似するが一部に②よりも大きなアカホヤブロックを含む
⑧ ③に類似するが③よりもアカホヤブロックが小さい（幅5mm～3mm程度）③よりもしまり弱い



土坑14号



土坑15号

第223図　土坑７

土坑18号（第224図）

F－27区から検出されたが，検出面は不明である。形状は円形と言えるが，掘り方の上面から50cmほどのところで15cmほど外側に広げて掘っているところが特徴的である。長径92cm，短径が68cmで，最大深さは195cmである。埋土は複雑で，下部は６層に分層でき，宙水状になっていることから時間をかけてゆっくり埋まったと考えられるのに対して，それより上部は一気に埋められたように感じられる。更に南側から約80cmほどが後に掘られた上で埋められているようである。壁には大きく分類すると２種類の工具痕が顕著に残っている。本遺跡のほかの土坑と比較すると桁違いに深いことから，落とし穴の可能性も考えられる。

土坑19号（第225図）

F－16区のⅥ層上面で検出された。形状は不整形と呼ぶ方がふさわしいと思われる。主軸は東側がやや南側に振れた東西方向である。長軸方向が98cm，短軸方向は81cmで，最大深さは９cmである。埋土は３層に分層できるが，細かくブロック状に埋まっているように感じられる。

土坑20号（第225図）

F－17区で検出された。検出面はⅢ層で，平面形は円形に近い。長径98cm，短径88cm，検出面から床面までの深さは約８cmである。１号土坑周辺はトレンチャーの削平を受けておらず，上からの検出が可能であった。遺構内埋土は黒褐色土が多く堆積しているが，遺構上面には灰色砂質土がブロック状に堆積している。土坑内からは遺物の出土は見られなかった。

土坑21号（第225図）

F－15区で検出された。検出面はⅥ層上面で，平面形は楕円形である。長径121cm，短径58cm，検出面から床面までの深さは約８cmである。２号は東側が調査区外であったため，全体の詳細は明確でないが，調査区外となる壁を精査したところ，検出面より20cm程度上に遺構の掘り込みラインがあることがわかった。遺構内埋土は一様で，灰色砂質土である。土坑内からは遺物の出土は見られなかった。

土坑22号（第225図）

A・B－22区で検出されたが，検出面は不明である。形状はややいびつではあるが方形と言って良いであろう。主軸方向はほぼ東西方向である。長軸方向が134cm，短軸方向は127cmで，最大深さは15cmである。埋土は１層で，Ⅲｃ層に類似しており，池田降下軽石と白色粒を含んでおり，粘性と締まりが幾分あり，黒褐色土である。

土坑23号（第225図）

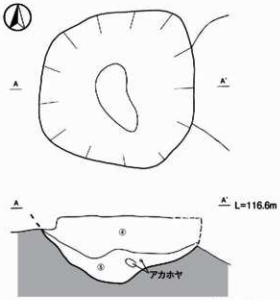
D－21区のⅢ層上面で検出された。形状は楕円形で，長軸方向は北東－南西方向である。長径は79cm，短径は45cmで，最大深さは10cmである。埋土は１層で，土坑22号と同様である。

土坑24号（第226図）

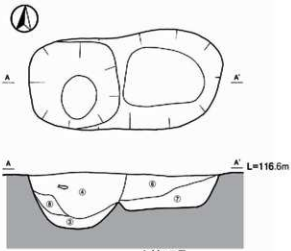
A－11・12区から検出された。検出面はⅥ層上面で，平面形は東西に広がる長楕円形である。長径176cm，短径68cm，検出面から床面までの深さは，最深部分で約23cmである。４号はゴボウのトレンチャーの影響を受けており，縦横にトレンチャーが走っていた。そのため，Ⅵ層よりも上面で遺構を確認したが，遺構の平面形をつかむことができず，Ⅵ層まで下げての検出となった。遺構内埋土は上面には硬質黒色土，下面には黄色パミスの混ざりが見られる黒色土が堆積している。また，遺構内南西側からは土器が集中して出土している。

土坑25号（第226図）

B－13区で検出されたが，検出面は不明である。形状は細かな凹凸の激しい不整形で，長軸方向はほぼ東西方向である。長軸方向は89cm，短軸方向は72cm，最大深さは10cmである。埋土は１層で，白い極小粒を含む黒色砂質土である。内部から土器が出土した。



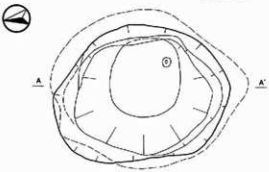
土坑16号



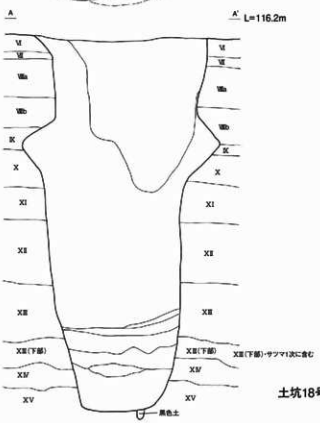
土坑17号

① 若干のアカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（現土中白色鉱物粒が多く含まれる）
しまり若干弱い（第一切の混土か）
② アカホヤブロック及び池田降下軽石を含む
茶褐色土（現土中白色鉱物粒がごく少数）
ややしまりあり（第一切の混土か）
③ 大きめのアカホヤブロックを含む赤黒土
④ ①に類似するが①よりも若干しまり弱い
⑤ ②に類似するが②よりも若干しまりあり
⑥ ②に類似するが②よりも若干しまり弱い
⑦ Ⅵ～Ⅶ層土類似ブロックがしまりあり

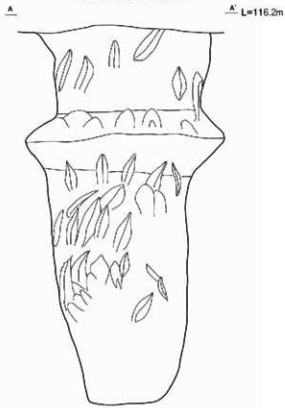
0　1m



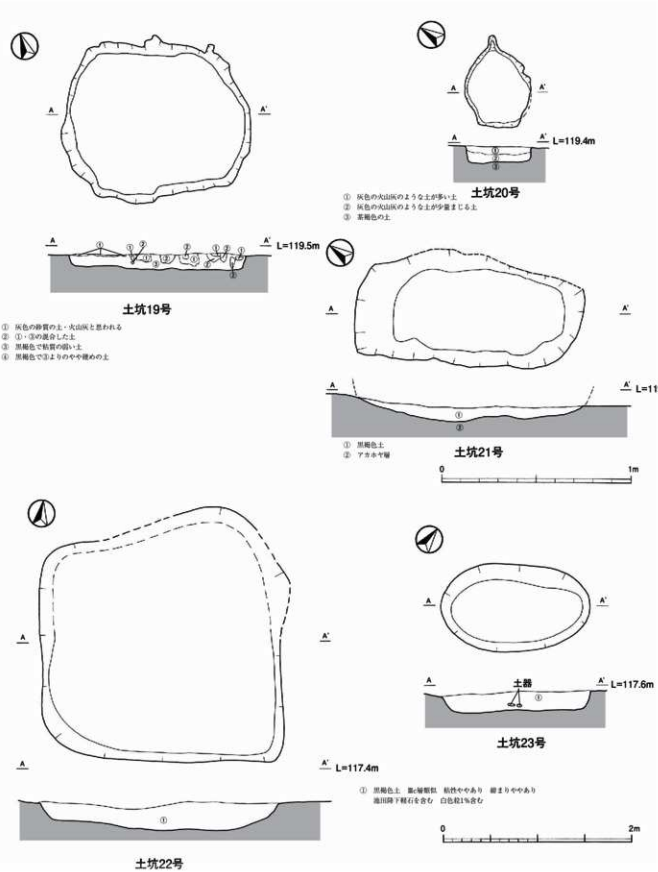
工具痕跡見通し断面図



土坑18号



第224図　土坑８



土坑19号

① 灰色の砂質の土・火山灰と思われる
② ①・③の混合した土
③ 黒褐色で粘質の弱い土
④ 黒褐色で③よりのやや硬めの土

土坑20号

① 灰色の火山灰のような土が多い土
② 灰色の火山灰のような土が少量まじる土
③ 茶褐色の土

土坑21号

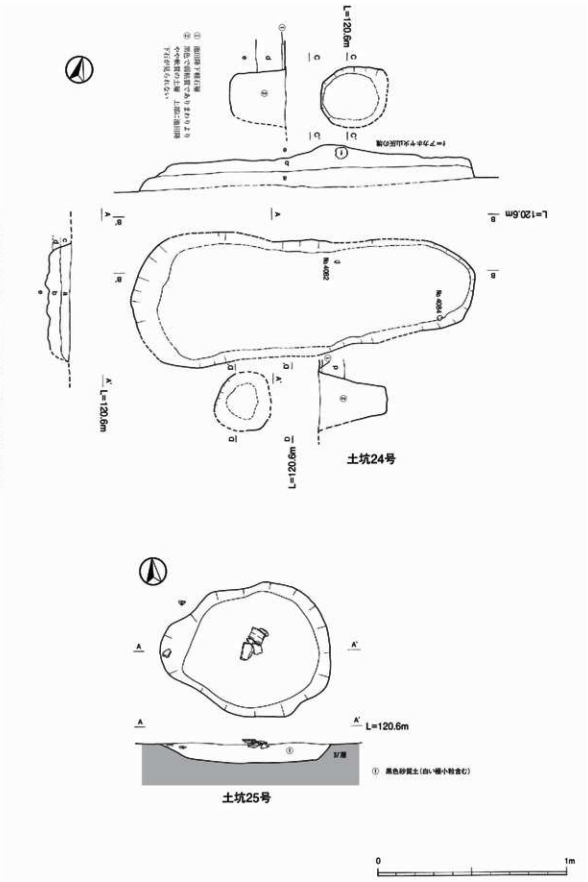
① 黒褐色土
② アカホヤ層

土坑22号

① 黒褐色土　黒ぼ層類似　粘性ややあり　締まりややあり
地山降下軽石を含む　白色粒1%含む

土坑23号

第225図　土坑９



第226図　土坑10

土坑出土遺物（第227図～第237図）

1237～1248は土坑3号から出土したものである。1237は大型の甕形土器の口縁部で，口縁部及び突帯も厚く短い。1238と1239は甕形土器の口縁部で，1238は口縁部下に3条の三角突帯が巡っている。1241は大型の壺形土器の口縁部で，口縁部の内面には1条の突起が巡っており，長い頸部の下部には現況で三角突帯が2条巡っている。1243～1245は壺形土器の肩部に付された三角突帯である。1247と1248は壺形土器の底部で，何れも胴部に対して小さめの平底で，内面は2点とも剥離が著しい。

1249～1267は土坑4号から出土したものである。1249は大型の甕形土器の口縁部，1250～1255は甕形土器の口縁部である。口縁部の形状や端部の状況が少しずつ異なっている。1256～1258は胴部に付された突帯で，三角突帯が1条付されている。1259と1260は底部で，何れも充実した脚台となっている。1261と1262は壺形土器の口縁部及び頸部にかけての部分である。1263は頸部で，外面はヘラミガキによって調整が行われている。1264と1265は胴部の突帯で，1264は2条の三角突帯，1265はM字状突帯である。1266と1267は底部で，1266は不安定な平底で，胴部はそれほど膨らまない。1267は安定した平底で，胴部にかけては大きく広がっている。

1268～1286は土坑5号から出土している。1268は大型の甕形土器の口縁部，1269～1275は甕形土器の口縁部である。1276と1277は胴部の三角突帯，1278～1280は充実した脚台の底部である。1281～1285は壺形土器の肩部から胴部に付された突帯で，三角突帯とM字状突帯が見られる。1286は胴部下部から底部にかけての部分で，底部は不安定な平底になると考えられる。

1287～1298は土坑6号から出土したものである。1287～1292は甕形土器の口縁部で，さまざまな形態が見られる。1293～1295は底部で，高さにそれぞれ差異が見られるものの，何れも充実した脚台となっている。1296は壺形土器の頸部に付された1条の三角突帯で，1297は安定した平底となる底部である。1298は鉢形土器の口縁部と考えられ，厚みのある把手を取り付けている。

1299～1321は土坑7号から出土したものである。そのうち，1299～1322は甕形土器である。1299は甕形土器で完形に復元されたものである。胴部に三角突帯が巡っているが，基本的には3条であるものの，あるところでは4条の突帯となっている。これは，1本の粘土紐を回転しながら貼り付けていく際に，水平ではなく左下がりに貼り付けた結果，3条の部分と4条の部分とが表れたものである。1300と1301は甕形土器の完形品及びほぼ完形となるものである。1300は口縁部を厚く短めに作り，胴部はそれほど張らずに低く，底部は短く安定した平底となっている。1301は口縁部の先端にリズムを持つように凹凸を付け，胴部にかけてはすぼまりながら一直線に底部へと向かっている。1302と1304は甕形土器の口縁部で，1304は口縁部が剥離している。1305と1306は小型の甕形土器あるいは鉢形土器の口縁部と考えられる。1307～1310は胴部に付された突帯で，2～3条の三角突帯である。1311と1312は底部であるが，何れも充実した脚台となっているが高さはそれぞれ異なっている。

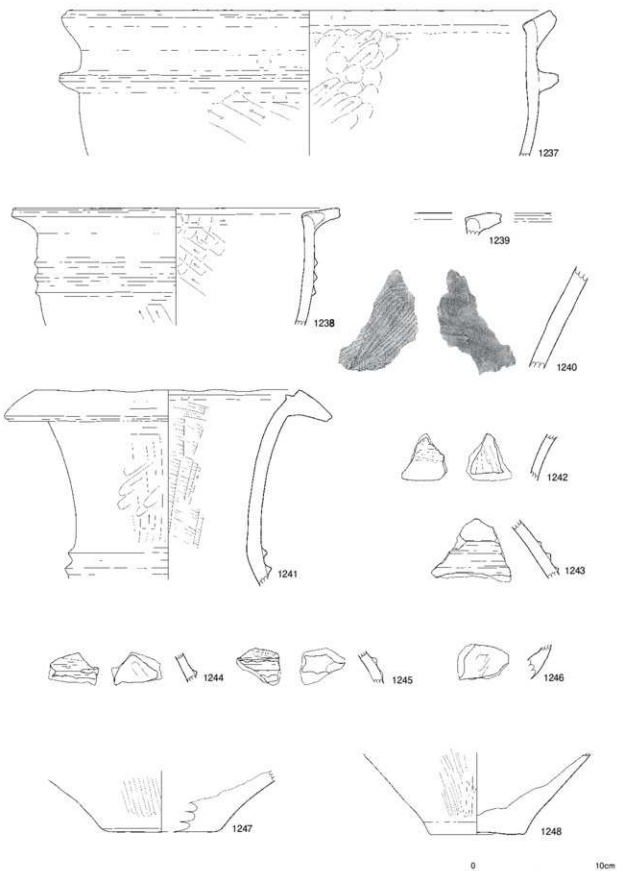
1313～1321は壺形土器である。1313は口縁部を欠くものの，胴部から底部にかけて復元できたものである。胴部が大きく張っている割りに，底部はやや不安定な平底となっている。1314と1315は頸部で，1314は下部に突帯が巡っている。1316と1317は頸部に付された三角突帯で，3条及び2条である。1320と1321は胴部の下部で，やや底部に近い部分であるが，膨らみの状況がそれぞれ異なっている。1322は鉢形土器の口縁部に付された把手で，やや上向きとなっている。

1323～1345は土坑8号から出土したものである。1323～1334は甕形土器の口縁部で，厚さや形状が少しずつ異なっている。1335～1340は胴部に付された突帯で，三角突帯が1～3条見られる。1341～1345は壺形土器で1341と1342が口縁部から頸部にかけて，1343が頸部，1344が胴部に付されたM字状突帯，1345は小さな平底となる底部で，胴部に向けては大きく膨らんでいる。

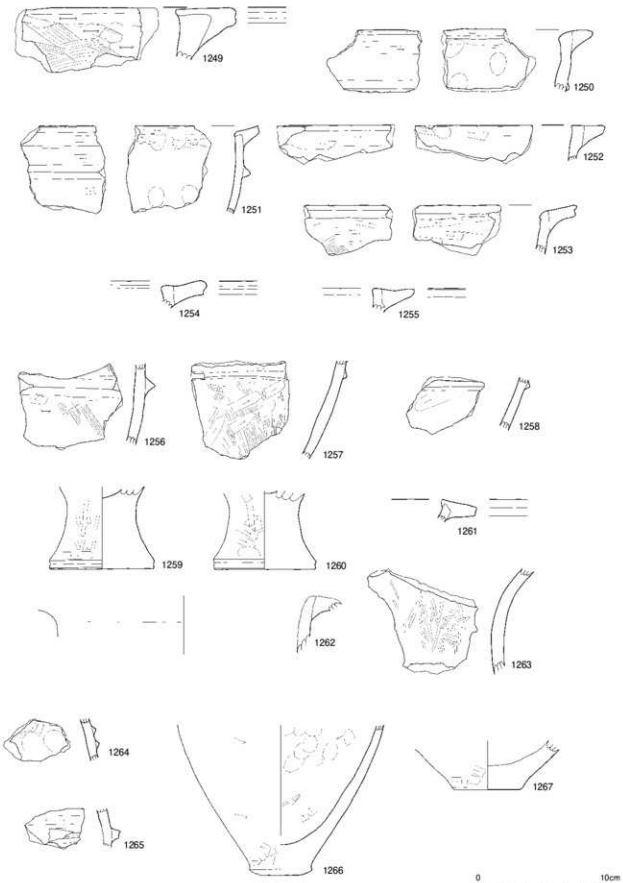
1346～1365は土坑11号から17号までで出土したものである。1346～1351は土坑11号からの出土遺物で，1346～1349は甕形土器の口縁部，胴部，突帯，底部付近であり，1350と1351は壺形土器の頸部及び肩部に付された2条の三角突帯である。1352～1360は土坑12号からの出土遺物で，1352～1356は大型及び一般的な甕形土器の口縁部及び底部で，1357～1360は壺形土器の頸部，肩部の突帯及び底部である。1361は土坑13号出土の壺形土器の底部，1362～1364は土坑14号出土の遺物，1365は土坑17号出土の甕形土器の口縁部である。

1366～1369は土坑24号から出土した甕形土器，1370は土坑25号から出土している鉢形土器で，平成23年度に調査を行い，1371は土坑22号から，1372は土坑23号から出土している甕形土器で，平成25年度調査の結果出土したものである。

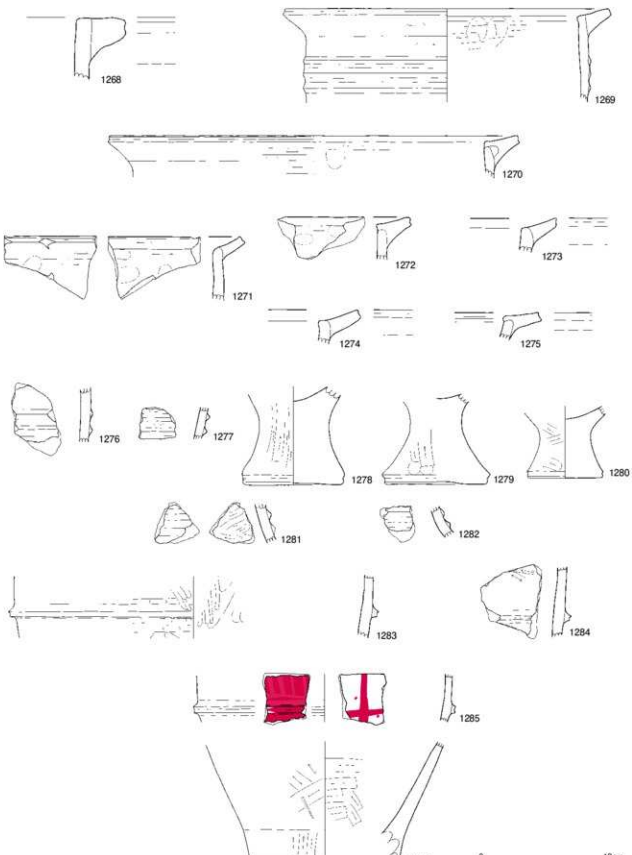
土坑からは1373～1383のように石器や軽石加工品も出土している。1373は基部が若干凹んだ形状の凹基式の打製石鏃で五角形鏃と考えられる。1374～1380は土坑8号からの出土遺物である。1374が磨凹石，1375～1380は平たい円礫の平坦面を磨石として使用したもので，一部が欠けたりひびが入ったりしているものの，企画性を持ったような円礫が一つの土坑内に廃棄（遺棄）されていたものである。1381は先端部を鋒的に整えてあることから楔形石器と考えられる。1382は軽石の加工品。1383は紙石の破損品である。1381～1383は土坑4号から出土している。



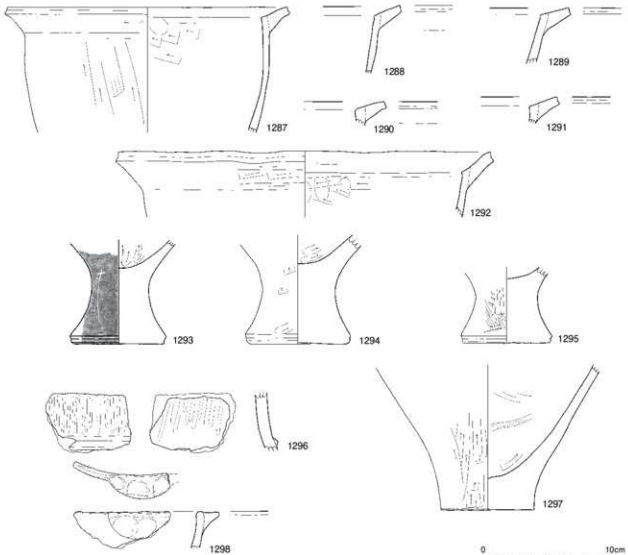
第227図　土坑出土遺物１



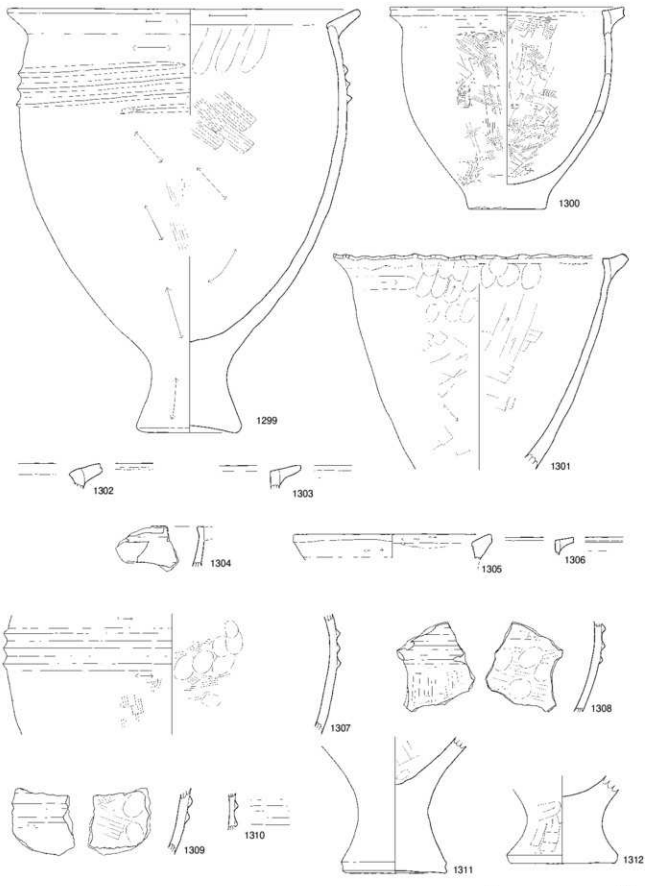
第228図　土坑出土遺物２



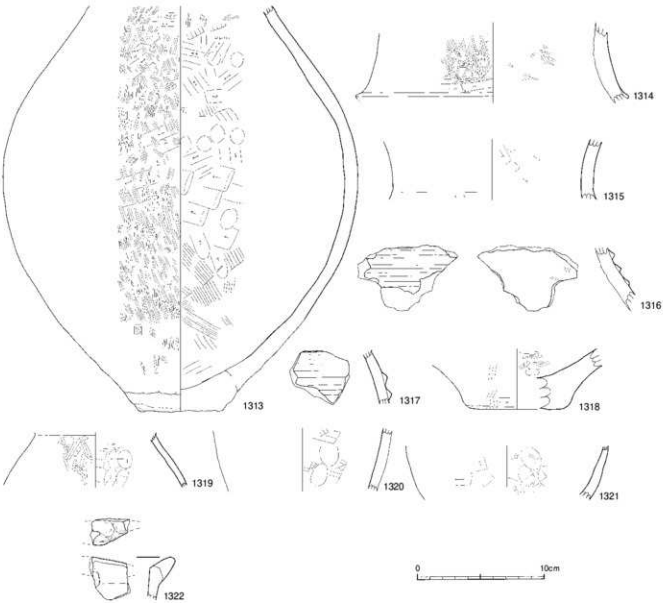
第229図　土坑出土遺物３



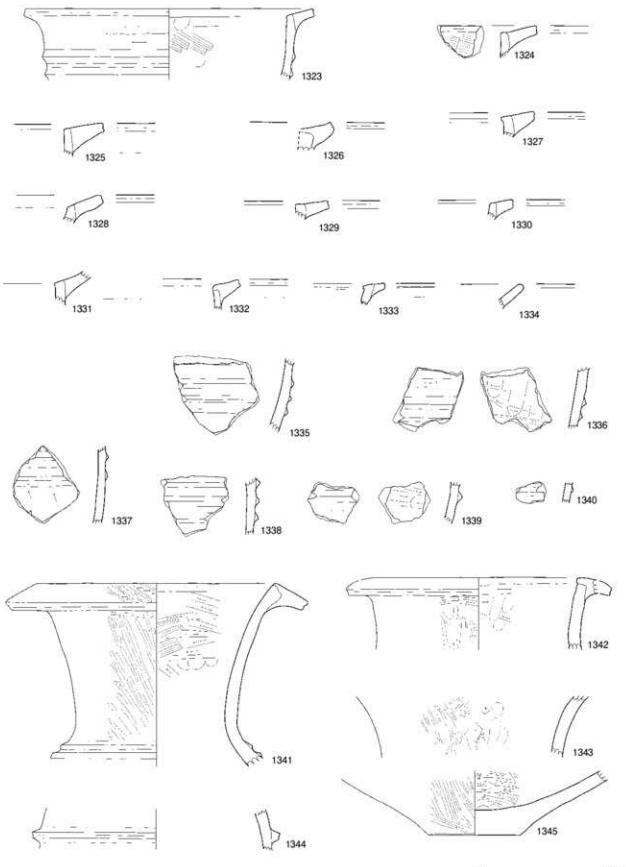
第230図　土坑出土遺物４



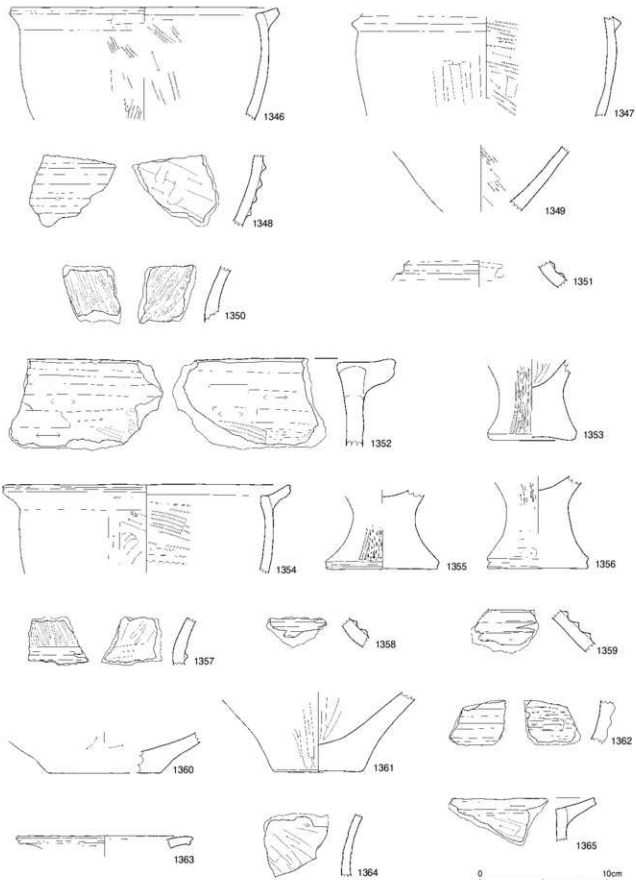
第231図　土坑出土遺物５



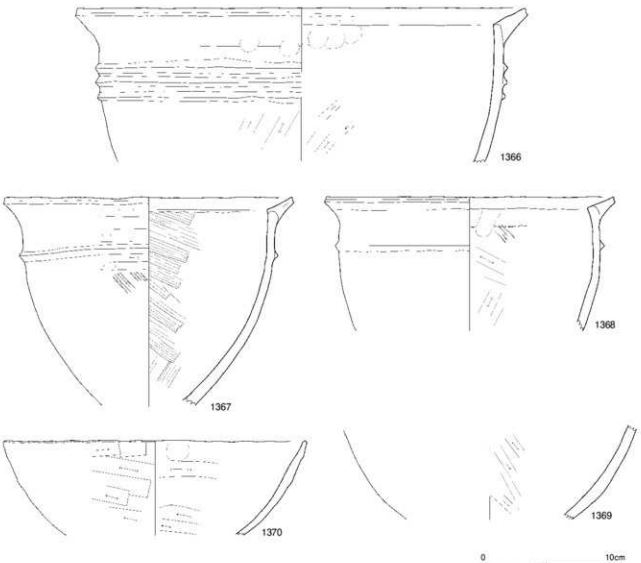
第232図　土坑出土遺物６



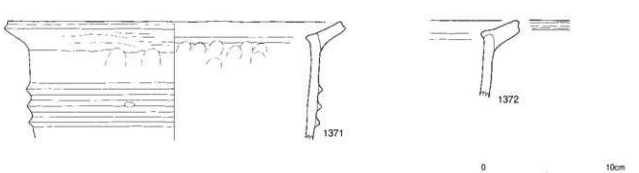
第233図　土坑出土遺物７



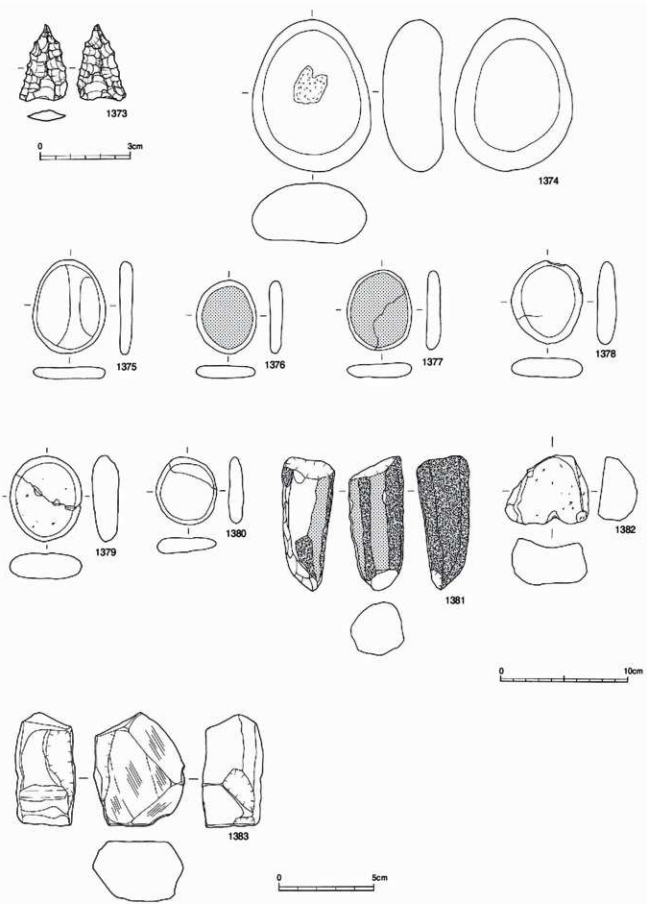
第234図　土坑出土遺物８



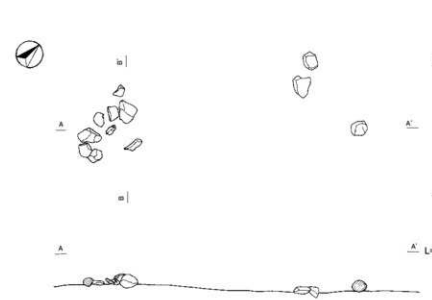
第235図　土坑出土遺物9



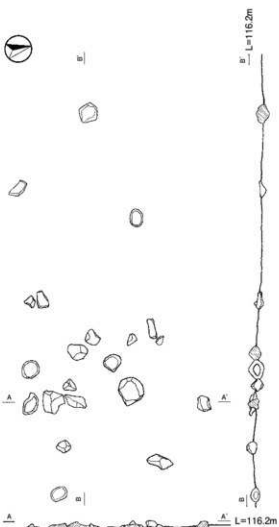
第236図　土坑出土遺物10



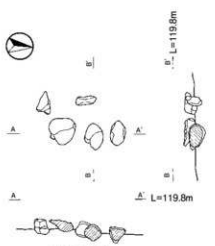
第237図　土坑出土石器



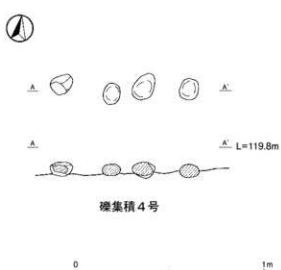
礫集積１号



礫集積２号

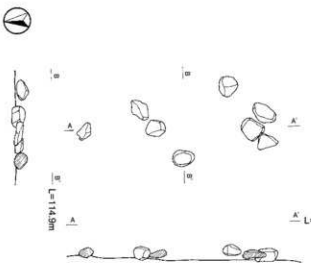


礫集積３号



礫集積４号

第238図　礫集積１



第239図　礫集積２

カ　礫集積（第238図～第240図）

弥生時代の集積遺構は５基検出された。検出面はⅢ層であり，５基とも平面的にある広がりを持って並べられていたことから，遺構と判断した。

礫集積１号（第238図）

C－33区で検出された。検出面はⅢ層で，掘り込みは確認されていない。遺構を構成する石は角礫がほとんどであり，大きさはバラバラである。12個の礫で構成されているが，９個と３個に分かれており，９個の方は45cm×30cmの範囲に強くまとまっているのに対して３個の方は25cm×55cmの範囲で散在していると言える。ただ，レベル的には約10cmの中に収まっており，同一平面上でまとまっている状況である。

礫集積２号（第238図）

B－26区で検出された。検出面はⅣ層で，掘り込みは確認されなかった。遺構を構成する石は角礫が多く，大きさはバラバラである。21個の礫で構成されているが，全体的に約１m×２mの範囲にばらけた形で散在している。レベル的にはすべての礫が約10cmの中に収まっており，礫集積１号と同様，同一平面上でまとまっている。

礫集積３号（第238図）

A－15区で検出された。検出面はⅢ層下面で，掘り込みは確認されていない。遺構を構成する石はすべて円礫であり，磨石として使用されていたものもある。５個の円礫はほぼ東西方向に一直線上に配置されている。また，レベルにも差が無く，礫集積１号と同様に意図的に並べられた可能性が考えられる。

礫集積４号（第238図）

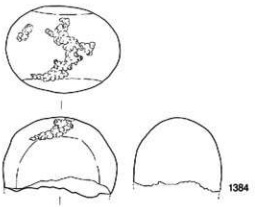
B－14区で検出された。検出面はⅢ層で，掘り込みは確認されていない。遺構を構成する石はすべて礫であり，大きさはバラバラである。４個の礫は平行に２列になるように配置されていると考えられる。４個の表面上のレベルには差があまりなく，意図的に並べられた可能性も考えられる。

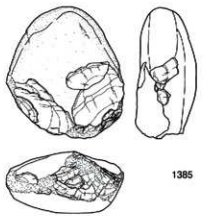
礫集積５号（第239図）

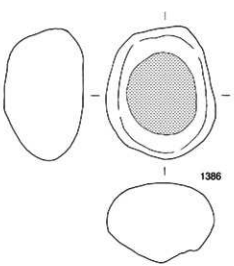
F－44区で検出された。検出面はⅢd層であり，掘り込みは確認されていない。８個の礫で構成され，大きさにそれほどばらつきはない。レベル的には約10cmの中に収まる。

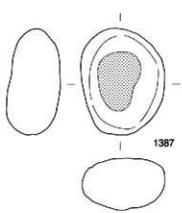
出土遺物（第240図）

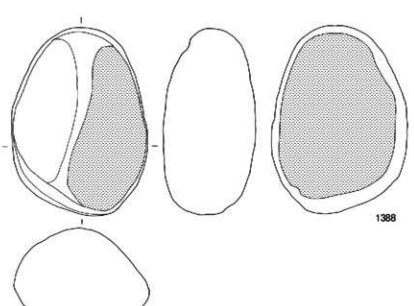
礫集石遺構から出土した石器を掲載した。1384と1385は敲石であり，中でも1385は剥離によって設けた刃部を敲打面としている。1386 ～ 1388は不整形の自然礫を用いた磨石で，平坦な広い面を磨り面としている。











第240図　礫集積出土遺物

キ　ピット（第241図～第246図）

ピットは調査区域のほぼ全面から検出された。特に，12～18区と32～35区からは集中的に検出された。12～18区は径の小さなピットがほとんどであるのに対して，32～35区はそれよりも大きなピットがほとんどであり，対照的である。

現場で掘立柱建物跡とならないか検討してみたが，成立はしなかった。

このように，ピットは多数かつ広域に検出されたことから，西から順に区画毎に提示しておくこととする。

下記は，グリッド毎のピットの数を表したものである。基本的に10m×10mのグリッドの内部に含まれるピットの数を掲載してあるが，2つまたはそれ以上のグリッドにまたがる場合には，次のような方針に則って載せてある。

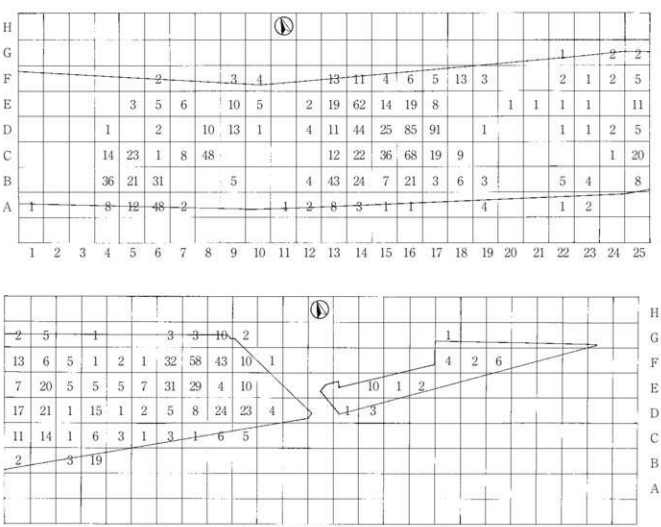
(1) 東西方向（1，2，3・・・の数字）にまたがる場合は，数字の小さい方で算定した。
(2) 南北方向（A，B，C・・・のアルファベット）にまたがる場合は，アルファベットの早い方で算定した。
(3) 3グリッド以上にまたがる場合は，数字の小さい方で，かつ，アルファベットの早い方で算定した。

なお，竪穴住居跡や土坑に伴うピットは，この表からは何れも除外してある。

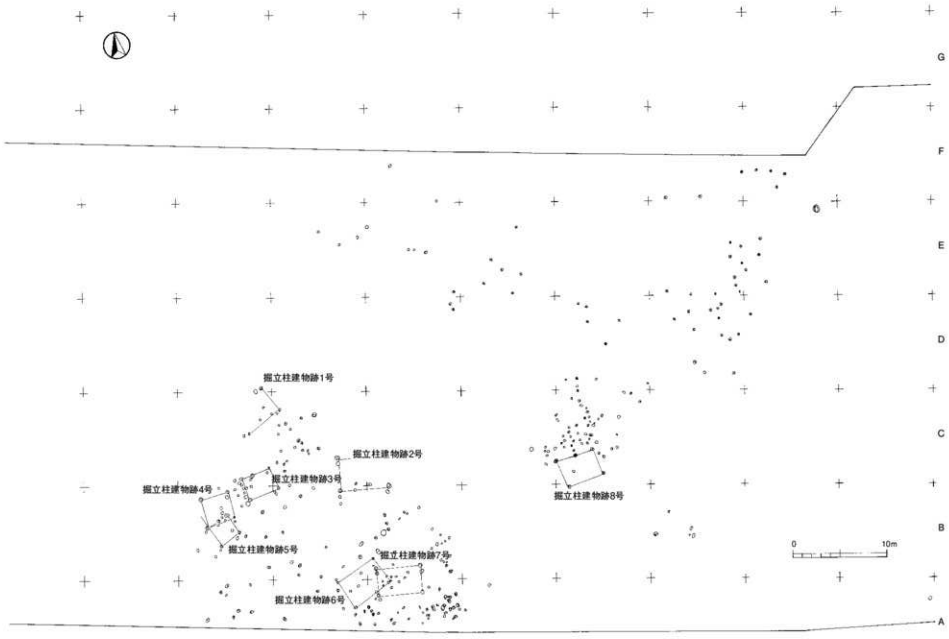
最もピットの数が多いグリッドは，D－17区で91基であり，次いでD－16区の85基，C－16区の68基というように，この区域に多く集まっている状況が観察される。

それに次ぐのはE－14区の62基，F－33区の58基，A－6区とC－8区が48基でそれに次ぎ，D－14区の44基，B－13区とF－34区の43基と続いていく。

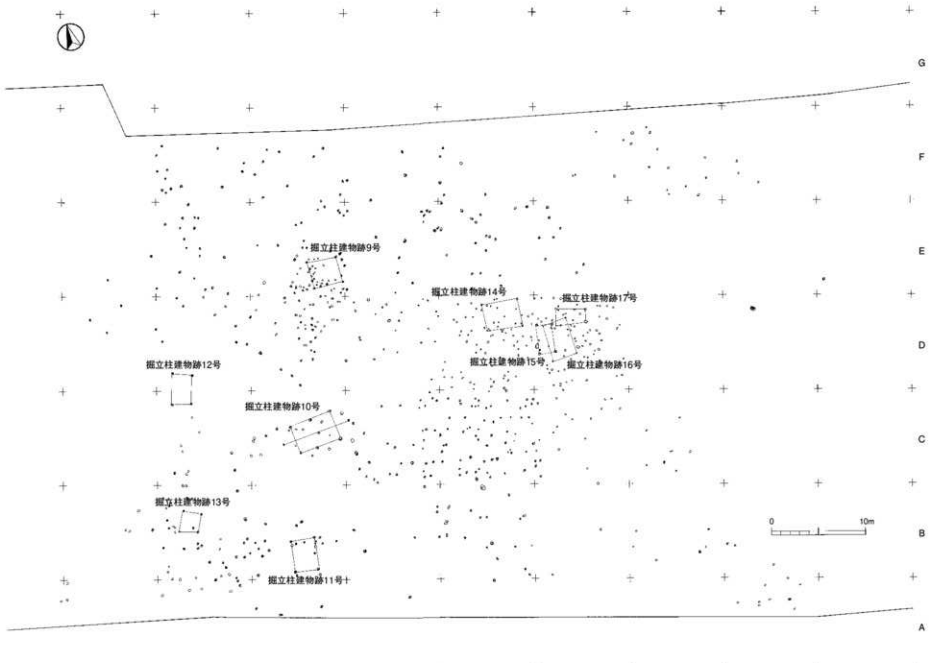
それぞれのピットの規模等については割愛することとする。



第241図　グリッド別ピット数


掘立柱建物跡1号
掘立柱建物跡2号
掘立柱建物跡3号
掘立柱建物跡4号
掘立柱建物跡5号
掘立柱建物跡6号
掘立柱建物跡7号
掘立柱建物跡8号
0
10m
G
F
E
D
C
B
A
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11

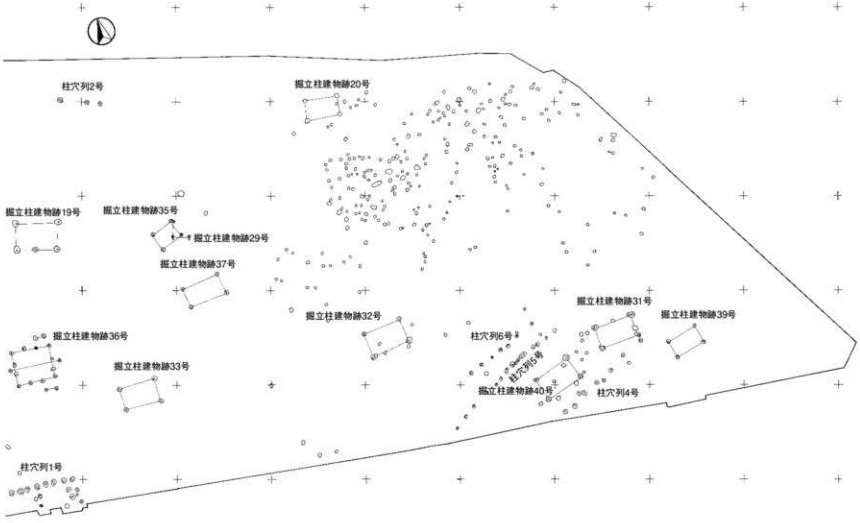
第242図　ピット1


掘立柱建物跡9号
掘立柱建物跡14号
掘立柱建物跡17号
掘立柱建物跡12号
掘立柱建物跡15号
掘立柱建物跡16号
掘立柱建物跡10号
掘立柱建物跡13号
掘立柱建物跡11号
0
10m
G
F
E
D
C
B
A
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

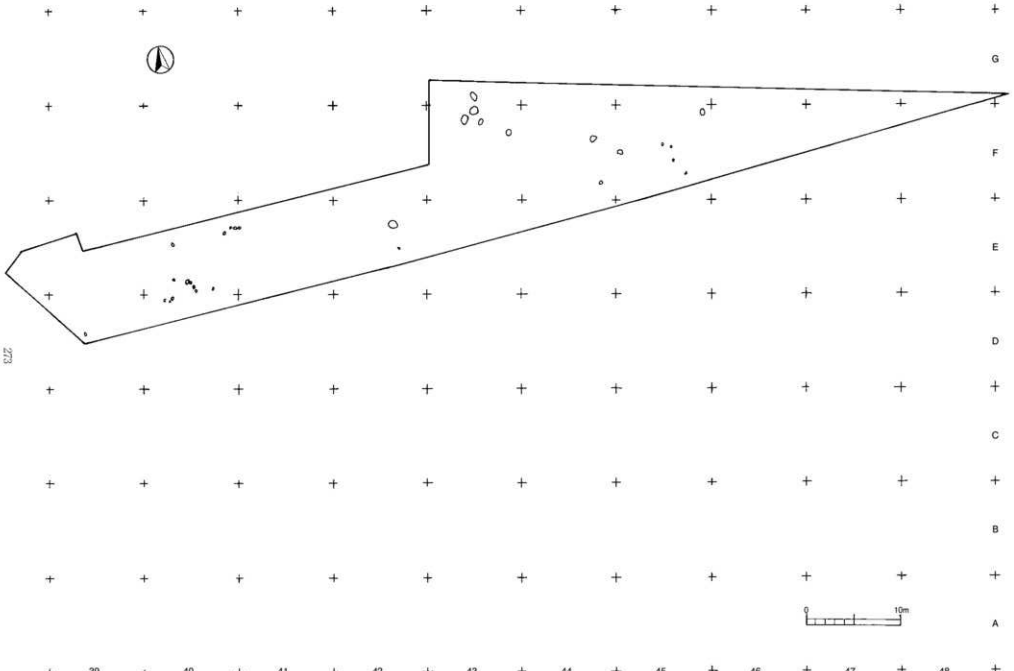
第243図　ピット2

G
F
E
D
C
B
A
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
柱穴列2号
掘立柱建物跡38号
掘立柱建物跡30号
掘立柱建物跡26号
掘立柱建物跡25号
掘立柱建物跡27号
掘立柱建物跡19号
掘立柱建物跡22号
柱穴列3号
掘立柱建物跡34号
掘立柱建物跡36号
掘立柱建物跡28号
掘立柱建物跡21号
掘立柱建物跡18号
掘立柱建物跡24号
掘立柱建物跡23号
柱穴列1号
0
10m

第244図　ピット3


柱穴列2号
掘立柱建物跡20号
掘立柱建物跡19号
掘立柱建物跡35号
掘立柱建物跡29号
掘立柱建物跡37号
掘立柱建物跡32号
掘立柱建物跡31号
掘立柱建物跡39号
掘立柱建物跡36号
掘立柱建物跡33号
柱穴列6号
柱穴列5号
掘立柱建物跡40号
柱穴列4号
柱穴列1号
0
10m
G
F
E
D
C
B
A
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38

第245図　ピット4



第246図　ピット5

第５表　弥生　竪穴住居跡計測表

号	検出区	検出面	形　状	主軸方向	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主柱穴数	内部柱穴数	外部柱穴数	貼り床	面積㎡	備　考
1	C-9	Ⅵ層上面	方形ベッド	N12°E	459	432	26	2	11	0		19.20	遺物残存
2	C・D-7	Ⅳ層	花弁型	N57°E	532	470	30		8	0		29.20	中心部遺物多数
3	D-6	Ⅴ層	方形	N72°E	394	360	22	2	7	0		15.20	遺物残存
4	E-8	Ⅵ層上面	方形	N47°E	292	265	12	2	4			6.75	遺物残存
5	B・C-11・12	Ⅵ層上面	方形	EW	360	334	24	2	14	0		(9.70)	土坑1基あり
6	D・E-5・6	－	円形大型	N 1°W	585	560	62	2	4			26.10	遺物残存
7	D-10	－	円形	N44°E	531	350+α	66	2	4	0		(16.60)	中心部遺物多数・調査区外
8	C・D-33	Ⅲd層	方形ベッド	N11°W	427	405+α	40	2	2		○	(16.00)	遺物残存・土坑2基
9	D-33	Ⅳ層	方形	N15°W	370	321	22	0	2	0		12.00	
10	C・D-32	Ⅲd層	方形ベッド	N20°W	539	470	64	2	3	0	○	21.90	土坑1基
11	C-30	Ⅳ層	方形ベッド	N 4°W	458	400	52	2	5	0	○	16.40	土坑１基
12	D-31・32	Ⅲd層	円形大型	N50°E	874	756	58	10	10	0	○	50.60	土坑１基
13	D-29・30	Ⅳ層	方形	N10°E	542	530	40	2	4	0	○	25.40	土坑2基
14	E・F-31・32	Ⅳ層	方形ベッド	N10°W	580	516	30	2	3	0	○	27.40	土坑2基
15	F・G-31	Ⅳ層	方形ベッド	N10°W	531	490	35	2	7	0	○	(24.40)	土坑2基・調査区外
16	G-30	Ⅲd層	円形大型	N10°E	531+α	530	24	-	-	0		6.40	土坑1基・調査区外
17	C・D-28・29	Ⅲd層	方形ベッド	N15°W	472	404	42	2	3	0	○	17.20	土坑1基
18	E-25・26	Ⅲd層	方形ベッド	N 3°E	430	405	60	2	2	0	○	16.50	土坑1基・遺物残存
19	C-25・26	Ⅳ層	方形	N 2°W	394	276	55	2	5	0	○	12.80	土坑1基
20	B-25	Ⅳ層	方形ベッド	N13°W	298	218+α	72	1	4	0	○	(17.30)	土坑1基・調査区外
21	B・C-27・28	Ⅳ層	円形大型花弁	NS	815	530+α	40	7+α	11	0	○	(33.40)	土坑1基・調査区外
22	E-34	Ⅲd層	方形ベッド	N 9°W	410	398	70	2	5	0	○	15.90	土坑6基
23	G-28	Ⅲd層	方形ベッド	N13°E	516	98+α	57	0	0	0	○	(3.60)	土坑1基
24	C・D-27・28	Ⅳ層	方形	N14°W	690	620	52	4	15	0	○	36.80	
25	D・E-34・35	Ⅲd層	方形ベッド	N 4°W	528	503	48	2	2	0	○	22.50	土坑1基
26	D-27・28	Ⅳ層	方形	N 4°E	592	558	26	2	8	0	○	28.50	土坑1基
27	B-26	Ⅳ層	方形ベッド	N 1°E	408	120+α	38	－	4	0		(4.80)	調査区外
28	C・D-36	Ⅲd層	方形	N 4°W	358	207+α	25	－	2	0	○	(6.30)	調査区外
29	C・D-35・36	Ⅳ層	方形ベッド	N 4°W	419	240+α	29	2	3	0	○	(8.70)	調査区外
30	E-35・36	Ⅲd層	方形ベッド	N	485	483	43	2	3	0	○	20.10	土坑1基
31	B-22	Ⅵ層	方形ベッド	N 7°W	499	496	58	2	4	0	○	22.50	土坑1基

第６表　方形・円形周溝計測表

号	検出区	検出面層	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	最大幅(cm)	最大深(cm)	残存形状	備　考
方形	C・D-30・31	Ⅳ層	方形	720	470	116	12	長方形	周溝から遺物出土.ドット図と重ねる
円形１	D-34	－	円形	408	249	45	21	半円形	25号住居の後につくる
円形２	F-29	Ⅳ層	円形	520	230	65	51	半円形	
円形３	E-33	－	円形	415	345	40	63	二重円形	外側2方向に半円形の周溝あり
円形４	E-33	Ⅳ層	円形	445	235	38	36	半円形	
円形５	D-26	－	円形	330	305	34	15	円形	
円形６	C-33	－	円形	225	75	48	15	半円形	8号住が新しい
円形７	E-35	－	円形	441	390	80	69	円形	
円形８	E-31	Ⅵ層	円形	205	75	35	5	1/3 円形	
円形９	D-35・36	Ⅳ層	円形	351	335	45	30	2/3 円形	
円形10	C-36	－	円形	346	125	85	111	円形？	用地外へ
円形11	B-23	－	円形	430	170	42	86	半円形	道路下にもぐる

第7表　掘立柱建物跡計測表-1

1号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	C・D-4・5	Ⅶa層	N25°W	12.2	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	40		30		50
2	22		22		40
3	23		20		39

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	294	2～3	416

2号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	B・C-5・6	Ⅶa層	N7°E	17.5	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	49		47		18
2	58		52		34
3	43		38		50

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～3	344	2～3	510

3号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	B・C-4・5	Ⅶa層	N9°W	8.0	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	48		28		41
2	38		38		24
3	30		26		26
4	34		34		32
5	46		42		31
6	30		26		24

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～5	246	1～3	320
1～6	110	1～2	122
5～6	135	2～3	198
		4～5	326

4号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	B-4		N87°W	9.4	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	48		37		-
2	32		32		76
3	27		24		32
4	44		30		37

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
2～3	270	1～2	290
1～4	310	3～4	304

5号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	B-4		N69°E	7.3	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	28		24		26
2	40		29		32
3	28		24		27
4	48		42		30
5	30		24		32
6	28		24		38

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～5	230	1～2	235
2～4	228	5～6	320
2～3	136	4～5	226
3～4	92	4～6	94

6号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	A・B-5・6	Ⅶa層	N24°W	14.4	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	24		22		39
2	20		12		45
3	18		14		44
4	30		22		39

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～4	320	1～2	444
2～3	300	3～4	452

7号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	A・B-6	Ⅵ層	N8°E	135.9	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	40		37		45
2	44		38		25
3	40		31		12
4	44		32		35

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～4	288	1～2	470
2～3	283	3～4	472

第7表　掘立柱建物跡計測表-2

8号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	C-8	Ⅶa層	N14°W	117.4	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	48		38		46
2	32		26		27
3	46		32		47
4	38		34		48
5	51		34		38

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～5	301	1～3	390
3～4	286	1～2	202
		2～3	182
		4～5	388

9号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	E-14	Ⅶa層	NS	94.7	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	24		18		40
2	24		18		42
3	25		22		34
4	23		18		34

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
2～3	287	1～2	330
1～4	277	3～4	323

10号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×2	C-14	Ⅵ層	N8°W	14.3	棟持柱
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	56		44		68
2	45		38		27
3	37		30		65
4	37		34		46
5	36		32		23
6	43		32		62

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～6	318	1～3	451
3～4	290	1～2	261
		2～3	190
		4～6	450
		4～5	235
		5～6	234
		棟持柱間 P7～P8	730

11号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	B-14		N86°W	8.8	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	32		24		54
2	24		21		62
3	36		25		60
4	38		13		61

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～4	246	1～2	322
2～3	258	3～4	344

12号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	C·D-13		N75°W	6.9	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	28		27		52
2	28		20		32
3	23		19		49
4	28		22		50

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～4	216	1～2	300
2～3	207	3～4	322

13号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	B-13		N67°W	4.4	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	23		70		31
2	26		23		12
3	25		22		24
4	26		16		48

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～4	200	1～2	220
2～3	188	3～4	192

14号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	D-16		N5°E	11.4	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	22		20		30
2	22		19		32
3	26		24		43
4	19		18		35

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～4	280	1～2	386
2～3	296	3～4	375

第7表　掘立柱建物跡計測表-3

15号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	D-17		N86°E	5.2	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	30		27		36
2	26		24		39
3	30		28		26
4	30		28		43

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～4	158	1～2	298
2～3	170	3～4	307

16号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	D-17		N82°W	7.4	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	35		23		30
2	23		15		22
3	22		16		－
4	20		18		36

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～4	190	1～2	352
2～3	208	3～4	360

17号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	D-17		N15°E	8.6	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	27		25		－
2	36		30		42
3	26		24		
4	28		18		36

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～4	218	1～2	308
2～3	232	3～4	374

18号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	C-26	Ⅳ層	N6°E	8.1	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	57		55		51
2	56		52		56
3	69		59		59
4	53		49		62

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	212	1～3	351
3～4	225	2～4	361

19号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	E-29	Ⅳ層	N11°E	13.0	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	78		68		63
2	69		60		69
3	56		46		23
4	77		66		59
5	73		68		72

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	292	1～5	447
4～5	272	2～3	242
		3～4	402
		2～4	432

20号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	F·G-32	Ⅳ層	NS	7.1	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	43		39		59
2	51		48		52
3	55		44		48
4	55		47		52

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～3	198	1～4	347
2～4	205	2～3	336

21号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
5×4	C·D-26·27	Ⅵ層	N18°W	12.8	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	40		38		31
2	34		26		24
3	44		43		44
4	41		22		42
5	37		30		20
6	26		15		29
7	41		26		21
8	36		26		41
9	45		38		39
10	33		30		21
11	34		29		20
12	29		25		14
13	35		35		34
14	28		22		40

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～12	299	1～5	408
12～13	80	1～2	87
13～14	104	2～3	118
14～1	81	3～4	102
5～8	298	4～5	104
5～6	85	8～12	430
6～7	115	8～9	147
7～8	98	9～10	86
		10～11	100
		11～12	97

第7表　掘立柱建物跡計測表-4

22号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	D-25・26	Ⅵ層	N17°E	7.6	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	50		43		39
2	46		43		27
3	37		36		19
4	44		37		20

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	216	1～3	333
3～4	207	2～4	352

23号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	B-25・26	Ⅳ層	NS	11.6	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	75		68		101
2	70		67		98
3	63		59		49
4	43		40		50

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	253	1～3	459
3～4	275	2～4	440

24号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
4×2	C-27	Ⅵ層	N21°W	12.4	棟持柱
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	25		23		37
2	28		25		38
3	30		24		46
4	30		26		25
5	38		37		45
6	30		26		27
7	30		27		22
8	28		24		21

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～9	302	1～4	398
4～6	287	1～2	146
		2～3	117
		3～4	137
		6～9	412
		6～7	155
		7～8	124
		8～9	136
		棟持柱間 10～5・11	536

25号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
2×1	E-27	Ⅳ層	N82°E	7.6	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	49		45		54
2	54		45		58
3	43		36		39
4	29		28		15
5	40		39		38
6	51		43		52

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～3	249	1～6	283
4～6	268	3～4	281

26号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	E・F-27	Ⅳ層	N86°E	9.7	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	29		27		29
2	35		30		34
3	58		33		38
4	40		31		40

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	264	1～4	372
3～4	249	2～3	368

27号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	E・F-27	Ⅳ層	EW	8.0	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	37		32		28
2	34		33		31
3	46		35		25
4	43		36		46

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	237	1～4	316
3～4	250	2～3	321

28号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	C・D-26・27	Ⅵ層	N1°E	8.6	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	32		27		37
2	48		30		34
3	33		30		34
4	41		36		38

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	210	1～3	375
3～4	230	2～4	374

第7表　掘立柱建物跡計測表-5

29号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	E-30-31	Ⅵ層	N14°E	2.6	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	22		21		16
2	20		15		15
3	21		18		17

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	155	2～3	170

30号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	E·F-28·29	Ⅵ層	N85°W	6.4	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	60		57		40
2	32		24		31
3	64		50		45

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～3	235	1～2	275

31号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	D-35	Ⅳ層	N10°W	8.8	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	62		49		64
2	57		54		50
3	73		44		59
4	64		49		52

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	222	1～3	397
3～4	218	2～4	398

32号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	D-32·33	Ⅳ層	N14°W	10.4	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	46		45		70
2	63		36		22
3	49		40		46
4	55		52		66

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	260	1～3	400
3～4	254	2～4	402

33号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	C·D-30		N3°W	9.1	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	44		41		23
2	41		35		18
3	51		38		32
4	42		36		19

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	226	1～3	387
3～4	235	2～4	381

34	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	D-27	Ⅵ層	N5°W	6.9	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	36		33		30
2	44		19		41
3	46		40		60

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	201	1～4	336
3～4	204	2～3	319

35号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	E-30-31		N24°W	4.8	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	34		33		24
2	35		32		32
3	34		28		23
4	31		29		20

梁方向		桁方向	
柱穴間	距離(cm)	柱穴間	距離(cm)
1～2	193	1～3	246
3～4	186	2～4	249

第7表　掘立柱建物跡計測表-6

36号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
3×3	C·D-29	Ⅵ層	NS	14.1	棟持柱
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	43		33		31
2	39		33		24
3	40		31		36
4	35		30		18
5	33		32		42
6	42		32		26
7	38		34		23
8	51		21		38
9	29		22		37
10	28		26		36
11	26		26		45
12	47		31		31
13	41		32		42
14	27		22		16
15	46		39		28
16	39		27		18
17	21		18		9
18	30		28		17

梁方向	
柱穴間	距離(cm)
1～4	349
1～2	126
2～3	101
3～4	124
7～10	331
7～8	82
8～9	110
9～10	140
棟持柱間 13～14	534

桁方向	
柱穴間	距離(cm)
1～10	404
1～12	137
11～12	130
10～11	139
4～7	345
4～5	137
5～6	127
6～7	140

37号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	D·E-31	Ⅵ層	N13°W	8.7	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	30		25		12
2	39		36		21
3	34		31		25
4	37		29		27

梁方向	
柱穴間	距離(cm)
1～2	206
3～4	212

桁方向	
柱穴間	距離(cm)
1～3	388
2～4	390

38号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	F-28	Ⅵ層	N9° E	3.6	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	35		35		26
2	38		35		29
3	40		36		47
4	31		29		40

梁方向	
柱穴間	距離(cm)
1～2	178
3～4	187

桁方向	
柱穴間	距離(cm)
1～3	159
2～4	193

39号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	D-36	Ⅳ層	N18°W	6.2	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	42		37		41
2	38		35		34
3	30		23		19
4	46		38		16

梁方向	
柱穴間	距離(cm)
1～2	180
3～4	189

桁方向	
柱穴間	距離(cm)
1～3	328
2～4	310

40号	検出区	検出面	方位	面積(㎡)	種類
1×1	C·D-34·35	Ⅵ層	N21°W	10.1	
柱穴番号	長径(cm)		短径(cm)		深さ(cm)
1	41		37		36
2	48		42		33
7	70		57		58
8	52		49		54

梁方向	
柱穴間	距離(cm)
1～2	239
3～4	253

桁方向	
柱穴間	距離(cm)
1～3	391
2～4	400

第８表　柱穴列計測表

＊旧番号は調査の時点

号	検出区	検出面	長軸方向	長さ(cm)	柱穴数	備　考
1	B･C-28･29	Ⅳ層	N89°W	1,300	22	
2	F･G-29･30	－	N75°W	467	3	旧４号
3	D-26･27	－	N66°E	216	3	旧７号
4	D-35	Ⅵ層	N61°E	1,238	9	旧８号
5	C･D-33･34	Ⅵ層	N56°E	1,482	16	旧９号
6	D-34	Ⅵ層	N67°E	858	7	旧10号

第９表　土坑計測表

号	検出区	検出面	形　状	長軸方向	長軸(cm)	短軸(cm)	最大深(cm)	備　考
1	F-25	Ⅳ層	楕円形	EW	83	80	7	
2	F-25	Ⅳ層	楕円形	N 8°E	107	68	9	
3	F-31	Ⅳ層	隅丸方形	N30°W	203	140	80	
4	F-31･32	Ⅳ層	長方形	N80°E	304	187	78	
5	F-32	Ⅳ層	楕円形	N86°E	178	65	50	
6	G-34	Ⅳ層	楕円形	N62°W	155	79	48	
7	E-28	Ⅳ層	楕円形	N47°E	192	85	95	
8	D･E-28･29	Ⅳ層	方形	N 7°W	258	235	83	
9	E-30	Ⅳ層	不整形	N80°E	100	74	39	
10	C･D-32	－	長方形	N32°W	233	94	41	
11	C-31	Ⅳ層	方形	N81°E	190	85	52	
12	C-32	Ⅳ層	不整形	N85°E	152	82	50	
13	D-32	Ⅳ層	不整形	N50°E	96	70	46	
14	E-29	Ⅳ層	楕円形	N 5°W	182+α	80	32	
15	F-32	Ⅳ層	円形	N 3°W	75	74	14	
16	E-29	Ⅳ層	不整形	N80°E	82	81	36	
17	E-29	Ⅳ層	不整形	N84°E	100	48	31	
18	F-27	－	－	N11°E	92	68	195	
19	F-16	Ⅵ層	不整形	N70°W	98	81	9	2201土坑
20	F-17	Ⅲ層	不整形	N59°E	48	32	9	2202土坑
21	F-15	Ⅵ層	楕円形	N30°W	121	58	8	2203土坑
22	A･B-22	－	方形	N 9°W	134	127	15	
23	D-21	Ⅲ層	楕円形	N54°E	79	45	10	
24	A･B-11･12	Ⅵ層	楕円形	N76°E	176	68	23	2308土坑
25	B-13	－	不整形	N87°W	89	72	10	2309土坑

第10表　礫集積計測表

号	検出区	検出面	形　状	長軸方向	長軸(cm)	短軸(cm)	最大厚(cm)	礫　数	備　考
1	C-33	Ⅲ層	集中･散在	N44°E	153.0	54.0	10.0	12	
2	B-26	Ⅳ層	集中･散在	N74°W	210.0	100.0	11.0	21	
3	A-15	Ⅲ層	集中	N82°E	78.0	16.0	9.0	5	
4	B-14	Ⅲ層	列状	N 8°W	47.5	30.0	12.0	4	
5	F-44	Ⅲd層	半集中	N	107.0	47.0	9.0	8	

第11表　縄文土器　観察表-1

挿図番号	掲載番号	出土区	層	器種	部位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 砂粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備考
22	1	C-5	Ⅲ	深鉢	胴部			(2.0)	貝殻条痕	貝殻条痕		○			○		にぶい赤褐	にぶい赤褐	やや不良	1768	曽畑式　幾何学文
	2	C-5	Ⅲ	深鉢	胴部			(1.4)	貝殻条痕	ナデ		○			○		にぶい赤褐	にぶい赤褐	やや不良	1773	曽畑式　幾何学文
	3	F-17・18	XⅠ	深鉢	胴部			(1.7)	貝殻条痕	ナデ	○	○					にぶい黄	にぶい黄	良	一括	曽畑式　幾何学文
	4	C-5	Ⅲ	深鉢	胴部			(1.4)	貝殻条痕	貝殻条痕		○			○		にぶい赤褐	にぶい黄橙	やや不良	1766	曽畑式　幾何学文
	5	C-5	Ⅲ	深鉢	胴部			(2.0)	貝殻条痕	ナデ	○	○					にぶい赤褐	にぶい赤褐	やや不良	1762	曽畑式　幾何学文
	6	C-5	Ⅲ	深鉢	胴部			(2.2)	貝殻条痕	ナデ	○	○					にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	一括	曽畑式　幾何学文
24	10	F-43	Ⅲd	深鉢	口縁部			(4.3)	ナデ	ナデ				○	○		黒褐	黒褐	良	36960	阿高系　凹線文
	11	G-43	Ⅲd	深鉢	口縁部			(4.6)	ナデ	ナデ	○			○			黒褐	黒褐	良	36958	阿高系　凹線文
	12	B-14	Ⅲ	深鉢	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	4043	出水式　沈線文 凹点文　列点文
	13	B-25	Ⅲd	深鉢	口縁部			(2.9)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	21793	(型式不明)
	14	C-27	Ⅳa	深鉢	口縁部			(7.4)	貝殻条痕	貝殻条痕	○				○		暗褐	褐	良	24663	指宿式　沈線文
	15	C-30	Ⅲd	深鉢	口縁部			(7.6)	ナデ	ナデ		○			○		灰黄	灰黄	良	19888	指宿式　沈線文　凹点文
	16	B-16	Ⅲ	深鉢	口縁部			(4.6)	貝殻条痕	貝殻条痕	○				○		暗赤褐	褐	良	2064	指宿式　沈線文
	17	B-16	Ⅲ	深鉢	口縁部			(2.6)	ナデ	ナデ		○				輝石	赤褐	にぶい黄橙	良	2063	指宿式　沈線文
	18	B-24	Ⅲd	深鉢	口縁部			(4.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒	黒褐	良	22918	指宿式　沈線文
	19	F-17	Ⅵ	深鉢	口縁部			(3.7)	ナデ	ナデ		○			O		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	26903	指宿式　沈線文
	20	B-15	Ⅲ	深鉢	胴部			(3.5)	ナデ	ナデ			○	○			橙	橙	良	3645	指宿式　沈線文
	21	C-27	Ⅲd	深鉢	胴部			(8.0)	貝殻条痕	貝殻条痕		○			○		にぶい黄	にぶい褐	良	24608	指宿式　沈線文
	22	B-27	Ⅲd	深鉢	胴部			(8.2)	貝殻条痕	貝殻条痕	○		○				にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	24610	指宿式　沈線文
	23	F-43	Ⅲd	深鉢	口縁部～胴部	18.6		(9.4)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	36973他	鐘崎式　沈線文　凹点文
	24	B-26	Ⅳa	深鉢	口縁部～胴部	30.0		(10.8)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	22843他	鐘崎式　沈線文
	25	D-36	Ⅲd	深鉢	口縁部			(5.3)	ナデ	ナデ	○				○		黒褐	暗褐	良	27652他	鐘崎式　沈線文　凹点文
	26	C-27	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ	○						暗赤褐	明黄褐	良	24491	鐘崎式　沈線文　凹点文
	27	D-36	Ⅲd	深鉢	口縁部			(7.0)	ナデ	ナデ	○				○		黒褐	黒褐	良	27334他	鐘崎式　沈線文　凹点文
	28	B-26	Ⅳa	深鉢	口縁部			(7.4)	ナデ	ナデ	○	○		○			にぶい黄橙	黄褐	良	23578他	鐘崎式　沈線文
	29	-	-	深鉢	口縁部			(3.8)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	19888	鐘崎式　沈線文　竹管文
	30	D-36	Ⅲd	深鉢	口縁部			(3.4)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	27321	鐘崎式　沈線文　竹管文
	31	B-27	Ⅳa	深鉢	胴部			(4.8)	ナデ	ナデ		○			○		暗褐	黄褐	良	25404他	鐘崎式　沈線文　竹管文
	32	B-25	Ⅲd	深鉢	胴部			(4.8)	ナデ	ナデ				○	○		暗褐	橙	良	21731	鐘崎式　沈線文　列点文
	33	B-26	Ⅲd	深鉢	胴部			(4.8)	ナデ	ナデ		○		○			暗褐	にぶい黄褐	良	22920	鐘崎式　沈線文
	34	B-26	Ⅳa	深鉢	胴部			(4.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		明黄褐	橙	良	23334	鐘崎式　沈線文
	35	B-26	Ⅲd	深鉢	胴部			(3.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	にぶい褐	良	22840	鐘崎式　沈線文
25	36	C-29	Ⅲd	深鉢	胴部			(5.5)	ナデ	ナデ	○				○		にぶい赤褐	明褐	良	22241	鐘崎式　沈線文　竹管文
	37	D-36	Ⅲd	深鉢	胴部			(5.3)	ナデ	ナデ	○	○					黒褐	にぶい黄褐	良	27332	鐘崎式　沈線文
	38	C-13	Ⅲd	深鉢	口縁部			(3.9)	貝殻条痕	ナデ	○		○				明黄褐	明黄褐	良	36952	市来式　沈線文　列点文
	39	B-5	Ⅲ	深鉢	口縁部			(4.1)	ナデ	ナデ		○			○		赤褐	明赤褐	良	1750	市来式　爪形刺突文
	40	B-8	Ⅴ	深鉢	口縁部			(8.3)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	5471他	市来式　凹線文 爪形押圧文
	41	B-13	Ⅲ	深鉢	口縁部			(4.7)	貝殻条痕	貝殻条痕	○				○		にぶい褐	にぶい褐	良	2276	市来式　凹線文 貝殻腹縁押圧文
	42	B-25	Ⅲd	深鉢	口縁部			(3.4)	貝殻条痕	貝殻条痕		○			○		橙	橙	良	23447	市来式　貝殻腹縁押圧文
	43	C-33	Ⅲd	深鉢	口縁部			(3.1)	貝殻条痕	貝殻条痕		○			○		赤褐	赤褐	良	19196	市来式　凹線文　刺突文
	44	F-43	Ⅲd	深鉢	口縁部			(2.3)	貝殻条痕	貝殻条痕	○	○					灰褐	灰褐	良	36968	市来式　貝殻腹縁押圧文
	45	B	-	深鉢	口縁部			(1.7)	貝殻条痕	貝殻条痕				○	○		明赤褐	明赤褐	良	一括	市来式　爪形の押圧
	46	B-25	Ⅳa	深鉢	胴部			(7.8)	貝殻条痕	貝殻条痕				○			黄橙	黄橙	良	25784他	市来式
	47	-	-	深鉢	胴部			(13.1)	貝殻条痕	貝殻条痕		○			○		橙	橙	良	一括	市来式
	48	-	-	深鉢	胴部			(4.7)	貝殻条痕	貝殻条痕		○			○		明褐	橙	良	25416他	市来式
	49	C-3	Ⅲ	壁	胴部			(7.6)	ハケ目後ミガキ	ナデ				○	○		橙	褐灰	良	437他	市来式
	50	-	-	深鉢	胴部			(3.1)	貝殻条痕	貝殻条痕		○			○		褐	褐	良	一括	市来式　列点文
	51	C-28	Ⅲb	深鉢	胴部			(7.8)	貝殻条痕	貝殻条痕			○	○			黄橙	黄橙	良	22177	市来式
	52	B-22	-	深鉢	胴部			(2.4)	貝殻条痕	貝殻条痕	○			○			明黄褐	明赤褐	良	31号住居一括	市来式
	53	D-37	Ⅲd	深鉢	口縁部～胴部	31.4		(17.0)	貝殻条痕	貝殻条痕				○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	26887他	丸尾式　沈線文 貝殻腹縁押圧文
	54	D-37	Ⅲd	深鉢	口縁部			(8.0)	貝殻条痕	貝殻条痕				○	○		暗褐	暗褐	良		丸尾式　沈線文
26	55	C-25	Ⅲd	深鉢	口縁部			(3.6)	貝殻条痕	ナデ	○	○		○	○		明赤褐	にぶい赤褐	良	21780	丸尾式　沈線文
	56	B-5	Ⅲ	深鉢	胴部			(3.7)	貝殻条痕	ナデ	○	○		○	○		暗赤褐	赤褐	良	1523	丸尾式　沈線文
	57	B-23	Ⅱ	深鉢	口縁部付近			(4.5)	ナデ	ナデ		○			○		浅黄	黒褐	良	一括	中岳式　沈線文 連点文　凹点文
	58	G-43	Ⅲd	深鉢	胴部			(3.2)	ナデ	ナデ	○				○		黒褐	黒褐	良	36888	中岳式　凹線文　凹点文
	59	G-43	Ⅲd	深鉢	底部		8.9	(8.4)	貝殻条痕	貝殻条痕		○	○				にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	36930他	中岳式
	60	F-43	Ⅲd	深鉢	底部		8.6	(3.5)	ナデ	ナデ		○			○		褐	褐	良	36982	市来式？　網代底
	61	D-36	Ⅲd	深鉢	底部		12.0	(2.8)	ナデ	ナデ		○	○				明褐	明褐	良	27320	市来式　網代底
	62	B-26	Ⅲd	深鉢	底部		9.8	(2.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい褐	明褐	良	22836	市来式　網代底
	63	C-29	Ⅲd	深鉢	底部		10.6	(1.1)	ナデ	ナデ				○	○		明褐	明褐	良	22835	指宿式　網代底
	64	B-26	Ⅲd	深鉢	底部			(2.1)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	明褐	良	22229	市来式　網代底
	65	D-37	カクラン	深鉢	底部		13.2	(1.8)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい褐	にぶい褐	やや不良		
	66	F-43	Ⅲd	深鉢	底部		11.6	(2.7)	貝殻条痕	貝殻条痕				○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	36895	市来式？
	67	A-19	Ⅲ	深鉢	底部		5.6	(1.7)	ナデ	ナデ				○	○		灰黄	灰黄	やや不良	13610	
	68	D-37	Ⅲd	深鉢	底部			(1.8)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	明褐	良	27091	網代底
	69	C-29	Ⅲd	深鉢	底部			(2.1)	ナデ	ナデ	○		○	○	○		明赤褐	明赤褐	良	22224	市来式　網代底
	70	B-25	Ⅳa	深鉢	底部		6.0	(6.1)	貝殻条痕	貝殻条痕		○				輝石	黄橙	黄橙	良	22413他	市来式
	71	B-17	Ⅲ	台付鉢型土器	脚部		9.0	(5.0)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい褐	にぶい褐	良	4653	網代底
	72	B-5	Ⅲ	深鉢	胴部			(4.4)	貝殻条痕	貝殻条痕				○	○		黒褐	黒褐	良	1069	把手
	73	D-36	Ⅲd	深鉢	装飾			(5.1)	ナデ	ナデ				○	○		暗オリーブ褐	暗オリーブ褐	良	26579	把手
	74	B-18	Ⅲ	深鉢	装飾			(3.2)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	13709	把手　貝殻腹縁押圧文
27	75	A-15	Ⅲ	深鉢	口縁部			(7.5)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	4606他	微隆起線文
	76	D-29	Ⅲb	深鉢	口縁部			(5.2)	ナデ	ナデ	○	○		○			にぶい褐	橙	良	21180	
	77	D-28	Ⅲd	深鉢	口縁部			(3.5)	ナデ	ナデ		○			○		明赤褐	明赤褐	良	25896	
	78	B-18	Ⅲ	深鉢	口縁部			(5.1)	指頭圧痕ナデ	指頭圧痕ナデ		○		○			灰黄	灰黄	良	2824	
	79	G-43	Ⅲd	深鉢	口縁部			(3.9)	ナデ	ナデ	○				○		にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	36885	
	80	D-20	Ⅲc	深鉢	口縁部			(4.3)	ナデ	ナデ			○		○		黒褐	灰黄	良	28714	
	81	F-43	Ⅲa	深鉢	口縁部			(5.0)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	36936	
	82	B-5	Ⅲ	深鉢	口縁部			(2.9)	ナデ	ナデ			○		○		明黄褐	橙	良	1430	

第11表　縄文土器　観察表-2

挿図番号	掲載番号	出土区	層	器種	部位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 砂粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備考
27	83	C-26	Ⅲd	深鉢	胴部			(9.3)	ナデ 条底文	ナデ		○			○		にぶい褐	にぶい黄褐	良	22874他	
	84	D-37	Ⅲd	浅鉢	口縁部	22.0		(3.3)	ミガキ ナデ	ナデ			○				黒褐	黒褐	良	27080	
	85	D-37	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(2.6)	ミガキ	ナデ				○	○		褐	褐	良	27082	
	86	G-43	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(3.4)	ナデ	ナデ		○			○		灰褐	灰褐	良	36879	沈線文
	87	C-31	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(1.7)	ミガキ	ナデ					○		橙	黒	良	20163	沈線文
	88	B-13	Ⅲ	浅鉢	口縁部	15.2		(2.7)	ミガキ	ミガキ			○	○	○		褐	黒褐	良	2313	
	89	B	-	浅鉢	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ			○	○	○		明黄褐	褐灰	良	一括	
	90	-	-	浅鉢	口縁部			(3.1)	ミガキ	ナデ		○			○	輝石	明赤褐	明赤褐	良	23740	沈線文
	91	D-38	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ		○		○			灰黄褐	褐灰	良	26886	沈線文　列点文　渋点文 貝殻腹縁押圧文
	92	B-26	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(2.4)	ミガキ	ミガキ					○		黒褐	黒	良	22842	沈線文
	93	B-25-26	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい黄褐	黄褐	良	21371他	沈線文
	94	C-25	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ	○				○		にぶい黄褐	黄褐	良	一括	沈線文
	95	A-23	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(3.9)	ミガキ ナデ	ナデ					○	輝石	褐	褐灰	良	29471	
	96	B-26	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(2.4)	ミガキ	ミガキ			○	○			にぶい黄橙	灰褐	良	21370	
	97	B-26	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(4.5)	ミガキ	ミガキ	○	○	○	○			橙	にぶい黄橙	良	21337	
	98	B-6	Ⅲ	浅鉢	口縁部			(2.8)	ナデ	ミガキ		○		○	○		明褐	オリーブ褐	良	1277	
	99	B-27	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ	○	○			○		明褐	明褐	良	一括	沈線文
	100	C-26	Ⅲd	浅鉢	胴部			(7.7)	ナデ	ナデ			○	○			明褐	黄褐	良	21714	リボン状突帯
	101	B-16	Ⅲ	浅鉢	胴部			(6.9)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい赤褐	黒	良	2035	
	102	C-27	Ⅲb	浅鉢	胴部			(3.8)	ナデ	ナデ	○		○				明褐	橙	良	21492	リボン状突帯
	103	C-16	Ⅲ	浅鉢	胴部			(5.7)	ナデ	ナデ	○	○		○			明褐	灰黄褐	良	2355	
	104	D-7	Ⅲ	浅鉢	胴部			(3.9)	ミガキ ナデ	ナデ	○			○			明赤褐	褐灰	良	533他	スス付着
28	105	B-23	Ⅲd	浅鉢	胴部			(8.1)	ナデ	ナデ	○	○	○	○			明褐	にぶい黄褐	良	29481他	
	106	C-26	Ⅲb	浅鉢	胴部			(4.1)	ナデ	ナデ		○					褐	褐	良	21291	
	107	B-14	Ⅳ	浅鉢	胴部			(3.7)	ナデ	ナデ					○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	やや不良	3751	
	108	C-2	Ⅲ	浅鉢	胴部			(9.8)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ					○		にぶい赤褐	黒褐	良	115他	外面スス付着
	109	D-17	Ⅲ	浅鉢	胴部			(7.8)	ナデ	ナデ		○	○				明褐	明褐	良	2342他	
	110	D-33	Ⅲd	浅鉢	胴部			(6.2)	ナデ	ナデ					○		橙	にぶい橙	良	20197	
	111	C-17-18	Ⅲ	浅鉢	胴部			(3.3)	ナデ	ナデ	○	○					橙	橙	良	2933他	
	112	C-18	Ⅲ	浅鉢	胴部			(5.5)	ミガキ	ナデ		○		○			黒褐	橙	良	2922他	外面スス付着
	113	B-18	Ⅳ	浅鉢	口縁部	15.0		(3.8)	ミガキ	ミガキ				○	○		黒褐	黒褐	良	3017	
	114	C-26	Ⅳa	浅鉢	口縁部			(3.3)	ミガキ	ミガキ				○	○		褐	褐	良	23386	
	115	F-24	Ⅲd	浅鉢	口縁部	18.0		(4.3)	ミガキ	ミガキ		○		○	○		明黄褐	にぶい黄褐	良	21594	
	116	B-25	Ⅲb	浅鉢	口縁部			(1.6)	ミガキ	ミガキ		○			○		にぶい赤褐	灰褐	良	一括	
	117	C-6	-	浅鉢	口縁部			(1.5)	ミガキ	ミガキ					○		にぶい黄橙	褐灰	良	一括	
	118	C-24	Ⅲb	浅鉢	口縁部～胴部	11.4		(3.5)	ミガキ	ミガキ	○				○		橙	黒	良	一括	
	119	B-12	Ⅲ	浅鉢	口縁部			(1.8)	ミガキ	ミガキ				○			黒褐	黒	良	2410	
	120	C-4	Ⅲ	浅鉢	口縁部	16.0		(2.9)	ナデ	ナデ				○			にぶい黄褐	黒	良	211	外面スス付着
	121	A-12	Ⅳ	浅鉢	口縁部	15.0		(3.2)	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ		○				輝石	黄褐	黒	良	2489	
	122	B-25	Ⅲb	浅鉢	口縁部	17.0		(2.9)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			明褐	橙	良	21203	
	123	B-15	Ⅲ	浅鉢	口縁部			(4.8)	ミガキ	ミガキ	○			○	○		黒褐	黒褐	良	3659	
	124	B-12	Ⅳ	浅鉢	口縁部			(4.1)	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ	○						にぶい黄	にぶい黄	良	2235	
	125	-	-	浅鉢	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ		○					黄橙	橙	良		
	126	-	-	浅鉢	口縁部			(3.3)	ミガキ	ミガキ		○			○		灰白	灰白	良	一括	
	127	B-17	Ⅲ	浅鉢	口縁部			(3.4)	ミガキ	ミガキ	○						黒褐	褐	良	4672	
	128	D-37	-	浅鉢	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい褐	にぶい褐	良		
	129	B-25	Ⅳa	浅鉢	口縁部	14.6		(3.8)	ナデ	指頭圧痕 ナデ				○	○		明赤褐	明赤褐	良	23378	内面下部工具痕あり
	130	B-14	Ⅳ	浅鉢	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ	○			○	○		にぶい褐	にぶい黄褐	良	3749	
	131	B-6	Ⅲ	浅鉢	口縁部			(3.0)	ナデ	ナデ		○		○			橙	黒褐	良	1575	
29	132	G-43	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(4.3)	ミガキ	ミガキ	○				○		黒褐	黒褐	良	36890他	
	133	C-26	Ⅳa	浅鉢	口縁部			(3.8)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	橙	良	23345	外面スス付着
	134	F-43	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(2.4)	ミガキ	ミガキ	○				○		浅黄	黄灰	良	36918	
	135	B-26	Ⅲb	浅鉢	口縁部			(3.0)	ミガキ	ミガキ					○		にぶい黄橙	暗灰黄	良	21323	
	136	C-26	Ⅲb	浅鉢	口縁部			(5.1)	ナデ	ナデ					○		褐	褐	良	19745	沈線文　外面スス付着
	137	F-43	Ⅲd	浅鉢	口縁部			(2.2)	ミガキ	ミガキ	○	○					黒褐	黒褐	良	36918	
	138	C-2	Ⅲ	浅鉢	口縁部			(5.0)	ナデ	ナデ		○					黒褐	黒褐	良	110	
	139	F-19	XⅠ	浅鉢	口縁部	10.6		(5.4)	ナデ	ナデ				○	○		明褐	灰褐	良	16603	外面スス付着
	140	B-9	Ⅲ	浅鉢	胴部			(3.9)	ミガキ	ミガキ				○		輝石	明赤褐	灰黄褐	良	5032	
	141	B-23	Ⅲd	浅鉢	胴部			(3.7)	ミガキ	ミガキ	○		○	○			黒褐	暗オリーブ褐	良	29367	
	142	C-22	Ⅲc	浅鉢	胴部			(3.8)	ミガキ	ミガキ	○		○				にぶい褐	にぶい褐	良	一括	
	143	-	-	浅鉢	胴部			(3.3)	ミガキ	ミガキ					○		灰黄	にぶい黄	良	一括	沈線文
	144	A-12	-	浅鉢	胴部			(2.4)	ミガキ	ミガキ				○	○		にぶい黄褐	褐灰	良	一括	
	145	E-15	Ⅲ	壺	口縁～胴部	9.0		(3.4)	ミガキ	ミガキ	○		○	○	○		にぶい黄褐	黒褐	良	1904	
	146	C-31	Ⅲd	浅鉢	胴部			(4.8)	ミガキ	指頭圧痕 ミガキ			○		○		黄灰	黒	良	20168他	
	147	C-31	Ⅲd	浅鉢	胴部			(3.1)	ミガキ	ミガキ		○			○		褐灰	にぶい褐	良	20180	
	148	C-26	Ⅲd	深鉢	底部		7.6	(3.8)	ナデ	ナデ	○	○		○			橙	灰黄	良	22873	
	149	E-39	Ⅲd	深鉢	底部		9.2	(2.7)	ナデ	ナデ	○				○		にぶい橙	黄灰	良	33101	
	150	B-17	Ⅲ	深鉢	底部		10.0	(3.4)	ナデ	ナデ	○				○		にぶい褐	黒褐	良	4665他	
	151	C-3	Ⅲ	深鉢	底部付近			(3.4)	ナデ	ナデ		○					赤褐	にぶい橙	良	一括	外面スス付着
	152	D-35	カクラン	深鉢	底部		7.0	(3.0)	指頭圧痕 ナデ	ナデ		○			○		橙	褐灰	良		
	153	D-37	Ⅰ	深鉢	底部		10.4	(3.8)	指頭圧痕 ナデ	ナデ		○			○		明褐	橙	良		
	154	B-15	Ⅲ	深鉢	底部		7.6	(1.2)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい黄	にぶい黄	良	4626	
	155	B-8	Ⅲ	深鉢	底部		12.4	(1.8)	ナデ	ナデ	○	○	○				橙	黄灰	良	1846	
	156	F-34	Ⅲd	深鉢	底部		7.0	(1.9)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	33108	
	157	-	-	深鉢	底部		11.0	(2.1)	ナデ	ナデ	○				○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	一括	
	158	C-5-6	Ⅲ	深鉢	底部		8.4	(2.6)	ナデ	ナデ	○		○				黒	褐	良	1769他	
	159	C-4	Ⅲ	深鉢	底部		7.8	(2.2)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	259	

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-1

挿図番号	掲載番号	遺構	器種	部位	口径	底径	器高	器面調整		胎土						色調		焼成	取上番号	備考
					cm	cm	cm	外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	砂粒	その他	外面	内面			
33	160	1号	甕	底部		6.7	(5.5)	ハケ目・ナデ	ナデ	○	○	○	○		小礫	にぶい黄褐	にぶい赤褐	良	1他	
	161	1号	壺	側部～底部		6.8	(12.8)	剥離	ナデ	○	○	○			輝石	橙	橙	不良	5他	
	162	1号	小型壺	底部		3.0	(2.2)	ナデ	ナデ	○	○	○	○			灰褐	橙	良	20	
37	163	2号	大甕	口縁部～胴部	57.0		(45.4)	指頭圧痕 ハケ目	指頭圧痕 ハケ目		○		○	○		明黄褐	明黄褐	良	21他	
38	164	2号	大甕	口縁部～胴部	59.0		(30.2)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ	○	○	○	○			にぶい橙	にぶい褐	良	267他	穿孔あり
	165	2号	大甕	口縁部～胴部	52.8		(20.4)	工具ナデ	ハケ目 ミガキ	○	○	○	○		小礫	にぶい橙	にぶい褐	良	208他	
39	166	2号	大甕	口縁部～胴部	56.8		(32.7)	ハケ目後ナデ	ハケ目	○	○	○	○	○		橙	橙	良	414他	
	167	2号	大甕	口縁部			(5.0)	ハケ目・ナデ	摩耗		○		○	○		橙	にぶい黄橙	良	69	
	168	2号	大甕	口縁部～胴部	62.4		(16.6)	ナデ	ハケ目 ミガキ	○	○	○	○	○	輝石	にぶい赤褐	にぶい橙	良	205他	
40	169	2号	大甕	胴部			(39.0)	ハケ目後ナデ	ハケ目	○	○	○	○		小礫 軽石	明褐	明褐	良	22他	
	170	2号	甕	口縁部	45.0		(5.4)	指頭圧痕 ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	にぶい褐	良	61他	
	171	2号	大甕	側部～底部		9.6	(15.4)	ミガキ ハケ目	指頭圧痕 ハケ目	○	○		○	○	玉髄	橙	にぶい褐	良	32他	
41	172	2号	大甕	側部～底部		8.0	(31.6)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ	○	○	○	○	○		橙	橙	良	23049他	
	173	2号	甕	口縁部			(2.9)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	明褐	良	259	
	174	2号	甕	底部		7.0	(6.6)	ナデ	ナデ	○	○	○	○			にぶい褐	にぶい褐	良	318	
	175	2号	甕	底部付近			(5.1)	ナデ	ナデ		○		○	○		黄褐	にぶい黄褐	良	241	
	176	2号	鉢	口縁部～胴部	24.2		(8.7)	ハケ目 ミガキ	指頭圧痕 ハケ目		○		○	○		暗褐	にぶい黄褐	良	252他	
	177	2号	鉢	口縁部～底部	15.2	5.0	(10.1)	ナデ	ナデ後ミガキ	○	○	○	○		小礫	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	262他	
	178	2号	鉢	口縁部～底部	23.5	8.0	(20.7)	ナデ後ミガキ	ハケ目後ミガキ	○	○	○	○		小礫	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	17他	
	179	2号	無頸壺	口縁部～胴部	21.8		(13.9)	ミガキ	ミガキ		○		○	○		黒褐	にぶい黄褐	良	59他	
	180	2号	無頸壺	口縁部	17.0		(3.8)	指頭圧痕 ミガキ・ナデ	指頭圧痕 ナデ	○	○	○	○	○		にぶい橙	にぶい橙	良	297他	
42	181	2号	壺	口縁部	24.2		(9.9)	ナデ後ミガキ	ナデ	○	○	○	○			にぶい褐	にぶい褐	良	36他	
	182	2号	壺	口縁部～頸部	19.0		(7.3)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄褐	灰黄褐	良	333他	
	183	2号	壺	口縁部			(3.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	明黄褐	良	81	
	184	2号	壺	頸部～底部		7.1	(43.0)	ナデ後ミガキ	剥離	○	○	○	○		小礫	にぶい褐	にぶい褐	良	23017他	突帯
	185	2号	壺	肩部			(6.0)	ミガキ	剥離		○		○	○		灰褐	明褐	良	280	突帯
	186	2号	壺	頸部			(7.6)	ミガキ	指頭圧痕		○		○	○		にぶい黄褐	にぶい褐	良	228	
	187	2号	壺	胴部～底部付近			(9.6)	－	ナデ		○		○	○		明赤褐	明黄褐	良	23057	
	188	2号	壺	胴部～底部付近			(7.0)	－	－		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	一括	
	189	2号	壺	胴部			(6.0)	ナデ	ナデ				○	○		橙	橙	良	一括	突帯
	190	2号	壺	胴部			(4.3)	ナデ	ナデ	○	○		○			にぶい黄褐	にぶい褐	良	23042	突帯
	191	2号	壺	胴部			(7.4)	ナデ	ナデ	○	○		○			にぶい橙	にぶい褐	良	23008	突帯
43	192	2号	壺	底部		9.5	(6.3)	ミガキ	ハケ目	○	○	○	○		小礫	にぶい褐	にぶい赤褐	良	一括	
	193	2号	壺	底部		8.6	(8.6)	ミガキ	ナデ	○	○	○	○			にぶい褐	にぶい褐	良	284	
	194	2号	壺	底部		5.6	(6.4)	ナデ	ハケ目後ナデ	○	○	○	○	○	軽石	にぶい褐	にぶい褐	良	52	
	195	2号	壺	底部		7.1	(3.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	にぶい褐	良	114他	
	196	2号	壺	底部		7.4	(5.3)	ミガキ	ナデ	○	○	○	○			暗褐	橙	良	415他	
	197	2号	壺	底部		6.6	(4.3)	指頭圧痕 ハケ目	ハケ目		○		○	○		にぶい黄褐	褐	良	343他	
	198	2号	壺	底部		6.2	(4.7)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	一括	
	199	2号	壺	底部		6.6	(4.4)	ミガキ	ハケ目	○	○	○	○		小礫	褐	明褐	良	404	
	200	2号	台付鉢	完形	22.4	9.0	16.2	－	ナデ後ミガキ	○	○	○	○		輝石 小礫	明黄褐	にぶい黄褐	良	285	突帯
	201	2号	高坏	底部付近			(3.8)	ミガキ	ハケ目		○		○	○		橙	にぶい褐	良	一括	外面丹塗り
45	202	3号	甕	口縁部～胴部	32.0		(8.6)	ハケ目 ナデ	ハケ目		○		○	○		暗褐	明褐	良	75他	突帯
	203	3号	甕	口縁部～胴部			(5.1)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		にぶい橙	にぶい橙	良	23011	
	204	3号	甕	口縁部			(3.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		赤褐	赤褐	良	49	
	205	3号	甕	口縁部～胴部			(6.0)	ナデ	ナデ					○		黒褐	明褐	良	84	突帯　外面スス付着
	206	3号	甕	口縁部～胴部			(9.5)	ナデ	ナデ				○	○		黒褐	明赤褐	良	23021他	外面スス付着
	207	3号	甕	胴部			(11.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	橙	良	50他	突帯 外面全体的にスス付着
	208	3号	甕	胴部			(15.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	橙	良	16他	突帯
	209	3号	甕	胴部			(6.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	23006	突帯
	210	3号	甕	底部		6.8	(7.7)	ハケ目後ナデ	ナデ	○	○	○	○			橙	橙	良	36他	
	211	3号	甕	底部		8.0	(7.5)	ハケ目・ナデ	ナデ	○	○	○	○		小礫	橙	橙	良	27	
	212	3号	甕	底部		7.3	(5.5)	ナデ	ナデ	○	○	○	○			にぶい橙	黒褐	良	23005	
	213	3号	甕	底部		7.6	(2.3)	ナデ	－		○		○	○		明褐	-	良	一括	
	214	3号	甕	口縁部～胴部	26.2		(17.6)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ハケ目・ナデ		○		○	○		褐	明褐	良	23001他	
46	215	3号	壺	口縁部～頸部	19.6		(11.1)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		明褐	にぶい褐	良	23018他	口唇割れの為内径
	216	3号	壺	口縁部	22.0		(2.9)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		橙	にぶい黄橙	良	一括	
	217	3号	壺	口縁部～頸部	21.4		(7.9)	ナデ	ナデ	○	○		○	○	輝石	橙	黄橙	良	83	
	218	3号	壺	口縁部	27.0		(3.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	明赤褐	良	26他	
	219	3号	壺	口縁部	30.8		(4.0)	ナデ	ミガキ・ナデ	○	○	○	○		小礫	にぶい橙	にぶい橙	良	99他	
	220	3号	壺	口縁部～頸部	12.7		(6.1)	ナデ	ハケ目・ナデ	○	○		○	○		明褐	にぶい褐	良	47	
	221	3号	壺	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	明褐	良	5	口唇部刻みあり
	222	3号	壺	頸部～側部			(18.0)	ナデ後ミガキ	指頭圧痕 ナデ		○		○	○		明褐	橙	良	39他	突帯
	223	3号	壺	頸部			(9.4)	ハケ目 ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	29他	
	224	3号	壺	頸部			(5.4)	指頭圧痕 ナデ	剥離		○		○	○		灰黄褐	にぶい褐	良	74	
	225	3号	壺	頸部			(9.2)	ナデ後ミガキ	ナデ		○		○	○		橙	明褐	良	57他	
	226	3号	壺	肩部			(6.5)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	橙	良	23015	突帯
	227	3号	壺	肩部			(3.9)	ミガキ・ナデ	指頭圧痕 ナデ	○	○		○			にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	S.P.D付近	突帯

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-2

遺構番号	掲載番号	遺構	器種	部位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 砂粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備考
47	228	3号	竈	口縁部～胴部	12.6		(9.2)	ナデ	指頭圧痕 ナデ				○	○		褐	暗オリーブ褐	良	87	突帯
	229	3号	竈	脚部～底部		8.0	(10.7)	ナデ後ミガキ	ナデ	○	○	○	○		小礫	明褐	にぶい褐	良	23009他	
	230	3号	竈	底部		8.0	(5.1)	ハケ目後ナデ	ナデ	○	○	○	○		小礫	橙	橙	良	23002	
	231	3号	竈	底部		6.0	(3.9)	ナデ	剥離	○	○	○	○	○		橙	橙	良	70他	
	232	3号	袖坏	底部～脚部			(4.5)	ナデ	ナデ		○	○	○	○		にぶい黄橙	明褐	良	96	
50	233	5号	甕	口縁部～胴部	26.0		(8.3)	指頭圧痕 ハケ目→ナデ	指頭圧痕 ナデ	○			○	○		明褐	黒褐	良	一括	突帯
	234	5号	甕	口縁部～胴部	22.1		(12.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		暗赤褐	暗赤褐	良	38	突帯
	235	5号	甕	口縁部～胴部	25.8		(6.7)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	灰黄褐	良	35	突帯
	236	5号	甕	胴部			(6.2)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい褐	黒褐	良	19	突帯
	237	5号	甕	口縁部～胴部	19.0		(9.5)	ナデ	ナデ				○	○		褐	にぶい黄褐	良	29他	突帯
	238	5号	甕	口縁部～胴部	27.4		(4.3)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ				○	○		にぶい褐	黒褐	良	24	
	239	5号	甕	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒	にぶい褐	良	一括	
	240	5号	甕	口縁部～胴部	19.0		(4.6)	ナデ	ナデ				○	○		黒褐	黄褐	良	一括	突帯
	241	5号	甕	胴部			(7.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	暗褐	良	39他	突帯・外面スス付着
	242	5号	甕	胴部			(5.0)	ナデ	ナデ				○	○	輝石	橙	褐灰	良	一括	突帯
	243	5号	甕	胴部			(3.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい褐	黒褐	良	9	突帯
	244	5号	甕	底部		7.0	(7.2)	ハケ目	－		○		○	○		橙	黒	良	26	
	245	5号	甕	底部		7.8	(5.4)	剥離	－		○		○	○		明褐	－	良	25	
51	246	5号	竈	口縁部	27.0		(6.5)	ミガキ	ハケ目→ミガキ		○	○	○	○		灰褐	灰褐	良	20	
	247	5号	竈	口縁部	14.2		(1.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	褐	良	11	口縁部に刺突文
	248	5号	竈	口縁部	14.0		(2.5)	ミガキ	ミガキ→ナデ				○	○	輝石	褐	黒褐	良	一括	
	249	5号	竈	口縁部	18.2		(7.1)	ミガキ→ナデ	ミガキ	○	○		○	○		にぶい赤褐	明赤褐	良	21他	二叉口縁
	250	5号	竈	脚部～裾部			(11.1)	ミガキ→ナデ	ナデ	○	○		○	○		明褐	橙	良	31	
	251	5号	竈	脚部			(5.8)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	明黄褐	良	一括	突帯
	252	5号	竈	底部		8.0	(2.7)	ナデ	－		○		○	○		明赤褐	橙	良	2	
	253	5号	竈	底部		8.0	(2.3)	－	－		○		○	○		にぶい黄橙	橙	良	一括	
	254	5号	竈	底部		9.2	(2.6)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		明褐	灰黄褐	良	一括	
	255	5号	鉢	口縁部			(2.1)	ナデ	ミガキ		○		○	○		明褐	明褐	良	一括	
54	256	6号	大甕	口縁部	61.4		(11.2)	ナデ	指頭圧痕 ハケ目		○		○			明黄褐	黄褐	良	一括	
	257	6号	甕	口縁部	36.8		(3.9)	ナデ	ハケ目→ナデ				○	○		橙	橙	良	一括	
	258	6号	甕	胴部～底部付近			(25.0)	ハケ目→ナデ	指頭圧痕 ハケ目				○	○		にぶい褐	橙	良	61他	内面底部付近黒け残存 突帯
	259	6号	甕	胴部			(9.2)	ナデ	ハケ目→ナデ				○	○		橙	にぶい褐	良	14	突帯
	260	6号	甕	胴部～底部	23.6		(5.0)	ナデ	ナデ				○	○		橙	橙	良	34他	
	261	6号	甕	胴部			(5.7)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		にぶい橙	にぶい黄橙	良	一括	
	262	6号	甕	底部		7.4	(6.2)	ハケ目→ナデ	ナデ	○	○		○	○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	一括	
	263	6号	甕	底部		3.8	(2.6)	ハケ目→ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	輝石	にぶい褐		良	76	
55	264	6号	竈	口縁部～胴部	13.0		(8.2)	ナデ	ハケ目後ナデ	○	○	○	○		小礫	にぶい黄橙	にぶい黄	良	21他	突帯
	265	6号	竈	底部		5.8	(6.6)	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○		にぶい黄橙	黄褐	良	22他	
	266	6号	竈	口縁部～底部付近	25.0		(16.8)	ナデ	指頭圧痕 ハケ目→ナデ	○	○	○	○			橙	橙	良	18他	
	267	6号	竈	口縁部			(3.9)	ナデ	ナデ			○	○	○		赤褐	明赤褐	良	一括	
	268	6号	竈	口縁部	16.8		(3.8)	ナデ	ナデ		○	○	○	○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	一括	
	269	6号	竈	口縁部	18.0		(7.9)	ナデ	ハケ目後ナデ	○	○	○	○	○	小礫	橙	橙	良	20他	
	270	6号	竈	脚部～裾部			(18.5)	ナデ	ハケ目→ナデ	○	○	○	○	○	小礫	明褐	にぶい褐	良	44-1 他	突帯
	271	6号	竈	脚部			(9.1)	ナデ	ナデ		○	○	○	○		明黄褐	にぶい褐	良	27	
	272	6号	竈	脚部～裾部			(7.4)	ミガキ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	56	突帯
	273	6号	竈	底部			(7.9)	ミガキ	ハケ目		○		○	○		橙	明灰黄	良	63	突帯
	274	6号	竈	胴部			(14.4)	ミガキ→ナデ	ハケ目		○		○	○		褐	黄褐	良	62	突帯
56	275	6号	竈	脚部～裾部	6.4		(12.4)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○	○	○	○		橙	橙	良	29	
	276	6号	竈	底部		7.4	(9.6)	ハケ目後ナデ	ナデ		○	○	○		小礫	にぶい赤褐	灰黄褐	良	67	
	277	6号	竈	底部		6.7	(4.5)	ミガキ	ナデ		○	○	○	○	輝石 小礫	にぶい褐	にぶい褐	良	一括	
	278	6号	竈	底部		6.5	(4.2)	ナデ	指頭圧痕	○	○	○	○	○		褐	明褐	良	一括	
	279	6号	竈	底部		7.0	(5.3)	ナデ	ナデ	○	○	○	○			橙	橙	良	28	
	280	6号	小鉢	完形	12.9	4.4	9.4	ハケ目	指頭圧痕 ハケ目	○			○	○		黒褐	明褐	良	一括	
	281	6号	小鉢	口縁部～胴部	13.4		(3.4)	指頭圧痕 ナデ	ヘラケズリ後指頭圧痕				○	○		明褐	明褐	良	一括	
	282	6号	小鉢	完形	7.6			ハケ目→ナデ	ハケ目後ナデ	○	○	○	○			明褐	にぶい黄橙	良	2	
59	283	7号	甕	完形	30.1	8.0	31.7	ナデ	指頭圧痕 ナデ	○	○	○	○	○	小礫	橙	橙	良	214他	突帯・外面スス付着 黒け残存
	284	7号	甕	完形	36.2	8.4	33.2	ハケ目 ナデ	指頭圧痕 ナデ	○	○	○	○			にぶい褐	にぶい黄橙	良	44他	突帯
60	285	7号	甕	口縁部～胴部	30.0		(19.1)	ナデ	ナデ	○	○	○	○			にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	605他	突帯・外面スス付着
	286	7号	甕	口縁部～胴部	29.6		(21.4)	ハケ目 ナデ	指頭圧痕 ナデ				○	○		褐	褐	良	336他	突帯
	287	7号	甕	口縁部			(4.2)	指頭圧痕 ナデ	ナデ				○	○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	683	突帯・外面スス付着
	288	7号	甕	口縁部			(3.7)	指頭圧痕 ナデ	ナデ	○	○		○	○		赤褐	褐	良	445	突帯
	289	7号	甕	口縁部			(3.2)	ナデ	ナデ				○	○		明褐	明褐	良	一括	
	290	7号	甕	口縁部～胴部	23.6		(12.4)	ハケ目 ミガキ	ナデ	○	○	○	○		輝石 小礫	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	125他	
	291	7号	甕	口縁部	34.0		(4.5)	ミガキ→ナデ	ナデ	○	○	○	○			にぶい褐	明赤褐	良	427	突帯
	292	7号	甕	口縁部	32.8		(3.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	明赤褐	良	一括	
	293	7号	甕	口縁部	30.4		(3.2)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい橙	にぶい橙	良	446	
61	294	7号	甕	完形	35.2	8.6	37.5	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	○	○	○	○		小礫 輝石	明赤褐	灰褐	良	269他	突帯
	295	7号	甕	口縁部～胴部	26.2		(8.0)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			にぶい黄橙	褐	良	372他	突帯・外面スス付着
	296	7号	甕	口縁部	25.5		(4.5)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			橙	橙	良	163他	
	297	7号	甕	口縁部	30.2		(3.6)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい褐	にぶい褐	良	140	

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-3

遺構番号	掲載番号	遺構	器種	部位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 砕粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備考
61	298	7号	竪	口縁部	25.4		(4.8)	指頭圧痕 ナデ	ナデ		○			○	○	にぶい褐	にぶい黄褐	良	447	突帯
	299	7号	竪	口縁部	41.0		(6.9)	ナデ	ハケ目→ナデ	○	○	○	○			にぶい褐	にぶい褐	良	643	突帯
	300	7号	竪	口縁部	38.2		(6.6)	ナデ	ナデ	○	○	○	○			にぶい褐	にぶい褐	良	619	突帯
62	301	7号	竪	宅形	32.8	7.8	31.3	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	橙	橙	良	429他	
	302	7号	竪	宅形	33.5	7.8	35.4	ナデ	指頭圧痕 ナデ	○	○	○	○			橙	橙	良	4他	外面スス付着 内面熱ハゼ残存
	303	7号	竪	脚部～底部		7.0	(22.7)	ナデ	ナデ	○	○	○	○		小礫	にぶい褐	にぶい褐	良	182他	外面スス付着
	304	7号	竪	脚部			(7.4)	ナデ	ナデ			○	○	○		にぶい褐	灰黄褐	良	214他	突帯
	305	7号	竪	脚部			(7.3)	ハケ目→ナデ	ナデ			○	○	○		橙	明褐	良	279	突帯
	306	7号	竪	底部		8.0	(8.8)	ハケ目→ナデ	ナデ	○	○	○	○			にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	74	
	307	7号	竪	底部		8.6	(9.7)	ハケ目→ナデ	ナデ	○	○	○	○		軽石	黒褐	にぶい黄褐	良	652	
	308	7号	竪	底部		7.0	(10.3)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	○	○	○	○			橙	橙	良	33	
	309	7号	竪	底部		7.6	(8.6)	ナデ	ナデ	○	○	○	○			褐	褐	良	519	
	310	7号	竪	底部		7.4	(7.1)	ナデ	ナデ	○	○	○		○		にぶい褐	にぶい褐	良	541	
	311	7号	竪	底部		6.5	(6.4)	ハケ目→ナデ	調整	○	○	○	○	○		にぶい褐	褐灰	良	662	
	312	7号	竪	底部		7.2	(3.9)	ハケ目→ナデ	摩滅			○	○	○		にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	439	
	313	7号	竪	底部		9.2	(2.8)	ナデ	ナデ			○		○		暗灰褐	灰黄褐	良	248	
	314	7号	大竪	口縁部			(12.0)	ナデ	ハケ目→ナデ	○	○	○	○	○	小礫	橙	橙	良	359他	
	315	7号	大竪	口縁部			(5.0)	ナデ	ナデ				○	○		橙	にぶい黄褐	良	75	
63	316	7号	壺	宅形	21.2	6.1	47.7	ミガキ→ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	小礫	にぶい褐	にぶい褐	良	3他	
	317	7号	壺	宅形	23.0	6.2	45.3	ハケ目 ミガキ	ナデ	○	○	○	○		赤石 小礫	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	89他	突帯
64	318	7号	壺	口縁部～胴部	30.0		(23.7)	ナデ 指頭 ミガキ	ナデ	○	○	○	○		小礫 軽石	橙	にぶい橙	良	162	突帯
	319	7号	壺	口縁部～胴部	31.0		(20.1)	ミガキ→ナデ	ハケ目 ナデ	○	○	○	○		小礫	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	174他	突帯
	320	7号	壺	口縁部～胴部	25.1		(16.3)	ミガキ→ナデ	ナデ	○	○	○	○		軽石 小礫	にぶい橙	にぶい黄橙	良	536他	突帯
	321	7号	壺	口縁部～胴部	21.5		(16.5)	ハケ目→ミガキ	ハケ目→ミガキ	○	○	○	○		軽石	明赤褐	明赤褐	良	210	口縁部内の為内径・突帯
65	322	7号	壺	口縁部～胴部	18.6		(9.6)	ナデ→ミガキ	ハケ目→ナデ	○	○	○	○	○	軽石	橙	橙	良	667	
	323	7号	壺	口縁部			(1.7)	ナデ	ナデ			○	○	○		橙	橙	良	685	
	324	7号	壺	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ			○	○			明赤褐	にぶい赤褐	良	～括	
	325	7号	壺	胴部			(37.0)	ハケ目→ミガキ	ハケ目→ナデ	○	○	○	○		軽石 軽石	明赤褐	明褐	良	320他	突帯
	326	7号	壺	胴部～底部	6.5	(26.0)	ミガキ→ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	軽石	橙	橙	良	4他	突帯
	327	7号	壺	底部	12.4	(7.8)	ミガキ	ミガキ	ミガキ	○	○	○	○			にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	581	
	328	7号	壺	底部	6.0	(4.3)	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○			赤褐	明赤褐	良	13	
	329	7号	壺	底部	4.9	(3.9)	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○				明赤褐	褐灰	良	616	
	330	7号	壺	底部	6.0	(3.1)	ナデ	ナデ	ナデ				○	○		赤褐	黒褐	良	～括	
	331	7号	壺	底部	7.0	(5.1)	ハケ目→ナデ	調整	ナデ	○	○	○	○	○		橙	黄橙	良	644	
66	332	7号	壺	胴部～底部	7.4	(31.3)	ミガキ	ハケ目 ナデ	ナデ	○	○	○			小礫 軽石	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	252他	突帯
	333	7号	壺	胴部～底部	16.2		(9.7)	ミガキ	ミガキ	○	○	○	○		小礫 軽石	明赤褐	明赤褐	良	725他	
	334	7号	壺	口縁部	20.2		(4.0)	ミガキ→ナデ	ミガキ				○			にぶい褐	にぶい褐	良	666	
	335	7号	壺	口縁部～胴部	17.2		(18.6)	ミガキ→ナデ	ハケ目→ナデ	○	○	○	○			明褐	明褐	良	300他	
	336	7号	壺	胴部			(3.5)	ミガキ	調整			○	○			黒褐	～	良	～括	突帯
	337	7号	壺	胴部			(4.7)	ナデ	ナデ			○	○			明赤褐	明赤褐	良	～括	突帯
	338	7号	壺	胴部			(4.6)	ミガキ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明褐	良	620	突帯
	339	7号	壺	胴部			(6.0)	ミガキ	指頭圧痕 ハケ目		○		○	○		黒褐	明赤褐	良	546	突帯
	340	7号	壺	胴部			(6.7)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○	○	○			にぶい褐	にぶい褐	良	34	
67	341	7号	壺	宅形	22.6	13.9	43.4	ナデ→ミガキ	ナデ	○	○	○	○		小礫	橙	橙	良	413他	突帯
	342	7号	壺	脚部～底部		7.0	(21.2)	ナデ ミガキ	ナデ	○	○	○			小礫 軽石	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	85他	
68	343	7号	壺	宅形	22.3	8.6	38.6	ナデ→ミガキ	ナデ			○	○	○	小礫	にぶい褐	にぶい黄橙	良	254他	突帯・外面スス付着
	344	7号	鉢	宅形	22.9	6.2	13.6	ミガキ	ミガキ→ナデ	○	○	○			小礫	橙	にぶい橙	良	628他	
	345	7号	鉢	胴部	16.6		(10.4)	ハケ目	ハケ目	○	○	○		○		にぶい黄橙	黒褐	良	635他	
72	346	8号	大壺	口縁部～胴部	55.6		(15.4)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ			○	○	○		明褐	明赤褐	良	2577他	突帯
	347	8号	壺	口縁部～胴部	31.0		(22.4)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ			○	○	○		明褐	にぶい黄褐	良	2576他	突帯・外面スス付着
	348	8号	壺	口縁部～胴部	29.0		(16.0)	ナデ	ハケ目→ナデ			○	○	○		橙	橙	良	2532他	突帯・外面スス付着
	349	8号	壺	口縁部～胴部	25.0		(9.0)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ			○	○	○		橙	にぶい橙	良	～括他	突帯・外面スス付着
	350	8号	壺	口縁部～胴部	24.0		(11.5)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ			○	○	○		明褐	明赤褐	良	2456他	突帯・外面スス付着
	351	8号	壺	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ			○		○		明赤褐	褐	良	～括	
	352	8号	壺	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ			○		○		にぶい橙	橙	良	～括	
	353	8号	壺	口縁部			(3.0)	ナデ	ナデ			○		○	○	にぶい黄褐	褐	良	～括	外面スス付着
	354	8号	壺	口縁部			(2.9)	ナデ	ナデ			○		○		明褐	黄褐	良	～括	
	355	8号	壺	口縁部			(4.7)	ナデ	ナデ			○		○	○	黄褐	黒褐	良	～括	
	356	8号	壺	胴部			(5.3)	ナデ	ハケ目			○		○	○	にぶい橙	橙	良	～括	突帯
	357	8号	壺	胴部			(5.1)	ナデ	ナデ		○	○	○	○	軽石	黒褐	赤褐	良	～括	突帯・外面スス付着
	358	8号	壺	胴部			(2.2)	ナデ	ナデ	○	○	○				黒褐	褐	良	～括	突帯
73	359	8号	壺	胴部～底部付近			(13.6)	調整	調整	○	○	○				赤褐	明褐	良	～括	
	360	8号	壺	底部	7.8	(8.7)		ナデ	ナデ		○	○	○	○		橙	にぶい橙	良	2577他	
	361	8号	壺	底部	7.4	(8.2)		ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄褐	オリーブ黒	良	21563	
	362	8号	壺	底部	7.8	(7.5)		ナデ	ナデ		○		○			明黄褐	黒褐	良	25771	
	363	8号	壺	底部	7.6	(6.8)		ナデ	ナデ		○		○	○		黄褐	黒褐	良	25131	
	364	8号	壺	底部	7.2	(5.9)		ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	にぶい黄褐	良	25773	
	365	8号	壺	底部	8.0	(6.0)		ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄褐	明褐	良	21562	
	366	8号	壺	底部	10.0	(3.5)		ナデ	ナデ		○		○			明黄褐	明黄褐	良	～括	
	367	8号	壺	口縁部			(1.8)	ナデ	ミガキ→ナデ		○		○			灰褐	褐	良	～括	
	368	8号	壺	口縁部			(4.8)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	黒褐	良	25132	
	369	8号	壺	胴部			(5.8)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○			明褐	褐	良	21560	突帯

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-4

掲図番号	観察番号	遺　構	器　種	部　位	口径	底径	器高	器面調整		胎　土					色　調		焼成	取上番号	備　考
					cm	cm	cm	外面	内面	石英	黒石	角閃石	雲母	砂粒	その他	外面	内面			
73	370	8号	竪	胴部～底部			(6.5)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	にぶい橙	良	25136	
	371	8号	竪	胴部			(4.4)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	灰褐	良	一括	突帯
	372	8号	竪	胴部			(5.6)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	褐	良	一括	突帯
	373	8号	竪	胴部～底部		7.5	(11.2)	ハケ目 ミガキ・ナデ	指頭圧痕 ハケ目・ナデ		○		○		雌石	にぶい赤褐	明赤褐	良	24719	
	374	8号	蓋	つまみ部～胴部	有底口縁部 27.0	6.0	(10.4)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ミガキ		○		○			明赤褐	赤褐	良	25137焦	
	375	8号	小型鉢	底十			(1.5)	指頭圧痕	指頭圧痕		○		○			橙	橙	良	一括	
	376	9号	竪	口縁部～胴部	27.6		(15.2)	ハケ目	指頭圧痕		○		○			にぶい黄橙	にぶい橙	良	24674	突帯・外面スス付着
	377	9号	竪	口縁部	30.4		(3.0)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい橙	黒褐	良	24676	外面スス付着
	378	9号	大型	口縁部	15.5		(2.7)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい橙	明赤褐	良	24677	
	379	9号	竪	底部		6.1	(3.5)	ハケ目・ナデ	指頭圧痕				○	○		赤褐	橙	良	24675	
	380	10号	竪	口縁部～胴部	28.6		(9.6)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		橙	明褐	良	24552	突帯・外面スス付着
	381	10号	竪	口縁部～胴部	22.6		(5.5)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			褐	褐	良	24161	突帯・外面スス付着
	382	10号	竪	口縁部～胴部	23.3		(11.5)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	23302	突帯・外面スス付着
	383	10号	竪	口縁部～胴部	24.0		(10.7)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ		○		○	○		橙	橙	良	23803焦	突帯・外面スス付着
	384	10号	竪	口縁部	28.7		(4.8)	ナデ	ナデ		○		○			褐	黒褐	良	23806焦	突帯・外面スス付着
	385	10号	竪	口縁部	24.2		(6.5)	ハケ目・ナデ	ナデ				○	○		明褐	橙	良	22812	
	386	10号	小型壺	口縁部	15.5		(2.5)	ナデ	ナデ				○	○		黄灰	黒褐	良	22767	外面スス付着
	387	10号	小型壺	口縁部	11.5		(1.4)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	灰黄褐	良	22775	外面スス付着
	388	10号	竪	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	明褐	良	22771	外面スス付着
78	389	10号	竪	口縁部			(2.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	23295	外面スス付着
	390	10号	竪	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	22797	外面スス付着
	391	10号	竪	口縁部			(2.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	にぶい黄橙	良	22807	
	392	10号	竪	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい橙	橙	良	23284	
	393	10号	竪	口縁部			(3.7)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	黒褐	良	23287	外面スス付着
	394	10号	竪	胴部			(5.0)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい橙	褐	良	一括	突帯
	395	10号	竪	胴部			(3.5)	ナデ	ナデ・ハケ目		○		○			黒	にぶい橙	良	23279	突帯・外面スス付着
	396	10号	竪	胴部			(4.1)	ナデ	ハケ目				○	○		褐	明褐	良	23296	突帯
	397	10号	竪	胴部			(4.1)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	橙	良	24165	突帯・外面スス付着
	398	10号	竪	底部		8.4	(5.7)	ナデ	摩滅		○		○			黄褐	－	良	24942	
	399	10号	竪	底部		6.8	(6.4)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○			橙	明赤褐	良	25130	
	400	10号	鉢	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	橙	良	23300	
	401	10号	竪	口縁～底部	22.0		(22.4)	ミガキ・ナデ	ナデ・ハケ目		○		○	○		黒褐	にぶい橙	良	24162焦	
	402	10号	竪	底部			(4.4)	ミガキ	ナデ		○		○	○		橙	明赤褐	良	23281焦	
	403	10号	竪	底部			(3.9)	ナデ	ハケ目・ナデ		○		○	○		黒褐	灰黄褐	良	一括	突帯
	404	10号	竪	胴部			(4.6)	ミガキ	ハケ目・ナデ		○		○			褐	橙	良	一括	突帯
	405	10号	竪	胴部			(3.7)	ミガキ	ナデ		○		○	○		暗赤褐	明赤褐	良	22770	突帯
79	406	10号	竪	底部		6.1	(3.7)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○	○		にぶい橙	橙	良	22801	
	407	10号	竪	底部		8.1	(4.2)	指頭圧痕 ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい橙	明褐	良	22801	
	408	10号	竪	底部		5.0	(3.7)	ナデ	ハケ目・ナデ	○						明褐	褐灰	良	23303	
	409	10号	竪	底部		9.8	(6.5)	ハケ目・ミガキ	ナデ		○	○	○			明赤褐	橙	良	24556	
	410	10号	鉢	口縁部～底部	17.3	5.2	12.6	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			明赤褐	にぶい黄橙	良	23308焦	外面スス付着
	411	10号	鉢	口縁部	19.0		(3.2)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			明褐	褐	良	23750焦	外面スス付着
	412	10号	鉢	口縁部	22.0		(3.3)	指頭圧痕 ナデ	ミガキ・ナデ	○	○			○		にぶい橙	灰黄褐	良	23748	
	413	11号	大甕	口縁部			(5.8)	ナデ	ミガキ・ナデ	○	○		○			にぶい橙	明褐	良	24116焦	
	414	11号	大甕	底部		10.8	(10.0)	ミガキ・ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○	○		にぶい橙	橙	良	23471焦	
	415	11号	竪	口縁部～胴部	25.6		(6.6)	ナデ	ハケ目・ナデ		○		○			褐	黒褐	良	一括	突帯
	416	11号	竪	口縁部～胴部	21.0		(11.6)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	明褐	良	25112焦	外面スス付着
	417	11号	竪	口縁部	23.3		(4.7)	ナデ	ハケ目・ナデ		○		○			明赤褐	黒褐	良	23284	外面スス付着
	418	11号	竪	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	褐	良	23235	
	419	11号	竪	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ	○			○	○		明赤褐	明赤褐	良	23452	
	420	11号	竪	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	にぶい橙	良	23255	
	421	11号	竪	口縁部			(3.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい橙	にぶい橙	良	22697	
	422	11号	竪	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ		○		○			橙	明赤褐	良	23262	
	423	11号	竪	口縁部			(3.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	一括	外面スス付着
	424	11号	竪	口縁部			(1.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	黒褐	良	23603	外面スス付着
	425	11号	竪	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ				○	○		黒褐	橙	良	22715	
	426	11号	竪	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	赤褐	良	23269	
	427	11号	竪	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	暗灰黄	良	23632	外面スス付着
82	428	11号	竪	口縁部			(3.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	灰黄褐	良	24570	外面スス付着
	429	11号	竪	口縁部			(2.0)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい赤褐	赤褐	良	23212	
	430	11号	竪	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	明赤褐	良	23267	
	431	11号	竪	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	明赤褐	良	22713	
	432	11号	竪	口縁部			(2.9)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	明褐	良	23738	
	433	11号	竪	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	褐	良	一括	
	434	11号	竪	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明褐	良	23936	
	435	11号	竪	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	褐	良	23179	外面スス付着
	436	11号	竪	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	明赤褐	良	23282焦	
	437	11号	竪	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	一括	
	438	11号	竪	口縁部			(4.0)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	22726	外面スス付着
	439	11号	竪	胴部			(7.6)	ナデ	ハケ目・ナデ		○		○			明褐	黒褐	良	23306焦	突帯・外面スス付着
	440	11号	竪	胴部			(9.0)	ナデ	ナデ		○		○			橙	明黄褐	良	22731焦	突帯・外面スス付着
	441	11号	竪	胴部			(3.1)	ナデ	ナデ				○			黒褐	黒褐	良	23477	突帯
	442	11号	竪	胴部			(9.8)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	23439	突帯・外面スス付着
	443	11号	竪	胴部			(4.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	オリーブ褐	良	一括	突帯・外面スス付着
	444	11号	竪	胴部			(3.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	黒褐	良	一括	突帯
83	445	11号	竪	底部付近			(2.2)	ナデ	ナデ	○			○	○		明褐	明褐	良	22705	
	446	11号	竪	底部付近			(4.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	黒褐	良	一括	
	447	11号	竪	底部		8.6	(7.8)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○			明黄褐	黒褐	良	23416	
	448	11号	竪	底部		7.4	(6.4)	ハケ目・ナデ	ナデ	○	○		○			にぶい黄橙	黒褐	良	24712	
	449	11号	竪	底部		6.7	(6.2)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	黒褐	良	29122	
	450	11号	竪	底部		8.2	(3.6)	ハケ目・ナデ	調整		○		○			にぶい黄橙	－	良	23635	
	451	11号	竪	口縁部	17.2		(7.9)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい赤褐	にぶい橙	良	23407焦	
	452	11号	竪	口縁部	30.0		(2.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	灰褐	良	24124	

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-5

遺構番号	遺構	器種	部位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 砂粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	残存	取上番号	備考
83	653	11号	壺	口縁部		20.0	(3.1)	ハケ目・ナデ	ナデ	○			○	○	にぶい赤褐	明赤褐	良	一括	
	654	11号	壺	口縁部		14.5	(5.6)	ハケ目・ナデ	指頭圧痕・ナデ	○			○		暗褐	褐	良	23412他	
	655	11号	壺	口縁部			(5.9)	ミガキ・ナデ	ナデ	○			○		明褐	明褐	良	24119	
	656	11号	壺	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ	○			○		褐	黒褐	良	22739	
	657	11号	壺	口縁部			(1.7)	ナデ	ナデ	○			○		褐	褐	良	一括	
	658	11号	壺	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ	○			○		褐	褐	良	24120	
	659	11号	壺	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ				○	○	明赤褐	明赤褐	良	23451	
	660	11号	壺	口縁部			(4.2)	ナデ	ナデ		○		○	○	明赤褐	橙	良	24711	
	661	11号	壺	頸部			(3.7)	ナデ	綿種		○		○	○	橙	にぶい橙	良	23735	
	662	11号	壺	頸部			(5.9)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○	○	褐	にぶい橙	良	24121	
	663	11号	壺	肩部			(3.4)	ナデ	綿種		○		○	○	明赤褐	–	良	23698	
	664	11号	壺	肩部			(2.4)	ナデ	ナデ		○		○		明褐	明褐	良	23613	
	665	11号	壺	胴部			(5.1)	ミガキ	ハケ目・ナデ		○		○	○	にぶい褐	にぶい褐	良	23237他	
	666	11号	壺	胴部			(9.2)	ミガキ	ハケ目・ナデ		○		○	○	暗褐	明赤褐	良	24713他	突帯
	667	11号	壺	胴部			(4.3)	ナデ	ハケ目		○		○	○	褐	にぶい黄褐	良	22696	突帯
	668	11号	壺	底部		6.8	(1.7)	ナデ	ナデ		○		○		にぶい赤褐	にぶい黄褐	良	23002	
	669	11号	小型壺	脚台・脚部		14.0	(6.9)	ナデ	指頭圧痕・ハケ目・ナデ		○			○	灰褐	明褐	良	23271	外面スス付着
	670	11号	小型壺	口縁部		14.5	(2.8)	ミガキ・ナデ	指頭圧痕・ハケ目・ナデ		○		○	○	暗褐	褐	良	23200他	
	671	11号	小型壺	口縁部～胴部		10.2	(2.9)	指頭圧痕・ハケ目・ナデ	指頭圧痕・ナデ		○		○	○	にぶい褐	暗灰黄	良	24157	
	672	11号	鉢	口縁部～胴部		14.6	(3.5)	指頭圧痕・ナデ	指頭圧痕・ハケ目・ナデ	○	○	○	○	○	黒褐	明褐	良	23186	
	673	11号	鉢	口縁部			(2.2)	ナデ	摩滅		○		○		褐	褐	良	一括	
	674	11号	小型壺	把手			(1.8)	指頭圧痕・ナデ	指頭圧痕・ナデ		○		○	○	灰褐	明褐	良	23418	
	675	11号	蓋	宝珠		鍔部:7.0 脚部:6.6	11.3	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○	橙	明赤褐	良	19972	
87	676	12号	大壺	頸部～胴部		46.8	(13.6)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ		○	○	○	○	明褐	褐	良	25570他	突帯
	677	12号	大壺	胴部			(8.3)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ	○			○		明赤褐	明赤褐	良	一括	突帯
	678	12号	大壺	胴部			(5.8)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ミガキ		○		○	○	橙	明赤褐	良	25585他	
	679	12号	大壺	頸部～胴部		30.5	(18.8)	ハケ目	指頭圧痕・ハケ目・ナデ		○		○		明褐	橙	良	25740他	外面スス付着
	680	12号	大壺	頸部～胴部		32.2	(20.1)	ナデ	ナデ		○		○		明赤褐	明赤褐	良	25599他	
88	681	12号	甕	頸部～胴部		32.1	(9.5)	ナデ	ナデ		○		○	○	にぶい褐	黒褐	良	一括	突帯
	682	12号	甕	頸部～胴部		24.0	(5.2)	ナデ	ナデ		○		○	○	灰褐	褐灰	良	25561他	突帯・外面スス付着
	683	12号	甕	頸部～胴部		30.7	(6.8)	ナデ	指頭圧痕・ハケ目		○		○		にぶい褐	橙	良	一括	突帯・外面スス付着
	684	12号	甕	頸部～胴部		33.7	(4.3)	ナデ	ナデ		○		○	○	明褐	明黄褐	良	25783他	突帯
	685	12号	甕	頸部～胴部		28.0	(5.2)	ナデ	ナデ		○		○	○	橙	橙	良	25582他	突帯
	686	12号	甕	頸部～胴部		27.8	(4.9)	ナデ	ナデ		○		○	○	明褐	明褐	良	25566	突帯
	687	12号	甕	頸部～胴部		18.8	(5.1)	ナデ	ナデ		○		○	○	オリーブ黒	黒褐	良	一括他	突帯・外面スス付着
	688	12号	甕	頸部～胴部		25.4	(18.9)	摩耗	摩耗		○	○	○	○	橙	橙	良	一括他	
89	689	12号	甕	口縁部		40.0	(17.0)	ナデ	ナデ		○		○		明褐	明褐	良	一括	
	690	12号	甕	口縁部		26.1	(4.8)	ナデ	指頭圧痕・ナデ		○		○	○	橙	橙	良	25742	外面スス付着
	691	12号	甕	口縁部		23.6	(3.4)	ナデ	ナデ		○		○	○	にぶい赤褐	黒褐	良	一括	外面スス付着
	692	12号	甕	口縁部		17.0	(2.6)	ナデ	ナデ		○	○	○	○	橙	橙	良	一括	
	693	12号	甕	口縁部		21.0	(3.2)	ナデ	ナデ				○	○	赤褐	赤褐	良	一括他	
	694	12号	甕	口縁部		17.6	(1.6)	指頭圧痕・ナデ	ナデ	○				○	黒褐	橙	良	一括	
	695	12号	甕	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ			○	○	○	橙	橙	良	25561	
	696	12号	甕	口縁部			(3.9)	ナデ	ナデ				○	○	黒褐	黒褐	良	一括	
	697	12号	甕	口縁部			(3.3)	ナデ	ナデ				○	○	明褐	明褐	良	一括	
	698	12号	甕	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ		○		○		明黄褐	橙	良	一括	外面スス付着
	699	12号	甕	口縁部			(3.1)	ナデ	ナデ				○	○	灰褐	赤褐	良	一括	
	700	12号	甕	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ				○	○	明赤褐	褐灰	良	一括	外面スス付着
	701	12号	甕	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ		○				櫛状	にぶい褐	良	一括	外面スス付着
	702	12号	甕	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ		○		○	○	褐	にぶい褐	良	一括	
	703	12号	甕	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○		○	○	橙	橙	良	一括	外面スス付着
	704	12号	甕	口縁部			(2.2)	ナデ	綿種		○		○		黒褐	–	良	一括	口縁部分外れ
	705	12号	甕	口縁部			(1.4)	ナデ	ナデ		○		○	○	赤褐	赤褐	良	一括	
	706	12号	甕	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ				○	○	暗褐	褐	良	一括	
	707	12号	甕	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ		○		○		明褐	黒褐	良	一括	
	708	12号	甕	口縁部			(1.4)	ナデ	ナデ		○		○	○	黒褐	橙	良	一括	外面スス付着
	709	12号	甕	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ				○	○	黒褐	黒褐	良	一括	
	710	12号	甕	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ		○		○	○	橙	明褐	良	一括他	
	711	12号	甕	口縁部			(1.5)	ナデ	ナデ				○	○	褐	褐	良	一括	
	712	12号	甕	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○		○	○	黒	明褐	良	一括	外面スス付着
	713	12号	甕	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ		○		○	○	灰褐	明赤褐	良	一括	
	714	12号	甕	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ		○		○	○	にぶい赤褐	橙	良	一括	
	715	12号	甕	口縁部			(1.6)	ナデ	ナデ		○		○		褐灰	明褐	良	一括	外面スス付着
	716	12号	甕	口縁部			(1.7)	ナデ	綿種				○		褐	–	良	一括	口縁部分外れ
	717	12号	甕	口縁部			(1.3)	ナデ	綿種		○				にぶい褐	褐	良	一括	口縁部分外れ
	718	12号	甕	胴部			(7.6)	ナデ	指頭圧痕・ナデ		○		○	○	明褐	黒褐	良	一括他	突帯
	719	12号	甕	胴部			(5.6)	ナデ	ナデ・ハケ目		○		○		にぶい褐	灰褐	良	一括他	突帯
	720	12号	甕	胴部			(4.3)	ナデ	ナデ				○	○	黒褐	黒褐	良	一括	突帯・外面スス付着
	721	12号	甕	胴部			(4.1)	ナデ	ナデ				○	○	灰黄褐	褐	良	一括	突帯
	722	12号	甕	胴部			(5.1)	ナデ	ナデ				○	○	明黄褐	明褐	良	一括	突帯
	723	12号	甕	胴部			(4.2)	ナデ	ナデ		○		○		黒褐	明赤褐	良	一括	突帯
	724	12号	甕	胴部			(3.4)	ナデ	ナデ		○		○		褐	褐	良	一括	突帯
	725	12号	甕	胴部			(3.3)	ナデ	指頭圧痕・ナデ		○		○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	一括	突帯
	726	12号	甕	胴部			(4.2)	ナデ	ナデ		○		○		明褐	暗オリーブ褐	良	一括	突帯
	727	12号	甕	胴部			(3.5)	ナデ	ナデ		○		○	○	灰黄褐	にぶい黄褐	良	一括	突帯・外面スス付着
	728	12号	甕	胴部			(4.7)	ナデ	ナデ		○		○		黒褐	橙	良	一括他	突帯
90	529	12号	甕	胴部			(8.6)	ナデ	指頭圧痕・ナデ		○		○	○	にぶい褐	にぶい褐	良	一括他	外面スス付着
	530	12号	甕	胴部			(4.9)	ナデ	指頭圧痕・ナデ				○		にぶい褐	明褐	良	一括	外面スス付着
	531	12号	甕	底部付近			(4.0)	ハケ目	綿種				○	○	灰オリーブ	オリーブ黒	良	一括	外面スス付着

第12表−6　竪穴住居跡出土土器　観察表−6

遺構番号	掲載番号	遺構	器種	器部位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 砕粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備考
90	533	12号	壺	底部付近			(4.9)	指頭圧痕 ハケ目	ハケ目→ナデ	○			○			明褐	黒	良	一括	
	534	12号	壺	頸部～底部		7.4	(11.2)	ハケ目→ナデ	ナデ				○	○		にぶい黄橙	黒褐	良	25571他	
	535	12号	甕	底部		6.0	(5.9)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい黄橙	褐灰	良	25590他	
	536	12号	鉢	口縁部～胴部	23.4		(7.5)	摩耗	摩耗		○		○	○		にぶい橙	橙	良	一括他	
	537	12号	鉢	口縁部	20.7		(2.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい橙	にぶい橙	良	一括他	
	538	12号	鉢	口縁部	19.2		(3.0)	指頭圧痕 ナデ	ナデ				○			橙	橙	良	一括	
	539	12号	鉢	口縁部	20.0		(2.7)	ナデ	ミガキ		○		○	○		黒褐	褐灰	良	一括	
	540	12号	鉢	口縁部			(1.7)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	明褐	良	一括	
	541	12号	鉢	口縁部			(1.8)	ナデ	銅鏡		○		○			にぶい黄橙	～	良	一括	口縁部分残れ
	542	12号	鉢	口縁部			(1.7)	ミガキ	ミガキ		○		○	○		にぶい橙	にぶい橙	良	一括	
	543	12号	鉢	口縁部～胴部	19.4		(6.3)	ミガキ→ナデ	ミガキ→ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	一括他	
	544	12号	鉢	口縁部	19.0		(4.4)	ナデ	ナデ	○	○		○			暗褐	黒褐	良	一括他	
	545	12号	鉢	口縁部	15.6		(2.5)	ナデ	ナデ				○	○		橙	橙	良	一括	
	546	12号	鉢	口縁部	21.4		(4.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	明褐	良	一括他	
	547	12号	鉢	口縁部～胴部	11.7		(4.6)	ハケ目	指頭圧痕 ミガキ				○			明褐	明黄褐	良	一括	
	548	12号	鉢	口縁部			(4.2)	摩耗	ミガキ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	一括	
	549	12号	鉢	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	一括	外来系
	550	12号	鉢	口縁部			(3.0)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	褐	良	一括	
	551	12号	鉢	口縁部	11.9		(1.9)	ミガキ	ミガキ				○			黒	黒褐	良	一括	
	552	12号	無脚壺	口縁部	21.0		(2.0)	ミガキ	ナデ		○	○				橙	橙	良	一括	
	553	12号	無脚壺	口縁付近～胴部	内径 15.3		(8.0)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	25556	
	554	12号	壺	頸部			(6.9)	ミガキ	ミガキ				○	○		赤褐	明赤褐	良	一括	突帯
	555	12号	壺	頸部			(7.4)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○	○		褐灰	にぶい褐	良	一括	
	556	12号	壺	胴部			(5.3)	ナデ	銅鏡				○		黒曜石	明褐	黒褐	良	一括	
	557	12号	壺	頸部			(4.1)	ミガキ	指頭圧痕 ナデ		○		○			にぶい橙	にぶい橙	良	一括	
	558	12号	壺	頸部			(4.1)	ミガキ	ミガキ				○	○	石錐	褐	褐	良	一括	
91	559	12号	壺	肩部			(5.6)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	褐	良	一括	突帯
	560	12号	壺	肩部			(7.0)	ナデ	銅鏡		○		○			明赤褐	褐	良	一括	突帯
	561	12号	壺	肩部			(3.8)	ハケ目→ミガキ	指頭圧痕 ナデ				○	○		明赤褐	明赤褐	良	一括	
	562	12号	壺	胴部			(5.5)	ナデ	ナデ		○		○			橙	黒褐	良	一括	突帯
	563	12号	壺	胴部			(5.0)	ナデ	ナデ			○	○	○		橙	明赤褐	良	一括	突帯
	564	12号	壺	胴部			(5.2)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○			灰褐	明赤褐	良	一括	突帯
	565	12号	壺	胴部			(3.9)	摩耗	銅鏡		○		○			褐灰	褐	良	一括	四角突帯
	566	12号	壺	胴部			(5.3)	ナデ	ナデ		○		○			橙	褐灰	良	一括	四角突帯
	567	12号	壺	胴部			(3.5)	ミガキ	銅鏡		○		○			にぶい橙	～	良	一括	四角突帯
	568	12号	壺	胴部			(9.3)	ミガキ→ナデ	指頭圧痕 ナデ	○	○		○			にぶい赤褐	明赤褐	良	25578他	四角突帯
	569	12号	壺	底部付近			(6.0)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○	○		灰褐	橙	良	25559	
	570	12号	壺	底部付近			(5.6)	ナデ後ミガキ	ミガキ→ナデ		○		○	○		褐灰	黒	良	一括	
	571	12号	壺	底部		5.6	(10.7)	ナデ後ミガキ	ナデ		○		○			黒	橙	良	25561他	
	572	12号	壺	底部		8.6	(6.2)	ミガキ	ナデ		○		○	○		黒褐	明赤褐	良	25764	
	573	12号	壺	底部		8.2	(5.2)	ミガキ→ナデ	銅鏡		○	○	○	○		橙	～	良	25255他	
	574	12号	壺	底部		8.2	(5.4)	ナデ	摩耗				○	○		黄褐	橙	良	25562他	
	575	12号	壺	底部		8.0	(6.4)	摩耗	摩耗		○		○			にぶい赤褐	褐灰黄	良	25577	
	576	12号	壺	底部		7.2	(4.1)	ナデ	ナデ		○		○	○		赤褐	にぶい黄橙	良	25960	
	577	12号	壺	底部		6.2	(2.3)	ミガキ	ナデ		○				糊石	橙	橙	良	一括	
	578	12号	壺	底部		7.0	(2.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	明黄褐	良	一括	
	579	12号	壺	底部		8.0	(2.8)	ナデ	ミガキ		○		○			にぶい黄橙	黒褐	良	一括	
	580	12号	壺	底部		4.8	(3.1)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	にぶい橙	良	一括	
92	581	12号	小型壺	底部		6.8	(1.9)	ミガキ→ナデ	ミガキ		○		○			褐	褐	良	一括	
	582	12号	小型壺	底部		4.8	(2.7)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい橙	明褐	良	一括	
	583	12号	小型壺	底部		3.0	(2.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		黄灰	橙	良	一括	
	584	12号	無脚壺	口縁部	6.2		(2.6)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		褐	にぶい橙	良	一括	
	585	12号	無脚壺	口縁部～胴部	5.2		(5.9)	ナデ	ナデ				○			浅黄橙	浅黄	良	25729他	突帯
	586	12号	無脚壺	胴部			(3.7)	ナデ	ナデ	○	○					浅黄	にぶい黄	良	一括	突帯
	587	12号	無脚壺	肩部			(1.5)	ナデ	ナデ				○			黒褐	褐灰	良	一括	櫛描波状文
	588	12号	鉢	口縁部～胴部	12.0		(6.0)	丁寧なナデ	丁寧なナデ		○		○	○		褐	褐	良	一括	
	589	12号	鉢	口縁部～胴部	24.2		(6.2)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			橙	橙	良	一括	四角突帯
	590	12号	鉢	口縁部～胴部			(4.0)	ナデ	ナデ		○		○			橙	黒褐	良	一括	突帯
	591	12号	鉢	胴部			(3.4)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	灰褐	良	一括	
	592	12号	蓋	鍔部～頂部	23.0		(2.8)	ミガキ	ミガキ		○		○			褐	褐	良	一括	鍔部に刻み目あり
	593	12号	蓋	鍔部			(2.1)	ナデ	ナデ	○						褐	褐	良	一括	鍔部に刻み目あり
	594	13号	壺	口縁部～胴部	30.4		(9.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒	黒褐	良	一括他	突帯
	595	13号	壺	口縁部	29.4		(2.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	褐	良	一括他	外縁スス付着
	596	13号	壺	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	褐灰黄	良	一括	
	597	13号	壺	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	褐	良	一括	
	598	13号	壺	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	一括	
	599	13号	壺	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	褐	良	一括	
	600	13号	壺	口縁部			(1.4)	ナデ	ナデ	○			○			明黄褐	明黄褐	良	一括	外縁スス付着
95	601	13号	壺	胴部			(15.0)	ナデ	摩耗		○	○	○	○		黒褐	褐	良	一括他	突帯
	602	13号	壺	胴部			(6.1)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○	○		黒	橙	良	一括	突帯
	603	13号	壺	胴部			(4.5)	ナデ	ナデ				○			灰褐	にぶい赤褐	良	一括	突帯
	604	13号	壺	胴部			(3.5)	ナデ	ナデ		○		○			暗褐	暗褐	良	一括	突帯・外縁スス付着
	605	13号	壺	胴部			(2.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	暗褐	良	一括	突帯
	606	13号	壺	胴部			(2.6)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○		糊石	黒	橙	良	一括	突帯
	607	13号	壺	底部		8.2	(4.0)	ナデ	ワレ		○		○	○		にぶい黄橙	～	良	一括	
96	608	13号	壺	口縁部～胴部	22.3		(7.9)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	赤褐	良	25759他	
	609	13号	壺	口縁部～胴部	22.2		(6.5)	指頭圧痕 ミガキ	指頭圧痕 ナデ	○	○		○			にぶい橙	褐灰	良	一括	
	610	13号	壺	口縁部～胴部	23.8		(4.6)	指頭圧痕 ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	黒褐	良	25761他	
	611	13号	壺	口縁部～胴部	24.7		(5.5)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	一括	
	612	13号	壺	口縁部			(1.3)	ミガキ	ワレ		○		○			褐	～	良	一括	
	613	13号	壺	口縁部			(1.6)	ナデ	ナデ				○	○		暗褐	暗褐	良	一括	

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-7

遺構番号	掲載番号	遺構	器種	部位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 砂粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備考
96	614	13号	住	無頸壺	口縁部～胴部	7.2	(3.2)	ミガキ	指頭圧痕 ナデ		○		○			赤褐	にぶい赤褐	良	一括	
	615	13号	住	脚部			(5.6)	ハケ目	ナデ		○		○		輝石	橙	橙	良	一括	
	616	13号	住	脚部			(6.8)	ミガキ	ナデ		○		○			褐	暗褐	良	一括他	
	617	13号	住	脚部			(5.7)	ミガキ	指頭圧痕 ハケ目		○		○	○		黒褐	黒褐	良	20986他	突帯
	618	13号	住	脚部			(3.8)	摩耗	摩耗				○			明黄褐	明黄褐	良	一括	突帯
	619	13号	住	脚部			(2.8)	ミガキ→ナデ	ハケ目→ナデ		○		○			褐	褐灰	良	一括	突帯
	620	13号	住	底部		8.6	(4.7)	ナデ	剥離	○	○		○			明褐	明黄褐	良	一括	
	621	13号	無頸壺	完形	19.2	7.6	17.0	ミガキ→ナデ	ハケ目→ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	23633他	
	622	14号	大壺	口縁部			(5.9)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	23912	
	623	14号	大壺	胴部			(11.3)	ハケ目	ハケ目→ナデ		○		○	○		黒褐	赤褐	良	24691他	
	624	14号	壺	口縁部～胴部	28.3		(17.5)	ハケ目	ナデ		○		○	○		にぶい褐	暗褐	良	24280他	外面スス付着
	625	14号	壺	口縁部～胴部	31.2		(16.5)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ		○		○	○		明褐	黒褐	良	24562他	外面スス付着
	626	14号	壺	口縁部			(2.5)	ミガキ	ナデ		○		○	○		黒	明褐	良	25159	
	627	14号	壺	口縁部			(2.6)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		灰褐	黒褐	良	24682	
	628	14号	壺	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	褐灰	良	21724	
	629	14号	壺	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	24534	外面スス付着
	630	14号	壺	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		灰褐	灰褐	良	24276	外面スス付着
	631	14号	壺	口縁部			(3.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐灰	明赤褐	良	24539	外面スス付着
	632	14号	壺	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○			橙	灰黄褐	良	24277	
99	633	14号	壺	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ				○	○		黒褐	褐	良	24573	
	634	14号	壺	胴部			(5.7)	ナデ	ナデ		○		○			橙	褐	良	26575	突帯・外面スス付着
	635	14号	壺	胴部			(6.1)	ナデ	ナデ		○		○			暗褐	暗褐	良	26539他	突帯・外面スス付着
	636	14号	壺	胴部			(5.2)	ナデ	ナデ		○		○			橙	暗褐	良	25162	突帯
	637	14号	壺	胴部			(4.2)	ナデ	ハケ目→ナデ		○		○			黒褐	黄褐	良	24564他	突帯
	638	14号	壺	胴部			(4.2)	ナデ	ナデ	○	○		○			橙	にぶい黄褐	良	24535	突帯・外面スス付着
	639	14号	壺	胴部			(8.8)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			黒	暗褐	良	25689他	
	640	14号	壺	底部付近			(3.0)	摩耗	摩耗		○		○	○		にぶい赤褐	–	良	一括	
	641	14号	壺	底部		9.6	(8.2)	ハケ目	ナデ		○		○			褐	明褐	良	25991	
	642	14号	壺	底部		9.1	(6.9)	剥離	ナデ		○		○			赤褐	黒褐	良	24536	
	643	14号	壺	底部		7.0	(7.5)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			橙	黄灰	良	25155	
	644	14号	壺	底部		9.3	(2.7)	摩耗	剥離	○	○		○			明赤褐	–	良	一括	
	645	14号	壺	底部		8.3	(2.9)	ハケ目	剥離		○		○			明赤褐	–	良	20910	
	646	14号	台付甕	口縁部			(3.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		灰褐	にぶい褐	良	24580	
	647	14号	大壺	口縁部	27.2		(2.6)	ミガキ→ナデ	ミガキ→ナデ				○	○		明赤褐	明赤褐	良	25161	
	648	14号	壺	口縁部			(2.1)	ミガキ→ナデ	ミガキ→ナデ				○	○	金雲	暗赤褐	暗赤褐	良	20285	
	649	14号	大壺	胴部			(11.9)	ミガキ→ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○	○		にぶい褐	明褐	良	24531他	
	650	14号	壺	胴部			(5.3)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○			黒	褐	良	24684	M字突帯
100	651	14号	壺	底部		2.5	(5.3)	ヘラナデ	指ナデ	○	○		○			褐	褐灰	良	24273	
	652	14号	壺	底部		9.6	(4.9)	ミガキ→ナデ	ミガキ→ナデ		○		○	○		橙	にぶい褐	良	24683	外面スス付着
	653	14号	壺	底部		4.0	(2.7)	摩耗	摩耗		○		○	○		橙	灰黄	良	24576	
	654	14号	壺	底部		6.3	(4.9)	ミガキ	工具ナデ		○		○		輝石	橙	橙	良	24545他	
	655	14号	無頸壺	完形	14.5	6.2	14.5	ナデ	指頭圧痕 ナデ				○	○		橙	橙	良	20980他	
	656	14号	土師器	脚部			(2.0)	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ		○					にぶい橙	黒褐	良	一括	
103	657	15号	大壺	口縁部～胴部	51.1		(13.2)	ミガキ→ナデ	指頭圧痕 ナデ				○	○		明赤褐	赤褐	良	24243他	
	658	15号	壺	口縁部～胴部	36.0		(11.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐黄橙	橙	良	24233他	
	659	15号	壺	口縁部～胴部	30.0		(11.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	明赤褐	良	24952他	
	660	15号	壺	口縁部～胴部	24.6		(12.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄褐	にぶい褐	良	24252他	外面スス付着
	661	15号	壺	口縁部～胴部	23.3		(8.7)	ハケ目	ナデ		○		○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	24954	外面スス付着
	662	15号	壺	口縁部～胴部	21.4		(5.9)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			黒褐	暗褐	良	24701他	外面スス付着
	663	15号	壺	口縁部～胴部	22.8		(9.3)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			褐	褐	良	24956	外面スス付着
104	664	15号	壺	口縁部	30.6		(4.3)	ナデ	ハケ目→ナデ		○		○			褐	明褐	良	一括他	
	665	15号	壺	口縁部	24.8		(2.2)	ナデ	ナデ				○			にぶい黄橙	橙	良	24226	外面スス付着
	666	15号	壺	口縁部	内径 14.7		(6.7)	ナデ	ナデ		○		○			黒	褐	良	24269	外面スス付着
	667	15号	壺	口縁部			(2.9)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい橙	橙	良	24242	
	668	15号	壺	口縁部			(3.7)	ナデ	ナデ		○		○			褐	にぶい褐	良	24245	
	669	15号	壺	口縁部			(3.2)	ナデ	ナデ			○	○	○		明褐	明褐	良	一括	
	670	15号	壺	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	橙	良	24228	
	671	15号	壺	胴部			(8.5)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			褐	褐	良	24230	突帯・外面スス付着
	672	15号	壺	胴部			(5.4)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	25696他	突帯
	673	15号	壺	胴部			(8.5)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄褐	橙	良	26706他	外面スス付着
	674	15号	壺	胴部			(9.4)	ナデ	ナデ		○		○			褐	褐	良	24700	
	675	15号	壺	底部付近			(3.8)	ナデ	ナデ	○	○	○	○			明褐	にぶい黄褐	良	26709	
	676	15号	壺	胴部～底部		7.0	(21.0)	ハケ目→ナデ	指頭圧痕 ナデ	○	○	○	○	○		黒褐	橙	良	24251他	
	677	15号	壺	底部		8.5	(7.9)	ナデ	ナデ		○					明褐	黒褐	良	24965	
	678	15号	壺	底部		8.2	(7.5)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	黒褐	良	24960	
	679	15号	壺	底部		7.8	(6.4)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			褐	黒褐	良	24953	
	680	15号	壺	底部		9.6	(4.8)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	にぶい黄褐	良	24955	
105	681	15号	壺	口縁部	内径 15.2		(2.4)	ナデ	ナデ				○			にぶい褐	赤褐	良	24236	
	682	15号	壺	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい褐	橙	良	一括	
	683	15号	壺	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	24934他	
	684	15号	壺	口縁部			(3.5)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	にぶい赤褐	良	一括	
	685	15号	壺	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ		○		○			赤褐	明褐	良	24240	二叉口縁
	686	15号	壺	胴部			(6.5)	ハケ目	指頭圧痕 ナデ		○		○			にぶい黄褐	褐	良	一括	
	687	15号	壺	胴部			(6.6)	ハケ目	指頭圧痕		○		○			明赤褐	褐	良	24262	
	688	15号	壺	胴部			(3.7)	ミガキ→ナデ	ミガキ		○		○	○		褐	褐	良	24240	
	689	15号	壺	肩部			(5.4)	ナデ	ハケ目→ナデ		○		○			褐	暗褐	良	24235	
	690	15号	壺	肩部			(9.2)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい橙	にぶい橙	良	24249	浮文・突帯
	691	15号	壺	肩部			(9.8)	ナデ	ハケ目→ナデ		○		○	○		橙	明赤褐	良	24270他	突帯
	692	15号	壺	肩部			(6.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい褐	橙	良	24259	突帯
	693	15号	壺	胴部			(6.2)	ミガキ	ハケ目		○		○			オリーブ褐	黒褐	良	一括	
	694	15号	壺	胴部			(15.3)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○			明褐	橙	良	24251	突帯
	695	15号	壺	胴部			(5.8)	ミガキ	ハケ目		○		○			黒褐	黒褐	良	一括	突帯

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-８

挿図番号	掲載番号	遺構	器種	部位	口径	底径	器高	器面調整		胎土						色調		焼成	取上番号	備考
					cm	cm	cm	外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	砂粒	その他	外面	内面			
105	696	15号	壺	胴部			(6.3)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ		○		○			にぶい赤褐	明赤褐	良	一括	突帯
106	697	15号	壺	口縁部～胴部	17.3		(13.9)	ナデ	指頭圧痕ナデ	○	○		○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	24766他	突帯・外面スス付着
	698	15号	壺	胴部			(7.7)	摩滅	ナデ		○		○			にぶい黄褐	暗褐	良	24267他	突帯
	699	15号	壺	底部		9.2	(6.1)	ハケ目・ナデ	剥離		○		○	○		赤褐	橙	良	24958	
	700	15号	壺	底部		8.8	(4.5)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○			黒	褐	良	24943	
	701	15号	壺	底部		8.2	(4.9)	ナデ	ナデ		○		○			褐	にぶい赤褐	良	24695	
	702	15号	壺	底部		6.2	(6.2)	ミガキ	ナデ		○		○			橙	にぶい黄橙	良	24935他	
	703	15号	壺	底部		8.5	(4.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	黒褐	良	24946	
	704	15号	壺	底部		9.1	(3.4)	ナデ	剥離		○		○	○		明赤褐	－	良	25694	
	705	15号	壺	底部		5.0	(3.6)	ナデ	ナデ		○		○			赤褐	にぶい赤褐	良	24253他	
	706	15号	無頸壺	完形	21.2	6.6	15.6	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	26908他	
	707	15号	小型甕	口縁部～底部	17.3	5.1	14.9	剥離	ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	24853他	
	708	15号	蓋	完形	「鞭部」31.2	「つまみ底」7.0	13.5	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	にぶい黄褐	良	24234	
	709	15号	小型鉢	口縁部～底部	9.2	3.8	5.6	指頭圧痕ナデ	指頭圧痕ナデ	○	○	○	○	○		明褐	明褐	良	24250	
108	710	16号	壺	頸部			(3.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		灰黄褐	にぶい黄褐	良	24849	
	711	16号	壺	胴部			(11.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	にぶい黄褐	良	25150他	
111	712	17号	大甕	口縁部	44.4		(4.9)	－	ミガキ		○		○	○		明褐	明褐	良	25074	
	713	17号	甕	口縁部～胴部	25.6		(16.3)	ハケ目	指頭圧痕ハケ目		○		○	○		黒褐	黒褐	良	25690他	突帯
	714	17号	甕	口縁部			(2.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	にぶい赤褐	良	一括	
	715	17号	甕	口縁部			(3.2)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい褐	にぶい褐	良	一括	
	716	17号	甕	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明褐	良	一括	外面スス付着
	717	17号	甕	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	黒褐	良	一括	
	718	17号	甕	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	一括	
	719	17号	甕	口縁部			(1.5)	ナデ	ナデ		○		○			灰褐	黒褐	良	一括	外面スス付着
	720	17号	甕	口縁部			(1.7)	ナデ	ナデ		○	○	○			明赤褐	明赤褐	良	一括	
	721	17号	甕	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	明褐	良	一括	
	722	17号	甕	口縁部			(2.0)	ナデ	ナデ		○		○			褐	褐	良	一括	
	723	17号	甕	胴部			(9.6)	ナデ	ナデ		○		○			褐	明赤褐	良	25051他	突帯
	724	17号	甕	底部付近			(5.3)	ナデ	ハケ目・ナデ		○		○			赤褐	黒褐	良	25055	
	725	17号	甕	底部		6.4	(6.1)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		赤褐	赤褐	良	25050	
	726	17号	甕	底部		8.4	(9.0)	ナデ	ナデ		○		○			黄褐	褐	良	25082	
	727	17号	壺	口縁部～頸部	15.9		(12.7)	ミガキ	指頭圧痕ナデ		○		○	○		暗褐	にぶい赤褐	良	25072他	突帯
	728	17号	壺	口縁部	21.0		(6.0)	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ		○		○	○		黒褐	褐	良	24255他	
	729	17号	壺	口縁部	23.6		(2.2)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	25060他	
	730	17号	壺	頸部			(13.0)	ナデ	ミガキ		○		○	○		明黄褐	橙	良	25076他	
	731	17号	壺	頸部			(11.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	にぶい黄褐	良	25077他	
112	732	17号	壺	頸部			(8.0)	ハケ目	指頭圧痕ハケ目		○		○	○		明黄褐	にぶい橙	良	一括	
	733	17号	壺	肩部			(4.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	にぶい橙	良	一括	突帯
	734	17号	壺	胴部～底部		6.3	(13.8)	ハケ目・ナデ	ハケ目		○		○			赤褐	橙	良	25070他	
	735	17号	壺	底部		11.6	(5.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		暗灰黄	にぶい褐	良	一括	
	736	17号	壺	底部		7.0	(2.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	一括	突帯
	737	17号	鉢	口縁部			(5.6)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○			暗褐	黒褐	良	25081	
	738	17号	鉢	胴部			(3.3)	指頭圧痕ナデ	ハケ目・ナデ		○		○	○		赤褐	褐灰	良	一括	手捏ね
116	739	18号	大甕	口縁部～胴部	59.2		(26.8)	ミガキ・ナデ	指頭圧痕ミガキ・ナデ	○	○		○	○		明赤褐	灰黄褐	良	25553他	
117	740	18号	大甕	胴部			(19.2)	ミガキ・ナデ	指頭圧痕ミガキ・ナデ		○		○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	25503他	
	741	18号	大甕	胴部～底部付近			(21.7)	ミガキ・ナデ	指頭圧痕ナデ		○		○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	25505他	
	742	18号	甕	口縁部～胴部	29.0		(21.5)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		褐	暗褐	良	24041他	
118	743	18号	甕	口縁部～胴部	26.0		(19.2)	ハケ目・ナデ	指頭圧痕ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	25631他	突帯・外面スス付着
	744	18号	甕	口縁部～胴部	27.0		(21.3)	ハケ目・ナデ	指頭圧痕ナデ	○	○		○	○		明褐	明褐	良	23087他	突帯・外面スス付着
	745	18号	甕	口縁部～胴部	28.8		(13.0)	ハケ目ナデ	指頭圧痕ハケ目・ナデ		○		○			橙	橙	良	25549他	突帯・外面スス付着
	746	18号	甕	口縁部	25.8		(3.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	一括	
	747	18号	甕	口縁部	24.8		(27.0)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	明黄褐	良	24045	
	748	18号	甕	口縁部～胴部	17.8		(11.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	暗赤褐	良	24126他	突帯・外面スス付着
	749	18号	甕	口縁部	24.0		(6.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	褐	良	23691他	
	750	18号	甕	口縁部～胴部	20.2		(14.7)	ミガキハケ目・ナデ	ナデ	○	○		○			赤褐	橙	良	24127他	
	751	18号	甕	口縁部			(6.8)	ナデ	ナデ		○		○			褐	褐	良	24561	
	752	18号	甕	底部		8.9	(8.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		オリーブ褐	黒	良	25501	
	753	18号	甕	底部		8.9	(8.1)	ナデ	ハケ目		○		○			明褐	にぶい黄褐	良	25676	
	754	18号	甕	底部		9.1	(8.4)	ナデ	ナデ		○	○	○			暗褐	黒褐	良	24130他	
	755	18号	甕	底部		8.8	(8.1)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		褐	黒褐	良	25508	
	756	18号	甕	底部		6.4	(4.7)	ナデ	ナデ				○			明褐	明褐	良	25630	
119	757	18号	壺	口縁部～胴部	22.5	7.8	(43.5)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	黒褐	良	25526他	
	758	18号	壺	口縁部	20.0		(12.5)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ				○	○		褐	明褐	良	25546他	突帯
	759	18号	壺	口縁部	20.6		(1.2)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	一括	
	760	18号	壺	頸部			(5.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄	にぶい黄褐	良	一括	突帯
	761	18号	壺	胴部			(5.8)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○	○		暗褐	明褐	良	25544他	M字突帯
120	762	18号	壺	胴部～底部		10.5	(11.5)	ミガキ・ナデ	ミガキ		○		○			赤褐	にぶい褐	良	24043	
	763	18号	壺	底部		8.0	(3.1)	ナデ	剥離		○		○			明褐	にぶい黄橙	良	一括	
	764	18号	壺	底部		5.4	(3.2)	ナデ	ナデ		○	○	○	○		黒褐	にぶい黄褐	良	24361	
	765	18号	小型壺	底部		3.8	(3.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	にぶい黄褐	良	24357	
	766	18号	小型鉢	完形	12.9	4.0	7.2	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	黒褐	良	25677他	
	767	18号	鉢	口縁部～胴部	15.8		(4.9)	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ		○		○	○		橙	明赤褐	良	24137	
	768	18号	長頸壺	口縁部	5.8		(3.3)	ナデ	ナデ		○		○			赤褐	明赤褐	良	一括	

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-9

遺構番号	掲載番号	遺構	器種	部位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 砕粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備考
120	769	18号	鉢	底部切離			(1.9)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	一括	丹塗り
	770	18号	鉢	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい赤褐	にぶい赤褐		一括	突帯
122	771	19号	壺	口縁部			(2.6)	ナデ	ナデ	○			○			黒	明黄褐	良	24962	
	772	19号	壺	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい赤褐	橙	良	一括	
	773	19号	小型壺	底部片迫			(4.1)	ハケ目	ハケ目		○	○	○	○		灰黄褐	灰黄褐	良	24993	
	774	19号	甕	胴部			(12.4)	ミガキ	ハケ目→ナデ		○	○	○	○		赤褐	にぶい黄	良	24994他	丹塗り
	775	19号	甕	底部		10.4	(5.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	橙	良	24996	
124	776	20号	壺	口縁部～胴部	28.0		(12.6)	指頭圧痕 ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	24983他	
	777	20号	壺	口縁部	21.0		(3.3)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	黒褐	良	一括他	外面スス付着
	778	20号	壺	口縁部			(3.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		黄褐	にぶい黄褐	良	24968	
	779	20号	壺	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ				○			にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	一括	
	780	20号	壺	口縁部			(2.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	褐	良	25984	
	781	20号	壺	胴部			(4.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明褐	良	一括	突帯
	782	20号	壺	胴部			(3.0)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○	○	○			褐灰	明黄褐	良	24911	突帯・外面スス付着
	783	20号	壺	胴部			(5.1)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	褐	良	一括	突帯
	784	20号	壺	胴部			(5.1)	ナデ	ナデ				○			黒褐	にぶい褐	良	25672	突帯
	785	20号	壺	胴部			(5.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	にぶい黄褐	良	25680	突帯・外面スス付着
	786	20号	壺	胴部			(17.3)	ハケ目→ナデ	ナデ		○	○	○			褐灰	明黄褐	良	24911他	外面スス付着
	787	20号	壺	底部		8.9	(9.4)	指頭圧痕 ハケ目→ナデ	ナデ		○		○	○		黄褐	黒	良	39142	
	788	20号	壺	底部		7.3	(6.7)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄褐	黒	良	24990	
	789	20号	壺	底部		7.6	(7.2)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○	○		橙	黒褐	良	24981	
	790	20号	壺	底部		9.4	(5.0)	ナデ	調整		○		○			明褐	褐	良	24979	
	791	20号	壺	口縁部	18.8		(2.4)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	にぶい褐	良	24967	
	792	20号	壺	口縁部	19.6		(2.8)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○	○		赤褐	褐	良	24980	
	793	20号	壺	口縁部	13.2		(3.7)	ミガキ	ナデ		○		○	○		明褐	赤褐	良	24978	
	794	20号	壺	胴部			(6.3)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			黒褐	にぶい褐	良	24985	突帯
	795	20号	壺	胴部			(6.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		明黄褐	褐	良	25163	突帯
	796	20号	壺	胴部			(4.0)	ミガキ	ナデ		○		○	○		橙	にぶい褐	良	25671	突帯
	797	20号	壺	胴部			(3.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	一括	突帯
	798	20号	壺	胴部～底部		5.8	(7.0)	ナデ	ハケ目→ナデ		○		○	○		黒褐	にぶい黄褐	良	24984	
125	799	20号	壺	底部		7.6	(4.1)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい橙	橙	良	25682	外面…化粧土塗彩 内面…火山灰付着
	800	20号	鳥形	脚部			(4.0)	ミガキ	ナデ		○		○	○		明褐	橙	良	一括	
	801	20号	鉢	口縁部～胴部			(5.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	にぶい褐	良	一括	
	802	20号	小型鉢	胴部～底部		4.1	(5.3)	ハケ目	指頭圧痕 ハケ目→ナデ		○	○	○	○		灰黄褐	明赤褐	良	25683	
128	803	21号	壺	口縁部～胴部	31.4		(7.0)	指頭圧痕 ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ		○		○	○		明黄褐	灰黄褐	良	一括	
	804	21号	壺	口縁部～胴部	26.8		(6.5)	ハケ目→ナデ	指頭圧痕 ハケ目→ナデ		○		○	○		橙	灰褐	良	25419他	
	805	21号	大甕	口縁部			(4.3)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○	○		橙	明黄褐	良	25436	
	806	21号	壺	口縁部			(4.9)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄褐	黒褐	良	25437	外面スス付着
	807	21号	壺	口縁部			(3.0)	指頭圧痕 ナデ	ナデ		○		○	○		黒	褐	良	一括	
	808	21号	大甕	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	褐	良	一括	
	809	21号	壺	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい赤褐	明赤褐	良	25403	
	810	21号	壺	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	褐	良	25409	
	811	21号	壺	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	黒褐	良	25423	
	812	21号	壺	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ				○	○		明褐	褐	良	一括	
	813	21号	壺	胴部			(8.9)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい黄褐	褐	良	25436他	突帯
	814	21号	壺	胴部			(3.4)	ナデ	ナデ				○	○		黒褐	明黄褐	良	一括	突帯・外面スス付着
	815	21号	壺	胴部			(4.2)	ナデ	ナデ		○					明褐	褐	良	一括	突帯
	816	21号	壺	底部		7.0	(7.2)	ハケ目→ナデ	ナデ	○	○		○	○		にぶい黄褐	黒褐	良	25723	
	817	21号	壺	底部		6.5	(6.8)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ		○		○	○		にぶい橙	灰黄褐	良	一括	
	818	21号	壺	底部		8.6	(5.3)	ナデ	調整		○		○	○		明褐	褐	良	25435	
	819	21号	小型壺	底部		5.7	(3.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		灰黄褐	褐	良	25406	
	820	21号	壺	口縁部			(1.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	25424	
	821	21号	壺	口縁部			(2.0)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい赤褐	明赤褐	良	25410	
	822	21号	壺	胴部			(3.1)	ミガキ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	一括	
	823	21号	壺	胴部			(3.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	灰褐	良	一括	突帯
	824	21号	壺	胴部			(6.9)	ハケ目→ナデ	指頭圧痕 ハケ目→ナデ				○	○		明赤褐	褐	良	25433	突帯
	825	21号	壺	胴部			(6.2)	ナデ	指頭圧痕 ハケ目→ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	25431他	突帯
	826	21号	壺	胴部			(5.0)	ナデ	ナデ		○					黒褐	赤褐	良	一括	突帯
	827	21号	壺	底部		7.4	(3.6)	ハケ目→ナデ	ナデ	○	○		○	○		明黄褐	褐	良	一括	
	828	21号	無頸壺	口縁部	13.7		(3.9)	ナデ	ナデ				○			明赤褐	黒褐	良	一括	
	829	21号	高坏	脚部			(4.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	黄褐	良	25407	
	830	21号	高坏	脚部			(2.4)	ミガキ	ナデ		○		○	○		赤	にぶい黄褐	良	一括	丹塗り
	831	21号	鉢	胴部			(3.9)	調整	ナデ	○	○	○	○			にぶい赤褐	明赤褐	良	一括	
	832	21号	鉢	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	一括	竹管文
130	833	22号	壺	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄褐	明赤褐	良	一括	
	834	22号	壺	底部		8.3	(8.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄褐	黒	良	25609	
	835	22号	壺	胴部			(4.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	褐	良	一括	突帯
	836	22号	壺	胴部			(12.0)	ミガキ→ナデ	指頭圧痕 ハケ目→ナデ		○		○			暗褐	明褐	良	25733他	突帯
	837	22号	壺	胴部			(6.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい赤褐	赤褐	良	25675他	突帯
	838	22号	壺	胴部			(5.1)	ミガキ→ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○	○		褐	にぶい黄褐	良	25732	
	839	22号	壺	胴部			(3.6)	ハケ目→ナデ	ハケ目		○		○	○		橙	黄褐	良	25610	突帯
	840	22号	小型鉢	鉢千			(1.6)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	一括	
133	841	23号	大甕	口縁部～胴部	57.6		(34.0)	ナデ後ミガキ	ナデ後ミガキ				○	○		橙	明赤褐	良	27905他	突帯
134	842	23号	甕	口縁部～胴部	31.6		(13.3)	ハケ目	ハケ目→ナデ				○	○		灰褐	褐	良	24826他	突帯・外面スス付着

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-10

報告書番号	掲載番号	遺　構	器　種	部　位	口径	底径	器高	器面調整		胎　土					色　調		焼成	取上番号	備　考
					cm	cm	cm	外面	内面	石英	黒石	角閃石	雲母	砂粒	その他	外面	内面			
134	843	23号	竪	口縁部～胴部	32.0		(7.0)	ナデ	ハケ目→ナデ					○	○	黒褐	赤褐	良	21971集	外面スス付着
	844	23号	竪	口縁部～胴部	30.8		(5.5)	ナデ	ナデ					○	○	にぶい褐	にぶい黄褐	良	21818	口縁部外面スス付着
	845	23号	竪	口縁部～胴部	23.6		(11.3)	ナデ	ナデ					○	○	灰黄褐	橙	良	21829集	
	846	23号	竪	口縁部			(3.3)	ナデ	ナデ					○	○	にぶい黄褐	黒	良	―括	
	847	23号	竪	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ					○	○	明褐	黒褐	良	―括	
	848	23号	竪	口縁部			(2.0)	ナデ	ナデ		○			○	○	にぶい赤褐	黒	良	―括	
	849	23号	竪	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ					○	○	黒褐	にぶい褐	良	―括	
	850	23号	竪	胴部			(7.2)	ナデ	ナデ					○	○	明赤褐	明赤褐	良	21819	突帯
	851	23号	竪	胴部			(5.4)	ナデ	ナデ					○	○	にぶい褐	黄褐	良	―括	突帯
	852	23号	由	口縁部～胴部			(7.9)	ミガキ→ナデ	ミガキ					○	○	褐	灰褐	良	21825集	
	853	23号	由	口縁部～胴部	23.9		(16.4)	ミガキ→ナデ	ミガキ→ナデ		○			○	○	橙	明赤褐	良	25398	
137	854	24号	大甕	口縁部			(2.6)	ナデ	ナデ					○	○	橙	橙	良	25000	
	855	24号	竪	口縁部～胴部	30.4		(11.9)	ナデ	指頭圧痕→ナデ		○			○	○	暗褐	暗褐	良	25486集	突帯・外面スス付着
	856	24号	竪	口縁部～胴部			(14.4)	ハケ目→ナデ	ナデ					○	○	明赤褐	黒褐	良	25494集	突帯 外面スス付着・穿孔か
	857	24号	竪	口縁部～胴部	25.6		(7.8)	ナデ	ナデ		○			○		輝石	明褐	明褐	良	25361	突帯・外面スス付着
	858	24号	竪	口縁部～胴部	21.0		(11.7)	ナデ	ナデ	○	○			○	○	橙	橙	良	25097集	突帯
	859	24号	竪	口縁部～胴部	21.6		(8.3)	ナデ	指頭圧痕→ナデ					○	○	オリーブ褐	にぶい黄褐	良	25288	突帯
	860	24号	竪	口縁部	20.4		(4.4)	ナデ	ハケ目→ナデ		○			○	○	橙	明褐	良	25336	
	861	24号	竪	口縁部			(4.8)	ハケ目→ナデ	ナデ		○			○	○	黄褐	橙	良	―括	外面スス付着
	862	24号	竪	口縁部			(3.1)	ナデ	ナデ		○			○	○	橙	明褐	良	―括	
	863	24号	竪	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ		○			○		黒	明褐	良	25324	外面スス付着
	864	24号	竪	口縁部			(3.0)	ナデ	ナデ		○			○	○	にぶい褐	にぶい褐	良	―括	
	865	24号	竪	口縁部			(3.5)	ナデ	ナデ					○	○	明褐	明赤褐	良	25297	外面口唇部にスス付着
	866	24号	竪	口縁部			(4.2)	ナデ	ナデ					○	○	橙	橙	良	25315	外面口唇部にスス付着
	867	24号	竪	口縁部			(4.4)	ナデ	ナデ	○	○			○		黒褐	褐	良	25490	外面スス付着
	868	24号	竪	口縁部			(3.1)	ナデ	ナデ		○			○	○	橙	橙	良	25294	
	869	24号	竪	口縁部			(3.3)	ナデ	ナデ	○	○			○		暗褐	橙	良	25493	
	870	24号	竪	口縁部			(3.8)	ナデ	ナデ		○			○	○	明褐	明褐	良	―括	
	871	24号	竪	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ		○			○		橙	橙	良	―括	
	872	24号	竪	口縁部			(3.3)	ナデ	ナデ	○	○			○		橙	明赤褐	良	25641	
	873	24号	竪	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○			○		橙	橙	良	―括	外面スス付着
	874	24号	竪	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ	○	○			○	○	にぶい黄橙	橙	良	―括	
	875	24号	竪	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○			○	輝石	にぶい褐	にぶい褐	良	25292	
	876	24号	竪	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ		○			○	○	橙	にぶい黄橙	良	25303	
	877	24号	竪	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ		○			○	輝石	橙	橙	良	―括	
	878	24号	竪	口縁部			(1.7)	ナデ	ナデ		○			○		明赤褐	橙	良	―括	
	879	24号	竪	口縁部			(1.5)	ナデ	ナデ	○	○			○	○	にぶい褐	にぶい褐	良	―括	
	880	24号	竪	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○			○	○	明褐	黒褐	良	―括	
	881	24号	竪	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ		○			○	○	橙	橙	良	25404	
	882	24号	竪	口縁部			(3.6)	ナデ	ナデ		○			○	○	黒褐	にぶい黄橙	良	―括	外面スス付着
	883	24号	竪	口縁部			(3.8)	ナデ	ナデ		○			○	○	褐	にぶい褐	良	―括	
	884	24号	小型壺	口縁部			(1.5)	ナデ	ナデ	○	○			○		明赤褐	明赤褐	良	―括	
	885	24号	小型壺	口縁部			(1.4)	綿擦	ナデ	○	○			○	○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	―括	
138	886	24号	竪	胴部			(12.2)	ハケ目→ナデ	ナデ					○	○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	25717	突帯
	887	24号	竪	胴部			(6.0)	ナデ	ナデ	○						明黄褐	灰黄褐	良	25238	突帯・外面スス付着
	888	24号	竪	胴部			(6.0)	ナデ	ハケ目→ナデ		○			○	○	黒褐	黒褐	良	25345	突帯
	889	24号	竪	胴部			(4.1)	ナデ	ナデ		○			○		明褐	褐灰	良	25346	突帯
	890	24号	竪	胴部			(5.5)	ナデ	ナデ		○			○		にぶい黄橙	橙	良	25408	突帯
	891	24号	竪	胴部			(8.0)	ナデ	ナデ		○			○	○	明褐	明褐	良	25284	突帯
	892	24号	竪	胴部			(5.7)	ナデ	ナデ		○			○	○	褐	にぶい褐	良	25321	突帯
	893	24号	竪	胴部			(6.0)	ナデ	ナデ		○			○		橙	橙	良	25296	突帯
	894	24号	竪	胴部			(6.2)	ナデ	ナデ					○	○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	―括	突帯
	895	24号	竪	胴部			(4.9)	ナデ	ナデ		○			○	○	黒褐	暗褐	良	―括	突帯
	896	24号	竪	胴部			(4.3)	ナデ	ナデ					○	輝石	橙	灰黄褐	良	―括	突帯
	897	24号	竪	胴部			(3.2)	ナデ	ナデ		○			○		橙	橙	良	―括	突帯
	898	24号	竪	胴部			(7.0)	ナデ	ナデ		○			○	○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	25003	突帯
	899	24号	竪	胴部			(3.9)	ナデ	ナデ		○			○	○	明黄橙	明黄橙	良	―括	突帯
	900	24号	竪	胴部			(4.4)	ナデ	ナデ		○			○	○	にぶい黄橙	にぶい橙	良	―括	突帯
	901	24号	竪	胴部			(4.6)	ナデ	ナデ					○	輝石	橙	橙	良	―括	突帯
	902	24号	竪	胴部			(7.2)	ナデ	ナデ		○			○	○	にぶい褐	にぶい黄褐	良	25712	
	903	24号	竪	底部	9.5		(7.3)	ハケ目	ナデ	○	○			○		にぶい黄橙	にぶい橙	良	25282	
	904	24号	竪	底部	8.5		(7.1)	ハケ目→ナデ	綿擦		○			○	○	黄褐	明赤褐	良	25312集	
	905	24号	竪	底部	8.5		(7.5)	ハケ目→ナデ	ナデ		○			○	○	にぶい褐	黒褐	良	25092	
	906	24号	竪	底部	9.0		(6.1)	ナデ	ワレ		○			○	○	赤褐	–	良	25296	
	907	24号	竪	底部	9.0		(4.6)	ハケ目→ナデ	ワレ		○			○	○	にぶい黄褐	–	良	25015	
	908	24号	竪	底部	7.8		(4.5)	綿擦	ワレ		○			○		褐	–	良	25261	
	909	24号	竪	底部	8.1		(3.8)	ナデ	ワレ		○			○		明黄褐	–	良	25316	
	910	24号	竪	底部	8.0		(2.5)	ナデ	ワレ		○			○		にぶい黄橙	–	良	―括	
	911	24号	竪	底部	7.4		(3.6)	ナデ	ワレ	○	○			○		にぶい黄橙	–	良	―括	
	912	24号	竪	底部	6.4		(3.8)	ハケ目後ナデ	ワレ		○			○		明褐	–	良	25716	
	913	24号	竪	底部	5.6		(3.4)	ナデ	ワレ		○			○		明赤褐	–	良	25103	
139	914	24号	由	完形	27.1	8.0	64.1	ハケ目後ミガキ→ナデ後ミガキ	ハケ目→ナデ		○			○		明赤褐	明赤褐	良	25272	突帯
140	915	24号	由	完形	22.4	7.5	52.3	ミガキ ハケ目→ナデ	ミガキ ハケ目後ナデ							褐	褐	良	25308集	
	916	24号	由	口縁部～胴部	19.8		(12.4)	ミガキ→ナデ	ミガキ→ナデ					○	○	褐	褐	良	25884集	
	917	24号	由	口縁部～胴部	21.6		(9.3)	ハケ目後ナデ	ナデ					○	○	褐	褐	良	25292集	
	918	24号	由	口縁部～胴部	15.4		(12.2)	ナデ	指頭圧痕→ナデ		○				○	褐	褐	良	25319集	
141	919	24号	由	口縁部			(2.9)	ナデ	ナデ		○			○	輝石	橙	橙	良	25347	
	920	24号	由	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ		○			○	○	褐灰	褐灰	良	―括	
	921	24号	由	口縁部			(3.0)	ナデ	ナデ		○			○	○	明赤褐	にぶい黄褐	良	25094	
	922	24号	由	胴部			(2.8)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	―括	

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-11

遺構番号	掲載番号	遺構	器種	部位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 黒石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 砂粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備考
141	923	24号	由	脚部			(8.5)	ハケ目後ナデ	ハケ目		○		○			暗褐	暗褐	良	25333他	
	924	24号	由	脚部			(7.8)	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ		○		○			黒褐	褐	良	一括	
	925	24号	由	脚部			(8.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		暗褐	褐	良	25323他	
	926	24号	由	脚部			(5.8)	ナデ	ナデ	○			○	○		暗赤褐	灰黄褐	良	一括	突帯
	927	24号	由	脚部～裾部			(6.8)	ミガキ・ナデ	綿撫		○		○	○		黒褐	一	良	25711他	突帯
	928	24号	由	脚部			(3.7)	ミガキ・ナデ	ナデ				○	○		暗褐	褐	良	一括	突帯
	929	24号	由	脚部			(3.7)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい赤褐	暗褐	良	一括	突帯
	930	24号	由	脚部			(2.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	一括	突帯
	931	24号	由	脚部			(7.5)	ナデ後ミガキ	指頭圧痕後ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	25304	
	932	24号	由	脚部			(8.1)	ミガキ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	25496他	
	933	24号	由	脚部			(4.5)	ミガキ	ナデ		○		○			にぶい赤褐	にぶい褐	良	25334他	突帯
	934	24号	由	脚部			(6.1)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	黒	良	25647	突帯
	935	24号	由	脚部			(8.3)	ミガキ	ナデ		○		○	○		黒	にぶい赤褐	良	25479他	突帯
	936	24号	由	脚部			(3.2)	ミガキ	ナデ		○		○	○		灰褐	灰褐	良	一括	M字突帯
	937	24号	由	脚部			(4.7)	ミガキ・ナデ	綿撫		○		○	○		暗赤褐	一	良	25991他	M字突帯
	938	24号	無期由	脚部			(4.6)	ミガキ	ナデ		○		○	○		明赤褐	にぶい黄橙	良	一括	M字突帯
142	939	24号	由	口縁部～底部	14.1	6.0	(19.4)	ミガキ・ハケ目・ナデ	ミガキ・ハケ目・ナデ		○		○	○		明黄褐	黒	良	21079	
	940	24号	由	底部		9.4	(5.0)	ナデ	綿撫				○	○		明褐	褐灰	良	25243	
	941	24号	由	底部		7.2	(3.4)	ミガキ	ナデ		○		○	○		にぶい赤褐	にぶい橙	良	25105	
	942	24号	由	底部		10.0	(3.7)	ハケ目	ナデ		○		○	○		橙	灰黄褐	良	25715	
	943	24号	由	底部		9.0	(2.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	25242	
	944	24号	由	底部		7.8	(2.1)	ナデ	綿撫		○		○	○	雲石	にぶい赤褐	一	良	一括	
	945	24号	由	底部		5.7	(1.7)	ミガキ・ナデ	ナデ				○	○		橙	褐灰	良	25012	
	946	24号	由	底部		5.8	(2.7)	ミガキ・ナデ	ハケ目・ナデ		○		○	○		明黄褐	にぶい黄	良	25007	
	947	24号	由	底部		4.2	(2.2)	ナデ	綿撫		○		○	○		黒	明褐	良	25228	
	948	24号	由	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	にぶい褐	良	一括	断面文
	949	24号	手控ね	口縁部～底部	7.4		(4.9)	ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○	○		にぶい橙	暗灰黄	良	一括	
	950	24号	小型鉢	口縁部			(1.9)	ナデ	指頭圧痕後ナデ		○					灰褐	灰褐	良	一括	穿孔あり
145	951	25号	甕	口縁部～胴部	31.0		(6.7)	ナデ	ナデ				○	○		橙	灰褐	良	26532	
	952	25号	甕	口縁部～胴部	29.6		(8.5)	指頭圧痕後ナデ	ナデ		○		○	○		暗褐	褐	良	26549他	外面スス付着
	953	25号	甕	口縁部	28.0		(2.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		赤褐	明赤褐	良	26966	外面スス付着
	954	25号	甕	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい赤褐	オリーブ褐	良	一括	
	955	25号	甕	口縁部			(3.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒	明褐	良	26558	外面スス付着
	956	25号	甕	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	暗褐	良	一括	
	957	25号	甕	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		灰黄褐	灰黄褐	良	一括	
	958	25号	甕	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		明褐	明褐	良	26560	
	959	25号	甕	胴部			(5.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	明褐	良	26540	突帯
	960	25号	甕	底部付近			(4.0)	ナデ	綿撫	○	○		○	○		明赤褐	一	良	26543他	
	961	25号	甕	底部付近			(4.2)	ハケ目後ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	明黄褐	良	26545	
	962	25号	甕	底部		5.4	(4.9)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		赤褐	赤褐	良	26564	
	963	25号	甕	底部		7.8	(5.1)	ナデ	ワレ		○		○			にぶい黄橙	一	良	26541	
	964	25号	由	口縁部	27.0		(2.6)	ナデ	ナデ				○	○		橙	橙	良	26537	
	965	25号	由	口縁部	23.0		(4.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	黒	良	一括	
	966	25号	由	脚部			(9.1)	ハケ目ミガキ	ハケ目ミガキ		○		○	○		明褐	褐	良	一括	
	967	25号	由	脚部			(5.0)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○			褐	にぶい褐	良	26533	
	968	25号	由	脚部			(11.4)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		オリーブ褐	暗褐	良	26957	突帯
	969	25号	由	胴部			(4.5)	ナデ	ナデ		○		○			暗赤褐	赤褐	良	26525	M字突帯
	970	25号	由	底部		9.0	(6.7)	摩耗	ナデ	○			○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	26958	
	971	25号	鉢期由	口縁部～胴部	7.5		(7.8)	ミガキ後ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい赤褐	明赤褐	良	26956	
148	972	26号	大甕	口縁部～胴部	40.2		(35.4)	ナデ後ミガキ・ハケ目	指頭圧痕後ミガキ	○	○		○	○		橙	橙	良	25918他	外面スス付着
149	973	26号	大甕	口縁部～胴部	54.6		(18.0)	ミガキ・ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	25916他	
	974	26号	甕	口縁部～胴部	41.0		(13.2)	ナデ	ハケ目・ナデ		○		○	○		明赤褐	にぶい褐	良	26008	
	975	26号	甕	口縁部～胴部	32.4		(20.1)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ		○		○	○		明赤褐	にぶい赤褐	良	25920他	外面スス付着
150	976	26号	甕	口縁部～胴部	28.6		(15.4)	ハケ目	ハケ目・ナデ		○		○	○		にぶい褐	明褐	良	25959他	外面スス付着
	977	26号	甕	口縁部～胴部	28.8		(22.1)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	26976他	
	978	26号	甕	口縁部～胴部	26.2		(21.2)	ハケ目	ハケ目・ナデ		○					橙	橙	良	25580他	外面スス付着
151	979	26号	甕	口縁部～胴部	30.0		(16.5)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	25962他	
	980	26号	甕	口縁部～胴部	26.1		(9.5)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ		○		○	○		明赤褐	褐	良	25936	
	981	26号	甕	口縁部～胴部	24.7		(16.4)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		橙	明赤褐	良	25953他	
	982	26号	甕	口縁部	27.4		(5.9)	ナデ	ハケ目・ナデ		○		○	○		明赤褐	橙	良	25981他	
152	983	26号	甕	口縁部～胴部			(5.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明褐	良	25915	
	984	26号	甕	口縁部			(3.8)	ハケ目・ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい橙	橙	良	一括	
	985	26号	甕	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ		○		○			褐灰	暗褐	良	25988	
	986	26号	甕	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	橙	良	一括	
	987	26号	甕	口縁部			(4.6)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		赤褐	赤褐	良	25964	
	988	26号	甕	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	黒褐	良	25969	
	989	26号	甕	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	一括	
	990	26号	甕	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	明赤褐	良	26	
	991	26号	甕	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	明褐	良	一括	
	992	26号	甕	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ	○	○		○			橙	明褐	良	一括	
	993	26号	甕	口縁部			(2.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		灰黄褐	灰黄褐	良	一括	
	994	26号	甕	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明褐	良	上A1	
	995	26号	甕	口縁部			(1.5)	ナデ	ナデ		○		○			橙	明褐	良	P1の一括	
	996	26号	甕	口縁部			(2.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	にぶい褐	良	一括	
	997	26号	小型甕	口縁部	14.2		(3.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	褐	良	一括	外面スス付着
	998	26号	小型甕	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ				○	○		オリーブ黒	オリーブ黒	良	一括	
	999	26号	小型甕	口縁部			(1.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	一括	
	1000	26号	小型甕	口縁部			(1.2)	ナデ	ナデ				○	○		黒褐	黒褐	良	一括	

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-12

報告番号	掲載番号	遺　構	器　種	部　位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 砂粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備　考
	1001	26号	竪	口縁部～胴部			(5.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	橙	良	一括	
	1002	26号	竪	胴部			(4.1)	ナデ	ハケ目		○		○	○		灰黄褐	明褐	良	一括	突帯
	1003	26号	竪	胴部			(6.6)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	一括	突帯
	1004	26号	竪	胴部			(4.7)	ナデ	ナデ		○		○			暗灰	橙	良	一括	突帯
	1005	26号	竪	胴部			(6.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		暗褐	褐	良	25929	突帯
	1006	26号	竪	胴部			(5.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		灰褐	にぶい褐	良	一括	突帯
	1007	26号	竪	胴部			(4.8)	ナデ	ナデ		○		○	○	輝石	橙	にぶい黄橙	良	一括	突帯・外面スス付着
152	1008	26号	竪	胴部			(3.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		浅黄	灰黄	良	一括	突帯
	1009	26号	竪	胴部			(6.8)	ハケ目後ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	黒褐	良	26981他	突帯・外面スス付着
	1010	26号	竪	胴部			(3.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	黒褐	良	一括	突帯
	1011	26号	竪	胴部			(2.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	にぶい黄褐	良	一括	突帯
	1012	26号	竪	胴部			(5.1)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	褐	良	一括	突帯
	1013	26号	竪	底部付近			(6.5)	ハケ目	ナデ	○	○		○	○		暗灰黄	黒褐	良	25454他	
	1014	26号	竪	底部付近			(7.6)	ハケ目	ナデ		○		○	○		黒褐	黒褐	良	26141他	
	1015	26号	竪	底部	8.0	(10.3)	ハケ目→ナデ	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	黒	良	25980	
	1016	26号	竪	底部	8.3	(8.3)	ナデ	ナデ	ナデ		○	○	○	○		明褐	にぶい黄橙	良	26984	
	1017	26号	竪	底部	9.2	(5.6)	ハケ目→ナデ	ナデ	ナデ		○		○	○		明黄褐	橙	良	25953	
	1018	26号	竪	口縁部～胴部	34.0		(11.1)	ミガキ→ナデ	ミガキ→ナデ		○		○	○	輝石	明褐	暗褐	良	25976他	
	1019	26号	竪	口縁部	20.6		(2.0)	ナデ	ミガキ		○		○	○		褐	褐灰	良	一括	
153	1020	26号	竪	口縁部	28.0		(4.7)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			にぶい褐	暗褐	良	26995	
	1021	26号	竪	口縁部～胴部	内径25.6		(18.4)	ナデ・ミガキ	ナデ				○	○		黒褐	明赤褐	良	25166他	突帯
	1022	26号	竪	胴部～脚部			(15.5)	ミガキ ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ		○		○			黒褐	明褐	良	26990他	突帯
	1023	26号	竪	口縁部～下胴部	18.4		(32.0)	ミガキ ハケ目→ナデ	ハケ目後ミガキ 胴部ミガキ		○		○			橙	橙	良	25947他	外面スス付着
	1024	26号	竪	口縁部～胴部	30.0		(7.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	明褐	良	26992	
154	1025	26号	竪	胴部～脚部			(15.9)	ミガキ→ナデ	ナデ	○			○			明赤褐	明褐	良	26981他	突帯
	1026	26号	竪	胴部			(7.5)	ミガキ→ナデ	ナデ	○	○		○			灰黄褐	にぶい黄橙	良	一括	
	1027	26号	竪	胴部			(2.2)	ミガキ→ナデ	指頭圧痕		○		○			橙	にぶい黄褐	良	P-1一括	突帯
	1028	26号	竪	胴部			(4.9)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○	○		褐	褐	良	一括	突帯
	1029	26号	竪	胴部			(2.9)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	明褐	良	一括	
	1030	26号	竪	胴部～底部	11.0	(43.1)	ミガキ→ナデ	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	26913他	突帯・外面スス付着
155	1031	26号	竪	底部	7.4	(22.0)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	25943他	外面スス付着
	1032	26号	竪	底部	6.4	(3.6)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			黒褐	黒褐	良	25934	
	1033	26号	竪	底部	6.2	(2.8)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			明褐	明黄褐	良	25971	
	1034	26号	竪	口縁部～底部	22.8	7.1	(24.6)	ナデ	指頭圧痕 ハケ目→ナデ		○		○	○		明赤褐	黒褐	良	24733他	突帯
	1035	26号	竪	胴部～下底			(13.1)	○	ナデ		○			○		黒褐	黒褐	良	25112他	
156	1036	26号	鉢	口縁部～底部	18.6	7.0	(12.2)	ミガキ ハケ目→ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	赤褐	良	25913他	外面スス付着
	1037	26号	小型鉢	口縁部～胴部	17.2		(3.0)	ナデ	ナデ		○		○			黒	黒褐	良	一括	把手 口縁部上面に指頭圧痕
	1038	26号	小型鉢	口縁部～胴部			(5.8)	ナデ	ナデ		○		○			黒	赤褐	良	一括	把手・スス付着 口縁部上面に指頭圧痕
	1039	26号	竪	底部	7.7	(4.6)	指頭圧痕 ナデ	ナデ	ナデ		○			○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	25962	底刻
	1040	26号	小型壺	底部	7.4	(3.7)	網痕	指頭圧痕 ナデ		○		○		○		-	明黄褐	良	25987	
159	1041	29号	竪	胴部			(4.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	明赤褐	良	26565	突帯
	1042	29号	小型壺	胴部～底部	4.5		(8.4)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ		○			○		にぶい赤褐	褐	良	26569	突帯
	1043	29号	竪	胴部			(7.0)	ハケ目→ミガキ	ハケ目		○		○	○		にぶい黄橙	暗褐	良	26570	
	1044	30号	竪	底部	10.2		(31.0)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ		○		○	○		赤褐	にぶい赤褐	良	27771他	
163	1045	30号	竪	口縁部～胴部	33.5		(8.7)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	橙	良	27795他	歪みあり・突帯
	1046	30号	竪	口縁部～胴部	33.5		(8.7)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	橙	良	27795他	歪みあり・突帯
	1047	30号	竪	口縁部～胴部	27.0		(12.4)	ナデ	指頭圧痕	○	○		○			橙	橙	良	25817他	補修孔あり 突帯・外面スス付着
	1048	30号	竪	口縁部～胴部	20.0		(10.1)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			灰黄褐	暗褐	良	27393他	突帯・外面スス付着
	1049	30号	竪	口縁部～胴部	31.2		(9.9)	ハケ目→ナデ	指頭圧痕 ハケ目→ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	褐	良	27793	突帯
	1050	30号	竪	口縁部～胴部	32.0		(8.8)	ナデ	指頭圧痕 ハケ目→ナデ		○		○	○		明褐	明褐	良	27609	突帯・外面スス付着
164	1051	30号	竪	口縁部～胴部	25.0		(6.0)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○	○		明褐	にぶい黄褐	良	27789	突帯
	1052	30号	竪	口縁	19.0		(2.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	明赤褐	良	一括	
	1053	30号	竪	口縁			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	褐	良	一括	
	1054	30号	竪	口縁			(1.3)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		暗褐	黄褐	良	一括	
	1055	30号	竪	口縁			(2.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	一括	
	1056	30号	竪	胴部			(4.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	褐	良	27614	突帯
	1057	30号	竪	胴部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	にぶい黄橙	良	一括	突帯
	1058	30号	竪	胴部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	褐	良	一括	突帯
	1059	30号	竪	胴部～底部			(18.4)	ハケ目→ナデ	ナデ	○	○		○	○		橙	褐	良	27723他	突帯
	1060	30号	竪	胴部			(7.2)	ハケ目	ナデ		○		○			明褐	褐	良	27395	突帯
	1061	30号	竪	胴部			(6.2)	ミガキ	ナデ		○		○		輝石	黒褐	黄褐	良	27361他	突帯
	1062	30号	竪	胴部			(5.5)	ハケ目	ハケ目→ナデ		○		○	○		黒	褐	良	一括	突帯
	1063	30号	竪	胴部			(11.6)	指頭圧痕 ハケ目	ナデ		○		○	○		灰褐	橙	良	27363他	突帯
	1064	30号	竪	胴部			(6.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい黄橙	にぶい橙	良	27772	
	1065	30号	竪	底部付近			(4.8)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	黒褐	良	27399	
	1066	30号	竪	底部付近			(3.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	黒褐	良	27693他	
	1067	30号	竪	胴部～底部	7.3		(12.3)	ハケ目	ハケ目		○		○	○		明赤褐	にぶい黄褐	良	27729他	突帯
	1068	30号	竪	底部		8.4	(6.5)	網痕	ワレ		○		○	○		明赤褐	-	良	27397他	
	1069	30号	竪	底部	7.2	(5.1)	ハケ目	ナデ	ナデ	○	○		○	○		にぶい褐	黒褐	良	27365	内面黒灯残存
	1070	30号	壺	口縁部～胴部	19.5		(6.2)	ミガキ→ナデ	ミガキ→ナデ		○		○		輝石	にぶい褐	黒褐	良	27391	補A突帯
	1071	30号	壺	口縁部			(1.6)	ナデ	ナデ				○	○		明褐	明褐	良	一括	
166	1072	30号	壺	胴部			(4.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐灰	赤褐	良	27343	突帯
	1073	30号	壺	胴部			(4.6)	ナデ	ナデ		○		○	○		橙	にぶい褐	良	27370	突帯
	1074	30号	壺	胴部			(7.2)	ミガキ→ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	赤褐	良	27795	突帯
	1075	30号	壺	胴部			(6.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	黄褐	良	27606	突帯

第12表　竪穴住居跡出土土器　観察表-13

遺構番号	掲載番号	遺構	器種	部位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 赤粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備考
166	1076	30号	竈	袖部			(7.9)	ミガキ・ハケ目	ハケ目→ナデ	○			○			黒	褐	良	26221他	突帯
	1077	30号	竈	袖部			(12.5)	ミガキ→ナデ	指頭圧痕→ナデ・ハケ目				○	○		明褐	にぶい褐	良	27803	突帯
	1078	30号	竈	袖部			(6.3)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○			黒褐	明褐	良	27372	突帯
	1079	30号	竈	袖部			(7.9)	ハケ目→ナデ	ナデ		○		○			灰黄褐	にぶい黄橙	良	27731	突帯
	1080	30号	竈	袖部			(4.4)	ナデ	ナデ		○		○			明黄褐	褐灰	良	27368	M字突帯
	1081	30号	竈	底部		8.6	(7.1)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明褐	良	27598他	底部にミガキあり
	1082	30号	竈	底部		8.3	(7.1)	ハケ目	調整		○		○	○		明赤褐	にぶい黄橙	良	27376他	
	1083	30号	竈	底部		8.0	(4.6)	ナデ	指頭圧痕→ナデ	○	○		○	○		にぶい赤褐	黒褐	良	27724	
	1084	30号	竈	底部		7.7	(2.6)	ナデ	調整				○			にぶい赤褐	灰黄褐	良	27354	
	1085	30号	小型竈	口縁部～胴部	8.6		(2.4)	ナデ	指頭圧痕→ナデ	○	○		○	○		黒褐	灰黄褐	良	一括	
	1086	30号	鉢	口縁部～胴部	14.0		(4.2)	ハケ目→ナデ	指頭圧痕→ナデ				○	○		黒	暗褐	良	27605	口縁部指頭圧痕 外面スス付着
	1087	31号	大甕	口縁部	42.7		(7.6)	ナデ	ナデ				○			明褐	明褐	良	28600	
	1088	31号	大甕	口縁部	41.2		(6.0)	ナデ	ナデ				○	○	輝石	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	28866	
	1089	31号	甕	口縁部～胴部	24.0		(9.7)	ナデ	ハケ目→ナデ				○			褐	明褐	良	一括	突帯・外面スス付着 指みあり
	1090	31号	甕	口縁部～胴部	26.2		(10.1)	ナデ	ナデ				○	○		明褐	明褐	良	29371	突帯・外面スス付着
	1091	31号	甕	口縁部			(3.1)	ナデ	ナデ	○	○		○	○		黒褐	橙	良	28919	
	1092	31号	甕	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ	○			○	○		橙	黒褐	良	一括	
	1093	31号	甕	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ			○	○			黒	橙	良	一括	外面スス付着
	1094	31号	甕	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ				○	○		褐灰	橙	良	一括	外面スス付着
168	1095	31号	甕	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄褐	にぶい橙	良	28915	
	1096	31号	甕	口縁部			(3.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		明褐	明褐	良	一括	
	1097	31号	甕	胴部			(4.7)	ナデ	指頭圧痕→ナデ				○	○		明褐	明褐	良	一括	突帯
	1098	31号	甕	胴部			(3.5)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	黒	良	28909	突帯
	1099	31号	甕	胴部			(4.5)	ハケ目→ナデ	ナデ				○	○	輝石	にぶい褐	明褐	良	28910	突帯
	1100	31号	甕	胴部			(6.9)	ナデ	ナデ	○	○		○			橙	黒	良	一括	
	1101	31号	甕	底部			(12.2)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ		○		○	○	輝石	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	28915他	
	1102	31号	甕	口縁部			(2.9)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	28911	突帯
	1103	31号	壺	頸部			(2.6)	ミガキ	指頭圧痕→ハケ目		○		○		輝石	明褐	明褐	良	一括	突帯
	1104	31号	鉢	口縁部			(4.9)	ナデ	指頭圧痕→ナデ		○		○	○		明褐	橙	良	一括	

第13表　竪穴住居跡出土土匁玉観察表

遺構番号	掲載番号	遺構	器種	部位	長さ cm	幅 cm	最大厚 cm	器面調整	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 赤粒	胎土 その他	色調	焼成	取上番号	備考
120	1105	7号住跡	土製勾玉	ほぼ完形	4.2	2.9	1.7	丁寧なミガキ	○			○			灰褐	良	包含7号住 焼跡上位6	丁字頭
	1106	18号住跡	土製勾玉	頭部～胴部	4.3	3.4	2.5	丁寧なミガキ		○		○			赤褐～明褐	良	包含18号住 焼跡上2&包	丁字頭(下水)両脇から穿孔,中央部で抉くなる
	1107	7号住跡	土製勾玉	ほぼ完形	2.5	1.9	0.9	丁寧なミガキ	○	○		○			黄褐	良	包含7号住 覆土1&6	
	1108	土坑8	土製勾玉	頭部～胴部	1.9	1.8	1.0	丁寧なミガキ		○		○	○		灰褐に薄い赤褐色塗彩	良	土坑8 25801	丁字頭(十水)孔はつき通っていない可能性あり

第14表　竪穴住居跡出土土製加工品観察表

遺構番号	掲載番号	遺構	器種	部位	長さ cm	幅 cm	厚 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 赤粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備考
171	1109	1号	メンコ		5.6	3.2	1.0	ナデ	ハケ目				○	○	○	橙	褐灰	良		外面型ずれ現存
	1110	3号	メンコ		2.5	1.7	1.2	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ				○			黒褐	褐灰	良	28	
	1111	6号	メンコ		6.1	4.4	0.8	ナデ	ハケ目				○	○		にぶい黄褐	にぶい黄褐	良		
	1112	6号	メンコ		3.6	3.6	1.1	摩耗	摩耗			○	○			にぶい橙	橙	良		
	1113	7号	メンコ		5.3	5.4	0.8	ナデ	ミガキ				○	○		褐	にぶい褐	良	490	外面 スス付着
	1114	7号	メンコ		4.4	3.9	0.9	ナデ	調整				○	○		褐灰	にぶい褐	良	1-2ベルト	
	1115	7号	メンコ		5.5	3.4	0.9	ナデ	ナデ				○	○		にぶい褐	黒	良	510	
	1116	7号	メンコ		5.1	3.8	1.0	ナデ	ナデ				○	○		にぶい褐	にぶい褐	良		
	1117	7号	メンコ		4.8	3.3	0.9	ミガキ	ナデ				○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	2ベルト	
	1118	7号	メンコ		4.6	4.2	0.9	ナデ	～		○		○	○		褐灰	橙	良	26	
	1119	7号	メンコ		4.5	3.8	1.1	ナデ	ナデ				○	○		橙	橙	良		
	1120	7号	メンコ		3.6	2.7	0.8	ナデ	ナデ				○	○		にぶい褐	黒褐	良	1ベルト	外面スス付着
	1121	8号	メンコ		5.3	6.0	1.4	ミガキ	ミガキ				○			にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	一括	
	1122	10号	メンコ		5.3	5.6	0.8	～	～			○	○			赤褐	明赤褐	良	一括	外面スス付着
	1123	12号	メンコ		5.4	5.5	1.6	ミガキ	ミガキ				○	○		赤褐	明褐	良	一括	
	1124	12号	メンコ		4.8	3.5	1.2	ナデ	ナデ				○	○		灰褐	明褐	良	一括P-1	
	1125	12号	メンコ		3.9	3.5	1.1	ナデ	ナデ				○	○		褐灰	黄橙	良	一括	
	1126	14号	メンコ		5.4	5.7	1.3	ミガキ	ナデ				○	○		にぶい赤褐	黒褐	良	24837	
	1127	15号	メンコ		5.4	4.1	1.0	ナデ	ナデ				○	○		にぶい赤褐	灰褐	良	一括	
	1128	24号	メンコ		3.6	3.4	0.8	ナデ	摩滅			○	○	○		にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	一括	
	1129	25号	メンコ		4.3	4.0	1.7	ミガキ	ナデ			○	○	○		赤褐	褐	良	26548	
	1130	30号	メンコ		4.7	4.4	1.8	ミガキ	ミガキ	○	○	○	○	○		にぶい黄褐	黒褐	良	一括	

第15表　周清出土土器観察表

掲図番号	図版番号	遺　構	器 種	器 位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 赤粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備　考
214	1197	方形周溝1号	壺	胴部			(6.3)	ナデ	ナデ	○	○	○	○			明褐	褐	良	29030	
	1198	方形周溝1号	壺	胴部			(5.6)	ミガキ	ナデ		○		○			褐	明赤褐	良	29029	M字突帯
	1199	方形周溝1号	壺	胴部			(5.2)	ナデ	ハケ目		○		○	○		褐	にぶい黄橙	良	29031	突帯
	1200	円形周溝1号	壺	胴部			(6.2)	ハケ目	ナデ		○		○	○		黒褐	黒褐	良	27658	
	1201	円形周溝1号	壺	胴部		8.0	(4.7)	ミガキ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	27659	
	1202	円形周溝2号	壺	口縁部～胴部	24.6		(6.0)	ナデ	ナデ		○		○	○		灰黄褐	にぶい褐	良	25627	突帯
	1203	円形周溝2号	壺	胴部			(5.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	にぶい褐	良	25625他	
	1204	円形周溝2号	壺	底部		8.2	(8.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	明褐	良	24923	
	1205	円形周溝2号	壺	底部		8.0	(4.9)	ナデ	綿棒	○	○	○	○	○		黄褐	～	良	24924	
	1206	円形周溝2号	壺	底部		8.0	(6.3)	綿棒	ナデ		○		○	○		黄褐	明黄褐	良	24929	
	1207	円形周溝2号	壺	底部		6.5	(5.9)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	明赤褐	良	25623	
	1208	円形周溝2号	壺	つまみ部	つまみ径 5.6		(4.5)	ナデ	ナデ	○	○					明赤褐	褐	良	25624	
	1209	円形周溝3号	壺	胴部			(5.3)	ナデ	ナデ	○	○					褐	黒褐	良	25729	
	1210	円形周溝3号	壺	胴部			(5.9)	ナデ	指頭圧痕→ナデ		○		○			にぶい褐	にぶい橙	良	～括	
	1211	円形周溝3号	壺	底部		5.9	(4.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	褐	良	25810	
	1212	円形周溝3号	壺	底部	6.7		(3.1)	ナデ	綿棒		○		○			にぶい褐	～	良	25725	
	1213	円形周溝3号	壺	口縁部	32.1		(2.1)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	25727	
	1214	円形周溝3号	壺	口縁部～胴部	22.8		(10.8)	ミガキ	ミガキ→ナデ		○		○			黒褐	褐	良	26951	突帯
	1215	円形周溝3号	壺	底部			(5.5)	ミガキ	ナデ		○		○			褐	明赤褐	良	26954	突帯
	1216	円形周溝3号	壺	口縁部			(3.0)	ナデ	ナデ		○		○			褐	にぶい褐	良	～括	外面スス付着
	1217	円形周溝3号	壺	口縁部			(3.5)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	褐	良	25629	外面スス付着
	1218	円形周溝3号	壺	底部付近			(3.8)	綿棒	ハケ目→ナデ		○		○	○	石粒	橙	～	良	～括	
	1219	円形周溝5号	壺	胴部			(9.7)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明褐	良	26934	
	1220	円形周溝5号	壺	底部		5.2	(4.1)	ナデ	ナデ				○			にぶい褐	褐	良	26933	
	1221	円形周溝6号	壺	胴部			(5.2)	ナデ	ナデ				○	○		明褐	橙	良	27017	
215	1222	円形周溝6号	壺	胴部			(5.7)	ミガキ	指頭圧痕→ナデ				○			褐	明赤褐	良	～括	突帯
	1223	円形周溝7号	壺	口縁部～胴部			(6.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒	明褐	良	26970他	突帯・外面スス付着
	1224	円形周溝7号	壺	口縁部～胴部			(6.2)	ナデ	ナデ				○	○		明赤褐	明オリーブ褐	良	26973	突帯・外面スス付着
	1225	円形周溝7号	壺	口縁部～胴部			(4.3)	ナデ	ナデ				○			にぶい褐	明褐	良	26969他	突帯・外面スス付着
	1226	円形周溝7号	壺	口縁部			(3.0)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	褐	良	26385	外面スス付着
	1227	円形周溝7号	壺	胴部			(10.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	オリーブ褐	良	26387他	突帯・外面スス付着
	1228	円形周溝7号	壺	胴部			(4.7)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	黒褐	良	26386	突帯・外面スス付着
	1229	円形周溝7号	壺	胴部			(4.3)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい褐	オリーブ褐	良	26388	突帯・外面スス付着
	1230	円形周溝7号	壺	胴部			(3.2)	ハケ目	ナデ	○			○	○		褐	明褐	良	26401	
	1231	円形周溝7号	壺	底部付近			(3.1)	ナデ	指頭圧痕→ナデ		○		○			明褐	にぶい褐	良	26398	
	1232	円形周溝7号	壺	口縁部～胴部	19.2		(7.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		褐	明褐	良	26975	
	1233	円形周溝7号	壺	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	灰褐	良	27102	
	1234	円形周溝9号	壺	胴部			(4.5)	ミガキ	ナデ	○				○	石粒	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	27198	

第16表　柱穴列出土土器観察表

掲図番号	図版番号	遺　構	器 種	器 位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 赤粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備　考
207	1189	柱穴列1号内	壺	胴部			(3.2)	ミガキ	綿棒			○	○			褐	褐	良	～括	四角突帯
	1190	表0Y1-2	表採遺	口縁部～胴部	3.0		(3.5)	ナデ	ナデ		○			○	○	橙	橙	良		
	1191	掘立8号P1-5	壺	底部		4.1	(2.4)	ミガキ	ミガキ				○	○		明赤褐	黒	良	TP-1 No.1	特有のミガキあり
	1192	H23P内	壺	口縁部			(1.5)	指頭圧痕→ハケ目→ナデ	ナデ				○	○		黒褐	にぶい褐	良	5107	外面スス付着
	1193	H24 P2	壺	口縁部～胴部	15.4		(9.8)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	～括	突帯
	1194	H24 P2	壺	口縁部			(5.7)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	～括	
	1195	H24 P2	壺	胴部			(9.4)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい橙	橙	良	～括	突帯・外面スス付着
	1196	H24 P2	壺	胴部			(4.0)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	～括	突帯・外面スス付着

第17表　土坑出土土器　観察表-１

掲図番号	図版番号	遺　構	器 種	器 位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 雲母	胎土 赤粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備　考
227	1237	3号	大壺	口縁部～胴部	390		(11.5)	ナデ	指頭圧痕→ナデ				○	○		橙	橙	良	26911	突帯
	1238	3号	壺	口縁部～胴部	360		(9.3)	ナデ	指頭圧痕→ナデ				○	○		にぶい褐	明赤褐	良	26906	突帯 外面スス付着
	1239	3号	壺	口縁部			(1.8)	ナデ	ナデ				○			橙	灰褐	良	～括	外面スス付着
	1240	3号	壺	胴部			(8.1)	ハケ目	ハケ目→ナデ	○			○			明褐	黒	良	～括	
	1241	3号	壺	口縁部～胴部	260		(15.5)	ミガキ→ナデ	ハケ目→ナデ				○	○		橙	明赤褐	良	26907	
	1242	3号	壺	胴部			(3.7)	ナデ	ナデ				○	○		黒褐	明赤褐	良	～括	突帯
	1243	3号	壺	胴部			(4.7)	ナデ	ナデ				○			橙	橙	良	～括	突帯
	1244	3号	壺	胴部			(2.4)	ナデ	ナデ				○			橙	橙	良	～括	突帯
	1245	3号	壺	胴部			(2.6)	ナデ	ナデ				○	○		明赤褐	黒褐	良	～括	突帯
	1246	3号	壺	底部付近			(2.7)	綿棒	綿棒	○	○					にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	～括	
	1247	3号	壺	底部		10.0	(4.8)	ミガキ	綿棒		○		○	○		にぶい褐	～	良	25734	
	1248	3号	壺	底部		7.2	(6.1)	ミガキ	綿棒		○		○	○		褐	～	良	26912	
	1249	4号	大壺	口縁部			(4.1)	ナデ	ハケ目→ナデ				○	○		橙	橙	良	25605	
	1250	4号	壺	口縁部～胴部			(4.9)	ナデ	指頭圧痕→ナデ	○				○		にぶい黄橙	橙	良	25816	突帯
	1251	4号	壺	口縁部～胴部			(6.9)	ナデ	指頭圧痕→ナデ		○			○		にぶい黄橙	橙	良	25706	突帯
	1252	4号	壺	口縁部			(2.8)	ナデ	指頭圧痕→ナデ				○	○		橙	明赤褐	良	25707	
	1253	4号	壺	口縁部			(3.9)	ハケ目→ナデ	ナデ				○	○		にぶい橙	にぶい橙	良	25601	外面スス付着
	1254	4号	壺	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ	○						明赤褐	明褐	良	25826	
	1255	4号	壺	胴部			(1.9)	ナデ	ナデ				○	○		黒褐	褐灰	良	～括	
	1256	4号	壺	胴部			(7.0)	ハケ目→ナデ	ナデ				○			橙	橙	良	25702他	突帯
	1257	4号	壺	胴部			(7.7)	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ			○	○			橙	橙	良	25699	突帯
	1258	4号	壺	胴部			(4.2)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい黄橙	黒褐	良	～括	突帯
	1259	4号	壺	底部		8.3	(6.5)	ナデ	ナデ	○						にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	25691	
	1260	4号	壺	底部		8.1	(6.2)	ナデ	ナデ				○	○		橙	橙	良	25692	
	1261	4号	壺	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ	○	○					黒褐	黒褐	良	～括	
	1262	4号	壺	口縁部			(1.7)	ナデ	綿棒		○					にぶい黄橙	黒	良	25814	
	1263	4号	壺	胴部			(8.3)	ミガキ	ナデ		○		○			褐	褐	良	25705	
	1264	4号	壺	胴部			(3.4)	ナデ	指頭圧痕→ナデ				○	○		明赤褐	にぶい黄橙	良	～括	突帯
	1265	4号	壺	胴部			(2.9)	ナデ	ナデ				○	○		黄褐	明赤褐	良	～括	突帯
	1266	4号	壺	底部		5.0	(11.9)	ナデ	ナデ				○	○		明赤褐	明赤褐	良	25604他	
	1267	4号	壺	底部		5.2	(3.9)	ナデ	綿棒				○	○		明赤褐	橙	良	25603	

第17表　土坑出土土器　観察表-2

掲図番号	掲載番号	遺　構	器　種	部　位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整 外面	器面調整 内面	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 黒曜石	胎土 赤粒	胎土 その他	色調 外面	色調 内面	焼成	取上番号	備　考
229	1268	5号	大壺	口縁部			(4.9)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい橙	にぶい橙	良	25687他	
	1269	5号	壺	口縁部～胴部	26.0		(7.4)	ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○			橙	橙	良	25652	突帯・外面ス ス付着
	1270	5号	壺	口縁部	32.6		(3.3)	ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○		岩片	明褐	にぶい黄褐	良	25686他	外面ス ス付着
	1271	5号	壺	口縁部			(5.0)	ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○			暗褐	黒褐	良	一括	外面ス ス付着
	1272	5号	壺	口縁部			(3.4)	ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○			暗褐	にぶい黄褐	良	25651	外面ス ス付着
	1273	5号	壺	口縁部			(2.8)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	橙	良	一括	
	1274	5号	壺	口縁部			(3.7)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	一括	外面ス ス付着
	1275	5号	壺	口縁部			(2.2)	ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○			灰黄褐	褐灰	良	25803	外面ス ス付着
	1276	5号	壺	胴部			(4.3)	ナデ	ナデ		○		○			黒	にぶい橙	良	一括	突帯・外面ス ス付着
	1277	5号	壺	胴部			(2.5)	ナデ	ナデ				○			橙	橙	良	一括	突帯・外面ス ス付着
	1278	5号	壺	底部	8.1	(7.8)	ハケ目	ナデ	ナデ		○		○			橙	黒褐	良	25808	内面黒ず残存
	1279	5号	壺	底部	8.5	(7.1)	ナデ	ナデ	ナデ		○		○			明黄褐	黒褐	良	25650	内面黒ず残存
	1280	5号	壺	底部	6.0	(5.7)	ナデ	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	黒褐	良	25685	内面黒ず残存
	1281	5号	甕	胴部			(3.1)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	明赤褐	良	一括	突帯
	1282	5号	甕	胴部			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい橙	にぶい橙	良	一括	突帯
	1283	5号	甕	胴部			(5.0)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○	○		橙	明褐	良	一括	四角突帯
	1284	5号	甕	胴部			(5.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい褐	明赤褐	良	25804	M字突帯
	1285	5号	甕	胴部			(3.8)	ナデ	ナデ	○	○		○			赤褐	橙	良	一括	M字突帯　円盤り・暗文
	1286	5号	甕	底部		11.9	(9.9)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい褐	明赤褐	良	25801	
230	1287	6号	壺	口縁部～胴部	22.6		(9.9)	ナデ	指頭圧痕後ナデ	○	○		○			赤褐	褐	良	25666	外面ス ス付着
	1288	6号	壺	口縁部			(5.4)	ナデ	ナデ					○	○	にぶい黄褐	橙	良	25665	外面ス ス付着
	1289	6号	壺	口縁部			(4.9)	ナデ	ナデ					○	○	黒褐	暗褐	良	25724	外面ス ス付着
	1290	6号	壺	口縁部			(1.9)	ナデ	ナデ					○	○	明褐	にぶい黄橙	良	一括	
	1291	6号	壺	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ				○	○	○	灰褐	にぶい褐	良	25663	外面ス ス付着
	1292	6号	壺	口縁部	30.0		(5.2)	ナデ	指頭圧痕後ナデ				○		輝石	にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	25660	
	1293	6号	壺	底部	7.6		(4.2)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	25664	
	1294	6号	壺	底部	8.3	(8.6)	ナデ	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄褐	黒褐	良	25659	内面黒ず残存
	1295	6号	壺	底部	7.2	(6.0)	ナデ	ナデ	ナデ		○	○	○			明褐	オリーブ褐	良	25818	内面黒ず残存
	1296	6号	甕	胴部			(4.5)	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ		○		○		岩片	褐	明褐	良		
	1297	6号	甕	底部	7.4	(11.3)	ナデ	ナデ	ナデ	○	○		○			にぶい黄褐	オリーブ褐	良	25657	外面ス ス付着 内面黒ず残存
	1298	6号	鉢	口縁部			(2.9)	指頭圧痕ナデ	指頭圧痕ナデ		○		○			明褐	橙	良	25661	把手
231	1299	7号	壺	口縁部～底部	27.9	8.4	33.4	ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○			明褐	褐	良	25877他	突帯
	1300	7号	小型壺	頸部～胴部	18.6	6.4	(16.0)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	25870他	外面ス ス付着
	1301	7号	壺	口縁部～胴部	21.6		(17.0)	指頭圧痕後ナデ	指頭圧痕ナデ		○		○			黒褐	褐	良	25868	外面ス ス付着
	1302	7号	壺	口縁部			(1.0)	ナデ	ナデ		○		○			明灰黄	にぶい褐	良	一括	
	1303	7号	壺	口縁部			(1.8)	摩耗	ナデ		○		○			オリーブ褐	黒褐	良	一括	
	1304	7号	壺	口縁部			(3.2)	摩耗	ナデ		○		○			赤褐	赤褐	良	一括	
	1305	7号	小型壺	口縁部	15.6		(1.9)	ナデ	ナデ	○	○		○			黒	にぶい褐	良	一括	
	1306	7号	小型壺	口縁部			(1.4)	ナデ	ナデ		○		○		石英	赤褐	黒褐	良	一括	
	1307	7号	壺	胴部			(9.5)	ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○	○		黒褐	暗褐	良	25866	突帯・外面ス ス付着
	1308	7号	壺	胴部			(7.1)	ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○			黒褐	褐	良	一括	突帯
	1309	7号	壺	胴部			(5.1)	ナデ	指頭圧痕後ナデ			○	○			褐	黒褐	良	一括	突帯・外面ス ス付着
	1310	7号	壺	胴部			(3.0)	ナデ	ナデ		○		○			明褐	明赤褐	良	一括	突帯
	1311	7号	壺	底部		8.3	(10.7)	網撚	指頭圧痕後ナデ		○		○			にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	25857	
	1312	7号	壺	底部		8.8	(7.0)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	にぶい黄褐	良	25787	
232	1313	7号	甕	頸部～胴部		6.6	(32.0)	ミガキ・ナデ	ハケ目・ナデ		○		○			にぶい赤褐	褐	良	25876他	外面ス ス付着
	1314	7号	甕	胴部			(6.4)	ミガキ・ナデ	網撚	○	○	○	○			黒褐	暗褐	良	一括	突帯
	1315	7号	甕	胴部			(5.0)	摩耗	ナデ	○			○			明褐	暗褐	良	一括	
	1316	7号	甕	胴部			(5.5)	ナデ	網撚		○		○			明褐	暗褐	良	一括	突帯
	1317	7号	甕	胴部			(4.0)	ナデ	ナデ		○		○			褐	にぶい黄褐	良	一括	突帯
	1318	7号	甕	底部		8.4	(4.8)	ミガキ	指頭圧痕ミガキ		○		○			にぶい赤褐	黒褐	良	25859	
	1319	7号	小型壺	頸部～胴部			(6.7)	ミガキ・ナデ	指頭圧痕後ナデ		○		○			橙	橙	良	一括	
	1320	7号	小型壺	底部付近			(5.1)	摩耗	指頭圧痕後ナデ		○		○	○		にぶい黄褐	にぶい黄橙	良	一括	
	1321	7号	小型壺	底部付近			(4.3)	摩耗	指頭圧痕後ナデ		○		○			にぶい赤褐	明赤褐	良	一括	
	1322	7号	鉢	口縁部			(3.4)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい褐	にぶい黄褐	良	一括	把手
233	1323	8号	壺	口縁部～胴部	23.0		(5.6)	ナデ	指頭圧痕ハケ目		○		○			褐	にぶい赤褐	良	25855	突帯・外面ス ス付着
	1324	8号	壺	口縁部			(2.6)	ナデ	ハケ目		○		○			褐	明赤褐	良	一括	外面ス ス付着
	1325	8号	壺	口縁部			(2.7)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい橙	にぶい橙	良	一括	外面ス ス付着
	1326	8号	壺	口縁部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○			オリーブ褐	明黄褐	良	一括	
	1327	8号	壺	口縁部			(2.1)	ナデ	ナデ		○		○			黒褐	橙	良	一括	外面ス ス付着
	1328	8号	壺	口縁部			(2.3)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい橙	橙	良	一括	外面ス ス付着
	1329	8号	壺	口縁部			(1.6)	ナデ	ナデ				○			灰黄褐	にぶい黄褐	良	一括	外面ス ス付着
	1330	8号	壺	口縁部			(1.6)	ナデ	ナデ				○			にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	一括	
	1331	8号	壺	口縁部			(2.5)	ナデ	ナデ		○		○			暗褐	にぶい黄褐	良	一括	
	1332	8号	小型壺	口縁部			(2.4)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	一括	
	1333	8号	小型壺	口縁部			(1.7)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい褐	にぶい褐	良	一括	
	1334	8号	壺	胴部			(2.0)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄褐	にぶい黄褐	良	一括	
	1335	8号	壺	胴部			(5.9)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄褐	にぶい黄橙	良	一括	突帯・外面ス ス付着
	1336	8号	壺	胴部			(4.7)	ナデ	ナデ	○			○	○		黒褐	橙	良	一括	突帯・外面ス ス付着
	1337	8号	壺	胴部			(6.1)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	橙	良	一括	突帯・外面ス ス付着
	1338	8号	壺	胴部			(4.3)	ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	オリーブ褐	良	一括	突帯・外面ス ス付着
	1339	8号	壺	胴部			(3.3)	ナデ	ナデ					○	○	明褐	明褐	良	一括	突帯
	1340	8号	壺	胴部			(1.6)	ナデ	ナデ			○	○			にぶい褐	にぶい橙	良	一括	突帯・外面ス ス付着
	1341	8号	甕	口縁部～胴部	24.0		(15.5)	ミガキ・ナデ	指頭圧痕ハケ目・ナデ		○		○			橙	明黄褐	良	25861他	
	1342	8号	甕	口縁部～胴部	(内径)18.2		(5.7)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○			にぶい黄橙	明灰黄	良	一括	
	1343	8号	甕	胴部			(4.8)	ミガキ・ナデ	ナデ		○		○			明赤褐	橙	良	一括	

第17表　土坑出土土器　観察表-３

排図番号	掲載番号	遺　構	器　種	部　位	口径 cm	底径 cm	器高 cm	器面調整		胎　土					色　調		焼成	取上番号	備　考
								外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	砂粒	その他	外面	内面			
233	1344	8号	山	胴部			(3.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		明赤褐	黄褐	良	25790	突帯
	1345	8号	山	底部		7.2	(5.1)	ミガキ	ハケ目		○		○			にぶい橙	にぶい褐	良	25850他	
	1346	11号	甕	口縁部～胴部	21.3		(8.9)	ナデ	ナデ	○			○	○		黒	明赤褐	良	25831	外面スス付着
	1347	11号	甕	胴部			(8.1)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	明褐	良	25766	突帯・外面スス付着
	1348	11号	甕	胴部			(5.6)	ナデ	指頭圧痕 ナデ				○	○	輝石	橙	にぶい褐	良	一括	突帯・外面スス付着
	1349	11号	甕	胴部			(14.0)	刷毛	ナデ		○		○	○		明赤褐	橙	良	25831	
	1350	11号	山	頸部			(4.3)	ミガキ	ミガキ・ナデ				○			明褐	にぶい褐	良	一括	
	1351	11号	山	頸部			(2.2)	ナデ	ナデ		○		○			褐	褐	良	一括	突帯
	1352	12号	大甕	口縁部			(7.0)	ハケ目・ナデ	ナデ	○	○		○	○		明赤褐	明褐	良	一括	
	1353	12号	甕	底部		7.0	(6.4)	ハケ目	ナデ		○		○			にぶい褐	明褐	良	25767	
	1354	12号	甕	口縁部	22.7		(7.0)	ナデ	ナデ				○	○		明赤褐	明赤褐	良	26015	粒痕
234	1355	12号	甕	底部		9.0	(6.3)	ナデ	ナデ		○		○	○		にぶい褐	オリーブ黒	良	26017	内面焦げ残存
	1356	12号	甕	底部		8.0	(7.3)	ナデ	ナデ				○	○		橙	灰褐	良	26016	内面焦げ残存
	1357	12号	山	頸部			(3.7)	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ		○		○			褐	明褐	良	一括	突帯
	1358	12号	山	肩部			(2.4)	ナデ	ナデ		○		○			橙	黒褐	良	一括	突帯
	1359	12号	山	肩部			(3.4)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい赤褐	褐	良	25768	突帯
	1360	12号	山	底部		8.8	(3.2)	ナデ	ナデ	○	○		○			明赤褐	橙	良	一括	
	1361	13号	山	底部		7.2	(6.3)	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	○	○		○			にぶい黄褐	明赤褐	良	25842	
	1362	14号	甕	胴部			(3.5)	ナデ	ハケ目		○		○			黒褐	黒褐	良	一括	
	1363	14号	山	口縁部	14.0		(1.2)	ナデ	ナデ		○		○			にぶい橙	橙	良	一括	
	1364	14号	山	頸部			(4.9)	ハケ目	摩耗		○		○			にぶい黄褐	明褐	良	一括	粒痕
	1365	17号	甕	口縁部			(3.4)	ナデ	ナデ		○		○			橙	橙	良	一括	
	1366	24号	山	口縁部～胴部	35.8		(12.2)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○	○		橙	橙	良	3051他	突帯・外面スス付着
	1367	24号	山	口縁部～胴部	23.0		(16.4)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ				○	○		明褐	黒褐	良	3050他	突帯・外面スス付着
235	1368	24号	山	口縁部～胴部	23.0		(10.6)	ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○			明褐	赤褐	良	3056他	突帯・外面スス付着
	1369	24号	山	胴部			(8.9)	ナデ	ナデ				○	○		にぶい黄褐	明オリーブ	良	3062他	
	1370	25号	鉢	口縁部～胴部	24.0		(7.5)	ナデ	ナデ		○		○	○		黒褐	褐	良	-	
236	1371	22号	山	口縁部～胴部	27.0		(9.3)	指頭圧痕 ナデ	指頭圧痕 ナデ		○		○	○		褐	にぶい赤褐	良	一括	突帯・外面スス付着
	1372	23号	山	口縁部			(6.2)	ナデ	ナデ		○		○	○		赤褐	赤褐	良	一括	突帯・外面スス付着

第18表　縄文時代前期の石器観察表

神図番号	掲載番号	出土区	層　位	器　種	石　材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重　量 g	取上番号	備　考
23	7	F-44	V	打製石鏃	黒曜石(上牛鼻)	2.8	2.1	0.4	1.3	33300	
	8	C-5	V	打製石鏃	黒曜石(上牛鼻)	1.5	1.5	0.3	0.5	2024	
	9	E-31	V	石鋸	ハリ質安山岩	4.7	3.9	1.4	16.8	26374	

第19表　竪穴住居跡出土石器観察表

神図番号	掲載番号	出土区	層　位	器　種	石　材	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重　量 g	取上番号	備　考
172	1131	8号	埋土	磨製石鏃	頁岩	3.9	2.7	0.3	2.9	24559	
	1132	13号	埋土	磨製石鏃	頁岩	3.2	1.7	0.4	1.4	25758	
	1133	24号	埋土	磨製石鏃	粘板岩	4.9	1.8	0.2	2.5	25720	
	1134	26号	埋土	磨製石鏃	頁岩	4.5	2.6	0.3	3.2	25946	
	1135	1号	埋土	打製石鏃	ハリ質安山岩	1.7	1.6	0.3	0.6	21	
	1136	15号	埋土	打製石鏃	ハリ質安山岩	2.3	1.3	0.3	1.0	17216	
	1137	6号	埋土	打製石鏃	ハリ質安山岩	1.2	1.2	0.2	0.2	46	
	1138	36号	埋土	打製石鏃	水晶	2.4	1.2	1.0	2.9	39006	
	1139	11号	埋土	打製石鏃	ハリ質安山岩	1.3	1.3	0.2	0.2	24710	
	1140	住11	埋土	打製石鏃	安山岩	2.0	1.6	0.4	1.1	23182	未製品
	1141	住18	埋土	磨製石鏃	頁岩	3.8	2.6	0.5	6.0	一括	
	1142	住11	埋土	打製石鏃	黒曜石	1.3	1.5	0.3	0.3	22681	
173	1143	住11	埋土	打製石斧	頁岩	9.8	6.2	1.4	84.8	25125	
	1144	住18	埋土	打製石斧	頁岩	7.8	10.4	2.0	160.4	24352	
174	1145	住2	埋土	礫石	軟質砂岩	39.5	13.7	12.4	8400.0	24486	黄色
	1146	住6	埋土	礫石	軟質砂岩	36.0	12.5	10.2	6000.0	No.19	黄色
175	1147	住5	埋土	礫石	硬質砂岩	26.7	14.0	9.4	2800.0	17217他	青白色
	1148	住6	埋土	台石	軟質砂岩	36.2	17.7	13.0	1000.0	No.19	青緑色
176	1149	住6	埋土	台石	花崗岩	23.6	24.6	10.9	1000.0	No.24	
	1150	住6	埋土	台石	砂岩	22.8	13.5	6.4	2800.0	No.49	青緑色
177	1151	住10	埋土	台石・石皿	粘板岩	25.6	16.5	7.0	6000.0	25128	
	1152	住10	埋土	礫石・台石(石皿)	砂岩	29.0	20.0	14.6	9600.0	24941	
178	1153	住11	埋土	台石	花崗岩	25.0	25.6	8.6	9000.0	25126	風化著しい
	1154	住17	埋土	石皿・台石	石英	29.4	19.7	8.1	6800.0	25788	
179	1155	住24	埋土	台石・礫石	砂岩	16.2	19.3	13.9	5600.0	25719	
	1156	住24	埋土	磨・敲石	花崗岩	16.1	10.1	4.8	1190.0	25306	
180	1157	住30	埋土	石皿	砂岩	17.4	11.5	4.6	1070.0	27848	
	1158	住23	埋土	敲石兼・磨石兼・礫石	砂岩	16.6	5.6	4.6	710.0	25399	
	1159	住12	埋土	磨製石斧	粗粉砂岩	10.5	5.3	4.5	245.0	25827	垂貫色
	1160	住12	埋土	礫石転用敲石石	砂岩	10.2	4.6	4.0	295.0	27008	
	1161	住17	埋土	扁針石	ホルンフェルス	7.6	5.9	3.0	135.0	25406	
	1162	住5	埋土	石錘	泥	2.8	1.9	0.3	2.5	17213	
	1163	住10	埋土	礫石	緑泥片岩	17.7	9.3	4.9	1520.0	25129	
	1164	住20	埋土	礫石	砂岩	7.8	5.3	8.9	615.0	25679	
181	1165	住24	埋土	礫石	砂岩（尺草石）	4.5	3.0	4.1	103.0	25779	
	1166	住30	埋土	礫石	砂岩	13.1	4.2	11.3	1240.0	27400	
	1167	住24	埋土	礫石	砂岩	21.8	2.2	5.8	365.0	25280	
	1168	住12	埋土	礫石	粘板岩	15.8	2.9	5.6	395.0	25744	
	1169	住12	埋土	礫石	砂岩	4.2	2.2	2.4	32.0	27016	
	1170	住28	埋土	礫石	頁岩	11.8	8.1	1.7	185.9	26973	
	1171	住23	埋土	礫石	砂岩	7.8	7.7	1.3	84.3	24821	
	1172	住11	埋土	敲石	安山岩	4.5	4.2	3.8	9.8	23599	
182	1173	住18	埋土	敲・礫石	砂岩	3.9	3.1	2.3	33.0		
	1174	住20	埋土	敲・礫石	砂岩	9.0	8.5	4.6	535.0	24989	
	1175	住12	埋土	敲石	石英	8.5	6.2	4.3	300.0	25741	
	1176	住24	埋土	敲石	粘板岩	10.3	7.5	5.0	568.0	25291	
	1177	住24	埋土	敲・礫石	砂岩	9.9	9.3	5.4	715.0	25314	
183	1178	住1	埋土	軽石加工品	軽石	7.4	9.0	3.8	70.0	15	
	1179	住1	埋土	軽石加工品	軽石	9.9	8.3	4.5	80.0	8	
	1180	住11	埋土	軽石加工品	軽石	13.2	9.1	4.5	102.0	24717	面取り
	1181	住1	埋土	軽石加工品	軽石	5.1	5.5	4.2	25.0	18	面取り
	1182	住13	埋土	軽石加工品	軽石	5.4	8.1	4.0	45.0	25757	凹痕多く加工
	1183	住12	埋土	軽石加工品	軽石	9.1	9.2	2.8	46.0	25754	片面中心凹み状に削る
	1184	住24	埋土	軽石加工品	軽石	7.1	3.2	3.0	17.0	-	
	1185	住26	埋土	軽石加工品	軽石	9.4	7.4	4.1	62.0	-	穿孔
	1186	住30の土坑1	埋土	軽石加工品	軽石	9.5	7.5	6.2	75.0	27852	丸い凹みあり
	1187	住30	埋土	軽石加工品	軽石	15.4	6.7	6.2	138.0	27794	面取り
	1188	住30の土坑1	埋土	軽石加工品	軽石	9.5	7.6	3.5	68.0	27847	六面面取り

第20表　方形・円形周溝出土石器観察表

216	1235	円周2	埋土	大型礫石	砂岩	46.9	12.6	12.1	2800.0	24925	
	1236	円周2	埋土	敲石	砂岩	8.8	5.8	3.4	310.0	24926	

第21表　土坑出土石器観察表

237	1373	土坑27	埋土	打製石鏃	ハリ質安山岩	2.4	1.3	0.3	1.2	27870	
	1374	土坑8	埋土	敲・礫石	安山岩	12.1	9.3	4.8	820.0	25793	
	1375	土坑8	埋土	楕円形敲石	砂岩	7.4	5.7	1.1	66.0	25845	
	1376	土坑8	埋土	楕円形敲石	砂岩	5.8	4.8	1.0	44.0	25795	
	1377	土坑8	埋土	楕円形被状石	砂岩	6.3	5.1	1.1	53.0	25847	
	1378	土坑8	埋土	楕円形敲石	砂岩	6.6	5.7	1.6	72.0	25846	
	1379	土坑8	埋土	軽石加工品	軽石	6.7	5.6	2.1	30.0	25797	
	1380	土坑8	埋土	楕円形被状石	凝灰岩	5.3	4.8	1.2	26.0	25794	
	1381	土坑4	埋土	礫石転用敲石石	砂岩	10.5	4.3	4.2	228.0	25630	
	1382	土坑4	埋土	軽石加工品 一面円面	軽石	5.4	6.5	3.7	25.0	25821	
	1383	土坑4	埋土	礫石	砂岩	11.8	6.3	9.5	925.0	25704	

第22表　礫集積出土石器観察表

240	1384	礫集石2	-	敲・礫石	安山岩	6.4	9.0	6.9	510.0	-	
	1385	礫集石2	-	礫石兼・礫石	砂岩	9.3	10.4	4.8	565.0	-	
	1386	礫集石2	-	敲石	安山岩	10.5	8.6	6.2	890.0	-	
	1387	礫集石2	-	敲石	安山岩	8.4	6.6	4.3	290.0	-	
	1388	礫集石3	一括	敲石	安山岩	14.9	10.7	7.3	1360.0	-	欠多く二面利用

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（5）

東九州自動車道建設（志布志IC ～鹿屋串良JCT間）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

田原迫ノ上遺跡 1

（第 1 分 冊）

発 行 年 月　２０１６年３月
編集・発行　鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
TEL 0995-70-0574　FAX 0995-70-0576
印　　刷　濱島印刷株式会社
〒890-0052　鹿児島県鹿児島市上之園町17番２号
TEL 099-255-6121　FAX 099-259-1629

鹿児島県